

研究資料

No. 85 2007

クルマエビ類文献目録集

～Bibliography of Penaeid shrimp～

独立行政法人水産総合研究センター

はじめに

クルマエビ (*Penaeus japonicus*) の栽培漁業は、干潟域の減少、漁場汚染、漁獲努力量の過多等の影響により、漁獲量が急減したことなどを背景にして、昭和 38 年度から開始され、昭和 52 年度からは瀬戸内海の共通資源としてのクルマエビ資源を種苗放流によって増大させる目的で「栽培漁業促進事業」が国の補助を受けて始まり、社団法人日本栽培漁業協会志布志事業場(現 独立行政法人水産総合研究センター志布志栽培漁業センター)で生産された種苗が関係府県へ配付されました。さらに、各県でも増産体制が整備され、放流数量が増大し、これに呼応するように漁獲量の増加がみられ、漁業者の栽培漁業に対する期待が高まり、事業化が進みました。

本種の種苗生産技術は、生物餌料による餌料系列が確立し、さらに省力化や給餌基準の適正化、配合飼料化の技術開発があり、現在では初期から配合飼料による飼育が可能となりました。これによって種苗生産技術はほぼ確立されています。

この一方で、様々な疾病が発生し、疾病防除法を含む、新たな技術で病気に対抗してきました。昭和 50 年代後半のウイルス性中腸腺壊死症や平成 5～7 年に西日本を中心に壊滅的な被害をもたらしたクルマエビ類急性ウイルス血症がその代表例で、水産研究者、技術者の寝食を忘れた技術開発により、その防除法が確立され、現在では安定した種苗生産が行われています。

本書では、クルマエビをはじめとするクルマエビ類の技術開発の成果を発表した学術論文をはじめ、技術者のノウハウを記した雑誌記事、マニュアル類、都道府県水産試験場研究報告、栽培漁業センター事業報告等のもとより、海外の研究者・技術者の研究報告もできる限り記載しました。

著者の長谷川 泉氏は、日本栽培漁業協会に 29 年間在職され、数々の魚種について栽培漁業の技術開発を行い、ブリ類の文献目録集(平成 7 年刊行)などを編纂されています。今回は長年収集されたクルマエビ類の文献についてまとめていただきました。

本書がクルマエビ栽培漁業に携わる方々の参考となれば幸いです。

独立行政法人水産総合研究センター
理事 井貫 晴介

発刊にあたって

江戸時代中期の百科辞典「和漢三才図会, 1713 年刊」に(…、味最甘美。為上品)とあるクルマエビは、関東以西の浅海・内湾に生息し、人口に膾炙してきた。昭和 10 年台には各地の資源生態面での調査研究が行われた。なかでも故藤永元作博士の完全養殖にかかわる論文は、その後の増養殖の教本として、国内はもとより、熱帯・亜熱帯地域のクルマエビ属全種の人工種苗生産に活用されている。

昭和40年台に瀬戸内海ではじまった栽培漁業では、クルマエビ種苗の量産化が進み、放流対象種の第1号となり、20世紀末まで北海道を除く全国各海域の漁場造成に利用されてきた。しかし一方では、浅海・内湾の埋立てや工業および生活排水等による生息環境の悪化、漁業就労人口の減少、農水産物の貿易自由化による他種間との競合などに起因する多くの問題もあとを絶たない。

本書はクルマエビ属に関する各分野の既往の成書および報文を網羅的に収集したものであり、今後の調査研究に参考の一助となれば幸いである。

凡例 1. 成書・報文の配列:

著者名をアルファベット(へボン式)順に配列し、同一著者の場合出版・公表年次順とした。なお収録期限は平成 13 年(2001 年)までとした。

凡例 2. 文献の記述:

報文の場合 著者名(公表年) 題名-副題.報告書名,卷(号):初頁-終頁.

成書の場合 著者名(公表年) 題名-副題.出版社名,頁数.あるいは著者名(公表年) 題名.編者・監修者名, 題名.出版社名,初頁-終頁. とした。

とくに報告書名については、各種学会および研究機関等で慣用している略称で表し、海外の文献では可能な限り出版地を記載した。

この資料を作成するに際し、学名・収集方法については独立行政法人水産大学校名誉教授林健一博士および同校生物生産学科長高橋幸則博士の懇切な指導・教示を得ることが出来た。ここに深甚の謝意を表します。また、図書の閲覧・貸出等の便宜を図って下さった方々の所属(氏名、敬称略)を表記し、感謝申し上げます。大分県農林水産研究センター水産試験場(阿南宏重, 福田穰, 真田康広, 山田英俊各氏), 同水試浅海研究所(井本有治, 岩野英樹, 徳丸泰久各氏), 福岡県水産海洋技術研究所長(穴井直幾), 大分県漁業公社上浦事業場長(松田康博), 独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所上浦栽培技術開発センター(照屋和久, 森広一郎両氏)。このほか成書の閲覧には大分県立図書館も利用した。

さらに、記載文献には学名を属名表記したものや地方の通称を用いたものもある。検索する上で支障のないように次の頁にクルマエビ属の名称を掲げた。

～クルマエビの一産地 周防灘を望む中津にて～
著者記す

クルマエビ属 *Penaeus*(亜属)の名称と分布域

学名(亜種名)	和名(FAO 名)	分布域
(Farfantepenaeus BUKOVSKY,1972)		
1. <i>P.(F.) aztecus</i> IVES	— (Northern Brown Shrimp)	アメリカ,メキシコ大西洋岸
2. <i>P.(F.) bresiliensis</i> LATREILLE	— (Redspotted Shrimp)	アメリカ大西洋～ブラジル
3. <i>P.(F.) brevirostris</i> BURKENROAD	— (Crystal Shrimp)	メキシコ～ペルーの太平洋
4. <i>P.(F.) californiensis</i> HOLMES	— (Yelloleg Shrimp)	メキシコ～エクアドルの太平洋岸
5. <i>P.(F.) duorarum</i> BURKENROAD	— (Northern Pink Shrimp)	アメリカ大西洋岸,メキシコ湾
6. <i>P.(F.) notialis</i> P'EREZ FARFANTE	— (Southern Pink Shrimp)	カリブ海,アフリカ大西洋岸
7. <i>P.(F.) paulensis</i> P'EREZ FARFANTE	— (San Paulo Shrimp)	ブラジル～ウルグアイ
8. <i>P.(F.) subtilis</i> P'EREZ FARFANTE	— (Southern Brown Shrimp)	カリブ海～ブラジル
(Fenneropenaeus P'EREZ FARFONTE,1969)		
1. <i>P.(F.) chinensis</i> OSBECK = <i>P.orientalis</i> KISHINOUE	コウライエビ (Fleshy Prawn)	中国,南北朝鮮,日本
2. <i>P.(F.) indicus</i> H.Milne EDWARDS	シヨウナンエビ (Indian White Shrimp)	インド洋沿岸,東南アジア,豪州
3. <i>P.(F.) merguensis</i> De MAN	テンジククルマエビ (Banana Prawn)	東南アジア,豪州,インド洋,紅海
4. <i>P.(F.) penicillatus</i> ALCOCK	アカオエビ (Rattail Prawn)	台湾,東南アジア～パキスタン
5. <i>P.(F.) silasi</i> MUTHU & MOTOH	— (Southern White Shrimp)	カリブ海
(Litopenaeus P'EREZ FARFANTE,1969)		
1. <i>P.(L.) occidentalis</i> STREETS	— (Western White Shrimp)	グアテマラ～ペルー
2. <i>P.(L.) schmitti</i> BURKENROAD	— (Southern White Shrimp)	カリブ海
3. <i>P.(L.) setiferus</i> (LINNAEUS)	— (Northern White Shrimp)	グアテマラ～ペルー
4. <i>P.(L.) stylirostris</i> STIMPSON	— (Blue Shrimp)	メキシコ西岸～ペルー
5. <i>P.(L.) vannamei</i> BOONE	— (Whiteleg Shrimp)	メキシコ湾～ペルー
(Marsupenaeus TIRMIZI,1971)		
1. <i>P.(M.) japonicus</i> BATE	クルマエビ (Kuruma Prawn)	日本,韓国～東南アジア,インド洋沿岸,地中海の一部まで
(Melicertus REFINESQUE,1814)		
1. <i>P.(M.) canaliculatus</i> (OLIVIER)	— (Which Shrimp)	インド洋沿岸,フィリピン,フィジー,トンガ
2. <i>P.(M.) kerathurus</i> FORSKAL	— (Caramote Prawn)	地中海沿岸,アフリカ大西洋岸
3. <i>P.(M.) latisulcatus</i> KISHINOUE	フトミゾエビ (Western King Prawn)	日本,韓国～東南アジア,ペルシヤ湾,紅海
4. <i>P.(M.) longistilus</i> KUBO	— (Redspot King Prawn)	豪州,タイ,中国
5. <i>P.(M.) marginatus</i> RANDALL = <i>P.teraoi</i> KUBO	テラオクルマエビ (Aloha Prawn)	日本～インド洋,ハワイ
6. <i>P.(M.) plebejus</i> HESS	— (Eastern King Prawn)	豪州東部沿岸
(Penaeus FABRICIUS,1798)		
1. <i>P.(P.) esculentus</i> HASWELL	— (Brown Tiger Prawn)	豪州,パプア・ニューギニア,インドネシア,ホルネオ
2. <i>P.(P.) monodon</i> FABRICIUS	ウシエビ (Giant Tiger Prawn)	日本～インド洋
3. <i>P.(P.) semisulcatus</i> De HAAN = <i>P.ashiaka</i> KISHINOUE	クマエビ (Green Tiger Prawn)	日本～インド洋,紅海,トルコ

- 阿部啓一・水間敏朗 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和 57・58 年度宮城栽セ事報, 62-67.
- 阿部啓一・水間敏朗 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和 59・60 年度宮城栽セ事報, 7-9.
- 阿部啓一・水間敏朗 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和 59・60 年度宮城栽セ事報, 67-69.
- 安部昌明・向井龍男・越智洋雄 (1992) 種苗生産事業. 平成 3 年度香川水試事報, 73-79.
- 阿部晶 (1990) 海域の富栄養化問題について. 瀬戸内海科学, 1(3):2-5.
- 阿部武光 (1968) 漁村青壮年実践活動促進事業概要.2.増殖関係先進地視察(1). 昭和 42 年度大分水試事報, 102-103.
- 阿部富雄 (1986) 車エビ流通の現状と見直し. 養殖, 23(13):52-55.
- 安部恒久 (1988) 漁況調査. 昭和 61 年度大阪水試事報, 57-59.,付表:(77)-(90).
- 安部恒久・辻野耕實 (1988) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 61 年度大阪水試事報, 75-79.
- 安部恒久・辻野耕實・日下部敬之 (1988) 底魚資源調査. 昭和 61 年度大阪水試事報, 67-74.
- 安部恒久 (1990) 底魚資源の漁獲動向. 昭和 63 年度大阪水試事報, 70-74.
- 安部恒久・辻野耕實・日下部敬之 (1991) 底魚類資源調査. 平成元年度大阪水試事報, 86-91.
- 安部恒久・辻野耕實・日下部敬之 (1992) 底魚資源調査. 平成 2 年度大阪水試事報, 52-63.,付表:(92)-(99).
- 安部恒久 (1993) 底魚類資源調査. 平成 3 年度大阪水試事報, 71-76.
- 安部恒久・鍋島靖信・日下部敬之 (1993) 広域回遊資源調査. 平成 3 年度大阪水試事報, 77-84.
- 安部恒久 (1994) 底魚類資源調査. 平成 4 年度大阪水試事報, 82-87.
- 安部恒久・鍋島靖信・日下部敬之 (1994) 広域回遊資源調査. 平成 4 年度大阪水試事報, 88-95.
- 安部恒久 (1995) 底魚類資源調査. 平成 5 年度大阪水試事報, 65-70.
- 安部恒久 (1996) 漁況調査. 平成 6 年度大阪水試事報, 53-55.
- アブデルラーマン S.・金澤昭夫・手島新一 (1978) クルマエビの成長に及ぼす炭水化物の効果. 昭和 53 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.92.
- ABDEL-RAHMAN S.H.・金澤昭夫・手島新一 (1979) クルマエビの成長および血清グルコース値に及ぼす飼料炭水化物の影響. 日水誌, 45(12):1491-1494.
- ABDEL-RAHMAN S.H. (1979) Studies on carbohydrate metabolism in prawn *Penaeus japonicus*(BATE). Master's thesis.Kagoshima Univ., 112 pp.
- ABRAHAM T.J. and R.MANLEY (1995) Luminous and non-luminous *Vibrio harveyi* associated with a shell disease in *Penaeus indicus*. J.Aqua.Trop., 10:273-276.
- ABRILL M.O. and H.J.COCCALDI (1984) Influence de carotenoides purifiés ajoutés dans les aliments composés sur la pigmentation de *Penaeus japonicus*(Crustacea,Decapoda): Influence of purified carotenoids added to compound diets on pigmentation of *Penaeus japonicus* (Crustacea,Decapoda). Aquaculture, 36(3):217-228.
- ADVAULT Jr.J.W. (1973,小沢徳太郎訳) アメリカにおけるエビの浅海養殖と現状. 養殖, 10(10):122-125. {原著:Fish Farming Industries, 3(5):20-25.}
- 阿知波英明・落合真哉 (2001) 魚類防疫推進事業.養殖生産物安全対策. 平成 12 年度愛知水試業報, 118-119.
- 足立亨介・平田孝・木下政人・松原利光・坂口守彦 (1997) クルマエビポリフェノールオキシダーゼの精製と性質. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.172.
- 足立亨介・平田孝・永井克宣・藤澤論・木下政人・坂口守彦 (1999) クルマエビフェノール酸化酵素の精製とその性質(英文). Fish.Sci., 65(6):919-925.
- 足立亨介・平田孝・藤澤論・永井克宣・坂口守彦 (1999) クルマエビ血液細胞におけるプロフェノール酸化酵素活性化に及ぼす β -1,3 グルカンの影響. Fish. Sci., 65(6):926-929.
- 足立亨介・平田孝・藤澤論・永井克宣・坂口守彦 (1999) クルマエビヘモシアニンの有するフェノール酸化活性. 平成 11 年度日本水産学会講演要旨集, p.113.
- AFONSO J.M.M. (1982) First remarks on the occurrence of *Gregarina* sp.on the larval culture of *Penaeus paulensis*. Atlantica, 5:2.
- AHMAD T., MADEALI M. and MULIANI (1997) Bacterial diseases of cultured marine shrimp in Indonesia. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.81.
- 愛知県栽培漁業センター (1980) 種苗生産計画. 昭和 53 年度愛知栽協業報, (1):33.
- 愛知県栽培漁業センター (1982) 種苗生産実績概要. 昭和 55 年度愛知栽協業報, 10-11.
- 愛知県栽培漁業センター (1983) 昭和 56 年度種苗出荷状況. 昭和 56 年度愛知栽協業報, 6-7.
- 愛知県栽培漁業センター (1984) 昭和 57 年度種苗生産状況. 昭和 57 年度愛知栽協業報, 4-5.
- 愛知県栽培漁業センター (1985) 昭和 58 年度種苗生産状況. 昭和 58 年度愛知栽協業報, 4-5.
- 愛知県栽培漁業センター (1986) 昭和 59 年度種苗生産状況. 昭和 59 年度愛知栽協業報, 4-5.
- 愛知県栽培漁業センター (1987) 昭和 60 年度種苗生産実績. 昭和 60 年度愛知栽協業報, 4.
- 愛知県栽培漁業センター (1987) 昭和 61 年度種苗生産実績. 昭和 61 年度愛知栽協業報, 4.

愛知県栽培漁業センター (1988) 昭和 62 年度種苗生産実績. 昭和 62 年度愛知栽協業報, 4.

愛知県栽培漁業センター (1988) 生産技術の現状. クルマエビ. 栽培漁業センター10年のあゆみ. 愛知栽協, 22-25.

愛知県栽培漁業センター (1989) 昭和 63 年度種苗生産概要. 昭和 63 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1990) 種苗生産実績. 平成元年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1991) 種苗生産実績. 平成 2 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1992) 種苗生産目標と実績の概要. 平成 3 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1993) 種苗生産目標と実績の概要. 平成 4 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1994) 種苗生産目標と実績の概要. 平成 5 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1995) 種苗生産目標と実績の概要. 平成 6 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1996) 種苗生産目標と実績の概要. 平成 7 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県栽培漁業センター (1997) 種苗生産目標と実績の概要. 平成 8 年度愛知栽協業報, 3.

愛知県水産試験場 (1942) 愛知県産重要蝦類生体調査(昭和 16 年度) 愛知水試, 1-37.

愛知県水産試験場 (1968) 藻場保護水面の効果調査. 昭和 41 年度愛知水試業報, 100-114.

愛知県水産試験場 (1969) クルマエビ人工種苗の生産とこれに附属する増養殖の試験. 昭和 42 年度愛知水試業報, 305- 314.

愛知県水産試験場 (1970) クルマエビ種苗生産技術開発試験. 昭和 43 年度愛知水試業報, 240-254.

愛知県水産試験場 (1971) 電熱加温によるクルマエビの早期採苗試験. 昭和 44 年度愛知水試業報, 296-305.

愛知県水産試験場 (1972) クルマエビ中間飼育放流試験. 昭和 45 年度愛知水試業報, 65-74.

愛知県水産試験場 (1972) クルマエビの早期採苗試験. 昭和 45 年度愛知水試業報, 373-376.

愛知県水産試験場 (1972) 火力発電所の排水による種苗生産試験. 昭和 45 年度愛知水試業報, 376-385.

愛知県水産試験場 (1972) 昭和 45 年度沿岸重要資源放流事業. 昭和 45 年度愛知水試業報, 426-429.

愛知県水産試験場 (1972) くるまえば種苗のスクリーンテスト. 昭和 45 年度愛知水試業報, 429-430.

愛知県水産試験場 (1973) 放流用クルマエビ種苗の生産. 昭和 46 年度愛知水試業報, 279-287.

愛知県水産試験場 (1974) 太平洋中区栽培漁場資源生態調査事業. 昭和 47 年度愛知水試業報, 156-177.

愛知県水産試験場 (1974) クルマエビ種苗生産試験. 昭和 47 年度愛知水試業報, 376-379.

愛知県水産試験場 (1974) クルマエビ放流効果試験. 昭和 47 年度愛知水試業報, 379-381.

愛知県水産試験場 (1975) 昭和 49 年度太平洋中区栽培漁業資源生態調査報告書(クルマエビ・カレイ), 87-93.

愛知県水産試験場 (1975) 太平洋中区栽培漁業資源生態調査事業. 昭和 48・49 年度愛知水試業報, 23-30.

愛知県水産試験場 (1975) 藻場保護水面調査. 昭和 48・49 年度愛知水試業報, 133-137.

愛知県水産試験場 (1975) 太平洋中区栽培漁業資源生態調査事業. 昭和 48・49 年度愛知水試業報, 227-236.

愛知県水産試験場 (1975) クルマエビ種苗生産放流試験. 昭和 48・49 年度愛知水試業報, 384-386.

愛知県水産試験場 (1979) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和 53 年度愛知水試業報, 11-15.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1982) 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書.クルマエビ類. 愛知水試研究業績, C しゅう, (40):1-35.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1982) 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書.クルマエビ類. 静岡県・愛知県・三重県, 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書.クルマエビ, 愛 1-愛 35.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1983) 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書.クルマエビ類(太平洋).愛知水試研究業績 C しゅう, (43):1-49.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1983) 各県報告.昭和 57 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ類(太平洋), 愛 1-愛 49.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1984) 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書. 愛知水試研究業績, C しゅう, (47):1-72.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1984) 昭和 58 年度調査結果の要約. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書, 50-53.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1984) 各県報告. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書, 愛 1-愛 72.

愛知県水産試験場 (1985) 昭和 59 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ), 愛 57-60.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1985) 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書. 愛知水試研究業績, C しゅう, (54):1-38.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1985) 昭和 59 年度調査結果の要約. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書, 42-46.

愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場 (1985) 各県報告. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書, 愛 1-愛 100.

- Aichi Prefecture Fish.Center (1987) A Manual for Mass Production of the Japanese Prawn(kuruma ebi) Post-larvae. Translation by SATOH H.& S.H.CHEAH. Japan int.Coop.Agency, 43 pp.
- 相島昇・浜崎稔洋・林宗徳 (1988) 地域栽培培養推進施設整備パイロット事業-Ⅱ.大牟田市地先におけるクルマエビの生息状況について. 昭和 62 年度福岡県水試研報, 有 2.
- 相島昇・小原博美・浜崎稔洋・林宗徳・半田亮司・岩淵光伸・本田一三・本田清一郎 (1989) 大牟田南部地区地先型増殖場造成事業調査. 昭和 63 年度福岡県水試研報, 有 7.
- AIZAWA Y. (1974) Ecological studies of micronekton shrimps(Crustacea,Decapoda) in the Western Pacific. Bull.Ocean Res.Inst.,Univ.Tokyo, (6):1-84.
- 鯨坂哲朗 (1992) 養殖の現状と問題点.オゴノリ.吉田陽一編, 東南アジアの水産増殖. 水産学シリーズ, (90):72-83.
- 赤嶺辰郎 (1987) 体長組成データからの年齢と成長の推定.嶋津靖彦編, 資源評価のための数値解析. 水産学シリーズ, (66):118-131.
- 赤嶺安彦 (1983) アメリカにおけるクルマエビ属幼生の輸送. 水産増殖, 31(2):67-71.
- 赤嶺安彦 (1984) アメリカ合衆国におけるネマトーダ,ワムシ給餌によるクルマエビ属移入種の種苗生産. 水産増殖, 31(4):204-213.
- 秋本泰・桑原連・平野禮二郎 (1984) ウシエビの酸素消費量について. 昭和 49 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.108.
- 秋篠宮文仁親王・多紀保彦 (1994) 東南アジア 人と魚. 水産振興, 27(3):1-52.
- AKIYAMA D.M., COELHO S.R., LAWRENCE A.L. and E.H.ROBINSON (1989) Apparent digestibility of feedstuffs by the marine shrimp *Penaeus vannamei* BOONE. 日水誌, 55(1) :91-98.
- AKIYAMA D.M., DOMING W.M. and A.L.LAWRENCE (1991) Penaeid shrimp nutrition for the commercial feed industry. AKIYAMA D.M.& R.K.H.TANGEDS eds., Proceeding of the Aquaculture Feed Processing and Nutrition Workshop. American Soy beam Association.Singapore, pp.80-98.
- 秋山敏男 (1991) 養魚と栄養研究. 養殖研ニュース, (21) :21-26.
- Al-MOHANNA S.Y. and J.A.NOTT (1987) R-cells and the digestive cycle in *Penaeus semisulcatus* (Crustacea; Decapoda). Marine Biol., 95(1):129-138.
- ALABI A.Q.,JONES D.A.and J.W.LATCHFORD (1999) The efficacy of immersion as opposed to oral vaccination of *Penaeus indicus* larvae against *Vibrio harveyi*. Aquaculture, 178(1・2):1-11.
- ALABI A.Q., LATCHFORD J.W. and D.A.JONES (2000) Demonstration of residual antibacterial activity in plasma of vaccinated *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 187(1・2):15-34.
- ALAPIDE-TENDENCIA E.V. and L.A.DUREZA (1997) Isolation of *Vibrio* spp. from *Penaeus monodon* (FABRICIUS) with red disease syndrome. Aquaculture, 154(2):107-114.
- ALAVA V.R. and C.LIM (1983) The quantitative dietary protein requirements of *Penaeus monodon* juveniles in a controlled environment. Aquaculture, 30(1-4):53-61.
- ALAVA V.R. and F.P.PASCUAL (1987) Carbohydrate requirements of *Penaeus monodon* (FABRICIUS) juveniles. Aquaculture, 61(3・4):211-217.
- アラバ R.ベロニカ・金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1993) クルマエビの卵巣成熟に対するリン脂質,n-3HUFA,ビタミンA,EおよびCの影響. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.48.
- ALAVA V.R., KANAZAWA A., TESHIMA S .and S.KOSHIO (1993) Effect of dietary phospholipids and n-3 highly unsaturated fatty acids on ovarian development of kuruma prawn. 日水誌, 59(2):345-351.
- ALAVA V.R., KANAZAWA A., TESHIMA S .and S.KOSHIO (1993) Effect of dietary L-ascorbyl-2-phosphate magnesium on gonadal maturation of *Penaeus japonicus*. 日水誌, 59(4) :691-696.
- ALAVA V.R., 金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1993) クルマエビの卵巣発達に対する飼料性ビタミン A, E および C の効果(英文).日水誌, 59(7)1235-1241.
- アラバ ルイス ベロニカ・金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1994) クルマエビの卵巣発達におよぼす飼料中の脂質の影響. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.40.
- ALCOCK A. (1905) A revision of the genus *Penaeus* with diagnosis of some new species and varieties. Ann.Mag.Nat.Hist., (7).16, 508-532.
- ALCOCK A. (1906) Catalogue of the Indian decapod Crustacea in the Indian museum.PartⅢ.Macrura.Fasc.1.The prawns of the *Penaeus* group. 55pp,9 pls.
- ALFARO J., LAWRENCE A.L. and D.LEWIS (1993) Interaction of bacteria and male reproductive system blackening disease of captive *Penaeus setiferus*. Aquaculture, 117(1・2):1-8.
- ALFARO J., KOMEN J. and E.A.HUISMAN (2001) Cooling, cryoprotectant and hypersaline sensitivity of penaeid shrimp embryos nauplius larvae. Aquaculture, 195(3・4):353-366.
- ALI F.・S.YAMASAKI・H.HIRATA (1993) クルマエビ幼生とアオサ細片群との複合飼育(英文・要旨). 水産増殖, 41(4):567.

- ALI F.・山崎繁久・平田八郎 (1994) クルマエビ幼生とアオサ細片との複合飼育(英文). 水産増殖, 42(3):453-458.
- ALLAN G.L.N.,MAGUIRE G.B.and S.J.HOPKINS (1990) Acute and chronic toxicity of ammonia to juvenile *Metapenaeus macleayi* and *Penaeus monodon* and the influence of low dissolved-oxygenlevels. Aquaculture, 91(3・4):265-280.
- ALLAN G.L.and G.B.MAGUIRE (1991) Lethal levels of low dissolved oxygen and effects of short-term oxygen stress on subsequent growth of juvenile *Penaeus monodon*. Aquaculture, 94(1):27-37.
- ALLAN G.L. and G.B.MAGUIRE (1992) Effects of pH and salinity on survival,growth and osmoregulation in *Penaeus monodon* FABRICIUS. Aquaculture, 107(1):33-47.
- ALLAN G.L. and G.B.MAGUIRE (1992) Effects of stocking density on production of *Penaeus monodon* FABRICIUS in model farming ponds. Aquaculture, 107(1):49-66.
- ALLAN G.L., MORIARTY D.J.W. and G.B. MAGUIRE (1995) Effects of pond preparation and feeding rate on production of *Penaeus monodon* FABRICIUS, water quality, bacteria and benthos in model farming ponds. Aquaculture, 130(4):329-349.
- ALLEN DAVIS D. and C.R.ARNOLD (1995) Effects of two extrusion processing conditions on the digestibility of four cereal grains for *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 133(3・4):287-294.
- ALLEN DAVIS D. and C.R.ARNOLD (2000) Replacement of fish meal in practical diets for the Pacific white shrimp, *Litopenaeus vannamei*. Aquaculture, 185(3・4):291-298.
- ALONGI D.M.,DIXON P.,JOHNSTON D.J.,TIEN D.V.and T.T.XUAN (1999) Pelagic processes in extensive shrimp ponds of the Mekong delta,Vietnam. Aquaculture, 175(1・2):121-141.
- ALONGI D.M., TIRENDI F. and L.A. TROTT (1999) Rates and pathways of benthic mineralization in extensive shrimp ponds of the Mekong delta, Vietnam. Aquaculture, 175(3・4):269-292.
- ALVAIL A.and A.TRUJILLO (1993) Current status of finfish hatcheries in Chili. First Asian Fishries Forum. Asian Fishries Soc., (3):117-132.
- ALVAREZ J.D., AUSTIN B.,ALVAREZ A.M.and H.REYES (1998) *Vibrio harveyi*: a pathogen of penaeid shrimps and fish in Venezuela. J.Fish Dis., 21:313-317.
- ALVAREZ-BORREGO J.and M.C.CHAVEZ-SANCHEZ (2001) Detection of IHNV virus in shrimp tissue by digital color correlation. Aquaculture, 194(1・2):1-9.
- 天野千絵・檜山節久 (1996) 放流技術開発事業(中回遊性種・トラフグ). 平成7年度山口外海水試事報, 30-50.
- 天野泰治・多胡信良・藤紘和・神菌真人 (1970) 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書(福岡県報告編), 8-10.
- 天野泰治・多胡信良・藤紘和・神菌真人 (1976) 漁場環境. 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 1-2.
- 天野泰治・多胡信良・藤紘和・神菌真人 (1976) 輸送および種苗の受入れ.昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 3.
- 天野泰治・多胡信良・藤紘和・神菌真人 (1976) 放流および追跡調査.昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 4-8.
- 天野泰治・多胡信良・藤紘和・神菌真人 (1976) 生産効果. 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 8-10.
- 天野慶之・山田金次郎・原田勝彦・神本保次 (1968) 薄層クロマトによる魚介類の揮発性アミンの検出(英文). 東海区水研研報, (53):95-102.
- AMOUREUX J.M., CUZON G. and A.GREMARE (1997) Association of pulse chase design,compartmental analysis and analog modeling to assess absorption and assimilation efficiencies in *Penaeus stylirostris* fed an artificial diet. Aquaculture, 149(1・2):71-86.
- ANDERSON I.G., SHARIFF M., NASH G. and M.NASH (1987) Mortalities of juvenile shrimp,*Penaeus monodon* associated with monodon baculovirus,cytoplasmic redo-like virus, rickettsial and bacterial infections from Malaysian brackish water ponds. Asian Fish.Sci, 1:47-64.
- ANDERSON W.W. (1956) Observation,ecology and life history of the common shrimp, *Penaeus setiferus* (LINNAEUS), along the South Atlantic and Gulf coast of the United States. Proc.IPFC, 6(III):399-403.
- 安藤朗彦・本田清一郎 (1998) 沿岸漁業者に発信する水産情報の提供手法. 福岡水技研報, (8):123-130.
- 安藤正史 (1997) 魚肉の軟化機構.木村茂編, 魚介類の細胞外マトリクス. 水産学シリーズ, (114):73-82.
- 安藤清一・田中淑人 (1996) アメリカザリガニとクルマエビの外骨格におけるカロテノイドの存在形態(英文). 鹿大水産紀要, (45):5-12.
- 安藤哲夫・金澤昭夫・手島新一・J.PATROIS・H.J.CECCARDI (1977) クルマエビの脱皮周期における脂質各組織の脂質変化. 日水誌, 43(12):1445-1449.
- 安東生雄・上城義信 (1977) 貝類資源分布調査. 昭和50年度大分浅海事報, 46-49.
- 安東生雄 (1977) 特定水産動物育成調査(クルマエビ)育成効果調査. 昭和50年度大分浅海事報, 62-87.

- 安東生雄・上城義信 (1977) 特定水産動物育成調査事業(クルマエビ). 昭和 51 年度大分浅海事報, 53-56.
- 安東生雄 (1979) ガザミ,クルマエビ種苗量産技術開発事業. 昭和 52 年度大分浅海事報, 6-7.
- 安東生雄・上城義信・吉武肇 (1979) 特定水産動物育成調査事業. 昭和 52 年度大分浅海事報, 35-52.
- 安東生雄・上城義信・吉武肇 (1980) 山国川河口域に出現する幼稚魚について. 昭和 54 年度大分浅海調査研究報告, 13(2):14-31.
- 安東生雄・上城義信・吉武肇・吉田公彦 (1980) 特定水産動物育成調査事業(長洲地先,クルマエビ). 昭和 53 年度大分浅海事報, 59-67.
- 安東生雄・上城義信・吉武肇・国武和人 (1980) 特定水産動物育成調査事業(国見地先,クルマエビ). 昭和 53 年度大分浅海事報, 68-83.
- 安東生雄・上城義信・吉武肇 (1980) 山国川河口域に出現する幼稚魚について. 大分浅海調研報, (3):14-31.
- 安東生雄 (1981) 甲殻類養殖企業化試験(ガザミ). 昭和 54 年度大分浅海事報, 26-27.
- 安東生雄・上城義信 (1981) 特定水産動物育成調査事業. 昭和 54 年度大分浅海事報, 60-82.
- 安東生雄・国武和人・田染博章・上城義信・日隈邦夫 (1981) 藻場保護水面管理事業(姫島村). 昭和 54 年度大分浅海事報, 92-93.
- 安東生雄・国武和人・上城義信・日隈邦夫 (1983) 特定水産動物育成調査事業. 昭和 55 年度大分浅海事報, 73.
- 安藤隆二・二平章 (2000) 情報処理システムによる漁獲統計の整備. 平成 11 年度茨城水試事報, 160-170.
- ANDREW N.L., GRAHAM K.J., KENNELLY S.J. and M.K.BROODHURST (1991) The effects of trawl configuration on the size and composition of catches using benthic prawn trawls off the coast of New South Wales, Australia. ICES J.Mar.Sci., 48(2):201-209.
- ANDREW N.L., KENNELLY S.J. and M.K. BROADHURST (1993) An application of the Morrison soft TED to the offshore prawn fishery in New South Wales,Australia. Fish.Res., (16):101-111.
- ANDREWS J.W., SICK L.V. and G.J.BAPTIST (1972) The influence of dietary protein and energy levels on growth and survival of penaeid shrimp. Aquaculture, 1:341-347.
- ANDREWS J.W. and L.V.SICK (1972) Studies on the nutritional requirements of penaeid shrimp. Proc.Maricult.3rd Annual Workshop, pp.403-414.
- ANGGRAENI M.S. and L.OWENS (2000) The haemocytic origin of lymphoid organ spheroid cell in the penaeid prawn *Penaeus monodon*. Dis.Aquat.Org., 40(2):85-92.
- ANON (1976) Prawn program. Southeast Asian Fisheries Development Center,Annual Report, 13 pp.
- ANON (1987) Shrimp farming in Costa Rica. Aquaculture Digest, 12:10-12.
- ANON (1987) A study of the potential for commercial pond aquaculture in Costa Rica: A report to the United States Agency for International Development (USAID), 158 pp.
- ANON (1989) Report of the 2nd workshop on the biological and economical modelling of the shrimp resources on the Guyana-Brazil shelf. WECAFC, 89 pp.
- ANONYMUS (1969) Proceedings of the world scientific on the biology and culture of shrimps and prawns. FAO Fish.Rep., 57(3):589-1165.
- ANONYMUS (1970) Proceedings of the world scientific on the biology and culture of shrimps and prawns. FAO Fish.Rep., 57(4):1166-1672.
- ANONYMUS (1991) FAO Yearbook, Fishery statistics. Catches and landings. 68., 516 pp.
- ANONYMOUS (1991) SEMBV an emerging viral threat to cultured shrimp in Asia. Asian shrimp News, 3(1):2-3.
- 安楽正照 (1989) 諸外国の海と人と生物④.トンガ王国,バヌアツ共和国,仏領ポリネシア. 海洋と生物, 11(4):278-281.
- 青江弘 (1992) 魚類の栄養素に対する要求.ビタミン.荻野珍吉編, 魚類の栄養と飼料. 恒星社厚生閣.新水産学全集, (14): 186-232.
- 青野英明・森勝義 (1995) 海産甲殻類の血リンパ凝固系. 森勝義・神谷久男編, 水産動物の生体防御. 水産学シリーズ, (104):108-116.
- 青木正博・西脇陽子・長島博 (1995) 栽培漁業促進対策事業. 平成 5 年度兵庫水試事報, 198.
- 青木正博・中村一彦・長島博・西脇陽子・杉野雅彦・中本幸一 (1996) クルマエビ中間育成試験. 平成 6 年度兵庫水試事報, 218-221.
- 青木雅志・大和田盛広・横須賀功 (1992) 人工礁等漁場造成事業調査. 平成 3 年度茨城水試事報, 61-62.
- 青木雅志・堀義彦・二平章・富永敦 (1996) 資源管理情報システム推進事業. 平成 7 年度茨城水試事報, 47-52.
- 青木千年・伊沢元・東條秀雄 (1988) クルマエビ種苗生産. 昭和 61 年度徳島栽セ事報, 31-34.
- 青木千年・伊沢元・東條秀雄 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 62 年度徳島栽セ事報, 29-32.
- 青木千年・渡辺健一 (1990) クルマエビ種苗生産. 昭和 63 年度徳島栽セ事報, 36-41.
- 青木千年・阿部郷 (1991) クルマエビ種苗生産. 平成元年度徳島栽セ事報, 39-45.
- 青木宙 (2000) 魚類の遺伝子.隆島史夫編, 次世代の水産バイオテクノロジー. 成山堂書店, pp.1-17.

- AONO H., DIAZ G.G. and K.MORI (1994) Cytolysis of hemocytes induced by serum and plasma in three crustaceans, *Panulirus japonicus*, *Penaeus japonicus* and *Homarus americanus*. Dev.Comp.Immunol., 18(4):265-275.
- 青戸泉・古賀秀昭・北嶋博郷 (1991) 有明海へのコウライエビ人工種苗の放流-III. 小型種苗での放流の試みと放流種苗の移動,拡散. 佐賀有明水試研報, (13):1-9.
- 青塚繁志 (1975) 沿岸鮮魚魚貝市場の実態.3.上場仲買商人市場の動向. 長崎大水産研報, (40):49-67.
- 青塚繁志 (1975) 沿岸鮮魚魚貝市場の実態.4.生産者市場の動向. 長崎大水産研報, (40):69-93.
- 青塚繁志 (1975) 沿岸鮮魚魚貝市場の実態.5.特殊商品市場の動向. 長崎大水産研報, (40):95-109.
- 青山英一郎・藤田種美 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業. 平成8年度大阪水試事報, 106-107.
- 青山英一郎・坂上雄康・福永恭平 (1998) PCR検査. 平成8年度大阪水試事報, 112-113.
- 青山英一郎・藤田種美 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業. 平成9年度大阪水試事報, 118-119.
- 青山英一郎 (1999) PCR検査. 平成9年度大阪水試事報, 120.
- 青山英一郎・藤田種美 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業. 平成10年度大阪水試事報, 151-152.
- 青山英一郎 (2000) PAV検査. 平成10年度大阪水試事報, 153-154.
- 青山英一郎・藤田種美 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業. 平成11年度大阪水試事報, 112-114.
- 青山英一郎 (2001) PAV検査. 平成11年度大阪水試事報, 115-117.
- 青山英一郎 (2001) 利用実態把握調査(生産金額と平均単価,灘別雌雄別体長組成の推移と漁獲加入時期,灘別県別放流量の推移). 平成7~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書I.(瀬戸内海東部ブロック). 10-21.
- 青山恒雄・山下秀夫・北島忠弘 (1963) 底曳網の目合の選択作用-XIV.コウライエビに対するトロール網の選択性. 陽光丸調研報, (1):135-138.
- 青山恒雄 (1980) 資源および漁況の概要.青山恒雄編, 底魚資源. 恒星社厚生閣.新水産学シリーズ, (10):1-7.
- AQUACOP (1975) Maturation and spawning in captivity of penaeid prawn *Penaeus merguensis* de MAN,*Penaeus japonicus* BATE,*Penaeus aztecus* IVES,*Metapenaeus ensis* de HAAN and *Penaeus semisulcatus* de HAAN. Proc.6th Annu.Workshop,World Mariculture Soc., (5):126-132.
- AQUACOP (1977) Observation on diseases of crustacean cultures in Polynesia. Proc.World Maricul.Soc., (8):685-703.
- AQUACOP (1977) Reproduction in captivity and growth of *Penaeus monodon* FABRICIUS in Polynesia. Proc.8th Annu. Workshop,World Maricul.Soc., (8):927-945.
- AQUACOP (1979) Penaeid reared brookstock: Closing the cycle of *P.monodon*,*P.stylirostris*,and *P.vannamei*. Proc.10th Annu.Workshop,World Maricul.Soc., (10):445-452.
- AQUACOP (1983) Production of feeds to support shrimp in Tahiti. Proc.1st Biennial Conf.Water Aquaculture-Crustacea, Hawaii, Feb.1983, pp.382-387.
- AQUACOP (1983) Constitution of broodstock,maturation,spawning,and hatching systems for penaeid shrimp in the Centre Océanologique du Pacifique. McVEY J.P.ed., Handbook of Mariculture.I. Crustacean Aquaculture. CRC Press,Boca Raton,Fla., pp.105-121.
- AQUACOP (1983) Penaeid larval rearing in the Centre Océanologique du Pacifique. McVEY J.P.ed., CRC Handbook of Mariculture.I.Crustacean Aquaculture. CRC Press,Boca Raton,Fla., pp.123-127.
- AQUACOP (1984) Review of ten years of experimental penaeid shrimp culture in Tahiti and New Caledonia. J.World Aquac.Soc., (15):73-91.
- AQUACOP, PATROIS J., BARRET J. and J.MAZURIE (1987) Intensive culture of *Penaeus vannamei* and *Penaeus stylirostris*: preliminary results. Presented at 18th meeting of World Aquac.Soc.,Guayaquil,Ecuador.
- AQUACOP and J.PATROIS (1990) クルマエビ類の養殖,成熟,産卵及び孵化における親エビの飼育技術.CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.22-30.
- AQUACOP (1990) タヒチにおける稚エビの集約的生産-商業的孵化場への応用. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.31-39.
- AQUACOP,BARRET J.,GOXE D.,GALINIE C.and L.OTTOGALI (1990) クルマエビ類の中間育成期及び養成期における半集約的または集約的技術.CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.49-59.
- AQUACOP and D.COATANEA (1990) 単細胞藻類の培養技術.CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.340-348.
- AQUACOP, CUZON G. and G.Le MOULLAC (1990) エビ幼生の給餌におけるマイクロ粒子餌料の使用法.CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.349-352.
- AQUACOP, LEDU C.and A.DITER (1993) Induction of polyploid nauplii *Penaeus indicus*. Aquaculture, 111(1-4):315.
- AQUINO N. (1988) Physiological studies on the growth and gonadal development of *Penaeus japonicus* BATE. 鹿児島大学修士論文, 105 pp.

- AQUIS (2000) Import Risk Analysis: Prawn and Prawn Products. Draft Import Risk Analysis Paper. American Quarantine Policy Memorandum, 2000/41, 185 pp.
- 荒勝巖 (1991) 国際協力と日本の漁業. 水産振興, 25(3):1-28.
- ARGUE B. and A. ALCIVAR-WARREN (1999) Genetics and breeding applied to the penaeid shrimp farming industry. BULLIS R.A. & G.D. PRUDER eds., Controlled and Biosecure Production Systems. Evolution and Integration of Shrimp and Chicken Models. Proceedings of a Special Session, World aquaculture Society, Australia, pp.29-53.
- 有江康章・石田雅俊 (1987) 福岡県豊前海における刺網漁業の推移と標本船の操業実態について. 昭和 60 年度福岡豊前水試研業報, 18-27.
- 有江康章・石田雅俊 (1987) 200 カイリ水域内漁業資源調査(標本船・生物調査). 昭和 61 年度福岡県水試研報, 福 9.
- 有江康章・石田雅俊・濱田弘之 (1988) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 62 年度福岡県水試研報, 豊 10.
- 有江康章・徳田眞孝・濱田弘之 (1990) 小型底びき網漁業における資源生物学的特性-Ⅲ.2 種と 3 種の相対漁獲効率について. 福岡豊前水試研報, (4):1-10.
- 有江康章・林功 (1990) 漁業高度管理適正化方式開発調査事業. 平成元年度福岡県水試研報, 豊 12-13.
- 有江康章・小林信・上妻智行 (1993) 福岡県豊前海におけるナマコ増殖場について. 南西海ブロック魚礁研究会報, (11):7-10.
- ARMSTRONG D.A., CHIPPENDAL E D.K., KNIGHT A.W. and J.E. COLT (1978) Interaction of ionized and unionized ammonia on short term survival and growth of prawn larvae. Biol. Bull., 154(1):15-31.
- ARNSTEIN D.R. and T.W. REARD (1975) Induced maturation of the Prawn *Penaeus orientalis* KISHINOUE in the laboratory by means of eyestalk removal. Aquaculture, 5(4):411-412.
- 有馬功 (1965) 種苗放流技術に関する研究-I. 食用色素注入によるクルマエビの染色標識法について. 昭和 39 年度福岡豊前水試研業報, 117-119.
- 有馬功 (1968) 短期蓄養出荷技術研究. 昭和 42 年度福岡豊前水試研業報, 76-81.
- 有馬功 (1969) 短期蓄養出荷技術に関する研究-II. 昭和 43 年度福岡豊前水試研業報, 183-189.
- 有馬健二 (1974) 北海道新冠沖で漁獲されたクルマエビ *Penaeus japonicus* BATE について. 北水試月報, 31(2):22.
- ARIMOTO M., YAMAZAKI T., MIZUTA Y. and I. FURUSAWA (1995) Characterization and partial cloning of the genomic DNA of a baculovirus from *Penaeus japonicus* (PjNOB=BMNV). Aquaculture, 132(3・4):213-220.
- 有元操・山崎哲男・水田洋之介・古澤巖 (1994) クルマエビのバキュロウイルス性中腸腺壊死症ウイルス(BMNV)の性状. 平成 6 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.5.
- 有元操 (1999) 防疫的な見地からみた放流用種苗. ミニシンポジウム, これからの栽培漁業研究. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.154.
- 有元操 (1999) 海産魚の種苗生産技術の問題点と微生物利用. アクアネット, 2(11):22-26.
- 有元操 (2000) 防疫的な見地からみた放流用種苗. ミニシンポジウム, これからの栽培漁業研究. 日水誌, 66(1):156-157.
- 有田正樹・我妻隆介 (1976) 水産養殖と自動投餌機. 養殖, 13(11):56-59.
- ARIYAMA H., URATANI F., OHYAMA H., SANO M. and S. YAMOUCHI (1994) Survival, growth and tag retention of the Kuruma prawn *Penaeus japonicus* and greasy back prawn *Metapenaeus ensis* injected with gold bit tags (短報). Fish. Sci., 60(6):785-786.
- 有山啓之 (1985) 大阪湾砂浜域に生息するエビ・カニ類と魚類について. 昭和 61 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.108.
- 有山啓之 (1991) ワタリガニ・クルマエビの標識法の開発研究(研究総合調整事業). 平成元年度大阪水試事報, 156-158.
- 有山啓之・林凱夫 (1992) ワタリガニ・クルマエビの標識法の開発研究. 平成 2 年度大阪水試事報, 115-117.
- 有山啓之・矢持進・佐野雅喜・高垣裕・濱野米一・浦谷文博・大山博 (1993) ワタリガニ・クルマエビの標識法開発研究(研究総合調整事業). 平成 3 年度大阪水試事報, 128-133.
- 有山啓之 (1993) 東ジャワ州技術者交流事業. 平成 3 年度大阪水試事報, 152-154.
- 有山啓之・林凱夫 (1994) 岬町谷川地先増殖場における生物生息状況とその効果について. 大阪水試, 70 pp.
- ARIYAMA H., URATANI F., OHYAMA H., SANO M. and S. YAMOUCHI (1994) Survival, growth, and tag retention of kuruma prawn *Penaeus japonicus* and the greasy back prawn *Metapenaeus ensis* injected with gold bit tags. Fish. Sci., 60(6):785-786.
- 有山啓之・佐野雅基・矢持進・浦谷文博・大山博 (1996) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 6 年度大阪水試事報, 136-137.
- 有山啓之 (1996) 大型魚礁効果調査. 平成 6 年度大阪水試事報, 147-150, 付表:(46)-(55).
- 有山啓之 (1997) 大型魚礁効果調査. 平成 7 年度大阪水試事報, 160-163, 付表:(44)-(55).
- 有山啓之・矢持進・佐野雅基 (1997) 大阪湾奥部における大型底生動物について-Ⅲ. 出現種のリストおよび他地区・過去との比較. 大阪水試研報, (10):19-27.

- 有山啓之 (2000) 標本船による漁業種別操業実態調査. 平成 11 年度大阪水試事報, 121-137.
- 有山啓之・藤田種美・青山英一郎・佐野雅基・阪上雄康(2000) 標識放流したクルマエビ大型種苗の採捕状況について.大阪水試研報, (11):9-47.
- 有吉敏和・吉本宗央 (1997) 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発報告書(エビグループ), 有 1-30.
- 浅原充雄 (1969) クルマエビの嗜好性物質について. 山口内海水試調研業績, (18):31-37.
- 浅原充雄 (1970) クルマエビおよびコウライエビにおける血清・筋肉・肝臓蛋白の泳動像. 山口内海水試報,(1):1-41.
- 浅原充雄・高山繁昭・桃山和夫 (1970) 新飼料開発研究(抄録):クルマエビ人工配合餌料研究. 山口内海水試報, (1):51.
- 浅原充雄・陣之内征龍 (1971) アサリ中の成分がクルマエビの脱皮に及ぼす影響(予備的実験). 山口内海水試報, (2):18-21.
- 浅原充雄・陣之内征龍 (1971) 新飼料開発研究(抄録):クルマエビ人工配合餌料研究. 山口内海水試報, (2):109.
- 浅川博之 (1992) シンポジウム, 東南アジアにおける養殖の現状と将来展望. 養殖, 29(6):138-140.
- 浅川末三 (1956) 氷蔵エビの黒変について. 冷凍, 30(350):23-27.
- 浅見忠彦 (1977) 魚類・漁獲資源の分布生態の測定. 日本水産学会編, 海の生態学と測定. 水産学シリーズ, (17):83-100.
- 浅野彦太郎(1935) 水生動物図説. 成光館, pp.924
- 芦立昌一 (1993) コウライエビの種苗生産マニュアル. 日裁協志布志事業場, 1-16.
- ATKINSON D.B. (1984) Discarding of small redfish and shrimp fishery off Port au Choix, Newfoundland. J.Northw.Atl.Fish.Sci., (5):99-102.
- 厚地伸・大富潤 (2001) 鹿児島県における標識放流. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック,クルマエビ), II. 98-108.
- 厚地伸・佐藤昌子・大富潤 (2001) 成熟予備試験. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック,クルマエビ), II. 123-127.
- 渥美敏・中川征章・上村信夫 (1978) クルマエビ種苗生産研究. 昭和 52 年度静岡水試事報, 303.
- 渥美敏 (1987) 昭和 62 年度上半期の主要魚種の種苗生産状況. 静岡栽セ.なむら, (36):3-5.
- AUJERO F. and O.MILLAMENA (1979) Viability of frozen algae used as food for larval penaeids. Southeast Asian Fisheries Development Center, Quarterly Res.Rep., (3・4):11-16.
- AUSTIN B. and J.G.DAY (1990) Inhibition of prawn pathogenic *Vibrio* spp.by a commercial spray-dried preparation of *Tetraselmis suecica*. Aquaculture, 90(3・4):389-392.
- AVARRE J.C., KHAYAT M.,MICHELIS R., NAGASAWA H., TIETZ A. and E.LUBZENS (2001) Inhibition of *de novo*-synthesis of a jelly layer precursor protein by crustacean hysttrans criptinal regulation by sinus gland extracts in *Penaeus semisulcatus* ovaries. Gen.Comp.Endocrinol., (124):257-268.
- 栗森勢樹 (1980) 潜水観察によるクルマエビの夜間行動. 石川水試研報, (3):53-63.
- 東幹夫 (1981) 稚魚育成場としてのアマモ場の役割. 日本水産学会編, 藻場・海中林. 水産学シリーズ, (38):34-56.
- 東幹夫・近藤寛・西之首英之 (1997) 沿岸生態系における漁業生産システムの解析-生物・環境学的見地から. 日水誌, 63(5):800-801.
- 安積徹・近藤昌和・前田稔・伊丹利明・高橋幸則 (1998) クルマエビリンパ様器官細胞の PROV に対する感受性. 平成 10 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.3.

- 馬場啓輔・蔭山佳之・川合範明・清水昭二・青山雅俊・長谷川仁・後藤裕康・平井一行・花井孝之 (1987) 大規模砂泥域開発調査. 昭和 61 年度静岡水試事報, 74-75.
- 馬場敬次・林健一・通山正弘 (1985) 日本陸棚周辺の十脚甲殻類. 大陸棚斜面未利用資源精密調査. 日本水産資源保護協会, 336 pp.
- 馬場浩文・川村嘉応 (1986) 生物に与える酸の急性毒性-I. クルマエビに対する毒性. 佐賀有明水試報, (10):127-132.
- 馬場俊典・和西昭二 (2001) 1999 年の赤潮発生状況. 平成 11 年度山口水研事報, 350-355.
- 馬場次男・森田貞二・寺嶋朴・原田徳三 (1963) 小型底曳網漁業漁獲物調査. 昭和 37 年度岡山水試事報, 1-11.
- BACHERE E. (2000) Shrimp immunity and disease control. *Aquaculture*, 191(1-3):3-11.
- BACHERE E., DESTOUMIEUX D. and P.BULET (2000) Peneidins, antimicrobial peptides of shrimp: a comparison with other effectors of innate immunity. *Aquaculture*, 191(1-3):71-88.
- BAGARINAO T.U., SOLIS N.B., VILLAVAR W.K. and A.C.VILLALUG (1986) Important fish and shrimp fry in Philippine coastal waters: Identification, collection and handling. SEAFDEC Aquaculture Department Iloilo, Philippines, Aquaculture Extension Manual #10, p.52.
- BAGES M. and L.SLOANE (1981) Effect of dietary protein and starch levels on growth and survival of *Penaeus monodon* (FABRICIUS) postlarvae. *Aquaculture*, 25(2-3):117-128.
- BAGSHAW J.C. and J.A. QUILEE (1998) Structure and polymorphism of rDNA genes in the marine shrimp *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 159(3-4):333-343.
- 裴平岩 (1994) 韓国の水産増養殖の現状と問題点. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):75-80.
- BAI X-e. (1982) Studies on the elimination of harm caused by Hydrogen sulfide(H₂S) on *Penaeus orientalis* KISHINOUE culture. *Marine Fish. Res.*, (4):33-41.
- BAIN Y A.C.D. (2000) Biochemical responses in penaeids caused by contaminants. *Aquaculture*, 191(1-3):163-168.
- BALAZS G.H., OLBRICH S.E. and M.E. TUMBLESON (1974) Serum constituents of the Malaysian prawn (*Macrobrachium rosenbergii*) and pink shrimp (*Penaeus marginatus*). *Aquaculture*, 3(2):147-157.
- BAMBANG Y. (1995) Effect de deux metaux (cadmium et cuivre) sur la crevette Peneide *Penaeus japonicus* BATE (Crustacea, Decapode). These de Doctorat. Universite de Montpellier, II, 168 pp.
- BANAMI J.R., TRUMPER J., MARI J., BREHELIN M. and D.V. LIGHTNER (1990) Purification and characterisation of the infectious hydrodermal necrosis virus of penaeid shrimps. *J. General Virology*, (71):2657-2664.
- BANAMI J.R., BRUCE L.D., POULOS B.T. MARI J. and D.V. LIGHTNER (1995) Partial characterization and cloning of the genome of PvSNPV (=BP-type virus) pathogenic for *Penaeus vannamei*. *Dis. Aquat. Org.*, 23(1):59-66.
- BANAMI J.R., MARI J., POULOS B.T. and D.V. LIGHTNER (1995) Characterization of hepatopancreatic parvo-like virus, a second unusual parvovirus pathogenic to penaeid shrimps. *J. Gen. Virol.*, (76):813-817.
- 板東あけみ (1995) 人と環境に優しいエビ養殖の試行. 養殖, 32(7):58-59.
- BANG K.S. (1970) Experiment in the production of the young Bori prawn, *Penaeus japonicus* BATE. *Bull. Natl. Fish. Res. Dev. Agency*, (5):53-62.
- BAOZHEN P., JIANG R., JUYING S., GUOYING Z., HUITING S., GUOXING Z. and G.ZUXUN (1994) The studies on baculovirus caused disease of prawns (*Penaeus chinensis* OSBECK) in Shanghai suburb. *Chinese J. Virol.*, 11:151-157.
- BARBIER M.A. and G. CUZON (1980) Improved nutrient specification for linear programming of penaeid rations. *Aquaculture*, 19(4): 313-323.
- BARNARD K.H. (1950) Descriptive catalogue of South African decapod Crustacea (crabs and shrimps). *Ann. S. Afr. Mus.*, (38):1-937.
- BARNARD K.H. (1970) Experiment in the production of the young Bori prawn, *Penaeus japonicus* BATE. *Bull. Natl. Fish. Res. Dev. Agency*, (5):53-62.
- BARBIERI M.A. and G. CUZON (1980) Improved nutrient specification for linear programming of penaeid rations. *Aquaculture*, 19(4):313-323.
- BATE C.S. (1881) On the Penaeidae. *Ann. Mag. Nat. Hist.*, (London), Ser. 5. (8):169-196, pls. 11-12.
- BATE C.S. (1888) Report on the Crustacea Macrura collected by H.M.S. Challenger during 1873-76. *Rep. Voy. Challenger Zool.*, (24):1-942.
- BATICADOS M.C.L., COLOSO R.M. and R.C. DUREMDEZ (1986) Studies on the chronic soft-shell syndrome in the tiger prawn, *Penaeus monodon* FABRICIUS, from brackishwater ponds. *Aquaculture*, 56(3-4):271-285.
- BATICADOS M.C.L. (1988) Diseases. *Aquaculture Department ed., Biology and Culture of Penaeus monodon*. SEAFDEC, pp.139-178.

- BATICADOS M.C.L. (1988) Diseases of Prawn in the Philippines. SEAFDEC Asian Aquaculture, (10):1-8.
- BATICADOS M.C.L., CRUZ-LACIERDA E.R., de la CRUZ M.C., DUREMDEZ-FERNANDEZ R.C., GACUTAN R.Q., LAVILLA-PITOGO C.R. and G.D.LIO-PO (1990) Diseases of penaeid shrimps in Philippines. Aquaculture Extension Manual No.16. SEAFDEC Aquaculture Department, Tigbauan.Iloilo, Philippines, 46 pp.
- BATICADOS M.C.L., LAVILLA-PITOGO C.R., CRUZ-LACIERDA E.R., de la PENA L.D. and N.A.SUNAZ (1990) Studies on the chemical control of luminous bacteria *Vibrio harveyi* and *V.splendidus* isolated from diseased *Penaeus monodon* larvae and rearing water. Dis.Aquat.Org., 9(2):133-139.
- BATICADOS M.C.L. and C.L.PITOGO (1990) Chlorination of seawater used for shrimp culture. Israel J.Aquacult.-Bamidgah, 42:128-130.
- BATICADOS M.C.L. and E.A.TENDENCIA (1991) Effects of Gusathion A on the survival and shell quality of juvenile *Penaeus monodon*. Aquaculture, 93(1):9-19.
- BATICADOS M.C.L., LAVILLA-PITOGO C.R., PANER M.G., de la PENA L.D. and E.A.TENDENCIA (1991) Occurrence and pathology of *Penaeus monodon* baculovirus infection in hatcheries and ponds in the Philippines. Bamidgah, 43:35-41.
- BAUMANN R.H. and D.R.JAMANDRE (1990) A practical method for stocking in grow-out ponds. NEW M.B., de SARAM H. & T.SINGH eds., Technical and Economic Aspects of Shrimp Farming: Proc.of the Aquatech'90 Conference. Infofish, Kuala Lumpur, Malaysia, pp.124-131.
- BAUTISTA M.N. (1986) The response of *Penaeus monodon* juveniles to varying protein/energy ratios in test diets. Aquaculture, 53(3-4):229-242.
- BAUTISTA M.N. and P.F.SUBOSA (1997) Changes in shrimp feed quality and effects on growth and survival of *Penaeus monodon* juveniles. Aquaculture, 151(1-4):121-129.
- BAUTISTA-TERUEL M.N. and P.F.SUBOSA (1999) Butylated hydroxytoluene: its effect on the quality of shrimp diet stored at various temperature and on growth and survival of *Penaeus monodon* juveniles. Aquaculture, 179(1-4):403-414.
- BAXTER K.N. and W.C.RENFRO (1967) Seasonal occurrence and distribution of postlarval brown and white shrimp near Galveston, Texas, with note on species identification. U.S.Fish.Wildl.Serv., Fish.Bull., 66(1):149-158.
- BEARD T.W., WICKINS J.F. and D.R.ARNSTEIN (1977) The breeding and growth of *Penaeus merguensis* de MAN in laboratory recirculation systems. Aquaculture, 10(3):275-289.
- BEARD T.W. and J.F.WICKINS (1980) Breeding of *Penaeus monodon* FABRICIUS in laboratory recirculation systems. Aquaculture, 20(2):79-89.
- BELCHER C.R. and P.R.YOUNG (1998) Colourimetric PCR based detection of monodon baculovirus (MBV) in whole *Penaeus monodon* postlarvae. J.Virol.Methods, (74):21-28.
- BELL T.A. and D.V.LIGHTNER (1984) IHHN virus, Infectivity and pathogenicity studies in *Penaeus stylirostris* and *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 38(3):185-194.
- BELL T.A. and D.V.LIGHTNER (1987) IHHV disease of *Penaeus stylirostris*: effects of shrimp size on disease expression. J.Fish.Dis., 10:165-170.
- BELL T.A. and D.V.LIGHTNER (1988) A handbook of normal penaeid shrimp histology. World Aquaculture Society, Special Publication No.1., Baton Rouge, LA, USA., 114 pp.
- BELL T.A., LIGHTNER D.V. and J.A.BROCK (1988) A biopsy procedure for the nondestructive determination of IHHNV virus infectious in *Penaeus vannamei*. J.Aquatic Animal Health, (2):151-153.
- BENZIE J.A.H., BALLMENT E. and S.FRUSHER (1993) Genetic structure *Penaeus monodon* in Australia: concordant results from mtDNA and allozymes. Aquaculture, 111(1-4):89-93.
- BENZIE J.A.H., KENWAY M., BALLMENT F., FRUSHER S. and L.TROTT (1995) Interspecific hybridization of the tiger prawns *Penaeus monodon* and *Penaeus esculentus*. Aquaculture, 133(2):103-111.
- BENZIE J.A.H., GOSLING E.M., MERCER J.P. and J.DONLON (1995) Utility of streamer tags to assess survival and growth of juvenile tiger prawns (*Penaeus monodon*) in aquaculture environments. Aquaculture, 136(1-2):57-69.
- BENZIE J.A.H., KENWAY M. and L.TROTT (1997) Estimates for the heritability of size in juvenile *Penaeus monodon* prawns from half-sib matings. Aquaculture, 152(1-4):49-53.
- BENZIE J.A.H. (1997) A review of the effect of genetics and environment on the maturation and larval quality of the giant tiger prawn *Penaeus monodon*. Aquaculture, 155(1-4):69-85.
- BENZIE J.A.H. (1998) Penaeid genetics and biotechnology. Aquaculture, 164(1-4):23-47.
- BENZIE J.A.H., KENWAY M. and E.BALLMENT (1998) Growth of *Penaeus monodon* × *Penaeus esculentus* tiger prawn hybrids relative to the parental species. Aquaculture, 193(3-4):227-237.

- BERRY R.J. (1967) Dynamics of the Tortugas Pink Shrimp Population. University of Rhode Island and Thesis. Phd. Zoology, 160 pp.
- BERRY R.J. (1969) Shrimp mortality rate derived from fishery statistics. Proc.Gulf Caribb.Fish.Inst.,22nd Annu.Sess., pp.66-68.
- BERRY R.J.and K.N.BAXTER (1969) Predicting brown shrimp abundance in the north western Gulf of Mexico. FAO Fish. Rept., 57(3):775-798.
- BESANCON H.C. (1973) Review of the development of the selective shrimp trawl in Netherlands. FAO Fish.Rep., (139):21-25.
- BEYNON J.L., HUTCHINS D.L., RUBINO A.J., LAWRENCE A.L.and B.R.CHAPMAN (1981) Nocturnal activity of birds on shrimp mariculture ponds. J.World Maricul.Soc., 12:63-70.
- BHASKAR N., RUDRA SETTY T.M., VIDYA SAGAR REDDY G., MANOJ Y.B., ANANTHA C.S., RAGHUNATH B.S. and M.ANTONY (1995) Incidence of Salmonella in cultured shrimp *Penaeus monodon*. Aquaculture, 138(1-4):257-266.
- BIAN B.Z. and S. EGUSA (1981) Histopathology of black gill disease caused by *Fusarium solani* (MARTIUS) infection in the kuruma prawn. Jour.Fish Dis., 4:195-201.
- BIEDENBACH J.M., SMITH L.L. and A.L.LAWRENCE (1990) Use of a new spray-dried algal product in penaeid larviculture. Aquaculture, 86(2·3):249-257.
- BIERNE N.,BEUZART I., VONAU V., BONHOMME F., BEDIER E. and AQUACOP (2000) Microsatellite-associated heterosis in hatchery-propagated stocks of the shrimp *Penaeus stylirostris*. Aquaculture, 184(3·4):203-219.
- 備後灘周辺漁場開発プロジェクトチーム (1971) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘), 1-90.
- 備後灘周辺漁場開発プロジェクトチーム (1972) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘), 1-157.
- 備後灘周辺漁場開発プロジェクトチーム (1973) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘), 1-216.
- 備後灘周辺漁場開発プロジェクトチーム (1974) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘), 1-182.
- 備後灘周辺漁場開発プロジェクトチーム (1975) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘), 1-243.
- BISHARA N.F. (1976) Contributions to the biology of penaeid prawns in Lake Manzalah, Egypt- I. Growth studies and length-weight relationship. Aquaculture, 8(4):337-349.
- BOMBEO C.U., GUANZON N.G.Jr. and G.L.SCHROEDER (1993) Production of *Penaeus monodon* (FABRICIUS) using four natural food types in an extensive system. Aquaculture, 112(1):57-65.
- BOMBEO-TUBURAN I. FUKUMOTO S. and E.M.RODRIGUEZ (1995) Use of the golden apple snail, cassava, and maize as feeds for the tiger shrimp, *Penaeus monodon*, in ponds. Aquaculture, 131(1·2):91-100.
- BONAMI J.R., TRUMPER B., MARI J., BREHELIN M. and D.V.LIGHTNER (1990) Purification and characterization of IHHV.virus of penaeid shrimps. J.Gen.Virol, (71):2657-2664.
- BONAMI J.R., LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and B.T.POULOS (1992) Partial characterization of a togavirus (L0VV) associated with histopathological changes of the lymphoid organ of penaeid shrimps. Dis.Aquat.Org., 14(2):145-152.
- BONAMI J.R., BRUCE L.D.,POULOS B.T., MARI J. and D.V.LIGHTNER (1995) Partial characterization and cloning of the genome of PvSNPV(=BP-type virus) pathogenic for *Penaeus vannamei*. Dis.Aquat.Org, 23(1): 59~66.
- BONAMI J.R., MARI J., POULOS B.T. and D.V.LIGHTNER (1995) Characterization of hematopancreatic parvo-like virus, a second unusual parvovirus pathogenic for penaeid shrimps. J.Gen.Virol, (76):813-817.
- BONAMI J.R., HASSON K.W., MARI J., POULOS B.T. and D.V.LIGHTNER (1997) Taura syndrome of marine penaeid shrimp: characterization of the viral agent. J.Gen.Virol., (78):313-319.
- BOONYARATPALIN S., BOONYARATPALIN M., SUPAMATTAYA K., and Y.TORIDE (1992) Effects of peptideglycan(PG) on growth, survival, immune responses and tolerance to the stressor in black tiger prawn(*P.monodon*). SUBASIGHE R.P.& J.R.ARTHUR eds., Diseases in Asian Aquaculture 11, Fish Health Section. Asian Fish.Soc., Manila, pp.469-477.
- BOONYARATPALIN S., SUPAMATTAYA K., KASORNCHANDRA J., DIREKBUSARACOM S., AEKPANITHANPON U. and C. CHANTANACHOOKLIN C. (1993) None-occluded baculo-like virus, the causative agent of yellow head disease in the black tiger shrimp (*Penaeus monodon*). Fish Pathol., 28(3):103-109.
- BORRADAILE L.A. (1910) Penaeidae, Stenopidea, and Reptantia from the Western Indian Ocean. Percy Sladen Trust Expedition, No.10, Trans.Linn.Soc.London.Zool., (13):257-264,pls.16.
- BOSCHI E.E. (1976) Cultivo de camarones comerciales (peneidos). Inf.Com.Invest.Cient., (6):1-20.
- BOSCHI E.E. and M.A. SCELZO (1976) アルゼンチンにおけるくるまえびの養殖と大規模な生産の可能性. FAO 水産増殖国際会議論文集, (5) :130-134.
- BOTTINO N.R., GENNITY J., LILLY M.L., SIMMONS E. and G.FINNE (1980) Seasonal and nutritional effects on the fatty acids of three species of shrimp, *Penaeus setiferus*, *P.aztecus* and *P.duorarum*. Aquaculture, 19(2):139-148.

- BOUCHON D., SOUTY-GROSSET C. and R.RAIMOND (1994) Mitochondrial DNA variation and markers of species identity in two penaeid shrimp species: *Penaeus monodon* FABRICIUS and *P.japonicus* BATE. *Aquaculture*, 127(2·3):131-144.
- BOUVIER E.L. (1908) Crustaces Decapodes (Peneides) provenant des campagnes de l'Hirondelle et de la Princesse Alice (1886-1907). *Result Comp.Sci.Monaco*, (33):1-122,Pls.1-16.
- BOYD C.E. and A.W.FAST (1992) Pond monitoring and management. FAST C.E.& J.L.LESTER eds."Marine Shrimp Culture-Principles and Practices". Elsevier,Amsterdam, pp.497-513.
- BOYD C.E. (1995) Chemistry and efficacy of amendments used to treat water and soil quality imbalances in shrimp ponds. BROWDY C.L.& J.S.HOPKINS eds. *Proceeding of the Special Sesion on Shrimp Farming*. The World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA, pp.183-189.
- BOYD C.E. (2001) Inland shrimp farming and the environment. *World Aquacult.*, 32(1):10-12.
- BRATVOLD D. and C.L.BROWDY (2001) Effects of sand sediment and vertical surfaces (AquaMats-TM) on production, water quality, and microbial ecology in an intensive *Litopenaeus vannamei* culture system. *Aquaculture*, 195(1·2):81-94.
- BRAY W.A., LAWRENCE A.L. and J.R.LEUNG-TRUJILLO (1994) The effect of salinity on growth and survival of *Penaeus vannamei*, with observations on the interaction of IHVN virus and salinity. *Aquaculture*, 122(2·3):133-146.
- BRAY W.A. and A.L.LAWRENCE (1998) Male viability determinations in *Penaeus vannamei*: evaluation of short-term of spermatophores up to 36h and comparison homogenate maid. *Aquaculture*, 160(1·2):63-67.
- BREWER D.T., EAYRS S.J., RAWLINSON N.J.F., SALINI J.P., FARMER M., BLABER S.J.M., CARTWRIGHT I. and I.POINER (1997) Recent advances in environmentally friendly trawl gear research in Australia. HANCOCK D.A., SMITH D.C.,GRANT & J.P.BEUMER. *Developing and sustaining world fisheries resources: the state of science and management: 2nd World Fisheries Congress proceedings*. CSIRO Australia, pp.537-543.
- BRIGGS M.R.P., BROWN J.H. and C.J.FOX (1994) The effects of dietary lipid and lecithin levels on the growth,survival,feeding efficiency,production and carcass composition of post-larval *Penaeus monodon* FABRICIUS. *Aquacult.Fish.Manag.*, 25(3):279-294.
- BRIGGS M.R.P. and S.J.FUNGE-SMITH (1994) A nutrient budget of some intensive marine shrimp ponds in Thailand. *Aquacul. Fish Manage.*, (25):789-811.
- BRISSON S. (1985) Gas-bubble disease observed in pink shrimps, *Penaeus srasiliensis* and *Penaeus paulensis*. *Aquaculture*, 47(1):97-99.
- BRISSON S. (1986) Observation on the courtship of *Penaeus brasiliensis*. *Aquaculture*, 53(1):75-78.
- BROADHURST M.K. and S.J.KENNELLY (1996) Effects of the circumference of codends and design of square-mesh panel in reducing unwanted by-catch in the New South Wales oceanic prawn-trawl fishery,Australia. *Fish.Res.*, (27):203-214.
- BRUOADHURST M.K. and S.J.KENNELLY (1997) The composite square-mesh panel a modification to codends for reducing unwanted bycatch and increasing catches of prawns throughout the New South Wales oceanic prawn-trawl fishing. *Fish.Bull.*, (95):653-664.
- BOYD C.E. and A.GROSS (1998) Use of probiotics for improving soil and water quality in aquaculture ponds. FLEGEL T.W.ed., *Advances in biotechnology*. Thailand, pp.101-106.
- BROCK J.A. (1983) Diseases (infection and noninfectious),metazoan parasites,predators and public hearth considerations in Macro-c_ranchium culture and fisheries.McVEY J.P.ed., *Handbook of Mariculture.Vol. I*.Crustacean Aquaculture. CRC Press,Boca Raton,Fla., pp.329-370.
- BROCK J.A., NAKAGAWA L.K., Van CAMPER H., HAYASHI T. and T.STEPHANIE (1986) A record of Baculovirus penaei from *Penaeus marbinatus* RANDALL in Hawii. *J.Fish.Dis.*, (9):353-355.
- BROCK J.A. and D.V.LIGHTNER (1990) Diseases of crustacea. KINNE O.ed., *Diseases of marine animals.Vol.III*. Biologische Amstalt Helgoland,Hamburg,Germany, pp.245-349.
- BROCK J.A (1991) An overview of diseases of cultured crustceans in the Asia Pacifica region. in *Fish health management in Asia-Pacific*. ADB Agriculture Department Report Series, (1):347-395.
- BROCK J.A. (1992) Current diagnostic methods for agents and diseases of farmed marine shrimp.FULKS W. & K.MAIN eds., *Proceedings of the Asian interchange program workshop on the diseases of cultured penaeid shrimp*. Asian Inter-change Program,The Oceanic Institute,Oahu,H1., pp. 209-231.
- BROCK J.A. and B. LeaMASTER (1992) A look at the principal bacterial,fungal and parasitic diseases of farmed shrimp. KINNE O.ed., *Diseases of Marine Animals.III*, pp.245-249.

- BROCK J.A. and K.L.MAIN (1994) A guide to the common problems and diseases of cultured *Penaeus vannamei*. The Oceanic Institute, Makapuu Point O.Honolulu, 241 pp.
- BROCK J.A., GOSE R., LIGHTNER D.V. and K.W.HASSON (1995) An overview on Taura syndrome, an important disease of farmed *Penaeus vannamei*. BROWDY C.L. & J.S.HOPKINS eds., Swimming through troubled water. Aquaculture'95. World Aquac.Soc. Baton Rouge, LA, USA., 84-94.
- BROCK J.A. and R.BULLIS (2001) Disease prevention and control for gametes and embryos of fish and marine shrimp. Aquaculture, 197(1-4):137-159.
- BROWDY C.L. and T.M.SAMOCHA (1985) The effect of eyestalk ablation on spawning, molting and mating of *Penaeus semisulcatus* de HAAN. Aquaculture, 49(1):19-29.
- BROWDY C.L., HADANI A., SAMOCHA T.M. and Y.LOYA (1986) The reproductive performance of wild and pondreared *Penaeus semisulcatus* de HAAN. Aquaculture, 59(3-4):251-258.
- BROWDY C.L., HOLLOWAY J.D., KING C.O., STOKES A.D., HOPKINS J.S. and P.A.SANDIFER (1993) IHNV virus and water exchange rate. J.Crustacean Biol., 13:87-94.
- BROWDY C.L. (1998) Recent development in penaeid broodstock and seed production technologies improving the outlook for superior captive stocks. Aquaculture, 164(1-4):3-21.
- BROWN A.Jr., McVEY J., MIDDLEDITCH B.S. and A.L.LAWRENCE (1979) Maturation of white shrimp (*Penaeus setifera*) in captivity. Proc.World Maricul.Soc., (10):435-444.
- BROWN A., McVEY J., SCOTT B.M., WILLIAMS T.D., MIDDLEDITCH B.S. and A.L.LAWRENCE (1980) Preliminary results on the maturation and spawning of *Penaeus stylirostris* under controlled laboratory condition. U.S.-Japan Aquaculture Panel, Kyoto Japan, pp.26-27.
- BROWN A.Jr., TAVE D., WILLIAMS T.D. and M.J.DURONSLET (1984) Production of second generation penaeid shrimp, *Penaeus stylirostris*, from Mexico. Aquaculture, 41(1):81-84.
- BRUCE A.J. (1966) *Hymenopenaeus halli* sp.nov. a new species of penaeid prawn from the South China sea (Decapoda, Penaeidae). Crustaceana, (11):216-224.
- BRUCE L.D., TRUMPER B.B. and D.V.LIGHTNER (1991) Methods of viral isolation and DNA extraction for a penaeid shrimp baculovirus. J.Virol.Meth, 34:245-254.
- BRUCE L.D., REDMAN R.M., LIGHTNER D.V. and J.R.BONAMI (1993) Application of gene probes to detect a penaeid shrimp baculovirus in fixed tissue using *in situ* hybridization. Dis.Aquat.Org., 17(3):215-221.
- BRUCE L.D., REDMAN R.M. and D.V.LIGHTNER (1994) Application of traditional and molecular detection target organs of a penaeid shrimp baculovirus using *in situ* hybridization. Aquaculture, 120(1-2):45-51.
- BRUCE L.D., LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and K.C.STUCK (1989) Application of traditional and molecular detection Methods to experiment studies on the development of *Baculovirus penaei* (BP) infection in larval *Penaeus vannamei*. J.Aquat.Anim.Health, 6:355-359.
- BUCHANAN J., SARAC H.Z., POPPI D. and R.T.COWAN (1997) Effects of enzyme addition to canola meal in prawn diets. Aquaculture, 151(1-4):29-35.
- BUENO S.L.S., NASCIMENTO R.M. and I.NASCIMENTO (1990) Baculovirus penaei infection in *Penaeus subtilis*: A new host and a new geographic range of the disease. J.World Aquacult.Soc., 21:235-237.
- BULLIS R.A. and G.D.PRUDER eds., (1999) Controlled and Biosecure Production Systems. Evolution and Integration of Shrimp and Chicken Models. Proceedings of a Special Session. World Aquaculture Society, Sydney Australia, 106 pp.
- BULLIS R.A. (2001) U.S. Marine shrimp Farming Program FY2002 Implementation Plan. The Oceanic Institutional, Progress Report. The Oceanic Institute, Honolulu, HI, U.S.A., 165 pp.
- BULLOCK T.H. & G.A.HORRIDGE (1965) Structure and function in the nervous systems of invertebrates. Freeman W.H. and Comp., (2):1719 pp.
- ブラウン E. (1977) 1968年以降、日本の魚類養殖業の変化. 養殖, 14(4):122-123.
- BURFORD M.A. and K.C.WILLIAMS (2001) The fate of nitrogenous waste from shrimp feeding. Aquaculture, 198(1-2):79-93.
- BURKENROAD M.D. (1934) The Penaeidea of Louisiana with a discussion of their world relationships. Bulletin of the American Museum of Natural History, (68):61-134.
- BURKENROAD M.D (1936) The Aristaeinae, Solennocerinae and pelagic Penaeinae of the Bingham Oceanographic collection. Materials for a revision of the oceanic Penaeidae. Bull.Bingham Oceanogr.Coll., 2(2):1-151.
- BURKENROAD M.D (1938) The Templeton Crocker Expedition-VIII. Penaeidae from the region of Lower California and Clarion Island, with descriptions of four new species. Zoologica, (23):55-91.
- BURKENROAD M.D. (1940) Preliminary descriptions of twenty-one new species of pelagic Penaeidea (Crustacea Decapoda) from the Danish Oceanographic Expeditions. Ann.Mag.Nat.Hist., (London), Ser.11,(6):35-54.

- BURKOVSKII R.N. (1972) Some problems in the systematics and distribution of *Penaeus*. Trudy Atlant. Nauchnoissled. Inst. Rjib.Khoz. Okianogr., (42):3-21.
- BURKOVSKY R.N. (1972) Some problems in the systematics and distribution of *Penaeus*. Trudy Atlant.Zool.Zh., (54):779-781.
- BUTLER T.H. (1980) Shrimps of the Pacific coast of Canada. Can.Bull.Fish.Aquat.Sci., Ottawa, (202):1-280.

- CACECI T., SMITH S.A., TOTH T.E., DUNCAN R.B. and S.C.WALKER (1999) Identification of individual prawns with implanted microchip transponders. *Aquaculture*, 180(1·2):41-51.
- CADDY J.F. (1996) A checklist for fisheries resource management issues seen from the perspective of the FAO Code of Conduct for Responsible Fisheries. *FAO Fisheries Circular*, (917):1-22.
- CAHU C., FAKHFAKH M. and P. QUAZUGUEL (1991) Effect of dietary α -tocopherol level on reproduction of *Penaeus indicus*. LAVENS P., SORGEELOOS P., JASPERS E. & F. OLLEVIER eds. Larvi '91-Fish and Crustacean Larviculture Symposium. European Aquac.Soc.Special Publ.,Belgim, (15):242-244.
- CAHU C., CUILLAUME J.C., STEPHAN G. and L.CHIM (1994) Influence of phospholipid and highly unsaturated fatty acids on spawning rate and egg and tissue composition in *Penaeus vannamei* fed semi-purified diets. *Aquaculture*, 126(1·2):159-170
- CAI N. and L. FENG (1993) Artificial induction of gynogenesis in Chinese shrimp, *Penaeus orientalis* KISHINOUE. *Aquaculture*, 111(1-4):314.
- 蔡子超 (1994) 中国山東省沿岸の魚類増養殖の現状と対策. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):100-106.
- CAILLOUET C.W. (1965) Studies of postlarval shrimp in Bermilion Bay. *La. U.S.Fish Wildl.Serv.Circ.*, (264):28.
- CALAPRACE J.R. (1976) Mariculture-ecological and genetic aspects of production. *J.Fish.Res.Board Can.*, 33:1068-1087.
- CALDERON PEREZ L.A., MACIAS REGALADOS E., ABREU GROBOSIS F.A., and S. RENDON RODRIGUEZ (1999) Antennular flagella: a useful character for subgenera among postlarval shrimp of the genus *Penaeus* (Decapoda) from the Gulf of California. *J.Crust.Biol.*, (9):482-491.
- CARDOSO S., BARROS C.M.F., CORREIA A.J.F., CARDOSO J.M., CORTEZ A., CARVALHO F. and L.BALDASIA (1997) Identification of vertebrate type steroid hormones in the shrimp *Penaeus japonicus* in tandem mass spectrometry and sequential production scanning. *L.Am.Soc.Mass Spectrom.*,8:265-371.
- CARR W.H., SWEENEY J.M. and J.S.SWINGLE. (1994) The Oceanic Institute's specific pathogen free (SPF) shrimp breeding program: preparation and infrastructure. MCLLWAIN T. & G.PRUDER eds., *U.S.Shrimp Farming Program 0th Anniversary Review. Gulf Coast Research Laboratory Special Publication*, (1):47-54.
- CARR W.H., SWEENEY J.N., NUMAN L., LIGHTNER D.V., HIRSCH H.H. and J.J.REDDINGTON (1996) The use of infectious hypodermal and hematopoietic necrosis virus gene serodiagnostic field kit for the screening of candidate specific pathogen-free *Penaeus vannamei* broodstock. *Aquaculture*, 147(1·2):1-8.
- CARR W.H., FJALESTAD K.T., LOTZ J.M., OYAMA R.N., GODIN M.D., CHANG C.P.L., SEGURA F.J., PODDYS.C. and J.N.SWEENEY (1997) Advances in selective breeding for growth performance and disease resistance in specific pathogen free (SPF) white shrimp, *Penaeus vannamei*. *World aquaculture '97, Book of Abstracts. World Aquaculture Soc.,USA*, p.68.
- CARSON G.I., PRETTO R.M. and D.B.ROUSE (1986) Effects of manures and pelleted feeds on survival, growth, and yield of *Penaeus stylirostris* and *Penaeus vannamei* in Panama. *Aquaculture*, 59(1):45-52.
- CASTILLE F.L. and A.L.LAWRENCE (1989) Relationship between maturation and biochemical composition of the gonads and digestive glands of the shrimps *Penaeus aztecus* IVES and *Penaeus setiferus* (L.). *J.Crust. Biol.*, (9):202-211.
- CATILLE F.L., SAMOCHA T.M., LAWRENCE A.L., HE H., FRELIER P. and F.JAENIKE (1993) Variability, in growth and survival of early postlarval shrimp (*Penaeus vannamei* BOONE 1931). *Aquaculture*, 113(1·2):65-81.
- CASTILLES Jr.F.L. and A.L.LAWRENCE (1981) The effect of salinity on the osmotic, sodium and chloride concentrations in the hemolymph of euryhaline shrimp of the genus *Penaeus*. *Comp. Biochem. Physiol.*, 48A: 75-80.
- CATACUTAN M.R. and M.de la CRUZ (1989) Growth and mid-gut cells profile of *Penaeus monodon* juveniles fed water-soluble-vitamin deficient diets. *Aquaculture*, 81(2):137-144.
- CATACUTAN M.R. (1991) Apparent digestibility diets with various carbohydrate levels and the growth response of *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 95(1·2):89-96.
- CAUBERTE J.L., LAFON R., RENE F. and C. SALES (1976) 養殖くるまえば *Penaeus japonicus* の成熟と産卵, フランス海岸のマグロヌでの再生産コントロールテスト. *FAO 水産増殖国際会議論文集*, (5):173-183.
- CAWTHORNE D.F., BEARD T., DAVENPORT J. and J.F.WICKINS (1983) Responses of juvenile *Penaeus monodon* FABRICIUS to natural and artificial sea waters of low salinity. *Aquaculture*, 32(1·2):165-174.

- CECCALDI H.J. (1970) Proteine de l'hémolymphe de *Penaeus kerathurus*. C.R. Seances Soc.Biol.,Paris,164(11)2319-2323.
- CECCALDI H.J. (1971) Evolution des proteines de l'hémolymphe de *Penaeus kerathurus*. C.R. Seances Soc. Biol., 164(12)2372-2575.
- CECCALDI H.J. (1998) Recent evolution and progress of aquaculture in France. 水産増殖, 46(3):432-445.
- CECILIA M.L., BATICADOS, COLOSO R.M. and R.C.DUREMDEZ (1986) Studies on the chronic soft-shell syndrome in the tiger prawn, *Penaeus monodon* FABRICIUS, from brackishwater ponds. Aquaculture, 56(3·4):271-285.
- CHACE F.A.Jr.(1972) The shrimps of the Smithsonian-Bredin Caribbean Expeditions with a summary of West Indian shallow-water species (Crustacea: Decapoda: Natantia). Smithsonian Cont.Zool., (98):1-179.
- CHAKRABORTI R.K., HALDER D.D., DAS N.K., MANDAL S.K. and M.L.BHOWMIK (1986) Growth of *Penaeus monodon* FABRICIUS under different environmental conditions. Aquaculture, 51(3·4):189-194.
- CHAMANTIER G. and C.SOYEZ (1994) Effect of molt stage and hypoxia on osmoregulatory capacity in the penaeid shrimp *Penaeus vannamei*. J.Exp.Biol.Ecol., 178:233-246.
- CHAMBERLAIN G.W. and A.L.LAWRENCE (1981) Maturation, reproduction, and growth of *Penaeid vannamei* and *P.stylirostris* fed natural diets. Proc.World Maricul.Soc., (12):209-224.
- CHAMBERLAIN G.W., JOHNSON S.K. and D.H.LEWIS (1983) Swelling and meranization of the reproduction system of captive penaeid shrimp. J.World Maricul.Soc., (14):135-136.
- CHAMBERLAIN G.W. (1991) Shrimp farming in Indonesia- I. Growout techniques. World Aquaculture, 22(2):76-89.
- CHAMBERLAIN G.W. (1994) Tauna syndrome and China collapse caused by new shrimp viruses. World Aquacul., 25(3):22-25.
- CHAMPION H.F.B.(1973) New records of penaeid prawn from the east coast of southern Africa with notes on *Penaeus marginatus* RANDALL and species of *Metapeniopsis*. Crustaceans, (25):93-106.
- CHAN P.S., WANG Y.C., LO C.F., KOU G.H. and CHEN S.N. (1992) ウシエビ・バキュロウイルス(MBV)の封入体の精製とその生化学的特徴. 魚病研究, 27(3):127-130.
- CHAN P.S., LO C.F., KOU G.H., LU C.C. and S.N.CHEN (1993) Purification and amplification of DNA from *Penaeus monodon* type baculovirus (MBV). J.Invert.Path, (62):116-120.
- CHANG C.F., LEE F.Y. and T.S.HUANG (1993) Purification and characterization of vitellin from the mature ovaries of prawn, *Penaeus monodon*. Comp.Biochem.Physiol, 105B:409-414.
- CHANG C.F., LEE F.Y., HUANG Y.S. and T.H.HONG (1994) Purification and characterization of the female-specific protein (vitellogenin) in mature female homolymph of the prawn, *Penaeus monodon*. Invert.Rep.Dev., 24:185-192.
- CHANG C.F., WANG Y.C., LO C.F., KOU G.H., LU C.C. and S.N.CHEN (1992) Purification and biochemical of occlusion body of *Penaeus monodon*-type baculovirus(MBV). Fish Pathol., 27(3):127-130.
- CHANG C.F., SU M.S., CHEN H.Y., LO C.F., KOU G.H. and I.C. LIAO (1999) Effect of dietary β -1,3-glucan on resistance to white spot syndrome virus (WSSV) in post larval and juvenile *Penaeus monodon*. Dis.Aquat.Org., 36(3):163-168.
- CHANG C.F., SU M.S. and H.Y.CHEN (1999) A rapid method to quantify total haemocyte count of *Penaeus monodon* using ATP analysis. Fish Pathol., 34(4):211-212.
- CHANG C.F., CHEN H.Y., SU M.S. and I.C.LIAO (2000) Immunomodulation by dietary β -1,3-glucan in the brooders of the grass prawn *Penaeus monodon*. Fish Shell.Immunol., (10):505-514.
- 張瑛秀 (1993) 韓・日水産物貿易の構造変化と輸出関連資本の動向-輸出側である韓国の立場から. 漁業経済研究, 38(1):19-45.
- CHANG P.S., WANG Y.C., LO C.F., KOU G.H. and S.N.CHEN (1992) Purification and biochemical characteristics of occlusion body of *Penaeus monodon*-type baculovirus(MBV). Fish Pathol., 27(3):127-130.
- CHANG P.S., LO C.F., KOU G.H., and S.N.CHEN (1993) Purification and amplification of DNA from *Penaeus monodon*-type baculovirus (MBV). J.Invert. Pathol., (62):116-120.
- CHANG P.S., LO C.F., KOU G.H., LU C.C. and S.N.CHEN (1993) Purification and amplification of DNA from *Penaeus monodon*-type baculovirus (MBV). J.Invertebrate Pathology, (62):116-120.
- CHANG P.S., LO C.F., WANG Y.C. and G.H.KOU (1996) Identification of white spot syndrome associate virus (WSBV) target organs in shrimp, *Penaeus monodon* by in site hybridization. Dis.Aquat.Org., 27(2):131-139.
- CHANG P.S., CHEN L.J. and Y.C.WANG (1997) The effect of ultraviolet irradiation, heat, pH, salinity and chemical disinfectants on the infectivity of white syndrome baculovirus (WSBV). International Symposium on Disease in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.74.
- CHANG P.S., CHEN L.J. and Y.C.WANG (1998) The effect of ultraviolet irradiation, heat, pH, ozone, salinity and chemical disinfectants on the infectivity of white spot syndrome baculovirus (WSBV). Aquaculture, 166 (1·2):1-17.
- CHANG P.S., CHEN H.C. and Y.C.WANG (1998) Detection of white spot syndrome associated baculovirus in experimentally infected wild shrimp, crab and lobster in situ hybridization. Aquaculture, 164(1-4):233-242.

- CHANG P.S., TSAI D.H. and G.H.KOU (1998) Development and evaluation of a dot blot analysis for the detection of white spot syndrome baculovirus (WSBV) in *Penaeus monodon*. Fish Pathol., 33(2):45-52.
- CHANRATCHAKOOL P., PEARSON M., LINSUWAN C. and R.J.ROBERTS (1995) Oxytetracycline sensitivity of *Vibrio* species isolated from diseased black tiger shrimp, *Penaeus monodon* FABRICIUS. J.Fish.Dis, 18(1):79-82.
- CHANRATCHAKOOL P. and C.LIMSUWAN (1998) Application of DNA and formalin treatment to prevent white spot disease in shrimp. FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biotechnology. Bangkok, Thailand, pp.287-289.
- CHANTANACHOOKIN C., BOONYARAPALIN S., KASORNCHANDRA J., DIREKBUSARAKOM U., EKPANITHANPONG U., SUPAMATTAYA K., SRIURAITANA S. and T.W.FLEGEL (1993) Histology and ultrastructure reveal a new granulosis-like virus in *Penaeus monodon* affected by yellow-head disease. Dis.Aquat.Org, 17(2):145-157.
- CHARMANTIER G., SOYEZ C. and AQUACOP (1994) Effects of mouth stage hypoxia on osmoregulatory capacity in the penaeid shrimp *Penaeus vannamei*. J.Exp.Mar.Ecol., (178):233-246.
- CHAUZEZ E.A. (1973) A study on the growth rate of brown shrimp (*Penaeus aztecus*) from the coasts of Variorums and Tampaulipas, Mexico. Gulf Res.Rep., 4(2):278-299.
- CHAVEZ JUSTO C. (1990) 南北アメリカにおけるエビ養殖のための新しい種類と技術の可能性: *Penaeus orientalis*. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.353-364.
- CHEN C.C. (1973) An economic analysis of tiger prawn aquaculture in Taiwan. Taiwan Land Credit Quarterly Journal, 17 (4):43-59.
- CHEN C.C. (1994) An economic analysis of major species in brackishwater aquaculture. SHANG Y.C., LEUNG P.S., SU M.S. & I.C.LIAO eds., Socioeconomic of Aquaculture. TML Conference Proceeding, (4):173-191.
- CHEN D. (1992) An overview of the disease situation, diagnostic techniques, treatments and preventives used on shrimp farms in China. FULKS W. & K.I.MAIN eds., Diseases of Cultured Penaeid Shrimp in Asia and the United States. Honolulu, pp.47-55.
- CHEN D. and P.T.HANNA (1994) Immunodetection of specific *Vibrio* bacteria attaching to tissues of the giant tiger prawn *Penaeus monodon*. Dis.Aquat.Org., 20(3):159-162
- CHEN H.Y., WU F.C. and S.Y.TANG (1991) Thiamin requirement of juvenile shrimp (*Penaeus monodon*). J.Nutr., 12(12):1984-1989.
- CHEN H.Y. (1993) Requirements of marine shrimp, *Penaeus monodon*, juveniles for phosphatidylcholine and cholesterol. Aquaculture, 109(2):165-176.
- CHEN H.Y. (1993) Recent advances in the nutrition of *Penaeus monodon*. J.World Aquacult.Soc., 24(2):231-240.
- CHEN H.Y. and J.S.JENN (1991) Combined effects of dietary phosphatidylcholine and cholesterol on the marine shrimp, *Penaeus penicillatus*. Aquaculture, 96(2):167-178.
- CHEN H.Y., LEU Y.T. and I.ROELANTS (1992) Effective supplementation of arginine in the diets of juvenile marine shrimp, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 108(1-2):87-95.
- CHEN H.Y., WU F.C. and S.Y.TANG (1991) Thiamin requirement of juvenile shrimp (*Penaeus monodon*). J.Nitr., 12 (12):1884-1989.
- CHEN H.Y. (1993) Recent advances in nutrition of *Penaeus monodon*. J.World Aquaculture Soc., 24(2):231-240.
- CHEN J.C., CHIN T.S. and C.K.LEE (1986) Effects of ammonia and nitrite on larval development of the shrimp *Penaeus monodon*. MACREAN J.L., DIZON L.B. & L.V.HOSILLOS eds., The First Asian Fisheries Forum. Asian Fish.Soc., pp.657-662.
- CHEN J.C. and T.S.CHIN (1988) Acute toxicity of nitrite to tiger prawn *Penaeus monodon* larvae. Aquaculture, 69(3-4): 253-262.
- CHEN J.C., LIU P.C. and Y.T. LIN (1989) Culture of *Penaeus monodon* in an intensified system in Taiwan. Aquaculture, 77(4):319-328.
- CHEN J.C., LIU P.C. and S.C.LEI (1990) Toxicities of ammonia and nitrite to *Penaeus monodon* adolescents. Aquaculture, 89(2):127-137.
- CHEN J.C. and Y.Z.KOU (1992) Effects of ammonia on growth and molting of *Penaeus japonicus* juveniles. Aquaculture, 104 (3-4):249-260.
- CHEN J.C. and Y.Z.KOU (1993) Accumulation of ammonia in the haemolymph of *Penaeus monodon* exposed to ambient ammonia. Aquaculture, 109(2):177-185.
- CHEN J.C. and J.L.LIN (1994) Osmolality and chloride concentration in the hemolymph of subadult *Penaeus chinensis* subjected to different salinity levels. Aquaculture, 125(1-2):167-174.
- CHEN J.C. and C.Y.LIN (1995) Responses of oxygen consumption, Artemia-N excretion and Urea-N excretion of *Penaeus chinensis* exposed to ambient ammonia at different salinity and pH levels. Aquaculture, 136(3-4):243-255.

- CHEN J.C., CHEN K.W. and J.M.CHEN (1996) Effects of saponin on survival, growth, molting and feeding of *Penaeus japonicus* juveniles. *Aquaculture*, 144(1-3):165-175.
- CHEN J.C. and K.W.CHEN (1997) Oxygen uptake and ammonia-N excretion of juvenile *Penaeus japonicus* during depuration following one-day exposure to different concentrations of saponin at different salinity levels. *Aquaculture*, 156 (1-2):77-83.
- CHEN J.C. and J.N.LIN (1998) Osmotic concentration and tissue water of *Penaeus chinensis* juveniles' reared at different salinity and temperature levels. *Aquaculture*, 164(1-4):173-181.
- CHEN J.C. and C.H.LIN (2001) Toxicity of copper sulfate for survival, growth, molting and feeding of juveniles of the tiger shrimp, *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 192(1):55-65.
- CHEN J.H. and I.C. LIAO (1986) The effect of salinity on the osmotic and ionic concentrations in the hemolymph of *Penaeus monodon* and *P. penicillatus*. MACLEAN J.L., DIZON L.B. & L.V. HOSILLOS eds., The First Asian Fisheries Forum. Asian Fish .soc., Philippines, pp.633-636.
- CHEN S.N., CHI S.C., KOU G.H. and I.C.LIAO (1986) Cell culture from tissues of grass prawn, *Penaeus monodon*. *Fish Pathol.*, 21(3):161-166.
- CHEN S.N., CHANG P.S., KOU G.H. and D.V.LIGHTNER (1989) Studies on virogenesis and cytopathology of *Penaeus monodon* baculovirus (MBV) in the giant tiger prawn (*Penaeus monodon*) and red tail prawn (*Penaeus penicillatus*). *Fish Pathol.*, 24(2):89-100.
- CHEN S.N. (1995) Current status of shrimp aquaculture in Taiwan. BROWDY C.L. & J.S.HOPKINS eds., *Swimming Though Troubled water. Proceedings of the Special Session on Shrimp Farming '95*. World Aquaculture Soc., pp.29-34.
- CHEN S.N., CHANG P.S. and G.H.KOU (1989) Observation on pathogenicity and epizootiology of *Penaeus monodon* baculovirus (MAV) in cultured shrimp in Taiwan. *Fish Pathol.*, 24(4):189-195.
- CHIEN C.Y. and C.L.LIM (1985) *Penaeus indicus* 幼生の *Lagenidium* 属真菌症 (英文). 魚病研究, 20(2・3):263-269.
- CHEN S.N., CHANG P.S., KOU G.H. and D.V.LIGHTNER (1989) Studies on the virogenesis and cytopathology of *Penaeus monodon* baculovirus (MBV) in the giant tiger prawn (*Penaeus monodon*) and the red tail prawn (*Penaeus penicillatus*). *Fish Pathol.*, 24(2):89-100.
- CHEN S.N., CHANG P.S. and G.H.KOU (1989) Observation on pathogenicity and epizootiology of *Penaeus monodon* baculovirus (MBV) in cultured shrimp in Taiwan. *Fish Pathol.*, 24(4):189-195.
- CHEN S.N., CHANG P.S. and G.H.KOU (1990) Investigation of viral infection in cultured giant tiger shrimp (*Penaeus monodon*) in Asia. *Proceeding of ROC-Japan symposium on Fish Diseases*. pp.166-171.
- CHEN S.N. and G.H.KOU (1994) Viral infection and mass mortality of cultured shrimps in Thailand. *Asian Fisheries Society eds., International Symposium on Biotechnology Applications in Aquaculture*, p.A2.
- CHEN S.N. (1995) Current status of shrimp aquaculture in Taiwan. BROWDY C.L. & J.S.HOPKINS eds., *Swimming through troubled Water, Proceedings of the Special session on shrimp farming, Aquaculture '95*. World Aquaculture Society, USA, pp.29-34.
- CHEN Y.L.L. and H.Y.CHEN (1992) Juvenile *Penaeus monodon* as effective zooplankton predators. *Aquaculture*, 103(1):35-44.
- CHEN Z., XU Q., ZHAO Z., SONG X., WANG W., YU H., BAO H., LI L. and R.ZHAO (1982) On the rearing of shrimp (*Penaeus* spp.). *Transactions of the Oceanology and Limnology*, (2):55-60.
- CHENG J.H. and I.C.LIAO (1986) the effect of salinity on the osmotic and ionic concentrations in the hemolymph of *Penaeus monodon* and *P. penicillatus*. MACLEAN J.L., DIZON L.B. & L.V.HOSILLOS. eds., The First Asian Fisheries Forum. Asian Fish.Soc., Philippines, pp.633-636.
- CHEUNG C.S. and L.CHEN (1990) Growth characterization and relationships among body length, body weight and tail weight of *Penaeus monodon* from a culture environment in Taiwan. *Aquaculture*, 91(3・4):253-263.
- CHEUNG T.S. (1960) A key to the identification of Hong Kong penaeid prawns with comments on points of systematic interest. *Hong Kong Univ.Fish.Jour.*, (3):61-69.
- CHEUNG T.S. (1963) The natural history of commercial species of Hong Kong Penaeidae (Crustacea, Decapoda). *Ann.Mag. Nat.Hist.*, 13(6):401-433.
- 遅英杰 (1994) 中国における魚介類の増殖放流実験研究の概況. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):294-302.
- 千葉県 (1998) 平成 9 年度資源管理型漁業推進総合対策事業. 広域栽培資源放流管理手法開発調査(マダイ)報告書. 太平洋中区, 千 1-千 45.
- 千葉県羽衣漁業協同組合 (1978) 千葉のクルマエビは僕らがつくる. 養殖, 15(5):24-26.
- 千葉県水産試験場 (1980) 昭和 55 年度太平洋中区栽培漁業推進協議会技術部会資料, 1-4.(プリント).
- 千葉県水産試験場 (1982) 幼稚仔保育場調査説明資料(謄写印刷). 1-14.

- 千葉県水産試験場 (1985) クルマエビ放流効果調査. 昭和 59 年度千葉水試業年報, 18.
- 千葉県水産試験場 (1986) 沿岸漁業実態調査事業. 昭和 59 年度千葉水試業年報, 13-14.
- 千葉県水産試験場 (1986) クルマエビ放流効果調査事業. 昭和 60 年度千葉水試業年報, 17-18.
- 千葉県水産試験場 (1987) クルマエビ放流効果調査事業. 昭和 61 年度千葉水試業年報, 18-19.
- 千葉県水産試験場 (1988) クルマエビ放流効果調査事業. 昭和 62 年度千葉水試業年報, 19-20.
- 千葉県水産試験場 (1989) クルマエビ放流効果調査事業. 昭和 63 年度千葉水試業年報, 19-21.
- 千葉県水産試験場 (1990) 砂浜性甲殻類資源生態研究調査. 平成元年度千葉水試業年報, 20-21.
- 千葉県水産試験場 (1991) 砂浜性甲殻類資源生態研究調査. 平成 2 年度千葉水試業年報, 26-27.
- 千葉県水産試験場 (1995) 重要浅海水産資源生態研究調査. 平成 7 年度千葉水試業年報, 22-25.
- 千葉県水産試験場 (1998) 重要浅海水産資源生態研究調査. 平成 9 年度千葉水試業年報, 24-27.
- 千葉県水産試験場 (1999) 重要浅海水産資源生態研究事業.1.外海砂浜. 平成 10 年度千葉水試業年報, 21-22.
- 千葉県水産試験場 (1999) 養殖生産技術開発試験事業. 3.クルマエビ催熟試験. 平成 10 年度千葉水試業年報, 33.
- 千葉県水産試験場 (2000) 重要浅海水産資源生態研究調査. 平成 11 年度千葉水試業年報, 21-23.
- 千葉県水産試験場 (2000) 養殖生産技術開発試験事業.1.養殖魚の魚病検査と対策. 平成 11 年度千葉水試業年報, 40-41.
- 千葉県水産試験場 (2000) 養殖生産技術開発試験事業. 3.クルマエビ催熟試験. 平成 11 年度千葉水試業年報, 41-42.
- 千葉県水産試験場 (2000) ウイルス性魚病対策事業. 平成 11 年度千葉水試業年報, 45.
- 千葉県水産試験場 (2001) 重要浅海水産資源生態研究事業. 平成 12 年度千葉水試業年報, 17-18.
- 千葉県水産試験場 (2001) 養殖生産技術開発試験事業. 平成 12 年度千葉水試業年報, 32-35.
- 千葉県水産試験場 (2001) ウイルス性魚病対策事業. 平成 12 年度千葉水試業年報, 35.
- CHIEN C.Y. and C.L.LIN (1985) A fungus disease of larval red shrimp caused by *Lagenidium*. Fish Pathol., 20(2・3):263-266.
- CHIEN Y.H. (1992) Water quality requirements and Management for marine shrimp culture. Proc. Of the special session on shrimp farming, World Aquacult.Soc., pp.144-152.
- CHIEN Y.H. and S.C.JENG (1992) Pigmentation of kuruma prawn, *Penaeus japonicus* BATE, by various pigment sources and levels and feeding regimes. Aquaculture, 102(4):333-346.
- 筑紫康博 (1997) PCR 検査法における PAV 病原ウイルス PRDV の DNA 増幅条件. 福岡水技研報, (7):35-36.
- 筑紫康博・岩淵光伸・白石日出人 (1999) 蛍光プローブ PCR 法(TagMau システム法)による PRDV の検出. 福岡水技研報, (9):39-42.
- 筑紫康博・行武敦・福澄賢二・渡辺健二 (1999) クルマエビ防疫対策調査指導事業. 平成 9 年度福岡水技事報, 151-153.
- 筑紫康博・岩淵光伸・行武敦 (2000) 親クルマエビの効率的な PRDV 検査部位. 福岡水技研報, (10):41-43.
- 筑紫康博・行武敦・福澄賢二・渡辺健二 (2000) 防疫対策調査指導事業-クルマエビ. 平成 10 年度福岡水技事報, 46-47.
- 筑紫康博・柴田利治・行武敦・渡辺健二・福澄賢二 (2001) 放流種苗防疫対策事業. 平成 11 年度福岡水技事報, 59-65.
- 筑紫康博 (2001) PRDV(Penaeid rod-shaped DNA virus)の PCR 検査における DNA 抽出法の改良. 福岡水技研報, (11):39-44.
- CHIN T.S. and J.C.CHEN (1987) Acute toxicity of ammonia to larvae of the tiger prawn, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 66(3・4):247-253.
- CHIU Y.N., SANTOS L.M. and R.O.JULIANO (1988) Technical considerations for management and operation of intensive prawn farms. Univ.of Philip.Aquacult.Soc., 172 pp.
- CHONG V.C. and A.SASEKUMAR (1982) On the identification of three morphospecies of prawns, *Penaeus merguensis* De MAN, *Penaeus indicus* H.MILNE EDWARDS and *Penaeus penicillatus* ALCOCK (Decapoda, Penaeidea). Crustaceana, (42):127-141.
- CHOO P.S. and K.TANAKA (2000) Nutrient levels in ponds during the grow-out and harvest phase of *Penaeus monodon* under semi-intensive culture. JIRCAS J., (8):13-20.
- 張暎秀 (1995) アジア諸国の水産業の動向.韓国.今村奈良臣編, アジアの漁業野発展と日本. 農山漁村文化協会, pp. 150-161.
- CHOU H.Y., HUANG C.Y., WANG C.H., CHIANG H.C. and C.F.LO (1995) Pathology of a baculovirus infection causing white spot syndrome in cultured penaeid shrimp in Taiwan. Dis.Aquat.Org., 23(3):165-173.

- CHOU H.Y., HUANG C.Y., WANG C.H., CHIANG H.C. and C.F.LO (1995) Pathogenicity of a baculovirus infection causing white syndrome in cultured penaeid shrimp. *Dis.Aquat.Org.*, 23(3):165-173.
- CHOU H.Y., HUANG C.Y., LO C.F. and G.H.KOU (1998) Studies on transmission of white spot syndrome associated baculovirus (WSBV) in *Penaeus monodon* and *P.japonicus* via waterborne contact and oral ingestion. *Aquaculture*, 164 (1-4):263-276.
- 張農・山下康充・野崎征宣 (2000) 凍結貯蔵中における魚類筋原繊維の変性および水の状態に及ぼすオキアミ酵素分解物の影響. 平成 12 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.130.
- CHOU H.Y., HUANG C.Y., LO C.F. and G.H.KOU (1998) Studies on transmission of white spot syndrome associated baculovirus (WSBV) in *Penaeus monodon* and *P.japonicus* via waterborne contact and oral ingestion. *Aquaculture*, 164(1-4):263-276.
- CHOW S. and P.A.SANDIFFER (1991) Differences in growth, morphometric traits, and male sexual maturity among Pacific white shrimp, *Penaeus vannamei*, from different commercial hatcheries. *Aquaculture*, 92:165-178.
- CHOY S.C. (1984) Larval development of *Penaeus* (Millicent's) *canaliculatus* (OLIVIER, 1811) reared in the laboratory (Decapoda, Natantia). *Crustaceana*, (46):1-22.
- CHOY S.C. (1987) Growth and reproduction of eyestalk *Penaeus canaliculatus*. *J.Exp.Mar.Biol.Ecol.*, 112(2):93-108.
- 中国新聞社「新せとうち学」取材班 (1998) 海からの伝言. 中国新聞社, 127 pp.
- CIPRIANI G.R., WHEELER R.S. and R.K.SIZEMORE (1980) Characterization of brown spot disease of Gulf Coast shrimp. *Jour. Inverthr.Pathol.*, (36):255-263.
- CIVERA R. and J.GUILLAUME (1989) Effect of sodium phytate on growth and tissue mineralization of *Penaeus japonicus* and *Penaeus vannamei* juveniles. *Aquaculture*, 77(2-3):145-156.
- CLARK C.W. and G.P.KIRKWOOD (1979) Bioeconomic model of the Gulf of Carpentaria prawn fishery. *J.Fish.Res.Board Can.*, (36):1304-1312.
- CLARK D.J., LAWRENCE A.L. and D.H.D.SWAKON (1993) Apparent chitin digestibility in penaeid shrimp. *Aquaculture*, 109 (1):51-57.
- CLARK J.V. (1986) Inhibition of moulting in *Penaeus semisuicatus* (de HAAN) by long-term hypoxia. *Aquaculture*, 52(4):253-254.
- CLARK J.W., GRIFFIN J., CLARK J.V. and J.RICHARDSON (1991) Simulated economic impact of TED regulations on selected vessels in the Texas shrimp fishery. *Mar.Fish.Rev.*, 53:1-8.
- CLARK W.H.Jr. and TALBOT P., NEAL R.A., MOCK C.R. and B.R.SALSER (1973) *In vitro* fertilization with non-motile spermatozoa of the brown shrimp, *Penaeus aztecus*. *Mar. Biol.*, (22):353-354.
- CLARK W.H.Jr. and A.BROWN Jr. (1973) Cellular aspects of reproduction in penaeid shrimp. *Proc.1st Ann.Trop.and Subtrop. Fish.Tech.Conf.*, Texas A & M Sea Grant Publication. (1):40-51.
- CLARK W.H.Jr., PERSYN H. and A.I. YUDIN (1974) A microscopic analysis of the cortical specializations and their activation in the egg of the prawn, *Penaeus* sp. (Abstract). *Am.Zool.*, 14(4):25.
- CLARK W.H., LYNN J.W., YUDIN A.I. and H.O.PERSYN (1980) Morphology of the cortical reaction in the eggs of *Penaeus aztecus*. *Biol.Bull.*, (158):175-186.
- CLARKE A. and J.F. WICKINS (1980) Lipid content and composition of cultured *Penaeus merguensis* fed with animal food. *Aquaculture*, 20(1):17-27.
- CLAUDIO CHAVEZ JUSTO ed. (1990) 世界のエビ類養殖. その基礎と技術. 緑書房, 380 pp.
- CLEM R.J., HARDWICK J.M. and L.K.MILLER (1996) Anti-apoptotic genes of baculovirus. *Cell Death Diff.*, (3):9-16.
- CLIFFOR H.C. (1985) Semi-intensive shrimp farming. CHAMBERLAIN G.W, HADY M.G. & R.L.MIGET eds., *Texas Shrimp Farming Manual*. Texas Agricultural Exp. Service. Corpus Christi., (4):15-42.
- COLVIN P.M. (1976) Nutritional studies on penaeid prawns. Protein requirement in compounded diets for juvenile *Penaeus indicus* (MILNE EDWARDS). *Aquaculture*, 7(4):315-326.
- COLVIN P.M. (1976) The effect of selected seed oils on the fatty acid composition and growth of *Penaeus japonicus*. *Aquaculture*, 8(1):81-89.
- COOK D.W. and S.R.LOFTON (1973) Chitinoclastic bacteria associated with shell disease in penaeid shrimp and the blue crab. *J.of Wildl.Dis.*, (19):154-159.
- COOK H.L. and M.A.MURPHY (1966) Rearing penaeid shrimp from eggs to postlarvae. *Proc.Conf.Southeast Assoc.Came Comm.*, (19):283-288.
- COOK H.L. (1967) A method of rearing penaeid shrimp larvae for experimental studies. *FAO Fish.Rep.*, 57(3):709-715.
- COOK H.L. (1969) A method of rearing penaeid shrimp larvae for experimental studies. *FAO Fish.Rep.*, 57(3):709-715.
- COOK H.L. and M.A.MURPHY (1969) The culture of larval penaeid shrimp. *Transactions of the American Fisheries Society*, (98):751-754.

- COOK H.L. and M.A.MURPHY (1971) Early developmental stages of the brown shrimp, *Penaeus aztecus* IVEN, reared in the laboratory. US Fish and Wildlife Service, Fisheries Bull., (69):223-239.
- COONA P. (1984) Costos de la Produccion de sal en Costa Rica: trabajo realizado por Granados y Cia.S.C.,San Jose, Costa Rica, 54 pp.
- COPELAND B.L. (1965) Fauna of the Aransas Pass Inlet, Texas- I. Emigration as shown by tide Trap collections. Publ.Inst. Mar.Sci,Univ.Tex., (10):9-12.
- COPELAND B.L. and M.V.TRUITT (1966) Fauna of the Aransas Pass Inlet- II. Penaeid shrimp postlarvae. Tex.J.Sci., (18):65-74.
- CORBEL V., ZUPRIZAL, SHI Z., HUANG C., SUMARTONO, ARCIER J.H. and J.R.BONAMI (2001) Experimental crustaceans with white spot syndrome virus(WSSV). J.Fish Dis., 24(7):377-382.
- CORKERN C.C. (1978) A larval Cyclophyllidean(Cestoda) parasite of brown and white shrimp. Texas A & M Univ.Extension Fish Disease Diagnostic Laboratory Publication FDDL-S10.
- CORLISS J., LIGHTNER D.V. and Z.P.ZEIN-ELDIN (1977) Some effects of oral doses of oxytetracycline on growth,survival and disease in *Penaeus aztecus*. Aquaculture, 11(4):355-362.
- CORLISS J.P. (1979) Accumulation and depletion of oxytetracycline in juvenile white shrimp(*Penaeus setiferus*). Aquaculture, 16(1):1-6.
- CRIFE G.M. (1994) Induction of maturation and spawning of pink shrimp, *Penaeus duorarum*, by changing water temperature, survival and growth of young. Aquaculture, 128(3-4):255-260.
- CORRE V.Jr., JANEQ R.J., CAIPANG A.M.A. and A.T.CALPE (2001) Use of probiotics and reservoirs with green water in shrimp farming in the Philippines. Proceed.Jpn.Soc.Promotion Sci.(JSPS)., (30):67-72.
- CORSIN F., TUNBULL J.F., HAO N.V., MOHAN C.V., PHI T.T., PHUOC L.H., TINH T.N. and K.L.MORGAN (2001) Risk factors associated with white spot syndrome virus infection in a Vietnamese rice-shrimp system. Dis.Aquat.Org., 47(1):1-12.
- COSTA R., MERMOUD I., KOBLAVI S., MORLET B., HAFFNER P., BARTHE F., LAGROUMELLE M. and P.GRIMONT (1998) Isolation and characterization of bacteria associated with a *Penaeus stylirostris* disease (Syndrome 93) in New Caledonia. Aquaculture, 164(1-4):297-309.
- COSTA R., MERMOUD I., MARI J., BONAMI J.R., HASSON K. and D.V.LIGHTNER (1998) Investigation of *Penaeus stylirostris* disease (Syndrome 93) in Caledonia, exploring a viral hypothesis. Aquaculture, 164(1-4):311-322.
- COSTELLO T.J. and D.M.ALLEN (1968) Florida Bay ecology project. U.S.Fish Wildl.Serv.,Circ., (246):15-17.
- COSTELLO T.J. and D.M.ALLEN (1968) Mortality rates in populations of pink shrimp,*Penaeus duorarum*,on the Sanibel and Tortugas grounds, Florida. U.S.Fish.Wildl.Serv.,Fish.Bull., 66(3):491-502.
- COSTELLO T.J. and D.M.ALLEN (1970) Synopsis of biological data on the pink shrimp *Penaeus duoraru* BURKENROAD, 1939. FAO Fish.Rept., 57(3):1499-1537.
- COUCH J.A. (1974) Free and occluded virus similar to baculovirus in hepatopancreas of pink shrimp. Nature, 247(5347): 229-231.
- COUCH J.A. (1974) An epizootic nuclear polyhedrosis virus of pink shrimp: Ultrastructure, Prevalence and Enhancement. Jour.Invertebrate Pathology, 24:311-331.
- COUCH J.A. (1978) Diseases,parasites and toxic responses of commercial penaeid shrimps of Gulf of Mexico and South Atlantic coasts of North America. Fish.Bull.U.S., 76(1):1-44.
- COUCH J.A. (1979) Shrimp (Arthropoda: Crustacean: Penaeidae). HART C.W.& S.L.H.FULLER eds. Pollution Ecology of Estuarine Invertebrates. Academic Press.New York, pp.235-258.
- COUCH J.A. (1981) Viral diseases of invertebrates other than insects. DAVIDSON E.W.ed., Pathogenesis of Invertebrate Microbial Diseases. Allanheld, Osmun Publ.,N.J., pp.127-160.
- COUCH J.A. (1983) Diseases caused by Protozoa.PROVENZANO Jr.A.J.ed. The Biology of Crustacea. Vol.6. Pathobiology. Academic Press, N.Y., pp.79-111.
- COUCH J.A. (1989) The membranous labyrinth in baculovirus-infected crustacean cells.possible roles in viral reproduction. Dis. Aquat. Org., 7(1):39-53.
- COUCH J.A. (1991) Baculoviridae.Nuclear polyhedrosis viruses.Part 2 Nuclear polyhedrosis viruses of invertebrates other than insects.ADAMS J.R.& J.R.BONAMI eds. Atlas of invertebrate viruses. CRC Press, Boca Raton,FL, pp.205-226.
- COUSIN M. (1995) Etude de l'utilisation des glucides et du rapport proteines: *Penaeus vannamei* et *Penaeus stylirostris*, Thesis of Institut national agronomique, 210 pp.

- COUSIN M., CUZON G., GUILLAUME J. and AQUACOP (1996) Digestibility of starch in *Penaeus vannamei*: *in vivo* and *in vitro* study on eight samples of various origin. *Aquaculture*, 140(4):361-372.
- COUTTEAU P., CAMARA M.R. and P.SORGELOOS (1996) The effect of different levels and sources of dietary phosphatidyl choline on the growth, survival, stress resistance, and fatty acid composition of postlarval *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 147(3·4):261-273.
- COUTTEAU P., KONTARA E.K.M. and P.SORGELOOS (2000) Comparison of phosphatidylcholine purified from soybean and marine fish roe in the diet of postlarval *Penaeus vannamei* BOONE. *Aquaculture*, 181(3·4):331-345.
- COWLEY J.A., DIMMOCK C.M., WONGTEERASUAYA C., BOONSAENG V., PANYIM S. and P.J.WALKER (1999) Yellow head virus from Thailand and gill-associated virus from Australia are closely related but distinct prawn viruses. *Dis.Aquat.Org.*, 36(2):153-157.
- COWLEY J.A., DIMMOCK C.M., SPANN K.M. and P.J.WALKER (2000) Detection of Australian gill-associated virus (GAV) and lymphoid organ virus (LOV) of *Penaeus monodon* by RT-nested PCR. *Dis.Aquat.Org.*, 39(3):159-167.
- COWLEY J.A., DUMMOCK C.M., SPANN K.M. and P.J.WALKER (2000) Gill-associated virus of *Penaeus monodon* prawns: an invertebrate virus ORF1a and ORF1b genes related to arteri- and coronaviruses. *J.Gen. Virol.*, 81 Pt 6:1473-1484.
- CROCOS P.J. and J.D.KERR (1986) Factors affecting induction of tiger prawn, *Penaeus esculentus* (HASWELL), under laboratory conditions. *Aquaculture*, 58(3·4):203-214.
- CROCOS P.J. and G.J.COMAN (1997) Seasonal and age variability in the reproductive performance of *Penaeus semisulcatus* broodstock: optimising broodstock selection. *Aquaculture*, 155(1-4):55-67.
- CROSNIER A. and J.FOREST (1973) Les crevettes profanes de l'Atlantique orientale tropicale. *Fauna Trop.*, (19):1-409.
- CRUZ L., WONG L.V., JUSTINE. and M.GUPTA (1988) Prostaglandins and related compounds from the polychaete worm *Americanuphis reesi* FAUCHALD (Onuphidae) as possible inducers of gonad maturation in penaeid shrimp. *Rev.Biol. Trap.*, (36):331-332.
- CRUZ-RIQUE E. (1987) Recherches sur la nature et le mode d'action d'un facteur de croissance du calmar dans la nutrition des crevettes ponaïdes. These de Doctorat Univ.Bret.Occidentale, 114 pp.
- CRUZ-RIQUE L.E., GUILLAUME J. and A.von WORMHOUDT (1989) Effect of squid extracts on time course appearance of glucose and free amino acids in haemolymph in *Penaeis japonicus* after feeding, Preliminary results. *Aquaculture*, 76(1·2):57-65.
- CRUZ-SUAREZ L.E., GUILLAUME J. and A.Van WORMHOUDT (1987) クルマエビの成長および体核酸成分に及ぼすイカタンパク質の効果. *日水誌*, 53(11):2083-2088.
- CRUZ-SUAREZ L.E., RICQUE D. and AQUACOP (1992) Effect of squid meal on growth of *Penaeus monodon* juveniles reared in pond pens and tanks. *Aquaculture*, 106(3·4):293-299.
- CRUZ-SUAREZ L.E., RICQUE-MARIE D., MARTINEZ-VEGA J.A. and P.WESCHE-EBELING (1992) Evaluation of two shrimp by-product meals as protein sources in diets for *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 115(1·2):53-62.
- CRUZ-SUAREZ L.E., RICQUE-MARIE D., PINAL-MANSILLA J.D. and P.WESCHE-EBELLING (1994) Effect of different carbohydrate sources on the growth of *Penaeus vannamei*: economical impact. *Aquaculture*, 123(3·4):349-360.
- CUI Y. (1984) Studies on the biology and ecology of the released shrimp *Penaeus orientalis* in Jiaozhou Bay. Institute of Oceanology, Academia Sinica, Qingdao, People's Republic of China, 3 pp.
- CUMMINGS W.C. (1961) Maturation and spawning of the pink shrimp, *Penaeus duoratus* BURKENROAD. *Trans.Amer.Fish. Soc.*, 9(4):462-468.
- CNEXO (1974) Ponte de crevette penaeide en milieu controle. *Bull.inf.CNEXO.*, (66):3.
- CUSON G., MICHEL A., GRIESSINGER J.M., MARTIN J.L., CALVAS J. and J.F. LE BITOUX (1976) くるまえび(*Penaeus japonicus*)に関する実験結果, 蛋白質欠乏の特殊性, 脂肪酸の重要性. *FAO 水産増殖国際会議論文集*, (5):134-139.
- CUZON G., HEW M., COGNIE D. and P.SOLETCNIK (1982) Time lag effect of feeding on growth of juvenile shrimp, *Penaeus japonicus* BATE. *Aquaculture*, 29(1·2):33-44.

- DALLA VIA G.J. (1986) Salinity responses of the juvenile penaeid shrimp, *Penaeus japonicus*- I . Oxygen consumption of estimations of productivity. *Aquaculture*, 55(4):297-306.
- DALLA VIA G.J. (1986) Salinity responses of the juvenile penaeid shrimp, *Penaeus japonicus*- II . Free amino acid. *Aquaculture*, 55(4):307-316.
- DAINVECH T.Dr. (1991) 海の向こうの養殖から③. 養殖, 28(3):136-137.
- DAINVECH T.Dr. (1992) 海の向こうの養殖から⑫. 養殖, 29(8):132-134.
- DALL W. (1957) A revision of the Australian species of Penaeinae (Crustacea: Decapoda: Penaeidae). *Aust.J.Mar. Freshwat. Res.*, 8(2):136-231.
- DALL W. (1968) Food and feeding of some Australian penaeid shrimps. *FAO Fish.Rept.*, (2):251-258.
- DALL W. (1986) Estimation of routine metabolic rate in a penaeid prawn, *Penaeus esculentus* HASWELL. *J.Exp. Mar.Biol.Ecol.*, 96(1):57-74.
- DALL W. and D.M.SMITH (1986) Oxygen consumption and ammonia-N excretion tiger prawn, *Penaeus esculentus* HASWELL. *Aquaculture*, 55(1):23-33.
- DALL W. and M.SMITH (1987) Changes in protein-bound and free amino acids in the muscle of the tiger prawn *Penaeus esculentus* during starvation. *Marine Biol.*, 95(4):509-520.
- DALL W., HILL B.J., ROTH LISBERG P.C. and D.J.SHARPLES (1990) Morphology. BLAXTER J.H.S.& A.L.SOUTHWAR eds. *Advances in Marine Biology. The biology of the Penaeidae.* Academic Press, (27):7-51.
- DALL W., SMITH D.M. and MOORE (1991) Biochemical composition of some prey species of *Penaeus esculentus* HASWELL (Penaeidae: Decapoda). *Aquaculture*, 96(2):151-166.
- DALLA VIA G.J. (1986) Salinity responses of the juvenile penaeid shrimp *Penaeus japonicus*- II . Free amino acids. *Aquaculture*, 55(4):307-316.
- DAKIN W.J. (1938) The habits and life history of a penaeid prawn (*Penaeus plebejus* HESS). *Proc.Zool.Soc.Lond., Ser.A.*, (108):163-183.
- DANA D. and Y.WARDIATNO (1997) Parasitic diseases of cultured marine fish in Indonesia its vicinity. *International Symposium on Marine Aquaculture, JSEP-Hiroshima*, p.43.
- DANAKUSUMA E.・平田八郎 (1989) クルマエビ養殖の生物過程- I .後期幼生飼育における実験例(要旨). *水産増殖*, 37(4):319.
- DANAKUSUMA E.・平田八郎 (1991) アオサノリの混養によるクルマエビの生態系飼育. *水産増殖*, 39(2):195-200.
- DANAKUSUMAH E.・門脇秀策・平田八郎 (1991) クルマエビ飼育におけるアナアオサの共存効果(英文・短報). *日水誌*, 57(8):1597.
- DANAKUSUMA E.・平田八郎 (1991) エゴ養殖からエコ養殖への模索- II .クルマエビの生態系飼育システム (英文・要旨). *水産増殖*, 39(4):463.
- DANALD D.A., URE J. and D.V.LIGHTNER (1979) Preliminary results of ozone disinfection of sea-water containing the potential shrimp pathogens *Vibrio* sp. and *Fusarium solani*. *Ozone: Science and Engineering. Vol.1.Pergamon Press*, pp.329-334.
- DARACHAI J., PIYATIRATITIVORAKUL S., KITTAKOOP P., NITITHAMYONG C. and P.MENASVETA (1998) Effects of astaxanthin on larval growth and survival of the giant tiger shrimp, *Penaeus monodon*. FLEGEL T.W.ed. *Advances in Shrimp Biotechnology. Thailand*, pp.117-121.
- DARNELL R.M. (1958) Food habits of fishes and larger invertebrates of lake Ponchartrain, Louisiana, an estuarine community. *Publ.Inst.Mar.Sci., Univ.Tex.*, (5):353-416.
- DARNELL R.M. (1961) Trophic spectrum of an estuarine community, based on studies Ponchartrain, Louisiana. *Ecol.*, 42:553-568.
- DAUL C.B., SLATTERY M., REESE G. and S.B.LEHRER (1994) Identification of the major brown shrimp (*Penaeus artecus*) allergen as the muscle protein tropomyosin. *Int.Arch.Allergy Immunol.*, (105):49-55.
- DAWSON C.E. (1957) Balanus fouling of shrimp. *Science*, (126):1068.
- DAVIS D.A., LAWRENCE A.L. and D.M.GATLIN (1993) エビ (*Penaeus vannamei*) の飼育中亜鉛要求量の評価と亜鉛およびリンの生体効果に対するフィチン酸の影響 (英文). *J.World Aquat.Soc.*, 24(1):40-47.
- DAVIS D.A. and C.R.ARNOLD (1993) Evaluation of five carbohydrate sources for *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 114 (3・4):285-292.
- DAVIS D.A., LAWRENCE A.L. and D. GATLIN III (1993) Dietary copper requirement of *Penaeus vannamei*. *日水誌*, 59(1):117-122.
- DAVIS D.A. and Estimation of apparent phosphorus availability from inorganic phosphorus sources for *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 127(2・3):245-254.

- DAVIS D.A. (1995) Effects of two extrusion processing conditions on the digestibility of four cereal grains for *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 133(3·4):287-294.
- DAVIS D.A. and C.R.ARNOLD (2000) Replacement of fish meal in practical diets for the Pacific white shrimp, *Litopenaeus vannamei*. *Aquaculture*, 185(3·4):291-298.
- DAVENPORT J., EKARATNE S.U.K., WALGAMA S.A., LEE D. and J.M.HILLS (1999) Successful stock enhancement of a lagoon prawn fishery at Rekawa, Sri Lanka using cultured post-larvae of penaeid shrimp. *Aquaculture*, 180(1·2):65-78.
- DAY S.R. (1982) Operational analysis of the aquaculture grass shrimp of the Pintung prefecture in Taiwan. *Quarterly Journal of Taiwan Bank*, (33):302-345. (in Chinese)
- De BRUIN G.H.P. (1965) Penaeid prawns of Seylon (Crustacea Decapoda Penaeidae). *Zool.Medec.*, (41):74-104.
- De CLERCK R., Van De VELDE J. and W. VYNCKE (1973) On the effects of dumped organic industrial waste deriving from the production of proteolytic enzymes and density, distribution and quality of fish and shrimps. *Aquaculture*, 2:325-335.
- De FREITAS A.J. (1987) The Penaeoidea of southeast Africa-III. The Family Penaeodae (excluding genus *Penaeus*). *Invest.Oceanogr.Res.Inst.*, (58):1-104.
- De La CRUZ M.C., ERAZO G. and M.N.BAUTISTA (1989) Effect of storage temperature on the quality of diets for the prawn, *Penaeus monodon* (FABRICIUS). *Aquaculture*, 80(1·2):87-95.
- de la PENA., LEOBERT D., MOMOYAMA K., NAKAI T. and K.MUROGA (1992) Detection of the causative bacterium of vibriosis in kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Fish Pathol.*, 27(4):223-228.
- de la PENA., LEOBERT D., TAMAKI T., MOMOYAMA K., NAKAI T. and K.MUROGA (1993) Characteristics of the causative bacterium of vibriosis in kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Aquaculture*, 115(1·2):1-12.
- de la PENA・LEOBERT D・桃山和夫・中井敏博・室賀清邦 (1994) クルマエビからのビブリオ病原菌の検出(英文・抄録). 山口内海水試報, (23):155.
- de la PENA・LEOBERT D・中井敏博・室賀清邦 (1995) 経口的に感染されたクルマエビにおける *Vibrio* sp.PJ の動態(英文). 魚病研究, 30(1):39-45.
- De la PENA L.D.・中井敏博・室賀清邦 (1995)クルマエビにおける *Vibrio* sp. PJ の実験的感染方法. 平成6年度魚病学会春季大会講演要旨, p.10.
- de la PENA・LEOBERT D・TAMAKI T・桃山和夫・中井敏博・室賀清邦(1995) Characteristics of the causative bacterium of vibriosis in kuruma prawn, *Penaeus japonicus* (抄録). 山口内海水試報, (24):133.
- de la PENA・LEOBERT D・河辺博・中井敏博・室賀清邦 (1997) 輸送後のクルマエビからの *Vibrio penaeicida* の検出(英文・短報). 魚病研究, 32(4):233-234.
- de la PENA, LEOBERT D., MOMOYAMA K., NAKAI T. and K.MUROGA (1997) Experimental infection of kuruma prawn (*Penaeus japonicus*) with *Vibrio penaeicida*. *Israeli J.Aquaculture*, (50):128-133.
- de la PENA・L.D., LAVILLA-PITOGO C.R. and M.G.PANER (2001) Luminescent vibrios associated with mortality in pond-cultured shrimp *Penaeus monodon* in the Philippines. *Fish Pathol.*, 36(3):133-138.
- De la ROSA-VELEZ J., ESCOBAR-FERNANDEZ R., CORREA F., MAQUEDA-CORNEJO M. and De la TORRE-CUETO J. (2000) Genetic structure of two commercial penaeids (*Penaeus californiensis* and *P.stylirostris*) from the Gulf of California, as revealed by allozyme variation. *Fish.Bull.*, (98):674-683.
- DEERING M.J., FIELDER D.R. and D.R.HEWITT (1997) Growth and fatty acid composition of juvenile leade prawns, *Penaeus monodon*, fed different lipids. *Aquaculture*, 151(1-4):131-141.
- DELVES-BROUGHTON J. and C.W.POUPARD (1976) Disease problems of prawns in recirculation systems in the U.K. *Aquaculture*, 7(3):201-217.
- DELMENDO M.N. and H.R.ROBANA (1956) Cultivation of 'SUGPO'(Jumbo tiger shrimp), *Penaeus monodon* FABRICIUS, in the Philippines. *Proc.IPFC*, 6th(III):424-431.
- De MAN J.G. (1911) Family Penacidae. The Decapoda of the Seylon Expedition. Part1.Siboga Exped.Monogr., 39A:1-131.
- De MAN J.G. (1924) On a collection of macrurous decapoda Crustacea, chiefly Penaeidae and Alpheidae from the Indian Archipelago. *Arch.Naturgesch.*, (90):1-60.
- De SAINT-BRISSON S.C. (1985) The mating behavior of *Penaeus paulensis* PEREZ-FARFANTE, 1967 (Decapoda, Penaeidae). *Crustaceana*, (50):108-110.
- De SILVA S. S. and T.A.ANDERSON (1995) Fish Nutrition in Aquaculture. Chapman & Hall, Aquaculture Series (1), 319 pp.
- 出口修身・中村雅人 (1966) 放流用クルマエビ中間育成事業. 昭和40年度愛媛水試事報, 110-111.
- 鄧景耀・唐啓升 (1979) 渤海秋漁期解禁時期の検討. 海洋水産研究叢刊, (26):18-23.
- DENG J-Y. (1980) Distribution of eggs and larvae of penaeid shrimp, *Penaeus orientalis*, in Po-hai bay and it's relation to natural environment. *Matine Fish.Res.*, (1):17-25.

- DENG J-Y. (1981) Studies on the growth of penaeid shrimp (*Penaeus orientalis* KISHINOUE) in the gulf of Po-Hai. Marine Fish.Res., (2):85-92.
- 鄧景耀・韓光祖・叶昌臣 (1982) 渤海湾コウライエビの脂肪に関する研究. 水産学報, 6(2):119-127.
- 鄧景耀(1983) 放流によるコウライエビ資源の増殖. 海洋科学, (6):55-58.
- DENG J-Y., KANG Y-D., JIANG Y-W., ZHU J-S. and S-S.MA (1983) A summary of surveys of the penaeid shrimp spawning ground in the Bohai Bay. Marine Fish.Res., (5):17-32. (渤海湾コウライエビの産卵場調査総括)
- 鄧景耀・康元徳・朱金声(1983) 渤海, 黄海におけるコウライエビの標識放流試験. 海洋学報, 5(1):107-114.
- 鄧景耀 (1985) 黄海, 渤海コウライエビの生物学及び資源評価. 科学出版社. 甲殻動物学論文集, (1):46-53.
- DENG J.Y. and C.C.TE (1986) The prediction of penaeid shrimp yield in the Bohai sea in autumn. China J.Oceanol.Limnol., 4(4):343-352.
- DENG J-Y., ZHU J-S., CHENG J-S. and D.HUA (1988) Main invertebrates in the Bohai Sea and their fishery biology. Marine Fish.Res., (9):91-120.
- 鄧景耀・叶昌臣・劉永昌編著 (1990) 渤海, 黄海のタイショウエビおよびその資源管理. 海洋出版社, 283 pp.
- 鄧景耀・叶昌臣・劉永昌編著 (鄧景耀・大滝秀夫共訳, 1994) 渤海, 黄海のタイショウエビとその資源管理. 水産研究叢書, (43):1-232.
- DENG Y. (1980) Distribution of eggs and larvae of penaeid shrimp, *Penaeus orientalis*, in Bo-Hai Bay and its relation to natural environment. Marine Fisheries Research, (1):17-25.
- 弟子丸修・茂野邦彦 (1972) Introduction to the artificial diet for prawn, *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 1 (-):115-133.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1974) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-I. 餌料の基本組成. 日水誌, 40(4):413-419.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1974) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-II. コレステロールおよびグルコサミンの好適配合量. 日水誌, 40(4):421-424.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1974) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-III. アミノ酸試験飼料による飼育試験. 日水誌, 40(11):1127-1131.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1975) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-IV. 蛋白質の一部をアミノ酸で代替した飼料による飼育試験. 日水誌, 41(1):101-103.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1975) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-V. カゼイン分解物を窒素源とする飼料による飼育試験. 日水誌, 41(3):301-304.
- 弟子丸修 (1976) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-VI. アミノ酸試験飼料における各アミノ酸の吸収率. 日水誌, 42(3):331-335.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1976) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-VII. アスコロビン酸およびイノシトールの適正添加量. 日水誌, 42(5):571-576.
- 弟子丸修 (1976) クルマエビの配合精製合成餌料に関する研究-VIII. 摂餌に伴う筋肉, 中腸腺および血液の遊離アミノ酸の変動. 日水誌, 42(6):655-660.
- 弟子丸修・米康夫 (1978) クルマエビの摂餌促進物質(英文). 日水誌, 44(8):903-905.
- 弟子丸修・米康夫 (1978) クルマエビ飼料への補強無機質の効果(英文). 日水誌, 44(8):907-910.
- 弟子丸修・酒本秀一・米康夫 (1978) クルマエビによる海水からの ^{45}Ca の取り込み(英文). 日水誌, 44(9):975-977.
- DESHIMARU O. and Y.YONE (1978) Effects of dietary carbohydrate source on the growth and feed efficiency of prawn. 日水誌, 44(10):1161-1164.
- 弟子丸修・米康夫 (1978) クルマエビ飼料の至適蛋白レベル(英文). 日水誌, 44(12):1395-1397.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1979) クルマエビの栄養要求研究. 昭和 53 年度鹿児島水試事報, 27.
- 弟子丸修・岩田治朗 (1979) 魚類へい死唐水産被害調査及び毒性試験. 昭和 53 年度鹿児島水試事報, 30.
- 弟子丸修・黒木克宣 (1979) クルマエビの飼料性チアミン, ビリドキシン及び塩化コリンの要求(英文). 日水誌, 45(3):363-367.
- 弟子丸修・黒木克宣・米康夫 (1979) クルマエビ飼料に好ましい脂質組成とそのレベル. 日水誌, 45(5):591-594.
- 弟子丸修 (1979) クルマエビ飼料の基礎成分-配合飼料における考え方. 養殖, 16(5):41-44.
- 弟子丸修 (1981) クルマエビの栄養と飼料に関する研究. 鹿児島水試紀要, (12):1-118.
- 弟子丸修 (1982) クルマエビ用飼料の添加物. 養殖, 19(11):50-53.
- 弟子丸修・黒木克宣・M.A.モチッド・北村佐三郎 (1984) 数種配合飼料によるウシエビの飼育. 昭和 59 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.81.
- 弟子丸修・黒木克宣・新谷寛治 (1985) ウシエビ飼料としてのアサリの有効成分. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.60.
- 弟子丸修・黒木克宣・M.A.MAZID・北村佐三郎 (1985) 数種配合飼料がウシエビの成長, 飼料効果, 及び生残に及ぼす影響(英文). 日水誌, 51(6):1037-1044.

- 弟子丸修・黒木克宣・角田光晴・堀之内一博・福崎竜生 (1986) ウシエビのステロール要求. 昭和 61 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.42.
- 弟子丸修・黒木克宣・堀之内一博・福崎竜生 (1986) ウシエビ飼料における数種炭水化物の栄養価. 昭和 61 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.43.
- 弟子丸修 (1991) 魚種別, 栄養要求を踏まえた給餌管理の再検討. クルマエビ. 養殖, 28(12):122-127.
- 弟子丸修 (1994) 魚種別, 成長期の最適給餌プラン(下). クルマエビ. 養殖, 31(10):71-73.
- 弟子丸修 (1997) 育成飼料と適正給餌プラン. クルマエビ. 養殖, 34(5):149-153.
- DESTOUMIEUX D., BULET P., LOEW D., DORSSELAER A.V., RODRIGUEZ J. and E. BACHERE (1997) Penaeidins, a new family of antimicrobial peptides isolated from the shrimp *Penaeus vannamei* (Decapod). J.Biol.Chem., (272):28398-28406.
- DESTOUMIEUX D., MUNOZ M., COSSEAU C., RODRIGUEZ J., BULET P., and E. BACHERE. (2000) Penaeidins, antimicrobial peptides with chitin-binding activity, are produced and stored in shrimp granulocytes released after microbial challenge. J.Cell Sci., (113):461-469.
- DESTOUMIEUX D., SAULNIER D., GARNIER J., JOUFFREY C., BULET P. and E. BACHERE (2001) Crustacean immunity: antifungal peptides are generated from C-terminus of shrimp hemocyanin in response to microbial challenge. J.Biol.Chem., (276):47070-47077.
- DEVARAJA T.N., OTTA S.K., SHUBHA G., KARUNASAGAR I., TAURO P. and I.KARUNASAGAR (1998) Immunostimulation of shrimp through administration of *Vibrio* bacterin and yeast glucan. FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biotechnology Proceeding to the Special Session on Shrimp Biotechnology 5th Asian Fisheries Forum. Thailand, pp.167-170.
- DHAR A.K., ROUX M.M. and K.R.KLIMPEL (2001) Detection and quantification of infectious hydrodermal and hematopoietic necrosis virus and white spot virus in shrimp using real-time quantitative PCR and SYBR Green chemistry. J.Clin.Microbiol., (39):2835-2845.
- DIERBERG F.E. and W.KLETTISIMKUL (1996) Issues, impacts and implications shrimp aquaculture in Thailand. Environ. Manage., (20):649-666.
- DIREKBUSARAKOM S., RUANGPAN L., EZURA Y. and M.YOSHIMIZU (1997) Protective efficacy of *Clinacanthus nutans* on yellow head disease in black tiger shrimp (*Penaeus monodon*). International Symposium Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.67.
- DIREKBUSARAKOM S., PECHMANEE T., ASSAVAAREE M. and Y.DANAYADOL (1997) Effect of *Chlorella* on the growth of *Vibrio* isolated from diseased shrimp. FLEGEL T.W. & I.H.MacRAE eds. Diseases in Asian Aquaculture III. Philippines, pp.355-358.
- DIREKBUSARAKOM S., YOSHIMIZU M., EZURA Y. and A.HERUNSALEE (1997) Screening of antibacteria from Thai traditional herbs against fish and shrimp Pathogenic bacteria. International Symposium Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.82.
- DIREKBUSARAKOM S., RUANGPAN L. EZURA Y. and M.YOSHIMIZU (1998) Protective efficacy of *Clinacanthus nutans* on yellow-head disease in black tiger shrimp (*Penaeus monodon*). Fish Pathol., 33(4):401-404.
- DIREKBUSARAKOM S., EZURA Y., YOSHIMIZU M. and A.HERUNSALEE (1998) Efficacy of Thai traditional herb extracts against fish pathogenic bacteria. Fish Pathol., 33(4):437-441.
- DIVAKARAN S. (1994) An evaluation of polyamino acids as an improved amino acid source in marine shrimp (*Penaeus vannamei*) feeds. Aquaculture, 128(3-4):363-366.
- DIWAN S.D .and K.KANDASAMI (1997) Freezing of viable embryos and larvae of marine shrimp, *Penaeus semisulcatus* de HAAN. Aquacul.Res., (28):947-950.
- DOBKIN S. (1961) Early development stages of pink shrimp, *Penaeus duorarum*, from Florida waters. US Fish and Wildlife Service. Fishery Bulletin, 61:321-349.
- 土井長之・金容文・高尾亀次・石岡清英・岡田啓介 (1972) 燧灘底曳漁場におけるクルマエビの資源解析. 東海区水研研報, (69):45-54.
- 土井長之・岡田啓介 (1972) 燧灘底曳漁場におけるクルマエビの資源解析. 昭和 46 年度浅海別枠備後灘研究成果, 148-157.
- 土井長之・岡田啓介・石橋喜久子 (1973) 環境要因の減耗作用評価. 昭和 47 年度浅海別枠備後灘研究成果, (2):85-95.
- 土井長之 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-豊後水道のクルマエビ資源解析-I. モデル設定. 昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):207-117.
- 土井長之・岡田啓介・石橋喜久子 (1973) クルマエビ環境要因の減耗作用の評価-I. 西条干潟における環境指標の選択. 東海区水研研報, (76):37-52.
- 土井長之 (1973) 埋立こそは諸悪の根源-環境アセスメントの勧め. 東海区水研. さかな, (11):81-82.

- 土井長之・石橋喜久子 (1974) 秋穂実証漁場-模型人工干潟における環境指標. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):114-117.
- 土井長之・田染博章・石橋喜久子大岡正人・高橋明世 (1974) 豊後水道クルマエビの資源解析-II. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):170-182.
- 土井長之・田染博章 (1975) 佐伯実証漁場-佐伯湾及び豊後水道のクルマエビ資源. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):232-243.
- 土井長之 (1984) 資源環境解析-生物資源の時空分布とその要因. 海洋科学, 15(5):265-273.
- 土居静雄 (1985) 宇和海の小型底びき網漁業について. 南西外海の資源・海洋研究, (1):73-79.
- DOMING W.C. and H.AKO (1988) The utilization of blood meal as a protein ingredient in the marine shrimp, *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 70(3):289-299.
- DOMINY W.G. and C.LIM (1991) Performance of binders in pelleted shrimp diets. AKIYAMA D.M. & K.N.TAN eds. Proc. Aqua-culture Feed Processing and Nutrition Workshop. American Soybean Association, Singapore, pp.320-326.
- DONG Z. (1990) Overwintering and sexual maturation of *Penaeus penicillatus* ALCOCK in outdoor earth pond. Aquaculture, 86(2・3):327-331.
- DORE I. and C.FRIMODT (1987) An illustrated guide to shrimp of the world. Osprey Books, 229 pp.
- D'SOUZA F.M.L. and G.J.KELLY (2000) Effect of a diet of a nitrogen-limited alga (*Tetraselmis suecica*) on growth, survival and biochemical composition of tiger prawn (*Penaeus semisulcatus*) larvae. Aquaculture, 181(3・4):311-329.
- DURAND S., LIGHTNER D.V., NUNAN L.M., REDMAN R.M., MARI J. and J.R.BONAMI (1996) Application of gene probes as diagnostic tools for white spot baculovirus (WSBV) of penaeid shrimp. Dis. Aquat. Org., 27(1):59-66.
- DURAND S., LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., and J.R.BONAMI (1997) Ultrastructure and morphogenesis of white spot syndrome baculovirus (WSBV). Dis. Aquat. Org., 29(3):205-211.
- DURAND S., LIGHTNER D.V. and J.R.BONAMI (1997) Differentiation of BP-type baculovirus strains using in situ hybridization. Dis. Aquat. Org., 32(3):237-239.
- DURAND S., TANG K.F.J. and D.V.LIGHTNER (2000) Frozen commodity shrimp: potential avenue for introduction of white spot syndrome virus and yellow head virus. J. Aquat. Anim. Health., 12:128-135.

- エーザイ(株)動薬事業部 (1990) 飼料添加物セミナー, 甲殻類(特にクルマエビ)におえる栄養要求の新しい話題. 養殖, 27(4):106-107.
- 江原徹 (1994) クルマエビ-はじめに. 養殖, 31(11):84.
- 江原徹 (1994) クルマエビ-越冬種苗の養成. 養殖, 31(12):84-85.
- 江原徹 (1994) クルマエビ-越冬種苗の養成Ⅱ. 養殖, 31(13):84-85.
- 江原徹 (1994) クルマエビ-越冬種苗の養成Ⅲ. 養殖, 31(14):123-124.
- 江原徹 (1995) クルマエビ-早期種苗の養成Ⅰ. 養殖, 32(1):122-123.
- 江原徹 (1995) クルマエビ-早期種苗の養成Ⅱ. 養殖, 32(3):122-123.
- 江原徹 (1995) クルマエビ-早期種苗の養成Ⅲ. 養殖, 32(4):86-88.
- 江原徹 (1995) クルマエビ-普通種苗の養成Ⅰ. 養殖, 32(5):123-124.
- 江原徹 (1995) クルマエビ-普通種苗の養成Ⅱ. 養殖, 32(6):84-85.
- 海老原天生 (1968) 種苗育成試験. 千葉内湾水試調報, (10):97-112.
- 海老原天生 (1972) 最近の東京内湾の千葉県沿岸部における水質について. 水産海洋研究会報, (20):20-38.
- 海老原天生 (1973) 東京内湾の漁業と環境変化について. 千葉内湾水試調報, (14):40-48.
- 海老原良忠 (1995) 底曳漁具でエビとヒラメ養魚を分離できるか? 水産海洋研究, 59(4):441-444.
- 柄多哲・丹下勝義 (1979) クルマエビ幼生に対するアンモニアの急性的毒作用について. 昭和 52 年度兵庫水試事報, 155-156.
- 柄多哲・丹下勝義・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1983) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 56 年度兵庫水試事報, 206-209.
- 柄多哲・中井昊三・山本強・金尾博和・柴田忠士 (1984) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 284-294.
- 柄多哲・山本強・金尾博和・柴田忠士・中井昊三 (1984) クルマエビ,ガザミ種苗生産餌料(クルレラ, ワムシ)生産について. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 307-313.
- 柄多哲・中村一彦・山本強・金尾博和・柴田忠士 (1985) 中間育成時の底質条件を異にしたクルマエビ種苗の歩脚障害と潜砂粒度について. 兵庫水試研報, (23):49-55.
- 柄多哲・中村一彦・山本強・金尾博和・柴田忠士 (1985) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 58 年度兵庫水試事報, 234-243.
- 柄多哲・中村一彦・山本強・杉野雅彦・柴田忠士 (1986) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 59 年度兵庫水試事報, 330-339.
- 江上栄子 (1991) 魚の料理. 中央公論社. 暮しの設計, 26(4):1-156.
- 江草周三・山本正 (1961) クルマエビの呼吸に関する研究-I. 潜砂習性と水中酸素濃度(英文). 日水誌, 27(1):22-26.
- 江草周三 (1961) クルマエビの呼吸に関する研究-II. 酸素消費に関する予備実験(英文). 日水誌, 27(7):650-659.
- 江草周三・上田忠男 (1972) A *Fusarium* sp. associated with black gill disease of the kuruma prawn, *Penaeus japonicus* BATE. 日水誌, 38(11):1253-1260.
- 江草周三 (1980) 対話, 魚病. 海洋科学, 12(4):241-248.
- 江草周三 (1982) クルマエビの疾病. さいばい, (22):29-31.
- 江草周三・高橋幸則・伊丹利明・桃山和夫 (1988) クルマエビのビブリオ病に対するニフルスチルン酸ナトリウムの薬治効果. 魚病研究, 23(1):59-65.
- 江草周三・高橋幸則・伊丹利明・桃山和夫 (1988) クルマエビのビブリオ病の病理組織学的研究. 魚病研究, 23(1):59-65.
- 江草周三 (1988) クルマエビの疾病. 江草周三編 魚病学(感染症・寄生虫病篇). 恒星社厚生閣, pp.363-389.
- 江草周三・高橋幸則・伊丹利明・桃山和夫 (1990) クルマエビのビブリオ病の病理組織学的研究(抄録). 山口内海水試報, (17):146.
- 江草周三 (1990) 魚病論考. 恒星社厚生閣, 187 pp.
- 江草周三 (1992) 魚病研究余録.5.垂直感染. 水産の研究, 11(5):64-70.
- 愛媛県中予水産試験場 (1995) 平成 6 年度地域特産種量産放流技術開発事業. 魚類・甲殻類グループ総合報告, 愛 1-愛 25.
- 愛媛県栽培漁業センター (1981) 種苗生産計画および生産実績. 昭和 55 年度愛媛栽培セ業報, 3.
- 愛媛県栽培漁業センター (1981) 種苗供給. 昭和 55 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1981) 種苗生産および種苗供給における問題点とその対策. 昭和55年度愛媛栽培セ業報, 5-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1981) 魚種別種苗生産.1.クルマエビ. 昭和 55 年度愛媛栽培セ業報, 6-10.
- 愛媛県栽培漁業センター (1985) 種苗生産計画および生産実績. 昭和 59 年度愛媛栽培セ業報, 3.

- 愛媛県栽培漁業センター (1985) 種苗供給. 昭和 59 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1985) 種苗生産および種苗供給における問題点とその対策. 昭和 59 年度愛媛栽培セ業報, 6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1985) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 昭和 59 年度愛媛栽培セ業報, 11-15.
- 愛媛県栽培漁業センター (1985) 試験開発.クルマエビ種苗生産. 昭和 59 年度愛媛栽培セ業報, 26-28.
- 愛媛県栽培漁業センター (1986) 種苗生産計画および生産実績. 昭和 60 年度愛媛栽培セ業報, 3.
- 愛媛県栽培漁業センター (1986) 種苗供給. 昭和 60 年度愛媛栽培セ業報, 3-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1986) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 昭和 60 年度愛媛栽培セ業報, 11-16.
- 愛媛県栽培漁業センター (1987) 種苗生産計画および生産実績. 昭和 61 年度愛媛栽培セ業報, 3.
- 愛媛県栽培漁業センター (1987) 種苗供給. 昭和 61 年度愛媛栽培セ業報, 3-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1987) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 昭和 61 年度愛媛栽培セ業報, 16-19.
- 愛媛県栽培漁業センター (1988) 種苗生産計画および生産実績. 昭和 62 年度愛媛栽培セ業報, 3.
- 愛媛県栽培漁業センター (1988) 種苗供給. 昭和 62 年度愛媛栽培セ業報, 3-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1988) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 昭和 62 年度愛媛栽培セ業報, 16-18.
- 愛媛県栽培漁業センター (1989) 事業の実績. 昭和 63 年度愛媛栽培セ業報, 3-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1989) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 昭和 63 年度愛媛栽培セ業報, 16-18.
- 愛媛県栽培漁業センター (1990) 事業の実績. 平成元年度愛媛栽培セ業報, 3-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1990) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 平成元年度愛媛栽培セ業報, 19-25.
- 愛媛県栽培漁業センター (1991) 事業の実績. 平成 2 年度愛媛栽培セ業報, 3-6.
- 愛媛県栽培漁業センター (1991) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 平成 2 年度愛媛栽培セ業報, 17-21.
- 愛媛県栽培漁業センター (1992) 事業の実績. 平成 3 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1993) 事業の実績. 平成 4 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1994) 事業の実績. 平成 5 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1995) 事業の実績. 平成 6 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1996) 事業の実績. 平成 7 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1997) 事業の実績. 平成 8 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1998) 事業の実績. 平成 9 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (1999) 事業の実績. 平成 10 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (2000) 事業の実績. 平成 11 年度愛媛栽培セ業報, 3-5.
- 愛媛県栽培漁業センター (2001) 事業の実績. 平成 12 年度愛媛栽培セ業報, 3-4.
- 愛媛県水産試験場 (1961) 底魚資源調査(昭和 34-35 年度, 八幡浜試験地). 昭和 35 年度愛媛水試事報, 85-151.
- 愛媛県水産試験場 (1961) 瀬戸内海資源委託調査. 昭和 35 年度愛媛水試事報, 292-320.
- 愛媛県水産試験場 (1961) 赤潮発生による海況異変について. 昭和 35 年度愛媛水試事報, 328-356.
- 愛媛県水産試験場 (1962) 瀬戸内海資源委託及び漁場依頼調査.漁業概況調査. 昭和 36 年度愛媛水試事報, 277-288.
- 愛媛県水産試験場 (1962) 瀬戸内海資源委託及び漁場依頼調査.陸上調査について. 昭和 36 年度愛媛水試事報, 289-316.
- 愛媛県水産試験場 (1963) 瀬戸内海資源委託調査(小型底曳網漁獲物調査). 昭和 37 年度愛媛水試事報, 242-256.
- 愛媛県水産試験場 (1963) 未利用資源開発調査. 昭和 38 年度愛媛水試事報, 85-97.
- 愛媛県水産試験場 (1964) 瀬戸内海資源委託調査(小型底曳網漁獲物調査). 昭和 38 年度愛媛水試事報, 427-450.
- 愛媛県水産試験場 (1969) 昭和 45 年度クルマエビ種苗放流実践漁場設置調査中間報告書, 1-35.
- 愛媛県水産試験場 (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (15):27-30.
- 愛媛県水産試験場 (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):28-32.
- ELDANI A.and J.H.PRIMAVERA (1981) Effect of different stocking combinations and growth, production and survival of milk-fish (*Chanos chanos* FORSKAL) and prawn (*Penaeus monodon* FABRICIUS) in polyculture in brakishwater ponds. *Aquaculture*, 23(1-4):59-72.
- ELDRED B. (1961) Biological shrimp studies (Penaeidae) conducted by the Florida State Board of conservation Marine Laboratory. Proc.1st Nat.Coast.Shallow Water Res.Conf., pp.411-414.
- ELDRED B., INGLE R.M., WOODBURN K.D., HUTTON R.F. and H.JONES (1961) Biological observation on the commercial shrimp, *Penaeus duorarum* BURKENROAD, in Florida waters. Fla.St.Bd.Conserv, Tech.Ser., (3):1-139.
- ELDRED B., WILLIAMS J., MARTIN G.T. and E.A.JOYCE Jr. (1965) Seasonal distribution of penaeid larvae and postlarvae of the Tampa Bay area, Florida. Fla. St. Bd. Conserv. Prof. Ser., Tech.Ser., (44):1-44.
- ELLIS I.E. (1973) A progress report on the development of a selective shrimp trawl. FAO Fish. Rep., 139:34-49.
- EMMERSON W.D. (1980) Ingestion, growth and development of *Penaeus indicus* larvae as a function of *Thalassiosira weissflogii* cell concentration. *Mar. Biol.*, (58):65-73.

- EMMERSON W.D. and B.ANDREWS (1981) The effect of stocking density on the growth, development and survival of *Penaeus indicus* MILNE EDWARDS larvae. *Aquaculture*, 23(1-4):45-57.
- EMMERSON W.D. (1983) Maturation and growth of ablated and unablated *Penaeus monodon* FABRICIUS. *Aquaculture*, 32 (3-4):235-241.
- EMMERSON W.D. (1984) Predation and energetics of *Penaeus indicus* (Decapoda: Penaeidae) larvae feeding on *Brachionus plicatilis* and *Arterial* nauplii. *Aquaculture*, 38(3):201-209.
- ENOMOTO Y. (1982) Pre-feasibility study on shrimp (*Penaeus monodon*). Hatchery project in Bali Island, Indonesia. *Sys.Sci. Cons.*, 1-67.
- 榎本義正 (1971) ケエト東岸およびその隣接水域の海洋調査ならびにエビの生物学的研究(英文). 東海区水研研報, (66):1-74.
- 榎本義正 (1971) アラビヤ湾での 365 日. 東海区水研.さかな, (7):23-29.
- 榎本義正 (1971) モーリシャス国におけるクルマエビ類の養殖(上). 養殖, 23(6):96-99.
- 榎本義正 (1971) モーリシャス国におけるクルマエビ類の養殖(下). 養殖, 23(7):92-96.
- 榎本義正 (1990) トルコの浅海養殖事情. 養殖, 27(3):100-104.
- 榎本義正 (1990) インドのクルマエビ養殖. 養殖, 27(9):104-108.
- ENRIQUEZ G.L., BATICADOS M.C.L. and R.O.GACUTAN (1980) Microsporidian parasite of the white prawn *Penaeus merguensis* DeMAN: a preliminary report. *Natural and Applied Science Bull.*, (32):319-325.
- EPA (1999) Report on the Shrimp Virus Peer Review and Risk Assessment Workshop. Developing: a Qualitative Ecological Risk Assessment. U.S.E.P.A., Office of Research and Development, Washington DC, USA. EPA/600/R-99/027. 300 pp.
- 江藤拓也・中川浩一・佐藤博之 (1999) 豊前海浅海における覆砂による底質改善効果. 福岡水技研報, (9):61-65.
- 江藤拓也・佐藤博之・中川浩一 (1999) 豊前海沖地区大規模漁場保全事業調査. 平成 9 年度福岡水技事報, 348-354.
- 江藤拓也・中川浩一 (2000) 小型底びき網漁業の操業実態調査. 平成 10 年度福岡水技事報, 288-289.
- EUSEBIO P.S. (1991) Effect of dehulling on the nutritive value of some leguminous seeds as protein sources for tiger prawn, *Penaeus monodon*, juveniles. *Aquaculture*, 99(3-4):297-308.
- EWALD J.J. (1965) The laboratory rearing of pink shrimp, *Penaeus duorarum* BUEKENROAD. *Bull.Mar.Sci.Gulf Caribb.*, (15):436-449.
- 恵崎撰・吉岡直樹・山本千裕 (2001) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 平成 11 年度福岡水技事報, 210-212.
- EZQUERRA J.M., GARCIA-CARRENO F.L., CIVERA R. and N.F.HAARD (1997) pH-stat method to predict protein digestibility in white shrimp (*Penaeus vannamei*). *Aquaculture*, 157(3-4):251-262.
- EZQUERRA J.M., GARCIA-CARRENO F.L. and O.CARRILLO (1998) In vitro digestibility of dietary protein sources for white shrimp (*Penaeus vannamei*). *Aquaculture*, 163(1-2):123-136.

- FAIRS N.J., QUINLAN P.T. and L.J.GOAD (1990) Changes in ovarian unocjugated and conjugated steroid titers during vitellogenesis in *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 89(1):83-99.
- FANG L.S., TANG C.K., LEE D.L. and I.M.CHEN (1992) Free amino acid composition in muscle hemolymph of the prawn *Penaeus monodon* in different salinities. *日水誌*, 58(6):1095-1102.
- FAO (1990) Fishery statistics-Catches and landings. *FAO yearbook*, (66):1-503.
- FARANDA F., SALLEO A., LO PARO G. and A.MANGARANO (1984) Quantitative requirement of *Penaeus kerathurus* for a natural unprocessed diet. *Aquaculture*, 37(2):125-131.
- FARFANTE I.P. and L.ROBERTSON (1992) Hermaphroditism in the penaeid shrimp *Penaeus vannamei* (Crustaceans: Decapoda: Penaeidae). *Aquaculture*, 103(3·4):367-376.
- FARMER A.S.D.(1981) Historical review of the Kuwait shrimp culture project. *Kuwait Bull.Mar.Sci*, (2):3-9.
- FAST A.W. and L.J.LESTER eds. (1992) *Marine shrimp culture: Principles and practices*. Development in Aquaculture and Fisheries Science 23, Elsevier Science Publishers, Amsterdam, xv+862 pp.
- FATIMA R., FAROOQI B. and R.B.QADRI (1981) Inosine monophosphate and hypoxanthine as indices of quality of shrimp (*Penaeus merguensis*). *J.Food Sci.*, (46):1125-1127.
- FEGAN D.F., FLEGEL T.W., SRIURAIRATANA S. and M. WAIKRUTRA (1991) The occurrence, development and histopathology of monodon baculovirus in *Penaeus monodon* in southern Thailand. *Aquaculture*, 96(3·4):205-217.
- FELIX S. and M. DEVARAJ (1996) Epizootic disease outbreak in shrimp rearing ponds and its pathobiology. *Indian Veterinary pathology*, (73):1053-1056.
- FENUCCI J.L. (1976) くるまえば類飼料中の蛋白質源としてのいか外套膜の評価. *FAO 水産増殖国際会議論文集*, (4):282-289.
- FERRARIS R.P., PARADO-ESTEPA F.D., LADJA J.M. and E.D.JUSUS (1986) Effect of salinity on the osmotic, chloride, total protein and calcium concentration in the hemolymph of the prawn *Penaeus monodon* (FABRICIUS). *Comp.Biochem.Physiol.*, 83A:701-708.
- FIELDER D.R., GREENWOOD J.C. and J.C.RYALL (1975) Larval development of the tiger prawn, *Penaeus esculentus* HESWELL, 1879 (Decapoda, Penaeidae), reared in the laboratory. *Aust.J.Mar.Freshwat.Res.*, (26):155-175.
- FINGERMAN M., NAGABHUSYANAM R. and R.SAROJIN I (1993) Vertebrate-type hormones in crustaceans: localization identification and functional significance. *Zool.Sci.*, 10:13-29.
- FISHER L.R., KON S.K. and S.Y.THOMPSON (1952) Vitamin A and carotenoids in certain invertebrates- I. Marine Crustacea. *J.Mar.Biol.Assoc.U.K.*, 31:229-258.
- FLEGEL T.W., FEGAN D.F., VUTHIKORNUDOMKIT S., SRIURAIRATANA S., BOONYARATPALIN S., CHANTANACHOOKHIN C., VICKERS J.E. and O.D.MACDONALD (1992) Occurrence, diagnosis and treatment of shrimp disease in Thailand. FULKS W. & K. L.MAIN eds. *Diseases of Cultured Penaeid Shrimp in Asia and the United States*. Oceanic Institute, Honolulu, pp.57-112.
- FLEGEL T.W., BOONYARATPALIN S., FEGAN D.F., GUERIN M. and S.SRIURAIRATANA (1992) High mortality of black tiger prawns from cotton shrimp disease in Thailand. SHARIFF M., SUBASINGHE R.P. & J.R.ARTHUR eds. *Diseases in Asian Aquaculture I*. Asian Fisheries Society, Philippines, pp.181-197.
- FLEGEL T.W. and Siriporn SRIURAIRATANA (1994) Shrimp health management: an environmental approach. SUBASINGHE R.P. & M.SHARIFF eds. *Diseases in Aquaculture: the Current Issues*. Malaysian Fisheries Society Publication No.8. Univ. Pertanian Malaysia, Kuala Lumpur, pp.1-48.
- FLEGEL T.W., SRIURAIRATANA S., WONGTEERASUPAYA C., BOONSAENG V., PANYIM S. and B. WITHYACHUMNARNKUL (1995) Progress in characterization and control of yellow-head virus of *Penaeus monodon*. BROWDY C. & S.HOPKINS. eds. *Swimming Through Troubled Water; Proceedings of the Special Session on Shrimp Farming, Aquaculture '95*. Baton Rouge, LA., pp.76-83.
- FLEGEL T.W., FEGAN D.F. and S.SRIURAIRATANA (1995) Environmental control of infectious shrimp diseases in Thailand. SHARIFF M., SUBASINGHE R.P. & J.R.ARTHUR eds. *Diseases in Asian Aquaculture II*. Asian Fisheries Soc., pp.65-79.
- FLEGEL T.W., BOONYARATPALIN S. and B.WITHYACHUMNAMKUL (1996) Current status of research on yellow-head virus and white-spot virus in Thailand. *World Aquaculture '96 Book of Abstracts*. World Aquaculture Soc., LA., USA, pp.126-127.
- FLEGEL T.W. (1996) A turning point for sustainable aquaculture: The white spot virus crisis in Asian shrimp culture. *Aquaculture Asia*, (1):29-34.

- FLEGEL T.W. (1997) Special topic review: major viral diseases of the black tiger prawn (*Penaeus monodon*) in Thailand. *World J. Microbiol. Biotechnol.*, (13):433-442.
- FLEGEL T.W. (1997) Major viral diseases of the black tiger prawn (*Penaeus monodon*) in Thailand. INUI Y ed. *New Approaches to the Viral Diseases of Aquatic Animals*. NRA International Workshop, National Res. Inst. Aquaculture, pp.167-189.
- FLEGEL T.W., BOONYARATPALIN S. and B. WITHYACHUMNARNKUL (1997) Current status of research on yellow-head virus and white spot virus in Thailand. FLEGEL T.W. & I. MacRAE. eds., *Diseases in Asian Aquaculture III*. Asian Fisheries Soc., pp.285-296.
- FLEGEL T.W., BOONYARATPALIN S. and B. WITHYACHUMNARNKUL (1997) Progress in research on yellow-head virus and white-spot virus in Thailand. FLEGEL T.W. & I. MacRAE. eds., *Diseases in Asian Aquaculture*. FHS, AFS. Manola, pp.285-296.
- FLEGEL T.W. and T. PASHARAWIPAS (1998) Active viral accommodation: a new concept for crustacean response to viral pathogens. FLEGEL T.W. ed., *Advances in Shrimp Biotechnology*. National Center for Genetic Engineering and Biotechnology, Bangkok, pp.245-250.
- FLEGEL T.W. and V. ALDAY-SANZ (1998) The crisis in Asian shrimp aquaculture: current status and future needs. *J. Appl. Ichthyol.*, (14):269-273.
- FLEGEL T.W., THAMAVIT V., PASSARAWIPAS T. and V. ALDAY-SANZ (1999) Statistical correlation between severity of hepatopancreatic parvovirus (HPV) infection and stunting of farmed black tiger shrimp (*Penaeus monodon*). *Aquaculture*, 174(3-4):197-226.
- FOCKEN U., GROTH A., COLOSO R. M. and K. BECKER (1998) Contribution of natural food and supplemental feed to the gut content of *Penaeus monodon* FABRICIUS in a semi-intensive pond system in the Philippines. *Aquaculture*, 164 (1-4):105-116.
- FONTAINE C.T. and D.V. LIGHTNER (1973) Observations on the process of wound repair in penaeid shrimp. *J. Invert. Pathol.*, 22(1):23-33.
- FONTAINE C.T. and R.C. DYJAK (1973) The development of scar tissue in the brown shrimp, *Penaeus aztecus*, after wounding with a Petersen dish tag. *J. Invert. Pathol.*, 22(3):476-477.
- FORSTER J.R.M. and T.W. BREARD (1974) Experiments to assess the suitability of nine species of prawns for intensive cultivation. *Aquaculture*, 3(4):355-368.
- FOSTER C.A. and H.D. HOWSE (1978) A Morphological study on gills of the brown shrimp, *Penaeus aztecus*. *Tissue & Cell*, 10(1):77-92.
- FONTAINE C.T. (1971) Exoskeletal intrusions: a wound repair process in penaeid shrimp. *J. Invert. Pathol.*, 18(2):301-303.
- FOX C.J. (1993) The effect of dietary chitin on the growth, survival and chitinase levels in the digestive gland of juvenile *Penaeus monodon* (FAB.). *Aquaculture*, 109(1):39-49.
- FOX C.J., BLOW P., BROWN J.H. and I. WATSON (1994) The effect of various processing methods on the physical and bio-chemical properties of shrimp head meals and their utilization by juvenile *Penaeus monodon* FAB. *Aquaculture*, 122(2-3):209-226.
- FOX J.M., LAWRENCE A.L. and E. LI-CHAN (1995) Dietary requirement for lysine by juvenile *Penaeus vannamei* using intact and free amino acid sources. *Aquaculture*, 131(3-4):279-290.
- FOXTON P. (1970) The vertical distribution of pelagic decapods (Crustacea: Natantia) collected on the SOND Cruise 1965. II. The Penaeidea and general discussion. *J. mar. biol. Ass. U.K.*, (50):961-1000.
- 藤紘和 (1986) 博多湾におけるクルマエビ種苗放流効果調査について. *西海区ブロック藻・介類研究会報*, (3):71-83.
- 藤紘和・岸本源治・濱田豊市・恵崎撰 (1987) 福岡湾における種苗放流効果調査. *昭和 61 年度福岡県水試研報*, 福 9-10.
- 藤井久之 (1987) クマエビ・フトミヅエビの種苗生産及び放流. *和歌山水増試報*, (18):93-98.
- 藤井実・片岡一治・坂田修 (1963) エビのチロシナーゼに関する研究-I. 活性測定方法及び二,三の酵素化学的性質,該酵素の体内分布並びにその活性. *水大校研報*, 12(1):1-6.
- 藤井実・斉藤義雄・安田誠一・桑原克彦 (1963) エビのプロテアーゼに関する研究-I. エビ内臓プロテアーゼの分画. *水大校研報*, 12(1):7-11.
- 藤井修生・角田信孝・水津洋志・桑原賢也 (1994) 油谷湾クルマエビ調査. *平成 5 年度山口外海水試事報*, 40.
- 藤井修生・角田信孝・水津洋志・桑原賢也 (1995) 油谷湾クルマエビ資源調査. *平成 6 年度山口外海水試事報*, 38-40.
- 藤井健夫 (1998) 鮮度と微生物. 渡邊悦生編. *魚介類の鮮度と加工・貯蔵-改訂版*. 成山堂書店, pp.28-60.
- 藤井義弘・松村真作・篠原基之 (1997) 片上湾における底生生物の分布とエビ類の生息状況. *岡山水試報*, (12):51-58.

- 藤井義弘・村田守 (2000) 尾肢切除標識したクマエビの尾肢再生状況. 岡山水試報, (15):109-112.
- 藤井義弘・村田守 (2000) クマエビの種苗生産. 岡山水試報, (15):171-174.
- 藤井豊 (1970) 缶詰の品質と原料鮮度. 東海区水研.さかな, (6):31-38.
- 藤石昭生 (1971) エビ漕網の基礎的研究-I.23mm 目合のコッドエンドの網目選択性の調査について. 水大校研報, 19(2・3):65-80.
- 藤原宗弘・吉松宗昭・菊池博史・高砂敬・岡田省治 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査. 平成 9 年度香川水試事報, 141-142.
- 藤原宗弘・吉松宗昭・坂本久・植田豊 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査. 平成 11 年度香川水試事報, 127.
- 藤川裕司・若林英人・田中伸和・由木雄一・村山達朗 (1996) 資源管理型漁業推進総合対策事業(天然資源調査). メイタガレイ. 平成 6 年度島根水試事報, 57-67.
- HUJIMORI Y., TOKAI T., HIYAMA S. and K. MATSUDA (1996) Selectivity and gear efficiency trammelnets for kurumaprawn (*Penaeus japonicus*) Fish.Res., (26):113-124.
- 藤森康澄 (2000) 刺網の漁獲機構に関する研究. 日水誌, 66(4):607-610.
- 藤本岩夫 (1991) えび養殖読本. 水産社, 270 pp.
- 藤本岩夫 (1996) インドのブラックタイガー養殖に何が起きたのか(上). 養殖, 33(14):90-93.
- 藤本岩夫 (1996) インドのブラックタイガー養殖に何が起きたのか(中). 養殖, 34(1):88-96.
- 藤本岩夫 (1997) インドのブラックタイガー養殖に何が起きたのか(下). 養殖, 34(2):94-98.
- 藤本岩夫 (2001) アジアのエビ養殖の現状と将来性. アクアネット, 4(3):70-73.
- 藤本知之・松本紀男 (1971) カスミナック粉剤(農薬)のくるまえびに対する毒性. 昭和 44 年度香川水試事報, 55-56.
- 藤本敏昭 (1987) 大規模砂泥域開発調査事業について. 昭和 60 年度福岡県水試研報, 84-103.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ(種苗生産). 養殖, 13(1):115-116.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (種苗生産). 養殖, 13(2):89-91.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (種苗生産). 養殖, 13(3):116-117.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (種苗生産). 養殖, 13(4):118-119.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (種苗生産例). 養殖, 13(6):112-114.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (養殖事例). 養殖, 13(7):110-111.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (熊本地区の養殖例). 養殖, 13(8):115-116.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (熊本の養殖例). 養殖, 13(9):112.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (高密度養殖). 養殖, 13(10):112-113.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (取あげ,出荷). 養殖, 13(11):108-109.
- 藤永耕一 (1976) クルマエビ (海外での養殖). 養殖, 13(12):109-110.
- 藤永元作 (1934) 車蝦 (*P.japonicus*) の発生.概報. 早稲水産研究所, 20 pp.
- 藤永元作 (1935) 車蝦属 (*Penaeus*) の研究-I.クルマエビ (*Penaeus japonicus*)の発生(1). 早稲水産研究所報告, (1):1-51.
- HUDINAGA M. (1942) Reproduction, development and rearing of *Penaeus japonicus* BATE. Jap.Jour.Zool., 10(2):305-393.
- 藤永元作 (1942) クルマエビの養殖, 海洋の科学, 2(5):360-363.
- 藤永元作 (1972) クルマエビ養殖技術の現状と問題点. 養殖, 9(9):34-37.
- 藤永元作・宮村光武 (1962) クルマエビの養殖. 日本海洋学会創立 20 周年記念論文集(海洋学会誌), pp.694-706.
- 藤永元作・橋高二郎 (1966) クルマエビ幼生の変態と餌料. 日本プランクトン研究連絡報, 13:83-94.
- HUDINAGA M. and J. KITAKA (1967) The large scale production of the young kuruma prawn, *Penaeus japonicus* BATE. Information Bull. on Planktology in Japan Commemoration Number of Dr. Y. MATSUE, (14):35-46.
- FUJINAGA M. (1969) Kuruma shrimp cultivation in Japan. FAO Report, 57(3):811-832.
- 故藤永元作・橋高二郎 (1975) クルマエビ種苗の大量生産方式に及ぼす地域および季節の影響(英文). 日水誌, 41(8):843-854.
- 藤永元作思い出刊行会 (1975) エビに憑かれて四拾年. 緑書房, pp.6-28.
- 藤永元作・倉田博 (1976) クルマエビの生物学的研究. 今井丈夫監修, 浅海完全養殖. 恒星社厚生閣, pp.311-357.
- 藤永哲彦 (1973) クルマエビ-現状と問題点. 養殖, 10(1):99-100.
- 藤永哲彦 (1973) クルマエビ-経営問題. 養殖, 10(2):92-94.
- 藤永哲彦 (1973) クルマエビ-種エビ作り. 養殖, 10(4):82-84.
- 藤永哲彦 (1973) クルマエビ-種エビ作り. 養殖, 10(5):93-94.
- 藤永哲彦 (1978) クルマエビ養殖の動向. 養殖, 15(5):109-110.
- 藤田正夫・藤田征作・高野瀬和治・竹丸巖・松原中・武田健二 (1991) ウシエビ種苗生産(奄美群島水産業振興調査事業).平成元年度鹿児島県水試事報, 83-89.

- 藤田征作・野村俊文・松原中・瀬戸口勇・茂野邦彦 (1975) クルマエビ集約生産試験-V. 鹿児島県垂水増殖センター試研報, (1):60-89.
- 藤田征作・野村俊文・松原中・瀬戸口勇 (1976) クルマエビ集約生産試験-VI. 垂水増殖センター試研報, (2):50-60.
- 藤田征作・野村俊文・松原中・瀬戸口勇 (1977) クルマエビ集約生産試験-VII. 垂水増殖センター試研報, (3):65-85.
- 藤田信一 (1984) クルマエビ 59 年度前期種苗生産結果. 静岡栽セ.なむら, (24):5-6.
- 藤田信一 (1985) 59 年度クルマエビ種苗生産. 静岡栽セ. なむら, (25):2-4.
- 藤田信一・窪田久・佐々木正 (1985) 59 年度クルマエビ種苗生産. 昭和 59 年度静岡栽セ事報, 16-20.
- 藤田信一・窪田久・佐々木正 (1985) クルマエビ種苗生産上に見られる密度効果について. 昭和 59 年度静岡栽セ事報, 20-21.
- 藤田信一・窪田久・野中忠 (1986) クルマエビ種苗生産にみられた密度効果の一例(短報). 静岡水試研報, (21):37-40.
- 藤田信一・武野泰之・荻野昭・野中忠 (1986) クルマエビ種苗生産に使用された親エビについて. 栽培技研, 15(1):19-25.
- 藤田信一・窪田久・佐々木正 (1986) 昭和 60 年度クルマエビ種苗生産. 昭和 60 年度静岡栽セ事報, 16-18.
- 藤田信一・上村信夫・窪田久 (1986) 輸送中におけるクルマエビ輸送水槽内の水質変化. 昭和 60 年度静岡栽セ事報, 19-21.
- 藤田信一 (1986) クルマエビ種苗生産中における密度効果. 静岡栽セ. なむら, (32):3-4.
- 藤田信一 (1987) クルマエビ種苗生産用親エビの問題-2. 静岡栽セ. なむら, (34):1-3.
- 藤田信一・窪田久・三浦宏・佐々木正 (1987) 昭和 61 年度クルマエビ種苗生産. 昭和 61 年度静岡栽セ事報, 12-15.
- 藤田信一 (1991) クルマエビの種苗生産計画. 静岡栽セ. なむら, (53):3.
- 藤田信一 (1991) クルマエビ種苗の生産状況. 静岡栽セ. なむら, (54):3.
- 藤田信一 (1991) 平成 3 年度クルマエビ種苗生産結果. 静岡栽セ. なむら, (57):3-4.
- 藤田轟・北島忠弘・松岡正信 (1988) 調査船の全域調査からみた東シナ海・黄海の冬期の主要底魚類の分布. GSK 西日本 底魚部会報, (16):69-81.
- 藤田轟・北島忠弘・時村宗春 (1988) 日本海南西海域における底魚資源調査. 6.東シナ海・黄海の底魚漁業と資源. 水産海洋研究, 53(3):285-288.
- 藤田義宣・田村瀬 (1980) クマエビ *Penaeus semisulcatus* De HAAN の種苗生産について. 栽培漁業技術開発報, (6):1-10.
- 藤田義宣・田村瀬(1980) クマエビの種苗生産時に出現する傷害エビについて. 栽培漁業技術開発報, (6):11-17.
- 藤田慶之・荒井才智 (1996) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 平成 7 年度愛媛栽セ業報, 12-16.
- 藤田慶之・荒井才智 (1997) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 平成 8 年度愛媛栽セ業報, 12-16.
- 藤谷超・石岡宏子・福原修 (1972) 人工種苗の質的検討. 浅海域における増殖漁場の開発に関する総合研究, (2):11.
- 藤谷超・坂口清次・石岡宏子・福田修 (1973) 人工種苗の生理生態. 浅海域における増殖漁場の開発に関する総合研究, (3):2-8.
- 藤谷超・石岡宏子 (1978) クルマエビの種苗特性の判定. 増殖技術の基礎と理論. 恒星社厚生閣, pp.45-56.
- 藤谷超 (1987) 再び,再びタイ国へ. 東海区水研. さかな, (37):68-69.
- 藤谷超 (1993) 水産研究における国際協力. 多紀保彦編,世界の中の日本漁業. 成山堂書店, pp.97-122.
- 深川敦平・太刀山透・福澄賢二 (1999) 糸島地区におけるクルマエビ漁業の実態. 福岡水技研報, (9):67-71.
- 深川敦平・神蘭真人・太刀山透 (2000) 糸島地区大規模漁場保全事業調査. 平成 10 年度福岡水技事報, 58-64.
- 深川敦平・太刀山透・福澄賢二 (2000) 資源管理型漁業推進総合対策事業.3.クルマエビ. 平成 10 年度福岡水技事報, 109-111.
- 深川敦平・太刀山透・福澄賢二 (2001) 糸島地区におけるクルマエビの放流効果. 福岡水技研報, (11):1-5.
- 深川敦平・太刀山透・福澄賢二 (2001) 複合的資源管理型漁業推進対策事業.3.放流改善及びクルマエビの資源管理(小型底びき網). 平成 11 年度福岡水技事報, 114-117.
- 深谷昭登司・水藤勝喜・鯉江秀亮 (1992) クルマエビ種苗生産. 平成 3 年度愛知栽培業報, 26-28.
- 深谷昭登司・水藤勝喜・鯉江秀亮 (1993) クルマエビ種苗生産. 平成 4 年度愛知栽培業報, 26-29.
- 深谷昭登司・水藤勝喜・鯉江秀亮 (1994) クルマエビ種苗生産. 平成 5 年度愛知栽培業報, 26-28.
- 福家眞也・渡辺勝子 (1990) 過熱に伴うエビ・カニ類の成分および味の変化について. クルマエビの味の変化と成分の関連. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.171.
- 福家眞也・渡辺勝子 (1990) 加熱に伴うエビ・カニ類の成分および味の変化について. クルマエビの味の変化と成分の関連. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.171.
- 福家眞也・秦正弘 (1996) 味と色. 橋高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.251-279.
- 福家眞也 (1999) エキス成分の嗜好性. シンポジウム, 水産物の健康性機能とその利用. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.162.

- 福家洋介 (1992) 南スラウェシ州のエビ養殖とエビ流通.村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.150-175.
- 福田博業・古川一郎 (1972) 漁業者によるクルマエビの種苗生産と漁場管理. 養殖, 9(5):98-100.
- 福田裕 (1994) 食品加工-冷凍.日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):338-342.
- 福田勝 (1982) 香川県漁船漁業の動向と問題点. 香川水試報, (19):1-20.
- 福田勝 (1998) 香川の漁業史. 香川県水産課, 228 pp.
- 福田穎穂・桃山和夫・佐野徳夫 (1988) 日本国内における Monodon Baculovirus. 日水誌, 54(1):45-48.
- 福田穎穂・桃山和夫・佐野徳夫 (1988) 日本国内における Monodon Baculovirus (抄録). 山口内海水試報, 145.
- 福田穎穂 (1996) ウイルス病. 魚類病原ウイルス. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.22-29.
- 福田富男・篠原基之・寺島朴 (1973) 網魚礁の集魚効果およびそれに集まる動物相. 昭和 47 年度岡山水試事報, 83-107.
- 福田富男・篠原基之・安家重材・寺島朴 (1974) 幼稚魚育成場としての網魚礁の効果. 昭和 48 年度岡山水試事報, 81-113.
- 福田富男・安家重材・篠原基之・松村真作・寺島朴 (1975) 保護水面に設置した網魚礁および投石等の効果. 昭和 49 年度岡山水試事報, 116-125.
- 福田富男・松村真作・安家重材・寺島朴 (1976) 保護水面に設置した網魚礁および投石等の効果-II. 昭和 50 年度岡山水試事報, 149-176.
- 福田富男・松村真作・安家重材・篠原基之・寺島朴 (1977) 保護水面に設置した網魚礁および投石等の効果-III (1976). 昭和 51 年度岡山水試事報, 74-88.
- 福田富男・松村真作・安家重材・篠原基之・寺島朴 (1978) 保護水面に設置した網魚礁および投石等の効果-IV (1977). 昭和 52 年度岡山水試事報, 40-61.
- 福田富男・松村真作 (1979) 岡山県下 2 水域における 1978 年度の小型底曳網標本船の漁獲状況. 昭和 53 年度岡山水試事報, 39-53.
- 福田富男・唐川純一・安家重材・寺島朴 (1979) 保護水面に設置した網魚礁および投石等の効果-V(1978). 昭和 53 年度岡山水試事報, 54-96.
- 福田富男 (1979) 牛窓地区における柵網漁獲量の年変動. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (11):31-46.
- 福田富男・唐川純一 (1980) 保護水面に設置した網魚礁および投石等の効果-VI(1979). 昭和 54 年度岡山水試事報, 110-140.
- 福田富男・唐川純一 (1982) 1982 年小型底曳網標本船漁獲状況. 昭和 57 年度岡山水試事報(受託), 141-152.
- 福田富男・唐川純一 (1984) 1983 年小型底曳網標本船漁獲状況. 昭和 58 年度岡山水試事報(受託), 34-46.
- 福田富男・勝谷邦夫 (1985) 児島地先海面における地曳網,潜水観察等について(1984). 昭和 59 年度岡山水試事報, 145-156.
- 福田富男・勝谷邦夫 (1985) 1984 年小型底曳網標本船漁獲状況. 昭和 59 年度岡山水試事報, 173-179.
- 福田富男・勝谷邦夫 (1985) 岡山県東部における小型底曳網標本船の異体類及びエビ類の漁獲物組成. 昭和 59 年度岡山水試事報, 180-190.
- 福田富男・松村真作 (1986) 岡山県東部における小型底曳網標本船のエビ類及びシヤコの漁獲組成,1985. 岡山水試報, (1):33-42.
- 福田富男・佐藤二郎 (1986) 小型底曳網標本船による 1985 年の漁獲状況について. 岡山水試報, (1):43-49.
- 福田富男 (1987) 小型底曳網標本船による 1986 年の漁獲状況. 岡山水試報, (2):152-159.
- 福田富男・草加耕司 (1994) 保護水面内およびその周辺における環境,漁獲量などの変化. 1993 年. 岡山水試報, (9):29-45.
- 福田富男・唐川純一・篠原基之 (1994) 人工生産種苗数種の放流適地分布およびそれらに関する若干の試験. 岡山水試報, (9):139-145.
- 福田富男 (1997) 種苗放流適地分布マップの作成について. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):87-89.
- 福田富男 (1998) 平成 9 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (13):97-99.
- 福田富男 (1999) 平成 10 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (14):159-161.
- 福田富男 (2000) 平成 11 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (15):145-147.
- 福田祐一 (1979) 技術改良試験-小割生簀によるクルマエビ中間育成試験. 昭和 61 年度大分水試事報, 188-194.
- 福田穰 (1997) 魚類防疫対策事業. 平成 8 年度大分海研事報, 123-138.
- 福田穰 (1997) 地域特産養殖種の難病対策に関する研究. 平成 8 年度大分海研事報, 139-141.
- 福田穰 (1999) 地域特産養殖種の難病対策に関する研究. 平成 9 年度大分海研事報, 161-165.
- 福田穰 (1999) クルマエビ養殖池に生息するニホンスナモグリからの PRDV の検出. 平成 11 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.19.
- 福田穰 (2000) 魚類防疫対策事業. 平成 10 年度大分海研事報, 152-164.
- 福田穰 (2001) 魚類防疫対策事業. 平成 11 年度大分海研事報, 135-145.

- 福留己樹夫・外菌博人 (1992) 魚病総合対策事業. 平成 3 年度鹿児島水試事報, 50.
- 福井県 (1983) 県別報告. 昭和 57 年度回遊性魚類共同放流実験調査事業報告書. 日本海中部海域マダイ班, 125-169.
- 福井県小浜市漁業協同組合西津支所 (1988) クルマエビの放流とその効果について. 全漁連, 呉村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 218-219.
- 福井県小浜市漁業協同組合西津支所 (1988) 小浜湾におけるクルマエビ放流事業の変遷. 全漁連, 呉村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 222-223.
- 福井県栽培漁業センター (1982) 昭和 55 年度放流技術開発事業報告書 (日本海クルマエビ班). pp.35-76.
- 福井県栽培漁業センター (1983) 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書 (日本海クルマエビ班). pp.63-102.
- 福井県栽培漁業センター (1984) 昭和 58 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ類. pp.1-26.
- 福井県栽培漁業センター (1984) 昭和 58 年度調査結果の要約. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 57-58.
- 福井県栽培漁業センター (1984) 各県報告. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 福 1-福 26.
- 福井県栽培漁業センター (1985) 昭和 59 年度調査結果の要約. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 51-52.
- 福井県栽培漁業センター (1985) 各県報告. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 福 1-福 26.
- 福井県水産試験場 (1970) 磯根資源調査(クルマエビ)報告書. 昭和 45 年度指定調査研究事業, 1-52.
- 福井県水産試験場 (1982) 昭和 56 年度温排水水産影響調査報告書. 福井水試報告, 昭和 57 年報告(16):1-199.
- 福井県水産試験場 (1986) 組織的調査研究活動推進事業報告書(昭和 59・60 年度総括). 福井水試報告, 昭和 61 年(1):1-60.
- 福井利憲 (1993) 魚病対策試験. 平成 3 年度鳥取水試年報, 152-153.
- 福井利憲 (1995) 魚病対策試験. 平成 6 年度鳥取水試年報, 130-132.
- 福原修・阪口清次・石岡宏子 (1974) 秋穂実証漁場-定着種苗の行動制御. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):10-11.
- 福原修・阪口清次・石岡宏子 (1975) 秋穂実証漁場-定着種苗の行動制御. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):29-31.
- 福本威 (1994) 漁業者からみた海洋汚染と生物相の変化. 水産海洋研究, 58(3):187-192.
- 福本雄二・藤田慶之 (1998) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 平成 9 年度愛媛栽セ業報, 13-16.
- 福永恭平・睦谷一馬 (1993) クルマエビ種苗生産・放流事業. 平成 3 年度大阪栽セ事報, 17-19.
- 福永恭平・睦谷一馬 (1994) クルマエビ種苗生産・放流事業. 平成 4 年度大阪栽セ事報, 11-12.
- 福永恭平・睦谷一馬 (1994) クルマエビ種苗生産・放流事業. 平成 5 年度大阪栽セ事報, 11-12.
- 福永稔・杉本善彦 (1999) 平成 9 年度魚病診断結果. 平成 9 年度徳島水試事報, 44-45.
- 福永稔・島村一郎 (2000) 平成 10 年度魚病診断結果. 平成 10 年度徳島水試事報, 49-50.
- 福永稔 (2000) クルマエビの急性ウイルス血症(PAV)防疫対策について. 平成 10 年度徳島水試事報, 51.
- 福永辰廣 (1982) 百島実験地におけるクルマエビの親養成事例. さいばい, (22):32-38.
- 福岡和光 (1975) 佐伯実証漁場-施肥の方法と効果. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):212-216.
- 福岡和光 (1977) 豊後水道南部海域のクルマエビ・エソ類の漁場と資源量. 南西ブロック外海研究会議事要録, 35-36.
- 福岡和光 (1978) 豊後水道南部海域におけるクルマエビ・エソ類の漁場と資源量. 大分水試調研報, (10):27-42.
- 福岡和光 (1979) 別府湾における小型底びき網の漁獲量と漁場. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (11):19-29.
- 福岡和光・田森裕茂 (1991) 開発漁場保全調査. 平成元年度大分浅海漁試事報, 87-94.
- 福岡県 (1971) 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1-16.
- 福岡県 (1976) 放流および追跡調査. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 8-9.
- 福岡県・佐賀県・熊本県・長崎県 (1995) 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査総括報告書, 有 1-有 42.
- 福岡県・佐賀県・熊本県・長崎県 (1996) 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査総括報告書, 有 1-有 34.
- 福岡県・佐賀県・熊本県・長崎県 (1997) 平成 6~8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査総括報告書, 有 1-有 24.
- 福岡県浜崎今津漁業協同組合 (1976) クルマエビ放流実績. 養殖, 13(6):54-56.
- 福岡県豊前水産試験場 (1965) クルマエビ幼仔の浮網生簀による飼育成績と飼育密度について. 昭和 39 年度指定試験報告, 24-29.
- 福岡県豊前水産試験場 (1967) クルマエビ放流効果に関する研究. 4-42.
- 福岡県豊前水産試験場 (1968) クルマエビ放流事業関係調査概要. 1-15.
- 福岡県豊前水産試験場 (1969) 昭和 45 年度クルマエビ種苗放流実践漁場設置調査中間報告書, 1-47.
- 福岡県豊前水産試験場 (1977) 各県報告.福岡県. 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ総合報告書, 1-8.
- 福岡県浜崎今津漁業協同組合 (1987) クルマエビ放流実績発表. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 196-197.

- 福岡県姫島漁業協同組合 (1987) 釣餌対策試験. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 196-197.
- 福岡県沖端漁業協同組合 (1987) 有明海におけるクルマエビの中間育成について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 200-201.
- 福岡県栽培漁業公社 (1980) 事業の実績. 昭和 54 年度福岡栽漁公社業報, 2-3.
- 福岡県栽培漁業公社 (1980) 事業報告.クルマエビ. 昭和 54 年度福岡栽漁公社業事報, 27-36.
- 福岡県栽培漁業公社 (1982) 事業の実績.種苗の生産及び配布. 昭和 55 年度福岡栽漁公社業事報, 2-3.
- 福岡県栽培漁業公社 (1983) 種苗の生産及び配布. 昭和 56 年度福岡栽漁公社業事報, 2-3.
- 福岡県栽培漁業公社 (1984) 種苗の生産及び配布. 昭和 57 年度福岡栽漁公社業事報, 2-3.
- 福岡県栽培漁業公社 (1985) 種苗の生産及び配布. 昭和 58 年度福岡栽漁公社業事報, 2.
- 福岡県栽培漁業公社 (1986) 種苗生産及び配布に関する事業. 昭和 59 年度福岡栽漁公社業事報, 2-3.
- 福岡県栽培漁業公社 (1987) 昭和 60 年度事業報告. 昭和 60 年度福岡栽漁公社業事報, 2-4.
- 福岡県栽培漁業公社 (1988) 昭和 61 年度事業の実績. 昭和 61 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (1990) 昭和 63 年度事業の実績. 昭和 63 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (1992) 平成 2 年度事業の実績. 平成 2 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (1993) 平成 3 年度事業の実績. 平成 3 年度福岡栽漁公社業事報, 2-6.
- 福岡県栽培漁業公社 (1994) 平成 4 年度事業の実績. 平成 4 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (1995) 平成 5 年度事業の実績. 平成 5 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (1999) 平成 9 年度事業の実績. 平成 9 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (2000) 平成 10 年度事業の実績. 平成 10 年度福岡栽漁公社業事報, 2-5.
- 福岡県栽培漁業公社 (2001) 平成 11 年度事業の実績. 平成 11 年度福岡栽漁公社業事報, 2-4.
- 福岡県水産海洋技術センター有明海研究所・佐賀県有明水産振興センター・長崎県水産試験場・熊本県水産研究センター (1995) 平成 7 年度重要甲殻類栽培漁業資源管理手法開発調査報告書(エビグループ). 有 1-41.
- 福岡市経済農林水産局・福岡県筑前海沿岸漁業振興協会 (1987) 博多湾におけるクルマエビ種苗の放流効果調査報告書, 1-29.
- 福島県岩子漁業協同組合 (1988) クルマエビの養殖について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 112-113.
- 福代康夫 (1974) クルマエビの鰓黒病病原菌 BG-Fusarium に関する研究. 東京大修士論文, 57 pp.
- 福所邦彦 (1994) 日本の水産増養殖の現状と問題点. 海外漁業協力財団.海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):89-95.
- 福所邦彦 (1997) 日本の水産養殖技術開発と研究の現状と今後の方向. 海外漁業協力財団.海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):7-12.
- 福所邦彦 (2000) 日本の栽培漁業技術開発と今後の方向(総論). 海外漁業協力財団.海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (4):3-7.
- 福澄賢二・筑紫康博・深川敦平・太刀山透 (1999) 栽培漁業事業化総合推進事業(クルマエビ, ガザミ). 平成 9 年度福岡水技事報, 115-118.
- 福澄賢二・深川敦平・太刀山透 (2000) 栽培漁業事業化総合推進事業-クルマエビ,ガザミ. 平成 10 年度福岡水技事報, 36-40.
- FLAHAERTY M. and C. KARNJANAKESORN (1995) Marine shrimp aquaculture and national resource degradation in Thailand. Environmental Manegement, 19(1):27-37.
- FRASER C.A. and L.OWENS (1996) Spawner-isolated mortality virus from Australia *Penaeus monodon*. Dis. Aqat. Org., 27(1):1-8.
- FRELIER P. F., JAMES K.L. and B. KRUPPENBACK (1993) Transmission of necrotizing hepatopanacreatitis in *Penaeus vannaneï*. J.Invert. Psthol., (61):44-48.
- FRELIER P.F., LOY J.K., LAWRENCE A.L. BRAY, W.A. and G.W.BRUMBAUGH(1994) U.S.Marine Shrimp Farming Program 10th Anniversary Review. Gulf Coast Research Laboratory Special Publication No.1.Ocean Springs, Mississippi: Gulf Research Reports, No.1, pp.55-58.
- 淵上勉 (1974) 宮崎県延岡地先海域の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬栽協, 68-77.
- HULS W. and K.L.MAIN eds. (1992) Diseases of cultured penaeid shrimp in Asia and the United States. Coean.Inst. Honolulu, USA, 392 pp.
- FULKS W. and K.L. MAIN eds. (1992) Diseases of Cultured Penaeid Shrimp in Asia and the United States. Oceanic Institute, Makapuu Point, HI. USA, 392 pp.
- 踏分隆次 (1988) 外国産車エビの供給状況と今後の見通し. 養殖, 25(9):70-75.
- 船木栄一 (1985) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 58 年度秋田水試事報, 47-48.

- 船木栄一 (1986) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 59 年度秋田水試・栽セ事報, 220-225.
- 船木栄一 (1987) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 60 年度秋田水産振興セ事報, 220-224.
- 船木栄一 (1988) 魚礁効果調査. 昭和 61 年度秋田水産振興セ事報, 217-225.
- 船越茂雄 (1981) 三河湾・環境と漁業.4-1.漁業生物の変遷. 東海区水研.さかな, (26):83-113.
- 船越茂雄 (1985) 渥美外海域の漁業と自然および社会的条件. 水産海洋研究会報, (49):38-42.
- 船越茂雄・朝田英二・石井克也 (1986) 沿岸漁船漁業における経済生産性の解明-伊勢湾の小型底びき網漁業 (まとめ板). 昭和 60 年度愛知水試業報, 96-97.
- 船越茂雄・柳橋茂昭・石川雅章 (1992) シャコ資源管理手法の開発. 平成 3 年度愛知水試業報, 119-120.
- FUNGE-SMITH S.J. and M.R.P.BRIGGS (1998) Nutrient budgets in intensive shrimp ponds: implications for sustainability. *Aquaculture*, 164(1-4):117-133.
- 古林英一 (1988) 漁業協同組合の販売事業政策と仲買業者の競争構造. 漁業経済研究, 32(3):56-83.
- 古川厚 (1976) 日本における水産養殖の現状と将来. FAO 水産増殖国際会議論文集, (1):63-71.
- 古川一郎 (1972) 海洋酵母によるクルマエビ種苗の作り方. 養殖, 9(9):38-42.
- 古川一郎 (1973) 海洋酵母(Marine Yeast)によるクルマエビ幼生の飼育について. 富山哲夫, 日本の水産 車海老. 全水写真資料協会, pp.161-166.
- FURUKAWA I.,HIDAKA K. and K.HIRANO (1973) Production of larvae of *Penaeus japonicus* BATE with marine yeast. *Bull.Fac. Agr. Miyazaki Univ.*, (20):93-110.
- 古川一郎・平野克巳・高松成美 (1979) クルマエビ稚仔の共食い現象について. 宮崎大農学報, (26):103-112.
- 古川教元 (1990) ギョッ魚! とびっくり魚のオモロイ話がいっぱいの本. ナイスデイ・ブックス, 294 pp.
- 古仲博 (1994) クルマエビ種苗生産事業. 平成 4 年度秋田水産振興セ事報, 437-442.
- 古澤徹 (1994) 日本の甲殻類増養殖の現状と問題点. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):136-141.
- 古澤徹 (1994) 種苗の大量生産と事業化. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1): 275-280.
- 古澤徹 (1997) 養殖種苗生産の細菌の技術. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集,(2):89-94.
- 古庄真喜・本田彰・梅崎祐二・石田宏一 (1987) 氷温貯蔵技術開発試験(クルマエビの低温仮死状態の時間延長による出荷技術の開発). 昭和 61 年度熊本水試事報, 114.
- 古庄真喜・梅崎祐二 (1989) オガクズ内におけるクルマエビの生理変化. 養殖, 26(2):64-67.
- 古庄真喜・本田彰・梅崎祐二・石田宏一・川崎信司 (1988) 氷温貯蔵技術開発試験(クルマエビの低温輸送による出荷技術の開発). 昭和 62 年度熊本水試事報, 119-120.
- 古庄真喜・梅崎祐二・石田宏一・本田彰 (1988) おがくず詰め活きクルマエビにおける筋肉中の ATP 関連物質及び乳酸の量的変化. 日水誌, 54(7):1209-1212.
- 伏見浩・渥美喜重次・野中忠 (1978) 漁獲物組成からみた浜名湖の地域的特徴の検討. 昭和 53 年度静岡水試事報, 293.
- 伏見浩・中川征章・上村信夫・町田益己 (1979) クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 53 年度静岡水試事報, 315-316.
- 伏見浩・中川征章・上村信夫・町田益己・内村正一・高塚武治 (1980) クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 54 年度静岡水試事報, 253-255.
- 伏見浩 (1980) 昭和 55 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 静岡水試浜名湖分場通刊, (210):20-46.
- 伏見浩 (1981) 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ). 静岡水試浜名湖分場通刊, (229):1-49.
- 伏見浩・中川征章・内村正一・上村信夫・町田益己 (1982) クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 56 年度静岡水試事報, 279-281.
- 伏見浩・中川征章・上村信夫・町田益己・内村正一 (1982) 保護水面管理事業調査. 昭和 56 年度静岡水試事報, 287-289.
- 伏見浩 (1982) クルマエビ種苗放流を我が手で-1 戸 1 万円負担によるクルマエビ放流事業の概要. さいばい, (22):15-17.
- 伏見浩 (1983) 静岡県浜名湖における種苗放流とその成果の見積り. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.236-253.
- 伏見浩・町田益己・中川征章・上村信夫・内村正一 (1983) 保護水面管理事業調査(浜名湖・藻場). 昭和 57 年度静岡水試事報, 273.
- 伏見浩・中川征章・上村信夫・町田益己・内村正一 (1983) クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 57 年度静岡水試事報, 273-276.
- 伏見浩 (1984) 甲殻類の増殖. 水産土木, 20(2):59-67.
- 伏見浩・平井一行・近藤優・町田益己・内村正一 (1984) 昭和 58 年度クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 58 年度静岡水試事報, 266-268.

- 伏見浩・町田益己・近藤優・平井一行・内村正一（1984）浜名湖地区大規模漁場保全事業調査．昭和 58 年度静岡水試事報, 287-291.
- 伏見浩（1986）クルマエビ栽培漁業の手引き．さいばい叢書, pp.181-213.
- 伏見浩（1986）クルマエビ栽培漁業の手引き．さいばい叢書, pp.214-221.
- FUSHIMI H. (1999) How to detect the effect in releasing operation of hatchery raised Kuruma prawn postlarvae?—case study of the operation in the Hamana Lake. Bull.Tohoku Fish.National Res.Inst., (62):1-12.
- FUSS Jr.C.M. and L.H. OGREN (1966) Factors affecting activity and burrowing habits of the pink shrimp, *Penaeus duorum* BURKENROAD. Biol.Bull.(Woods Hole), (130):170-191.
- 太木光一（1999）話題の食材．事典-世界の食材がよく分かる．旭屋出版, 246 pp.
- 不破茂（1976）志布志湾の小型底びき網漁業について．漁場及び漁獲物．鹿大水産紀要, 25(1):125-135.
- 不破茂・甲斐良周・今井健彦・石崎宗周（1992）エビ・魚/投棄物分離漁獲底びき網の基礎実験．平成 4 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.3.
- 不破茂（1997）沿岸漁業の生産構造-九州沿岸域．月刊海洋, 29(9):546-550.
- 不破茂（1997）沿岸生態系における漁業生産システムの解析-九州沿岸域．日水誌, 63(5):798-799.

- GADIENT M. and E. SCHAI (1994) Leaching of various vitamins from shrimp from shrimp feed. *Aquaculture*, 124 (1-4): 201-205.
- GAIN P. (1996) Bangladesh: attack of the shrimp. *Third World Resurgence*, (59):18-19.
- GALGANI F. and Y. BENGAMIN (1985) Radioimmunoassay of shrimp trypsin: application to the larval development of *Penaeus japonicus* BATE, 1888. *J.Exp.Mar.Biol.Ecol.*, 87(2):145-152.
- GALGANI F. and F. NAGAYAMA (1986) Digestive proteinases in Crustacea. 昭和61年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.146.
- GALGANI F., CECCALDI H.J. and AQUACOP (1988) Effet de l'incorporation de farene de soja et de poisson dans l'alimentation sur la croissance et les enzymes digestives de *Penaeus vannamei*. *Aquat. Living Resources*, (1):181-187.
- GALGANI M.-L. and AQUACOP (1988) Replacement of live unicellular algae by microparticulate diet during larval rearing of zoeal stages of some penaeid prawns. *Aquaculture*, 69(1·2):115-127.
- GALGANI M.-L., AQUACOP., GOGUENHEIN J., GALGANI F. and G. CUZON (1989) Diets in relation to reproduction of *Penaeus vannamei* and *Penaeus stylirostris* in captivity. *Aquaculture*, 80(1·2):97-109.
- GALGANI M.-L., CUZON G., GALGANI F. and J. GAGUENHEIM (1989) Influence of the diet on the reproduction of *Penaeus indicus* in captivity. *Aquaculture*, 81(3·4):337-350.
- GALLARDS P.P., ALFONSO E., GAXIOLA G., SOTO L.A. and C. ROSAS (1995) Feeding schedule for *Penaeus setiferus* larvae based on diatoms (*Chaetoceros ceratosporum*), flagellates (*Tetraselmis chuii*) and *Artemia* naupli. *Aquaculture*, 131 (3·4):239-252.
- GARCIA K.R. and J.A.H. BENGIE (1995) RAPD markers of potential use in penaeid prawn (*Penaeus monodon*) breeding program. *Aquaculture*, 130(2·3):137-144.
- GARRIQUES D. and G. AREVALO (1995) An evaluation of the production and use of live bacterial isolate to manipulate the microbial flora in the commercial production of *Penaeus vannamei* postlarvae in Ecuador. BROWDY C.L. & J.S. HOPKINS eds., *Proceedings of the Special Session on Shrimp Farming*. World Aquaculture Society, U.S.A., pp.53-59.
- GARSON G.I., PRETTO R.M. and D.B. REUSA (1986) Effects of manures and pelleted feeds on survival, growth, and yield of *Penaeus stylirostris* and *Penaeus vannamei* in Panama. *Aquaculture*, 59(1):45-52.
- 耿隆坤 (1997) 汽水域における養殖技術開発と研究の進展. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):100-106.
- GAUDY R. and L. SLOANE (1981) Effect of salinity on oxygen consumption in postlarvae of the penaeid shrimp *Penaeus monodon* and *P. stylirostris* without and with acclimation. *Marine Biol.*, 65(3):297-312.
- GEHRING W.R. (1974) Maturational changes in the ovaration lipid specirum of the pink shrimp, *Penaeus durarum* BURKENROAD. *Comp. Biochem. Physiol.*, 49A:511-524.
- 外間源治 (1985) 瀬戸内海の小型底びき網漁業-経営事例調査-II. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (17): 78-128.
- 外間源治 (1985) 瀬戸内海における漁業の現状と今後の課題. 漁業資源研究会議報, (24):67-98.
- 外間源治 (1986) 瀬戸内海の小型底びき網漁業-経営事例調査-III. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (18): 95-116.
- 外間源治 (1987) 瀬戸内海の小型底びき網漁業-経営事例調査-IV. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (19): 87-105.
- 外間源治 (1989) 瀬戸内海の小型底びき網漁業-経営事例調査(VI). 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (21): 115-134.
- 外間源治 (1990) 沼島の小型底引き網の階層別生産性. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (22):30-61.
- 外間源治 (1991) 沼島における建網漁業経営と依存魚種. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (23):1-20.
- 外間源治 (1991) 瀬戸内海西部における小型機船底びき網漁業の経済的労働生産性. GSK 西日本底魚部会報, (19):61-75.
- 外間源治・石岡清英 (1993) 小型底引き網の漁業経営とその問題点. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (25):57-83.
- 外間源治・小野五典・廣吉勝治 (1994) 庵治地区の小型底びき網とその管理. GSK 西日本底魚部会報, (22):59-86.
- 外間源治 (1996) 瀬戸内海における小型機船底びき網漁業の戦後の経過と今後の動向. GSK 西日本底魚部会報, (23):99-117.
- GENMOTO K., NISHIZAWA T., NAKAI T. and K. MUROGA (1996) 16S rRNA targeted RT-PCR for the detection of *Vibrio penaeicida*, the pathogen of cultured kuruma prawn *Penaeus japonicus*. *Dis. Aquat. Org.*, 24(3):185-189.

- GEORGE M. (1969) On a collection of penaeid prawns from the offshore waters of the south-west coast of India. Proc.Symp.Crustacea, Part I. 337-346.
- GIRI IN.A.・手島新一・越塩俊介・石川学 (1996) クルマエビにおけるピリドキシンの栄養に関する研究(英文). 平成 8 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65
- GIRI IN.A.・金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1996) クルマエビの成長と肝臓チアミンピロリン酸含量に対する飼料性チアミンの影響(英文). 水産増殖, 44(3):325-333.
- GIRI IN.A.・金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1996) クルマエビの成長と肝臓チアミンピロリン酸含量に対する飼料性チアミンおよび炭水化物の相互作用(英文). 水産増殖, 44(3):335-343.
- GIRI IN.A., TESHIMA S., KANAZAWA A. and M.ISHIKAWA (1997) Effects of dietary pyridoxine and protein levels on growth, vitamin B6 content, and free amino acid profile of juvenile *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 157(3・4):263-275.
- GLEASON D.F.,and R.L.ZIMMERMAN (1985) Herbivory potential of postlarval brown shrimp associated with salt Marshes. J.Exp.Mar.Biol.Ecol., 84(3):235-246.
- GLEASON D.F. and G.M.WELLINGTON (1988) Food resources of postlarval brown shrimp(*Penaeus aztecus*) in a Texas salt marsh. Marine Biol., 97(3):329-338.
- GLENCROSS B.D. and D.M.SMITH (1997) Comparison of triacylglycerols,esterified and free fatty acids as neutral lipid sources in the diet of the prawn *Penaeus monodon*. Aquaculture, 159(1・2):67-85.
- 呉金焜・西澤豊彦・室賀清邦・虫明敬一 (2001) クルマエビにおける PRDV に対する免疫様応答の持続期間と特異性. 平成 13 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.30.
- GOARANT C., REGNIER F., BRIZARD R. and A-L.MARTEAU (1998) Acquisition of susceptibility to *Vibrio penaeicida* in *Penaeus stylirostris* postlarvae and juveniles. Aquaculture, 169(3・4):291-296.
- GOARANT C., BRIZARD R. and A.L.MARTEAU (2000) A white spot disease-like syndrome in the Pacific blue shrimp (*Litopenaeus stylirostris*) as a form of bacterial shell disease. Aquaculture, 183(1・2):25-30.
- GODIN D.M., CARR W.H., HAGINO G., SEGURA F., SWEENEY J.N. and L.BLANKENSHIP (1966) Evaluation of a fluorescent elastomer internal tag in juvenile and adult shrimp *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 139(3・4):243-248.
- GOMES L.A.O. and J.HONCULADA-PRIMAVERA (1993) Reproductive quality of male *Penaeus monodon*. Aquaculture, 112 (2・3):157-164.
- GOMEZ-GIL B., TRON-MAYEN L., ROQUE A., TURNBULL J.F., INGLIS V. and A.L.GUERRA-FLORES (1998) Species of *Vibrio* isolated from hepatopancreas,haemolymph and digestive tract a population of healthy juvenile *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 163(1・2):1-9.
- GONG H., LAWRENCE A.L., JIANG D.H., CASTILLE F.L. and D.M.GATLIN III. (2000) Lipid nutrition of juvenile *Litopenaeus vannamei*- I .Dietarycholesterol and de-oiled soy lecthin requirements and their interaction. Aquaculture, 190(3・4):305-324.
- GONG H.,LAWRENCE A.L.,JIANG D.H.andD.M.GATLIN III. (2000) Lipid nutrition of juvenule *Litopenaeus vannamei*- II. Active components of soybean lecithin. Aquaculture, 190(3・4):325-342.
- GONZALEZ-VILA F.J., MANCHA A., ALMENDROS G., MARTIN F. and C.DEL RIO (1996) Changes in the physico-chemical characteristics and lipid composition in sediments from productive aquaculture ponds after a short-term shrimp growth experiment. Aquaculture, 144(1-3):121-131.
- GOODRICK G.B. and B.D. PATERSON (1992) Transportation and storage of live prawns. Report to the Fisheries Research and Development. Project, 89/92, 66 pp.
- GOODRICH G.B.,PATERSON B.D.and S.GRAUF (1993) Air transport of live kuruma prawns (*Penaeus japonicus*) temperature control improve survival. Food Australia, (45):400-403.
- GOPAKUMAR K. and M.R.PASCUAL (1975) Lipid composition of five species of Indian prawns. J.Sci.Food.Agric., 26:319-325.
- GOPALAKRISHNAN K. (1976) Larval rearing of the red shrimp,*Penaeus marginatus*(Crustacea). Aquaculture, 9:145-154.
- GORE R.H. (1985) Abyssobenthic and abyssopelagic penaeoidean shrimp (Families Aristeidae and Penaeidae) from the Venezuela Basin,Caribbean Sea. Crustaceana, 49(2):119-138.
- 五利江重昭・原田和弘・武田雷介・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1991) 平成元年度クルマエビ種苗生産配布事業. 平成元年度兵庫水試事報, 131-141.
- 五利江重昭・永山博敏 (1991) ガザミ・クルマエビ中間育成放流指針の作成. 平成元年度兵庫水試事報, 154.
- 後藤裕康 (1983) 種苗生産近況. クルマエビ. 静岡栽セ. なむら, (19):5-6.
- 後藤裕康 (1983) 種苗生産近況. クルマエビ. 静岡栽セ. なむら, (20):3.
- 後藤裕康・窪田久・大滝高明(1984) クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度静岡栽セ事報, 8-11.
- 後藤裕康 (1984) 種苗生産近況.クルマエビ. 静岡栽セ. なむら, (21):5-6.

- 後藤裕康・平井一行・長谷川仁・高塚武治 (1986) 保護水面管理事業調査 (浜名湖・藻場). 昭和 60 年度静岡栽培セ事業報, 288-289.
- 五島事業場 (1999) 疾病防除技術開発.クルマエビの急性ウイルス血症. 平成 9 年度日裁協事業年報, 259.
- 五島事業場 (2001) 疾病防除技術開発.クルマエビの急性ウイルス血症(PAV). 平成 11 年度日裁協事業年報, 240-242.
- GOROSPE J. N., NAKAMURA K., ABE M. and S.HIGASHI (1996) Potential use of *Pseudomonas* as food for brine shrimp *Artemia*. 水産増殖, 44(3):315-323.
- 合原英男・富場英二 (1990) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 62 年度長崎漁業公社事報, 23-26.
- 合原英男・富場英二 (1990) クマエビ種苗生産事業. 昭和 62 年度長崎漁業公社事報, 31-39.
- 豪州海洋研究所 (1975) エビの町カルンバ. 一攫千金を夢見て賑う. 養殖, 12(12):76-78.
- GOSWAMI U. and S.C.GOSWAMI (1979) Formulation of cheaper artificial feeds for shrimp culture: Preliminary biochemical, physical and biological evaluation. Aquaculture, 16(4):309-317.
- GOSWAMI U., DALAL S.G. and S.C.GOSWAMI (1986) Preliminary studies on prawn, *Penaeus merguensis*, for selection of broodstock in genetic improvement programs. Aquaculture, 53(1):41-48.
- GREEN F.A.Jr., ANDERSON J.W., PETROCELLI S.R., PRESLEY B.J. and R.SINS (1976) Effect of mercury on the survival, respiration, and growth of postlarval white shrimp *Penaeus setiferus*. Marine Biol., (37):75-81.
- GREY D.L., DALL W. and A.BAKER (1983) A guide to the Australian penaeid prawns. Northern Territory Government Printing Office, Darwin, 140 pp.
- GUARY J.-C.B. and A.KANAZAWA (1973) Distribution and fate of exogenous cholesterol during the molting cycle of the prawn, *Penaeus japonicus* B. Comp.Biochem.Physiol., 46A:5-10.
- GUARY J.-C.B., GUARY M. and 鹿山光・村上豊 (1974) クルマエビの脂肪酸代謝に関する研究-I. 脂質組成とアセテートのとり込み. 昭和 49 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.144.
- GUARY J.C., KAYAMA M. and Y.MURAKAMI (1974) Lipid class distribution and fatty acid composition of prawn, *Penaeus japonicus* BATE. 日水誌, 40(10):1027-1032.
- GUARY J.C., KAYAMA M. and Y.MURAKAMI (1975) Variation saisonniere de la composition en acides gras chez *Penaeus japonicus* (Crustacea:Decapoda). Mar.Biol, 29:335-341.
- GUARY J.C., KAYAMA M., MURAKAMI Y. and H.J.CECCALDI (1976) The effects of a fat-free diet and compounded diets supplemented with various oils on moult, growth, and fatty acid composition of prawn, *Penaeus japonicus* BATE. Aquaculture, 7(3):245-254.
- GUARY M., KANAZAWA A., TANAKA N. and H.J.CECCALDI (1976) クルマエビの栄養要求に関する研究-VI. アスコルビン酸の要求(英文). 鹿大水産紀要, 25(1):53-57.
- GULLAND J.A. and B.J.ROTHSCHILD eds. (1984) Penaeid shrimps-Their biology and management. Fishing News Books Ltd, England, 308 pp.
- GUNDERMANN N. and D.POPPER (1975) Experiment in growing *Penaeus merguensis* (de MAN, 1888) in a fish pond in Fiji. Aquaculture, 6(2):197-198.
- GUNDERMANN N. and D.POPPER (1977) A comparative study of three species of penaeid prawns and their suitability for polyculture with fish in the Fiji Islands. Aquaculture, 11(1):63-74.
- GUNTER G. and H.H. HILDERAND (1954) The relation of total rainfall of State and catch of the marine shrimp (*Penaeus setiferus*) in Texas Waters. Bull.Mar. Sci.Gulf Carib., (4):95-103.
- GUNTER G. and V.C. EDWARD (1961) The relation of rainfall and fresh-water drainage to the production of penaeid shrimp (*Penaeus fluviatilis* SAY and *Penaeus aztecus* IVES) in Texas and Louisiana Waters. FAO Rep., 57(3):875-892.
- GUNTER G. (1961) Some relations of estuarine organisms to salinity. Limnology and Oceanography, (6):182-190.
- GUO S-Y. (1986) Determination of oxidation-reduction potential in penaeid prawn growing-up ponds. Marine Fish.Res., (7):89-93.

- 幡手格一 (1963) 臼杵湾におけるクマエビの漁獲高の変動と環境要因並びに二・三の生態について. 大分水試研報, (3):48-60.
- HARDIN M.P., HUTCHINS D.L., CHAMBERLAIN G.W. and D.V.ALDRIKH (1985) Temperature and size effects on the accuracy of estimating postlarval shrimp population. *Aquaculture Engineering*, (4):85-92.
- 萩野静也 (1973) 秋穂実証実験漁場-水深と干出時間. 昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):106-108.
- 萩野静也 (1975) 放流環境の制御, 潮汐特性. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):39-43.
- 萩野卓次 (1985) 小型底曳網・籠漁業の経営内容に関する検討-売上高・漁獲量・単価の漁期変動を中心にして. 昭和 58 年度三重水技セ事報, 314-329.
- 萩原尚弘 (1986) 魚屋さんが書いた魚の本. 三水社, 237 pp.
- 萩原祥信 (1988) 温排水利用養魚技術試験. 昭和 60 年度富山水試年報, 28-29.
- 萩原祥信 (1988) 温排水利用養魚技術試験. 昭和 61 年度富山水試年報, 32-33.
- HAJRA A., GLOSH A. and S.K.MANDAL (1988) Biochemical studies on the determination of optimum dietary protein to energy ratio for tiger prawn, *P.monodon* (FAB.) juveniles. *Aquaculture*, 71(1・2):71-79.
- HALDER D.D. (1978) Induced maturation and breeding of *Penaeus monodon* FABRICIUS under brakishwater pond conditions by eye-stalk ablation. *Aquaculture*, 15(2):171-174.
- HALL D.N.F. (1962) Observations on the taxonomy and biology of Indo-West Pacific Penaeidae (Crustacea, Decapoda). Her Majesty's Stationery Office, London, Fish.Publ., (17): 229 pp.
- HALTHIUS L. (1980) FAO Species Catalogue., Vol.1. Shrimps and prawns of the world. FAO Fish.Syn, 125(1):1-271.
- 濱田英嗣 (1984) 活魚店を中心とした流通・経済分析. 漁業経済研究, 29(3):1-20.
- 濱田英嗣 (1989) 円高と水産物流通変化. 漁業経済研究, 34(1・2):71-92.
- 濱田英嗣 (1994) 中国の水産合弁と各国資本-沿岸北部(大連・煙台)を中心として. 漁業経済研究, 38(4):51-73.
- 濱田弘之・有江康章・徳田眞孝・石田雅俊・林功 (1990) ごち網調査および柵網調査からみた干潟域周辺の生物相について. 福岡豊前水試研報, (3):43-52.
- 濱田弘之・徳田眞孝 (1991) 魚介類の増殖に係わる干潟の働きについて-I. 遊泳生物相について. 福岡豊前水試研報, (4):75-85.
- 濱田弘之・徳田眞孝 (1993) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 標本船調査および生物調査. 平成 4 年度福岡水技事報, 351.
- 濱田弘之 (2001) 複合的資源管理型漁業促進対策事業. 1. 小型底ひき網漁業. 平成 11 年度福岡水技事報, 103-110.
- 浜田尚雄・森脇胖二 (1969) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 43 年度兵庫水試事報, 73-88.
- 浜田尚雄 (1970) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 44 年度兵庫水試事報, 160-177.
- 浜田尚雄・森脇胖二 (1971) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 45 年度兵庫水試事報, 60-76.
- 浜田尚雄・高橋伊勢雄・松井芳房 (1972) クルマエビの成長と移動. 越冬人工種苗の場合. 兵庫水試試報, (12):17-21.
- 浜田尚雄 (1974) 兵庫県瀬戸内海域における事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 11-20.
- 浜田尚雄・松田泰嗣・木場徹 (1977) 標識クルマエビ再捕状況等からみた冷水塊の影響について. 兵庫水試試報, (17):21-31.
- 浜田尚雄・松田泰嗣・豊永禎一郎・安田基・松井芳房・反田實 (1978) 沿岸漁場整備計画育成水面調査. 昭和 50 年度兵庫水試事報, 326-331.
- 浜田尚雄・松田泰嗣・安田基・松井芳房 (1978) 沿岸漁場整備計画育成水面調査. 昭和 49 年度兵庫水試事報, 318.
- 浜田尚雄 (1978) 兵庫県内海における主要水族漁獲量の経年推移. 水産海洋研究会報, (32):67-74.
- 浜田尚雄 (1978) 播磨灘における「その他のカニ類, その他のエビ類」の漁獲量並びにカニ類, エビ類幼生出現量の経年変化. 兵庫水試試報, (18):1-16.
- 浜田尚雄・豊永禎一郎・松田泰嗣・安田基・反田實・松井芳房 (1979) 特定水産動物育成管理事業・育成水面調査(クルマエビ). 昭和 51 年度兵庫水試事報, 121.
- 浜田尚雄・嶋本信夫・三宅和夫 (1983) 兵庫県内海における大量種苗の放流効果(クルマエビ). 兵庫水試試報, (21):1-12.
- 浜田尚雄・吉田司・葉山政治 (1988) 近年の東部瀬戸内海における漁況の趨勢-III. クルマエビの漁獲量について. 水産海洋研究会報, 52(4):363-370.
- 浜田尚雄 (1997) 近年の東部瀬戸内海における漁況の趨勢-IV. 水産海洋研究会報, 61(1):51-60.
- 浜田律子・伊東祐方 (1978) 以西底びき網漁業における漁場利用の経年変化(予報). 昭和 52 年度 GSK 西日本底魚部会報, 49-58.
- 濱田豊市・片山幸恵・筑紫康博 (1998) PAV 診断における PCR 検査の問題点. 福岡水技研報, (8):81-86.
- 濱田豊市 (1998) PRDV 検査による Hot-Start-PCR と Cool-Start-PCR の感度比較(短報). 福岡水技研報, (8):87-89.

- 濱田豊市・片山幸恵 (1998) クルマエビ防疫対策調査指導事業(豊前海区). 平成 9 年度福岡水技事報, 295-297.
- 濱地寿生・堀木信男・中西一 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業推進事業調査事業(クルマエビ). 平成 10 年度和歌山水試事報, 131-139.
- 濱地寿生・堀木信男・中西一 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進事業調査事業(クルマエビ). 平成 11 年度和歌山水試事報, 167-177.
- 濱上欣也・福島広行 (1997) 増養殖指導事業(水産業改良普及活動). 平成 7 年度石川水産総合センター事報, 325-329.
- 濱上欣也・山岸裕一 (1998) 増養殖指導事業(水産業改良普及活動). 平成 8 年度石川水総セ事報, 325-327.
- 濱井昌志 (1996) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 7 年度富山水試年報, 206-207.
- 浜川秀夫・桜井則広・山田幸男 (1993) クルマエビ種苗生産事業. 平成 4 年度鳥取水試年報, 196-197.
- 浜川秀夫・桜井則広 (1993) クルマエビ中間育成事業. 平成 4 年度鳥取水試年報, 198-199.
- 浜川秀夫・桜井則広・山田幸男 (1994) クルマエビ種苗生産事業. 平成 5 年度鳥取水試年報, 185-187.
- 浜川秀夫・桜井則広 (1994) クルマエビ中間育成事業. 平成 5 年度鳥取水試年報, 188-189.
- 浜川秀夫・桜井則広・山田幸男 (1995) クルマエビ中間育成事業. 平成 6 年度鳥取水試年報, 208-209.
- 浜川秀夫・桜井則広・山田幸男 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 6 年度鳥取水試年報, 210-212.
- 濱本俊策 (1986) 香川県沿岸域におけるキジハタの漁獲実態. 香川水試研報, (2):39-45.
- 浜中雄一・宮嶋俊明・竹野功璽 (1987) クルマエビの放流技術開発-VI. 標識放流からみたクルマエビの移動. 京都海セ研報, (19):52-57.
- 浜中雄一・宮嶋俊明・竹野功璽 (1987) クルマエビの放流技術開発-VII. 産卵から着底への過程. 京都海セ研報, (19):59-64.
- 浜中雄一・城田博昭 (1993) 京都府におけるクルマエビの放流技術開発に関する研究-I. 成熟と産卵について. 京都海セ研報, (16):61-67.
- 浜中雄一・宮嶋俊明・竹野功璽 (1997) 京都府のクルマエビ栽培漁業の現状①. クルマエビの標識の開発に向けて. 漁村, 63(8):84-89.
- 浜中雄一・宮嶋俊明・竹野功璽 (1997) 京都府のクルマエビ栽培漁業の現状②. 放流方法を考える. 漁村, 63(9):67-72.
- 浜中雄一・宮嶋俊明・竹野功璽 (1997) 京都府のクルマエビ栽培漁業の現状③. 放流効果について. 漁村, 63(10):88-95.
- 浜中雄一 (1997) くるまえば. 京都府立海洋センター編, 海と生きる. 行路社, pp.118-127.
- 浜野龍夫・坪井俊三・今井厚・陣之内征龍 (1992) ロックウールによるイワムシとクルマエビの飼育. 平成 4 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.126.
- 浜崎清 (1982) 日本海沿岸における種苗放流のための一考察-天然クルマエビ稚仔の生息環境について. 水産土木, 18(2):11-14.
- 浜崎正明・福田富男 (1995) 保護水面内およびその周辺における環境, 漁獲量などの変化. 1994 年. 岡山水試報, (10):1-12.
- 浜崎稔洋・小原博義・入江章・林宗徳・半田亮司・福永剛志・山下輝昌 (1990) 有明海漁場再開調査事業. 平成元年度福岡県水試研報, 有 9.
- 浜島良一 (1982) 活魚輸送の技術開発を. 養殖, 19(1):50-51.
- 浜渦清 (1981) クルマエビ種苗放流効果に関する研究-I. 標識放流結果及び種苗放流結果. 新潟栽セ業研報, (4):67-99.
- 浜渦清 (1982) 日本海沿岸における種苗放流のための一考察. 天然クルマエビ稚仔の生息環境について. 水産土木, 36(1):11-14.
- 浜渦清 (1983) クルマエビ放流技術開発事業(放流効果調査). 昭和 56 年度新潟栽セ業研報, 28.
- 浜渦清・城田博昭 (1993) クルマエビの放流技術開発-I. 成熟と産卵について. 京都海セ研報, (16):61-67.
- HAMEED A.S.S. (1993) A study of the aerobic heterotrophic bacterial flora of hatchery-reared eggs, larvae and post-larvae of *Penaeus indicus*. Aquaculture, 117(3・4):195-204.
- HAMEED A.S.S., ANILKUMAT M., RAJ M.A.S. and K.JAYARAMAN (1998) Studies on the pathogenicity of systemic ectodermal and mesodermal baculovirus and its detection in shrimp by immunological methods. Aquaculture, 160(1・2):31-45.
- 葉室親正・草間喜代松・山田敏夫・小田健一 (1975) 秋穂実証漁場-種苗播殖装置. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):165-174.
- 花井孝之・後藤裕康・長谷川仁・高木毅 (1988) 保護水面管理事業調査(浜名湖・藻場). 昭和 62 年度静岡水試事報, 273-274.
- 花村宣彦 (1973) 瀬戸内海における栽培漁業研究の歩みと問題点. 漁業資源研究会議報, (15):23-32.
- 花村宣彦 (1976) 日本における栽培漁業の歩みと問題点. FAO 水産増殖国際会議論文集, (1):47-61.
- 花村幸生 (1979) 日本近海産浮遊性エビ類目録. 東海大海洋研年報, (1):161-181.

- HANAMURA Y. (1983) Pelagic shrimps (Penaeidea and Caridea) from Baja California and its adjacent region with description of a new species. Bull.Biogeogr.Soc.Japan, 38(8):51-85.
- HANG 国先 (1996) タイショウエビウイルス防止・治療経験の初歩的検討. 現代漁業情報, 11(2):22-25.
- HANKS K.S. (1976) Toxicity of some chemical therapeutics to the commercial shrimp *Penaeus californiensis*. Aquaculture, 7(3):293-294.
- HANSFORD S.W. and D.R.HEWITT (1994) Growth and nutrient digestibility by male and female *Penaeus monodon*: evidence of sexual dimorphism. Aquaculture, 125(1-2):147-154.
- HANSON J.A. and H.L.GOODWIN eds. (1977) Shrimps and prawn farming in the western hemisphere. State-of-the-art reviews and status assessments. Dowden, 439 pp.
- HASSON K.W., LIGHTNER D.V.,POULOS B.T.,REDMAN R.M.,WHITE B.L.,BROCK J.A. and J.R.BONAMI (1995) Taura Syndrome in *Penaeus vannamei*: demondtration of a viral etiology. Dis.Aquat.Org., 23(2):115-126.
- 原健一・檜山節久・大内俊彦・田村灝 (1969) コウライエビ種苗の移植放流について(1).山口内海水試調研業績, 18(1):1-9.
- 原健一・檜山節久 (1973) 秋穂実証実験漁場-種苗放流の生産効果. 昭和 47 年度浅海別枠研究成果, 70-85.
- 原健一 (1976) 漁場環境. 1.物理的環境. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 1-5.
- 原健一 (1976) 漁場環境. 3.社会的環境. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 10-12.
- 原健一・檜山節久 (1979) 山口県内海における小型底びき網の漁獲量と漁場(標本漁船よりみた経年変化).南西海区ブロック内海漁業研究会報, (11):9-18.
- 原武史 (1988) 活魚輸送における疾病と対策. 養殖, 25(13):152-156.
- HARADA E. (1968) Ecology and biological production of Lake Naka-umi and adjacent regions.5.Seasonal changes in distribution and abundance of some decapoda Crustacea. Spec.Publ.Seto Mar.Biol.Lab., (2):75-103.
- 原田勝彦・出利葉亨・山田金次郎 (1972) 水産動物におけるトリメチルアミンオキサイドの分布-IV.節足動物,棘皮動物およびその他の無脊椎動物について. 水大校研報, 20(3):249-264.
- 原田和弘・五利江重昭・武田雷介・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1991) クルマエビ・ガザミ種苗生産期の餌料生産(海産クロレラ・ワムシ)について. 平成元年度兵庫水試事報, 142-153.
- 原田和弘・五利江重昭・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1992) クルマエビ種苗生産配布事業. 平成 2 年度兵庫水試事報, 207-214.
- 原田和弘・五利江重昭・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1992) クルマエビ・ガザミ種苗生産期の餌料生産(海産クロレラ・ワムシ)について. 平成 2 年度兵庫水試事報, 219-223.
- 原田和弘・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1993) クルマエビ種苗生産配布事業. 平成 3 年度兵庫水試事報, 195-201.
- 原田和弘・山本強・金尾博和・杉野雅彦 (1993) クルマエビ・ガザミ種苗生産期の餌料生産(海産クロレラ・ワムシ)について. 平成年度兵庫水試事報, 206-210.
- 原田和典 (1965) 瀬戸内海資源委託調査(小型底曳網漁獲物調査). 昭和 39 年度愛媛水試事報, 172-191.
- 原田和典 (1966) 瀬戸内海資源委託調査(小型底曳網漁獲物調査). 昭和 40 年度愛媛水試事報, 179-205.
- 原田徳三・関利男・山本喜久蔵 (1965) 加賀田底曳網漁業陸上調査. 昭和 39 年度岡山水試事報, 1-12.
- 原田雄四郎 (1982) 漁業公害調査指導事業. 昭和 56 年度死す岡水試事報, 105-109.
- HARRIS A.N. and I.R.POINER (1991) Chages in species composition of demersal fish fauna of Southeast Gulf of Carpentaria,Australia,after 20 years of fishing. Mar.Biol., 111(3):503-519.
- HARRIS S.E.G., DILLION R.T.Jr., SANDIFER P.A. and L.J.LESTER (1990) Electrophoresis of isozymes in cultured *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 85(1-4):330.
- HARYANTI, TAKANO M., ABDUB K.,SUKO I. and S.KADOWAKI (1992) Effect of green and macroalgae, *Ulva* sp. added into the larval reariug tank of tiger prawn,*Penaeus monodon*. J.Penel.Budidaya Pantai, 8(3):35-40.
- 長谷川彰 (1963) かん水養漁業の価格条件. 漁業経済研究, 12(2):19-30.
- 長谷川彰 (1966) 増殖業の経済的意義(要旨). 第 28 回内海区ブロック会議議事録, 51-64.
- 長谷川彰 (1967) 高知県下沿岸漁村の資源利用の実態と問題点. 内海区水研刊行物 C 輯, (5-7):59-81.
- 長谷川彰・矢野実 (1970) 瀬戸内海における漁業と資源-いわゆる栽培漁業の問題点. 漁業資源研究会議報, (11):24-35.
- 長谷川彰・高尾亀次・外間源治・石岡清英・河野慈敬 (1972) 種苗放流の生産効果に関する研究. 昭和 46 年度浅海別枠研究成果, 121-148.
- 長谷川彰・高尾亀次・外間源治・石岡清英・河野慈敬 (1973) 西条漁場における種苗放流の生産効果. 昭和 47 年度浅海別枠研究成果, (2):8-33.
- 長谷川彰 (1973) 種苗放流と生産効果-クルマエビを例にして. 漁業資源研究会議報, (15):117-126.
- 長谷川彰・石岡清英 (1974) 愛媛県西条地先海域の事例. 種苗放流事業生産効果研究会,クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 24-32.

- 長谷川彰・石岡清英・外間源治・檜山節久 (1975) 種苗放流の経済効果. 昭和 49 年度浅海別枠研究成果, 153-164.
- 長谷川彰・石岡清英・外間源治・檜山節久 (1975) クルマエビ種苗放流の経済効果. 東海区水研研報, (83):7-23.
- 長谷川彰 (1979) 水産物消費, 需要変化の要因. 漁業経済研究, 25(1):1-20.
- 長谷川彰 (1980) 資源確保の問題. 水産海洋研究会報, (37):15-17.
- 長谷川彰 (1984) 栽培漁業の経済と問題. 水産振興, (193):1-27.
- 長谷川彰 (1985) 漁業管理. 恒星社厚生閣.新水産学全集, (35):1-235.
- 長谷川彰 (1988) 栽培漁業システムの課題-クルマエビ栽培を事例にして. 西日本漁業経済学会編, 転機に立つ日本水産業. 九大出版会, pp.364-386.
- 長谷川彰 (1988) 変容する水産物の需要・流通機構. 2.水産物需要の変動. 今村奈良臣・陣内義人編, 新海洋時代の漁業. 農山漁村文化協会. 食糧・農業問題全集, (19):69-83.
- 長谷川彰 (1988) 変容する水産物の需要・流通機構. 3.変わる生活様式と水産物消費. 今村奈良臣・陣内義人編, 新海洋時代の漁業. 農山漁村文化協会. 食糧・農業問題全集, (19):83-99.
- 長谷川彰 (1993) 国際化時代の日本水産業の動向と課題-輸入問題を中心にして. 多岐保彦編, 世界の中の日本漁業. 成山堂書店, pp.1-21.
- 長谷川仁・近藤優・窪田久 (1981) クルマエビ種苗飼育槽の水質調査. 昭和 55 年度静岡栽セ事報, 35-36.
- 長谷川仁・近藤優・窪田久 (1981) クルマエビ種苗の輸送時の水質状況. 昭和 55 年度静岡栽セ事報, 45-46.
- 長谷川雅俊 (1990) 浜名湖におけるクルマエビの栽培漁業-I. 静岡水試浜名湖分場.はまな, (353):1-2.
- 長谷川雅俊 (1990) 浜名湖におけるクルマエビの栽培漁業-II. 静岡水試浜名湖分場.はまな, (359):2-4.
- 長谷川峰清 (1980) 新しいエビを求めて. JAMARC, (18):39-44.
- 長谷川峰清 (1981) 新しいエビを求めて. 水産海洋研究会報, (39):50-56.
- 長谷川義信・塚原淳一郎・小倉敏義・岡田昌一郎・園辺浩二 (1991) 魚病診断予防対策技術開発促進事業. 平成元年度長崎水試事報, 130-140.
- 橋本博明 (1992) 近年における瀬戸内海の漁獲量の動向. 広島大生物生産紀要, 31(2):143-154.
- 橋本康 (1984) どのような農薬が魚を殺すのか. 東海区水研.さかな, (32):2-8.
- 橋本晋策・田染博章 (1966) 臼杵湾幼稚魚調査. 昭和 38・39 年度大分水試事報, 110-113.
- 橋本達夫・古沢優・石中健一・北川裕康・角三繁夫 (1990) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 63 年度石川増試栽セ事報, 13-15.
- 橋本達夫・勝山茂明・大慶則之・濱上欣也 (1990) クルマエビ放流追跡調査. 昭和 63 年度石川増試栽セ事報, 41-45.
- 橋本達夫・古沢優・石中健一・北川裕康・角三繁夫 (1991) クルマエビ種苗生産事業. 平成元年度石川増試事報, 12-13.
- 橋本達夫・古沢優・北川裕康・石中健一 (1992) クルマエビ種苗生産事業. 平成 2 年度石川増試事報, 18-23.
- 橋本達夫・古沢優・石中健一・西尾康央 (1993) クルマエビ種苗生産事業. 平成 3 年度石川増試事報, 16-19.
- 橋本達夫・古沢優・西尾康央・石中健一・宮野理夫 (1994) クルマエビ種苗生産事業. 平成 4 年度石川増試事報, 16-19.
- 橋本達夫・古沢優・石中健一・西尾康央・宮野理夫 (1995) クルマエビ種苗生産事業. 平成 5 年度石川増試事報, (15)-(18).
- 橋本芳郎・藤本健四郎・鴻巣章二 (1966) アサリのエキス成分に関する研究-II.クルマエビに対する誘引物質の検索. 昭和 40 年度日本水産学会年会講演要旨集, p.59.
- HASWELL W.A. (1879) On the Australian species of *Penaeus*. Proc.Linn.Soc.N.S.W., (4):37-44.
- 畑江敬子・徳田仁美・島田淳子・松本美鈴・山中英明 (1991) 調製方法の異なるクルマエビ'あらい'の呈味およびテクスチャー. 日水誌, 57(11):2133-2137.
- 畑井喜司雄・中島健次・江草周三 (1974) 養殖クルマエビの鰓黒病起因真菌に対する各種薬物の効果. 魚病研究, 8(2):156-160.
- 畑井喜司雄・古谷航平・江草周三(1978) 養殖クルマエビの鰓黒病起因真菌に関する研究-I.BG-Fusarium の分離および同定. 魚病研究, 12(4):219-224.
- 畑井喜司雄・江草周三 (1978) 養殖クルマエビの鰓黒病起因真菌に関する研究-II.BG-Fusarium に関する 2,3の知見. 魚病研究, 12(4):225-231.
- 畑井喜司雄 (1989) 甲殻魚介類の真菌症. 防菌防黴誌, (17):507-512.
- 畑井喜司雄 (1991) 魚体に巣くう主役たち-147.クルマエビのフサリウム症. 養殖, 28(3):35.
- 畑井喜司雄 (1991) 魚体に巣くう主役たち-154.クルマエビのハリフトロス症. 養殖, 28(10):43.
- HATAI K.,RHOOBUNJONDDGE W. and S.WADA (1992) Haliphthoros milfordensis isolated from gills of juvenile kuruma prawn (*Penaeus japonicus*) with black gill disease. Trans.Mycol.Soc.Japan., 33:185-192.
- 畑井喜司雄 (1995) 魚病ズームアップ-202.クルマエビ幼生のハリフトロス症. 養殖, 32(12):31.
- 畑井喜司雄 (1996) 真菌病. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.70-82.
- HATANAKA H. (1977) Preliminary stock assessment of the shrimp resources off the Guiana waters. Submitted to WECAFC meeting, 16 pp.
- 波多野秀之・海幸丸乗組員 (1990) エビ流網調査(源式網) 平成元年度愛知水試業報, 151-155.

- 幡谷雅之 (1988) 栽培漁業基本計画の改正について. 伊豆分場だより, (232):14-19.
- 羽鳥達也 (1996) 給餌養殖におけるウイルス病被害の現状と対策. 養殖, 33(7):523-55.
- 服部洋年・千田哲資・清水昭 (1969) クルマエビ放流実践漁場調査経過報告(1968年度). 瀬戸内海栽培漁業実践漁場設置調査事業報告書(岡山水試), 1-27.
- 服部洋年・千田哲資・清水昭 (1969) クルマエビ放流実践漁場調査経過報告(1968年度,抄録). 昭和43年度岡山水試事報, 177.
- 服部洋年・千田哲資 (1970) クルマエビ放流実践漁場調査経過報告(1969年度,抄録). 昭和44年度岡山水試事報, 169.
- 服部洋年 (1971) クルマエビ標識技術の開発に関する研究-I. 昭和45年度岡山水試事報, 71-87.
- 服部洋年・東幹夫・千田哲資・松村真作・福田富男・石田公行 (1971) クルマエビ放流実践漁場調査経過報告(1970年度,抄録). 昭和45年度岡山水試事報, 199-200.
- 服部洋年・福田富夫 (1972) クルマエビ標識技術の開発について. 昭和46年度浅海別枠研究成果, 41-47.
- 服部洋年・福田富男 (1972) クルマエビ標識技術の開発に関する研究-II(抄録). 昭和46年度岡山水試事報, 264.
- 服部未夏・小川健 (1996) 1995年度養殖魚類等の病害発生ならびに対策状況. 和歌山水増試報, (28):9-11.
- HAYWOOD M. and C.G.ALEXANDER (1982) Statolith implantation in the banana prawn *Penaeus merguensis*. Marine Biol., 72(2):113-117.
- HAYWOOD M.D.E., VANCE D.J. and N.R.LONERAGAN (1995) Seagrass and algal beds as nursery habitats for tiger prawns (*Penaeus semisulcatus* and *P. esculentus*) in a tropical Australian estuary. Mar.Biol., 122:213-323.
- 林健一・堀井直二郎 (1976) 富山湾のエビ類相. 昭和51年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.133.
- 林健一 (1976) 佐渡臨海実験所近海のエビ類相. 新潟生物教育研究誌, (11):13-22.
- 林健一 (1981) 日本産エビ類の分布と生態①. クルマエビ属(1). 海洋と生物, 3(5):368-371.
- 林健一 (1981) 日本産エビ類の分布と生態②. クルマエビ属(2). 海洋と生物, 3(6):452-455.
- 林健一 (1984) 日本近海産エビ類の分類に関する研究. 昭和59年度日本水産学会春季大会講演要旨集, pp.261-262.
- 林健一 (1985) 根鰓類およびコエビ類. 日本陸棚斜面未利用資源精密調査. 日本水産資源保護協会, 38-149,232-279.
- 林健一 (1985) 飛堀亭雑記/その2. 海洋と生物, 7(2):143.
- 林健一 (1986) 新刊「壹灣對蝦圖鑑」を見る前に. 海洋と生物, 7(6):458.
- 林健一 (1989) 瀬戸内海エビ類の文献にもとづく整理. 第21回内海漁業研究会報, 1-12.
- HAYASHI K. and Y.FUJIWARA (1988) A new method for obtaining metaphase chromosomes from the regeneration blastema of *Penaeus (Marsupenaeus) japonicus*. 日水誌, 54(9):1563-1565.
- 林健一 (1991) 甲殻類. 沖ノ島島周辺海域における漁業資源調査-沖ノ島島周辺海域の魚類. 西海区水研, p p.37-59.
- 林健一 (1991) 日本海のエビ類相とその特徴. 日本海ブロック試験研究集録, (22):1-9.
- HAYASHI K., AOYAMA M., FUJIWARA S. and H.P.YU (1992) Indian white prawn *Penaeus (Fenneropenaeus) indicus* new to the Japanese fauna. 日水誌, 58(1):167.
- 林健一 (1996) 分類と分布. 橋高二郎・隆島史夫・金沢昭夫編, エビ・蟹類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.1-32.
- 林健一・荒川晶 (1999) ベントスエビ類を例として. 月刊海洋, 31(10):623-630.
- 林小八 (1990) 情報.漁況.瀬戸内海. 水産海洋研究, 54(2):211-212.
- 林小八 (1992) 海域情報.瀬戸内海(漁況). 水産海洋研究, 56(3):373-374.
- 林雅弘・戸田享次・北岡正三郎・金澤昭夫 (1993) クルマエビに対するユーグレナのタンパク資源としての効果. 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.64.
- 林宗徳・浜崎稔洋・上妻智行・福永剛志・小原博美 (1989) 昭和63年度福岡県水試研報, 有12.
- 林宗徳・池田伸義・浜崎稔洋・入江晃 (1990) 漁船漁業に関する研究-エツ・クルマエビ資源培養. 平成元年度福岡県水試研報, 有12.
- 林宗徳・浜崎稔洋・秋本恒基 (1991) 漁船漁業に関する研究-(エツ・クルマエビ資源培養). 平成2年度福岡県水試研報,有10.
- 林知夫・北森良之介・長谷川彰・水戸敏 (1965) 工業化と資源問題. 内海区水研刊行物C輯, (3-3):47-75.
- 林知夫 (1966) 種苗放流事業と生物生産研究・資源研究. 第28回内海区ブロック会議議事録, 65-77.
- 林知夫・長谷川彰 (1968) 資源の有効利用に関する若干の考察. 漁業資源研究会議報, (8):63-74.
- 林凱夫 (1970) 大阪湾の小型底びき網漁業漁場実態調査(昭和44年度). 大阪水試研報, (2):61-80.
- 林凱夫 (1979) 大阪湾の小型底びき網漁業について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (11):1-8.
- 林凱夫 (1982) 大阪湾の漁業生物目録. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (14):37-45.
- 林凱夫 (1989) 大阪府・東ジャワ州交流事業. 昭和62年度大阪水試事報, 129-133.
- 林凱夫・有山啓之 (1992) 栽培漁業対象種の幼稚個体生息分布調査. 平成2年度大阪水試事報, 97-103,付表,(2).

- 林優行・岩崎員郎・河根三雄・蒲原聡 (1987) クルマエビ種苗生産. 昭和 60 年度愛知栽協業報, 7-20.
- 林優行・河根三雄・長尾成人 (1987) クルマエビ種苗生産. 昭和 61 年度愛知栽協業報, 7-21.
- HE H-Q., LAWRENCE A.L. and R-Y.LIU (1992) Evaluation of dietary essentiality of fat-soluble vitamins, A, D, E and K for penaeid shrimp (*Penaeus vannamei*). *Aquaculture*, 103(2):177-185.
- HE H-Q. and A.L.LAWRENCE (1993) Vitamin C requirements of the shrimp *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 114(3-4):305-316.
- HE H-Q. and A.L.LAWRENCE (1993) Vitamin E of *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 118(3-4):245-255.
- HEEGAARD P.E. (1953) Observation on spawning and larval history of the shrimp, *Penaeus setiferus* (L.). *Publ.Inst.Mar.Sci, Univ.Tex*, 3(1):73-105.
- HEEGAARD P. (1971) *Penaeus kerathurus* FORKSAL, a protandric hermaphrodite. *Bull.Inst.Natl.Sci.Tech.Oceanogr. Peche.Salammbou.*, (2):257-266.
- HEEGAARD P. (1972) Sexual dimorphism in some Mediterranean penaeids and their spawning grounds. *Thalassia Jugosl.*, (8):5-17.
- HEINEN J.M. (1976) An introduction to culture methods for larval and post-larval penaeid shrimp. *Proceedings of the Seventh Annual Meeting of the World Mariculture Society*, pp.333-343.
- HEITZMANN J.C., DITER A. and ACUACOP (1993) Spermatophore formation in the white shrimp, *Penaeus vannamei* BOONE 1931: dependence on the intermoult cycle. *Aquaculture*, 116(1):91-98.
- HENDRICKX M.E., SALGADO-BARRAGAN J. and M.A.MEDA-MARTINEZ (1996) Abundance and diversity of macrofauna (fish and decapod crustaceans) in *Penaeus vannamei* culture ponds in western Mexico. *Aquaculture*, 143(1):61-73.
- HENNIG O., ITAMI T., MAEDA M., KONDO M., NATSUKARI Y. and Y.TAKAHASHI (1997) The analyses of hemolymph immuno-parameters in kuruma shrimp under stress and disease conditions. *International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima*, p.111.
- HENNIG O.L. and E.R.ANDREATTA (1998) Effect of temperature in an intensive nursery system for *Penaeus paulensis* (PEREFARFANTE, 1967). *Aquaculture*, 164(1-4):167-172.
- HENNIG O., ITAMI T., MAEDA M., KONDO M., KUSAKARI Y. and Y.TAKAHASHI (1998) Analysis of hemolymph immuno-parameters in kuruma shrimp infected with penaeid rod-shaped DNA virus. *Fish Pathol.*, 33(4):389-393.
- HEO M.S., JU J.W. and C.R.JUNG (1998) Viral disease of the cultured *Penaeus chinensis* and *Penaeus japonicus*. *J.Korea Soc. Microbiol.*, (33):381-389.
- HETTIARACHCHI M., PATHIRATNE A. and R.P.H.SOMATILAKE (1999) Effects of physico-chemical parameters of pond water and *Vibrio* infection on the occurrence of white spot syndrome in *Penaeus monodon* cultured in Sri Lanka. *Fourth Symposium on Diseases in Asian Aquaculture. Cebu, Philippines. Fish Health Section of the Fisheries Society, Manila*, p.OP27.
- HETZEL D.J.S., CROCOS P.J., DAVIS G.P., MOORE S.S. and N.C.PRESTON (2000) Response to selection and heritability for growth in the Kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Aquaculture*, 181(3-4):215-223.
- 日比野光・俵佑之人・水野宏成・西条富夫・伊藤英之進・竹内市次 (1976) 栽培漁業促進試験(クルマエビ稚蝦放流). 昭和 50 年度愛知水試業報, 6-9.
- 日比野光・横井時夫・水野宏成・武長保・石田基・高木典生・原田衛 (1976) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和 52 年度愛知水試業報, 9-12.
- 日比谷京監修 (1988) 日本の水産. アジアのエビ. 全日本水産写真資料協会, 212 pp.
- 日高秀美・甲斐勲 (1996) クルマエビ種苗生産. 平成 5 年度宮崎栽協事報, 54-56.
- 日高健・中楯興・小野征一郎・市川英雄・井手義則・島秀典・濱田英嗣・姜小波・萩野誠 (1996) 新マリノバージョン活性化推進活動調査. 平成 7 年度福岡水技事報, 473-480.
- 日高健 (1997) 博多湾における沿岸域利用の諸問題. *漁業経済研究*, 42(1):1-27.
- 日高健・中楯興・小野征一郎・市川英雄・井手義則・島秀典・濱田英嗣・萩野誠・婁小波 (1998) 新マリノバージョン活性化推進活動調査. 平成 8 年度福岡水技事報, 415-443.
- 日高武達 (1969) 水産養殖業の将来. *養殖*, 6(1):84-86.
- 日高武達 (1973) 藤永さんを偲ぶ. *養殖*, 10(11):102-103.
- 東明浩・小金丸隆 (1987) クルマエビ種苗生産. 昭和 61 年度宮崎栽セ事報, 59-61.
- ヒガシマル (1979) クルマエビ類の病気. 株式会社ヒガシマル. 参考資料, (1):1-80.
- ヒガシマル (1982) クルマエビの種苗生産. 株式会社ヒガシマル. 参考資料, (5):1-47.
- HIGH W.L., ELLIS I.E. and L.E.LUSZ (1969) A progress report on the development of a shrimp trawl to separate shrimp from fish and bottom-dwelling animals. *Comm.Fish.Rev.*, (31):20-33.

- 肥後伸夫・上水樽豊己 (1979) 離底曳き用底曳網の実用化に関する研究-(予報). 小型底曳網の曳網実験. 鹿大水産学部紀要, (28):119-129.33(1)
- 肥後伸夫・本中野伸一 (1984) 出水市沖合海域におけるクルマエビ漁業に関する研究-I. 漁場の底質について. 鹿大水産学部紀要, 33(1):145-153.
- 肥後伸夫・符啓超 (1988) 八代海南部海域のエビ類相について. 鹿大水産学部紀要, 37:45-50.
- HILDEBRAND H.H. (1955) Study of the fauna of the pink shrimp (*Penaeus duorum* BURKENROAD) grounds in the Gulf of Campeche. Publ.Inst.Mar.Sci., 4(1):169-232.
- HILLIER A.G. (1984) Artificial conditions influencing the maturation and spawning of sub-adult *Penaeus monodon* (FABRICIUS). Aquaculture, 36(1・2):179-184.
- 日野淑美 (1980) 本州・四国連絡架橋漁業影響調査.大鳴門架橋関連調査 (昭和 44~46 年度)結果(抄録). 昭和 40~53 年度(追補)徳島水試事報, 371-373.
- 日野淑美 (1981) 本州・四国連絡架橋漁業影響調査.ルート別総合報告(抄録). 昭和 55 年度徳島水試事報, 220-274.
- 平井一行・田中敬健・近藤優・後藤裕康 (1985) 昭和 59 年度クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 59 年度静岡水試事報, 271-274.
- 平井一行・田中敬健・長谷川仁・後藤裕康 (1986) 栽培漁業研究-クルマエビ栽培漁業に関する研究. 昭和 60 年度静岡水試事報, 289-291.
- 平井一行・長谷川仁・後藤裕康・花井孝之 (1987) 栽培漁業研究-クルマエビ栽培漁業に関する調査. 昭和 61 年度静岡水試事報, 305-307.
- 平井亨・野中忠・村松高明 (1974) 浜名湖保護水面調査. 昭和 48 年度静岡水試事報, 188-189.
- 平井亨・村松高明・上村信夫 (1975) 栽培漁業漁場資源生態調査(クルマエビ). 昭和 49 年度静岡水試事報, 254.
- 平松達男 (1961) 豊前海における海面漁業漁獲高の経年変化と漁獲高変動要因についての考察-I. 昭和 35 年度福岡豊前水試研業報, 1-30.
- 平松達男・瀬川和人・多胡信良・有馬功 (1962) 豊前海におけるエビ漕網の海域別漁獲特性と重要種の漁獲傾向について. 昭和 36 年度福岡豊前水試研業報, 1-48.
- 平松達男・多胡信良・有馬功 (1962) 豊前海北部海域における桁網, エビ漕網漁獲組成の相違点について. 昭和 36 年度福岡豊前水試研業報, 49-52.
- 平松達男・瀬川和人・多胡信良・寺田和夫・有馬功・川上大和 (1963) 幼稚仔育成場造成に関する研究-I.シダマブシによる餌料環境の形成経過と魚類の集魚状況について. 昭和 63 年度福岡豊前水試研業報, 1-26.
- 平松達男・岸本源次・多胡信良・瀬川和人・寺田和夫・有馬功 (1965) 幼稚仔育成場造成に関する研究. 昭和 39 年度福岡豊前水試研業報, 67-105.
- 平松達男・石田雅俊・藤紘和 (1965) クルマエビ稚仔の浮網生簀による飼育成績と飼育密度について. 昭和 39 年度福岡豊前水試研業報, 106-111.
- 平松達男・多胡信良・寺田和夫 (1966) クルマエビ種苗の放流後における成長, 分散及び漁獲について. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 1-20.
- 平松達男・多胡信良・寺田和夫 (1967) クルマエビ種苗の放流後における成長, 分散及び漁獲状況について. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 1-20.
- 平松達男・多胡信良・寺田和夫 (1968) クルマエビ種苗の放流後における成長分散及び漁獲状況について(第II報). 昭和 42 年度豊前水試研報, 13-17.
- 平松達男・多胡信良・寺田和夫 (1969) クルマエビ放流事業における放流技術と増殖された資源の利用形態(第I報). 昭和 43 年度福岡豊前水試研業報, 1-33.
- 平松達男・多胡信良 (1969) クルマエビ種苗放流事業における放流技術と増殖された資源の利用形態について. 昭和 44 年度福岡豊前水試研業報, 1-33.
- 平松達男・多胡信良・石田雅俊・寿崎洋一 (1970) クルマエビ放流事業における放流技術と増殖された資源の利用形態 (第II報). 昭和 44 年度福岡豊前水試研業報, 1-48.
- 平松達男・多胡信良・石田雅俊 (1972) 干潟域の無脊椎動物によるクルマエビの減耗機構について. 浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):31-41.
- 平松達男・石田雅俊 (1972) 干潟域の無脊椎動物によるクルマエビの減耗機構について. 昭和 46 年度福岡豊前水試研業報, 1-27.
- 平野克己・古川一郎 (1979) 飼料環境の生態学的研究-I.アルテミア幼生に対するクルマエビ稚仔の捕食性. 宮崎大農報, (26):311-320.
- 平野克己・岩槻幸雄・後藤重雄 (1992) トリプトファンのクルマエビ稚仔に対する効果と影響. 平成 4 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.209.
- 平野雅章編 (1980) 魯山人著作集.第3巻. 五月書房, 529 pp.
- 平野禮次郎編 (1988) エビ・カニ類の種苗生産. 水産学シリーズ, (71):1-150.

- 平野敏行・平元貢 (1987) 相模湾の漁業と環境に関するアンケート調査について(要旨). 水産海洋研究会報, 51(3):262-264.
- 平野保男 (1983) クルマエビの種苗生産. 昭和 57 年度三重裁セ事報, 14-29.
- 平野保男・矢田三喜夫 (1984) クルマエビの種苗生産. 昭和 58 年度三重裁セ事報, 21-33.
- 平野保男・矢田三喜夫 (1985) クルマエビの種苗生産. 昭和 59 年度三重裁セ事報, 25-42.
- 平野保男・矢田三喜夫 (1986) クルマエビの種苗生産. 昭和 60 年度三重裁セ事報, 23-41.
- 平野保男・浦中秀人・岡田一宏 (1987) クルマエビの種苗生産. 昭和 61 年度三重裁セ事報, 23-29.
- 平野保男・岡田一宏 (1990) クルマエビ種苗生産. 平成元年度三重裁セ事報, 19-25.
- 平野保男・岡田一宏・河村剛・渡部公仁 (1991) クルマエビ種苗生産. 平成 2 年度三重裁セ事報, 16-21.
- 平野保男・岡田一宏・河村剛・渡部公仁 (1991) 水槽底に砂を敷いた巡流水槽を用いたクルマエビの中間育成試験. 平成 2 年度三重裁セ事報, 50-52.
- 平岡三登里・桃山和夫・田村瀬 (1995) 1993 年山口県における養殖クルマエビの大量死発生状況. 山口内海水試報, (24):27-29.
- 平岡三登里・桃山和夫 (1996) 1994 年山口県におけるクルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)発生状況. 山口内海水試報, (25):96-98.
- 平岡三登里・桃山和夫・中野平二 (1996) PRDV の 5 種類の甲殻類に対する病原性. 平成 7 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.18.
- 平澤康弘・瀬古幸郎・しらなみ乗組員 (1985) 沿岸海域への農薬流出実態および水産生物への農薬の複合毒性試験. 昭和 59 年度愛知水試業報, 107-110.
- 平澤康弘・瀬古幸郎・しらなみ乗組員 (1986) 沿岸海域への農薬流出実態および水産生物に対する毒性試験. 昭和 60 年度愛知水試業報, 108-109.07-110.
- HIRASAWA Y. and J.WALFORD (1976) The economics of Kuruma-ebi (*Penaeus japonicus*) shrimp farming. FAO, FIR:AQ/Cont./76/R. 27, 1-19.
- 平沢豊 (1968) 日本の漁業開発の展望と将来. 水産海洋研究会報, (13):77-85.
- 平沢豊 (1983) ウシエビ養殖業の現状と問題点①. 養殖, 20(5):60-63.
- 平沢豊 (1983) ウシエビ養殖業の現状と問題点②. 養殖, 20(6):61-65.
- 平沢豊 (1983) ウシエビ養殖業の現状と問題点③. 養殖, 20(7):60-65.
- 平沢豊 (1983) ウシエビ養殖業の現状と問題点④. 養殖, 20(8):60-65.
- 平沢豊 (1983) ウシエビ養殖業の現状と問題点⑤. 台湾の驚くべき高生産. 養殖, 20(9):64-70.
- 平沢豊 (1983) ウシエビ養殖業の現状と問題点⑥. 台湾の驚くべき高生産. 養殖, 20(10):66-72.
- 平沢豊 (1983) エビ養殖業の現状と問題点⑦. 日本のクルマエビ養殖の特徴. 養殖, 20(11):63-69.
- 平沢豊 (1983) エビ養殖業の現状と問題点⑧. 活エビの需要と生産量. 養殖, 20(12):104-110.
- 平沢豊 (1984) エビ養殖業の現状と問題点⑨. 瀬戸内海型のエビ養殖. 養殖, 21(1):106-112.
- 平沢豊 (1984) エビ養殖業の現状と問題点⑩. 天草型のエビ養殖. 養殖, 21(2):58-64.
- 平沢豊 (1984) エビ養殖業の現状と問題点⑪. 鹿児島および以南のエビ養殖. 養殖, 21(3):58-65.
- 平沢豊 (1984) エビ養殖業の現状と問題点⑫. エビ養殖と放流の関係. 養殖, 21(4):66-72.
- 平澤豊・長谷川彰・長崎福三・山本辰義・加瀬和俊 (1987) 日本漁業の再編成について-資源管理型漁業の展望. 水産振興, 21(7):1-58.
- 平沢豊 (1989) 沿岸漁業の漁場利用の変化と資源管理型漁業. 漁業経済研究, 33(2・3):82-106.
- 平島裕・能津純治 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-建干網の魚類排除効果. 昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):191-194.
- HIRATA H.,MORI Y.and M.WATANABE (1975) Rearing of prawn larvae, *Penaeus japonicus*, fed soy-cake particles and diatoms. Mar.Biol. (29):9-13.
- 平田八郎・Marcos Marchiori・四宮明彦 (1978) クルマエビの種苗生産における生態遷移(英文). 鹿大水産紀要, 27(1):295-303.
- 平田八郎・ANASTASIOS M.・山崎繁久 (1985) クルマエビ幼生によるシオミズツボワムシおよびアルテミアの摂餌率とその効果(英文). 鹿大水産学部紀要, 34(1):27-36.
- 平田八郎・門脇秀策・中菌貫幸・加世堂照男・猪奥繁利 (1987) 池内移動通気装置によるクルマエビ後期幼生の飼育. 水産増殖, 35(1):27-31.
- 平田博 (1979) 天草地方のクルマエビ養殖と餌料の変遷. 養殖, 16(6):48-49.
- 平田郁夫・平田満・鎌賀泰文・岡田丘・竹田健一・木村武志 (1989) 放流技術開発試験. 昭和 63 年度熊本水試事報, 51-53.
- 平田郁夫・竹田健一 (1993) 栽培漁業事業化促進事業(指導事業). 平成 4 年度熊本水研事報, 41-42.
- 平田益良雄 (1981) 土佐湾中央部浅海域の大型クルマエビ類-とくにフトミヅエビとトサエビについて. 昭和 55 年度南西ブロック外海漁業研究会要録, 9.

- 平田貞郎・溝上昭男・高場稔 (1982) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 56 年度広島水試事報, 35-37.
- 平田貞郎・溝上昭男・高場稔・米司隆 (1983) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 57 年度広島水試事報, 23-24.
- 平田貞郎・高場稔・米司隆 (1985) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 59 年度広島水試事報, 27-28.
- 平田卓郎 (1989) 安芸灘の小型底びき網で漁獲されるエビ類・シヤコ類の時期別出現状況. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (12):41-45.
- 平田孝・永井克宣・足立亨介・荒巻要・坂口守彦 (2000) クルマエビ脱皮サイクルと黒変との関係について. 平成 12 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.137.
- 平田義浩・仲宗根幸男・諸喜田茂充 (1973) 沖繩の貝,カニ,エビ. 風土記社, 144 pp.
- 平山泉・本田彰・幸丈友・神戸和生 (1985) 漁場環境管理試験-II. その他の漁場環境調査. 昭和 59 年度熊本水試事報, 29-36.
- 平山泉・木村武志・北野健 (1993) エビ・カニ類増殖試験. 平成 4 年度熊本水研事報, 37-38.
- 平山和次・玉乃井省吾 (1980) 農薬MFP, Diazion のクルマエビ, ガザミ幼生に対する急性毒性. 日水誌, 46(2):117-123.
- 広島県 (1981) 昭和 55 年度特定水産動物育成事業報告書, 37 pp.
- 広島県 (1983) 昭和 56 年度地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業(育成漁場管理型事業)および育成水面管理事業報告書, 41 pp.
- 広島県 (1984) 昭和 57 年度地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業(育成漁場管理型事業)および育成水面管理事業報告書, 37 pp.
- 広島県 (1985) 昭和 58 年度地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業(育成漁場管理型事業). 42 pp.
- 広島県江田漁業協同組合 (1978) 江田島の栽培漁業の実践. 養殖, 13(8):58-61.
- 広島県江田漁業協同組合 (1978) 江田島の栽培漁業の実践. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 112-113.
- 広島県草津建網技術研究会 (1987) エビ建網の改良. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録. 第1分冊, 106-107.
- 広島県大野町漁業協同組合 (1987) 大野瀬戸における栽培漁業の推進について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 116-117.
- 広島県水産試験場 (1969) 昭和 45 年度クルマエビ種苗放流実践漁場設置調査中間報告書, 1-18.
- 広島県水産試験場 (1975) 技術指導. 昭和 48 年度広島水試事報, 74.
- 広島県水産試験場 (1975) 技術指導. 昭和 49 年度広島水試事報, 61.
- 広島県水産試験場 (1975) 漁民研修. 昭和 49 年度広島水試事報, 62.
- 広島県水産試験場 (1976) 漁民研修. 昭和 50 年度広島水試事報, 75.
- 広島県水産試験場 (1982) 技術指導. 昭和 56 年度広島水試事報, 74-75.
- 広島県水産試験場 (1983) 技術指導. 昭和 57 年度広島水試事報, 52-54.
- 広島県水産試験場 (1986) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 60 年度広島水試事報, 31-32.
- 広島県水産試験場 (1986) 増殖場造成効果調査(江田島地区). 昭和 60 年度広島水試事報, 40.
- 広島県水産試験場 (1986) 専門技術員改良普及活動. 昭和 60 年度広島水試事報, 47-48.
- 広島県水産試験場 (1987) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 61 年度広島水試事報, 37-38.
- 広島県水産試験場 (1987) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 61 年度広島水試事報, 39-41.
- 広島県水産試験場 (1987) 専門技術員改良普及活動. 昭和 61 年度広島水試事報, 63.
- 広島県水産試験場 (1988) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 62 年度広島水試事報, 60-61.
- 広島県水産試験場 (1990) 病害対策研究. 平成元年度広島水試事報, 52-53.
- 広島県水産試験場 (1990) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(漁業資源調査). 平成元年度広島水試事報, 74.
- 広島県水産試験場 (1991) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(漁業資源調査). 平成 2 年度広島水試事報, 60.
- 広島県水産試験場 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(漁業資源調査). 平成 3 年度広島水試事報, 64.
- 広島県水産試験場 (1997) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 2.クルマエビ. 平成 8 年度広島水試事報, 19.
- 広島県水産試験場 (1998) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 9 年度広島水試事報, 18-19.
- 広島県水産試験場 (1998) 養殖水産動物保健対策推進事業(海面). 平成 9 年度広島水試事報, 32-33.
- 広島県水産試験場 (1999) 重要甲殻類資源管理手法調査(クルマエビ). 平成 10 年度広島水試事報, 19.
- 広島県水産試験場 (2000) 重要甲殻類資源管理手法調査(クルマエビ). 平成 11 年度広島水試事報, 28.
- 広島県水産試験場・山口県水産研究センター・福岡県水産海洋技術センター豊前研究所・大分県海洋水産研究センター浅海研究所・宮崎県水産試験場・鹿児島県水産試験場・愛媛県中予水産試験場・高知県水産試験場 (2001) 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック, クルマエビ), II. 131-166. 付表 1~4.
- 廣田将仁・濱田英嗣 (1997) 卸売市場における養殖魚の入荷状況. 養殖(臨時増刊), 34(12):101-104.
- 廣吉勝治 (1988) 変容する水産物の需要・流通構造. 5.水産物流通機構の再編成と多元化. 今村奈良臣・陣内義人編, 新海洋時代の漁業. 農山漁村文化協会.食糧・農業問題全集, (19):108-126.

- 廣吉勝治 (1988) 新海洋時代に向けて. 3.水産物流通製作の課題.今村奈良臣・陣内義人編, 新海洋時代の漁業. 農山漁村文化協会.食糧・農業問題全集, (19):300-303.
- 廣吉勝治 (1989) 水産物貿易構造の現状と展望. 漁業経済研究, 34(1・2):44-70.
- 廣吉勝治・板倉信明 (1992) 生産構造の変貌. 小野征一郎・堀口健治編, 日本漁業の経済解析-縮小と再編の理論. 農林統計協会, pp.98-127.
- 廣吉勝治 (1995) 活魚流通の実態把握. 4.首都圏近郊産地-神奈川県三浦三崎半島.漁業情報サービスセンター編, 活魚生産の現状と流通問題に関する実態と展望. 漁業情報サービスセンター, 33-42.
- 久野操・金枝豊広・能津純治 (1974) 佐伯実証漁場-建干網の魚類排除効果. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):148-152.
- 菱川馨・萩野卓次・紀平正人 (1986) 普及指導事業(伊勢湾). 昭和 59 年度三重水技事報, 112-114.
- 柄多哲・中村一彦・山本強・金尾博和・柴田忠士 (1985) 中間育成時の底質条件を異にしたクルマエビ種苗の歩脚障害と潜砂粒度について. 兵庫水試報, (23):49-55.
- 檜山節久・尾串好隆 (1973) クルマエビの標識放流試験. 山口内海水試報, (3):67-72.
- 檜山節久 (1974) 小型底びき網漁業の秋季禁止期間中におけるエビ類の資源生態について. 山口内海水試報, (4):64-75.
- 檜山節久・原健一 (1974) 大海湾周辺漁場における生産効果. 昭和 48 年度浅海別枠研究成果, (4):18-36.
- 檜山節久・大島泰雄 (1974) 山口県大海湾の事例(1). 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 33-39.
- 檜山節久 (1974) 山口県大海湾の事例(2). 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 40-46.
- 檜山節久 (1975) クルマエビ放流種苗サイズについての考察. 水産増殖, 23(1):26-32.
- 檜山節久・原健一 (1975) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(クルマエビ). 山口内海水試報, (5):90.
- 檜山節久・原健一 (1975) 秋穂実証漁場(クルマエビ)秋穂地先漁場の生産効果.浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究. 昭和 49 年度別枠研究成果報告, 130-144.
- 檜山節久 (1975) クルマエビ放流種苗サイズについての考察. 水産増殖, 23(1):26-32.
- 檜山節久 (1976) 輸送および種苗の受入れ. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 6.
- 檜山節久 (1976) 考察. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 12-13.
- 檜山節久 (1976) 放流および追跡調査. 1.人工干潟. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 18-25.
- 檜山節久 (1976) 生産効果. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 29-35.
- 檜山節久 (1976) 考察. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 36-40.
- 檜山節久 (1977) クルマエビの種苗放流による生産効果. 日本水産学会編, 種苗の放流効果. 水産学シリーズ, (12):58-101.
- 檜山節久 (1977) 総括報告. 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 1-11.
- 檜山節久・石川佑司・多胡信良 (1977) 昭和 52 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 4-6.
- 檜山節久・原健一 (1978) クルマエビ種苗放流の経済効果. 昭和 51 年度指定調査研究,経営流通研究報告書, 1-21.
- 檜山節久・原健一 (1979) クルマエビ種苗放流の経済効果. 昭和 51~53 年度指定調査研究. 経営流通研究総合報告書,1-40.
- 檜山節久 (1980) 瀬戸内海におけるクルマエビ放流事業の現状に関する二,三. 栽培技研, 9(1):81-85.
- 檜山節久 (1981) 瀬戸内海におけるクルマエビ種苗放流事業の現状に関する二・三. 山口内海水試報, (8):199.
- 檜山節久・原健一 (1981) クルマエビ種苗放流の経済効果 (昭和 51・52・53 年度-抄録). 山口内海水試報, (8):197-198.
- 檜山節久 (1985) 徳山地区におけるクルマエビ大型種苗の放流効果について. 山口内海水試報, (13):1-15.
- 檜山節久 (1985) クルマエビの資源量推定について. 山口内海水試報, (13):17-23.
- 檜山節久 (1986) 陸上水槽. クルマエビ栽培漁業の手引き検討委員会編, クルマエビ栽培漁業の手引き.さいばい叢書, 社団法人日本栽培漁業協会,東京, 137-148.
- 檜山節久 (1986) 第 3 編種苗放流から収穫まで. クルマエビ栽培漁業の手引き検討委員会編, クルマエビ栽培漁業の手引き. さいばい叢書, 社団法人日本栽培漁業協会,東京, 163-171.
- 檜山節久・林泰行・吉岡貞範・石田雅俊・有江泰章・林功・川崎義一・小川浩・正樹泰昭・外間源治・高橋善弥 (1989) 周防灘における甲殻類の資源管理モデル. 何世界区ブロック媒介漁業研究会報, (21):107-114.
- 檜山節久・東海正・正木康昭・林泰行・木村博・家内大成 (1990) エビ建網の網目選択性試験について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (22):84-92.
- 檜山節久 (1994) 人工礁造成事業調査(相島地区). 平成 5 年度山口外海水試事報, 68-70.
- 檜山節久・木村博・三村勝則 (2001) 平成 11 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査. 平成 11 年度山口水研事報, 361-362.
- 檜山節久 (2001) 放流効果の推定. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック, クルマエビ), II. 119-122.

- 日吉春一 (1956) 漁業技術改良普及事業. 昭和 29 年度静岡水試事報, 288-290.
- HOLLAND K.N. and R.J.BORSKI (1993) A palatability bioassay for determining ingestive stimuli in the marine shrimp *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 109(2):153-164.
- HOLTHUIS L.B. (1950) FAO Species catalog. Vol.1-Shrimp and Prawns of the World. FAO Fisheries Synopsis No.125. FAO,Rome,Italy, 271 pp.
- HOLTHUIS L.B. and E.GOTTLIEB (1958) An annotated list of the decapod Crustacea of the Mediterranean coast of Israel, with an appendix listing the Decapoda of the eastern Mediterranean. *Bull.Res.Coun.Israel*, 7B (1-2):1-126.
- HOLTHUIS L.B. (1980) Shrimps and prawns of the world.FAO Species Catalogue.Vol.1.An annotated catalogue of species of interest to fisheries. FAO Fish.Synop, 125(1):1-271.
- 本田和民・花本栄二・三谷勇・中田尚宏・杉浦暁裕・田内大・今井利為 (1985) 東京内湾水産資源実態調査.生物調査. 昭和 59 年度神奈川水試業務概要, 40-42.
- 本田和民・花本栄二・三谷勇・中田尚武・杉浦暁裕・金杉佐一・今井利為 (1986) 東京内湾水産資源実態調査. 昭和 60 年度神奈川水試業務概要, 44.
- 本田恵二・向井龍男 (1998) 種苗生産・放流の概要. 平成 8 年度香川県水産業改良普及活動業績集, (18):69-72.
- 本田直久 (1992) 平成 3 年度漁業白書の概要. 水産振興, 26(6):1-66.
- HONG D.I. (1977) Studies on sexual maturation and spawning in prawn, *Penaeus japonicus*. 東京大博士論文.
- 本間昭郎 (1983) 栽培漁業の課題. 水産海洋研究会報, (43):71.
- 本間昭郎 (1984) 魚類の増養殖研究. 水産土木, 20(2):37-43.
- 本間昭郎 (1989) 飼付け型栽培漁業の試み. 水産振興, 23(7):1-30.
- 本間昭郎 (1993) 養殖漁業の将来展望. 水産海洋研究, 57(2):68-70.
- 本間仁一・白幡隆・長野正洋 (1985) くるまえば種苗生産. 昭和 57・58 年度山形栽セ事報, 12-15.
- 本間仁一・白幡隆・忠鉢孝明 (1985) くるまえば種苗生産. 昭和 57・58 年度山形栽セ事報, 40-43.
- 本城凡夫 (1997) 日本の増養殖漁場における漁場管理の現状と今後の方向. 海外漁業協力財団.海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):146-156.
- HOPKINS J.S., HAMILTON R.D., SANDIFER P.A., BROWDY C.L. and A.D.STOKES (1993) Effect of water exchange rate on production,water quality,effluent characteristics and nitrogen budgets of intensive shrimp ponds. *J.World Aquacult. Soc.*, 24:304-320.
- HOPKINS J. S., SANDIFER P.A., BROWDY C.L. and J.D.HOLLOWEY (1996) Comparison of exchange and no-exchange water management strategies for the intensive pond culture of marine shrimp. *J.Shellfish Res.*, 15:441-445.
- 堀江保 (1990) 事例-私の記帳法. クルマエビ. 養殖, 27(5):67-69.
- 堀江保 (1992) クルマエビのピブリオ病-1.発生状況. 平成 4 年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.5.
- 堀江保 (1997) クルマエビ養殖の経営環境と課題. 養殖(臨時増刊), 34(12):280-283.
- 堀木信男・濱地寿生・翠川忠康・辻村明夫 (1998) 和歌山県. 平成 9 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書, 1-8.
- HORNE M.T. ,POY M. and P. PRANTHANPIPAT (1995) Control of vibriosis in black tiger shrimp, *Penaeus monodon*, vaccination. SHARIFF M.,ARTHUR J.R.& R.P.SUBASINGHE eds., *Diseases in Asian Aquaculture II*. Fish Health Section, Asian Fisheries Society, Philippines, pp.459-467.
- HOSE J.E. and D.V.LIGHTNER (1980) Absence of formaldehyde residues in penaeid shrimp exposed to formalin. *Aquaculture*, 21(2):197-201.
- HOSSAIN M.A., YAMASAKI S. and H.HIRATA (1990) Studies on the rearing of prawn larvae *Penaeus japonicus* BATE,under bioconversion system- I . Culture and nutritive value of marine *Chlorella* sp. *Min.Rev.Data File Fish.Res.*, (6):2.
- HOSSAIN M.A., YAMASAKI S. and H.HIRATA (1990) Studies on the rearing of prawn larvae *Penaeus japonicus* BATE, under bioconversion system- II . Culture and nutritive value of marine diatom, *Cheatoceros* sp. *Min.Rev.Data File Fish. Res.*, (6):2.
- HOSSAIN M.A., YAMASAKI S. and H.HIRATA (1990) Studies on the rearing of prawn larvae *Penaeus japonicus* BATE, under bioconversion system-III. Mass culture of marine rotifer,*Brachionus plicatilis*. *Min.Rev.Data File Fish.Res.*, (6):3.
- HOSSAIN M.A., YAMASAKI S. and H.HIRATA (1990) Studies on the rearing of prawn larvae *Penaeus japonicus* BATE, under bioconversion system-IV.Culture of marine Copepoda,*Tigriopus japonicus* MORI. *Min.Rev.Data File Fish.Res.*, (6):3.
- HOSSAIN M.S., OTTA S.K., KARUNASAGAR I. and I.KARUNASAGAR (2001) Detection of white spot syndrome virus (WSSV) in wild captured shrimp and in non-cultured crustaceans from shrimp ponds in Bangladesh by polymerase chain reaction. *Fish Pathol.*, 36(2):93-95.

- 芳養晴雄・檜山晃晴 (1994) 資源管理型漁業推進総合対策事業-広域回遊資源: タチウオ・ハモ. 平成 4 年度和歌山水試事報, 47-56.
- 堀隆喜 (1977) 地域内における漁業の概要. 昭和 50 年度大分浅海事報, 135-137.
- 堀隆喜・井口弘章・伊島時郎 (1979) 普及指導の概要. 昭和 51 年度大分浅海事報, 122-129.
- 堀隆喜 (1981) 水産業改良普及事業. 昭和 54 年度大分浅海事報, 131-134.
- 堀口健治 (1987) 水産物貿易の構造と問題点. 漁業経済研究, 31(2・3):72-93.
- 堀口健治 (1992) 水産物貿易. 小野征一郎・堀口健治編, 日本漁業の経済分析-縮小と再編の理論. 農林統計協会, pp.75-97.
- 堀木信男・阪本俊雄 (1986) 底魚資源調査. 昭和 59 年度和歌山水試事報, 33-35, 資料:127-130.
- 堀木信男・吉村晃三・翠川忠康・神田和明 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(クルマエビ). 平成 8 年度和歌山水試事報, 150-160.
- 堀木信男・濱地寿生・翠川忠康・辻村明夫 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(クルマエビ). 平成 9 年度和歌山水試事報, 122-131.
- 堀田正勝・向井良昭 (1982) 種苗生産研究. 7.クルマエビ. 昭和 55 年度広島水試事報, 31-33.
- 星野暹 (1966) 車エビ養殖について. 養殖, 3(6):85.
- 細川穹・吉村憲一・河根三雄 (1983) クルマエビ種苗生産. 昭和 56 年度愛知栽協業報, 9-13.
- 細川穹・吉村憲一・河根三雄 (1984) クルマエビ種苗生産. 昭和 57 年度愛知栽協業報, 7-20.
- 細川恭史 (1996) 環境の改善をはかり漁業生産に寄与するために. 水域での浄化について. 岡市友利・小森星児・中西弘編, 瀬戸内海の生物資源と環境. 恒星社厚生閣, pp.158-168.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-はじめに. 養殖, 34(1):73-74.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-1尾飼い試験で得られた情報. 養殖, 34(2):107-108.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-池入れ直後の施肥の必要性. 養殖, 34(3):1223-123.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-適正投餌量の把握. 養殖, 34(4):130-131.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-在庫尾数の把握. 養殖, 34(6):132-133.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-斃死のメカニズム. 養殖, 34(7):126-127.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-ビブリオ病対策. 養殖, 34(8):124-125.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-農薬への対応について. 養殖, 34(9):121-123.
- 堀内洋一郎 (1997) クルマエビ-新たなクルマエビ養殖の展開. 養殖, 34(10):129-130.
- 宝月欣二 (1971) 海の生態. 共立出版.生態学への招待, (6):1-171.
- HOWE N.R., QUAST W.D. and L.M.COOPER (1982) Lethal and sublethal effects of simulated sail brine effluent on adults and subadults of the shrimps *Penaeus setiferus* and *P.aztecus*. Marine Biol., 68(1):37-48.
- HOWELL B.K. and A.D.MATHEWS (1991) The carotenoids of wild and blue disease affected farmed tiger shrimp (*Penaeus monodon*, FABRICUS). Comp.Biochem.Physiol., 98B:375-379.
- HUNTER J. and R.J.FELLER (1987) Immunological dietary analysis of two penaeid shrimp species from a South Carolina tidal creek. J.Exp.Mar.Biol.Ecol., 107(1):61-70.
- HUS H.B. and H.J.KIM (1996) Effect of temperature and salinity on hatching rate of fertilized egg in fleshy shrimp, *Penaeus chinensis*. J.Korean Fish.Soc., 29(1):1-8.
- HSU H.C., LO C.F., LIU S.C., LIU K.F., PENG S.E., CHANG Y.S., CHEN L.L., LIU W.L. and G.H.KOU (1999) Studies on effective PCR screening strategies for white spot syndrome virus (WSSV) detection in *Penaeus monodon* brooders. Dis.Aquat.Org., 39(1):13-19.
- 胡静珊 (1994) 江蘇省近海主要經濟魚類の資源状況とその合理的開発利用. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):28-33.
- HSU T.S. and S.Y.SHIAU (1998) Comparison of vitamin C requirement for maximum growth of grass shrimp, *Penaeus monodon*, with L-ascorbyl-2-monophosphate-Na and L-ascorbyl-2-monophosphate-Mg. Aquaculture, 163(1・2):203-213.
- HSU T.S. and S.Y.SHIAU (1999) Influence of dietary ascorbate derivatives on tissue copper, iron and zinc concentrations in grass shrimp, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 179(1-4):457-464.
- HSU Y.L., YANG Y.H., CHIN Y.C., TUNG M.C. WU J.L., ENGELKING M.H. and J.C.LEONG (1995) Development of an *in vitro* subculture system for the oka organ (Lipoid tissue) of *Penaeus monodon*. Aquaculture, 136(1・2):43-55.
- 黄捷・于佳・宋晓玲・孔杰・楊叢海 (1995) カン状ウイルス性皮下及び造血細胞の壊死-タイショウエビ突発流行病と病理学. 海洋水産研究, 16(1):1-10.
- HUANG J., SONG X., YU J. and C.H.YANG (1995) Baculoviral hypodermal and hematopoietic necrosis-study on the pathogen and pathology of the explosive epidemic disease of shrimp. Marine Fisheries Research., 16(1):1-10.

- 黄捷・于佳・宋晓玲・孔杰・楊叢海 (1995) 単クローン抗体酵素連鎖性免疫技術によるエビ皮下及び造血組織壊死病の病原とその感染経路の検定. 海洋水産研究, 16(1):40-50.
- 黄捷・于佳・宋晓玲・孔杰・楊叢海 (1995) 対蝦皮下及び造血組織壊死杆状ウイルスの精細結構,核酸,多太及血清学研究.1993-1994年山東省中国対蝦育苗期病毒感染の流行病学調査. 海洋水産研究, 16(1):83-90.
- HUANG H.J. (1983) Factors affecting the successful culture of *Penaeus stylirostris* and *Penaeus vannamei* at an estuarine power plant site: temperature, salinity, Inherent growth variability, damselfly nymph predation, population density and distribution, and polyculture. Ph.D.thesis, Texas A & M Univ., 221 pp.
- 黄捷・郭学武 (2000) 中国における海洋生物資源の開発及び保全の発展と展望. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (4):8-16.
- 黄捷 (2000) エビ病原ウイルスの検出技術開発の現状. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (4):164-181.
- HUANG J., SONG X., YU J. and C.H.YANG (1995) Baculoviral hypodermal and hematopoietic necrosis: study on the pathogen and pathology of the explosive epidemic disease of shrimp. Mar.Fish Res., (16):1-10.
- HUANG J., CAI S., WANG C., YU J. and C.YANG (1995) Study on artificial infection for *Penaeus chinensis* by the pathogen of the explosive epidemic disease of shrimp. Mar.Fish.Res, (16):51-58.
- HUANG W-Y., WANG J-K. and T. FUJIMURA (1976) A model for estimating prawn populations in ponds. Aquaculture, 8(1):57-70.
- HUBERMAN A. (2000) Shrimp endocrinology: A review. Aquaculture, 191(1-3):191-208.
- HUDHES D.A. (1966) Investigations of the "nursery areas" and habitat preferences of juvenile penaeid prawns in Mozambique. J.Appl.Ecol, (3):349-354.
- HUDHES D.A. (1969) Responses to salinity changes as a tidal transport mechanism of pink shrimp, *Penaeus duorarum*. Biol. Bull., (136):43-53.
- HUDHES D.A. (1969) On the mechanisms underlying tide associated movements of *Penaeus duorarum* Burkenroad. FAO Fish.Re pt., (3):867-874.
- HUDHES D.A. (1972) On the endogenous control of tide-associated displacements of pink shrimp, *Penaeus duorarum* Burkenroad. Biol.Bull., 142:271-280.
- HUDSON D.A.and R.J.G.LESTER (1992) Relationships between water quality parameters and ectocommensal ciliates on prawns (*Penaeus japonicus* BATE). Aquaculture, 105(3・4):269-280.
- HUFF A. and S.P. COBB (1979) Penaeid and sergestoid shrimps (Crustacea: Decapoda). Mem.Hourglass Cruises, 5(4):1-102.
- HUGHES D.A. (1969) Responses to salinity changes as a tidal transport mechanisms of pink shrimp, *Penaeus duorarum*. Biol.Bull., 136(1):43-53.
- HUNTER B., MAGARELLI Jr.P.C., LIGHTNER D.V. and L.B. COLVIN (1979) Ascorbic acid-depndent collagen formation in penaeid shrimp. Comp.Biochem.Physiol., 64B:381-385.
- 兵庫県 (1999) クルマエビ. 平成 10 年度栽培漁業効率化推進技術開発事業報告書, 30-39.
- 兵庫県 (1999) クルマエビ. 平成 10 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 12 pp.
- 兵庫県 (2000) クルマエビ. 平成 11 年度栽培漁業効率化推進技術開発事業報告書, 50-56.
- 兵庫県栽培漁業センター (1995) 事業の実績概要. 平成 4・5 年度兵庫栽セ事報, 78.
- 兵庫県栽培漁業センター (1995) クルマエビの種苗生産施設について. 平成 4・5 年度兵庫栽セ事報, 191.
- 兵庫県栽培漁業センター (1997) 事業の実績概要. 平成 6・7 年度兵庫栽協事報, 3.
- 兵庫県栽培漁業センター (1997) 事業の実績概要. 平成 6・7 年度兵庫栽協事報.
- 兵庫県水産課・兵庫県水産試験場 (1969) 昭和 43 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書.
- 兵庫県水産課・兵庫県水産試験場 (1970) 昭和 44 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書.
- 兵庫県水産課・兵庫県水産試験場 (1971) 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1-44,
- 兵庫県水産課・兵庫県水産試験場 (1972) 昭和 46 年度瀬戸内海栽培漁業事業報告書.
- 兵庫県水産試験場・兵庫県水産課・洲本農林水産事務所 (1985) 昭和 58 年度クルマエビ種苗の中間育成,放流現況調査の概要. 昭和 58 年度兵庫水試事報, 262-270.
- 兵庫県水産試験場 (2001) 兵庫県. 平成 11・12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 兵庫 1-兵庫 9.
- 兵庫県水産試験場 (2001) 各府県調査報告(兵庫県). 平成 7~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(瀬戸内海東部ブロック), 113-139.

- I NYOMAN Adiasmara Giri・金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1996) クルマエビの成長と肝臓チアミン含量に対する飼料性チアミンの影響(英文). 水産増殖, 44(3):325-333.
- I NYOMAN Adiasmara Giri・金澤昭夫・手島新一・越塩俊介 (1996) クルマエビの成長と肝臓チアミンピロリン酸含量に対する飼料性チアミンおよび炭水化物の相互作用(英文). 水産増殖, 44(3):335-343.
- 市来忠彦 (1981) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和 54 年度長崎水試事報, 228-229.
- 市来忠彦 (1982) 組織的調査研究活動推進事業(昭和 54～56 年度). 昭和 56 年度長崎水試事報, 272-274.
- 市村武美・松居暢夫・石川泰久・中山恒武・加藤和夫 (1981) 座談会, 経営の決め手は販売にあり(下). 養殖, 18(6):44-56.
- 井戸津都史 (1975) 貝けた網漁業調査. 昭和 48・49 年度愛知水試業報, 289-296.
- 井戸津都史・海幸丸乗組員 (1975) 貝けた網漁業調査. 昭和 50 年度愛知水試業報, 103-126.
- 井戸津都史 (1981) 貝けた網漁業試験. 昭和 55 年度愛知水試業報, 24-27.
- 井戸津都史・海幸丸乗組員 (1983) 貝けた網漁業試験. 昭和 57 年度愛知水試業報, 41-45.
- IDYLL C.P. and A.C. JONES (1965) Abundance and distribution of pink shrimp larvae and postlarvae in South-west Florida waters. U.S.Fish.Wildl.Serv.,Circ., 230:25-27.
- IDYLL C.P. and J.L.MUNRO (1965) Abundance and distribution of pink shrimp larvae of the Tortugas Shelf of Florida, U.S.Fish.Wildl.Serv.,Circ., 246,19.
- IDYLL C.P. (1971) Induced maturation of ovaries and ova in pink shrimp. Comm.Fish.Rev., 33:20.
- 五十嵐マルコ・ソニア フランコ・橘高二郎 (1990) イセエビ,ロブスターおよびクルマエビの幼生飼育水の細菌相. 平成 2 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.105.
- IGARASHI M.A., ROMERO S.F. and J.KITAKA (1992) Bacteriological character in the culture water of penaeid, homarid and palinurid larvae. 日水誌, 57(12):2255-2260.
- 五十嵐隆・余語滋 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 94-98.
- 五十嵐隆・余語滋 (2000) クルマエビ中間育成. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 99-100.
- 井口政紀 (1987) 栽培漁業事業化促進事業指導事業(高松地域栽培パイロット事業指導事業). 昭和 61 年度香川水試事報, 57-59.
- 井口雅陽・五十嵐隆 (2000) イラストマータグによるクルマエビの標識. 山形水試研報, (1):7-10.
- 井伊明 (1972) 水産種苗生産配付事業. 事業概要. 昭和 45 年度兵庫水試事報, 289-290.
- 飯田全三 (1989) エビ類の餌付け用飼料とその使い方. 養殖, 26(4):60-63.
- 飯田貴次 (1996) 魚類の生体防御. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.9-20.
- 飯田貴次・延東真・酒井正博・吉田照豊 (2001) シンポジウム, 最近話題の魚類の原虫病および寄生虫病. 魚病研究, 36(4):247-248.
- 飯田義春 (1982) クルマエビ栽培漁業の成果. さいばい, (22):18-24.
- 飯島憲章・鹿山光 (1985) 魚類における脂質の運搬および貯蔵. 鹿山光編, 水産動物の筋肉脂質. 水産学シリーズ, (57):68-80.
- 飯倉敏弘 (1975) クルマエビの資源培養に関する研究-動的物理環境と種苗の行動. 浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):32-37.
- 飯倉敏弘 (1975) クルマエビ稚仔の流れに対する反応と耐性について. 水産増殖, 22(3):124-127.
- 飯倉敏弘 (1975) 秋穂実証漁場-動的物理環境と種苗の行動. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):32-37.
- 飯倉敏広 (1993) 日本海ブロックのクルマエビ種苗放流事業実態調査報告. 日本海ブロック試験研究集録, (17):115-119.
- 飯倉敏弘・上北征男 (1997) 波が稚えびの移動・分散に及ぼす影響について. クルマエビ放流技術の実用化に関する研究報告, 48-52.
- 飯尾義春 (1982) クルマエビ栽培漁業の成果. 昭和 56 年度漁村青壮年実績発表全国大会資料, pp.105-112.
- 飯尾義春 (1982) クルマエビ栽培漁業の成果. さいばい, (22):18-24.
- 飯沢正人 (1996) メキシコの水産養殖事情(上). 養殖, 33(5):118-121.
- 伊島時郎・小野真一・田染博章・国武和人 (1983) 特定水産動物育成調査事業. 昭和 55 年度大分浅海事報, 74-84.
- 池田郁夫 (1962) 黄海におけるコウライエビの漁況について. 西海区水研研報, (27):1-24.
- 池田伸也・八木庸夫・浜田英嗣 (1988) 長崎以西底曳網における生産と市場の対応関係. 長崎大水産研報, (64):53-67.
- 池田徹 (1994) 放流クルマエビ追跡調査について. 平成 4 年度新潟栽セ業研報, 106.
- 池端正好 (1983) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 58 年度秋田栽培セ事報, 53-57.
- 池端正好 (1984) クルマエビ種苗の潜砂試験と害敵試験について. 昭和 57 年度秋田栽培セ事報, 90-92.

- 池端正好 (1985) 秋田県におけるクルマエビ漁業に認められた特異現象. 日本海ブロック試験研究収録, (6):29-35.
- 池端正好・杉山秀樹・山田潤一 (1986) 男鹿周辺海域総合開発事業調査. 昭和 59 年度秋田水試・栽セ事報, 197-201.
- 池ノ上宏 (1976) 中近東の増養殖③.クェイト科学研. 養殖, 13(12):68-70.
- 池ノ上宏 (1976) 中近東の増養殖. クェイト科学研究所. 養殖, 14(2):114-116.
- 池ノ上宏 (1977) 中近東の増養殖. バハレンの水試. 養殖, 14(4):52-54.
- 池ノ上宏 (1979) サウジアラビア紅海岸における養殖の可能性. 養殖, 16(5):74-77.
- 池ノ上宏 (1991) タイ国養殖ホットライン②.エビ養殖の波及効果. 養殖, 28(2):132-135.
- 池ノ上宏 (1992) タイ国養殖ホットライン⑩. 養殖, 29(1):86-89.
- 池末弥 (1963) 有明海におけるエビ・アミ類の生活史,生態に関する研究. 西海区水研研報, (30):1-124.
- 池永弥 (1967) コウライエビの増養殖に関する研究-I.生態と漁業. 水産増殖, 15(2):1-5.
- 池末弥・木村重人・山下康夫 (1967) コウライエビの増養殖に関する研究-III.有明海への親エビの移動試験および親エビ飼育の 1,2例. 水産増殖, 15(2):33-42.
- 池末弥 (1968) 有明海におけるエビ・アミ類の生活史.生態に関する県境. 西海区水研研報, (30):1-124.
- 池永弥 (1980) 有明海のエビ・カニ・貝類. 海洋科学, 12(2):97-104.
- 池脇義弘・斎浦耕二 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業(抄録). 平成 11 年度徳島水試事報, 54.
- 池脇義弘 (2001) 放流効果把握調査(付表). 平成 7~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(瀬戸内海東部ブロック), 57-74.
- IKEYA T.,PERSSON P.,KONO M.and T.WATANABE (2001) The DD5 gene of the decapod crustacean *Penaeus japonicus* encodes a putative exoskeletal protein with a novel tandem repeat structure. Comp.Biochem.Physiol., 128B:379-388.
- 今田克 (1978) 水産養殖へのカロテノイドの応用. マダイ・甲殻類. 日本水産学会編, 水産動物のカロテノイド. 水産学シリーズ, (25):108-122.
- 今田克 (1979) クルマエビ用配合飼料の生い立ちと経営に及ぼす影響. 養殖, 16(5):36-39.
- 今田良造 (1985) 魚病対策指導事業. 昭和 58 年度福井水試事報, 97-99.
- 今福久・清田圭一郎・松岡貴浩・水本哲郎 (1999) 種苗生産事業. クルマエビ. 平成 10 年度熊本栽協事報, 49-53.
- 今福久・坂井幸弘・安斎貴文・清田圭一郎・山下武志・水本哲郎 (2000) 種苗生産事業. クルマエビ. 平成 11 年度熊本栽協事報, 53-58.
- 今福久・安斎貴文・中村真敏 (2001) 種苗生産事業. クルマエビ. 平成 12 年度熊本栽協事報, 41-44.
- 今井千文 (1999) 資源管理における体長制限の有効性. 月刊海洋, 号外(17):159-163.
- 今井利為 (1974) 金田湾のクルマエビについて. 神奈川水試資料, (221):1-15.
- 今井利為 (1979) 昭和 53 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 神奈川水試資料, (262):1-23.
- 今井利為 (1979) 神奈川県のクルマエビ漁獲状況と 1975 年,1976 年金田湾刺網漁場におけるクルマエビ資源解析. 神奈川水試相模湾資源環境調査報告書-II. 資源生物部門, 225-234.
- 今井利為 (1980) 昭和 54 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 神奈川水試資料, (267):1-18.
- 今井利為 (1981) 昭和 55 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 神奈川水試資料, (276):1-15.
- 今井利為 (1982) 神奈川県におけるクルマエビ種苗放流の評価. 神奈川水試研報, (4):53-62.
- 今井利為 (1986) 東京湾クルマエビの研究-I. 産卵期・生物学的最小形. 神奈川水試研報, (7):1-4.
- 今井利為 (1987) 東京湾クルマエビの研究-II. 移動. 神奈川水試研報, (8):9-15.
- 今泉圭之輔 (1972) 潮の干満にともなうクルマエビ稚エビの行動に関する実験. 栽培技研, 1(2):47-54.
- 今村奈良臣 (1988) 私の読み方. 今村奈良臣・陣内義人編, 新海洋時代の漁業. 農山漁村文化協会.食糧・農業問題全集, (19):313-317.
- 今村茂生・梶田拓治 (1972) クルマエビ種苗量産技術開発. 人工的有機懸濁物を使用した初期飼育. 栽培技研, 1(2):35-46.
- 今村茂生 (1974) 台湾産クルマエビの採卵用親エビとしての利用価値について. 栽培技研, 3(1):77-85.
- 今村知弘 (1978) クルマエビ-種苗生産. 養殖, 15(6):117-118.
- 今村知弘 (1978) クルマエビ-自家種苗生産. 養殖, 15(7):122-123.
- 今村知弘 (1978) クルマエビ-中間育成の方法. 養殖, 15(8):105-106.
- 今村知弘 (1978) クルマエビ-堅実な養殖とは. 養殖, 15(9):100-104.
- 今村知弘 (1979) クルマエビ-集約・半集約生産方式. 養殖, 16(3):108-109.
- 今村知弘 (1997) クルマエビ養殖における自家配合飼料の利用. 養殖, 34(5):168-172.
- 井本有治・小川浩 (1994) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査(平成 3 年度). 平成 3・4 年度大分浅海漁試事報, 24-31.
- 井本有治・鳥島嘉明 (1996) 保護水面管理事業.2.藻場保護水面. 平成 6 年度大分浅海漁試事報, 70-73.
- 井本有治・上城義信 (1997) 保護水面管理事業.2.藻場保護水面. 平成 7 年度大分浅海漁試事報, 66-71.
- 伊奈和夫 (1980) 魚類の摂餌刺激物質について. 水産土木, 17(1):59-65.

- 伊奈和夫 (1986) 植物蛋白質を利用した魚類用配合飼料①. 水産の研究, 5(1):85-91.
- INABA A. (1963) Fauna and Flora of the Inland Sea of Seto. Mukaishima Mar.Biol.Lab., Hiroshima, pp.1-352.
- 稲葉明彦編 (1988) 瀬戸内海の生物相 (II). 増補改訂. 広島大学向島臨海実験所, 475pp.
- 稲田善和・浜崎稔洋・福永剛・筑紫康博・的場達人 (1999) 養殖水産動物保険対策推進事業. 平成 9 年度福岡水技事報, 383-384.
- 稲田善和・濱崎稔洋・福永剛・筑紫康博・篠原直哉 (2000) 養殖水産動物保険対策推進事業. 平成 10 年度福岡水技事報, 344-345.
- 稲田善和・濱崎稔洋・福永剛・筑紫康博・篠原直哉 (2001) 魚類防疫体制推進整備事業. 平成 11 年度福岡水技事報, 335-338.
- 猪野峻 (1970) タイ国におけるクルマエビ養殖. 養殖, 7(10):118-121.
- 猪子嘉生・溝上昭男・高場稔 (1981) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 54 年度広島水試事報, 37-39.
- 猪子嘉生・溝上昭男・高場稔 (1982) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 55 年度広島水試事報, 45-47.
- 井上潔・三輪理・大迫典久・中野平二・木村武志・桃山和夫・平岡三登里 (1994) 1993 年に西日本で発生した養殖クルマエビの大量死. 電顕観察による原因ウイルスの検出. 魚病研究, 29(2):149-158.
- 井上潔・山野恵佑・池田訓茂・木村武志・中野平二・桃山和夫・小林淳・宮寫成壽 (1996) クルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の原因ウイルスPROV(Penaetid rod-shaped DNA virus)(英文). 魚病研究, 31(1):39-45.
- 井上潔 (1996) ウイルス病の特徴と対策のポイント. 養殖, 33(6): 52-55
- INOUE K., YAMANO K., IKEDA N., KIMURA T., NAKANO H., MOMOYAMA K., KOBAYASHI J. and S.MIYAJIMA (1998) The penaeid Rod-shaped DNA virus(PRDV), which causes penaeid acute viremia(PAV). Fish Pathol., 33(2):95-96.
- 井上実 (1978) 魚の行動と漁法. 恒星社厚生閣, 211 pp.
- 乾政秀 (1998) 漁業と環境-漁業の環境保全とこれからの課題. 水産振興, 32(9):1-58.
- 入江章・小原博義・浜崎稔洋・林宗徳・岩淵光伸・山下輝昌 (1990) 大牟田南部地区地先型増殖場造成事業調査-II. 平成元年度福岡水技事報, 有 8.
- 入江章・福永剛・浜崎稔洋・佐々木和之 (1996) 養殖水産動物保健対策推進事業. 平成 7 年度福岡水技事報, 437-438.
- 入江章・福永剛・浜崎稔洋・筑紫康博 (1998) 養殖水産動物保険対策推進事業. 平成 8 年度福岡水技事報, 369-370.
- 伊勢谷修弘 (1999) 魚類防疫対策事業. 平成 9 年度秋田水産振興セ事報, 334-341.
- 伊勢谷修弘・秋山将・渋谷和治 (2000) 魚類防疫対策事業. 平成 10 年度秋田水産振興セ事報, 297-300.
- 伊勢谷修弘・秋山将 (2000) PCR 法によるクルマエビの PRDV(急性ウイルス血症ウイルス)検査. 平成 10 年度秋田水産振興セ事報, 301-302.
- 伊勢谷修弘・秋山将 (2001) クルマエビの PRDV 検査. 平成 11 年度秋田水産振興セ事報, 195.
- ISHAK M.M., AISAYES A.A. and F.A.ABDEL RAZEK (1980) Bionomics of *Penaeus kerathurus* transplanted into Lake Quarun (Egypt). Aquaculture, 21(4):365-374.
- 石橋喜美子 (1984) 種苗放流効果の判定-I. クルマエビ放流効果の統計的判定. 昭和 59 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.16.
- 石橋喜美子 (1984) 種苗放流効果の判定に関する統計的研究-I. クルマエビの放流効果について. 東海区水研研報, (113):141-155.
- 石橋喜美子・多屋勝雄・小野征一郎 (1987) 年齢階層別にみた水産物消費傾向の解析. 東海区水研研報, (121):13-27.
- 石橋喜美子 (1988) 世帯のパターン別にみた水産物消費傾向の解析. 東海区水研研報, (125):45-57.
- 石田勲 (1966) 砂場を設置したコンクリート池によるクルマエビの飼育. 水産増殖, 14(3):127-133.
- 石田宏一 (1985) 熊本県におけるクルマエビ養殖の現状と問題点. 西海区ブロック藻・介類研究会報, (3):53-57.
- 石田雅俊・米倉忠雄 (1965) クルマエビ幼仔の野外池における飼育密度と成長, 歩留りについて. 昭和 39 年度福岡豊前水試研業報, 112-116.
- 石田雅俊・米倉忠雄 (1967) クルマエビの変態速度と水温について. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 72-74.
- 石田雅俊・米倉忠雄 (1967) 水温降下期におけるクルマエビの浮網生簀内飼育について. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 78-79.
- 石田雅俊 (1967) クルマエビ飼育池における害魚の駆除について. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 83-86.
- 石田雅俊 (1967) 米糠によるクルマエビゾエア期の飼育について. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 87-88.
- 石田雅俊・米倉忠雄 (1967) クルマエビ幼生の配合餌料試験. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 89-92.
- 石田雅俊 (1968) クルマエビ飼育池における害魚の駆除について(チチブの駆除時期). 昭和 42 年度福岡豊前水試研業報, 53-55.
- 石田雅俊 (1969) クルマエビの放流用種苗条件と種苗生産技術研究-I. 昭和 43 年度福岡豊前水試研業報, 34-44.
- 石田雅俊 (1970) クルマエビの放流用種苗条件と種苗生産技術研究-II. 昭和 44 年度福岡豊前水試研業報, 49-64.

- 石田雅俊 (1971) クルマエビの放流用種苗条件と種苗生産技術研究-Ⅲ. 昭和 45 年度福岡豊前水試研業報, 43-54.
- 石田雅俊 (1974) クルマエビ人工種苗の潜砂能力,とくに歩脚の障害との関係について. 栽培技研, 3(2):11-18.
- 石田雅俊・渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1982) クルマエビ種苗生産について. 昭和 55 年度福岡栽漁公社業事報, 25-33.
- 石田雅俊・渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1983) クルマエビ種苗生産について. 昭和 56 年度福岡栽漁公社業事報, 23-30.
- 石田雅俊・瀬川和人・林功 (1984) 福岡県豊前海域における小型底びき網漁業について-昭和 53~57 年の動態と標本船の操業実態調査. 昭和 57 年度福岡豊前水試研業報, 1-20.
- 石田雅俊・瀬川和人 (1984) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 57 年度福岡豊前水試研業報, 84-86.
- 石田雅俊・瀬川和人・中村光治・小林信 (1984) 地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業. 昭和 57 年度福岡豊前水試研業報, 155-158.
- 石田雅俊・瀬川和人 (1985) 福岡県豊前海域における小型定置網(柵網)漁業について-昭和 47~58 年の動態と標本船の操業実態調査. 昭和 58 年度福岡豊前水試研業報, 1-19.
- 石田雅俊・瀬川和人 (1985) 小型底びき網漁業標本船によるエビ類の漁獲について. 昭和 58 年度福岡豊前水試研業報, 20-24.
- 石田雅俊・瀬川和人・中村光治・有江康章 (1985) 地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業-Ⅱ. 昭和 58 年度福岡豊前水試研業報, 174-177.
- 石田雅俊・有江康章 (1988) 福岡県豊前海域における小型機船底びき網漁業について. 操業実態調査および形成調査. 福岡豊前水試研報, (1):1-16.
- 石田雅俊・有江康章 (1988) 福岡県豊前海域における小型定置網漁業について-Ⅲ. 標本船漁獲物の魚種組成および依存度について. 福岡豊前水試研報, (2):15-29.
- 石田雅俊・有江康章・林功 (1988) 漁業高度管理適正化方式開発調査事業. 昭和 62 年度福岡県水試研報, 豊 12-13.
- 石田信正 (1983) クルマエビ. 宮城県長面浦における種苗放流. 水産庁監修, 最新版 つくる漁業. 社団法人資源協会, pp.226-236.
- 石田信一 (1969) 福井県下におけるクルマエビ種苗放流と追跡調査. 水産増殖, 16(6):321-330.
- 石田修・田中邦三・大場俊雄・田中種雄・目黒清美・庄司泰雅 (1985) 館山湾及び勝山地先における魚類群集. 千葉水試研報, (43):19-39.
- 石田陽司・渡辺健一 (1994) 紀伊水道のクルマエビ・クマエビ・ヨシエビ(資源管理型漁業総合対策事業・広域回遊資源調査, 抄録). 平成 4 年度徳島水試事報, 130-131.
- 石田幸生 (1994) 最新魚病対策. 施設的设计・管理魚病対策の要点(海水魚編). 養殖, 31(2):59-62.
- 石田幸生 (1997) 出荷間近の養殖魚飼育管理のポイント(クルマエビ). 養殖, 34(11):59-61.
- 石原元 (2001) ベトナム最新養殖事情. アクアメット, 4(9):4-9.
- 石原昌治 (1990) クルマエビ-3 月の重要管理事項. 養殖, 27(3):136-137.
- 石原昌治 (1990) クルマエビ-適正放養密度の調整. 養殖, 27(4):122-123.
- 石原昌治 (1990) クルマエビ-高水温期出荷の注意点. 養殖, 27(5):139-139.
- 石原昌治 (1990) クルマエビ-池入れまでの整備点検作業. 養殖, 27(6):140-141.
- 石原昌治 (1990) クルマエビ-稚エビの池入れと管理. 養殖, 27(7):121-122.
- 石原昌治 (1990) クルマエビ-高水温時の管理. 養殖, 27(8):130-131.
- 石井金之助・太田逸子 (1969) エビの商品学-世界の海から食卓まで. いさな書房, 208 pp.
- 石井俊雄 (1961) 東京内湾におけるくるまえびについて. 千葉内湾水試報, (3):30-42.
- 石井吉夫 (1981) 三河湾・環境と漁業. 3. 有害物汚染. 東海区水研. さかな, (26):71-82.
- 石井潤・内芝俊之・永井力郎・中尾尚之・石川貴郎 (1989) 保護水面調査(貝類・藻場). 昭和 63 年度三重水技事報, 51-53.
- 石川県 (1977) 昭和 51 年度特定水産動物育成事業報告書. 62 pp.
- 石川県七尾漁業協同組合 (1988) クルマエビ放流事業と効果的運用について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第2分冊, 206-207.
- 石川県西海漁業協同組合 (1988) 富来町小型漁船連合会の活動について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第2分冊, 210-211.
- 石川県水産総合センター (1997) 種苗生産・配布・放流概要. 平成 7 年度石川水産総合センター事報, 179-183.
- 石川県水産総合センター (1998) 種苗生産・配布・放流概要. 平成 8 年度石川水産総合センター事報, 163-167.
- 石川県水産総合センター (1999) 種苗生産・配付・放流概要. 平成 9 年度石川水産総合センター事報, 55-60.
- 石川県水産総合センター (2000) 種苗生産・配付・放流概要. 平成 10 年度石川水産総合センター事報, 61-66.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1978) 石川県. 昭和 52 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(くるまえび班), 1-17.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1978) 富山県. 昭和 52 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(くるまえび班), 19-27.

- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1978) 新潟県. 昭和 52 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(くるまエビ班), 29-40.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1979) 総合要約. 昭和 53 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 1-5.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1979) 新潟県. 昭和 53 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 7-21.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1979) 富山県. 昭和 53 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 23-50.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1979) 石川県. 昭和 53 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 51-74.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1979) 昭和 53 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 74 pp.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1980) 総括報告. 昭和 54 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 1-9.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1980) 新潟県. 昭和 54 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 11-37.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター (1980) 富山県. 昭和 54 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 39-56.
- 石川県増殖試験場・富山県水産試験場・新潟県栽培漁業センター(1980) 石川県. 昭和 54 年度放流技術開発事業報告書, 日本海中部海域(クルマエビ班), 57-88.
- 石川県増殖試験場 (1984) 種苗生産概要. 昭和 57 年度石川増試事報, 5-7.
- 石川県増殖試験場 (1985) 種苗生産概要. 昭和 58 年度石川増試事報, 4-6.
- 石川県増殖試験場 (1986) 種苗生産概要. 昭和 59 年度石川増試事報, 5-7.
- 石川県増殖試験場 (1987) 種苗生産放流概要. 昭和 60 年度石川増試栽セ事報, 6-9.
- 石川県増殖試験場 (1988) 種苗生産放流概要. 昭和 61 年度石川増試栽セ事報, 5-8.
- 石川県増殖試験場 (1989) 種苗生産放流概要. 昭和 62 年度石川増試栽セ事報, 3-6.
- 石川県増殖試験場 (1990) 種苗生産・配付・放流概要. 昭和 63 年度石川増試栽セ事報, 3-6.
- 石川県増殖試験場 (1991) 種苗生産・配付・放流概要. 平成元年度石川増試事報, 3-6.
- 石川県増殖試験場 (1992) 種苗生産・放流概要. 平成 2 年度石川増試事報, 3-7.
- 石川県増殖試験場 (1993) 種苗生産・配付・放流概要. 平成 3 年度石川増試事報, 3-7.
- 石川県増殖試験場 (1994) 種苗生産・配付・放流概要. 平成 4 年度石川増試事報, 3-7.
- 石川県増殖試験場 (1995) 種苗生産・配付・放流概要. 平成 5 年度石川増試事報, (3)-(6).
- 石川宣次 (1987) 中国上海水産加工技術開発センターを訪ねて. 東海区水研. さかな, (38):103-107.
- 石川貞二 (1985) 鳥羽市における水産業の現状と問題点. 水産海洋研究会報, (49):45-48.
- 石川学・手島新一・金澤昭夫・T.J.LANGDON (1993) クルマエビ幼生の発育段階における体脂肪酸組成の変動. 平成 5 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 石川学・手島新一・金澤昭夫・越塩俊介 (1995) クルマエビにおける酸化クロムとコレスタンの排泄変動. 平成 7 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.78.
- 石川学・手島新一・金澤昭夫・越塩俊介 (1996) Evacuation of inert markers in digestibility determination, 5 α -cholestane and chromic oxide, in the prawn *Penaeus japonicus*. Fish.Sci., 62(2):229-234.
- 石川学・手島新一・越塩俊介・金澤昭夫 (1996) クルマエビにおけるコレスタンの消化管内挙動. 平成 8 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 石川学・手島新一・越塩俊介・金澤昭夫 (1997) クルマエビ幼生における飼料脂肪酸およびコレステロールの吸収と蓄積. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.135.
- 石川学・手島新一・越塩俊介 (2000) 水棲動物における反応曲面による三大栄養素の組成と成長-VI. クルマエビの脂質の蓄積に及ぼす三大栄養素エネルギー比. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.134.
- 石川学・手島新一・越塩俊介 (2000) 水棲動物における反応曲面による三大栄養素の組成と成長-VII. クルマエビの脂肪酸組成に及ぼす三大栄養素エネルギー比の影響. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.134.
- 石川佑司 (1976) 漁場環境, 1.物理的環境. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 1-2.
- 石川佑司・吉本幸雄 (1976) 漁場環境. 大分県. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 1-18.
- 石川佑司・吉本幸雄 (1976) 輸送および種苗の受入れ. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 19-21.
- 石川佑司・吉本幸雄 (1976) 放流および追跡調査. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 22-30.
- 石川佑司 (1976) 生産効果. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書, 31-38.
- 石川佑司・ほか 5 名 (1979) 昭和 51 年度放流技術開発事業-クルマエビ班総合報告書. 昭和 51 年度大分浅海調査研究報告, 10(1):1-28.

- 石川佑司・吉武肇 (1981) グリーンカットに関する試験-II. 各種水産動植物に対する影響. 昭和 54 年度大分浅海
事報, 9-14.
- 石川佑司 (1984) 地域栽培養殖推進活動パイロット事業. 昭和 58 年度大分浅海事報, 30.
- 石川佑司 (1986) 宇佐市長洲地先におけるクルマエビ放流後の追跡調査結果. 大分県水産関係研究者協議会研
究発表要旨-I., p.10.
- 石川佑司・伊藤龍星 (1992) 人工礁漁場造成事業効果調査. 平成 2 年度大分浅海漁試事報, 86-88.
- 石川佑司・伊藤龍星 (1992) 浅海域開発実験礁効果調査. 平成 2 年度大分浅海漁試事報, 89-96.
- 石川佑司・田染博章 (1984) 地域栽培養殖推進活動パイロット事業. 昭和 58 年度大分浅海事報, 30.
- 石川雄介・勝山邦夫 (1963) クルマエビ種苗育成試験. 昭和 37 年度岡山水試事報, 88-92.
- 石川雄介・勝山邦夫・三宅与志雄 (1964) クルマエビ種苗育成試験. 昭和 38 年度岡山水試事報, 78-90.
- 石川雄介 (1965) クルマエビ種苗育成試験. 昭和 39 年度岡山水試事報, 76-78.
- 石川雄介・星野進 (1965) 車エビの種苗生産②. 養殖, 2(8):78-79.
- 石川雄介 (1967) クルマエビ-親エビ確保と種苗対策. 養殖, 4(3):26-27.
- 石川雄介 (1967) 養殖クルマエビの鰓に着生する糸状細菌について. 魚病研究, 2(1):68-72.
- 石川雄介 (1968) 養殖クルマエビのカビ感染に因る鰓の黒変について. 魚病研究, 3(1):34-38.
- 石川雄介 (1969) 稚クルマエビの「藻付着病」. 昭和 43 年度指定調査研究魚病研究結果報告書(岡山水試), pp.11-15.
- 石川雄介 (1969) 稚クルマエビの「藻付着病」(抄録). 昭和 43 年度岡山水試事報, 175.
- 石丸克也・室賀清邦・赤川昌世 (1993) クルマエビのビブリオ病原菌 (*Vibrio* sp. PJ) の同定. 平成 5 年度日本魚
病学会春季大会講演要旨, p.7.
- ISHIMARU K., AKAGAWA-MATSUSHITA M. and K.MUROGA (1995) *Vibrio penaeicida* sp.nov, a pathogen of kuruma
prawns (*Penaeus japonicus*). Int.J.Syst.Bacteriol., (145):134-138.
- 石巻水産事務所 (1981) クルマエビ漁獲実態調査. 昭和 55 年度放流技術開発事業実績報告書, 66-69.
- 石岡宏子 (1973) クルマエビ人工種苗の生理生態に関する研究. 南西海区水研研報, (6):59-84.
- 石岡宏子・福原修・阪口清次 (1974) オイゲノールのクルマエビ稚仔魚に対する麻酔効果. 南西海区水研研報,
(7):31-42.
- 石岡宏子・阪口清次・福原修 (1974) 秋穂実証漁場-播種種苗の生理生態. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成
果, (4):8-10.
- 石岡宏子・阪口清次・福原修 (1975) 秋穂実証漁場-放流種苗の生物特性. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成
果, (5):18-20.
- 石岡宏子 (1994) 放流種苗の特性について. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論
文集, (1):233-240.
- 石岡清英・外間源治・長谷川彰 (1974) 周防灘におけるクルマエビの移動経路と資源解析. 昭和 48 年度浅海別枠
(備後灘)研究成果, (4):36-45.
- 石岡清英・外間源治 (1975) 灘漁場の生産効果. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):144-153.
- 石岡清英・高尾亀次・外間源治・長谷川彰 (1975) クルマエビの漁業生物学的研究-I. 燧灘西部資源の加入量の推
定. 南西水研研報, (8):67-79.
- 石岡清英 (1980) クルマエビの標識放流による資源量の推定. 昭和 54 年度 GSK 西日本底魚部会報, 56-66.
- 石岡清英 (1980) クルマエビの標識放流による資源量の推定. 昭和 54 年度西日本底魚部会報, 56-66.
- 石岡清英 (1993) 海域情報(1992 年). 瀬戸内海(漁況). 水産海洋研究, 57(3):277-278.
- 石塚聡・松岡達郎 (1997) エビ類の底曳網の網目通過過程に関する水槽実験. 平成 9 年度日本水産学会秋季大
会講演要旨集, p.8.
- 石渡卓 (1996) 底魚類資源調査. 平成 6 年度大阪水試事報, 68-73.
- 石渡卓 (1997) 漁況調査. 平成 7 年度大阪水試事報, 54-60,付表:(42)-(43).
- 石渡卓 (1997) 底魚類資源調査. 平成 7 年度大阪水試事報, 70-77.
- 石渡卓・辻野耕實・鍋島靖信・日下部敬之・大美博昭 (1998) 漁況調査. 平成 8 年度大阪水試事報, 57-61.
- 石渡卓 (1998) 底魚類資源調査. 平成 8 年度大阪水試事報, 71-76.
- 石渡卓・辻野耕實・鍋島靖信・日下部敬之・大美博昭 (1999) 漁況調査. 平成 9 年度大阪水試事報, 62-72,付
表:(42)-(45).
- 石渡卓・辻野耕實・鍋島靖信・日下部敬之・大美博昭 (2000) 漁況調査. 平成 10 年度大阪水試事報, 61-72,付
表:(42)-(45).
- 石渡卓・辻野耕實・鍋島靖信・日下部敬之・大美博昭 (2001) 漁況調査. 平成 11 年度大阪水試事報, 45-56,付
表:(46)-(49).
- 石神一雄・砂子剛 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 10 年度静岡温水研業報, 32-38.
- 石神一雄・砂子剛 (2001) クルマエビ種苗生産. 平成 11 年度静岡温水研業報, 28-36.
- 五十右茂樹 (1988) 10 周年記念によせて. 「はじめの 10 年」. 静岡栽培セ, 9.

- 板倉紀子・矢野勲 (1996) クルマエビの卵巣におけるピテログニン分泌におよぼすプロスタグランジン E₂, E₂α の影響について. 平成 8 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.143.
- 板倉紀子・矢野勲 (1997) クルマエビの卵巣におけるピテログニン合成におよぼす胸部神経節の影響について. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.49.
- 伊丹利明・高橋幸則・下山泰正・楠田理一 (1984) 養殖クルマエビのビブリオ病に関する研究-Ⅱ. 病エビから分離された *Vibrio* sp. の血清学的性状. 昭和 59 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.76.
- 伊丹利明・中村義直・高橋幸則 (1988) クルマエビ血球細胞の分離ならびに生物活性. 昭和 63 年度魚病学会春季大会講演要旨.
- 伊丹利明・青木陽一郎・林健一・高橋幸則 (1988) クルマエビのリンパ様器官の組織培養-I. 培地および培養温度の検討. 昭和 63 年度魚病学会春季大会講演要旨.
- 伊丹利明・青木陽一郎・林健一・高橋幸則 (1988) クルマエビのリンパ様器官の組織培養-I. 酵素に対する感受性および培養細胞の性状. 昭和 63 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.9.
- ITAMI T., TAKAHASHI Y. and Y.NAKAMURA (1989) Efficacy of vaccination against vibriosis in cultured kuruma prawns *Penaeus japonicus*. J.Aqua.Anim.Health, (1):238-242.
- ITAMI T., AOKI Y., HAYASHI K., YU Y. and Y.TAKAHASHI (1989) In vitro maintenance of cells of lymphoid organ in kuruma Shrimp (短報). 日水誌, 55(12):2205.
- ITAMI T., TAKAHASHI Y., YONEOKA K. and Yu YAN (1991) ビブリオ死菌添加マイクロキャプセル化飼料投与によるウシエビ, *Penaeus monodon* 幼生の生残効果(英文). J.Aquatic Amimal Health, (3):151-152.
- 伊丹利明・井草宏之・亀井裕行・高橋幸則 (1992) クルマエビの生態防御に及ぼすペプチドグリカンの影響. 平成 4 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.22.
- 伊丹利明・土平宏之・魚津勝・高橋幸則 (1992) クルマエビの生態防御に及ぼす β-1, 3-グルカン経口投与の影響. 平成 4 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.22.
- 伊丹利明 (1992) クルマエビのビブリオ病. 4. クルマエビの生体防御能からみた防疫対策. 平成 4 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.8.
- 伊丹利明・井草宏之・亀井裕行・高橋幸則・清水眞也 (1992) フローサイトメリーによるクルマエビ血球の貪殖能の解析. 平成 4 年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.18.
- 伊丹利明・閻愚・高橋幸則 (1992) クルマエビのビブリオ病に対するワクチンの研究-I. ワクチンの濃度による有効性の差異ならびにワクチンの持続性. 水大校研報, 40(2):83-87.
- 伊丹利明・閻愚・高橋幸則 (1992) クルマエビのビブリオ病に対するワクチンの研究-II. ワクチンの製法と作製用菌株種による有効性の差異ならびに経口ワクチンの有効性. 水大校研報, 40(3):139-144.
- ITAMI T., TAKAHASHI Y., TSUCHIHIRA E., IGUSA and M.KONDO (1994) Enhancement of disease resistance of kuruma prawn *Penaeus japonicus* and increase in phagocytic activity of prawn hemocytes after oral administration of β-1,3-glucan (Schizophyllan). CHOU L.M., MUNRO A.D., LAM J.T., CHEN T.W., CHEONG L.K.K., DING J.K., HOOI K.K., KHOO H.W., PHANG V.P.E.SHIM K.F. & C.H.TAN eds., The Proceedings of Third Asian Fisheries Forum, Asian Fisheries Society, Philippines, pp.375-578.
- 伊丹利明 (1994) 最新魚病対策. 魚種別・重要疾病の予防と治療-クルマエビ. 養殖, 31(2):169-171.
- 伊丹利明・高橋幸則・土平E・井草宏之 (1994) Enhancement of disease resistance of kuruma prawn *Penaeus japonicus* and incese in phagocytic activity prawn hemocytes after oral administration of β-1,3-glucan(schzophyllan). Proceedings of 3rd Asian Fish Forum, pp.375-378.
- 伊丹利明・近藤昌和・前田稔・堤友由紀・小林剛・大崎忠彦・高橋幸則 (1994) 養殖クルマエビから検出されたバキュロウイルスの特性. 平成 6 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p 6.
- 伊丹利明・近藤昌和・大崎忠彦・高橋幸則 (1994) クルマエビの顆粒球におけるフェノールオキシターゼ活性. 平成 6 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p 14.
- 伊丹利明・近藤昌和・堤友由紀・高橋幸則 (1994) クルマエビの生体防御能に及ぼす免疫賦活剤の影響. 平成 6 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p 14.
- 伊丹利明 (1995) 魚種別・夏場の斃死対策の決め手. クルマエビ. 養殖, 32(8):72-73.
- 伊丹利明・三田芳弘・鈴木喜隆・山口珠光・前田稔・高木淳・近藤昌和・高橋幸則 (1996) クルマエビ血球における活性酸素産生性.平成 8 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.21.
- 伊丹利明・前田稔・古本篤士・近藤昌和・高橋幸則 (1997) Penaeid Rod-shaped DNA virus (PRDV,bacilliform virus)の性状. 平成 7 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.19.
- ITAMI T.,ASANO M.,TOKUSHIGE K.,KUBONO K.,NAKAGAWA A.,TAKENO N.,NISHIMURA H.,MAEDA M.,KONDO M.and Y.TAKAHASHI (1998) Enhancement of disease resistance of kuruma prawn, *Penaeus japonicus*,after oral administraction of peptidoglycan derived from *Bifidobacterium thermophilum*. Aquaculture, 164(1-4):277-288.
- 伊丹利明 (1998) 養殖エビのウイルス病防除. 日水誌, 64(2):332.

- ITAMI T., MAEDA M., SUZUKI N., KONDO M. and Y.TAKAHASHI (2000) Penaeid rod-shaped DNA virus infection in kuruma shrimp (*Penaeus japonicus*) and its possible prevention in Japan. ITE Let.Bat.New Tech.Med., 1(3):427-433.
- ITAMI T., OHNO Y., SUZUKI N., DOI K., KONDO M., TAKAHASHI Y., MAEDA M., SOMA G.I., INAGAWA H., HONDA T. and Y.YOKOMIZO (2001) Detection of nitric oxide and superoxide in kuruma shrimp. Proceedings of the JSPS-NRCT International Symposium on Sustainable Shrimp Culture and Health Management Diseases and Environment.Tokyo. Tokyo Univ.of Fish., pp.193-203.
- ITAMI T., OHNO Y., SUZUKI N., DOI K., KONDO M., TAKAHASHI Y., MAEDA M., SOMA G.I., INAGAWA H., HONDA T. and Y.YOKOMIZO (2001) Shrimp hemocytes can produce and nitric oxide. ITE Lett.Batt.New Tech.Med., 2(5):684-688.
- 伊丹利明・高橋幸則・近藤昌和 (2001) 日本における養殖エビの疾病予防. 水産大学校・釜慶大学校学術交流懇談会講演論文集, pp.53-69.
- ITAMI T., OHNO Y., SUZUKI N., DOI K., KONDO M., TAKAHASHI Y., MAEDA M., SOMA G.I., INAGAWA H., HONDA T. and Y.YOKOMIZO (2001) Detection of nitric oxide and superoxide in kuruma shrimp. Proceeding of the JSPS-NRCT International Symposium on Sustainable Shrimp Culture and Health Management: Diseases and Environment. Tokyo, pp.192-204.
- ITAMI T., OHNO Y., SUZUKI N., DOI K., KONDO M., TAKAHASHI Y., MAEDA M., SOMA G-I., INAGAWA H., HONDA T. and Y.YOKOMIZO (2001) Superoxide and nitric oxide production of kuruma shrimp (*Marsupenaeus japonicus*) hemocytes. 70th Anniversary of the Japanese Society of Fisheries Science International Commemorative Symposium, Yokohama, D-5-2.
- 板沢靖男 (1982) 輸送中の生理. 呼吸. 日本水産学会編, 活魚輸送. 水産学シリーズ, (39):9-21.
- 伊藤英之進・水藤勝喜・荒川哲也 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 6 年度愛知栽協業報, 24-26.
- 伊藤英之進・水藤勝喜・荒川哲也 (1996) クルマエビ種苗生産. 平成 7 年度愛知栽協業報, 25-27.
- 伊藤英之進・水藤勝喜・荒川哲也 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成 8 年度愛知栽協業報, 25-27.
- 伊藤史郎・小早川淳・谷雄策 (1987) クルマエビ初期稚エビの潜砂および歩脚障害について. 佐賀水試研報, (1):7-8.
- 伊藤史郎・小早川淳・谷雄策 (1987) クルマエビ初期稚エビの低塩分体制試験. 佐賀水試研報, (1):9-11.
- 伊藤史郎・中牟田弘典 (1995) コウライエビの種苗生産. 平成 5・6 年度佐賀栽セ事報, 39-45.
- 伊藤史郎 (1996) コウライエビの種苗生産. 佐賀県栽培漁業センターにおける種苗生産マニュアル, 111-129.
- 伊藤史郎 (2001) 佐賀県有明海域におけるクルマエビ放流種苗の移動と漁獲. 放流効果調査事例検討会資料集. 協会検討資料, (79):49-56.
- 伊藤史郎・江口泰蔵・中島則久 (2001) 有明海佐賀県海域におけるクルマエビ漁業. 佐賀水産振興センター研報, (20):35-47.
- 伊藤史郎・江口泰蔵・中島則久・北田修一 (2001) 有明海湾奥部におけるクルマエビ人工種苗の放流効果の検討. 栽培技研, 29(1):35-43.
- ITO S. (1994) Enzymatic hydrolysis of L-ascorbyl-2-monophosphate Mg in *Penaeus japonicus* and its stability in extruded feeds. Aquaculture, 124(1-4):221.
- 伊藤龍星・尾上静正 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業 (クルマエビ). 平成 8 年度大分海研浅海事報, 77-78.
- 伊藤進・河根三雄・長尾成人 (1988) クルマエビ種苗生産. 昭和 62 年度愛知栽協業報, 7-21.
- 伊藤進・河根三雄・長尾成人 (1988) クルマエビ種苗生産. 昭和 62 年度愛知栽協業報, (6):117-121.
- 伊藤司・地下洋一郎 (1990) クルマエビ大型種苗の生産. 昭和 63 年度香川栽セ事報, 19-21.
- 伊藤司・地下洋一郎 (1995) クルマエビの種苗生産(25mm). 平成 6 年度香川栽セ事報, 25.
- IVERSEN E.S., and R.B.MANNING (1959) A new microsporidian parasite from the pink shrimp *Penaeus duorarum*. Transaction of the American Fisheries Society, (73):325-353.
- IVERSEN E.S., ALLEN D.M. and J.B.HIGMAN (1994) Shrimp capture and culture fisheries of the United States. Fishing New Books, Oxford, 247 pp.
- 岩橋正雄 (1995) ヒラメ・クルマエビ放流種苗の潜砂能力について. 平成 5 年度新潟栽セ魚研報, 77.
- 岩橋正雄 (1995) クルマエビ放流稚エビの種苗性について. 平成 5 年度新潟栽セ魚研報, 82-83.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1971) 瀬戸内海重要水族環境調査. 昭和 45 年度兵庫水試事報, 77-130.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1973) 瀬戸内海重要水族環境調査. 昭和 46 年度兵庫水試事報, 105-158.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1974) 瀬戸内海重要水族環境調査. 昭和 47 年度兵庫水試事報, 165-168.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1975) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 48 年度兵庫水試事報, 201-216.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1975) 瀬戸内海重要水族環境調査. 昭和 48 年度兵庫水試事報, 217-404.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1978) 瀬戸内海重要水族漁場環境調査. 海況および環境調査. 昭和 49 年度兵庫水試事報, 19-53.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1978) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁海況調査. 昭和 50 年度兵庫水試事報, 5-33.

- 岩井昌二・森脇胖二 (1979) 瀬戸内海漁業基本調査. 小型底曳網漁業調査. 昭和 51 年度兵庫水試事報, 50-53.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1979) 瀬戸内海漁業基本調査. 小型底曳網漁業調査. 昭和 52 年度兵庫水試事報, 31-34.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1981) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 55 年度兵庫水試事報, 20-27.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1981) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 55 年度兵庫水試事報, 37-44.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1983) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 56 年度兵庫水試事報, 33-40.
- 岩井昌二・森脇胖二 (1984) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 32-40.
- 岩井保 (1995) 海洋資源生物学序説. 恒星社厚生閣, 126 pp.
- 岩松豪 (1994) 中南米のエビ養殖. 東京水産大学第 9 回公開講座変集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.99-126.
- 岩男昂・田森裕茂 (1992) 開発漁場保全調査. 平成 2 年度大分浅海漁試事報, 80-85.
- 岩男昂・樋下雄一 (1994) 開発漁場保全調査(平成 3 年度). 平成 4 年度大分浅海漁試事報, 68-73.
- 岩男昂・樋下雄一 (1994) 開発漁場保全調査(平成 4 年度). 平成 4 年度大分浅海漁試事報, 103-108.
- 岩男昂・樋下雄一 (1995) 開発漁場保全調査. 平成 5 年度大分浅海漁試事報, 115-119.
- 岩男昂・樋下雄一 (1996) 開発漁場保全調査. 平成 6 年度大分浅海漁試事報, 107-111.
- 岩男昂・樋下雄一 (1997) 開発漁場保全調査. 平成 7 年度大分浅海漁試事報, 113-117.
- 岩男昂・樋下雄一 (1998) 開発漁場保全調査. 平成 8 年度大分海研浅海事報, 101-105.
- 岩崎員郎・阿知波英明 (2000) 栽培漁業振興事業調査. 平成 12 年度愛知水試業報, 104-105.
- 岩崎員郎・高須雄二 (2000) 栽培漁業振興調査. 平成 12 年度愛知水試業報, 110-112.
- 岩崎満・森本健二・松尾薫・柴原正志・西条清男爵・堀義道 (1975) 普及活動に関する事項. 昭和 48 年度三重浜島水試年報, 87-98.
- 岩崎満・森本健二・柴原正志・西条清男爵・堀義道・柴原規計 (1976) 普及活動に関する事項. 昭和 49 年度三重浜島水試年報, 105-108.
- 岩崎満・森本健二・柴原正志・西条清男爵・堀義道・柴原規計 (1977) 普及活動に関する事項. 昭和 50 年度三重浜島水試年報, 95-96.
- 岩崎寿男 (1997) 日本漁業の展開過程-戦後 50 年概史. 舵社, 301 pp.
- 岩瀬重元・水野宏成・海幸丸乗組員 (1987) エビ流網調査(源式網). 昭和 61 年度愛知水試業報, 155-168.
- 岩瀬重元・海幸丸乗組員 (1988) エビ流網調査(源式網). 昭和 62 年度愛知水試業報, 144-154.
- 岩瀬重元・海幸丸乗組員 (1989) エビ流網調査(源式網). 昭和 63 年度愛知水試業報, 142-146.
- 岩下徹・河邊博・南部豊揮・竹田健一・木村修・中野平二・岡田丘・小山長久 (1992) エビ・カニ類増殖試験. 平成 3 年度熊本水研事報, 34-35.
- 岩田治郎・茂野邦彦 (1980) クルマエビ *Penaeus japonicus* の各成長期における血リンパの浸透濃度. 日水誌, 46(12):1547.
- 岩田治郎 (1981) 農薬の沿岸生態系への影響. 沿岸海洋研究ノート, 19(1):45-55.
- 岩田一夫 (1999) 仔稚魚飼育と疾病防除. シンポジウム, 飼育管理技術と疾病防除の請う雨後の展開. 講演要旨集. 日裁協, pp.13-14.
- 岩手県宮古漁業協同組合 (1988) 宮古湾におけるクルマエビ増養殖に取り組んで. 全漁連. 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 66-67.
- 泉川晃一・尾田正 (1997) 平成 8 年度海産魚の養殖と魚病発生状況. 岡山水試報, (12):134-135.
- 出雲義朗・緒方裕光 (1987) クルマエビの筋肉と中腸線におけるセシウム(¹³⁴Cs)の存在形状について. 昭和 62 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.177.

- JAMES LESTER L. (1983) Developing a selective program for penaeid shrimp mariculture. *Aquaculture*, 33(1-4):41-52.
- JASMANI S., KAWAZOE I., SHIH J.W., SUZUKI T. and K.AIDA (2000) Hemolymph vitellogenin levels during ovarian development in the kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Fish.Sci*, 66(3):535-539.
- JAYASREE S. (2001) Biological properties of a natural agglutinin in the hemolymph of Indian white prawn, *Penaeus indicus* H.MILNE EDWARDS. *Aquaculture*, 194(3-4):245-252.
- JEAN-CLAUDE G., KAYAMA M., MURAKAMI Y. and H.J. CECCALDI (1976) The effects of a fat-free diet and compounded diets supplemented with various oils on moult, growth and acid composition of prawn, *Penaeus japonicus* BATE. *Aquaculture*, 7(3):245-254.
- JEFFREY M. and R.M.OVERSTREET (1990) クルマエビ類の寄生虫と捕食動物. CHAVEZ JUSTO C. 編, 世界のエビ養殖. 緑書房, pp.69-121.
- 全淋基 (1994) 韓国国立水産院の概況について. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):53-59.
- 全淋基 (1994) 韓国の魚介類の種苗生産技術の現状及び今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):186-192.
- 全淋基 (1994) 韓国の魚介類の中間育成と放流技術の現状及び今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):303-306.
- 全淋基 (1997) 養殖技術開発と研究の現状と今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):33-37.
- Ji-QIAO W., DESHANG L., SHUANGLIN D., KEXENG W. and T.XIANGLI (1998) Experimental studies on polyculture in closed shrimp ponds I. Intensive polyculture of Chinese shrimp(*Penaeus chinensis*) with tilapia hybrid. *Aquaculture*, 163(1-2):11-27.
- 賈曉平 (1997) 中国沿岸水域における主な汚染問題と海水増養殖に及ぼす影響. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):251-262.
- JIANG Y-S., WANG T-L. and B-Z.YIN (1984) The effect of preventing to grow black on frozen prawn with sodium bisulfite during frozen storage. *Marine Fish.Res.*, (6):99-105.
- 地下洋一郎・野坂克己 (1987) クルマエビの種苗生産, 昭和 60 年度香川裁セ事報, 14-18.
- 地下洋一郎・野坂克己 (1988) クルマエビの種苗生産. 昭和 61 年度香川裁セ事報, 15-19.
- 地下洋一郎・伊藤司 (1988) クルマエビ大型種苗の生産. 昭和 62 年度香川裁セ事報, 22-23.
- 地下洋一郎 (1991) クルマエビ大型種苗の生産. 平成元年度香川裁セ事報, 21-23.
- 地下洋一郎 (1991) クルマエビ大型種苗の生産. 平成 2 年度香川裁セ事報, 23-25.
- 地下洋一郎 (1992) クルマエビ大型種苗の生産. 平成 3 年度香川裁セ事報, 23-25.
- 地下洋一郎 (1994) クルマエビ大型種苗の生産. 平成 4 年度香川裁セ事報, 27-28.
- 地下洋一郎・森本弘泰 (1997) クルマエビの種苗生産(13mm). 平成 7 年度香川裁セ事報, 14-15.
- 地下洋一郎・森本弘泰 (1999) クルマエビの種苗生産(13mm). 平成 8 年度香川裁セ事報, 21-22.
- JIMENEZ R. (1992) 'Sindrome de Taura(Resumen). *Acuicultura del Ecuador*'. pp.1-16.
- 陣内康弘・平山泉・鳥羽瀬憲久 (2001) 資源増大技術開発事業(クルマエビ共同放流推進事業). 平成 12 年度熊本水研事報, 54-60.
- 陣之内征龍・富山昭 (1973) 昭和 46 年度クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (3):85-87.
- 陣之内征龍 (1980) クルマエビ養成餌料と摂餌に関する試験-I. ミミズを餌料とした試験. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報, (6):18-21.
- 陣之内征龍 (1980) クルマエビ養成餌料と摂餌に関する試験-II. 肉食性魚類の混養試験. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報, (6):22-27.
- JIRAVANICHPAISAL P., MIYAZAKAI T. and C.LIMSUNWAN (1994) Histopathology, biochemical and pathogenicity of *Vibrio Harveyi* infeding black tiger prawn *Penaeus monodon*. *J.Aquat.Anim.Health*, 6:27-35.
- 曾圭泰 (1994) 甲殻類種苗の中間育成と放流. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):379-382.
- JOHNSON P.T. and D.V.LIGHTNER (1988) The rod-shaped nuclear viruses of crustaceans: gut-infecting species. *Dis.Aquat. Org.*, 4(2):123-141.
- JOHNSON S.K. (1974) Ectocomensals and parasites of shrimp from Texas rearing ponds. *Proc.of the Annual Workshop of the World Maricul.Soc.*, 5:251-266.
- JOHNSON S.K. (1974) Toxicity of several management chemicals to penaeid shrimp. *Texas A.& M.Univ.Extension Fish Disease Dianostic Lab.Publication*, No.FDDL-S3:1-12.

- JOHNSON S.K. and H.W.HOLCOMB (1975) Field application of several management chemicals in shrimp rearing ponds. Texas A & M.Univ.Extension Fish Disease Diagnostic Lab.Publication, No.FDDL-S5:1-3.
- JOHNSON S.K. (1975) Handbook of Shrimp Diseases. Texas A & M.Univ.Sea Grant Publ., No.SG-75-603. 19 pp.
- JOHNSON S.K. (1975) Cramped condition in pond-reared shrimp. Texas A & M.Univ.Disease Diagnostic Lab.Leadlet, No. FDDL-502 pp.
- JOHNSON S.K. (1978) Handbook of Shrimp Diseases. Sea Grant College Program Publ., TAMU-SG-75-603. 23 pp.
- JOHNSON S.K. (1990) Handbook of Shrimp Diseases. Sea Grant Publ.No.TAMU-SG-90-601, Texas A & M Univ,U.S.A., 25 pp.
- JOHNSON S.K. (1995) Handbook of Shrimp Diseases. Sea Grant Publ.No.TAMU-SG-95-601(r), Texas A&M Univ., College Station,TX.USA., 25 pp.
- JONES D.A., KANAZAWA A. and K.ONO (1976) Studies on the nutritional requirements of the larval stages of *Penaeus japonicus* using microencapsulated diets. Mar.Biol., 54:261-267.
- ジョーンズ D.A.・金澤昭夫・アブデルラーマン S. (1978) マイクロカプセル餌料によるクルマエビ幼生の飼育. 昭和 53 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.8.
- JONES D.A., KANAZAWA A. and S.A.RAHMAN (1979) Studies on the presentation of artificial diets for rearing the larvae of *Penaeus japonicus* BATE. Aquaculture, 17(1):33-43.
- JONES T.C.,OVERSTREET R.N.,LOTZ J.M.and P.F.FRELIER (1994) *Paraophioidina scolecoides* n.sp., a new aseptate greagarine from cultured Pacific white shrimp *Penaeus vannamei*. Dis.Aquat.Org., 19(1):67-75.
- JORY D.E. (1998) Use of probiotics in penaeid shrimp growout. Aquacult.Mag., (24):62-67.
- 城久 (1984) 海域における問題点とその対策. 大阪湾. 吉田陽一編, 漁業と環境. 水産学シリーズ, (53):29-42.

- 門永圭司・藤井修生・水津洋志 (1991) 魚類防疫対策調査研究. 平成2年度山口外海水試事報, 135-151.
- 門永圭司・藤井修生・水津洋志 (1992) 魚類防疫対策調査研究. 平成3年度山口外海水試事報, 119-129.
- 門永圭司・藤井修生・水津洋志 (1995) 魚類防疫総合推進事業調査. 平成6年度山口外海水試事報, 102-113.
- 鹿児島県・鹿児島県水産試験場 (1971) 昭和45年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1-19.
- 鹿児島県・養殖編集部 (1974) 企業化されたクルマエビの高密度養殖. 養殖, 11(9):22-23.
- 鹿児島県 (1982) 組織的調査研究活動推進事業-鹿児島湾海域におけるブルー計画と魚類養殖再編の方向. 昭和56年度鹿児島水試事報(生物部編), 25-44.
- 鹿児島県C社 (1997) 出荷間近の飼育管理(上). 魚種別事例集. 養殖, 34(11):59-60.
- 鹿児島県C養殖場・山口県D養魚場 (1993) 養魚経費の総点検(下). クルマエビ. 養殖, 30(6):68-70.
- 鹿児島県垂水増殖センター・養殖編集部 (1974) クルマエビの大量生産技術を確立. 養殖, 11(7):22-24.
- 鹿児島県垂水市牛根漁業協同組合・養殖編集部 (1974) ハマチからインダイ・クルマエビの養殖. 養殖, 11(10):26-27.
- 鹿児島県水産試験場 (1969) 指定調査研究総合助成事業. 昭和43年度鹿児島水試事報, 37-41.
- 鹿児島県水産試験場 (1969) クルマエビ配合飼料研究中間報告書. 昭和44年度水産庁指定調査研究総合助成事業, 27-36.
- 鹿児島県水産試験場 (1969) 昭和45年度クルマエビ種苗放流実践漁場設置調査中間報告書, 1-12.
- 鹿児島県水産試験場 (1970) クルマエビ配合飼料研究中間報告書. 昭和45年度水産庁指定調査研究総合助成事業, 27-36.
- 鹿児島県水産試験場 (1977) 農薬(有機燐)による川・海の汚染と海産動物への影響. 日本水産資源保護協会月報, (151): 4-16.
- 角田季美枝 (1992) エビが好きな日本人. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.327-354.
- 門永圭史・藤井修生・水津洋志 (1995) 魚類防疫総合推進事業調査. 平成6年度山口外海水試事報, 102-113.
- 門脇秀策・田中啓陽 (1993) 透明度から見たクルマエビ養殖環境の一側面. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.259.
- 門脇秀策・田中啓陽 (1993) 透明度からみた養殖クルマエビの成長. 水産増殖, 41(1):61-65.
- 門脇秀策・田中啓陽 (1993) 透明度からみたクルマエビ養殖環境の一側面. 水産増殖, 41(2):203-209.
- 門脇秀策・田中啓陽 (1994) クルマエビ養殖池海水の植物プランクトンとバクテリアとの関係. 平成6年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.55.
- 門脇秀策・田中啓陽 (1994) クルマエビ養殖池海水の植物プランクトンと細菌との関係. 水産増殖, 42(2):371-375.
- 門脇秀策・田中啓陽 (1995) クルマエビ養殖池海水の消散係数に関する一考察. 水産増殖, 43(2):213-217.
- 香川県 (1997) 香川県沿岸特定資源管理指針(中讃地区,クルマエビ), 19 pp.
- 香川県 (1998) 複合的資源管理型漁業活動指針, 44 pp.
- 香川県漁業協同組合連合会 (1995) 香川県地域重要資源管理計画(高松地区,クルマエビ), 15 pp.
- 香川県栽培種苗センター (1990) 種苗の配布状況. 昭和63年度香川栽セ事報, 53-54.
- 香川県栽培種苗センター (1991) 種苗の配布状況. 平成元年度香川栽セ事報, 47-48.
- 香川県栽培種苗センター (1991) 種苗の配布状況. 平成2年度香川栽セ事報, 53-54.
- 香川県栽培種苗センター (1992) 種苗の配布状況. 平成3年度香川栽セ事報, 53-54.
- 香川県栽培種苗センター (1994) 種苗の配布状況. 平成4年度香川栽セ事報, 53-54.
- 香川県栽培種苗センター (1994) 種苗の配布状況. 平成5年度香川栽セ事報, 53-54.
- 香川県栽培種苗センター (1995) 種苗の配布状況. 平成6年度香川栽セ事報, 57-58.
- 香川県栽培種苗センター (1997) 種苗の配布状況. 平成7年度香川栽セ事報, 59-60.
- 香川県栽培種苗センター (1999) 種苗の配布状況. 平成8年度香川栽セ事報, 57-58.
- 香川県栽培種苗センター (1999) 種苗の配布状況. 平成9年度香川栽セ事報, 63.
- 香川県栽培種苗センター (2000) 種苗の配布状況. 平成10年度香川栽セ事報, 49-50.
- 香川県栽培種苗センター (2001) 種苗の配布状況. 平成11年度香川栽セ事報, 41-42.
- 香川県水産試験場 (1969) 昭和45年度クルマエビ種苗放流実践漁場設定調査中間報告書, 1-21.
- 香川県水産試験場 (2001) 香川県. 平成11・12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 香川1-香川10.
- 香川県水産試験場 (2001) 各府県調査報告. 香川県. 平成7~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書I.(瀬戸内海東部ブロック), 169-183.
- 香川県詫間漁業協同組合 (1987) クルマエビの小割養殖について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録. 第1分冊, 140-141.

- 香川県四海漁業協同組合（1987）資源管理型漁業の駆動力としてクルマエビ中間育成に取り組んで。全漁連，漁村青壮年婦人活動30余年の記録。第1分冊，146-147.
- 香川哲・安部享利・横川浩治・下川千代照・菊池博史・大川輝久・藤沢節茂・真鍋寛定（1994）資源管理型漁業漁業推進総合対策事業。平成5年度香川水試事報，83.
- 香川哲・安部享利・横川浩治・小林武・菊池博史・松本紀男・藤沢節茂（1995）資源管理型漁業推進総合対策事業。平成6年度香川水試事報，85.
- 香川哲・安部享利・横川浩治・高砂敬・菊池博史・松本紀男・向井龍男（1996）資源管理型漁業推進総合対策事業。平成7年度香川水試事報，91-93.
- 蔭山佳之（1987）福田沖人工礁における刺網漁獲調査。昭和61年度静岡水試事報，70-73.
- 甲斐勲・中村哲也（1994）クルマエビ種苗生産。平成4年度宮崎栽協事報，36-40.
- 海外漁業協力財団（1975）東南アジア諸国における水産養殖の現状と発展の可能性。海外協資料，(15):1-92.
- 海洋水産資源開発センター新魚食の会（1992）食卓にのる新顔の魚。三水社，207 pp.
- 加治俊二（1998）種苗生産に用いるクルマエビ親エビの入手。採卵状況(平成7-9年度)。協会研究資料，(74):1-16.
- 梶川晃（1976）美保湾における生物群集について。鳥取水試報，(17):6-36.
- 梶川豊明（1955）中海の赤潮に関する化学的研究。鳥取水試研報，(35):1-364.
- 梶島孝雄（1951）クルマエビ卵の分割割球の発生。動雑，60:258-252.
- 梶原武・飯塚昭二・田中稔（1958）梶網による漁獲物の研究。漁場の環境・漁具・魚種について-I。長崎大水产研報，(7):113-120.
- 柿本大壺・金澤昭夫（1965）エビ類の黒変に関する研究-I。日水誌，22(8):471-475.
- 柿本大壺・金澤昭夫（1965）エビ類の黒変に関する研究-II。日水誌，22(8):476-479.
- 柿内典昭（1975）漁村の地域的研究。大明堂，322 pp.
- 郭河（1979）台湾におけるウシエビ養殖(上)。養殖，16(4):74-76.
- 郭河（1979）台湾におけるウシエビ養殖(中)。養殖，16(5):90-92.
- 郭河（1980）台湾のクルマエビ養殖を顧みて。養殖，18(2):42-43.
- KALEMEC J.A. and J.R.SMITH（1980）Induced ovarian development and spawning of *Penaeus plebejus* in a recirculating laboratory tank after unilateral eyestalk enucleation. Aquaculture，21(1):55-62.
- 鎌木昭久・唐川純一（1990）小型底曳網標本船による1989年の漁獲状況について。岡山水試報，(5):85-92.
- 鎌木昭久・松村真作（1990）岡山県東部における小型底曳網標本船のエビ類，シャコ及びウシノシタ類の漁獲実態と投棄魚介類リスト。岡山水試報，(5):93-108.
- 鎌木昭久・松村真作（1992）岡山県東部における小型底曳網標本船のエビ類，シャコ及びウシノシタ類の漁獲実態と投棄魚介類リスト(1991)。岡山水試報，(7):104-120.
- 鎌倉靖夫（1958）最近の水産物市場の動き-水産物市場価格調査から。漁業経済研究，6(2):8-21.
- 鎌田稔（1988）クルマエビ放流効果調査(昭和48~52年度)。山形水試資料，(114):1-29.
- 亀田和彦（1990）メキシコにおけるエビ漁業の構造と性格。漁業経済研究，35(1):47-72.
- 上妻智行・有江康幸（1990）200カイリ水域内漁業資源調査。平成元年度福岡県水試研報，豊10.
- 上妻智行・小林信・有江康章・神菌真人・江藤拓也・鶴島治市（1993）豊前海南部地区地先型増殖場造成事業調査(クルマエビ，アサリ)。平成4年度福岡水技事報，333-343.
- 上妻智行・小林信・有江康章・神菌真人・江藤拓也・鶴島治市（1993）豊前海南部地区地先型増殖場造成事業調査(クルマエビ，アサリ)。平成4年度福岡水技事報，333-343.
- 上北征男（1973）栽培漁場造成の現状と問題点。水産海洋研究会報，(22):69-72.
- 上北征男（1973）秋穂実証実験漁場-波浪。昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果，(3):109-113.
- 上北征男（1975）秋穂実証実験漁場-波浪。昭和49年度浅海別枠(備後灘)研究成果，(5):43-45.
- 上北征男（1975）クルマエビ放流漁場の造成効果。日本水産学会編，種苗の放流効果-アワビ・クルマエビ・マダイ。水産学シリーズ，(12):83-101.
- 上勢頭保（1990）良質魚を作る養成管理。クルマエビ。養殖，27(13):148-150.
- 上浦事業場（1999）疾病防除技術開発。クルマエビの急性ウイルス血症。平成9年度日栽協事業年報，252-259.
- 上浦事業場（2001）疾病防除技術開発。クルマエビの急性ウイルス血症(PAV)。平成11年度日栽協事業年報，238-240.
- 神菌真人・藤紘和・多胡信良（1978）クルマエビ放流育成事業の生産効果。昭和51年度福岡豊前水試研業報，40-45.
- 神菌真人・藤紘和・多胡信良・尾田一成・鶴島治市（1978）クルマエビ放流育成事業の生産効果。昭和52年度福岡豊前水試研業報，60-65.
- 神菌真人・江藤拓也・上妻智行（1994）覆砂による豊前海の底質改善効果。福岡水技研報，(2):129-134.
- 神菌真人・江藤拓也・荒田敏生（1994）造成漁場環境調査。平成5年度福岡水技事報，403-406.
- 上城義信（1979）伊予灘西部海域におけるクルマエビの漁業とその生態-I。昭和49年度大分浅海業績その他資料，8(12):1-19.

- 上城義信 (1977) 瀬戸内海漁業基本調査(小型底曳網漁業調査). 昭和 50 年度大分浅海事報, 93-102.
- 上城義信 (1979) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 51 年度大分浅海事報, 33-46.
- 上城義信・安東生雄 (1979) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 52 年度大分浅海事報, 15-31.
- 上城義信 (1979) 伊予灘西部域における小型底曳網漁業の漁獲物の経年変化について. 大分浅海調研報, (1):8-19.
- 上城義信 (1979) 豊前海長洲地区におけるクルマエビ種苗放流の効果と漁獲状況. 南西海ブロック内海漁業研究会報, (11): 47-56.
- 上城義信・安東生雄・松本正勝 (1979) ハマグリ的人工種苗の成長と生態に関する二・三の実験. 栽培技研, 8(1):1-8.
- 上城義信 (1980) 山国川河口に出現する幼稚魚について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (12):41-52.
- 上城義信・安東正雄 (1980) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 53 年度大分浅海事報, 21-33.
- 上城義信・安東正雄 (1980) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 53 年度大分浅海事報, 38-41.
- 上城義信・吉武肇・井口弘幸・伊島時郎 (1980) 沿岸重要貝類分布調査. 昭和 53 年度大分浅海事報, 52-56.
- 上城義信・安東生雄 (1981) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 54 年度大分浅海事報, 33-48.
- 上城義信・安東生雄 (1981) 沿岸重要貝類分布調査. 昭和 54 年度大分浅海事報, 83-86.
- 上城義信 (1981) 伊予灘西部域における小型底びき網漁業漁獲物の経年変化-II. (昭和 47~54 年). 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (13):27-44.
- 上城義信・安東生雄・松井誠一・林功・中島均・塚原博 (1981) 河口域周辺に出現する魚類の生態に関する研究-II. 干潟域の魚類分布. 大分浅海調研報, (4):30-50.
- 上城義信 (1981) 伊予灘西部域における小型底曳網漁業の漁獲物の経年変化について-II. 昭和 47~54 年. 大分浅海調研報, (4):64-85.
- 上城義信・安東生雄 (1983) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 55 年度大分浅海事報, 36-53.
- 上城義信・安村昭・田染博章 (1983) 沿岸重要貝類分布調査. 昭和 55 年度大分浅海事報, 61-72.
- 上城義信・横松芳治 (1983) 地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業(育成漁場管理型事業)調査. 昭和 56 年度大分浅海事報, 84-104.
- 上城義信・横松芳治 (1983) 大分県瀬戸内海域における主要な魚類の漁獲量の動向と生物特性. 大分浅海調研報, (5):49-63.
- 上城義信・横松芳治・宮澤正・田森裕茂・安東欣二 (1984) 浅海干潟重要貝類資源環境調査. 昭和 58 年度大分浅海事報, 31-38.
- 上城義信・横松芳治・安東欣二 (1984) 海洋生物資源の生産能力と海洋環境に関する研究. 魚類等をめぐる生態系に関する研究. 昭和 58 年度大分浅海事報, 66-69.
- 上城義信・横松芳治 (1984) 大分県豊前海域における小型底曳網漁業によって投棄される生物の種組成. 大分浅海調研報, (6):1-24.
- 上城義信・横松芳治・安東欣二 (1986) 浅海干潟重要貝類資源調査. 昭和 59 年度大分浅海事報, 38-54.
- 上城義信・横松芳治・安東欣二・田染博章・福岡和光・田森裕茂・宮澤正 (1986) 別府湾北部大規模増殖場開発事業調査-II. 卵・稚仔分布. 昭和 59 年度大分浅海事報, 84-105.
- 上城義信 (1986) 伊予灘西部海域におけるクルマエビ (*Penaeus japonicus* BATE)の生態とその漁業について. 大分県水産関係研究者協議会研究発表要旨-I. p.5.
- 上城義信 (1986) 特定水産動物育成事業調査結果報告(49-51年度). クルマエビ. 大分県水産関係研究者協議会研究発表要旨-I. p.13.
- 上城義信 (1986) 別府湾北部海域におけるマコガレイ卵・稚仔とそのほかの生物種組成. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (18):59-81.
- 上城義信・小川浩・安東欣二 (1987) 浅海干潟重要貝類資源調査(アサリ,バカガイの資源量調査). 昭和 59 年度大分浅海事報, 34-40.
- 上城義信・小川浩・安東欣二 (1988) 浅海干潟重要貝類資源調査(バカガイ・アサリの資源量調査). 昭和 61 年度大分浅海事報, 38-51.
- 上城義信・尾上静正・小川浩 (1996) 大分県北部海域の小型底びき網による漁獲物組成の変遷について. 大分浅海調研報, (10):1-11.
- 上城義信・尾上静正 (1996) 投棄魚の種組成からみた生物多様性の変遷について. 大分浅海調研報, (10):12-19.
- 蒲原聡・井野川仲男・黒田伸郎・しらなみ乗組員 (1991) 水産生物に対する農薬の体内濃縮試験-II. 平成 2 年度愛知水試業報, 111-112.
- 嶋志田正晃 (2000) 種苗生産期における疾病の発生状況とその防除. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (4):109-120.
- 姜礼蟠 (1994) 生態環境汚染がエビ養殖に対する影響及び防止・治療対策. 現代漁業情報, 9(7):21-25.
- 姜柱賛 (1998) 甲殻類呼吸機能の低酸素応答. 月刊海洋, 30(3):138-143.
- 姜龍柱 (1999) 東シナ海・黄海における韓国の漁業. 月刊海洋, 31(10):645-652.
- 神奈川県 (1979) 昭和 53 年度調査結果の要約. 昭和 53 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書(太平洋地区), 1.

- 神奈川県水産試験場 (1979) 昭和 53 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書(太平洋地区), 4-26.
- 神奈川県水産試験場・静岡県水産試験場 (1979) 昭和 53 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書(太平洋地区).
- 神奈川県水産試験場 (1980) 昭和 54 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 1-18.
- 神奈川県横須賀漁協研究会 (1966) 中性剤使用による活魚輸送効果について. 養殖, 3(5):80-84.
- 金丸昌慎 (2000) クルマエビ種苗生産(平成 10 年度). 平成 10・11 年度宮崎栽協事報, 23-25.
- 金丸昌慎 (2000) クルマエビ種苗生産(平成 11 年度). 平成 10・11 年度宮崎栽協事報, 57-59.
- 金澤昭夫・島谷周・川崎満康・柏田研一 (1970) Nutritional requirements of prawn-I. Feeding on artificial diet. 日水誌, 36(9):949-954.
- 金澤昭夫・田中憲徳・手島新一・柏田研一 (1971) Nutritional requirements of prawn-II. Requirement for sterols. 日水誌, 37(3):211-215.
- 金澤昭夫・田中憲徳・手島新一・柏田研一 (1971) Nutritional requirements of prawn-III. Utilization of the dietary sterols. 日水誌, 37(10):1015-1019.
- KANAZAWA A., TANAKA N. and K.KASHIWADA (1972) Nutritional requirements of prawn-IV. The dietary effect of ecdysones. 日水誌, 38(9):1067-1071.
- 金澤昭夫・手島新一・植村孝 (1974) クルマエビの必須アミノ酸について. 昭和 49 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.67.
- 金澤昭夫・手島新一・坂本義信 (1975) Utilization of dietary cholesterol during the molting cycle of prawn. 日水誌, 41(11):1185-1189.
- 金澤昭夫・手島新一・佐々木満 (1976) クルマエビにおけるP,Ca,K,Mg の要求. 昭和 51 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.19.
- 金澤昭夫・常盤繁・鹿山光・平田稔 (1976) クルマエビにおけるドコサヘキサエン酸の要求. 昭和 51 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.20.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁 (1976) クルマエビに対するアサリの極性脂質の効果. 昭和 51 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.20.
- 金澤昭夫・手島新一・小野和夫・常盤繁 (1976) クルマエビにおけるリノレン酸からエイコサペンタエン酸およびドコサヘキサエン酸への変換. 昭和 51 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.45.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁 (1976) クルマエビにおける必須脂肪酸充足度の指標について. 昭和 51 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.46.
- 金澤昭夫・手島新一・田中憲徳 (1976) クルマエビの栄養要求に関する研究-V. コリンおよびイノシトールの要求(英文). 鹿大水産紀要, 25(1):47-51.
- 金澤昭夫・J.C.B.GUARY・H.J.CECCALDI (1976) Metabolism of ^{14}C β -sitostrol injected at various stages of the molting cycle in prawn, *P.japonicus* BATE. Comp.Biochem.Physiol., 54B:205-208.
- 金澤昭夫・手島新一・坂本義信・JEAN-CLAUDE B. (1976) クルマエビの各組織の脂質およびコレステロール含量の脱皮ステージによる変化(英文), 日水誌, 42(9):1003-1007.
- 金澤昭夫・手島新一・小野和夫・常盤繁 (1976) クルマエビにおけるリノレン酸からエイコサペンタエン酸およびドコサヘキサエン酸への変換. 昭和 51 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.45.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁 (1977) Nutritional requirements of prawn-VII. Effect of dietary lipids on Growth. 日水誌, 43(7):849-856.
- 金澤昭夫・手島新一 (1977) クルマエビにおけるアセテートから脂肪酸の生合成(英文). 鹿大水産学部紀要, (26):49-53.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁 (1977) クルマエビにおけるパルミチン酸の代謝. 昭和 52 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.116.
- 金澤昭夫・手島新一・小野和夫 (1977) クルマエビにおけるリノレン酸から高度不飽和酸への変換能. 昭和 52 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.193.
- 金澤昭夫・手島新一・猿渡実・鹿山光 (1977) クルマエビにおけるエイコサペンタエン酸要求. 昭和 52 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.194.
- 金澤昭夫・常盤繁・鹿山光・平田稔 (1977) クルマエビの必須脂肪酸に関する研究-I.成長におよぼすリノール酸およびリノレン酸の効果. 日水誌, 43(9):1111-1114.
- 金澤昭夫・手島新一・猿渡実・鹿山光 (1978) クルマエビにおけるエイコサペンタエン酸の成長および脂肪酸組成に及ぼす影響(英文). 鹿大水産紀要, 27(1):35-40.
- 金澤昭夫・手島新一 (1979) クルマエビの脱皮周期中における脱皮ホルモンの変化. 昭和 54 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.99.
- 金澤昭夫 (1979) 脂溶性成分の種特異性. 日本水産学会編, 水産食品の鑑定. 水産学シリーズ, (29):59-77.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁 (1979) クルマエビにおけるパルミチン酸からの脂肪酸生合成(英文). 鹿大水産紀要, (28):17-20.

- 金澤昭夫・手島新一・小野和夫・K.CHALAYONDEJI (1979) *Penaeus monodon* および *Penaeus merguensis* におけるアセテートからの脂肪酸生合成(英文). 鹿大水産紀要, (28):21-26.
- 金澤昭夫・手島新一・猿渡実 (1979) クルマエビにおける必須脂肪酸要求量(英文). 鹿大水産紀要, (28):27-33.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁・猿渡実・F.A.ABDEL RAZEK (1979) Effects of short-necked clam phospholipids on the growth of prawn. 日水誌, 45(8):961-965.
- 金澤昭夫・手島新一・常盤繁・鹿山光・平田稔 (1979) Essential fatty acids in the diet of prawn-II. Effect of docosahexaenoic acid on growth, 日水誌, 45(9):1151-1153.
- KANAZAWA A., TESHIMA S. and K.ONO (1979) Relationship between essential fatty acid requirements of aquatic animals and the capacity for bioconversion of linolenic acid to highly unsaturated fatty acids. Comp.Biochem.Physiol., 63B:295-298.
- 金澤昭夫・手島新一 (1981) クルマエビの必須アミノ酸(英文). 日水誌, 47(10):1375-1377.
- 金澤昭夫(1981) クルマエビの人工的卵巣成熟及び産卵誘導. 養殖, 18(1):94-97.
- 金澤昭夫(1981) クルマエビの初期飼料-マイクロカプセルの開発. 養殖, 18(3):89-91.
- 金澤昭夫・手島新一・笹田博・S.ABDEL-RAHMAN (1982) 微粒子合成飼料によるクルマエビ幼生の飼育(英文). 日水誌, 48(2):195-199.
- 金澤昭夫 (1982) 外部環境要因による成熟・産卵の制御. 甲殻類. 日本水産学会編, 魚介類の成熟・産卵の制御. 水産学シリーズ, (41):80-89.
- KANAZAWA A. (1983) Penaeid nutrition. PRUDER D.D., LANGDON C.L. & D.E.CONKLIN eds., Proc. 2nd int. Conf. on Aquaculture Nutrition-Biochemical and Physiological Approaches to Shellfish Nutrition. No.2. World Mariculture Soc.Louisiana State Univ. Raton Rouge, pp.87-105.
- 金澤昭夫 (1983) 水産動物に対するリン脂質の効果. 油脂研究会抄録. Bシリーズ, No.18.
- 金澤昭夫・手島新一 (1983) 微粒子人工飼料の開発. 養殖, 20(11):97-101.
- 金澤昭夫・手島新一・佐々木満 (1984) クルマエビにおけるカルシウム, リン, マグネシウム, カリウム, 銅, マンガンおよび鉄の要求量(英文). 鹿大水産学部紀要, (33-1):63-71.
- 金澤昭夫・手島新一・高江正智 (1984) クルマエビ幼生のビタミン要求量. 昭和 59 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.25.
- KANAZAWA A. (1984) Nutrition of penaeid prawns and shrimps. Proc.1st Inter.Conf.on Cult.Penaeid, pp.123-130.
- KANAZAWA A. (1984) Nutritional requirements and artificial diets in the Kuruma shrimp, *Penaeus jaouenicus*. SINDERMAN C.J.ed., Proc.Ninth and Tenth US-Japan meetings on Aquaculture. pp.3-7.
- 金澤昭夫 (1985) クルマエビ初期餌料としての微粒子人工飼料. 養殖, 22(2):44-47.
- 金澤昭夫 (1985) 微粒子飼料. 米康夫編, 養魚飼料-基礎と応用. 水産学シリーズ, (54):99-110.
- 金澤昭夫・手島新一・坂本義信 (1985) クルマエビの脱皮周期中における食餌性およびコレステロールの利用(英文). 日水誌, 41(11):1186-1189.
- KANAZAWA A. (1985) Nutrition of penaeid prawns and shrimps. TAKI Y., PRIMAVERA J.H. & J.A.LLOBRERA eds., Proc. 1st Intl.Conf.on Culture of Penaeid Prawns/Shrimps. SEAFDEC Aquaculture Dept., Philippines, pp.123-130.
- KANAZAWA A., TESHIMA S. and M.SAKAMOTO (1985) Effects of dietary lipids, fatty acid, and phospholipids on growth and survival of prawn (*P.japonicus*) larvae. Aquaculture, 50(1・2):39-49.
- 金澤昭夫・手島新一・早川忠之・越塩俊介・田村秀雄 (1986) クルマエビ初期人工飼料のタンパク質源. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.141.
- 金澤昭夫 (1986) 水産増養殖に関連する生理活性物質-1. 甲殻類の生理活性物質. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.227.
- 金澤昭夫 (1986) エビの養殖飼料. 東京水産大学第 9 回公開講座編集委員会編, 日本のエビ, 世界のエビ. 成山堂書店, pp.258-289.
- 金澤昭夫 (1987) 甲殻類の生理活性物質. 安元健・神谷久男編, 海産有用生理活性物質. 水産学シリーズ, (65):100-110.
- 金澤昭夫・手島新一・山崎哲男・芦立昌一 (1988) コウライエビの栄養要求-1. 適正タンパク質. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.248.
- 金澤昭夫・越塩俊介・山崎哲男・芦立昌一 (1988) コウライエビの栄養要求-2. 脂肪酸要求. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.249.
- KANAZAWA A. (1989) Protein requirements of penaeid shrimp. BARRET J., CALVAS J., CUZON G., FUCHS J. & M.WEPPE eds., Advances in Tropical Aquaculture. IRREMER, Thailand, Actes de Colloque, (9):261-270.
- 金澤昭夫・越塩俊介・東正也・山崎哲男・芦立昌一 (1990) コウライエビの必須脂肪酸. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.114.

- 金澤昭夫 (1990) 甲殻類(特にクルマエビ)における栄養要求の新しい話題. エーザイ(株)動薬事業部主催, 飼料添加物セミナー. 養殖, 27(4):106-107.
- 金澤昭夫・手島新一・田中良治・岡田徹 (1992) 大豆レシチン中のクルマエビに対する成長促進因子の検索. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集.
- KANAZAWA A. (1992) Recent advances in penaeid nutrition in Japan. ALLAN L. & W.DALL eds., Proc.Aquaculture Nutrition Workshop. Australia, pp.64-71.
- KANAZAWA A. (1992) Prawn nutrition. CHEAK S.H. & S.THALATHIAH eds., Proc.Seminar on New Technol in Aquaculture. Malaysian Fish.Soc., pp.9-28.
- 金澤昭夫・木下佳久・手島新一・越塩俊介 (1993) クルマエビに対するEPAとDHAの効果. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.47.
- 金澤昭夫・松本裕由・手島新一・越塩俊介 (1993) クルマエビに対するアスコルビン酸誘導体の効果. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.57.
- KANAZAWA A. (1993) Essential phospholipids of fish and crustaceans. KAUSHIK S.J. and P.LUQUET eds., Fish Nutrition in Practice IV. International Symp. on Fish Nutrition and Feeding, INRA, France, pp.519-530.
- 金澤昭夫 (1993) 水産動物における高度不飽和脂肪酸およびリン脂質の生理効果. 藤本健四郎編, 水産脂質-その特性と生理活性. 水産学シリーズ, (96):69-79.
- 金澤昭夫 (1993) 水産脂質の生理活性. 1.水産生物における高度不飽和脂肪酸およびリン脂質の生理効果. シンポジウム, 水産脂質の特性と生理活性. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.376.
- 金澤昭夫・手島新一・越塩俊介・木下佳久 (1993) クルマエビ幼生に対するEPAとDHAの効果. 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.66.
- 金澤昭夫 (1993) 水産動物における高度不飽和脂肪酸およびリン脂質の生理効果. 藤本健四郎編, 水産脂質-その特性と生理活性. 水産学シリーズ, (96):69-79.
- 金澤昭夫 (1994) 甲殻類.微粒子飼料. シンポジウム, 養魚飼料用代替タンパク質利用の現状と課題. 平成6年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.376.
- KANAZAWA A. (1994) Nutritional requirements of shrimps. CHOU L.M., MUNRO A.D., LAM T.J., CHEN T.W., CHEONG L.K.K., DING J.K., HOOI K.K., KHOO H.W., PHANG V.P.E., SHIM K.F. & C.H.TAN eds., Proc.Third Asian Fisheries Forum. Asian Fish.Soc., Philippines, pp.987-990.
- 金澤昭夫 (1994) エビの養殖飼料. 東京水大第9回公開講座変集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.258-289.
- 金澤昭夫 (1994) 甲殻類用微粒子飼料における代替タンパク質の利用. 渡邊武編, 新しい養魚飼料-代替タンパク質の利用. 水産学シリーズ, (102):109-118.
- 金澤昭夫 (1994) 刺激物質, 1.タンカク質・ペプチド. シンポジウム, 魚介類に対する摂餌刺激物質. 平成6年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.376.
- 金澤昭夫 (1994) 化学-脂質. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):278-287.
- 金澤昭夫 (1994) タンパク質とペプチド. 原田勝彦編, 魚介類の摂餌刺激物質. 水産学シリーズ, (101):47-54.
- 金澤昭夫 (1996) 栄養・餌飼料. 橋高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.226-250.
- 金澤昭夫 (1996) 栄養性疾病. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.121-133.
- 金澤昭夫 (1998) 種苗生産における仔稚魚用微粒子配合飼料の現状と課題. 養殖, 35(11):62-65.
- 金枝豊広・能津純治・高野傑 (1975) 佐伯実証漁場-建干網の魚類排除効果. 昭和49年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):208-212.
- 金枝豊広・国武和人・田染博章・田森裕茂・長田泰洋 (1989) 藻場保護水面調査. 昭和62年度大分浅海事報, 83-85.
- 神戸和生・本田彰・石田宏一・宮原才郎・松本清紀・村上博夫 (1981) 内湾・浦湾の漁場環境調査-II. 串湾漁場環境調査. 昭和55年度熊本水試事報, 21-24.
- 神戸和生・本田彰・古庄真喜・平山泉 (1986) 漁場環境汚染調査研究事業. 昭和60年度熊本水試事報, 32.
- KANCHANAPHUM P., WONGTEERASUPAYA C., SITIDIOKRATANA N., BOONSAENG V., PANYIM S., TASSANAKAJON A., WILHYCHUM-NARNKUL B. and T.W.FLEGEL (1998) カニからウシエビへの WSSV の実験的伝播(英文). Dis.Aquat.Org., 34(1):1-7.
- 神田献二 (1994) エビ漁業の漁具・漁法. 東京水大第9回公開講座変集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.127-157.
- 神田典幸 (2000) クルマエビ.93年以来最高の生産量. 取引価格は過去最悪の状態へ. 養殖, 37(13):74-75.
- 金子浩昌 (1992) 魚介類. 金子浩昌・小西正泰・佐々木清光・千葉徳爾編, 日本史のなかの動物事典. 東京堂出版, pp. 206-266.

- KANCHANAPHUM P., WONGTEERASUPAYA C., SITIDILOKRATANA N., BOONSAENG V., PANYIM S., TASSANAKAJON A., WITHYACHUM-NARNKUL B., T.W.FLEGEL (1998) Experimental transmission of white spot syndrome virus (WSSV) from crabs to shrimp *Penaeus monodon*. Dis.Aquat.Org., 34(1):1-7.
- 菅野尚 (1975) 浅海における漁業生産と環境.増養殖生産における環境の基本的問題. 平野敏行編, 海洋生物資源環境. 東京大学学術出版会.海洋学講座, (15):163-171.
- 菅野尚 (1975) 浅海別枠の遺産. 東海区水研. さかな, (15):16-17.
- 菅野尚 (1988) 沿岸生物生産増大の可能性. 日比谷京・田中昌一・若林久嗣編, 21 世紀に向けての沿岸水産資源の開発. 恒星社厚生閣, pp.7-19.
- 菅野尚 (1989) 豊かな海をつくる. 自然の中の人間シリーズ, 海と人間編 6. 農山漁村文化協会, 39 pp.
- 兼松弘・牛草寿昭・丸山武紀・松本太郎 (1983) 魚介類および藻類中のトコフェロール含量ならびに同族体組成について. 栄養誌, 36:239-245.
- 兼光明男 (1979) 瀬戸内のクルマエビ養殖のメッカ 秋穂を訪ねて. 養殖, 16(6):44-46.
- 唐川純一 (1989) 牛窓町鹿忍湾において地曳網により採集した動物群の組成(1980). 岡山水試報, (4):5-14.
- 唐川純一 (1989) 牛窓町地先において地曳網により採集した動物群の組成(1981). 岡山水試報, (4):15-32.
- 唐川純一 (1990) 牛窓町鹿忍湾において秋季に刺網により漁獲した動物群の組成(1980~'82). 岡山水試報, (5):23-34.
- 唐川純一 (1992) 岡山県東部水域沿岸において秋季に板曳網及び桁漕網により漁獲した動物群の組成(1988). 岡山水試報, (7):11-23.
- 唐川純一 (1998) 岡山県西部水域において秋冬季に石桁漕網により漁獲した動物群の組成(1993 年度). 岡山水試報, (13):1-13.
- KARUNASAGAR I., PAI R., MALATHI G.R. and I.KARUNASAGAR (1994) Mass mortality of *Penaeus monodon* larvae due to antibiotic-resistant *Vibrio harveyi* infection. Aquaculture, 128(3・4):203-209.
- KARUNASAGAR I., OTTA S.K. and I.KARUNASAGAR (1997) Disease problems affecting cultured shrimp in India. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.58.
- KARUNASAGAR I., OTTA S.K. and I.KARUNASAGAR (1997) Histopathological and bacteriological study of White Spot Syndrome of *Penaeus monodon* along the west coast of India. Aquaculture, 153(1・2):9-13.
- KARUNASAGAR I., OTTA S.K. and I.KARUNASAGAR (1997) Monodon balurovirus (MBV) and bacterial septicaemia associated with mass mortality of cultured shrimp (*Penaeus monodon*) from the East coast of India. Indian J.Virol, 14: 27-30.
- KARUNASAGAR I., OTTO S.K., I.KARUNASAGAR (1998) Disease problems affecting cultured penaeid shrimp in India. Fish Pathol., 33(4):413-419.
- 笠井誠人 (1994) 養殖危機管理マニュアル(上). クルマエビ. 養殖, 31(4):66-68.
- 笠原昊 (1948) 支那東海黄海の底曳網漁業とその資源. 日本水産研究所報告, (3):1-194.
- 笠原昭吾 (1985) 1984 年日本海の異常低水温と魚貝類および漁況の特異現象. 水産海洋研究会報, (47・48):196-200.
- 柏田研一・金沢昭夫 (1970) 合成餌料によるクルマエビの飼育. 養殖, 7(2):44-48.
- 柏木哲 (2000) 添加商品タイプ別・上手な使い方, ビタミン B1 製剤. 養殖, 37(4):66-68.
- KASORNCHANDRA J., TANTAVANIT S., SUPAMATTAYA K., BOONYARATPALIN S. and T.ITAMI (1997) Recent progress in research on the white spot disease in penaeid shrimp in Thailand. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.61.
- KASORNCHANDRA J., BOONYARATPALIN S. and T.ITAMI (1998) Detection of white-spot syndrome in cultured shrimp in Asia: microscopic observation and polymerase chain reaction. Aquaculture, 164(1-4):243-251.
- 片田実 (1984) 海域における問題点とその対策, 三河湾. 吉田陽一編, 漁業と環境. 水産学シリーズ, (53):12-28.
- 片桐清・越野泰代・真岡孝至・松野隆男 (1986) クルマエビより Pirardixanthin 誘導体の単離. 昭和 61 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.187.
- KATAGIRI K., KOSHINO Y. and T.MATSUNO (1987) Occurrence of pirardixanthin derivatives in the prawn, *Penaeus japonicus*. Comp.Biochem.Physiol., 87B:161-163.
- 片岡千賀之 (1992) 以西底曳網における縮小再編の動向. 漁業経済研究, 36(3・4):43-66.
- 片岡千賀之 (1994) 東海・黄海の漁場利用と漁業管理. 漁業経済研究, 39(2):34-54.
- 片岡千賀之 (1998) 漁業制度と資源管理. 地域漁業学会編, 漁業孝現学-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp.24-42.
- 片岡千賀之 (1999) 東シナ海・黄海の国際的資源管理. 月刊海洋, 31(10):664-668.
- 片岡憲治・高場稔 (1982) 特定水産動物育成管理事業調査. 昭和 56 年度広島水試事報, 85-86.
- 片岡憲治 (1983) 専技活動. 昭和 57 年度広島水試事報, 51.
- 片岡憲治・久保田久次 (1985) 専技活動. 昭和 59 年度広島水試事報, 47-51.
- 片嶋一男・五利江重昭 (1985) 魚病等病害処理対策指導-XI. 昭和 58 年度兵庫水試事報, 293-294.

- KATAYAMA T., HIRATA K. and C.O.CHICHESTER (1972) The biosynthesis of astaxanthin-IV. The carotenoids in the prawn *Penaeus japonicus* BATE (Part I). 日水誌, 37(7):614-620.
- KATAYAMA T., KAMATA T., SHIMAYA M., DESHIMARU O. and C.O.CHICHESTER (1972) The biosynthesis of astaxanthin-VIII. the conversion of labelled β -carotene-15,15'- 3 H₂ into astaxanthin in prawn, *Penaeus japonicus* BATE. 日水誌, 38(10):1171-1175.
- 片山輝久 (1978) 海産動物. 日本水産学会編, 水産動物のカロテノイド. 水産学シリーズ, (25):41-59.
- 片山輝久 (1979) クルマエビの色あげ対策. 養殖, 16(5):47-48.
- 片山幸恵・中川清一 (1999) 我が国周辺海域漁業資源調査. 1.標本船調査および関連調査. 平成9年度福岡水技事報, 286-287.
- 片山幸恵・池浦繁 (2000) 防疫対策調査指導事業. 平成10年度福岡水技事報, 255-256.
- 片山幸恵・中川清一 (2000) 我が国周辺海域漁業資源調査. 1.標本船調査および関連調査. 平成10年度福岡水技事報, 290-291.
- 片山幸恵・池浦繁 (2001) 放流種苗防疫対策事業-クルマエビ,ヨシエビ. 平成11年度福岡水技事報, 261-263.
- 片山幸恵・江崎恭志 (2001) 我が国周辺海域漁業資源調査. 1.標本船調査及び関連調査. 平成11年度福岡水技事報, 291-293.
- 加藤弘 (1968) 東京市場における養殖物の現状. 養殖, 5(1):33-36.
- 加藤史彦 (1984) 漁況データ処理のためのパソコンプログラム. 日本海ブロック試験研究集録, (4):57-69.
- 加藤禎一 (1994) 日本の魚介類増殖放流事業の概要. 海外水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):289-293.
- 加藤利弘 (2000) 西瀬戸漁業資源培養管理対策推進事業. 伊予灘. 小型機船底びき網漁業実態調査. 平成11年度愛媛中予水試事報, 21-25.
- 加藤利弘 (2001) 西瀬戸漁業資源培養管理対策推進事業. 伊予灘. 平成12年度愛媛中予水試事報, 21-26.
- 加藤敏光 (1992) スピルリナ. 山口勝己編, 微細藻類の利用. 水産学シリーズ, (91):32-44.
- 加藤敏光 (2000) 添加商品タイプ別・上手な使い方,スピルリナ. 養殖, 37(4):172-178.
- 加藤義春 (1972) 温水利用のクルマエビ養殖. 養殖, 9(10):40-48.
- 加藤重一 (1984) 水産土木概論. 恒星社厚生閣, 381 pp.
- 勝俣亜世・玉城英信 (1987) 魚病対策事業. 昭和62年度沖縄水試事報, 191-197.
- 勝俣亜世 (1987) 沖縄におけるクルマエビ養殖の現状. 養殖, 24(4):105-107.
- 勝山茂明・吉田敏泰・永田房雄 (1999) クルマエビ種苗生産事業. 平成9年度石川水総セ事報, 69-70.
- 勝山茂明・吉田敏泰・永田房雄 (2000) クルマエビ種苗生産事業. 平成10年度石川水総セ事報, 74-76.
- KATZEN S., SALSER B.R. and J.URE (1984) Dietary lysine effects on stress-related mortality of the marine shrimp, *Penaeus stylirostris*. Aquaculture, 40(4):277-281.
- KAUTSKY N., RONNBACK P., TEDENGREN M. and M.TROELL (2000) Ecosystem perspectives on management of disease in shrimp pond farming. Aquaculture, 191(1-3):145-161.
- 川邊博・中野平二・梅沢敏・桃山和夫・平岡三登里・井上潔・大迫典久 (1994) 1993年西日本地方で発生した養殖クルマエビの大量死. 1.大量死発生状況および感染実験. 平成6年度魚病学会春季大会講演要旨.
- 川邊博・中野平二 (1994) 養殖技術開発試験. II.クルマエビ. 平成5年度熊本水研事報, 84.
- 川邊博・山本文市・中野平二・小山長久 (1995) 養殖技術開発試験(養殖クルマエビ大量へい死疫学調査). 平成6年度熊本水研事報, 54-59.
- 川邊博・小山長久 (1996) 養殖クルマエビ・ウイルス疾病対策試験(環境及び疫学調査). 平成7年度熊本水研事報, 81-86.
- 川邊博 (1996) クルマエビの養殖マニュアル.ピブリオ病及びウイルス症対策について. 熊本水研セ研報, (56):39-54.
- 河邊克己・川上大和 (1984) 海域における問題点とその対策, 博多湾. 吉田陽一編, 漁業と環境. 水産学シリーズ, (53):56-70.
- 川辺みどり (1999) 零細漁民は沿岸漁場を守れるか-マレーシア国ペナン島の浅海漁民の試み. 地域漁業研究, 40(1):37-53.
- 川田修平・鈴木信一・福田穎穂 (2000) クルマエビ造血組織発生に関する免疫組織学的研究. 平成12年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.27.
- 川口恭二 (1975) 国際流行病と検疫制度. 養殖, 12(2):110-117.
- 川口恭一 (1983) 漁業規制と漁場管理. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.90-109.
- KAWAHARA S. (1986) Distribution and migration of pinkspotted shrimp (*Penaeus brasiliensis*) and brown shrimp (*Penaeus subtilis*) off Surinam and French Guiana. Submitted to Workshop on the status of exploitation of shrimp stocks on the Guianas-Brazil shelf, 13 pp.
- 川原重幸 (1993) 南米北部のエビ漁業とその資源. GSK 西日本底魚部会報, (21):49-62.
- 川合範明 (1992) 放流前にもう一手. 伊豆分場だより, (246):1.

- 川合真一郎・黒川優子・輿世田兼三・西明文・今泉圭之輔 (1996) クルマエビのふ出後の成育にともなう消化酵素活性. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.77.
- 河井智康 (1985) 魚-21世紀へのプログラム. 東京美術, 226 pp.
- 河井智康 (1992) 東北海域における資源管理型漁業の構想-II. 食糧産業としての社会的役割. 東北水研研報, (54):73-87.
- 河井智康 (1993) 海・人・魚の讃歌. 農山漁村文化協会. 人間選書, (90):1-206.
- 河井智康 (1995) すしの魚. 平凡社, 113 pp.
- 川上誠一 (1992) 宍道湖物語. 藤原書店, 246 pp.
- 川上武彦 (1977) 太平洋中部海区における底魚資源の現状と将来. 水産海洋研究会報, (30):92-94.
- 川上武彦 (1979) コロンビア共和国水産資源開発事前調査に参加して. 東海区水研. さかな, (22):1-6.
- 川上大和 (1959) 水質汚濁調査. 昭和33年度福岡豊前水試事報, 57-69.
- 川上大和・岸本源次 (1959) 小型底曳網漁業の休漁期間設置効果について. 昭和34年度福岡豊前水試事報, 1-5.
- 川上大和 (1959) 周防灘福岡県沿岸における柵網と小型底曳網の漁獲えびの比較とその特異性について. 水産増殖, 6(3):77-82.
- 川上大和・久保昭史 (1963) 干潟漁場における有用生物, 特にエビ類の生態と棲息環境について. 昭和37年度福岡豊前水試研業報, 58-72.
- 川本範治 (1990) クルマエビ種苗生産事業. 平成元年度秋田水産振興セ事報, 255-259.
- 川本範治 (1991) クルマエビ種苗生産事業. 平成2年度秋田水産振興セ事報, 229-232.
- 川本範治 (1993) クルマエビ種苗生産事業. 平成3年度秋田水産振興セ事報, 347-350.
- 川本範治 (1995) ヤリイカ底建網導入試験. 平成5年度秋田水産振興セ事報, 14-25.
- 川村芳浩・山本強・金尾博和・杉野雅彦・丹下勝義 (1988) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和61年度兵庫水試事報, 153-163.
- 川村芳浩・山本強・金尾博和・杉野雅彦・丹下勝義 (1988) クルマエビ・ガザミ種苗生産期の飼料生産(クロレラ・ワムシ)について. 昭和61年度兵庫水試事報, 169-171.
- 川村芳浩・山本強・金尾博和・杉野雅彦・丹下勝義 (1989) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和62年度兵庫水試事報, 179-184.
- 川村芳浩・中本幸一・古塚香織 (1994) 魚病実態把握指導事業. 平成4年度兵庫水試事報, 160-164.
- 川村芳浩・安信秀樹・古塚香織 (1996) 魚病実態把握指導事業. 平成年度兵庫水試事報, 189-193.
- 川西敦・伊藤司・地下洋一郎・宮内大 (1984) クルマエビの種苗生産. 昭和57年度香川裁セ事報, 14-18.
- 川西敦・伊藤司・地下洋一郎・宮内大 (1985) クルマエビの種苗生産. 昭和58年度香川裁セ事報, 10-14.
- 川西敦・地下洋一郎 (1986) クルマエビの種苗生産. 昭和59年度香川裁セ事報, 8-12.
- 川西敦・伊藤司・地下洋一郎・三好龍太郎 (1985) クルマエビの種苗生産. 昭和58年度香川裁セ事報, 10-14.
- 川西敦・地下洋一郎・野坂克己 (1986) クルマエビの大型種苗の生産(中間報告). 昭和59年度香川裁セ事報, 13-20.
- 川西敦・地下洋一郎・伊藤司 (1986) クルマエビ中間育成試験(昭和58年度). 昭和59年度香川裁セ事報, 43-49.
- 川西正衛・平田貞郎・佐藤正明 (1972) 魚類放流技術開発調査(ガザミ放流技術開発). 昭和46年度広島水試事報, 44-46.
- 川西正衛・平田貞郎 (1977) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和51年度広島水試事報, 29-31.
- 川西正衛・平田貞郎 (1978) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和52年度広島水試事報, 29-37.
- 川西正衛・猪子嘉生 (1979) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和53年度広島水試事報, 29.
- 川西正衛・猪子嘉生 (1979) 200カイリ水域内漁業資源総合調査. 1.漁業資源調査. 昭和53年度広島水試事報, 30.
- 川野隆嗣 (1982) クウェイトの水産増養殖. 養殖, 19(4):30-36.
- 河崎憲 (1979) クルマエビ種苗生産. 昭和53年度愛知水試業報, 98.
- 河崎憲・岩崎員郎・河根三雄 (1982) クルマエビ種苗生産. 昭和55年度愛知裁協業報, 15-20.
- 川崎義一 (1989) 漁業高度管理適正化方式開発調査事業(周防灘域). 昭和62年度大分浅海事報, 79-80.
- 川崎健 (1983) 魚の資源学. 大月書店. 科学全書, (10):1-206.
- 川崎健 (1992) 魚・社会・地球. 成山堂書店, 262 pp.
- 川崎健 (1993) 海の環境学. 新日本出版社, 190 pp.
- 川島卓 (1994) 中国の漁業と水産加工の実態. 21世紀の水産を考える会編, シーフードの新時代. 成山堂書店, pp.156-168.
- 河田飼料(株) (1979) 天草での半止水式養殖法. 養殖, 16(6):60-61.
- 川添一郎・サフィア ジャスマニ・施タンイ・鈴木讓・会田勝美 (1998) クルマエビ卵黄蛋白質の精製と化学的特性. 平成10年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.46.
- 川添一郎・サフィア ジャスマニ・施タンイ・鈴木讓・会田勝美 (2000) クルマエビ卵黄蛋白質の精製と化学的特性(英文). Fish. Sci., 66(2):390-396.

- 川添一郎・サフィア ジャスマニ・施タンイ・鈴木譲・会田勝美 (2000) クルマエビの卵黄蛋白の精製と化学的性質(英文). *Fish. Sci.*, 66(3):535-539.
- 川津浩嗣・本間昭郎・川口恭一 (1976) 日本における魚類伝染病と対策の現状. FAO 水産増殖国際会議論文集, (1):197-205.
- 鹿山光・中川平介 (1975) 相模・駿河湾産エビ類マイクロネクトンの脂質, とくにワックス・エスロンについて. *油化学*, 24: 441-445.
- 鹿山光・平田稔・金澤昭夫・常盤繁・斎藤実 (1980) クルマエビの必須脂肪酸に関する研究-III. 脂質代謝と脂肪酸組成. *日水誌*, 46(4):483-488.
- 鹿山光 (1982) マクロネクトンにおける分布. 日本水産学会編, 海洋動物の非グリセイド脂質. 水産学シリーズ, (40):41-61.
- 鹿山光 (1986) 栽培漁業, それによって高 EPA 水産油脂に変えられるか? (英文) 広島大生物生産紀要, 25(1・2):19-28.
- 萱野泰久 (1997) 岡山県のクルマエビの漁獲実態. *岡山水試報*, (12):15-18.
- 萱野泰久・濱崎正明 (1997) 岡山県のクルマエビの漁獲実態-II. 漁協市場及び標本船日誌調査からみたクルマエビの漁獲. *岡山水試報*, (12):19-23.
- KEAN C.K. (1997) Land-based intensive fish and shrimp farming-problems and solutions. 日本水産増殖学会, 水産養殖の新たなパラダイム. *水産増殖*, 45(1):163-169.
- KELEMEC J.A. and I.R.SMITH (1980) Induced ovarian development and spawning of *Penaeus plebejus* in a recirculating laboratory tank after unilateral eyestalk enucleation. *Aquaculture*, 21(1):55-62.
- KELEMEC J.A. and I.R.SMITH (1984) Effects of low temperature storage and eyestalk enucleation of gravid eastern king prawns, *Penaeus plebejus*, on spawning, egg fertilisation and hatching. *Aquaculture*, 40(1):67-76.
- KELLER R. (1992) Crustacean neuropeptides: structures, functions and comparative aspects. *Experientia*, 48:439-448.
- KENDALL D. (1990) Shrimp retention characteristic of the Morrison soft TED: a selective webbing exclusion panel inserted in a shrimp trawl net. *Fish. Res.*, (9):13-21.
- KENNETH S.H. (1976) Toxicity of some chemical therapeutic to the commercial shrimp, *Penaeus californiensis*. *Aquaculture*, 7(3):293-294.
- KENSLEY B.F. (1972) Shrimps and prawns of Southern Africa. South African Museum, Cape Town, 65pp.
- 毛良明夫・大山剛・那須司・中川豊・大木雅彦・山田卓郎・清水博・中村哲夫・赤嶺そのみ (1997) 宮崎県下に発生した魚病について. 平成7年度宮崎水試事報, 279-290.
- 気仙沼水産事務所・石巻水産事務所・塩釜水産事務所 (1981) 漁獲実態調査.クルマエビ漁獲実態調査. 昭和55年度放流技術開発実績報告書, 60-65.
- 気仙沼水産事務所・石巻水産事務所・塩釜水産事務所(1983) 各県報告. 漁獲実態調査. 昭和57年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ類(太平洋), 宮31-宮34.
- 気仙沼水産試験場 (1983) 各県報告. 志津川地区の出現生物とその胃内容物. 昭和57年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ類(太平洋), 宮25-宮30.
- KHAYAT M., LUBZENS E., TIETY A. and B.FUNKENSTEIN (1994) Cell-free synthesis of vitellin in the shrimp *Penaeus semiosuleatus*. *Gen.Comp.Endocrinol.*, (93):205-213.
- KHAYAT M., YANG W.J., AIDA K., NAGASAWA H., TIETZ A., FUNKENSTEUN B. and E.LUBGENS (1998) Hyperglycaemic hormones inhibit protein and mRNA synthesis in *in vitro-incubated* ovarian fragments of the marine shrimp *Penaeus semisulcatus*. *Gen.Comp.Endocrinol.*, (110):307-318.
- KIATPATHOMCHAI W., BOONSAENG V., TASSANAKAJON A., WONGTEERASUPAYA C., JITRAPAKDEE S. and S.PANYIM (2001) A non-stop, single-tube, semi-nested PCR technique for grading the severity of white spot syndrome virus infections in *Penaeus monodon*. *Dis.Aquat.Org.*, 47(3):235-239.
- 木場一夫 (1942) 満州の對蝦. 国立中央博物館, (15):10-14.
- 木塚紀夫 (1974) 大阪市場における今年の高産養殖物取引きをふり返る. *養殖*, 11(12):46-48.
- 喜原好文 (1992) エビの獲り方・獲られ方. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.108-125.
- 菊池章裕・長谷川彰 (1994) タイ国とニューアグロインダストリー. *漁業経済研究*, 38(4):74-100.
- 菊池博史 (1994) 栽培漁業推進指導事業. 平成5年度香川水試事報, 55.
- 菊池博史・三木勝洋・宮川昌志・一色正 (1998) 種苗生産事業. 平成8年度香川水試事報, 128-132.
- 菊池博史・三木勝洋 (1999) 種苗生産事業. 平成9年度香川水試事報, 123-126.

- 菊地永祐・栗原康 (1988) 食物関係と環境特性. バクテリアよりみた食物関係. 栗原康編, 河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー. 東海大学出版会, pp.54-65.
- 菊地嶺 (1984) 海藻あれこれ-利用の面から. 東海区水研. さかな, (32):23-27.
- 菊池武昭 (1983) 重金属の代謝. 永山文男編, 魚類の物質代謝. 水産学シリーズ, (47):117-130.
- KIKUCHI T. and S. MIYAKE (1978) Fauna and flora of the sea around the Amakusa marine Biological Laboratory. Part II. Decapod Crustacea(Rev.Ed.). Amakusa Mar.Biol.Lab.,Kyushu Univ., pp.1-80.
- KIKUCHI T. and T.NEMOTO (1986) List of pelagic shrimps (Crustacea Decapoda) from the western North Pacific. Bull. Biogeogr.Soc.Japan, 41(7):51-59.
- KIKUCHI T. and M.OMORI (1985) Vertical distribution and migration of oceanic shrimps at two locations off the Pacific coast of Japan. Deep-Sea Res., 32(7):837-851.
- 菊地由江・白井隆明・高橋有幸・山本明・鈴木紘子 (2000) クルマエビ, アマエビ卵の遊離アミノ酸組成. 平成 12 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.110.
- KIM B.A. (1973) Studies on the distribution migration of Korean shrimp, *Penaeus orientalis*, in Yellow Sea. Bull. Fish.Res.Dev.Agency.Korea, (11):1-23.
- KIM C.K., KIM P.K., SOHN S.G., SIM D.S., PARK M.A., HEO M.S., LEE T.H., LEE J.D., JUN H.K. and K.L.JANG (1998) Development of a polymerase chain reaction (PCR) procedure for the detection of baculovirus associated with white spot syndrome (WSBV) in penaeid shrimp. J.Fish Dis., 21:11-17.
- 金鎮瑛 (1999) 効率的な水産資源造成のための種苗放流効果増大の方策. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):285-291.
- 金昌翰 (1995) 韓国の水産業の現状と展望. 福井県大論集, (7):185-203.
- 金二雲 (1997) 韓国の海水養殖の現状と今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):13-16.
- 金容文 (1994) 黄海の主要漁業資源の現状と資源培養. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):34-35.
- 金潤 (1999) 韓国での増養殖用種苗の安定的生産技術の現状と今後の展望. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):26-32.
- 金潤 (2000) 韓国の栽培漁業の技術開発の現状と今後の研究方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (4):17-23.
- 木本圭輔 (2000) 放流用種苗防疫対策事業. 平成 10 年度大分海研事報, 165-166.
- 木本圭輔 (2001) 放流用種苗防疫対策事業. 平成 11 年度大分海研事報, 146-149.
- 木村創・難波武雄 (1994) 栽培漁業技術開発試験事業.クルマエビ. 和歌山水増試報, (26):60-62.
- 木村博・檜山節久・吉岡貞範・岡辺千里 (1993) 小型底曳網漁船の投棄魚の研究-II. 小型底曳網手繰第 2 種と第 3 種の漁獲効率の比.について. 山口内海水試報, (22):26-35.
- 木村博・檜山節久・三村勝則 (2001) 平成 11 年度複合的資源管理型漁業促進対策事業. 平成 11 年度山口水研事報, 177-236.
- 木村憲・石川義美・平野正人 (1978) クルマエビ種苗生産. 昭和 51 年度新潟栽セ事報, 20-25.
- 木村憲・平山和博・金子正信 (1983) クルマエビ種苗生産. 昭和 56 年度新潟栽セ事報, 13-16.
- 木村憲・金子正信 (1983) クルマエビ放流技術開発事業(中間育成試験). 昭和 56 年度新潟栽セ業研報, 27.
- 木村憲・村川明文・岡村正裕・明石達也 (1991) クルマエビ量産技術向上試験. 平成元年度新潟栽セ業研報, 46.
- 木村憲・村川明文 (1992) クルマエビ量産技術向上試験. 平成 2 年度新潟栽セ業研報, 50.
- 木村憲・村川明文 (1993) クルマエビ量産技術向上試験. 平成 3 年度新潟栽セ業研報, 49-50.
- 木村茂 (1989) 無脊椎動物のコラーゲン. 新井健一編, 水産動物筋肉タンパク質の比較生化学. 水産学シリーズ, (76):91-99.
- 木村凡 (1995) 養殖魚の鮮度保持技術の現状と課題③.切り身の肉色保持技術. 養殖, 32(5):80-83.
- 木村武志 (1995) クルマエビウイルス対策緊急試験. 平成 6 年度熊本水研事報, 60-64.
- 木村武志・中野平二・桃山和夫・山野恵佑・井上潔 (1995) 養殖クルマエビの“RV-PJ 感染症”原因ウイルスの精製(短報). 魚病研究, 30(4):287-288.
- 木村武志・山野恵佑・中野平二・桃山和夫・平岡三登里・井上潔 (1996) PCR 法による PRDV の検出. 魚病研究, 31(2):93-98.
- 金城清昭 (1986) クルマエビ養殖池に侵入した魚類.1984 年の板馬クルマエビセンターの場合. 昭和 59 年度沖縄水試事報, 60-63.
- 北窓時男 (1998) インドネシアの輸出志向型漁業. 地域漁業学会編, 漁業考現型-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp. 78-90.
- KING J.E. (1948) A study of the reproductive organ of the common marine shrimp, *Penaeus setiferus* (LINNAEUS). Biol.Bull., 94:244-262.

- 衣巻豊輔 (1984) 東南アジアの魚 -シンガポール. 東海区水研. さかな, (32):37-44.
- KIRKEGAARD I. and R.H.WALKER (1969) Synopsis of biological data on the tiger prawn *Penaeus esculentus* HASWELL. 1879. CSIRO Fish.Synop., (3):1-31.
- KIRKEGAARD I. and R.H.WALKER (1970) Synopsis of biological data on the eastern king prawn *Penaeus plebejus* HESS. 1865. CSIRO Fish.Synop., (7):1-32.
- KIRKEGAARD I., TUMA D.J. and R.H.WALKER (1970) Synopsis of biological data on the banana prawn *Penaeus merguensis* de MAN. 1888. CSIRO Fish.Synop., (8):1-44.
- 岸上鎌吉 (1896) 本邦産くるまエビ類及其分類. 動雑, (8):372-374.
- 岸上鎌吉 (1900) 本邦産クルマエビ属. 水産調査報告, (8):81-85.
- 北林邦次・倉田博・首藤勝夫・中村邦典・石川宣次 (1971) クルマエビの配合飼料に関する研究-I. グルコサミン, リン, 及びカルシウムとの関係. 東海区水研研報, (65):91-107.
- 北林邦次・首藤勝夫・中村邦典・石川宣次 (1971) クルマエビの配合飼料に関する研究-II. グルコースの利用について. 東海区水研研報, (65):109-118.
- 北林邦次・首藤勝夫・中村邦典・石川宣次 (1971) クルマエビの配合飼料に関する研究-III. メチオニンとアルギニンの増重効果. 東海区水研研報, (65):119-127.
- 北林邦次・首藤勝夫・石川宣次・中村邦典 (1971) クルマエビの配合飼料に関する研究-V. たんぱく質含量と増中効果との関係および各種材料の再吟味. 東海区水研研報, (65):139-147.
- 北田修一 (1983) つくる漁業推進の仕組み. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.22-31.
- 北田修一・松岡玳良・古澤徹 (1986) 種苗の輸送と受け渡し. クルマエビ栽培漁業の手引き検討委員会編, クルマエビ栽培漁業の手引き. 日栽協さいばい叢書, 71-82.
- 北田修一 (1993) 栽培資源の計画管理とシミュレーションモデル. 水産工学, 30(1):49-58.
- 北田修一・松宮義晴・渡邊精一 (1994) 栽培漁業の課題と展望. 月刊海洋, 26(8):461-465.
- 北田修一 (1994) 資源-移植・放流. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):65-71.
- 北田修一 (1996) 栽培資源はどこまで来たか-種苗放流の効果と包括的資源管理. 水産振興, 30(9):1-77.
- 北田修一 (1998) 栽培漁業を考える②. 放流強度と種苗放流計画. アクアネット, 1(2):78-80.
- 北田哲生・吉田範秋・原田実 (1985) コウライエビの養成. 昭和 59 年度長崎水試事報, 296-298.
- 北垣喜章 (1987) クルマエビ-残暑と台風への対処. 養殖, 24(9):127-128.
- 北垣喜章 (1987) クルマエビ-秋期の管理ポイント. 養殖, 24(10):79-80.
- 北垣喜章 (1987) クルマエビ-出荷最盛期を間近にして. 養殖, 24(11):117-118.
- 北垣喜章 (1987) クルマエビ-贈答向け出荷のポイント. 養殖, 24(12):119-120.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-新年度生産計画の立案. 養殖, 25(1):114-115.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-越冬・早期種苗の池入れ準備. 養殖, 25(2):119-120.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-越冬エビの移放. 養殖, 25(4):119-120.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-中間育成の重要性. 養殖, 25(5):123-124.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-本養成池へ移放. 養殖, 25(6):120-121.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-池の底質点検. 養殖, 25(7):131.
- 北垣喜章 (1988) クルマエビ-八月の管理のポイント. 養殖, 25(8):142-143.
- 北垣喜章 (1993) 養魚販売バイブル. 魚種別・消費動向と販売戦略立案のポイント-クルマエビ. 養殖, 29(12):140-142.
- 北川衛・生田敬昌・森田正一 (1977) 種苗放流における浦の内式幼稚仔保育場の役割について. 栽培技研, 6(2):13-26.
- 北川衛・生田敬昌 (1978) クルマエビ栽培漁業推進事業. 昭和 51 年度高知水試事報, 128-129.
- 北原妙子 (1992) お子様ランチとエビ. 村井由敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.292-302.
- 北原武 (1981) 豊前海区におけるクルマエビ現存量の変動の漁業間の関係. 日水誌, 47(5):585-591.
- 北原武・多胡信良 (1990) 干潟のクルマエビに対する生産能力について. 福岡豊前水試栽培漁業業績集, (下):269-274.
- 北島忠弘・大滝英夫 (1977) 最近の以西底びき網漁業における操業実態調査結果について. 西海区水研. 底魚資源調査研究連絡, (71):29-43.
- 北島忠弘・青山恒雄 (1977) 標本船による以西底びき漁場の一斉魚探調査. 底魚資源調査研究連絡, (71):45-60.
- 北島忠弘・大滝英夫 (1987) 以西底びき網漁業における漁獲努力量の標準化. GSK 底魚部会報, (15):67-82.
- 北島力 (1983) 大量培養-実施例と問題点. 日本水産学会編, シオミズツボワムシ-生物学と大量培養. 水産学シリーズ, (44):102-128.
- 北村佐三郎 (1992) 飼料. 荻野珍吉編, 魚類の栄養と飼料. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (14):247-306.
- KITANI H. and J.N.ALBARADO (1982) The larval development of the Pacific brown shrimp, *Penaeus californiensis* HOLMES, reared in the laboratory. 日水誌, 48(3):375-389.

- 木谷浩 (1992) クルマエビ属ポストラバの相対成長とその分類への応用について(英文). 日水誌, 58(12):2211-2217.
- 木谷浩 (1993) メキシコ産ブラウンシュリンプ *Penaeus californiensis* のポストラバの形態(英文). 日水誌, 59(2):217-221.
- 木谷浩 (1993) メキシコ産ホワイトシュリンプ *Penaeus vannamei* のポストラバの形態(英文). 日水誌, 59(2):223-227.
- 木谷浩 (1996) 人工飼育による *Penaeus occidentalis* の幼生発生(英文). Fisheries Sci., 62(6):883-891
- 木谷浩 (1997) 中米, コスタリカ太平洋岸におけるクルマエビ属ポストラバの種組成, 分布密度, 季節変動について. 平成9年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.66.
- 木谷益邦・ほか7名 (1972) 昭和44年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査(44・45年度). 昭和44年度大分浅海調査研究報告, 7(2):1-33.
- 木谷益邦 (1972) 昭和44年度瀬戸内海栽培漁業, 実践漁場設定調査(44・45年度). 昭和44・45年度大分浅海事報, 84.
- 北尾忠利・高橋幸則・桃山和夫・勝俣亜世・遠藤俊夫・中川敦史 (1989) クルマエビ *Vibrio* 病に対するオキシソリン酸製剤の研究, 平成元年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.107.
- 北吉直子・河原栄二郎・高橋幸則・楠田理一 (2000) 魚類および甲殻類の生体防御能に及ぼす次亜塩素酸ナトリウム侵漬の影響. 平成12年度魚病学会春季大会講演要旨, p.28.
- 橘高二郎 (1971) クルマエビの養殖技術. 今井丈夫・藤永元作編, 浅海完全養殖. 恒星社厚生閣, pp.344-408.
- 橘高二郎 (1971) クルマエビの養殖技術. 今井丈夫監修, 浅海完全養殖. 恒星社厚生閣, pp.358-422.
- KITAKA J. (1974) Shrimp farming in the netted-off portion of a bay. 25 pp. (Mimeograph)
- 橘高二郎 (1975) クルマエビ類養殖の最近の進歩(英文). 第1回国際水産増殖栄養会議議事録, pp.249-285.
- KITAKA J. and R.L.MURRAY (1975) Effect of competitors upon the growth rate of white shrimp. 日水誌, 41(8):869-875.
- 橘高二郎 (1977) クルマエビ類養殖の最近の進歩(英文). フランス国立海洋学センター座談会報, (4):193-202.
- KITAKA J. (1977) Reproduction of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*, at Takamatsu, Japan in 1963. (Mimeograph)
- 橘高二郎 (1978) えび-養殖の現状など. 調理科学, (11):116-121.
- KITAKA J. (1981) Large scale production of shrimp for releasing in Japan and in United States and the results of releasing programme at Panama City, Florida. Kuwait Bull.Mar.Sci., (2):149-163.
- 橘高二郎 (1984) 日本におけるクルマエビ養殖, 人間活動が沿岸および汽水域に及ぼす影響(英文). MAB/COMAR地域セミナー(UNESCO). pp.141-146.
- 橘高二郎 (1985) 養殖クルマエビの肉質改善. 養殖, 22(12):60-64.
- 橘高二郎 (1990) クルマエビの話. New Food Industry, (32):1-6.
- 橘高二郎 (1992) 養殖の将来展望. 軟体類・甲殻類. 吉田陽一編, 東南アジアの水産増殖. 水産学シリーズ, (90):97-111.
- 橘高二郎 (1996) 幼生飼育. 橘高二郎・隆島史夫・金沢昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.136-187.
- 橘高二郎 (1996) クルマエビ. 石原勝敏編, 動物発生段階図譜. 共立出版, p.78.
- 清川智之・山根恭道 (2000) 魚類防疫に関する技術指導と研究(魚病対策指導事業). 平成11年度島根水試事報, 48.
- 清光照夫・岩崎寿男 (1982) 水産経済. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (32):1-295.
- 清光照夫・岩崎寿男 (1986) 水産政策論. 恒星社厚生閣, 262 pp.
- KLESIUS P. and C.SHOEMAKER (1997) Enhancement of disease resistance in shrimp: a review. ALESTON D.E., GREEN B.W. & H.C.CLIFFORD eds., Proceedings of the IV Symposium on Aquaculture in Central America: Focusing on Shrimp and Tilapia. Association Nacional de Honduras and the Latin American Chapter of the World Aquaculture Society, pp.31-35.
- KLIMA E.F. (1964) Mark recapture experiments with brown and white shrimp in the northern Gulf of Mexico. Proc.Gulf Caribb.Fish.Inst., (16):52-64.
- KLIMA E.F. and J.A.BENIGNO (1965) Mark recapture experiments. Circ.USFWS, (230): 38-40.
- KLIMA E.F. (1974) A white shrimp mark-recapture study. Trans.Am.Fish.Soc., 103(1):107-113.
- KNEIB R.T. and M.C.HUGGLER (2001) Tag placement, mark retention, survival and growth of juvenile white shrimp (*Litopenaeus setiferus* P'EREZ FARFANTE, 1969) injected with coded wire tags. J.Exp.Mar.Biol.Ecol., (264):109-120.
- 高冠瑞・鈴木誠・近藤仁 (1970) 動く網に対するクルマエビの行動(英文). 日水誌, 36(6):556-562.
- 胡傑・林志強 (1984) 浙江省の水産事情. 静岡裁セ. なむら, (22):1-2.
- 木幡孜 (1979) 相模湾の漁業生物資源の動向. 水産海洋研究会報, (34):98-103.
- 木幡孜 (1981) 大冷水塊に伴う特異海況と相模湾における珍種の漁獲記録. 水産海洋研究会報, (39):128-130.
- 木幡孜 (1989) 相模湾浮魚資源の生産特性と海浜の活性化事例. 水産海洋研究, 53(3):303-307.
- 木幡孜・石戸谷博範 (1991) 相模湾の漁業と資源. 水産海洋研究, 55(2):128-132.
- 木幡孜・江川公明・菊地康司 (1992) 定置網漁況からみた相模湾の生産性に関する考察Ⅱ-3. 価格分布による生産者魚価の動向. 神奈川水試研報, (13):27-40.
- 木幡孜 (1997) 漁業と漁村の活性化事例②. 養殖, 34(10):106-108.

- 木幡孜 (1997) 漁業と漁村の活性化事例③. 養殖, 34(11):102-104.
- 木幡孜 (1997) 漁業と漁村の活性化事例④. 養殖, 34(12):114-116.
- KOBAYASHI J. (1997) Nucleotide sequence analysis of the penaeid red-shaped DNA virus: Taxonomic implications. INUI Y. ed., New Approaches to the Viral Diseases of Aquatic Animals. NRIA International Workshop, National Res.Inst. Aquaculture, pp.242-245.
- 小林啓二・井村幸二・植田健二 (1969) 砂浜海域における漁場改良造成事業について-鳥取県における人工魚礁の設置と今後の計画. 鳥取水試報, (4):1-32.
- 小林啓二・三木教立・谷口朝宏 (1984) クルマエビ種苗量産技術開発試験. 昭和 58 年度鳥取栽培漁試事報, (2):33-36.
- 小林信・有江康章・上妻智行 (1993) えび刺網の改良による漁獲物組成の変化. 福岡水技研報, (1):63-69.
- 小林信 (1994) 覆砂式魚礁の集魚効果について. 南海海ブロック魚礁研究会報, (12):21-29.
- 小林信 (1996) 豊前海区における漁家の資源管理意識. 福岡水技研報, (5):73-81.
- 小林直正 (1986) 環境科学汚染物質の指標としての海産生物幼生. 吉田多摩夫編, 環境化学物質と沿岸生態系. 水産学シリーズ, (58):71-94.
- 小林邦男・中村良子・野口由美子・今田信良 (1982) クルマエビにおけるフェニトロチオンの代謝-I. フェニトロチオンおよびその代謝物質蓄積量の経時的变化. 昭和 57 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 小林邦男・中村良子・野口由美子・今田信良 (1982) クルマエビにおけるフェニトロチオンの代謝-II. フェニトロチオンおよびその代謝物質の抱合体について. 昭和 57 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 小林邦男・中村良子・今田信良 (1983) クルマエビにおけるフェニトロチオンの代謝-III. フェニトロチオンおよびその代謝物質の毒性. 昭和 58 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 小林邦男 (1983) 薬物の代謝. 永山文男編, 魚類の物質代謝. 水産学シリーズ, (47):131-141.
- 小林邦男・中村良子・R.M.ROMPAS・前川孝子 (1984) クルマエビにおけるフェニトロチオンの代謝-IV. 幼生の成長段階における代謝能の変化. 昭和 59 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.159.
- 小林邦男・汪陽・R.M.ROMPAS (1985) エビ類に対する有機燐剤毒性の Piperonyl butoxide による低減と作用機作について. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.45.
- 小林邦男・中村良子・今田信良 (1985) クルマエビにおける有機燐剤フェニトロチオンの代謝. 日水誌, 51(4):599-603.
- 小林邦男・中村良子・R.M.ROMPAS・今田信良 (1986) Difference in lethal concentration *in vivo* between fenitrothion and oxo-formin tiger shrimp *Penaeus japonicus*. 日水誌, 52(5):287-292.
- 小林邦男・R.M.ROMPAS (1985) クルマエビ幼生の成長段階における薬物耐性と代謝能の変化. 昭和 60 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.75.
- 小林邦男・中村良子・今田信良 (1985) クルマエビにおける有機燐剤フェニトロチオンの硫酸抱合およびグルコシド抱合代謝物質の生成(英文). 日水誌, 51(12):2013-2017.
- 小林邦男・伊豆進・大嶋雄治・田口千恵 (1986) 甲殻類中腸腺の薬物代謝酵素阻害物質-I. 中腸腺可溶性画分による硫酸抱合酵素阻害. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.160.
- 小林邦男・R.M.ROMPAS・大嶋雄治 (1988) クルマエビにおけるフェニトロチオンとそのオキシ体の毒性発現と代謝との関連性について. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.56.
- 小林邦男・汪陽・今田信良・大嶋雄治・R.M.ROMPAS (1993) エビ類に対するフェニトロチオン毒性のピペルニトキシドによる低減(英文). 日水誌, 59(4):717-720.
- 小林邦男・汪陽・木村繁夫・R.M.ROMPAS・今田信良・大嶋雄治(1993) クルマエビに対する有機リン殺虫剤毒性低減のための piperonyl butoxide の実際的応用(英文). 日水誌, 59(12):2053-2057.
- 小林崇 (1983) クルマエビ. 熊本県不知火海における種苗放流. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 社団法人資源協会, pp.268-283.
- 小林歌男 (1968) 牟礼地先で移植放流したクルマエビの漁獲されはじめる. 栽培漁業, 5(3):20-23.
- 児玉公成 (1989) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 62 年度秋田水産振興セ事報, 305-309.
- 児玉公成 (1994) 男鹿市五里合漁港内で発生した底生生物の斃死現象. 平成 4 年度秋田水産振興セ事報, 237-238.
- 児玉修 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査(要約). 平成 11 年度高知水試事報, 241-242.
- 児玉修 (2001) 加入期調査. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査総括報告書(瀬戸内海西部ブロック, クルマエビ), II. 128-130.
- 児玉識 (1995) 明治中期山口県漁業, 経済史研究のための基礎的資料分析. 水大校研報, 43(3):123-149.
- 古賀秀昭・野口敏春・青戸泉 (1989) 有明海へのコウライエビ人工種苗の放流-I. 成長と移動. 佐賀有明水試研報, (11):29-37.
- 古賀秀昭・野口敏春・青戸泉 (1989) 有明海へのコウライエビ人工種苗の放流. 西海区ブロック藻類・介類研究会報, (6):101-112.
- 古賀秀昭 (1990) 有明海へのコウライエビ人工種苗の放流-II. あんこう網による再捕状況. 佐賀有明水試研報, (12):29-34.

- 古賀秀昭・吉本宗史 (1991) 1990 年夏季に佐賀県有明海で発生したシャットネラ赤潮-II. 魚介類斃死試験. 佐賀有明水試研報, (13):51-56.
- 古賀秀昭・野口弘三・杉原雄二・吉本宗史・真崎邦彦・村山孝行・五島政則 (1996) サガンさかな(佐賀のさかな図鑑). 佐賀県水産局, 82 pp.
- 古賀文洋 (1994) 西海区における増養殖研究のレビュー. 水産業関係試験研究推進会議資源増殖部会, テーマ別研究のレビュー. 水産庁中央水研, Ser.,(1):1-58.
- 小金丸隆・緒方得生 (1987) クルマエビ種苗生産. 昭和 60 年度宮崎水試事報, 19-23.
- 小池篤 (1981) かごの漁具構造と漁獲. 日本水産学会編, かご漁業. 水産学シリーズ, (36):51-65.
- 小池利通 (1983) クルマエビ (*Penaeus japonicus*)の種苗生産. 昭和 56 年度新潟栽セ業研報, (6):123-135.
- 小池利通・金子正信 (1984) クルマエビ種苗生産. 昭和 57 年度新潟栽セ業研報, 15-18.
- 小池利通・金子正信 (1984) クルマエビ放流技術開発事業 (中間育成試験). 昭和 57 年度新潟栽セ業研報, 26.
- 小池利通・建原敏彦・金子正信 (1984) クルマエビ(*Penaeus japonicus*)幼生の変態速度と歩留りに及ぼす水温の影響について. 昭和 57 年度新潟栽セ業研報, 101-107.
- 小池利通・金子正信 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度新潟栽セ業研報, 12-15.
- 小池利通・金子正信 (1987) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 59 年度新潟栽セ業研報, 21-25.
- 小泉喜嗣・河野慈敬・河野芳巳・西川智・土居達夫・他 6 名 (1996) 赤潮発生調査 (赤潮・貝毒監視事業). 平成 6 年度愛媛水試事報, 37-47.
- 小泉喜嗣・西川智・薬師寺房憲・土居達夫・他 6 名 (1997) 赤潮発生調査(赤潮・貝毒監視事業). 平成 7 年度愛媛水試事報, 33-43.
- 小島昭 (1987) 輸入クルマエビへの対応策. 養殖, 24(10):60-61.
- 小島昭 (1990) 用途別の消費動向-クルマエビ. 養殖, 27(12):73-76.
- 小島栄司・北川清弘・瀬戸明・酒本秀一 (1986) 可消化処理海産クロレラのクルマエビ種苗生産への応用:珪藻代替としての効果について. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.127.
- 小嶋喜久雄・花淵靖子 (1981) 油谷湾におけるエビ,カニ類の生態学的研究-I. 出現種および種組成の季節的变化. 西海区水研研報, (56):39-54.
- 小嶋喜久雄・北島忠弘・大森迪夫・山中完一・久保田勝彦・築山一雄・団野貞明 (1983) 日本海西南海域における夏季の底生魚類相及び大型底生動物相と分布特性 (第 5 次陽光丸調査報告-予報). 昭和 57 年度 GSK 西日本底魚部会報, 5-24.
- 小嶋喜久雄 (1993) 油谷湾における藻場の魚類相とその季節変化. 西海ブロック底魚調査研究会報, (4):9-28.
- 小島正美 (1992) 海と魚たちの警告. 北斗出版, 199 pp.
- 小島伸治 (1999) 世界の水産の動き. 水産振興, 33(1):1-52.
- 国際農林水産業研究センター水産部 (1998) 研究所ホットライン-81. 養殖, 35(13):74-76.
- 国際養殖産業会 (1999) シンガポール・豪州の養殖新事情. 養殖, 82-85.
- 小松章博 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査(要約). 平成 9 年度高知水試事報, 315-316.
- 小松章博 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査(要約). 平成 10 年度高知水試事報, 289-290.
- 木実谷浩史 (1988) 昭和62年度漁業白書の概要. 水産振興, 22(5):1-42.
- 木実谷浩史 (1989) 昭和63年度漁業白書の概要. 水産振興, 23(6):1-49.
- 木実谷浩史 (1990) 平成元年度漁業白書の概要. 水産振興, 24(5):1-53.
- 今攸・安田政一・粕谷芳夫 (1982) クルマエビ種苗生産に供する親エビの卵巢成熟状況について. 栽培技研, 11(1):15-19.
- 近藤昌和・松山博子・矢野友紀 (1992) クルマエビ血球の貪食作用に及ぼすレクチンのオプソニン効果. 平成 4 年度魚病学会秋季大会講演要旨.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則 (1992) クルマエビ血液中のフェノールオキシダーゼ活性. 魚病研究, 27(4):185-189.
- 近藤昌和・松山博子・矢野知紀 (1992) クルマエビ血液の貪食作用に及ぼすレクチンのオプソニン効果. 魚病研究, 27(4): 217-222.
- 近藤昌和・松山博子・矢野友紀 (1992) クルマエビ血球の貪食作用に及ぼすレクチンのオプソニン効果. 平成4年度魚病学会秋季大会講演要旨.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・藤井玲子・友永進 (1994) クルマエビリンパ様器官の構造と機能. 平成 6 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.14.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・宮後富博・榎本房雄・藤井玲子・友永進 (1994) クルマエビリンパ様器官の異物捕捉にともなう構造変化. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.353.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・宮後富博・榎本房雄・藤井玲子・友永進 (1994) クルマエビのリンパ様器官と触角動脈の組織発生. 平成 6 年度魚病学会秋季大会講演要旨.
- 近藤昌和・藤井玲子・友永進 (1995) 抗原捕捉機構の進化(3). 節足動物クルマエビ心臓の食細胞. 日本解剖学会第 100 回総会記念全国学術集会.

- 近藤昌和・前田稔・伊丹利明・高橋幸則・中尾友美・藤井玲子・友永進 (1995) クルマエビ血球の微細構造. 平成 7 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.13.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・中尾友美・藤井玲子・友永進 (1995) クルマエビ心臓に見られる食細胞. 平成 7 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・中尾友美・藤井玲子・友永進 (1995) クルマエビ血球の細胞化学的研究. 平成 7 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.12.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・中尾友美・藤井玲子・友永進 (1995) クルマエビリンパ様器官の組織化学的研究. 平成 7 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・工藤恵美・水脇加奈・藤井玲子・友永進 (1996) クルマエビ腎臓の構造. 平成 8 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・藤井玲子・友永進 (1996) クルマエビ中腸線における異物捕捉. 平成 8 年度日本魚病学会秋季大会講演要旨.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・藤井玲子・友永進 (1996) クルマエビ腎臓における異物捕捉機構. 日本比較免疫学会第 8 回学術集会.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・藤井玲子・友永進 (1996) クルマエビ鰓における異物捕捉. 平成 8 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.22.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・藤井玲子・友永進 (1996) クルマエビ中腸腺における異物捕捉. 平成 8 年度日本魚病学会秋季大会講演要旨, p.18.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・工藤恵美・水脇加奈・藤井玲子・友永進 (1996) クルマエビ肝臓に見られる食細胞. 平成 8 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 近藤昌和・前田稔・伊丹利明・高橋幸則 (1996) クルマエビ血液中のレクチン. 平成 8 年度日本魚病学会秋季大会.
- 近藤昌和・前田稔・伊丹利明・高橋幸則 (1996) クルマエビ血液中のレクチン. 平成 8 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.56.
- KONDO M., SUZUKI N., ITAMI T., NARASAKA H., MAEDA M., HENNIG O., WATANABE A., HIRONO I., AOKI T. and Y.TAKAHASHI (1997) Phenoloxidase activity and superoxide production of shrimp hemocytes. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.63.
- KONDO M., ITAMI T. and Y.TAKAHASHI (1997) Preliminary characteristics of the lectins in the hemolymph of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.64.
- KONDO M., ITAMI T., TAKAHASHI Y., FUJII R. and S.TOMONAGA (1997) Ultrastructure and cytochemical characteristics of phagocytes in kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.113.
- KONDO M., ITAMI T., TAKAHASHI Y., FUJII R. and S.TOMONAGA (1998) Ultrastructural and cytochemical and characteristics of phagocytes in kuruma prawn. Fish Pathol., 33(4):421-427.
- KONDO M., ITAMI T. and Y.TAKAHASHI (1998) Preliminary characterization of lectins in the hemolymph of kuruma prawn. Fish Pathol., 33(4):429-435.
- 近藤昌和・伊丹利明・高橋幸則・宮後富博・榎本房雄・藤井玲子・友永進 (1994) クルマエビのリンパ球器官と触角動脈の組織発生. 平成 6 年度日本魚病学会秋季大会講演要旨.
- 近藤昌和・山本明子・高橋幸則・友永進 (2000) 甲殻綱十脚類の血球組成. 平成 12 年度日本水産学会中四国支部大会 (下関).
- 近藤昌和・高橋幸則・友永進 (2000) クルマエビ血球の安定性. 平成 12 年度日本水産学会中四国支部大会(下関).
- 近藤昌和 (2000) 無脊椎動物の血球(とくに甲殻類について). 第 7 回魚類整理研究会.
- 近藤昌和・高橋幸則・友永進 (2001) クルマエビ血球の生体外機能測定の限界. 平成 13 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.31.
- 近藤昌和・高橋幸則・友永進 (2001) クルマエビ血球の異物反応様式. 平成 13 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.31.
- 近藤昌和・吉田昌代・高橋幸則・友永進 (2001) 甲殻類の血球. 日本比較免疫学会第 13 回学術集会.
- 近藤正人 (1975) 漁場環境. 東シナ海・黄海の水系・水塊の分布. 平野敏行編, 海洋生物資源環境. 東京大学出版会. 海洋学講座, (15):99-105.
- 近藤優・中川征章・村松高明・上村信夫 (1976) クルマエビ種苗生産研究. 昭和 50 年度静岡水試事報, 245.
- 近藤優・中川征章・村松高明・上村信夫 (1977) クルマエビ種苗生産研究. 昭和 51 年度静岡水試事報, 290.
- 近藤優・中川征章・村松高明・上村信夫 (1977) 親エビ(クルマエビ)の産卵試験. 昭和 51 年度静岡水試事報, 290-291.
- 近藤優・大滝高明・窪田久・柴原規計 (1979) クルマエビ種苗量産技術開発事業. 昭和 53 年度静岡裁セ事報, 12-16.
- 近藤優・大滝高明・窪田久 (1979) クルマエビ種苗の中間育成におけるシェルターの効果試験. 昭和 53 年度静岡裁セ事報, 26-27.

- 近藤優・大滝高明・窪田久 (1980) クルマエビ種苗生産. 昭和 54 年度静岡裁セ事報, 11-17.
- 近藤優・大滝高明・窪田久 (1981) クルマエビ種苗生産. 昭和 55 年度静岡裁セ事報, 11-15.
- 近藤優・窪田久 (1982) クルマエビ種苗生産. 昭和 56 年度静岡裁セ事報, 11-14.
- 近藤優 (1982) 種苗生産近況.クルマエビ. 静岡栽培セ. なむら, (16):4.
- 近藤優 (1983) クルマエビ種苗生産結果. 静岡栽培セ. なむら, (17):2-3.
- 近藤優・大滝高明・窪田久・沢田智 (1983) 昭和 57 年度クルマエビ種苗生産. 昭和 57 年度静岡裁セ事報, 10-13.
- 近藤優 (1997) 中国浙江省の水産養殖. 養殖, 34(8):94-98.
- 孔傑 (1994) タイショウエビ病原検出における PCR 技術の利用. 生物工学展望, 14(6):43-46.
- KONTARA E.K.M., COUTTEAU P. and P. SORGELOOS (1997) Effect of dietary phospholipids on requirements for and incorporation of n-3 highly unsaturated fatty acid as neutral lipid sources in the diet of the prawn *Penaeus monodon*. Aquaculture, 158(3-4):305-320.
- 小坂昌也 (1972) 仙台湾におけるメガロベントスの食物連鎖-エビ類と底魚との主要鎖環とその季節的变化について. ベントス研連報, (5-6):9-12.
- 越塩俊介・金澤昭夫・手島新一 (1988) クルマエビ稚エビにおけるカニ蛋白の栄養価.昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.237.
- 越塩俊介・金澤昭夫・手島新一 (1989) クルマエビ稚エビの成長,生残に及ぼす飼料中蛋白質,エネルギー含量の影響. 平成元年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.15.
- KOSHIO S., KANAZAWA A., TESHIMA S. and J.D.CASTELL (1989) Nutritional evaluation of crab protein for larval *Penaeus japonicus* fed microparticulate diets. Aquaculture, 81(2):145-154.
- 越塩俊介・手島新一・金澤昭夫 (1992) クルマエビの内因性および代謝性窒素排泄量について. 平成 4 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.42.
- 越塩俊介・金澤昭夫・手島新一 (1992) クルマエビ幼生用飼料中のカニタンパク質をベースとした効果的なタンパク質源の組合わせの検索(英文). 日水誌, 58(6):1083-1089.
- 越塩俊介・龍野勝志・手島新一・金澤昭夫 (1993) クルマエビの成長と消化に及ぼす飼料中のタンパク質源の影響. 平成 5 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.51.
- 越塩俊介・手島新一・金澤昭夫 (1993) クルマエビに及ぼす飼料油脂の酸化程度. 平成 5 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.67.
- KOSHIO S., TESHIMA S., KANAZAWA A. and T.WATASE (1993) The effect of dietary protein content on growth, digestion efficiency and nitrogen excretion of juvenile kuruma shrimp *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 113(1-2):101-114.
- 越塩俊介・手島新一・金澤昭夫 (1994) クルマエビ幼生の生残,発育,成長に及ぼす結晶メチオニンとリジンの補足効果. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.39.
- 越塩俊介・龍野勝志・手島新一・金澤昭夫 (1994) クルマエビ幼生の生残,発育,成長に及ぼす飼料中のタンパク質源の影響. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.40.
- 越塩俊介・龍野勝志・手島新一・金澤昭夫 (1994) クルマエビのエネルギー収支に及ぼすタンパク質源の影響. 平成 6 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.73.
- 越塩俊介・内野恵美・手島新一・金澤昭夫 (1995) クルマエビ幼生の結晶アミノ酸利用と至適タンパク質添加量について. 平成 7 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.78.
- 越塩俊介・山本恵之・手島新一・石川学 (1997) 稚クルマエビの成長,生残に及ぼす飼料中リン脂質添加量と飼育環境の影響. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.134.
- 越塩俊介・手島新一・石川学 (1997) クルマエビ稚エビにおける脱脂大豆粕の利用性. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.40.
- 越塩俊介・手島新一・石川学・原田宏・斎藤三四郎 (1998) 稚クルマエビ及び稚オーストラリアザリガニにおける大豆粕の栄養価, 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.113.
- 越塩俊介・内野恵美・手島新一・石川学 (1996) 結晶アミノ酸添加大豆タンパク質飼料を摂取したクルマエビ幼生の代謝と排泄. 平成 8 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.66.
- 越塩俊介・横山佐一郎・手島新一・石川学・押田恭一・早澤宏紀 (2000) ラクトフェリン摂取による水棲動物の成長,生残およびストレス耐性の改善- I .クルマエビ. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.135.
- KOSHIO S.,YOKOYAMA S.,ISHIKAWA M.,HAYASAWA H.and K.OSHIDA (2000) Effect of lactoferrin on growth,survival and tolerance to stress of kuruma prawn *Penaeus japonicus*. SHIMAZAWA K.ed, Lactoferrin: Structure, Function and Application. Elsevier Science, Netherlands, pp.451-455.
- 越塩俊介 (2001) World Focus③. 環境にやさしい発展するテキサス式エビ養殖. 養殖, 38(3):122-123.
- 越塩俊介 (2001) World Focus④. フロリダ技術研究所の増養殖プログラムと研究施設. 養殖, 38(4):121.
- 越塩俊介 (2001) World Focus⑥. 内陸式エビ養殖の発展とその環境. 養殖, 38(6):122-123.
- 越塩俊介 (2001) World Focus⑧. 韓国における養殖業の現状と将来性. 養殖, 38(7):122.

- 越塩俊介 (2001) World Focus⑩. 近代化, 国際化が急速に進む中国の養殖事情. 養殖, 38(11):94-95.
- 小竹子之助・田原民男 (1958) エビ資源の減少について. 昭和 29-32 年度徳島水試事報, 77-88.
- 小菅丈治 (1995) 東アジアのマングローブ湿地の景観と底生生物の分布. 西海ブロック底魚研究会報, (6):30-33.
- 小達繁 (1991) 水産バイオテク研究の現状. 水産振興, 25(8):1-70.
- 寿久文・上城義信・大石節・正木康昭 (1990) 別府湾海域における小型底びき網漁業に関する資源管理の方向性について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (22):93-117.
- 古藤力 (1975) 南西海区外海域における沿岸漁業の多様性と資源の合理化利用. 漁業資源研究会議報, (17):43-53.
- KOU C-M., HSU C-R. and C-Y LIN (1995) Hyperglycaemic effects of dopamine in tiger shrimp, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 135 (1-3):161-172.
- KOU G.H., C.F.LO (1997) Tissue tropism analysis of white spot syndrome virus in latently and patently infected *Penaeus monodon*. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.62.
- KOU G.H., HO C.H., CHEN C.H., HSU H.C. and C.F.LO (1997) White spot syndrome baculovirus (WSBV) detected in cultured and captured shrimp in Taiwan, World Aquaculture '97. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA., pp.263-264.
- 香原知志 (1995) 東南アジアにおけるエビ類養殖の現状と展望. 養殖, 32(6):129.
- 高瑞永 (1993) 中国の養殖現状と養殖環境の整備について. 水産工学, 30(1):75-78.
- 高知県 (1977) 昭和 51 年度特定水産動物育成事業報告書(謄写印刷), 1-22.
- 高知県 (1982) 組織的調査研究活動推進事業報告書. 昭和 55 年度高知水試事報, (26):1-31.
- 高知県水産試験場 (1973) 底魚資源調査. 昭和 46 年度高知水試事報, 166-168.
- 高知県水産試験場 (1974) 漁場環境改善調査. 昭和 47 年度高知水試事報, 295-335.
- 高知県水産試験場 (1976) 底魚資源調査. 昭和 48 年度高知水試事報, 145-155.
- 高知県水産試験場 (1976) 底魚資源調査. 昭和 49 年度高知水試事報, 173-178.
- 高知県水産試験場 (1977) 底魚資源調査. 昭和 50 年度高知水試事報, 81-82.
- 高知県水産試験場 (1978) 底魚資源調査. 昭和 51 年度高知水試事報, 99-103.
- 高知県水産試験場 (1979) 底魚資源調査. 昭和 52 年度高知水試事報, 130-145.
- 高知県水産試験場 (1980) 底魚資源調査. 昭和 53 年度高知水試事報, 74-91.
- 高知県水産試験場 (1981) 底魚資源調査. 昭和 54 年度高知水試事報, 60-74.
- 高知県水産試験場 (1981) 昭和 54 年度赤潮対策技術開発試験. 昭和 54 年度高知水試事報, 109-123.
- 高知県水産試験場 (1982) 底魚資源調査. 昭和 55 年度高知水試事報, (10):1-8.
- 高知県水産試験場 (1983) 底魚資源調査. 昭和 56 年度高知水試事報, (10):1-4.
- 高知県水産試験場 (1984) 底魚資源調査. 昭和 57 年度高知水試事報, (9):1-4.
- 高知県水産試験場 (1985) 底魚資源調査. 昭和 58 年度高知水試事報, (8):1-4.
- 高知県水産試験場 (1986) 底魚資源調査. 昭和 59 年度高知水試事報, (6):1-3.
- 高知県水産試験場 (1987) 底魚資源調査. 昭和 60 年度高知水試事報, (8):1-3.
- 高知県水産試験場 (1988) 底魚資源調査. 昭和 61 年度高知水試事報, (10):1-3.
- 高知県水産試験場 (1989) 底魚資源調査. 昭和 62 年度高知水試事報, (5):1-3.
- 高知県水産試験場 (1990) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 63 年度高知水試事報, (7):1-23.
- 高知県水産試験場 (1991) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成元年度高知水試事報, (8):1-14.
- 高知県水産試験場 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 2 年度高知水試事報, (7):1-15.
- 高知県水産試験場 (1992) 資源培養管理対策推進事業. 平成 2 年度高知水試事報, (9):1-41.
- 高知県水産試験場 (1993) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 3 年度高知水試事報, 70-85.
- 高知県水産試験場 (1994) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 4 年度高知水試事報, 68-82.
- 高知県水産試験場 (1995) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 5 年度高知水試事報, 83-99.
- 高知県水産試験場 (1995) 給餌養殖緊急対策調査 (不稔性アオサによる環境浄化技術開発調査). 平成 5 年度高知水試事報, 215-238.
- 高知県水産試験場 (1996) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 6 年度高知水試事報, 39-53.
- 高知県水産試験場 (1997) 我が国周辺漁業資源調査委託事業. 平成 7 年度高知水試事報, 32-49.
- 高知県水産試験場 (1997) 養殖漁業, 浦の内湾に関する窒素収支について. 平成 7 年度高知水試事報, 162-164.
- 高知県水産試験場 (1999) 我が国周辺漁業資源調査委託事業. 平成 9 年度高知水試事報, 39-55.
- 高知県水産商工部 (1971) 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1-82.
- 講談社ベック編 (1998) 詳細図鑑さかなの見分け方. 講談社, 231pp.
- 河野秀伸・石橋制・田原健 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度宮崎栽セ事報, 50-54.
- 河野博 (1988) フィリピン水産養殖の変貌と苦悩①. ウシエビ養殖への憧憬. 養殖, 25(9):104-106.
- 河野博 (1988) フィリピン水産養殖の変貌と苦悩②. 彷徨えるウシエビ養殖. 養殖, 25(10):73-75.

- 河野慈敬 (1968) 小型底曳網漁獲物調査. 昭和 42 年度愛媛水試事報, 289-307.
- 河野慈敬・満田春馬 (1968) クルマエビ, ガザミ放流追跡調査(II). 昭和 42 年度愛媛水試事報, 314-319.
- 河野慈敬・山下文夫 (1969) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 43 年度愛媛水試事報, 56-87.
- 河野慈敬 (1970) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 44 年度愛媛水試事報, 300-309.
- 河野慈敬・満田春馬・矢野純 (1971) 瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査. 昭和 45 年度愛媛水試事報, 285-286.
- 河野慈敬 (1971) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 45 年度愛媛水試事報, 290-299.
- 河野慈敬・大岩靖己・矢野純 (1972) クルマエビによる新漁場造成試験. 昭和 46 年度愛媛水試事報, 268.
- 河野慈敬 (1972) 瀬戸内海漁業基本調査(委託事業). 昭和 46 年度愛媛水試事報, 269-281.
- 河野慈敬 (1973) 瀬戸内海漁業基本調査(小型底曳網漁獲物調査). 昭和 47 年度愛媛水試事報, 219-230.
- 河野慈敬・山田強 (1980) 種苗量産技術開発事業. クルマエビ. 昭和 53 年度愛媛水試事報, 153-155.
- 河野慈敬・馬越康登 (1981) 種苗量産技術開発事業. クルマエビ. 昭和 54 年度愛媛水試事報, 131-134.
- 河野慈敬 (1988) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(分場). 昭和 61 年度愛媛水試事報, 22-23.
- 河野慈敬・内藤馨 (1988) 海底ごみ調査. 昭和 61 年度愛媛水試事報, 50-53.
- 河野慈敬 (1990) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(分場). 昭和 63 年度愛媛水試事報, 24-25.
- 河野慈敬 (1991) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(分場). 平成元年度愛媛水試事報, 27-28.
- 河野通広・西村宏二・成田邦夫・武井保・萩原德行・中井昭・中島信義・奥谷喜世志 (1980) えび輸入の現状と今後 (その 1). 水産振興, 14(8):1-30.
- 河野通広・西村宏二・成田邦夫・武井保・萩原德行・中井昭・中島信義・奥谷喜世志 (1980) えび輸入の現状と今後 (その 2). 水産振興, 14(9):1-30.
- 河野通博 (1987) 水産物航空輸送の発展. 水産振興, 21(6):1-73.
- 河野迪子・マーシー ワイルダー・倉田勝美・日野明德 (1993) クルマエビ脱皮段階におけるキチン分解酵素活性の変動. 平成 5 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.218.
- 河野迪子・長澤寛道・渡邊俊樹・松居隆・古川清・古賀大三・会田勝美 (1999) 20-ヒドロキシエクジソン投与によるクルマエビ β -N-アセチルヘキソサミニダーゼのアイソザイムの活性上昇 (英文, 短報). Fish.Sci., 65(4):669-670.
- 高野瀬和治・松原中・藤田征作・竹丸巖・武田健二 (1991) クルマエビ, クマエビの種苗生産. 平成元年度鹿児島県水産試験場報告, 34-42.
- 鴻巣章二・香取進一・秋山明子・森高次郎 (1958) 甲殻類肉蛋白のアミノ酸組成について. 日水誌, 24:300-304.
- 鴻巣章二・秋山明子・森高次郎 (1958) 水産動物筋肉エキス成分-II. クルマエビ筋肉エキス中のアミノ酸について. 日水誌, 23(9):565-567.
- 鴻巣章二 (1988) 分布. 1. 無脊椎動物の含窒素化合物. シンポジウム, 魚介類のエキス成分. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.326.
- 鴻巣章二・品川明 (1988) 無脊椎動物の含窒素化合物. 坂口守彦編, 魚介類のエキス成分. 水産学シリーズ, (72):9-24.
- 鴻巣章二 (1992) 一般成分. 鴻巣章二・橋本周久編, 水産利用化学. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (24):25-39.
- 小浦信二 (1979) 嗜好品生産業としての養殖. 養殖, 16(6):41.
- 小谷口正樹・堀田和夫・若林洋 (1982) クルマエビ種苗生産. 昭和 54・55 年度富山栽セ事報, 17-18.
- 小谷口正樹・堀田和夫・若林洋 (1982) クルマエビ種苗生産. 昭和 54・55 年度富山栽セ事報, 48-50.
- 小谷口正樹・堀田和夫・渡辺孝之 (1983) クルマエビ種苗生産. 昭和 56 年度富山栽セ事報, 18.
- 小谷口正樹・堀田和夫・渡辺孝之 (1984) クルマエビ種苗生産. 昭和 57 年度富山栽セ事報, 18-20.
- 小谷口正樹 (1985) クルマエビ放流効果の推定. 日本海ブルック試験研究集録, (6):99-103.
- 小谷口正樹 (1991) 富山市四方地区におけるクルマエビ漁獲実態調査について. 富水試だより50年記念特別号, 98-101.
- 小谷口正樹 (1994) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 5 年度富山水試年報, 107-108.
- 小谷口正樹 (1994) クルマエビの放流初期の生き残り(要旨). 富山水試研報, (5):36.
- 小谷口正樹 (1995) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 6 年度富山水試年報, 114-115.
- 小谷口正樹 (1997) 放流クルマエビの生き残りについて(要旨). 富山水試研報, (9):53.
- 小谷口正樹 (1998) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 8 年度富山水試年報, 171-172.
- 小谷口正樹・角祐二 (1998) 新標識技術開発研究. 1. クルマエビ. 平成 9 年度富山水試年報, 46-47.
- 小山紀雄 (1998) 都市型漁業の条件. 21 世紀の水産を考える会編, 海と魚のエコロジー. 成山堂書店, pp.167-175.
- 小山次朗 (2000) 石油類生態毒性試験. 流出油の海洋生態系に及ぼす影響調査法. 瀬戸内海水研調査研究叢書, pp.43-50.
- 小澄千尋 (2000) 地域特産品化をめざしたお話. 佐賀玄海水振セ News, (5):29-30.
- KROL R.M., HAWKINS W. and R.W.OVERSTREET (1990) Reo-like virus in white shrimp *Penaeus vannamei* (Crustacea: Decapoda): cooccurrence with *Baculovirus penaei* in experimental infections. Dis.Aquat.Org, 8:45-49.

- KROL R.M., HAWKINS W.E. and R.M.OVERSTREET (1991) Rickettsial and mollicute infections in hepatopancreatic cells of cultured Pacific white shrimp (*Penaeus vannamei*). J.Invert.Pathol., 57:362-370.
- KRUSE D.N. (1959) Parasites of the commercial shrimps, *Penaeus aztecus*, *P.duorarum* BURKENROAD and *P.setiferus* (LINNAEUS). Tulane Studies in Zoology, (7):123-144.
- KUBAN F.D., LAWRENCE A.L. and J.S.WILKENFELD (1985) Survival, metamorphosis and growth of larvae from four penaeid species fed six food combinations. Aquaculture, 47(2・3):151-162.
- KUBO I. (1943) Diagnosis of a new species of the *Penaeus*. 水産研究誌, 38(11):200-201.
- KUBO I. (1949) Studies on penaeids of Japanese and its adjacent waters. J.Tokyo Coll.Fish., 36(1):1-467.
- 久保伊津男 (1950) 戦時中に於ける魚貝, 甲殻類に関する研究業績要録. 1. 甲殻類. 水産研究誌, 40(1):132-139.
- 久保伊津男 (1955) クルマエビの群成長度. 日水誌, 20(10):870-872.
- KUBO I. (1956) A review of the biology and systematic of shrimps and prawns of Japan. Proc.IPEC., 6(3):387-398.
- 久保埜和成 (1997) 強健シリーズ. 養魚への免疫活性物質の活用. 養殖, 34(10):122-123.
- 久保埜和成・縄田俊浩・浅野雅也・小田猛・徳重和夫・竹野登・西村博行・伊丹利明・近藤昌和・高橋幸則 (1996) クルマエビの生体防御能に及ぼすペプチドグリカンの有効性. 平成8年度日本魚病学会春季大会講演要旨.
- 工藤勝宏 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-理化学要因とその変動. 昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):187-191.
- 工藤勝宏 (1987) 漁獲統計から見た大分県瀬戸内海と豊後水道での主要魚種の変動. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (19):1-17.
- 工藤晋二・通山正弘 (1968) 太平洋南区における底びき網漁業と底魚研究. 漁業資源研究会議報, (8):41-49.
- 工藤晋二 (1980) 南西海域底魚資源. 青山恒雄編, 底魚資源. 恒星社厚生閣.新水産学全集, (10):166-191.
- 熊谷光洋・長谷川健二 (1999) 海面養殖業における管理技術問題に関する一考察 -特に漁場環境問題を中心として三重大生物資源紀要, (22):71-87.
- 熊谷光洋 (1999) クルマエビ養殖業の特質と現段階における経営反応. 漁業経済研究, 43(3):55-77.
- 熊谷滋・千田哲資 (1992) 養殖の現状と問題点. ミルクフイッシュ. 吉田陽一編, 東南アジアの水産増殖. 水産学シリーズ, (90):9-21.
- 熊井英水・澤田好史 (2000) 海産魚類養殖業の現状と課題. 熊井英水編, 海産魚の養殖. 湊文社, pp.2-16.
- 熊井英水 (2001) 養殖魚の安全性. 牧之段保夫・坂口守彦編, 水産物の安全性-生鮮品から加工食品まで. 恒星社厚生閣, pp.36-60.
- 熊本県 (1981) 不知火海北部海域水産振興調査(エビ類). 昭和55年度熊本水試事報, 55-57.
- 熊本県 (1982) 不知火海北部海域水産振興調査(エビ類). 昭和56年度熊本水試事報, 39-41.
- 熊本県 (1982) 天草外海・有明湾口海域総合開発水産振興調査. 昭和56年度熊本水試事報, 42-45.
- 熊本県 (1983) 不知火海北部海域水産振興調査(エビ類). 昭和57年度熊本水試事報, 40-41.
- 熊本県 (1983) 天草外海・有明湾口海域総合開発水産振興調査. 昭和57年度熊本水試事報, 42-44.
- 熊本県登立漁協青壮年部 (1969) いけすによるクルマエビ養殖. 養殖, 5(7):83-86.
- 熊本県水産研究センター (1992) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (11):42-44.
- 熊本県水産研究センター (1993) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (12):44-46.
- 熊本県水産研究センター (1993) クルマエビの養殖マニュアル. 熊本県.
- 熊本県水産研究センター (1994) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (13):41-42.
- 熊本県水産研究センター (1995) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (14):38-39.
- 熊本県水産研究センター (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (15):43-45.
- 熊本県水産研究センター (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):44-46.
- 熊本県水産研究センター (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (17):47-49.
- 熊本県水産試験場 (1968) クルマエビ放流効果追跡調査. 指定調査研究事業結果報告書, 1-72.
- 熊本県水産試験場 (1969) 養殖クルマエビの異常へい死に関する調査. 昭和43年度熊本水試事報, 220-242.
- 熊本県水産試験場 (1985) 組織的調査研究活動推進事業(天草・大矢野地域におけるクルマエビ養殖の実態把握とその安定化のための方策検討). 昭和59年度熊本水試事報, 77.
- 熊本県水産試験場 (1990) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (9):40-42.
- 桑知文 (1983) つくる漁業の施策-栽培漁業. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.46-67.
- 桑野文雄 (1989) 台湾におけるウシエビ種苗生産の問題点(要旨). 水産増殖, 36(4):310.
- 桑野文雄 (1986) 最新養魚飼料.人工プランクトンの特徴と使用法. 養殖, 23(12):117-120.
- KUMLU M. and D.A.JONES (1995) Salinity tolerance of hatchery-reared postlarvae of *Penaeus indicus* H.MILNE EDWARDS originating from India. Aquaculture, 130(2・3):287-296.
- KUMLU M., EROLDGAN O.T. and M.AKTAS (2000) Effects of temperature and salinity on larval growth, survival and development of *Penaeus semisulcatus*. Aquaculture, 188(1・2):167-173.

- KUNGVANKIJ P. (1974) On the mass production and rearing methods of the larvae of jumbo tiger shrimp(*Penaeus monodon* FABRICIUS). Fish.Cont.No.5 Phuket Fisheries Station, Department of Fisheries, 9 pp.
- 國崎直道 (1994) 養魚家のための食卓栄養学講座(7). 魚介類のタウリン含量について. 養殖, 31(3): 68-69.
- 国武和人・田森裕茂 (1988) 開発漁場保全調査. 昭和 61 年度大分浅海事報, 106-116.
- 国武和人・田森裕茂 (1989) 開発漁場保全調査. 昭和 62 年度大分浅海事報, 91-101.
- 倉田博 (1968) クルマエビの染色標識法について. 水産増殖, 16(1):39-45.
- 倉田博 (1968) イノコステロン投与によるクルマエビの脱皮促進について. 日水誌, 34(10):909-914.
- 倉田博 (1970) クルマエビ栽培における種苗とその播殖に関する諸原理について. 南西水研研報, (3):33-75.
- 倉田博・石岡清英 (1971) エビの標識法. 漁業資源研究会議報, (12):45-54.
- 倉田博 (1971) クルマエビの生物学的研究. 今井丈夫編, 浅海完全養殖. 恒星社厚生閣, pp.287-336.
- 倉田博・石岡清英・仁科重己・河野慈敬 (1971) 放流種苗の減耗に関する研究 -放流方法に関する研究. 昭和 46 年度別枠研究成果, (2):16-25.
- 倉田博・石岡清英 (1971) エビの標識法. 漁業資源研究会議報, (12):45-54.
- 倉田博 (1972) クルマエビ栽培における種苗とその播殖に関する諸原理について. 南西海区水研報, (5):33-75.
- 倉田博 (1973) 資源・海洋研究と栽培漁業の接点. 2.クルマエビ播殖種苗の減耗とその要因. 第 11 回シンポジウム, 栽培漁業における資源・海洋研究の役割. 漁業資源研究会議報, (15):71-84.
- 倉田博 (1973) クルマエビ属の生活史. 海洋科学, (5):20-27.
- 倉田博 (1973) クルマエビ属の生態. 山本護太郎編, 海洋生態学. 東大出版会.海洋学講座, (9):91-104.
- 倉田博 (1973) クルマエビの資源培養に関する研究. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘周辺実証漁場), (3):1-2.
- 倉田博 (1973) 播殖種苗の減耗. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘周辺実証漁場), (3):95-101.
- 倉田博・石岡清英・原健一・檜山節久 (1973) 播殖種苗の減耗. 浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):33-40.
- 倉田博・石岡清英・原健一・檜山節久 (1973) 模型人工干潟における実証実験-播殖種苗の減耗. 浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):97-104. 浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):33-40.
- 倉田博 (1974) クルマエビ栽培技術の進歩. 水産土木, 10(2):31-42.
- 倉田博 (1974) 昭和 48 年度研究成果の概要. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):1-7.
- 倉田博・梅沢敏・原健一・檜山節久 (1974) 秋穂実証漁場, 天然干潟-播殖種苗の減耗. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):13-18.
- 倉田博・梅沢敏・原健一・檜山節久 (1974) 人工干潟放流種苗の減耗. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究, 別枠研究成果, (4):47-51.
- 倉田博 (1975) 急がばまわれ. 東海区水研. さかな, (15):18-20.
- 倉田博 (1975) 昭和 49 年度研究成果の概要. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):1-7.
- 倉田博 (1975) 人工干潟を中心とする水産土木技術と増養殖. 農林水産業研究発表要旨, 16-24.
- 倉田博・茂野邦彦 (1976) クルマエビ資源培養技術の進歩. FAO 水産増殖国際会議論文集, (1):1-36.
- 倉田博 (1976) クルマエビ資源培養技術の進歩. FAO 水産増養殖国際会議論文集[I], 1-8.
- 倉田博 (1976) クルマエビ放流種苗の初期減耗と人工干潟. 日本水産学会編, 種苗放流効果. 水産学シリーズ, (12):74-82.
- 倉田博 (1976) 干潟の改善と造成. 新版つくる漁業. 農林統計協会, pp.145-163.
- 倉田博 (1976) 山口県大海湾におけるクルマエビのつくる漁業. 新版つくる漁業. 農林統計協会, pp.302-321.
- 倉田博 (1977) クルマエビ. 関西国際空港漁業環境影響調査報告書, 漁業班資料, (1):16.
- 倉田博 (1978) クルマエビ種苗放流原理. 日本水産学会編, 増殖技術の基礎と理論. 水産学シリーズ, (23):32-44.
- 倉田博 (1978) *Penaeus* 属の生態. ベントス研連報, (15・16):47-51.
- 倉田博 (1979) 浅海域における増養殖漁業の開発に関する総合研究(クルマエビの資源培養に関する研究). 農林水産技術会議研究成果, (116):14-36.
- KURATA H. (1981) Shrimp fry releasing techniques in Japan, with special reference to the artificial tideland. Kuwait Bull.Mar.Sci., (2):117-147.
- 倉田博 (1983) 札を付ける. 東北海区水研ニュース, (25):4-5.
- 倉田博 (1986) クルマエビの生活. 倉田博編, クルマエビ栽培漁業の手引き. 日本栽培漁業協会. さいばい叢書, 1-33.
- 倉田博 (2000) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究 (クルマエビの資源培養に関する研究). 農林水産技術会議研究成果, (116):14-36.
- 倉田亨 (1998) むすびにかえて-21 世紀へのメッセージ. 地域漁業学会編, 漁業考現学-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp.331-346.
- 呉羽尚寿・中西照美 (1972) 志布志事業場の 2,800 トン水槽によるクルマエビの種苗生産について. 栽培技研, 1(1):41-46.

- KURIAN C.V. and V.O.SEBASTIAN (1976) Prawns and prawn fisheries of India. Hindustan Publ.Co., 280 pp.
- KURMALY K., YULE A.B. and D.A.JONES (1989) An energy budget for the larvae of *Penaeus monodon* (FABRICIUS). Aquaculture, 81(1):13-25.
- KURMALY K., JONES D.A., YULE A.B. and J.EAST (1989) Comparative analysis of the growth and survival of *Penaeus Monodon* (FABRICIUS) larvae, from protozoa 1 to postlarva 1, on live feeds, artificial diets and on combinations of both. Aquaculture, 81(1): 27-45.
- KURMALY K., YULE A.B. and D.A.JONES (1989) Effects of body size and temperature on the metabolic rate of *Penaeus monodon*. Marine Biol., 103(1):25-30.
- 栗田正人・ほか5名 (1972) 昭和44年度技術改良試験報告書. 昭和44年度大分浅海調査研究報告, 7(5):1-10.
- 黒田伸郎・蒲原聡・井野川仲男・しらなみ乗組員 (1991) 水産生物に対する有機スズ化合物の毒性試験. 平成2年度愛知水試業報, 113-114.
- 黒田節子 (1986) これからの水産物消費を左右する要因について. 水産経済研究, (43):1-120.
- 黒田竹弥 (1981) タイ国の養魚. 養殖, 18(10):28-36.
- 黒田竹弥 (1989) 中国海面養殖を垣間見る(上). 養殖, 26(9):106-109.
- 黒田竹弥 (1989) 中国海面養殖を垣間見る(中). 養殖, 26(10):102-105.
- 黒田竹弥 (1990) 中国海面養殖の魚種別生産状況. 養殖, 27(4):126-128.
- 黒田竹弥 (1992) 中国の水産増養殖 その2. 水産振興, 26(9):1-26.
- 黒田竹弥 (1995) 中国・廈門, 無錫, 上海方面の水産増養殖. 養殖, 32(8):120-123.
- 黒田竹弥 (1996) 中国渤海北部の水産増養殖①. 養殖, 33(7):92-94.
- 黒田竹弥 (1997) 中国海南省の養殖事情. 養殖, 34(11):38-41.
- 黒田竹弥 (1997) 中国海南省の養殖事情(下). 養殖, 34(12):88-91.
- 黒田竹弥 (1999) 発電所と水産生物①. 養殖, 36(1):68-71.
- 黒田竹弥 (1999) 発電所と水産生物⑧. 養殖, 36(8):80-85.
- 黒田竹弥 (1999) 発電所と水産生物⑨. クルマエビの増養殖と発電所. 養殖, 36(9):78-83.
- 黒岩隆 (1983) 高知市沖の餌曳網で漁獲されるエビ類について. 昭和56年度高知水試事報, (11):1-13.
- 鉄健司 (1976) マレーシャとびある記. 東海区水研. さかな, (17):17-25.
- 黒木暘 (1975) クルマエビ稚仔の消化酵素. 日本水産学会編, 稚魚の摂餌と発育. 水産学シリーズ, (8):41-44.
- 黒木正・上村研一・古川貴之・福元誠・野村俊作・有馬康隆・山口昭宣 (1992) クルマエビ. 平成3年度鹿裁協事報, 17-22.
- 黒木敏行・岩田一夫 (1968) 底魚資源調査. 昭和42年度宮崎沿漁指事報, 19-20.
- 黒木敏行・重藤政孝・佐藤孝和 (1984) 底魚資源調査. 昭和57年度宮崎水試事報, 13.
- 黒木敏行・重藤政孝・佐藤孝和 (1985) 底魚資源調査(抄録). 昭和58年度宮崎水試事報, 9.
- 黒木敏行・重藤政孝・佐藤孝和 (1986) 底魚資源調査(抄録). 昭和59年度宮崎水試事報, 5.
- 黒木敏行・工藤基善・佐藤孝和 (1986) 昭和60年度底魚資源調査(抄). 昭和60年度宮崎水試事報, 6.
- 黒木敏行・工藤基善・林田秀一 (1988) 沿岸重要資源調査(抄). 昭和61年度宮崎水試事報, 6.
- 黒木敏行・水野次彦・児玉康則 (1988) マイワシ資源等緊急調査事業-産卵期魚群分布調査. 平成5年度宮崎水試事報, 11-17.
- 黒木敏行・水野次彦・田中宏明 (1996) マイワシ資源等緊急調査事業-産卵期魚群分布調査. 平成6年度宮崎水試事報, 12-27.
- 黒木敏行・神柱武志 (2001) 小型底曳網実態調査. 平成11年度宮崎水試事報, 7.
- 黒木敏郎・市村武美・守村慎次・本間昭郎・原田輝雄・廣崎芳次 (1984) 21世紀の養殖を語ろう(上). 養殖, 21(1):44-61.
- 黒木敏郎・市村武美・守村慎次・本間昭郎・原田輝雄・廣崎芳次 (1984) 21世紀の養殖を語ろう(下). 養殖, 21(2):44-57.
- クルマエビ栽培漁業の手引検討委員会 (1986) クルマエビ栽培漁業の手引. 日裁協, 1-306.
- KULMU M. and D.A.JONES (1995) Salinity tolerance of hatchery-reared postlarvae of *Penaeus indicus* H.MILNE EDWARDS originating from India. Aquaculture, 130(2-3):287-296.
- KULMU M., EROLDGAN O.T. and M.AKTAS (2000) Effects of temperature and salinity on larval growth, survival and development of *Penaeus semisulcatus*. Aquaculture, 188(1-2):167-173.
- 日下部重朗 (1967) フ化仔魚餌料としてのアルテミア. 養殖, 4(12):81-83.
- 日下部敬之 (1989) 漁況調査. 昭和62年度大阪水試事報, 45-50, 付表:(78)-(90).
- 日下部敬之 (1990) 漁況調査. 昭和63年度大阪水試事報, 50-55, 付表:(79)-(92).
- 日下部敬之 (1991) 漁況調査. 平成元年度大阪水試事報, 66-71, 付表:(92)-(107).
- 日下部敬之 (1992) 漁況調査. 平成2年度大阪水試事報, 47-51, 付表:(76)-(89).
- 日下部敬之 (1993) 漁況調査. 平成3年度大阪水試事報, 51-55, 付表:(42)-(53).
- 日下部敬之・鍋島靖信・安部恒久 (1993) 小型エビ類の分布生態調査(水生生物生態調査). 平成3年度大阪水試事報, 94-97.
- 日下部敬之 (1994) 漁況調査. 平成4年度大阪水試事報, 62-66, 付表:(42)-(53).

- 日下部敬之・鍋島靖信・安部恒久 (1994) 小型エビ類の産卵生態調査(水生生物生態調査). 平成 4 年度大阪水試事報, 123-127.
- 日下部敬之 (1995) 漁況調査. 平成 5 年度大阪水試事報, 51,付表:(41)-(51).
- KUSUDA R. and A.WATABE (1969) A new pathogenic Bacterium, belonging to the genus *Vibrio* isolated from diseased spiny lobster and prawn. Res.Rip.Kochi Univ., (12):77-83.
- 楠田理一 (1975) 魚類, 甲殻類の病原微生物(1). バクテリア, 糸状菌, 原生動物. 日本水産学会編. 水産学シリーズ, (10):85-96.
- 楠井善久 (2001) 輸入魚介類の安全性. 牧之段保夫・坂口守彦編, 水産物の安全性-生鮮品から加工食品まで. 恒星社厚生閣, pp.61-81.
- KUTKUHN J.H. (1966) The role of estuaries in the development and perpetuation of commercial shrimp resources. Amer.Fish.Soc.Spec.Publ., (3):16-36.
- KUTKUHN J.H. (1966) Dynamics of a penaeid shrimp population and management implication. Fish.Bull.USFWS, 65(3):313-338.
- 桑原昭彦・和田洋蔵・浜中雄一・本尾洋 (1985) 京都府久美湾周辺海域におけるクルマエビポストラバの分布について. 昭和 60 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.34.
- 桑原昭彦・和田洋蔵・浜中雄一 (1987) クルマエビポストラバの分布と接岸について. 日水誌, 53(9):1561-1566.
- 桑原連・秋本泰・平野禮次郎 (1985) ウシエビの酸素消費量に関する研究. 水産増殖, 33(1):1-6.
- 桑村勝士・徳田眞孝 (1994) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査委託事業-標本線調査および関連調査. 平成 5 年度福岡水技事報, 327-328.
- 桑村勝士・徳田眞孝 (1995) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.標本船調査および関連調査. 平成 6 年度福岡水技事報, 341-342.
- 桑村勝士・小林信・中川浩一 (1996) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 6.資源管理等沿岸漁業新技術開発事業. 平成 7 年度福岡水技事報, 375-381.
- 桑村勝士 (1998) えびこぎ網の袖網および身網目拡大による漁獲効率の変化. 福岡水技研報, (8):53-59.
- 桑村勝士・中川浩一・藤本敏明 (1998) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 5.資源管理等沿岸漁業新技術開発事業. 平成 8 年度福岡水技事報, 319-323.
- 桑村勝士・中川浩一・藤本敏明 (1999) 資源管理等沿岸漁業新技術開発事業. 平成 9 年度福岡水技事報, 329-335.
- 桑谷幸正 (1972) 資源培養あるいは栽培漁業について. 水産海洋研究会報, (20):107-108.
- 京都府 (1996) 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査報告書, 京 1-京 16.
- 京都府 (1997) 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査報告書, 京 1-京 16.
- 京都府 (1998) クルマエビの尾肢切除標識判別マニュアル. 京都海洋センター.
- 京都府栗田漁業協同組合 (1988) クルマエビの栽培漁業の成果. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 264-265.
- 京都府立海洋センター・福井県水産試験場 (1982) 昭和 57 年度温排水共同調査報告書. 福井水試報告, 昭和 57 年(15):1-37.
- 京都府立海洋センター (1992) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業. 京 1-京 24.
- 京都府立海洋センター (1993) 平成 4 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業. 京 1-京 24.
- 京都府立海洋センター (1994) 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業. 京 1-京 23.
- 京都府立海洋センター (1994) 各県調査結果の要約. 平成5年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 7-8.
- 京都府立海洋センター (1994) 各県調査結果の報告. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 京 1-京 23.
- 京都府立海洋センター (1995) 各県調査結果の要約. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 2pp.
- 京都府立海洋センター (1995) 各県調査結果の報告. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 京 1-京 17.
- 京都府立海洋センター (1996) 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業. 京 1-京 19.
- 京都府立海洋センター (1996) 各県調査結果の要約. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 2pp.
- 京都府立海洋センター (1996) 各県調査結果の報告. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 京 1-京 19.
- 京都府立海洋センター (1997) 各県調査結果の報告. 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 京 1-京 16.
- 京都府立海洋センター (1997) 各府県調査結果の総括報告. 平成 8 年度及び平成 4~8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業(エビグループ). 京 1-京 15.

京都府立海洋センター・長崎県水産試験場（1997）平成 8 年度及び平成 4 年～8 年度(総括)重要甲殻類栽培資源
管理手法開発調査報告書.

京都府立海洋センター・長崎県総合水産試験場・有明 4 県（1998～2000）平成 9 年～平成 11 年度重要甲殻類管
理手法高度化調査報告書.

京都府立海洋センター・有明 4 県（2001）平成 12 年度資源増大技術開発事業報告書，地域型中・底層性種グル
ープ（甲殻類）.

- LAKSHMIM G.J., VENKATARAMIAH A. and G.GUNTER (1976) Effect of salinity and photoperiod on the burying behavior of Brown shrimp *Penaeus aztecus* IVES. *Aquaculture*, 8(4):327-336.
- LAKSHMIM G.J., VENKATARAMIAH A. and H.D.HOWSE (1978) Effect of salinity and temperature changes spontaneous muscle necrosis in *Penaeus aztecus* IVES. *Aquaculture*, 13(1):35-43.
- 藍尚禮・竹井誠 (1973) クルマエビ歩脚における化学刺激に対する求心性インパルスの発現. 東海区水研研報, (73):69-77.
- LANARI D., BALLESTRAZZI R. and E.TIBALDI (1989) Effects of fertilization and stocking rate on the performance of *Penaeus japonicus* (BATE) in pond culture. *Aquaculture*, 83(3・4):269-279.
- LARAMORE R. and J.A.BARKATE (1979) Mortalities produced in the protozoa stages of penaeid shrimp by an unspeciaded amoeba. Texas A & M.Univ. Extension Fish Disease s Dianostic Laboratory Publication, No.FDDL-S12:1-7.
- LARAMORE R. (1995) Taura Syndrome-before Ecuador. Research Notes from Shrimp Culture Technologies, Inc.Ft.Pierce, FL.2:1-3.
- LAN C.C. and B.S.PAN (1993) In-vitro digestibility simulation the proteolysis of feed protein in the midgut gland of grass shrimp (*Penaeus monodon*). *Aquaculture*, 109(1):59-70.
- LATAPIE W.R., BROOM J.G. and D.A. NEAL (1972) Growth rates of *Penaeus aztecus* and *Penaeus setiferus* in artificial ponds under varying conditions. Proc.Annu.Workshop World Maricult.Soc., (3):241-254.
- LAUBIER-BONICHON A. and L. LAUBIER (1976) くるまえび(*Penaeus japonicus*)のコントロールされた生産.FAO 水産増殖国際会議論文集, (5):124-130.
- LAUBIER-BONICHON A. (1978) Ecophysiology of reproduction in the prawn *Penaeus japonicus*. Three years experiment in controlled conditions. *Oceanol.Acta.*, (1):135-150.
- LAVENS P. and P.SORGELOOS (2000) Experiences on importance of diet for shrimp postlarval quality. *Aquaculture*, 191(1-3):169-176.
- LAVILLA-PITOGO C.R., BATICADOS M.C.L., CRUZ-LACIERDA E.R. and L.D.de la PENA (1990) Occurrence of luminous bacterial disease of *Penaeus monodon* larvae in the Philipines. *Aquaculture*, 91(1・2):1-13.
- LAVILLA-PITOGO C.R., ALBRIGHT L.J., PANER M.G. and N.A.SUNAZ (1992) Studies on the sources of luminescent *Vibrio Harveyi* in *Penaeus monodon* hatcheries. SHARIFF M., SUBASINGHE R.P. & J.R. ARTHUR eds., Diseases in Asian Aquaculture I . Fish Health Section, Asian Fisheries Society, Manila, Philippenes, pp.157-164.
- LAVILLA-PITOGO C.R. (1995) Bacterial diseases of penaeid shrimps: an Asian view. SHERIFF M., ARTHUR J.R. & R.P.SUBASINGHE eds., Diseases in Asian Aquaculture II . Fish Health Section, Asian Fisheries Society, Manila, Philippenes, pp.107-121.
- LAVILLA-PITOGO C.R. and L.D.de la PENA (1997) Bacterial diseases in shrimp (*Penaeus monodon*) culture in the Philipines. Internation Synposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.59.
- LAVILLA-PITOGO C.R., ALBRIGHT L.J., and M.G.PANER (1998) Will microbial manipulation sustain the ecological balance in shrimp (*Penaeus monodon*) hatcheries. FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biotechnology. Thailand, pp.185-192.
- LAVILLA-PITOGO C.R. and L.D.de la PENA (1998) Bacterial diseases in shrimp (*Penaeus monodon*). *Fish Pathol.*, 33 (4):405-411.
- LAVILLA-PITOGO C.R., LEANO E.M. and M.G.PANER (1998) Mortalities of pond-cultured juvenile shrimp, *Penaeus monodon*, associated with dominance of luminescent *Vibrio* in the rearing environment. *Aquaculture*, 164(1-4):337-349.
- LAWRENCE A.L., WARD D., MISSLER S., BROWN A., McVEY J. and B.S.MIDDLEDITCH (1979) Organ indices and bio-chemical levels of ova from penaeid shrimp maintained in captivity versus those captured in the wild. Proc.World Maricult.Soc., (10):453-463.
- LEI C.H. and H.M.SU (1985) Growth and survival of *Penaeus monodon* larvae fed with selected food organisms. *J.Fish.Soc. Taiwan*, 12(2):54-69.
- Le MOULLAC G. (1994) Adaptation des enzyme digestives a l'alimentation chez la crevette *Penaeus vannamei* (Crustacea, Decapoda). Thesis of Diplome de l'Ecole Pratique des Hautes Etudes, 120 pp.
- Le MOULLAC G., Van WORMHOUDT A. and AQUACOP (1994) Adaptation of digestives emzimes to dietary protein, carbohydrate and fiber levels, and influence of protein and carbohydrate quality in *Penaeus vannamei* larvae (Crustacea, Decapoda). *Aquat.Living Resour.*, (7):203-210.

- Le MOULLAC G., KLEIN B., SELTON D. and A.Van WORMHOUDT (1996) Adaptation of trypsin, chymotrypsin and alphaamylase to casein level and protein source in *Penaeus vannamei* (Crustacea Decapoda). J.Exp.Mar.Biol.Ecol., (208):107-125.
- LEANO E.M., LAVILLA-PITOGO C.R. and M.G.PANER (1998) Bacterial flora in the hepatopancreas of pond-reared *Penaeus monodon* juveniles with luminous vibriosis. Aquaculture, 164(1-4):367-374.
- LEBALANC B.D. and R.M.OVERSTREET (1990) Prevalence of *Baculovirus penaei* in experimentally infected white shrimp (*Penaeus vannamei*) relative to age. Aquaculture, 87(3-4):237-242.
- LeBALANCE B.D. and R.M.OVERSTREET (1991) Effect of desiccation, pH, heat, and ultraviolet irradiation on viability of *Baculovirus penaei*. J.Invertebr.Pathol., 57:277-286.
- LeBALANCE B.D., OVERSTREET R.M. and J.M.LOTZ (1991) Relative of susceptibility of *Baculovirus penaei* to *Baculovirus penaei*. J.World Aquacult.Soc., 22:173-177.
- Le BESTE L. (1978) Biologie d'une population de crevettes, *Penaeus indicus* H.MILNE EDWARDS, sur la cote nordouest de Madagascar. Trav.Doc.ORSTOM, (99):1-291.
- Le GROUMELLE C., HAFFNER P., MARTIN B. and C.MARTIN (1995) Comparative study of bacterial infections re-sponsible for mass mortality in penaeid shrimp hatcheries of the Pacific zone. SHARIF M., SUBASINGHE R.P. & J.R.ARTHUR eds., Diseases in Asian Aquaculture II. Philippines, pp.163-173.
- Le VAY., RODRIGUEZ A., KAMARUDIN M.S. and D.A.JONE (1993) Influence of live and artificial diets on tissue composition and trypsin activity in *Penaeus japonicus* larvae. Aquaculture, 118(3-4):287-297.
- LEANO E.M., LAVILLA-PITOGO C.R. and M.G.PANER (1998) Bacterial flora in the hepatopancreas of pond-reared *Penaeus monodon* juveniles with luminous vibriosis. Aquaculture, 164(1-4):367-374.
- LEE D. (1970) Study on digestion and absorption of protein in artificial feeds by four species of shrimps. China Fish.Mon., (208):2-4.
- LEE D.A. and H.P.YU (1977) The penaeid shrimps of Taiwan. JCRR Fish.Ser, (27):1-110.
- LEE K.K., LIU P.C., KOU G.H., and S.C.CHEN (1997) Passive immunization of the tiger prawn, *Penaeus monodon*, using rabbit antisera to *Vibrio harveyi*. Letters in Applied Microbiology, (25):34-37.
- LEE K.K., CHEN F.R., YU S.R., YANG T.I. and P.C.CHEN (1997) Effects of extracellular products of *Vibrio alginolyticus* on penaeid prawn plasma components. Letters in Applied Microbiology, (25):98-100.
- LEE K.K., CHEN Y.L. and P.C.LIU (1999) Hemostasis of tiger prawn, *Penaeus monodon* effected by *Vibrio harveyi*, extra-cellular products, and a toxic cysteine protease. Blood Cell.Mol.Dis., 25:180-193.
- 李寛正 (1985) ウシエビ眼柄の神経分泌に関する研究- II. 神経分泌細胞と環境との関連性. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.73.
- 李寛正 (1982) 日本におけるウシエビ養殖企業化について -技術・流通・経営. 養殖, 19(7):90-95.
- LEE P.G., SMITH L.L. and A.L.LAWRENCE (1984) Digestive proteases of *Penaeus vannamei* BOONE: Relationship between enzyme activity, size and diet. Aquaculture, 42(3-4):225-239.
- LEE-Shing Hang, Bong-Ning LEE (1993) Ontogenic change of digestive enzymes in *Penaeus monodon*. 平成 5 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.190.
- 李定安・游祥平 (1977) 台湾産之對蝦類. 中国農林復興連合委員会, pp.1-110.
- LEE T.J. and K.MATSUDA (1973) Studies on the shrimp trawl used in Taiwan-field experiments of the beam trawl. 日水誌, 39(12):1237-1243.
- LEGER Ph., BIEBER G.F. and P.SORGELOOS (1985) International study on Artemia-XXXIII. Promising results in larval rearing in larval rearing of *Penaeus stylirostris* using a prepared diet as algal substitute and for Artemia enrichment. J.World Aquacul.Soc., (16):354-367.
- LEI C.H. and H.M.SU (1985) Growth and survival of *Penaeus monodon* larva fed with selected food organisms. J.Fish.Soc. Taiwan, 12(2):54-69.
- LEMONS D. and A.RODRIGUEZ (1998) Nutritional effects on body composition, energy content and trypsin activity of *Penaeus japonicus* during early postlarval development. Aquaculture, 160(1-2):103-116.
- LEMONS D., EZQUERRA J.M. and F.L.GARCIA-CARRENO (2000) Protein digestion in penaeid shrimp: digestive proteinases, proteinase inhibitors and feed digestibility. Aquaculture, 186(1-2):89-105.
- LEMONS D. and V.N.PHAN (2001) Energy partitioning into growth, respiration, excretion and exuvia during larval development of the shrimp *Farfantepenaeus paulensis*. Aquaculture, 199(1-2):131-143.
- LeMOULLAC G., SOYEG C., SAULNIER D., ANSQUER D., AVARRE C. and P.LEVY (1998) ブルーシュリンプの免疫能および抗ウイルス抵抗性への低酸素ストレスの影響(英文). Fish Shellfish Immunol., (8):621-629.
- LEOBERT D. and de la PENA (1995) Vibriosis of kuruma prawn, *Penaeus japonicus* (要旨). 広島大生物生産紀要, 34(1):64.

- LESTER L.J. (1983) Developing a selective breeding program for penaeid shrimp mariculture. *Aquaculture*, 33(1-4):41-50.
- LESTER L.J. (1988) Differences in larval growth among families of *Penaeus stylirostris* SIMPSON and *P.vannamei* BOONE. *Aquaculture and Fisheries Management*, 19(3):243-251.
- LESTER L.J. and K.S.LAWSON (1990) Inheritance of size as estimated by principal component analysis at two temperatures in *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 85(1-4):323.
- LESTER R.J.G., KETTERER P.J. and J.L.PAYTER (1987) Intranuclear inclusion bodies in the hepatopancreas of the brown tiger prawn *Penaeus esculentus*. *Aquaculture*, 67(1-2):238-239.
- LEUNG-TRUJILLO J.R. and A.L.LAWRENCE (1985) The effect of eyestalk on spermatogenesis and sperm quality in *Penaeus vannamei*. *J.World Maricult.*, (16):258-265.
- LEUNG-TRUJILLO J.R. and A.L.LAWRENCE (1987) Practical molt staining of *Penaeus setiferus* and *Penaeus setiferus* and *Penaeus stylirostris*. *J.World Aquacult.Soc.*, (18):180-185.
- LEUNG-TRUJILLO J.R. and A.L.LAWRENCE (1987) Observations on the decline in sperm quality of *Penaeus setiferus* under laboratory conditions. *Aquaculture*, 65(3-4):363-370.
- LEWIS D.H. (1973) Predominant aerobic bacteria of fish and shellfish. Texas A & M Univ.Sea Grant Publ., No.401, 102 pp.
- LEWIS D.H. (1973) Response of brown shrimp to infection with *Vibrio* sp. *Proc.World Maricul.Soc.*, 4:333-338.
- LEWIS D.H., LEONG J.K.O and C.MOCK (1982) Aggregation of penaeid shrimp larvae due to microbial epibionts. *Aquaculture*, 27(2):149-155.
- LEWIS D.H. and A.L.LAWRENCE (1983) Immunoprophylaxis to *Vibrio* sp. *Proc.on Warm Water Crustacean Aquaculture*, Brigham Young Univ., Laie,HI., pp.304-307.
- LEWIS D.H. (1986) An enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) for detecting penaeid baculovirus. *J.Fish Dis.*, 9:519-522.
- L'HERROUX M., METAILLER R. and L.PILVIN (1977) Remplacement des herbivores proies par des microparticules inertes une application a l'elevage larvaire de *Penaeus japonicus*. 3rd Meeting of I.C.E.S. Working Group on Mariculture, Brest, France, pp.147-155.
- LI A. (1993) Advances in research on the nutrition and feed additives of *Penaeus chinensis* in our laboratory. MAIN K.L., CONGHAI Y., CHEN S.N., KANAZAWA A., KEXING W. & Z.WEIQUAN eds., *Proc.International Symposium On the Shrimp Culture in Asia-Pacific Region*. China Soc.Fish., pp.60-67.
- 李寛正 (1987) 日本におけるウシエビ養殖企業化について. *養殖*, 19(7):90-95.
- 李慶彪 (1997) エビ養殖池と浅海における総合養殖の現状及び問題点. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):229-235.
- 李健 (1997) 養殖タイショウエビの病害発生と浄化生産. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):303-314.
- 李卓佳・張慶・陳康徳 (1998) 池養殖におけるウシエビの疾病に対する微生物による予防・治療法についての初歩研究. *南海水産研究*, (16):46-51.
- 李卓佳 (2000) バチルス複合製剤による水産養殖生態改善の研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源野庭異様に関する研究者協議会論文集, (4):121-130.
- LIANG Y-Q. and W-J.JI (1986) Protein requirement in formulated diets for penaeid shrimp (*Penaeus orientalis* KISHINOUE) in different growth stage. *Marine Fish.Res.*, (7):79-87.
- 廖一久 (1967) クルマエビの摂餌に関する研究 (謄写印刷). 1-84.
- LIAO I.C., HUANG T.L. and K.KATSUYAMA (1969) Summary of a preliminary report on artificial propagation of *Penaeus monodon* FABRICIUS. *JCRR Fish.Ser.*, (8):67-71.
- LIAO I.C. (1969) Artificial propagation of prawns. *Life Sci.*, 1:18-20.
- LIAO I.C. (1970) On the artificial propagation of five species of prawns. *Chin.Fish.Mon.*, 205:3-10.
- LIAO I.C. (1971) A culture study on grass prawn, *Penaeus monodon*, in Taiwan the patterns, the problems and the prospects. *J.Fish.Soc.Taiwan*, 5(2):11-29.
- LIAO I.C. (1973) Note on the cultured spawner of red-tailed prawn *Penaeus penicillatus* ALCOCK. *JCRR Fish.Ser.*, (15): 59 -65.
- LIAO I.C. and T.L.HUANG (1973) Experiments on the prepagation and culture of prawns in Taiwan. PILLAY T.V.ed., *Coastal Aquaculture in the Indo-Pacific Region*. Fishing News (Books), Ltd., England, pp.328-354.
- LIAO I.C., YANG F.R. and S.W.LOU (1977) Preliminary report on some diseases of cultured prawn and their control methods. *Reports on Fish Disease Research (I)*, *JCRR Fish.Ser.*, 29:28-33.
- LIAO I.C. and N.H.CHAO (1977) Problems to be solved for culture of *Penaeus monodon* and *Macrobrachium resenbergi*. *Harvest Magazine*, 27(23):15-18.

- LIAO I.C. and N.H.CHAO (1978) Hatchery and growout: penaeid prawns. McVEY J.P. ed., Handbook of Mariculture. Vol.1. Crustacean Aquaculture. CRC Press, Inc. Boca Raton, Fla., pp.161-167.
- LIAO I. (1981) Status and problems of grass prawn culture in Taiwan. ROC-Japan symposium on Mariculture, 1-34. A.LIM eds., Proc.of the first Inter.Conf.of Warm Water Aquacul.Crus. Brigham Young Univ., pp.127-142.
- LIAO I.C. (1984) Status and problems of grass prawn culture in Taiwan. Proceedings of ROC-JAPAN Symposium on mariculture. TML Conference proceedings, (1):81-98.
- LIAO I.C. (1984) A brief review of the larval rearing techniques of Penaeid Prawns. TAKI Y., PRIMAVERA J.H. & J.A.LLOBRERA eds., Proceedings of the First International Conference on the Culture of Penaeid Prawns/Shrimp. Aquaculture Department, Southeast Asian Fisheries Development Center, Iloilo, Philippines, pp.65-78.
- LIAO I.C. (1985) A brief review of the larval rearing techniques of penaeid prawns. TAKI Y., PRIMAVERA J.H. & J.A.LLOBRERA eds., Proc.First Inter.Conf.Culture of Penaeid Prawns/Shrimps. SEAFDEC Philippines, pp.65-78.
- LIAO I.C. and P.CHIANG (1986) The status and prospects of grass prawn culture in Taiwan. Presented at the 2nd World Shrimp Market Conference.
- LIAO I.C. (1984) Status and problems of grass prawn culture in Taiwan. Proc.of the ROC-Japan Symposium on Mariculture, pp.81-88.
- LIAO I.C. and T.MURAI (1985) Some essential factors in prawn culture development with special reference to achievement in Taiwan. Presented at II Simposio Brasileiro Sobre Cultivo de Camarao, 9-13 Sept., 1985 Parnaiba, Piaui.
- LIAO I.C. and T.MURAI (1985) Some essential factors for prawn culture development with reference to the achievement in Taiwan II. Simposio Brasileiro Sobre Cultivo de Camarao.
- LIAO I.C. and T.MURAI (1986) Effects of dissolved oxygen, temperature and salinity on the dissolved oxygen consumption of the grass shrimp, *Penaeus monodon*. MACLEAN J.L., DIZON L.B. & L.V.HOSILLOS eds., The First Asian Fisheries Forum. Asian Fish. Soc., pp.641-646.
- LIAO I.C. and P.CHIANG (1986) The status and prospects of grass prawn culture in Taiwan. Presented at the 2nd World Shrimp Market Conference.
- LIAO I.C.・村井正 (1986) 台湾にみるウシエビ養殖の発展要因と課題(上). 養殖, 23(10):108-111.
- 廖一久・村井正 (1986) 台湾にみるウシエビ養殖の発展要因と課題(中). 配合飼料の普及, 関連産業の発達 etc. 養殖, 23(11):59-61.
- 廖一久・村井正 (1986) 台湾におけるウシエビ養殖の発展要因と課題(下). 養殖, 23(13):104-106.
- LIAO I.C. (1986) General introduction to the prawn pond system in Taiwan. Aquacult.Engineering.
- LIAO I.C. (1986) Recent trends in prawn hatchery design and management. Oral presentation at the National Conference on Prawn-Fish Farming Technology, Oct.23-24, DBP-Social Hall, Makati, Philippines.
- 廖一久 (1988) 幼生飼育.1.クルマエビ属. シンポジウム, エビ・カニ類の種苗生産. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.322.
- 廖一久 (1988) 幼生飼育.クルマエビ属. 平野禮次郎編, エビ・カニ類の種苗生産. 水産学シリーズ, (71):92-118.
- LIAO I.C. (1988) Feasibility study for alternative culture species in Taiwan-*Penaeus penicillatus*. J.World Aquaculture Soc., 19:227-236.
- LIAO I.C. and N.H.CHAO (1988) Experimental culture of three new candidates for shrimp farming in Taiwan, *Penaeus semisulcatus*, *P.brasiliensis*, and *P.penicillatus*. Asian Fisheries Science.
- LIAO I.C., KUMENO F., IIDA Z. and T.KABAYASHI (1988) Preliminary report on the application of artificial plankton B.P. in *Penaeus monodon* larval production. Oral Presentation at the 19th Annual Meeting of the World Aquacul. Soc., Honolulu.
- LIAO I.C. (1989) *Penaeus monodon* culture in Taiwan: Through two decades of growth. Int.J.Aq.Fish.Technol., 1(1):16-24.
- 廖一久 (1989) インタビュー, 台湾のエビ養殖における環境問題への対応. 養殖, 26(6):69-70.
- LIAO I.C. (1990) The world's marine prawn culture industries: Today and tomorrow. HIRANO R. & I.HANYU eds., 2nd Asian Fisheries Forum. Asian Fish.Soc., Manila, pp.11-27.
- LIAO I.C., SU M.S., CHANG C.F. and K.F.LIU (1990) Experiments on production *Penaeus monodon* postlarvae free from *Penaeus monodon* Baculovirus (MBV). Proc.Roc-Japan Symp. on Fish Diseases, pp.155-162.
- LIAO I.C. (1990) Evaluation and comparison of culture practice for *Penaeus japonicus*, *P.penicillatus* in Taiwan. The Culture of cold-tolerant Shrimp. Proc.an Asian-U.S.Workshop on Shrimp Culture, Honolulu, pp.49-63.
- 廖一久 (1990) 台湾におけるエビ類養殖の技術と進歩. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.122-129.
- 廖一久 (1990) エビ幼生の餌料とその適用. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.305-318.

- LIAO I.C. and Y.H. CHIEN (1991) The evolution of the grass prawn, *Penaeus monodon*, hatching industry in Taiwan. International Symp. on Shrimp Larvae Hatcheries, 15 pp.
- LIAO I.C., SU M.S. and C.F. CHANG (1992) Diseases of *Penaeus monodon* in Taiwan: a review from 1977 to 1991. FULKS W. and K.L. MAIN eds., Diseases of Cultured Penaeid Shrimp in Asia and the United States. Oceanic Institute, Honolulu, pp.113-137.
- LIAO I.C., SU H.M. and J.H. LIM (1993) Larval foods for Penaeid prawn. McVEY J.P. ed., CRC Handbook of Mariculture 2nd edn., CRC Press, Boca Raton, (1):25-59.
- LIAO L.C., SU H.M. and J.H. LIN (1983) Larval foods for penaeid prawns. McVEY J.P. ed., Handbook of Mariculture, 1. Crustacean Aquaculture. CRC Press, Boca Raton, pp.43-69.
- LIAO L.C. and Y.P. CHEN (1983) Maturation and spawning of prawns in Tungkang Marine Laboratory, Taiwan. McVEY J.P. ed., Handbook of Mariculture, .1. Crustacean Aquaculture. CRC Press, Boca Raton, pp.155-160.
- LIANG D.V., ZHANG N., CAO D., CAO H., LIN R. and W. ZHANG (1983) Studies on the induction of ovarian maturity and spawning of *Penaeus orientalis* KISHINOUE by eyestalk ablation. Oceanologia et Limnologia Sinica, 14(2):138-147.
- LIANG Y.Q. and W.J. JI (1986) Protein requirement in formulated diets for penaeid shrimp (*Penaeus orientalis* KISHINOUE) in different growth stage. Marine Fish. Res., (7):79-87.
- LICHATOWICH T., SMALLEY T. and F.D. MATE (1978) The natural reproduction of *Penaeus merguensis* (De MAN, 1888) in an earthen pond in Fiji. Aquaculture, 15(4):377-378.
- LICOP M.S.R. (1988) Sodium-EDTA effects on survival and metamorphosis of *Penaeus monodon* larvae. Aquaculture, 74 (3-4):239-247.
- LIGGINS G.W. and S.J. KENNELLY (1996) By-catch from prawn trawling in the Clarence River estuary, New South Wales, Australia. Fisheries Res., (25):347-367.
- LIGHTNER D.V. and C.T. FONTAINE (1973) A new fungus disease of the white shrimp *Penaeus setiferus*. J. Invert. Pathol., 22 (1):94-99.
- LIGHTNER D.V. (1974) Normal postmortem changes in the brown shrimp, *Penaeus aztecus*. Fish. Bull., 72(1):223-236.
- LIGHTNER D.V., SALSER B.R. and R.S. WHEELER (1974) Gas-bubble disease in the brown shrimp (*Penaeus aztecus*). Aquaculture, 4(-):81-84.
- LIGHTNER D.V. (1975) Some potentially serious diseases problems in the culture of penaeid shrimp in North America. Proc. U.S.-Japan Natural Resources Program, Symposium on Aquaculture Diseases, Tokyo, pp.75-97.
- LIGHTNER D.V. and D.H. LEWIS (1975) A septicemic bacterial disease syndrome of penaeid shrimp, Diseases of Crustaceans. Marine Fisheries Rev., 37(5-6):25-28.
- LIGHTNER D.V., FONTAINE C.T. and K. HANKS (1975) Some forms of gill disease syndrome in penaeid shrimp. Proc. World Maricul. Soc., (7):347-365.
- LIGHTNER D.V. (1977) Shrimp diseases. SINDERMAN C.J. ed., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier Scientific Publishing Company, Amsterdam, Oxford, New York, pp.10-17.
- LIGHTNER D.V. (1977) *Vibrio* disease of shrimps. SINDERMAN C.J. ed., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier Scientific Publishing Company, Amsterdam, Oxford, New York, pp.19-26.
- LIGHTNER D.V. (1977) Larval mycosis of shrimps. SINDERMAN C.J. ed., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier Scientific Publishing Company, Amsterdam, Oxford, New York, pp.36-41.
- LIGHTNER D.V. (1977) Milk or cotton diseases of shrimps; Microsporidiosis of reproductive organs of shrimps. SINDERMAN C.J. ed., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier Scientific Publishing Company, Amsterdam, Oxford, New York, pp.42-47.
- LIGHTNER D.V. (1977) Fungus (*Fusarium*) diseases of shrimps. SINDERMAN C.J. ed., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier Scientific Publishing Company, Amsterdam, Oxford, New York.
- LIGHTNER D.V. and R.M. REDMAN (1977) Histochemical demonstration of melanin in cellular inflammatory processes of penaeid shrimp. Jour. Invertebrate Pathology, 30:298-302.
- LIGHTNER D.V., COLBIN L.B., BRAND C. and D.A. DANALD (1977) 'Black Death', a disease syndrome related to a dietary deficiency of ascorbic acid. Proc. World Maricul. Soc., (8):611-623.
- LIGHTNER D.V. (1978) Gill disease: a disease of the wild and cultured penaeid shrimp. Proc. of 6th Meeting of the International Council for the Exploration of the Sea. C.M.1978/F:24.
- LIGHTNER D.V. (1978) Possible toxic effects of the marine-blue green algal, *Spirulina subsalsa*, on the blue shrimp, *Penaeus stylirostris*. J. Invertebr. Pathol., 32:139-150.

- LIGHTNER D.V., DANALD D.A., REDMAN R.M., BRAND C., SALSER B. and J.REPRIETA (1978) Suspected blue-green algal poisoning in the blue shrimp (*Penaeus stylirostris*). Proc.World Maricul.Soc., (9):447-458.
- LIGHTNER D.V., HUNTER B., MAGARELLI P.C.Jr. and L.B.COLVIN (1978) Ascorbic acid nutritional requirement and role in wound repair in penaeid shrimp. Proc.World Maricul.Soc., (10):513-528.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1981) A baculovirus-caused disease of the penaeid shrimp, *Penaeus monodon*. Jour. Invertebrate Pathology, 38:299-302.
- LIGHTNER D.V. (1981) Fungal diseases of marine crustacea. DAVIDSON E.V. ed., Pathogenesis of Invertebrate Microbiol Diseases. Allanheld, Osumum Publ., N.J., pp.451-484.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., WISEMAN M.O. and R. L.PRICE (1982) Histopathology of aflatoxicosis in the marine shrimp *Penaeus stylirostris* and *P.vannamei*. J.Invertebr.Pathol., (40):279-291.
- LIGHTNER D.V. (1983) Diseases of cultured penaeid shrimps. McVEY J.P. ed., CRC Handbook of Mariculture Vol.1. Crustacean Aquaculture. CRC Press Inc. Boca Raton, Fla., pp.289-320.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and T.A.BELL (1983) Histopathology and diagnostic methods for IHHN and MBV diseases in cultured penaeid shrimp. Proc.Symposium on Warm Water Crustacean Aquaculture, Brigham Young Univ.HI., pp.291-303.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and T.A.BELL (1983) Infectious hydermal and hematopoietic necrosis (IHHN), a newly recognized virus disease of penaeid shrimp. J.Invertebr.Pathol., 42:62-70.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., BELL T.A. and J.A.BROCK (1983) Detection of IHHN virus in *Penaeus stylirostris* and *P.vannamei* imported into Hawaii. Jour. World Maricult., Soc., 14:212-225.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and T.A.BELL (1983) Observation on the geographic distribution, pathogenesis and morphology of the baculovirus from *Penaeus monodon* FABRICIUS. Aquaculture, 32(3·4):209-233.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and T.A.BELL (1983) ウシエビ(*Penaeus monodon*) のバキュロウイルスの地理的分布, 病原性および形態(英文). Aquaculture, 32(3·4):209-233.
- LIGHTNER D.V. (1983) Diseases of cultured penaeid Shrimp. McVEY ed., CRC handbook of mariculture, 1. Crustacean aquaculture. CRC Press. Florida, 289-320.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., BELL T.A. and J.A.BROCK (1984) An idiopathic proliferative syndrome of the midgut and ventral nerve in the Kuruma prawn, *Penaeus japonicus* BATE, cultures in Hawaii. J.Fish Diseases, (7):183-191.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1984) Intranucleolar crystalline bodies in the hepatopancreas of the blue shrimp *Penaeus stylirostris*. J.Invertebrate Pathol., (43):270-273.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., DANALD D.A., WILLIAMS R.R. and L.A.PEREZ (1984) Major diseases encountered in controlled environment culture of penaeid shrimp at Puerto, Sonora, Mexico. SINDERMAN C.J. ed., Proc.Ninth and Tenth U.S.-Japan meeting on Aqua-Pathogenesis of Invertebrate Microbial Diseases. Allanheld, Osmun Publ., Totowa, N.J., pp.127-160.
- LIGHTNER D.V. (1984) A review of the diseases of cultured penaeid shrimps and prawns with emphasis on recent discoveries and developments. TAKI Y., PRIMAVERA J.H. & J.A.LLOBRERA eds., Proceedings of the first International Conference on the Culture of Penaeid Prawns/Shrimps. Aquaculture Department, Southeast Asian Fisheries Development Center, Iloilo, Philippines, pp.79-103.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., WILLIAMS R.R., MOHNEY L.L., CLERX J.P.M., BELL T.A. and J.A.BROCK (1985) Recent advance in penaeid virus disease investigation. J.World Maricult.Soc., 16:267-274.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1985) Necrosis of the hepatopancreus in *Penaeus monodon* and *P. stylirostris* (Arthropoda, Decapoda) with red disease. J.Fish Diseases, 8(2):181-188.
- LIGHTNER D.V. (1985) A review of the diseases of cultured penaeid shrimps and prawns with emphasis on recent discoveries and developments. Proc.of the 1st Inter.Conf.on the Culture of Penaeids Prawns/Shrimps. SEAFDEC Aquaculture Departments, pp.79-103.
- LIGHTNER D.V. and R.N.REDMAN (1985) A parvo-like virus disease of penaeid shrimp. J.Invertebr.Pathol., 45(1):47-53.
- LIGHTNER D.V., HEDRICK R.P., FRYER J.L., CHEN S.N., LIAO I.C. and G.H.KOU (1987) A survey of cultured penaeid shrimp in Taiwan for viral and other important diseases. Fish Pathol., 22(3):127-140.
- LIGHTNER D.V., MOORE D.W. and R.M.REDMAN (1987) A tumor-like hernia of the hepatopancreas and associated tissues of the penaeid shrimp *Penaeus stylirostris* (Crustacea:Decapoda). Aquaculture, 65(3·4):359-362.
- LIGHTNER D.V. (1988) *Vibrio* disease of penaeid shrimp. SINDERMAN C.J. & D.V.LIGHTNER eds., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier. Amsterdam, pp.42-51.
- LIGHTNER D.V. (1988) Baculoviral midgut gland necrosis (BMN) disease of *Penaeus japonicus*. SINDERMAN C.S. & D.V.LIGHTNER eds., Disease Diagnosis and control in North American Marine Aquaculture. Elsevier, Amsterdam, p.26.

- LIGHTNER D.V. (1988) Diseases of cultured penaeid shrimp and prawns. SINDERMAN C.J. & D.V.LIGHTNER eds., Disease Diagnosis and Control in North American Marine Aquaculture. Elsevier, Amsterdam, Netherlands, pp.88-127.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and E.A.ALMADA RUIZ (1989) *Baculovirus penaei* in *Penaeus styrostris* (Crustacea; Decapoda) cultured in Mexico; Unique cytopathology and a new geographic record. J.Invertbr.Pathol., 53:137-139.
- LIGHTNER D.V. (1990) クルマエビ類の疾病: 細菌の知見について. JUSTO C.C.編, 世界のエビ類養殖-その基礎と技術. 緑書房, pp.60-95.
- LIGHTNER D.V. and H.R.SCHMITTOU (1990) Important diseases affecting Indonesia's marine shrimp culture industry: Observation, constraints, and recommendations resulting from a survey of culture areas (A final report). 25 pp.
- LIGHTNER D.V. and R.N.REDMAN (1991) Host, geographic range and diagnostic procedures for the penaeid virus diseases of concern to shrimp culturists in the Americas. De LOACH P., DOUGHERTY W.L. & M.A.DAVIDSON eds., Frontiers of Shrimp Research. Elsevier Science Publishers, Amsterdam, pp.173-196.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1992) Penaeid virus diseases of the shrimp culture industry of the Americas. FAST A.W. & L.J.LERTER eds., Culture of Marine Shrimp: Principles and Practices. Elsevier, Amsterdam, pp.569-588.
- LIGHTNER D.V., BELL T.A., REDMAN R.M., MOHNEY L.L., NATIVIDAD J.M., RUKYANI A. and A.POERNOMO (1992) A review of some major diseases of economic significance in penaeid prawn/shrimps of the Americas and Indopacific. SHRIFF M., SUBASINGHE R.P. & J.R.A.ARTHUR eds., Diseases in Asian Aquaculture I. Fish Health Section, Asian Fish.Soc., Manila, pp.57-80.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., WILLIAMS R.M., BELL T.A. and R.B.THURMAN (1992) Geographic dispersion of the viruses IHHNV, MSV and HPV as a consequence of transfers and introductions of penaeid shrimp to new regions for aquaculture purpose. ROSENFELD A. & R.MANN eds., Dispersion of Living Organisms in to Aquatic Ecosystem. Univ.Maryl and Sea Grant Publ.UM-SG-TS-92-04, College Park, pp.155-173.
- LIGHTNER D.V., WILLIAMS R.R., BELL T.A., REDMAN R.M. and L.A.PEREZ (1992) A collection of case histories documenting the introduction and spread of the virus diseases IHHN in shrimp culture facilities in northwestern Mexico. ICES Marine Science Symposia, 194:97-105.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M. and J.R.BONAMI (1992) Morphological evidence for a single bacterial etiology in Texas necrotizing hepatopancreatitis in *Penaeus vannamei* (Crustacea: Decapoda). Dis.Aquat.Org., 13 (3):235-239.
- LIGHTNER D.V., POULOS B.T., BRUCE L., REDMAN R.M., MARI J. and J.R.BONAMI (1992) New developments in penaeid virology; application of biotechnology in research and disease diagnosis for shrimp viruses of concern in the Americas. FULKS W. & K.MAIN eds., Diseases of Cultured Penaeid Shrimp in Asia and United States. Publ. by The Oceanic Institute, Makapuu Point, Hawaii, pp.233-253.
- LIGHTNER D.V. (1992) Shrimp viruses; diagnosis, distribution and management. WYBAN J.ed., Proc.of the Special Session on Shrimp Farming. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA.USA., pp.238-253.
- LIGHTNER D.V. (1993) Non-infectious diseases of Crustacea with an emphasis on cultured shrimp. COUCH J.A. & J.W.FOURNIE eds., Advances in Fisheries Science: Pathobiology of Marine and Estuarine Organism. CRC Press, USA, pp.343-358.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., MOORE D.W. and M.A.PARK (1993) Development and application of a simple and rapid diagnostic method to studies on hepatopancreatic parvovirus of penaeid shrimp. Aquaculture, 116(1):15-23.
- LIGHTNER D.V. (1993) Diseases of cultured penaeid shrimp. McVEY J.P.ed., CRC Handbook of Mariculture, 2nd edn.Vol.1. Crustacean Aquaculture. CRC Press, Boca Raton,U.S.A., pp.393-486.
- LIGHTNER D.V., POULOS B.T., BRUCE L., REDMAN R.M., NUNAN L., PANTOJA C., MARI J.I. and J.R.BONAMI (1994) Development and application of genomic probes for use as diagnostic and research reagents for the penaeid shrimp parvoviruses IHHNV and HPV, and the baculoviruses MBV and BP. Culf Coast Research Laboratory Special Publication, U.S. Marine Shrimp Farming Program 10th Anniversary Review. Ocean Springs, Mississippi, Gulf Research Reports, (1):59-85.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1994) エビ養殖における新しい激的な感染症と非感染症(英文). Abstract. International Symposium on Aquatic Animal Health, p.V-3.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1994) An epizootic of necrotizing hepatopancreatitis in cultured penaeid shrimp (Crustacea: Decapoda) in northwestern Peru. Aquaculture, 122(1):9-18.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., POULOS B.T., MARI J.I., BONAMI J.R. and M.SHARIFF (1994) Distinction of HPV-type virus in *Penaeus chinensis* and *Macrobrachium rosenbergii* using a DNA probe. Asian Fish Sci., (7):267-272.

- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., HASSON K.W. and C.R.PANTOJA (1995) Taura syndrome in *Penaeus vannamei*: histopathology and ultrastructure. *Dis.Aquat.Org.*, 21(1):53-59.
- LIGHTNER D.V. (1996) *In situ* hybridization assay method, A handbook of shrimp pathology and diagnostic procedures for diseases of penaeid shrimp. World Aquaculture Soc., Baton Rouge. USA., section 2, 5.
- LIGHTNER D.V. (1996) White spot syndrome baculovirus complex (WSBV)., A handbook of shrimp pathology and diagnostic procedures for diseases of penaeid shrimp. World Aquaculture Soc., Baton Rouge. USA., section 3,11.
- LIGHTNER D.V.ed. (1996) A Handbook of Shrimp Pathology and Diagnostic Procedures for Diseases of Penaeid Shrimp. World Aquaculture Soc., Baton Rouge. USA, 305 pp.
- LIGHTNER D.V. (1996) Epizootiology distribution and the impact on international trade of two penaeid shrimp viruses in the Americas. *Revue Scientifique et Technique*, (15):579-601.
- LIGHTNER D.V. (1996) The penaeid shrimp viruses IHHNV and TSV: epizootiology, production impacts and role of international trade in their distribution in the Americas., *Revue Scientifique et Technique Office International des Epizooties*, 15(2):579-601.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., POULOS B.T., NUNAN L., MARI J.I. and K.W.HASSON (1997) Status of the major virus diseases of concern to the shrimp farming industries of the Americas: known distribution, hosts and available detection methods. ALSTON D.E., GREEN B.W. & H.C.CLIFFORD eds., *Proc.of the IV Symposium on Shrimp and Tilapia*. Tegucigalpa, Honduras, Asociacion Nacional de Acuicultores de Honduras and the Latin American Chapter of the World Aquaculture Society, pp.36-48.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., POULOS B.T., NUNAN L.M., MARI J.L., HASSON K.W. and J.R.BONAMI (1997) Taura syndrome: etiology, pathology, hosts and geographic distribution, and detection methods. INUI Y.ed., *New Approaches to the Viral Diseases of Aquatic Animals*. NRA International Workshop, National Res. Inst. Aquaculture, pp.190-205.
- LIGHTNER D.V., REDMAN R.M., POULOS B.T., NUNAN L., MARI J.I. and K.W.HASSON (1997) Risk of spread shrimp viruses in the Americas by the international movement of live and frozen shrimp. *Rev. Sci., Techn. Off. Int. Epiz.*, 16:146-160.
- LIGHTNER D.V. (1997) Strategies for the control of viral diseases of shrimp in the Americas. *International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture*, JAFP-Hiroshima, p.10.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1998) Shrimp diseases and current diagnostic methods. *Aquaculture*, 164(1-4):201-220.
- LIGHTNER D.V., HASSON K.W., WHITE B.L. and R.M.REDMAN (1998) Experimental infections of Western Hemisphere penaeid shrimp with Asian White Spot Syndrome Virus and Asian Yellow Head Virus. *J. Aquat. Anim. Health.*, (10):271-281.
- LIGHTNER D.V. • R.M.REDMAN (1998) Strategies for the control of viral diseases of shrimp in the Americas. *Fish Pathol.*, 33(4):165-180.
- LIGHTNER D.V. and R.M.REDMAN (1998) Shrimp diseases and current methods. *Aquaculture*, 164(1-4):201-220.
- LIGHTNER D.V. (1999) The penaeid shrimp viruses TSV, IHHNV, WSSV, and YHV: current status in the Americas, available diagnostic methods and management strategies. *J.Applied Aquac.*, (9):27-52.
- LIGHTNER D.V. (1999) DNA-based diagnostic and detection methods for penaeid shrimp viral diseases. WALKER P. & R. SUBASINGHE eds., *DNA-based Molecular Diagnostic Techniques*. Report and Proceedings of the Expert Workshop on DNA-based Molecular Diagnostic Techniques: Research Needs for Standardization and Validation of the Detection of Aquatic Animal Pathogens and Diseases. FAO. Italy, pp.38-44.
- LIGNOT J.H., COCHARD J.C., SOYEZ C. and G.CHARMANTIER (1999) Osmoregulatory capacity according to nutritional status, molt stage and body weight in *Penaeus stylirostris*. *Aquaculture*, 170(1):79-92.
- LILLY M.L. (1979) Seasonal changes in the fatty acids of Gulf Mexico shrimp. *Fed.Proc.*, 38:648.
- LIM Boon Keng • 平山和次 • 光岡健二 (1990) クルマエビ種苗生産の収容密度と幼生の生残及び成長との関係. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.103.
- LIM B.K. • 平山和次 (1993) クルマエビの種苗生産量と初期収容密度との関係. *日水誌*, 59(2):229-235.
- LIM B.K. • 平山和次 (1993) クルマエビの種苗生産における幼生の成長と体成分組成(英文). *日水誌*, 59(2):237-243.
- LIM Boon Keng • 平山和次 (1993) クルマエビ及びガザミ種苗生産の物質フロー. 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.130.
- LIM C. and W.DOMINY (1990) Evaluation of soybean meal as a replacement for marine animal protein in diets for shrimp (*Penaeus monodon*). *Aquaculture*, 87(1):53-63.

- LIM C. (1993) Effect of dietary pH on amino acid utilization by shrimp (*Penaeus vannamei*). *Aquaculture*, 114(3-4):293-303.
- LIM C., AKO H., BROWN C.L. and K.HAHN (1997) Growth response and fatty acid composition of juvenile *Penaeus vannamei* ed., different sources of dietary lipid. *Aquaculture*, 151(1-4):143-153.
- LIMBAUGH C., PEDERSON H. and F.A.CHACE JR (1961) Shrimps that clean fishes. *Pac.Sci.*, (11):237-257.
- LIMSUWAN C. (1992) Diseases of black tiger shrimp, *Penaeus monodon* FABRICIUS in Thailand. Technical Bulletin, American Soybean Assoc., pp.1-15.
- LIMSUWAN C. (1993) Diseases of black tiger shrimp *Penaeus monodon* FABRICIUS in Thailand. AKIYAMA D.M. ed., Technical Bulletin, American Soybean Association. M.I.T.A. (P)No.518/12/92, Vol.AQ39, Singapore.
- LIMUSWAN C (1999) Shrimp culture in Thailand toward year 2000. TONGUTHAI K., CHINABUT S., SOMSIRI T., CHARATCHAKUL P. & KANCHANAKAN S. eds., The AAHRI Newsletter]. Department of Fisheries. Kasertsart Univ., Bangkok, pp.5-6.
- LIN C.K. (1989) Prawn culture in Taiwan, What went wrong? *World Aquaculture*, 20(2):19-20.
- LIN C.K. (2000) Development of shrimp farming and environmental sustainability in Thailand. *水産増殖*, 48(2):267-272.
- 林明男・丁雲源 (1980) 卵黄を使ったクルマエビの種苗生産. *養殖*, 17(9):80-83.
- LIN M.N. and Y.Y. TING (1986) Observation of poor hatching in the unilateral eyestalk-anlated females of *Penaeus monodon* FABRISIUS (短報). *日水誌*, 52(2):355.
- LIN M.N. and Y.Y. TING (1986) Spermatophore transplantaion and artificial fertilization in grass shrimp. *日水誌*, 52(4):585-589.
- 林欽 (1997) 養殖水域における富栄養化と赤潮発生の関係. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):319-329.
- LINDNER M.T.and W.W.ANDERSON (1957) Growth, migration, spawning and size distribution of shrimp *Penaeus setiferus*. *Fish.Bull.USFWS*, 56(106):555-645.
- LINDNER M.J.and J.B. BAILEY (1968) Distribution of brown shrimp (*Penaeus aztecus aztecus* IVES) as related to turbid water photographed from space. *U.S.Fish.Wildl.Serv.,Fish.Bull.*, 67(2):289-294.
- LINDNER M.J.and H.L. COOK (1968) Progress in shrimp mariculture in the United States. *FAO Fish.Rep.*, 71(2):157-162.
- LIO-PO G.D., SANVICTORES E.D., BATICADOS M.C.L. and C.R.LAVILLA (1982) *In vitro* effect of fungicides on hyphal growth and sporogenesis of *Langenidium* sp. isolated from *Penaeus monodon* larvae and *Scylla serrata* egg. *J.Fish Dis.*, 5:97-112.
- LIO-PO G.D.and E.D.SANVICTORES (1986) Tolerance of *Penaeus monodon* eggs and larvae to fungicides against *Langenidium* sp. and *Haliphthoros philippinensis*. *Aquaculture*, 51(3-4):161-168.
- LIO-PO G.D., FERNANDEZ R.D., CRUZ E.R., BATICADOS C.L. and A.T.LLOBRERA (1989) Recommended practices for disease prevention in prawn and shrimp hatcheries. *Aquaculture Pamhplet No.3*.SEAFDEC Aquaculture Department, Tigbauan, Iloilo, Philippines. 14 pp.
- LIO-PO G.D. and C.R.LAVILLA-PITOGO (1990) Bacterial exoskeletal lesions of the tiger prawn *Penaeus monodon*. HIRONO R. and I. HANYU eds., The Second Asian Fisheries Forum. Asian Fisheries Society, Philippines, pp.701-704.
- LIONG P.C., HANAFI H.B. and Z.O.M.G.NAGARAJ (1988) Aquaculture development in Malaysia. JUARIO J.V.& L.V.BENITES eds., Perspectives in Aquaculture Development in Southeast Asia and Japan. *Aquaculture Development South-east Asian Fish. Development Center*, pp.73-90.
- LIU C.I. (1989) Shrimp disease, prevention and treatment. AKIYAMA D.M.ed., Proc.Southeast Asia Shrimp Farm Management Workshop. American Soybean Assoc, Singapore, pp.64-74.
- 劉傳楨・巖雋箕・崔維喜 (1981) 渤海秋漁期コウライエビの数量予報の研究. *水産学報*, 5(1):65-73.
- 劉永昌 (1982) 萊州湾秋漁期コウライエビの分布, 回遊の研究. *海洋漁業*, (5):195.
- 劉永昌 (1988) 渤海コウライエビの分布と回遊の研究. *水産学報*, 10(2):125-136.
- 劉士忠 (1995) 放流のタイショウエビに対する象山港水質状況の影響分析. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):35-40.
- LIU J.Y. (1955) Economic shrimps and prawns of northern China. *Marine Biological Inst.,Academic of Science*, Beijing, iii+73pp,24pls.
- LIU J.Y. and Z.ZHONRU (1986) *Penaeoid* shrimps of the South China Sea. Agricultural Publishing House, 278 pp.
- LIU J.Y. (1990) Resource enhancement of Chinese Shrimp, *Penaeus orientalis*. *Bull.Mar.Sci.*, 47:124-133.
- LIU M.S. and MANCEBO (1983) Pond culture of *Penaeus monodon* in the Philippines. survival, growth and yield using commercially formulated feed. *J.World Maricul.Soc.*, (14):75-85.

- LIU P., ZHANG Y., KONG J., HUANG J., WANG Q. and C.YANG (1995) The reserches and applications of HHNBV DNA probes in *Penaeus chinensis*. Marine Fisheries Research, (16):59-62.
- LIU P.C., LEE K.K. and S.N.CHEN (1996) Pathogenicity of different isolates of *Vibrio harveyi* in tiger prawn, *Penaeus monodon*. Lett.Appl.Microbiol., 22:413-416.
- LIU P.C., LEE K.K., YU K.C., KOU G.H. and S.N.CHEN (1996) Isojation of *Vibrio harveyi* from diseased Kuruma prawn *Penaeus japonicus*. Current Microbiology, (33):129-133.
- LO C.F., LEU J.H., HO C.H., CHEN C.H., PENG S.E., CHEN Y.T., CHOU C.M., YEH P.Y., HUANG C.J., CHOU H.Y., WANG C.H. and G.H.KOU (1996) Detection of baculovirus associated with white syndrome (WSBV) in penaeid shrimps using polymerase chain reaction. Dis.Aquat.Org., 25(1•2):133-141.
- LO C.F., HO C.H., PENG S.E., CHEN C.H., HSU H.C., CHIU Y.L., CHANG C.F., LIU K.F., SU M.S., WANG C.H. and G.H.KOU (1997) White spot syndrome baculovirus (WSBV) detected in cultured and captured shrimp, crabs, and other arthropods. Dis.Aquat.Org., 27(3):215-225.
- LO C.F., HO C.H., CHEN C.H., LIU K.F., CHIU Y.L., YEH P.Y., PENG S.E., HSU H.C., LIU H.C., CHANG C.F., SU M.S., WANG C.H. and G.H.KOU (1997) Detection and tissue tropism of white spot syndrome baculovirus (WSBV) in captured drooders of *Penaeus monodon* with a special emphasis on reproductive organs. Dis.Aquat.Org., 30(1):53-72.
- LO C.F., WANG C.H. and G.H.KOU (1997) White spot syndrome (WSS): pathology, hosts and prevalence in captured shrimp and crabs in Taiwan. INUI Y.ed., New Aproaches to the Viral Diseases of Aquatic Animals. NRIA International Workshop, National Res.Inst.Aquaculture, pp.206-217.
- LO C.F., CHANG Y.S., CHENG C.T. and G.H.KOU (1998) PCR monitaring of cultured shrimp for white spot syndrome virus (WSSV) in growout ponds. FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biotechnology. Proc.of the special session on shrimp biotechnology 5th Asian fisheries forum. Chiangmai, Thailand, pp.281-286.
- LO C.F. and G.H.KOU (1998) Virus-associated white spot syndrome of shrimp in Taiwan: a review. Fish Pathol., 33(4): 365-371.
- LO C.F., HSU H.C., TSAI M.F., HO C.H., PENG S.E., KOU G.H. and D.V.LIGHTNER (1999) Specific genomic DNA fragment analysis of different geographical clinical samples of shrimp white spot syndrome virus. Dis.Aquat.Org., 35(3):175-185.
- LONGMUIR E. (1983) Setal development, moult staging and ecdysiasts in banana prawn *Penaeus merguensis*. Marine Biol., 77(2):183-190.
- LONGYANT S., SIHTIGORNGUL P., THAMPALERD N., SITHIGORNGUL W. and P.MENASVETA (1999) Monoclonal antibodies production specific to vitellin and vitellogenin of giant tiger prawn *Penaeus monodon*. Invert.Rep.Dev., (35):9-17.
- LOTZ J.M., BROWDY C.L., CARR W.H., FRELIER P.F. and D.V.LIGHTNER (1995) USMSFP suggested procedures and guidelines for assuring the specific pathogen status of shrimp brookstock and seed. BROWDY C.L. & J.S.HOPKINS eds., Swimming Through Troubled Water. Proc.of the Special Session on shrimp farming. Aquaculture'95. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA, USA., pp.66-75.
- LOTZ J.M. (1997) Effect of host size on Taura virus to the marine shrimp *P.vannamei* (Crustacea:Penaeidae). Dis. Aquat. Org., 30(1):45-51.
- LOTZ J.M. (1997) Viruses, biosecurity, and specific pathogen-free stocks in shrimp aquaculture. World J. Microbiol. Biotechnol., (13):405-413.
- LOTZ J. M. and J. OGLE (1997) Tauna syndrome virus and reproduction of *Penaeus vannamei*. World Aquaculture'97. Book of Abstracts. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA, USA, p.294.
- 楼丹 (1995) 象山港内放流エビの天敵魚の調査. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):122-125.
- 楼丹 (1995) 回帰親エビ個体繁殖力及び相対繁殖力の研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):198-201.
- LOVELL R.T. and D.BROCE (1985) Cause of musty flavor in pond-cultured penaeid shrimp. Aquaculture, 50(1•2):169-174.
- LOY J.K. and P.F.FRELIER (1996) Specific, nonradioactive detection of the NHP bacterium in *Penaeus vannamei* *in situ* hybridization. J.Vet.Diagn.Invest., (8):324-331.
- LOY J.K., FRELIER P.F., VARNER P. and J.W.TEMPLETON (1996) Detection of the etiologic agent of necrotizing hepatopancreatitis in cultured *Penaeus vannamei* from Texas and Peru by polymerase chain reaction. Dis.Aquat.Org., 25(1•2):117-122.
- LOY J.K. and D.V.LIGHTNER (1999) Shrimp biosecurity: pathogens and pathogen exclusion. BULLIS R.A. and G.D.PRUDER eds., Controlled and Biosecure Production Systems. Evolution and Integration of Shrimp and Chicken Models. World Aquaculture Society, Sydney, Australia, pp.67-74.

- LOYA-JAVEHANA G.N. (1989) Ingestion saturation and growth responses of *Penaeus monodon* larvae to food density. *Aquaculture*, 81(3•4):329-336.
- LU C.C., TANG K.F.J., KOU G.H. and S.N.CHEN (1993) Development of a *Penaeus monodon*-type baculovirus (MBV) DNA probe by polymerase chain reaction and sequence analysis. *J.Fish.Dis.*, 16:551-559.
- LU Y., LOH P.C. and E.C.NADALA (1994) クルマエビ属のラブドウイルスと魚類のラブドウイルスとの血清学的検討(英文). *J. Fish.Dis.*, 17(4):303-309.
- LU Y. and P.C.LOH (1994) Viral structural proteins and genome analyses of rhabdovirus of penaeid shrimp (RPS). *Dis.Aquat.Org.*, 19(3):189-192.
- LU Y., TAPAY L.M., BROCK J.A. and P.C.LOH (1994) Infection of the yellow head baculo-like virus (YBV) in two species of Penaeid shrimp *Penaeus stylirostris* (STIMPSON) and *Penaeus vannamei* (BOONE). *J.Fish Dis.*, 17:649-656.
- LU Y., TAPAY L.M., LOH P.C., BROCK J.A. and R.B.GOSE (1995) Distribution of yellow-head virus in selected tissues and organs of penaeid shrimp *Penaeus vannamei*. *Dis.Aquat.Org.*, 23(1):67-70.
- LU Y., TAPAY L.M., GOSE R.B., BROCK J.A. and P.C.LOH (1997) Infectivity of yellow-head virus (YHV) and the Chinese baculo-like virus (CBV) in two species of penaeid shrimp, *Penaeus stylirostris* (STIMPSON) and *P.vannamei* (BOONE). FLEGEL T.W. & I.H.MacRAE eds., *Diseases in Asian Aquaculture III*. Asian Fisheries Soc., Philippines, pp.297-304.
- LU Y., TAPAY L.M., LOH P.C., BROCK J.A. and R.GOSE (1997) The pathogenicity of a baculo-like virus isolate from diseased penaeid shrimp obtained from China for cultured penaeid species in Hawaii. *Aquacult.Int.*, (5):277-282.
- LU Y., TAPAY L.M., GOSE R.B., BROCK J.A. and P.C.LOH (1997) Infectivity of yellow-head virus (YHN) and the Chinese baculolike virus (CBV) in two species of penaeid shrimp, *Penaeus stylirostris* (STIMPSON) and *P.vannamei* (BOONE). FLEGEL T.W.& I.MacRAE eds., *Diseases in Asian Aquaculture III*. Asian Fisheries Society, Manila.
- LUCAS C., YOUNG P.C. and J.K.BRUNDRITT (1972) Preliminary mortality rates of marked king prawns, *Penaeus plebejus*, in laboratory tanks. *Aust.J.Mar.Freshwater Res.*, 23(2):143-149.
- LUCAS C. (1974) Preliminary estimates of stocks of king prawn, *Penaeus plebejus*, in southeast Queensland. *Aust.J.Mar. Freshwater Res.*, 25(1):36-47.
- LUCAS C., KIRKWOOD G. and J.SOMERS (1979) An assessment of stocks of the banana prawn *Penaeus merguensis* in the Gulf of Carpentaria. *Aust.J.Mar.Freshwater Res.*, 30(5):639-652.
- LUEDEMAN R.A. and D.V.LIGHTNER (1992) Development of an *in vitro* primary cell culture system from the penaeid shrimp, *Penaeus stylirostris* and *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 101(3•4):205-211.
- LUIS O.J. and A.C.PONTE (1993) Control of reproduction of the shrimp *Penaeus kerathurus* held in captivity. *J.World Aquat.Soc.*, (24):31-39.
- LUMARE F., BLUNDO C.M. and P.VILLANI (1971) Riproduzione ed., allevamento di *Penaeus kerathurus* (FORSKAL, 1775) dall uovo alla postlarva. *Boll. Pesca Piscic. Idrobiol.*, (26):209-236.
- LUMARE F. (1979) Reproduction of *Penaeus kerathurus* using eyestalk ablation. *Aquaculture*, 18(3):203-214.
- LUMARE F. (1981) Artificial reproduction of *Penaeus japonicus* BATE as a basis for the mass production. *J.World Fisheries Soc.*, 12:335-344.
- LUMARE F. (1984) Stocking trials of *Penaeus japonicus* BATE (Decapoda, Natantia) post-larvae in Lesina Lagoon (southern coast of Italy). *Stud. Rev. GFCM*, 61:593-606.
- LUMARE F., MURO P.D., TENDERINI L. and V.ZUPO (1993) Experimental intensive culture of *Penaeus monodon* in the cold-temperate climate of the North-East coast of Italy (a fishery 'valle' of the River Po Delta). *Aquaculture*, 113(3):231-241.
- LUNZ G.R. (1958) Pond cultivation of shrimp in South Carolina. *Proc. of the Gulf and Caribbean Fisheries Institute. 10th Annual session*, (10):44-48.
- LUNZ G.R. and C.M.BEARDEN (1963) Control of predaceous fishes in shrimp farming in South Carolina. *Contributions from Bears Bluffca Laboratories*, (36):3-9.
- LUO R-X., LI G-Y., WANG Y-Y., CAO M-X. and R-J.JIANG (1989) Determination of ecdysteroid concentration in certain organs of *Penaeus orientalis*. *Studia Marina Sinica*, (30):185-187.
- LYTLE J.S., LYTLE T.F. and J.T.OGLE (1990) Polyunsaturated fatty acid profiles as a comparative tool in assessing maturation diets of *Penaeus vannamei*. *Aquaculture*, 89(3•4):287-299.

- 町田益己 (1989) かん水養殖の研修会から. 静岡栽セ. なむら, (43):4-5.
- 町井紀之 (1993) ペルーのカタクチイワシ資源と今世紀最大のエルニーニョ・イベント. 多紀保彦編, 世界の中の日本漁業. 成山堂書店, pp.230-254.
- 前田英章・矢野勲 (1996) クルマエビ胚の凍結保存に関する研究. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.96.
- 前田英章・矢野勲 (1997) クルマエビ受精卵の凍結保存に関する研究. 平成9年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.88.
- 前田昌調 (1986) 餌料微生物. 細菌. 河合章編, 水産増養殖と微生物. 水産学シリーズ, (61):101-114.
- 前田昌調・廖一久 (1987) ウシエビ *Penaeus monodon* 培養槽中の細菌相およびエビ成長への効果. 昭和62年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.87.
- MAEDA M. and I.C.CIAO (1992) Effect of bacterial population on the growth of a prawn larva, *Penaeus monodon*. Bull.Natl. Res.Inst. Aquaculture, (21):25-29.
- 前田昌調・野上欣也 (1995) バイオコントロールによる甲殻類(エビ・カニ)の大量生産. プレインテクノニュース, (47):10-13.
- 前田昌調 (1997) バイオコントロールによる養殖環境の向上と保全. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):236-241.
- 前田稔・藤井玲子・友永進・SUPAMATTOYA K.・BOONYARATPALIN S. (1994) クルマエビから検出された病原性桿状ウイルス(英文). 魚病研究, 29(2):121-125.
- 前田稔・高木淳・伊丹利明・近藤昌和・高橋幸則・廣野育生・青木宙・KASORNCHANDRA J.・BOONYARATPALIN S.・SUPAMATLAYA K. (1996) クルマエビバキュロウイルス(PV-PJ)感染症のPCR法による迅速診断. 平成8年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.15.
- 前田稔・高木淳・伊丹利明・近藤昌和・高橋幸則・廣野育生・青木宙 (1996) クルマエビのバキュロウイルス(RV-PJ)感染症のPCR法による迅速診断. 平成8年度日本魚病学会春季大会講演要旨.
- 前田稔・渡邊力夫・上原薫・伊丹利明・高橋幸則・HENNIG O.・石原秀平 (1997) クルマエビの生体防御能に及ぼす酵母細胞壁(YCW)の効果. 平成9年度魚病学会春季大会講演要旨, p.33.
- 前田稔・伊丹利明・古本篤士・高橋幸則・HENNIG O.・今村知弘 (1997) 天然クルマエビおよび甲殻類からの PRDV (bacilliform virus)の検出とその病原性. 平成9年度魚病学会春季大会講演要旨, p.19.
- MAEDA M., ITAMI T., KONDO M., HENNIG O., TAKAHASHI Y., HIRONO I. and T.AOKI (1997) Characteristics of penaeid rod-shaped DNA virus of kuruma shrimp. INUI Y.ed., New approaches to the viral diseases of aquatic animals. NRA International Workshop, National Research Institute of Aquaculture, Nannsei, Mie, Japan, pp.218-228.
- 前田稔・伊丹利明・古本篤士・HENNIG O.・今村知弘・近藤昌和・廣野育生・青木宙・高橋幸則 (1998) 天然クルマエビおよび甲殻類からの PRDV の検出(英文). 魚病研究, 33(4):373-380.
- MAEDA M., KASORNCHANDRA J., ITAMI T., SUZUKI K., HENNIG O., KONDO M., ALBALADEJO J.D. and Y.TAKAHASHI (1998) Effect of various treatments on white spot syndrome virus (WSSV) from *Penaeus japonicus* (Japan) and *P. monodon* (Thailand). Fish Pathol., 33(4):381-387.
- 前田芳彦 (1968) クルマエビの種苗生産. 養殖, 5(2):64-70.
- 前田芳彦 (1988) 輸入魚介類の及ぼす影響と対応策. 養殖, 25(10):64-65.
- 前田芳彦 (1995) クルマエビ養殖の経営環境と課題. 養殖(臨時増刊), 32(10):211-213.
- 前田芳彦 (1995) 活クルマエビ流通の現状と価格の設定. 養殖, 32(12):64-66.
- 前潟光宏 (1998) 急増する輸入水産物. 地域漁業学会編, 漁業考現学-21世紀への発信. 農林統計協会, pp.229-239.
- 前川兼佑 (1960) クルマエビの蓄養. 水産増殖, 7(4):1-7.69-83.
- 前川兼佑 (1961) 瀬戸内海, 特に山口県沿海における漁業の調整管理と資源培養に関する研究. 山口内海水試調研業績, (11):1-483.
- 前川兼佑 (1966) クルマエビの蓄養. 水産増殖, 7(4):1-9.
- 前川兼佑 (1967) クルマエビの活魚輸送. 養殖, 4(9):42-45.
- 前川兼佑 (1970) コウライエビの増養殖とその評価. 養殖, 7(2):22-24.
- 前川兼佑 (1989) クルマエビ養殖業への提言. 養殖, 26(4):53-54.
- MAGARELLI Jr.P.C. and L.B.COLVIN (1978) Depletion/repletion of ascorbic acid in two species penaeid: *Penaeus californiensis* and *Penaeus stylirostris*. Proc.World Maricult. Soc., (9):253-241.
- MAGARELLI Jr.P.C., HUNTER B., LIGHTNER D.V. and L.B.COLVIN (1979) Black death: an ascorbic acid deficiency disease in penaeid shrimp. Comp.Biochem.Physiol., 63A:103-108.

- MAGBANUS P.O., MATIVIDAD K.T., MIGO V.P., ALFAFARA C.G., de la PENA F.O., MIRANDA R.O., ALBALADEJO J.D., NADALA E.C.B. and P.C.LOH (2000) White spot syndrome virus (WSSV) in cultured *Penaeus monodon* in the Phillipines. Dis.Aquat.Org., 42(1):77-82.
- MAGUIRE G.B. (1979) A report on the prawn farming industries of Japan, the Philippines and Thailand. New South Wales State Fisheries, 110 pp.
- 牧野一男・海幸丸乗組員 (1978) 源式網の改良. 昭和 52 年度愛知水試業報, 16-18.
- MAIR J.M. (1979) The identification of four species of *Penaeus* from the Pacific coast of Mexico. J.Zool., (188):347-351.
- MAKINOCHI S. and J.H.PRIMAVERA (1987) Maturation and spawning of *Penaeus indicus* using different abiation methods. Aquaculture, 62(1):73-81.
- 牧之内貞治・L.SANUEL・H.J.JHON・TATAM S. (1994) 池中養成ウシエビの成熟, 産卵周期と脱皮周期. 水産増殖, 42(1):33-40.
- 牧之内貞治・T.RUCHIMAT・TRIDJOKO・S.TATAM (1994) ウシエビの成熟, 産卵および交尾率に及ぼす光周期および照度の影響. 水産増殖, 42(1):113-119.
- 牧之内貞治・K.SUGAMA・T.RUCHIMAT・TRIDJOKO・T.SUTARMAT・S.LANTE (1995) 早熟系池産ウシエビの成熟, 産卵, 孵化, 脱皮および成長率に及ぼす眼柄切除の影響(英文). 水産増殖, 43(1):103-117.
- 牧之内貞治 (1995) ウシエビの成熟, 産卵, 交尾率および生産コストに及ぼす雄の影響(英文). 水産増殖, 43(1):109-118.
- MALEK S.R.A. and F.M.BAWAB (1974) The formation of the spermatophore in *Penaeus kerathurus* (FORSKAL 1775) (Decapoda: Penaeidae)- I. Initial formation of the sperm mass. Crustaceana, 26(3):274-285.
- MALEK S.R.A. and F.M.BAWAB (1974) The formation of the spermatophore in *Penaeus kerathurus* (FORSKAL 1775) (Decapoda: Penaeidae)- II. Deposition of the main layers of the body and the wing. Crustaceana, 27(1):73-83.
- 真鍋寛定 (1983) クルマエビ放流効果の一試算. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (15):19-24.
- 真鍋武彦 (1977) PCB の分布の地域的特異性. 1.近海. 日本水産学会編, 海洋生物の PCB 汚染. 水産学シリーズ, (18):79-93.
- MANOHAR M.B., SUNDARARAJ A., SELVARAJ D., SHEELA P.B.R., CHIDAMBARAM P., MOHAN C.A. and B.RAVISHANKER (1996) An outbreak of SEMBV and MBV infections in cultured *Penaeus monodon* in Tamilnadu. Indian J.Fish., 43:403-406.
- MARANGOS C., ALLIOT E., BROGREN C.H. and J.C.HUBERT (1984) Nycthemeral variations of ammonia excretion in *Penaeus japonicus* (Crustacea, Decapoda, Penaeidae). Aquaculture, 84(3-4):383-391.
- MARI J., BONAMI J.R. and D.V.LIGHTNER (1993) Partial cloning of the genome of infectious hypodermal and hematopoietic necrosis virus, unusual parvovirus pathogenic for penaeid shrimp: diagnosis of the disease using a specific probe. J.General Virology, (74):2634-2643.
- MARI J., BONAMI J.R., POULOS B. and D.LIGHTNER (1993) Preliminary characterization and partial cloning of the genome of a boculovirus from *Penaeus monodon*. (PmSNPV=MBV). Dis.Aquat.Org., 16(3):207-215.
- MARI J., LIGHTNER D.V., POULOS B.T. and J.R.BONAMI (1995) Partial cloning of the genome of an unusual shrimp parbo-virus (HPV): use of gene probes in disease diagnosis. Dis.Aquat.Org., 22(2):129-134.
- MARI J., BONAMI J.R. and D.V.LIGHTNER (1998) Taura syndrome of penaeid shrimp: cloning of viral genome fragments and development of specific gene probes. Dis.Aquat.Org., 33(1):11-17.
- MARIN-MAGAN V. and J.P.CANAVATE (1995) Fluorometric determination of selectivity between live and inert food by *Penaeus japonicus* larvae. Aquaculture, 134(3-4):307-311.
- MARSDEN G.E., MCGUREN J.J., HANSFORD S.W. and M.J.BURKE (1997) A moist artificial diet for prawn broodstock: its effect on the variable reproductive performance of wild caught *Penaeus monodon*. Aquaculture, 149(1-2):145-156.
- MARTE C.L. (1980) The food and feeding habit of *Penaeus monodon* Farcies collected Makato River, Aklan, Philippines (Decapoda Natantia). Crustaceana, (38):225-236.
- MARTIN G.G. and B.L.GRAVES (1985) Fine structure and classification of shrimp hemocytes. J.Morphol., 185:339-348.
- MARTIN J.L.M., VERAN Y., GUELORGET O. and D.PHAM (1998) Shrimp rearing: stocking density, growth, impact on sediment, waste output and their relationships studied through the nitrogen budget in rearing ponds. Aquaculture, 164(1-4):135-149.
- 真子渺・中島国重・田川勝 (1966) コウライエビの体長組成の変化について. 西海区水研研報, (34):1-10.
- 真子渺・庄島悦子 (1969) 標識放流によるコウライエビの移動と来遊量の推定. 西海区水研研報, (37):33-50.
- 真崎邦彦・野口弘三・山田徹・小澄千尋 (1986) クルマエビ種苗生産の現状と問題点について. 西海区ブロック藻・介類研究会報, (3):63-70.
- 増田真人 (2001) 我が国の魚病被害の現状と魚病対策. 養殖, 38(12):56-59.
- 増田紳哉・下村俊一 (1990) 浮魚漁場調査. 平成元年度鳥取水試年報, 12-18.

- 増田紳哉・下村俊一 (1991) 漁海況調査. 平成2年度鳥取水試年報, 15-35.
- 増田紳哉・細本誠・下村俊一 (1992) 漁海況調査. 平成3年度鳥取水試年報, 5-23.
- 増田紳哉・細本誠 (1993) 漁海況調査. 平成4年度鳥取水試年報, 5-26.
- 増田紳哉・細本誠 (1994) 漁海況調査. 平成5年度鳥取水試年報, 5-28.
- 増田紳哉・氏良介 (1995) 漁海況調査. 平成6年度鳥取水試年報, 5-24.
- 増田紳哉・氏良介 (1996) 漁海況調査. 平成7年度鳥取水試年報, 5-17.
- 増田辰良・奥谷喬司 (1994) 食用となるエビ・イカ・貝類. 東京水大第8回公開講座編集委員会編, 暮らしとさか水産食品読本. 成山堂書店, pp.42-68.
- 増田親・北原武 (1978) 源式網の漁獲性能に関する研究-Ⅲ. クルマエビに対する漁獲効率. 日水誌, 44(7):697-701.
- 増井好男 (1995) アジア諸國の水産業の動向-台湾. 今村奈良臣編, アジアの漁業の発展と日本. 農山漁村文化協会, pp.178-187.
- 増井好男 (1999) 地域水産加工業の原料供給構造. 小野征一郎編, 水産物のフードシステム. 農林統計協会, pp.66-83.
- 増井好男・大川五郎・荻原德行・池ノ上宏・多屋勝雄 (1987) 国際化時代の養殖業(上). 養殖, 24(1):48-58.
- 升本喜夫 (1990) クルマエビ-養殖施設の概要. 養殖, 27(9):141-142.
- 升本喜夫 (1990) クルマエビ-冬眼前の育成管理. 養殖, 27(10):140-141.
- 升本喜夫 (1990) クルマエビ-飼育水中の微生物の管理. 養殖, 27(11):135-136.
- 升本喜夫 (1990) クルマエビ-那覇への販売ルートの拡大. 養殖, 27(12):127-128.
- 升本喜夫 (1991) クルマエビ-低水温期の飼育管理. 養殖, 28(1):120-121.
- 升本喜夫 (1991) クルマエビ-水温変動期の底質管理. 養殖, 28(2):139.
- 増沢寿・倉田洋二・大西慶一 (1975) キンメダイその他底魚類の資源生態. 水産研究叢書, (28):1-105.
- MATHEWS C.P., El-MUSA M., Al-HOSSAINI M., SAMUEL M. and A.R.GHAFFAR (1988) Infestation of *Epipenaeon elegans* on *Penaeus semisulcatus* and their use as biological tag. J.Crust.Biol., (8):53-62.
- MATHEWS C.P. (1988) Parasitic castration of *Penaeus semisulcatus* as a potential source of bias in length-based stock assessments. Aquaculture and Fisheries Management, 19(1):97-100.
- 松田恵明 (1995) 水俣の漁業史から見た水俣病問題. 漁業経済研究, 40(1):37-61.
- 松田治 (1997) 瀬戸内海の環境レベルと持続的生物生産. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):415-421.
- 松井魁 (1985) エビ増養殖技術研修を通じての国際協力(提言). 養殖, 22(7):45.
- 松田咬 (1994) 漁業-漁具設計と漁獲機構. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):2-12.
- MATSUI N. (1996) Practice of Shrimp Culture. A.A.Balkema Publishers, 158 pp.
- 松井誠一・林功・上條義信・中島均・塚原博 (1980) 山国川河口周辺域に出現する魚類の生態に関する研究-Ⅱ. 河口域に隣接する干潟域に出現する魚類について. 昭和53年度福岡豊前水試研業報, 94-111.
- 松井敏明・恵崎撰・林宗徳・上田拓 (2000) 有明海南部地区大規模漁場保全事業調査. 平成10年度福岡水技事報, 230-241.
- 松川康夫 (1992) 水域別の検討. 三河湾-東京湾. 平野敏行編, 漁場環境容量. 水産学シリーズ, (87):37-48.
- 松川康夫 (1994) 環境-富栄養化. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):236-241.
- 松宮義晴・今村秀明・岡正雄 (1978) 志々伎湾のエビ類について. 長崎県生物学会誌, (15):27-29.
- 松宮義晴 (1983) 沿岸水産生物の資源評価. 石井丈夫編, 水産資源の解析と評価. 水産学シリーズ, (46):115-129.
- 松宮義晴 (1996) 水産資源管理概論. 日水水産研究叢書, (46):1-77.
- 松宮義晴 (2000) 魚をとりながら増やす. ベルソブック, (001):1-174.
- 松本啓志 (1981) 種苗生産事業. クルマエビ. 昭和55年度大分県漁業公社事報, 9-14.
- 松本啓志 (1982) 種苗生産事業. クルマエビ. 昭和56年度大分県漁業公社事報, 6-11.
- 松本美鈴・山中英明・畑江敬子 (1990) クルマエビのあらいに関する研究. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.215.
- MATSUMOTO M. and H.YAMANAKA (1990) クルマエビの生化学的死后変化と鮮度の判定 (英文). 日水誌, 56(7):1145-1149.
- MATSUMOTO M. and H.YAMANAKA (1990) 低温貯蔵におけるクルマエビ筋肉の解糖系代謝産物および遊離アミノ酸の消長(英文). 日水誌, 56(9):1515-1520.
- 松本美鈴・山中英明・畑江敬子 (1991) クルマエビ筋肉の生化学的変化に及ぼすあらい処理の影響. 日水誌, 57(7):1383-1387.
- 松本美鈴・山中英明 (1991) クルマエビの死后硬直に関する研究. 日水誌, 58(11):2121-2126.
- 松本美鈴・山中英明 (1991) クルマエビ筋肉の死后変化に及ぼす抗菌剤クロラムフェニコールの影響. 日水誌, 57(12):2291-2297.
- 松本水産(株)佐土原養殖場・養殖編集部 (1994) クルマエビの持続的養殖に自信. 養殖, 31(8):16-18.

- 松本水産(株)佐土原養殖場・アクアネット編集部 (2001) 歩留り90%を実現するヒラメ種苗を. アクアネット, 4(8):12-15.
- 松村真作・福田富男(1982) 岡山県頭部海域における小型底曳網の投棄魚について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, 8 149:17-32.
- 松村貴晴・岡本俊治 (1999) PAV 検査における PCR 診断に関する手法などの研究. 平成 10 年度愛知水試業報, 52-53.
- 松村貴晴・黒田伸郎・阿知波英明 (2000) ウイルス病診断技術開発試験.PAV 検査における PCR 診断に関する手法などの研究. 平成 11 年度愛知水試業報, 7-8.
- 松永繁 (1973) クルマエビ種苗生産における親エビ使用の現状と問題点. 栽培技研, 2(2):39-49.
- 松永繁 (1973) 昭和 47 年度クルマエビ種苗生産事業の実施経過と生産実績の概要. 協会研究資料, (5):1-37.
- 松永善信 (1993) 養魚販売バイブル,ユニーク販売事例集-クルマエビのオーナーズ会員制. 養殖, 29(12):178-180.
- 松野進・菅昭人・池田武彦 (1983) クルマエビ養殖場環境調査. 山口内海水試報, (11):72-80.
- 松野進 (2001) 親クルマエビの養成試験-II. 稚エビからの養成. 平成 11 年度山口水研事報, 256-258.
- 松野隆男・眞岡孝至・勝山政明・大久保雅啓・片桐清・地村一 (1984) 水産動物の astaxanthin 画分の立体化学的再検討(英文). 日水誌, 50(9):1589-1592.
- 松野隆男 (1985) 筋肉脂質の成分. 3.カロテノイド. シンポジウム, 水産動物の筋肉物質. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.289.
- 松野隆男 (1985) 筋肉脂質の成分. 3.カロテノイド. 鹿山光編, 水産動物の筋肉物質. 水産学シリーズ, (57):38-52.
- 松野隆男 (1993) 代謝研究の現状. 幹渉編, 海洋生物のカロテノイド-代謝と生物活性. 水産学シリーズ, (94):9-22.
- 松野隆男 (1994) 化学-カロテノイド. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):292-306.
- 松岡玳良・渡邊佳一郎・飯塚三哉 (1968) 種苗生産用初期餌料としてのマイクロワームについて. 静岡水試研報, (1):59-66.
- 松岡玳良 (1994) 日本の栽培漁業. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (I):18-22.
- 松岡玳良 (1994) 日本栽培漁業協会の概要. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):51-52.
- 松岡玳良 (1995) 瀬戸内海の栽培漁業の現状. 瀬戸内海, (5):48-53.
- 松岡達郎 (1995) エビトロール網漁業. 松田皎編, 漁業の混獲問題. 水産学シリーズ, (105):43-51.
- 松里寿彦 (1981) 魚類養殖と疾病対策. 養殖, 18(9):44-48.
- 松里寿彦 (1984) 難病対策-総論.海面養殖と難病対策. 養殖臨時増刊, 21(10):29-33.
- 松里寿彦 (1990) 水生生物の疾病から見た水産養殖. 水産振興, 24(7):1-30.
- 松里寿彦 (1997) 水産養殖の持続性について-機能的複合養殖の可能性. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集(II), pp.367-387.
- 松里寿彦 (1999) 東アジアにおける水産資源培養の発展のために. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):176-184.
- 松浦昭 (1982) わが国水産業をめぐる諸情勢と課題. 水産進行, 16(8):1-42.
- 松浦勝己 (1988) 10 周年によせて.「はじめの 10 年」. 静岡栽培漁業センター, 7.
- MATSUURA M., MIGO V.P., BALOBALO D., YOUNG H.K. and J.D.ALBALADEJO (1998) Preservation of water quality in shrimp ponds by ozone. FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biotechnology. Bangkok, Thailand, pp.93-99.
- 松浦正悟 (1974) 秋穂実証漁場-刺網による魚類捕獲調査. 昭和 48 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):11-13.
- 松山倫也・松浦修平 (1983) 黄海漁場におけるコウライエビの成熟について. 九大農学芸誌, 38(2・3):71-79.
- MAUGLE P.D., DESHIMARU O., KATAYAMA T. and K.L.SIMPSON (1982) クルマエビのアミラーゼ及びプロテアーゼの諸性質. 日水誌, 48(12):1753-1757.
- MAUGLE P.D., DESHIMARU O., KATAYAMA T. and K.L.SIMPSON (1982) Effects of short-necked clam diets on shrimp growth and digestive enzyme activities. 日水誌, 48(12):1759-1764.
- MAUGLE P.D., DESHIMARU O., KATAYAMA T., Nagatani T., and K.L.SIMPSON (1983) Effects of microencapsulated analyse and bovine trypsin dietary supplements on growth and metabolism of shrimp. 日水誌, 49(9):1421-1427.
- MAYTA LINO R.and L.RUIZ RIOS (1990) ペルーにおけるエビ類養殖の技術と進歩. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.152-160.
- McCoid V.,MIGET R.and G.FINNE (1984) Effect of environmental salinity of the free amino acid composition and concentration in penaeid shrimp. J.Food Sci., (4):327-330.
- McCONAUGHA J.R. (1985) Nutrition and larval growth. A.M. Larval growth. A.A.Balkema, Boston, 127-154.
- McCOY D.G. (1968) Migration growth and mortality of North Carolina pink and brown penaeid shrimps. Spec.Sci.Rep.N. G.Rep.Conserv.Dev., (15): 1-26.

- McKEE C. (1981) The toxic effect of five strains of blue-green algae on *Penaeus stylirostris* STIMPSON. M. S. Thesis. School of Renewable, Univ. of Ariz., Tucson, 70 pp.
- McVEY J.P. and J. M. FOX (1983) Hatchery techniques for penaeid shrimp utilized by Texas A & M-NMFS Galveston Laboratory Program. McVEY J.P.ed., Handbook of Mariculture. Vol.1. Crustacean Aquaculture. CRC Press. Inc., Boca Raton, Fla., pp.129-154.
- MEDINA A., VILA Y., MOURENTE G. and A. RODRIGUEZ (1996) A comparative study of the ovarian development in wild and pond-reared shrimp, *Penaeus kerathurus* (FORSKAL, 1775). Aquaculture, 148(1):63-75.
- 目黒清美・清水利厚・大場俊雄・田中邦三 (1982) 浦賀水道における標識放流クルマエビの移動について. 千葉水試研報, (40):117-122.
- MENASVETA P., PIYATIRATITIVORAKUL S., RUNGSUPA S., MOREE N. and A.W.FAST (1993) Gonadal maturation and reproductive performance of giant tiger prawn (*Penaeus monodon* FABRICUS) from the Andaman Sea and pond-reared sources in Thailand. Aquaculture, 116(2-3):191-198.
- MENDEZ L., ACOSTA B., PALACIOS E. and F. MAGALLON (1997) Effect of stocking densities on trace metal concentration in three tissues of the brown shrimp *Penaeus californiensis*. Aquaculture, 156(1-2):21-34.
- MENG Q. and K.YU (1980) Investigations on diseases and parasites of the saltwater shrimp, *Penaeus orientalis* KISHINOUE. Chinese J. Fisheries Research, 1:31-46.
- MENG Q. and K.YU (1982) The diseases of shrimp in the nursery period. Chinese J. Fisheries Research, 4(4):149-152.
- MENG Q. and K.YU (1982) Notes on the "black gill disease" of penaeid prawn. J. Shangdong College of Oceanology, 12(4):95-100.
- MENG Q. and K.YU (1983) The diseases of shrimp in the grow-out period and their control. Chinese J. Marine Fisheries, 5(3):110-116.
- 孟田湘 (1994) 黄海水産資源の現状およびその回復と資源増殖への道. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):68-74.
- MERCHIE G., KONTARA E., LAVENS P., ROBLES R., KURMALY K. and P.SORGELOOS (1998) Effect of vitamin C and astaxanthin on stress and disease resistance of postlarval tiger shrimp, *Penaeus monodon* (FABRICIUS). Aquacult. Res., (29):579-585.
- MERICAN Z.O. and K.F.SHIM (1994) Lipid and fatty acid utilization in adult *Penaeus monodon* fed diets supplemented with various oils. Aquaculture, 123(3-4):335-347.
- MERICAN Z.O. and K.F.SHIM (1995) Apparent digestibility of lipid and fatty acids in residual lipids of meals by adult *Penaeus monodon*. Aquaculture, 133(3-4):275-286.
- MERICAN Z.O. and K.F.SHIM (1995) Qualitative requirements of essential fatty acids for juvenile *Penaeus monodon*. Aquaculture, 147(3-4):275-291.
- MERICAN Z.O. and K.F.SHIM (1997) Quantitative requirements of linolenic and docosahexaenoic acid for juvenile *Penaeus monodon*. Aquaculture, 157(3-4):277-295.
- MERMOUD I., COSTA R., FERRE O., GOARANT C. and P.HAFFNER (1998) ニューカレドニアのブルーシュリンプにおける "Syndrome 93" (英文). Aquaculture, 164(1-4):323-335.
- MEVEL G. and S.CHAMROUX (1981) A study on nitrification in the presence of prawn (*Penaeus japonicus*) in marine closed systems. Aquaculture, 23(1-4):29-43.
- MIALHE E., BOULO V., BACHERE E., HERVIO D., COUSIN K., NOEL D., NOEL T., OHRESSER M., le DEIFF R.M., DESPRES B. and S. GENDREAU (1992) Development of new methodologies for diagnosis of infectious diseases in mollusc and shrimp aquaculture. Aquaculture, 107(2-3):155-164.
- MIAO S. (1992) Thermocycle effect on the growth rate of redbtail shrimp *Penaeus penicillatus* (ALOCK). Aquaculture, 102(4):347-355.
- MIDDLEDITCH B.S., MISSLER S.R., WARD D.G., McVEY J., BROWN A. and A.L.LAWRENCE (1979) Maturation of penaeid shrimp; dietary fatty acids. Proc. World Maricult.Soc., (10):472-476.
- MIDDLEDITCH B.S., MISSLER S.R., HINES H.B., McVEY J., BROWN A., WARD D.G. and A.L.LAWRENCE (1980) Metabolic profile of penaeid shrimp: dietary lipids and ovarian maturation. J.Chromatog., (195):359-368.
- 三重県布施田漁業協同組合 (1987) 布施田式網生簀によるクルマエビ養殖. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 10-11.
- 三重県浜島水産試験場 (1973) 昭和 47 年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査報告書(クルマエビ).
- 三重県浜島水産試験場 (1974) 昭和 48 年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査報告書(クルマエビ).
- 三重県浜島水産試験場 (1975) 昭和 49 年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査報告書(昭和 47~49 年度 総括,クルマエビ).
- 三重県浜島水産試験場 (1982) クルマエビ.昭和 56 年度放流技術開発事業報告書, 1-32.
- 三重県浜島水産試験場 (1983) クルマエビ.昭和 57 年度放流技術開発事業報告書, 1-59.

三重県浜島水産試験場 (1984) 昭和 58 年度放流技術開発事業報告書, 8-30.

三重県今一色漁業協同組合 (1987) クルマエビの生態と改良漁具. 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 4-5.

三重県農林水産部水産事務局水産振興課 (1984) クルマエビ種苗放流の手引き. 1-19.

三重県南勢町ノリ人工採苗センター (1976) クルマエビ放流 100 万尾にあと一息. 養殖, 13(9):74-75.

三重県栽培漁業センター (1982) 事業の実績. 昭和 56 年度三重栽セ事報, 5.

三重県栽培漁業センター (1983) 事業の実績. 昭和 57 年度三重栽セ事報, 5.

三重県栽培漁業センター (1984) 種苗の生産及び配布. 昭和 58 年度三重栽セ事報, 5.

三重県栽培漁業センター (1985) 種苗の生産及び配布. 昭和 59 年度三重栽セ事報, 5.

三重県栽培漁業センター (1986) 種苗の生産及び配布. 昭和 60 年度三重栽セ事報, 5.

三重県栽培漁業センター (1987) 種苗の生産及び配布. 昭和 61 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1988) 事業の実績. 昭和 62 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1989) 事業の実績. 昭和 63 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1990) 事業の実績. 平成元年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1991) 種苗の生産及び配布. 平成 2 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1992) 種苗の生産及び配布. 平成 3 年度三重栽セ事報, 7.

三重県栽培漁業センター (1993) 種苗の生産及び配布. 平成 4 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1994) 種苗の生産及び配布. 平成 5 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1995) 種苗の生産及び配布. 平成 6 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター (1996) 種苗の生産及び配布. 平成 7 年度三重栽セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター・尾鷲栽培漁業センター (1997) 種苗生産計画及び供給実績. 平成 8 年度三重栽セ・尾鷲セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター・尾鷲栽培漁業センター (1998) 種苗生産計画及び供給実績. 平成 9 年度三重栽セ・尾鷲セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター・尾鷲栽培漁業センター (1999) 種苗生産計画及び供給実績. 平成 10 年度三重栽セ・尾鷲セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター・尾鷲栽培漁業センター (2000) 種苗生産計画及び供給実績. 平成 11 年度三重栽セ・尾鷲セ事報, 6.

三重県栽培漁業センター・尾鷲栽培漁業センター (2001) 種苗生産計画及び供給実績. 平成 12 年度三重栽セ・尾鷲セ事報, 6.

三井田恒博・切田正憲・長濱眞一・西川仁・宮本博和・篠原直哉 (1993) 福岡県水産業及び水産試験研究の現状と方向. 平成 4 年度福岡水技事報, 511-562.

三木正人・池田正 (1981) 小型底びき網による漁獲調査. 昭和 54 年度三重尾鷲水試事報, 18-29.

幹渉 (1996) 魚介類の色. 鴻巣章二監修, 魚の科学. 朝倉書店, pp.63-70.

MILNE P.H. (1972) Fish and shellfish farming in coastal waters. Fishing News (Books) Ltd., 208 pp.

MILLAMENA O.M. (1989) Effect of fatty acid composition of broodstock diet on tissue fatty acid patterns and egg fertilization and hatching in pond-reared *Penaeus monodon*. Asian Fish.Sci., (2):127-134.

MILLAMENA O.M., and F.P.PASCUAL (1990) Tissue lipid content and fatty acid composition of *Penaeus monodon* broodstock from the wild. J.World Aquacult.Soc., (21):116-121.

MILLAMENA O.M., PENAFLORENZA V.D. and P.F.SUBOSA (1990) The macronutrient composition of natural food organisms mass cultured as larval feed for fish and prawns. Isr. J. Aquacult. Bamideg., (42):77-83.

MILLAMENA O.M., BAUTISTA-TERUEL M.N. and A.KANAZAWA (1996) Methionine requirement of juvenile tiger shrimp *Penaeus monodon* FABRICIUS. Aquaculture, 143(3-4):403-410.

MILLAMENA O.M., BAUTISTA M.N., REYES O.S. and A. KANAZAWA (1997) Threonine requirement of juvenile marine shrimp *Penaeus monodon*. Aquaculture, 151(1-4):9-14.

MILLAMENA O.M. and A.T. TRINO (1997) Low-cost feed for *Penaeus monodon* reared in tanks and under semiintensive and intensive conditions in brackishwater ponds. Aquaculture, 154(1):69-78.

MILLAMENA O.M., BAUTISTA-TERUEL M.N., REYES O.S. and A.KANAZAWA (1998) Requirements of juvenile marine shrimp, *Penaeus monodon* (FABRICIUS) for lysine and arginine. Aquaculture, 164(1-4):95-104.

MILLAMENA O.M., TERUEL M.B., KANAZAWA A. and S.TESHIMA (1999) Quantitative dietary requirements of postlarval tiger shrimp, *Penaeus monodon*, for histidine, isoleucine, leucine, phenylalanine and tryptophan. Aquaculture, 179(1-4):169-179.

三村悌二 (1983) 技術開発の推進. 水産庁監修 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.32-45.

皆川恵・安元進・有吉敏和・梅本敬人・上田拓 (1997) 有明海・橘湾(天草海)におけるクルマエビの生態-Ⅲ. 産卵期及び産卵場. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.

- MINAGAWA M., YASUMOTO S., ARIYOSHI T., UMEMOTO T. and T. UEDA (2000) Interannual, seasonal, local and body size variations in reproduction of the prawn *Penaeus (Marsupenaeus) aponicus* (Crustacea:Decapoda:Penaeidae) in the Ariake Sea and Tachibana Bay, Japan. *Marine Biology*, (136):223-231.
- 三尾真一 (1977) 東シナ海・黄海の底魚群集と以西底びき網漁業. 漁業資源研究会議報, (19):51-66.
- MIQUEL J.C. (1986) Notes on Indo-West Pacific Penaeidae. 1. The colour of *Penaeus canaliculatus* (OLIVIER): a useful field character. *Crustaceana*, (45):109-112.
- MIQUEL J.C. (1986) Notes on Indo-West Pacific Penaeidae, 2. *Penaeus chinensis* (OSBECK). A West Pacific shrimp and its related species. *Crustaceana*, (45):139-144.
- MISAMORE M. and C.L.BROWDY (1997) Evaluating hybridization potential between *Penaeus setiferus* and *Penaeus vannamei* through natural mating, artificial insemination and in vitro fertilization. *Aquaculture*, 150(1·2):1-10.
- 水戸敏 (1969) 放流クルマエビの追跡調査と問題点. *水産増殖*, 16(6):333-335.
- 岡岡弘・香渡昭・山賀賢一・竹森弘征 (1983) 小割生簀によるクルマエビの中間育成試験. 昭和 57 年度香川県普及活動業績集, (4):1-7.
- 三浦五郎・山口正男 (1955) くるまえば *Penaeus japonicus* BATE の砂中潜入行動, その他についての2,3の観察. *水産増殖*, 2(3):20-26.
- 三輪勝利 (1987) 水産加工の目的と水産原料の特性. 野中順三九編, 水産利用原料. 恒星社厚生閣, 新水産全集, (23):24-92.
- MIYAGAWA M., YASUMOTO S., ARIYOSHI T., UMEMOTO T. and T. UEDA (2000) Interannual, seasonal, local and body size variation in reproduction of the prawn *Penaeus (Marsupenaeus) japonicus* (Crustacea; Decapoda:Penaeidae) in the Ariake Sea and Tachibana Bay, Japan. *Marine Biology*, (136):223-231.
- 宮城県 (1981) 昭和 55 年度放流技術開発事業実績報告書, pp.38-56.
- 宮城県 (1982) 昭和 56 年度放流技術開発事業実績報告書, pp.16-22.
- 宮城県・静岡県・愛知県・三重県・福岡県 (1982) 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ, 静 1-49.
- 宮城県水産試験場 (1982) 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ, 1-38.
- 宮城県水産試験場 (1983) 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ類 (太平洋), 1-34.
- 宮城県水産試験場 (1975) 昭和 47, 48, 49 年度総括. 太平洋北区栽培漁業漁場資源生態調査報告書, pp.59-64.
- 宮城豊彦・向後元彦 (1991) マングローブ林で何が起きているか. 古今書院. 地理, 36(3):33-40.
- 三宅貞祥 (1961) 天草臨海実験所近海の生物相. 甲殻十脚類. 30 pp.
- MIYAKE S., SAKAI K. and S. NISHIKAWA (1962) A faunal-list of the decapod Crustacea from coasts washed by the Tsushima Warm Current. *Rec. Ocean. Wrks. Japan, Spec.*, (6):121-131.
- 三宅貞祥・菊池泰二編 (1998) 天草臨海実験所近海の生物相. 十脚甲殻類(増補改訂版). 九州大理学部附属天草実験所, 30 pp.
- 三宅貞祥 (1998) 原色日本大型甲殻類図鑑(I)-改訂版. 保育社, 261 pp.
- 三宅与志雄・石川雄介・星野暉 (1968) 餌料や底質の違いによるクルマエビの体色変化. 昭和 42 年度岡山水試事報, 27-34.
- 宮嶋俊明・浜中雄一・竹野功璽 (1995) クルマエビの放流技術開発-III. 栗田湾における放流クルマエビ小型種苗の初期動向. *京都海セ研報*, (18):51-56.
- 宮嶋俊明・豊田幸詞・浜中雄一・小牧博信 (1996) クルマエビ尾肢切除による標識の有効性-I. 色素を指標とした標識. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.48.
- 宮嶋俊明・浜口雄一・竹野功璽 (1996) 京都府のクルマエビさいばい漁業の現状. ②放流方法を考える. *水産技術と経営*, 42(12):11-16.
- 宮嶋俊明・豊田幸詞・浜中雄一・小牧博信 (1996) クルマエビ標識放流における尾肢切除法の有効性について. *栽培技研*, 25(1):41-46.
- 宮嶋俊明 (1997) クルマエビの尾肢切断判別マニュアル. *さいばい*, (91):23-27.
- 宮嶋俊明 (1998) クルマエビの尾肢切除標識判別マニュアル. 京都海洋センター.
- 宮嶋俊明・浜口雄一・豊田幸詞 (1998) クルマエビの標識法について. 平成 10 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集.
- 宮嶋俊明・浜口雄一・竹野功璽 (1998) クルマエビ放流技術の開発-V. 放流効果の推定の試み. *京都海セ研報*, 23(1):53-60.
- 宮嶋俊明・浜口雄一・豊田幸詞 (1999) クルマエビの標識法について(英文). *Fish. Sci.*, 65(1):31-35.
- 宮嶋俊明 (2001) 若狭湾西部海域におけるクルマエビ放流効果調査事例. 放流効果調査事例検討会資料集, 協会検討資料, (79):41-42.
- 宮島義和・松本淳 (1996) 人工養成クルマエビを用いた生検法による採卵用親エビの成熟判定と効率的採卵方法. *栽培技研*, 25(1):37-40.
- 宮本秀明 (1942) 分類網漁具名彙集(II). *水産研究誌*, 37(9):163-165.

- 宮本秀宣・矢野勲 (1997) クルマエビの脱皮に及ぼす 20-hydroxyecdysone 添加飼料の影響. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.40.
- 宮本博和・上妻智行 (1991) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 平成 2 年度福岡県水試研報, 豊 10.
- 宮本博和・有江康章 (1992) 福岡県豊前海域におけるクルマエビ (*Penaeus japonicus* BATE) の研究-I. 成熟について. 福岡水技研報, (5):19-29.
- 宮本博和・上妻智行 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 平成 3 年度福岡県水試研報, 豊 10.
- 宮本猛 (1988) 土佐湾における小型機船底びき網漁業について. 南西外海の資源・海洋研究, (4):1-6.
- 宮村光武 (1965) クルマエビ. 大島泰雄・花岡資・猪野俊・須藤俊造監修, 浅海養殖 60 種. 大成社, pp.83-93.
- 宮村光武 (1985) クルマエビをつくる. NHK 産業科学部編, 証言・日本漁業戦後史. 日本放送出版協会, pp.155-159.
- 宮永貴幸・山田英明・西田輝己 (1995) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 1. 広域回遊資源調査. 改良漁具開発. 平成 6 年度鳥取水試年報, 154-159.
- 宮永貴幸・前田啓助・西田輝己 (1997) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 4. 改良漁具開発. 平成 8 年度鳥取水試年報, 162-164.
- 宮後富博・中村雅人・末富敏夫・上田安夫・大村昭・荒瀬勝政 (1990) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 63 年度山口内海栽セ報, 1-5.
- 宮後富博 (1990) クルマエビ種苗生産試験. 昭和 63 年度山口内海栽セ報, 59-61.
- 宮後富博・中村雅人・末富敏夫・上田安夫・大村昭・荒瀬勝政 (1992) クルマエビ種苗生産事業. 平成元年度山口内海栽セ報, 1-5.
- 宮後富博・中村雅人・末富敏夫・上田安夫・大村昭・荒瀬勝政 (1992) クルマエビ種苗生産事業. 平成 2 年度山口内海栽セ報, 1-4.
- 宮後富博・中村雅人・末富敏夫・上田安夫・大村昭・荒瀬勝政 (1992) クルマエビ種苗生産事業. 平成 3 年度山口内海栽セ報, 1-5.
- 宮後富博・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・大村昭・荒瀬勝政 (1995) クルマエビ種苗生産事業. 平成 4 年度山口内海栽セ報, 1-5.
- 宮後富博・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・荒瀬勝政 (1996) クルマエビ種苗生産事業. 平成 5・6 年度山口県栽セ報, 9-11.
- 宮後富博・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・荒瀬勝政 (1996) クルマエビ種苗生産事業. 平成 5・6 年度山口県栽セ報, 105-108.
- 宮後富博・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・荒瀬勝政 (1998) クルマエビ種苗生産事業. 平成 7・8 年度山口県栽セ報, 105-114.
- 宮下盛 (1997) 我が国の魚類養殖における給餌技術の変遷とその背景. 養殖, 34(10):110-113.
- 宮内泰介 (1989) エビと食卓の現代史. 同文館出版, 238 pp.
- 宮内泰介 (1992) えびこぎとクルマエビ養殖. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.245-258.
- 宮崎千博 (1965) 網漁具に対する魚群の行動. 日水誌, 31(12):1029-1063.
- 宮崎県 (1980) 昭和 55 年度クルマエビ放流事業調査報告書(謄写印刷), 1-15.
- 宮崎県・松本水産(株) (1997) 出荷間近の飼育管理(上). 魚種別事例集, 養殖, 34(11):60-61.
- 宮崎県水産試験場 (1971) 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場調査報告, 29pp. (謄本刷)
- 宮崎県水産試験場 (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (15):38-41.
- 宮崎県土々呂漁業協同組合 (1987) クルマエビの放流事業について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 266-267.
- 宮崎県内海漁業協同組合 (1987) クルマエビ中間育成によるグループ意識の向上. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊, 268-269.
- 宮崎照雄・中村礼子・PALACIOS M. (1995) *Penaeus vannamei* の Taura syndrome の病理組織像. 平成 7 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.15.
- 宮崎照雄・中村礼子・Maria D.VILLACREASES・PALACIOS M. (1995) *Penaeus vannamei* の IHNN の病理組織像. 平成 7 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p. 20.
- 宮澤晴彦 (1998) 漁業生産の構成と変化. 地域漁業学会編, 漁業考現学-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp.140-156.
- 宮澤正・田染博章・石川佑司・田森裕茂・横松芳治 (1984) 藻場保護水面調査. 昭和 58 年度大分浅海事報, 87-88.
- 宮澤正・田森裕茂 (1987) 開発漁場保全調査. 昭和 60 年度大分浅海事報, 111-119.
- 三栖寛 (1988) 漁業をめぐる諸環境の変化. 西日本における漁業資源. 西日本漁業経済学会編, 転機に立つ日本水産業. 九州大学出版会, pp.64-87.
- 三輪勝利 (1971) 米・加の水産食品の企画と検査方法. 東海区水研. さかな, (8):31-42.
- 三輪勝利 (1977) 日本の沿岸漁獲物の利用加工の将来展望. 東海区水研. さかな, (18):33-38.

- 三輪勝利 (1990) 中国の水産加工業. 水産振興, 24(1):1-30.
- 三好勝 (1973) クルマエビ栽培漁業の現況(上). 養殖, 10(4):97-100.
- 三好勝 (1973) クルマエビ栽培漁業の現況(下). 養殖, 10(5):96-100.
- 三好勝 (1975) クルマエビの生簀式と箱網式による養成結果の比較について. 水産増殖, 22(3):144-150.
- 水口憲哉 (1983) 沿岸漁業の維持発展と栽培漁業. 水産海洋研究会報, (43):72-74.
- 水藤勝喜 (1995) 愛知県一色産クルマエビ種苗生産用親エビについて-I. 漁獲と供給の現状. 栽培技研, 24(1):9-17.
- 水藤勝喜 (1996) 愛知県一色産クルマエビ種苗生産用親エビについて-II. 採卵の効率化に関する検討. 栽培技研, 24(2):75-81.
- 水藤勝喜・荒川哲也・伊藤英之進 (1996) 生検法 (Boopsy 法)による種苗生産様親クルマエビの成熟度観察. 栽培技研, 25(1):27-35.
- 水藤勝喜・荒川哲也・伊藤英之進 (1997) 種苗生産用親クルマエビの PCR 検査が採卵に及ぼす影響. 栽培技研, 25(2):81-86.
- 水間敏郎・伊藤章 (1982) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 54・55・56 年度宮城栽セ事報, 10-13.
- 水野宏成 (1981) 特定水産動物育成事業. 昭和 55 年度愛知水試業報, 112-114.
- 水野秀二・上村信夫・長谷川雅俊 (1992) 保護水面管理事業に関する調査 (浜名湖藻場). 平成 3 年度静岡水試事報, 280-282.
- 水野芳嗣 (1998) 海産養殖魚における疾病予防のための飼育管理. 月刊海洋号外, (14):85-90.
- 水野芳嗣 (1999) 魚病対策における飼育管理の基本. 養殖, 36(7):76-80.
- 水田尚志・吉中禮二・佐藤守・鈴木徹・伊藤慶明・坂口守彦 (1991) クルマエビ *Penaeus japonicus* 筋肉コラーゲンの新 α 成分の単離及び若干の性質(英文). Comparative Biochemistry and Physiology, 100B (4):783-787.
- 水田尚志・吉中禮二・鈴木徹・伊藤慶明・坂口守彦 (1992) クルマエビ *Penaeus japonicus* 筋肉中の種々のタイプのコラーゲンのサブユニット組成(英文). Comparative Biochemistry and Physiology, 102B (4):803-811.
- 水田尚志・吉中禮二・沖本公志・佐藤守・坂口守彦 (1992) 数種甲殻類筋肉のコラーゲン含有量と物性. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.199.
- 水田尚志・吉中禮二・佐藤守・坂口守彦 (1994) クルマエビ筋肉のコラーゲンの熱安定性ならびに熱溶解性. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.236.
- 水田尚志 (1997) 水産無脊椎動物筋肉のコラーゲンに関する生化学的研究. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.241.
- 水田尚志・吉中禮二・佐藤守・坂口守彦 (1997) クルマエビの冷却貯蔵中における筋肉コラーゲンの組織学的ならびに生化学的变化. Fish.Sci., 63(5):784-793.
- 水田尚志・山田祐里・吉中禮二 (1998) クルマエビの加熱過程における筋肉の収縮とコラーゲンの性状変化. 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.157.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-環境および施設. 養殖, 22(1):118-119.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-クルマエビの種苗生産. 養殖, 22(2):119-120.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-クルマエビの種苗生産II. 養殖, 22(3):118-119.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-中間育成. 養殖, 22(4):120-121.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-養成. 養殖, 22(5):119-120.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-出荷. 養殖, 22(6):120-121.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-相場. 養殖, 22(7):112-113.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-在池量の把握. 養殖, 22(8):115-116.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-製造原価. 養殖, 22(10):115-116.
- 望月秀郎 (1985) 車エビ-損益分岐点. 養殖, 22(12):110-111.
- 望月秀郎 (1985) クルマエビ-海外における技術指導. 養殖, 22(13):116-117.
- 望月秀郎 (1988) 輸入魚介類の及ぼす影響と対応策. 養殖, 25(10):65.
- 望月秀郎 (1997) インドネシアにおける養殖技術開発. 養殖, 34(3):92-96.
- 望月秀郎 (1999) 養殖業界この一年総まくり-クルマエビ. 養殖, 36(12):66-67.
- 望月賢二・青葉高・田中金太郎編 (1994) 海の幸山の幸大百科. 1.魚介海藻, えび. ぎょうせい, pp.56-71.
- MOCK C.R. (1966) Natural and altered estuarine habitats of penaeid shrimp. Gulf Caribb.Fish.Inst. 19th Ann. Sess., pp.86-98.
- MOCK C.R. and A.M.MURPHY (1971) Techniques for raising eggs and postlarvae. Proc.World Maricult.Soc., (1):143-156.
- MOCK C.R., NEAL R.A. and B.R. SALSER (1973) A closed system raceway for the culture of shrimp. Proc.Annu. Workshop World Maricult.Soc., (4):247-259.
- MOCK C.R. (1974) Larval culture of penaeid shrimp at the Calveston Biological Laboratory. (388):33-40.

- MOCK C.R., REVERA D.B. and C.T.FONTAINE (1980) The larval culture of *Penaeus stylirostris* using modification of the Galveston laboratory technique. Proc.World Maricul.Soc., (11):102-117.
- MOCK H.L. and A.M.MURPHY (1969) The culture of larval penaeid shrimp. Trans.Am.Fish.Soc., 98:751-759.
- MOHAMED K.H., EL-MUSA M. and A.R.ABDUL-CHAFFAR (1981) Observations on the biology of exploited species of shrimp, *Penaeus semisulcatus* de HANN, en Kuwait. Kuwait Bull., 2: 33-52.
- MOHAMED K.S. and A.D.DIWAN (1991) Neuroendocrine regulations of ovarian maturation in the Indian white prawn *Penaeus indicus* H. Milne EDWARDS. Aquaculture, 98(4):381-393.
- MOHAN C.V., SHANKAR K.M., KULKARNI S. and P.M.SUDHE (1998) Histopathology of cultured shrimp showing gross signs of yellow head syndrome and white spot syndrome during 1994 Indian epizootics. Dis.Aquat.Org., 34(1):9-12.
- MOHAN C.V. and K.M.SHANKAR (1999) Occurrence of unusual giant cell in the heart of *Penaeus monodon* FABRICIUS, showing gross signes of yellow head syndrome. J.Fish Dis., 22(6):479-482.
- MOHNEY L.L., POULOS B.T., BROOKER J.H., CAGE G.D. and D.V.LIGHTNER (1998) Isolation and indentification of *Mycobacterium peregrinum* from the Pacific white shrimp *Penaeus vannamei* (短報). J.Aquatic Animal Health, 10(1):83-88.
- MOHNEY L.L., WILLIAMS R.R., BELL T.A. and D.V.LIGHTNER (1997) Residues of oxytetracycline in cultured juvenile blue shrimp, *Penaeus stylirostris* (Crustacea: Decapod), fed medicated feed for 14 days. Aquaculture, 149(3-4):193-202.
- 百島分場 (1997) 成体の確保と産卵. クルマエビ:暖海性甲殻類人工産卵技術開発. 平成7年度日裁協事業年報, 43-51.
- 百島分場 (1998) 成体の確保と採卵. クルマエビ:暖海性甲殻類人工産卵技術開発. 平成8年度日裁協事業年報, 43-49.
- 百島事業場 (2001) 成体の確保と採卵. 平成11年度日裁協事業年報, 51-55.
- 桃山和夫 (1974) クルマエビ幼期中の腸腺白濁症(仮称)に関する研究.昭和49年度指定研究「魚病研究」結果報告書.
- 桃山和夫・岩本哲二・高山繁昭・菅昭人 (1975) クルマエビ幼期中の腸腺白濁症(仮称)に関する研究(抄録). 山口内海水試報, (5):89.
- 桃山和夫・池田武彦 (1977) クルマエビ幼期中の腸腺白濁症(仮称)に関する研究(抄録). 山口内海水試報, (6):217-218.
- 桃山和夫・小林知吉・吉松正二・井上泰 (1980) 養魚飼料添加物使用基準検討試験(クルマエビ). 昭和54年度.
- 桃山和夫 (1981) クルマエビの伝染性幼期中の腸腺壊死症に関する研究-I. 発生状況および症状. 山口内海水試報, (8): 1-11.
- 桃山和夫 (1981) クルマエビの伝染性幼期中の腸腺壊死症に関する研究-II. 人為感染. 山口内海水試報, (8):12-20.
- 桃山和夫・小林知吉・吉松正二・井上泰 (1981) 養魚飼料添加物使用基準検討試験(クルマエビ). 昭和55年度.
- 桃山和夫 (1982) クルマエビの伝染性中腸腺壊死症に関する研究-仮診断法. その他魚類および甲殻類の種苗生産過程における魚病問題, 魚病研究, 17(3):227-228.
- 桃山和夫 (1983) 車蝦のバキュロウイルス性中腸腺壊死症. 養殖, 20(1):23.
- 桃山和夫 (1983) クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (11):173-178.
- 桃山和夫 (1983) クルマエビのバキュロウイルス性中腸腺壊死症に関する研究-III. 仮診断法. 魚病研究, 17(4):263-268.
- 桃山和夫・松野進 (1983) 養殖クルマエビの病害防除に関する研究. 昭和57年度魚病対策技術開発研究報告書.
- 桃山和夫 (1984) 養殖クルマエビの治療対策. 魚病方策に関するワークショップ. 魚病研究, 18(4):230-231.
- 桃山和夫 (1984) 養殖クルマエビの病害防除に関する研究. 昭和58年度魚病対策技術開発研究報告書.
- 桃山和夫 (1984) 養殖魚の治療対策. 1-2.クルマエビの治療対策. 魚病対策の問題点と予防方策に関するワークショップ要旨. 魚病研究, 18(4):230-231.
- 桃山和夫 (1985) クルマエビ養殖状況調査(昭和57・58年度). 山口内海水試報, (13):107-110.
- 桃山和夫・松野進 (1985) 養殖クルマエビの病害防除に関する研究(昭和57・58年度-抄録). 山口内海水試報, (13):220-221.
- 桃山和夫 (1985) クルマエビのバキュロウイルス性中腸腺壊死症に関する研究-III. 仮診断法. 山口内海水試報, (13):222-223.
- 桃山和夫・松野進 (1985) 種苗生産時の病害の研究(クルマエビの病害に関する研究). 昭和59年度魚病対策技術開発研究報告書.
- 桃山和夫・松野進 (1986) 養殖クルマエビから分離されたフサリウム菌に対する数種消毒剤の殺菌効果. 山口内海水試報, (14):54-69.
- 桃山和夫 (1986) クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (14):71-72.
- 桃山和夫・松野進 (1986) 種苗生産時の病害の研究,クルマエビの病害に関する研究(昭和59年度,抄録). 山口内海水試報, (14):179-180.
- 桃山和夫 (1987) クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (15):144-146.

- 桃山和夫・松野進 (1987) 種苗生産時の病害の研究, クルマエビの病害に関する研究(抄録). 山口内海水試報, (15):164-166.
- 桃山和夫 (1987) フサリウム症罹病クルマエビ体内におけるフサリウム菌の分布. 魚病研究, 22(1):15-23.
- 桃山和夫・松里寿彦 (1987) 養殖クルマエビの筋壊死症. 魚病研究, 22(2):69-75.
- 桃山和夫 (1987) 魚体に巣くう主役たち-105. 養殖クルマエビの筋肉壊死症. 養殖, 24(9):31.
- 桃山和夫 (1987) 仔稚魚期の魚病対策-クルマエビ. 養殖, 24(13):124-128.
- 桃山和夫 (1988) クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (16):149-151.
- 桃山和夫・松野進 (1988) 種苗生産時の病害の研究, クルマエビの病害に関する研究(抄録). 山口内海水試報, (15):173-174.
- 桃山和夫・松里寿彦 (1988) 養殖クルマエビ筋壊死症(抄録). 山口内海水試報, (16):175.
- 桃山和夫 (1988) フサリウム症罹病クルマエビ体内におけるフサリウム菌の分布(抄録). 山口内海水試報, (16):176.
- 桃山和夫・佐野徳夫 (1988) BMN ウイルスに高い感受性を示すクルマエビの発育期. 昭和 63 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.22.
- MOMOYAMA K. and T.SANO (1988) A method of experimental infection of kuruma shrimp larvae, *Penaeus japonicus* BATE, with baculoviral mid-gut gland necrosis (BMN) virus. J.Fish Dis., 11:105-111.
- 桃山和夫 (1988) クルマエビ種苗生産時に発生するバキュロウイルス性中腸腺壊死症 (BMN)の伝染源. 魚病研究, 23(2):105-110.
- MOMOYAMA K. and T.SANO (1989) Developmental stages of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus* BATE, with baculoviral mid-gut gland necrosis (BMN) virus. J.Fish Dis., 12(6):585-589.
- 桃山和夫 (1989) 紫外線,日光,熱および乾燥によるバキュロウイルス性中腸腺壊死症. 魚病研究, 24(2):115-118.
- 桃山和夫 (1989) 消毒剤によるバキュロウイルス性中腸腺壊死症(BMN)の不活化効果. 魚病研究, 24(1):47-49.
- 桃山和夫 (1989) 紫外線・日光・熱および乾燥によるバキュロウイルス性中腸腺壊死症(BMN)ウイルスの不活化. 魚病研究, 24(2):115-118.
- 桃山和夫 (1989) バキュロウイルス性中腸腺壊死症ウイルス(BMNV)のエーテル, 食塩濃度および pH に対する抵抗性. 魚病研究, 24(3):175-177.
- 桃山和夫 (1989) バキュロウイルス性中腸腺壊死ウイルス(BMNV)の感染組織および海水中での活性維持. 魚病研究, 24(3):179-181.
- 桃山和夫・松野進 (1990) 特定魚種の病害に関する研究 (クルマエビの BMN, 抄録). 山口内海水試報, (17):146-148.
- 桃山和夫 (1990) クルマエビ稚仔のバキュロウイルス性中腸腺壊死ウイルス(BMN)に関する研究. 山口内海水試報, (20):1-91.
- 桃山和夫 (1990) 魚種別・疾病発生状況とその対策. クルマエビ養殖. 養殖, 27(10):77-80.
- 桃山和夫 (1990) 数種消毒剤のクルマエビの受精卵及びノウプリウスに対する毒性. 山口内海水試報, (18):50-63.
- 桃山和夫・松野進 (1990) 特定魚種の病害に関する研究(クルマエビの BMN,抄録). 山口内海水試報, (18):134-135.
- 桃山和夫 (1990) クルマエビ種苗生産時に発生するバキュロウイルス性中腸腺壊死症(BMN)の伝染源(抄録). 山口内海水試報, (18):136.
- 桃山和夫 (1990) 消毒剤によるバキュロウイルス性中腸腺壊死症(BMN)ウイルスの不活化効果(抄録). 山口内海水試報, (18):137.
- 桃山和夫・佐野徳夫 (1990) A method of experimental infection of kuruma shrimp larvae, *Penaeus japonicus* B ATE, with baculoviral mid-gut gland necrosis (BMN) virus(抄録). 山口内海水試報, (18):138.
- 桃山和夫 (1990) クルマエビ稚仔のバキュロウイルス性中腸腺壊死ウイルス(BMN)に関する研究. 山口内海水試報, (20):1-91.
- 桃山和夫 (1991) クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (19):173-182.
- 桃山和夫・佐野徳夫 (1991) Developmental stages of kuruma shrimp. *Penaeus japonicus* Bate, with baculoviral mid-gut gland necrosis (BMN) virus(抄録). 山口内海水試報, (19):199.
- 桃山和夫 (1991) バキュロウイルス性中腸腺壊死症ウイルス(BMNV)のエーテル, 食塩濃度および pH に対する抵抗性(抄録). 山口内海水試報, (19):200.
- 桃山和夫 (1991) 紫外線・日光・熱および乾燥によるバキュロウイルス性中腸腺壊死症(BMN)ウイルスの不活化(抄録). 山口内海水試報, (19):201.
- 桃山和夫 (1991) バキュロウイルス性中腸腺壊死ウイルス(BMNV)の感染組織および海水中での活性維持(抄録). 山口内海水試報, (19):202.
- 桃山和夫 (1991) 新しい品質の病害防除の研究-クルマエビのビブリオ病(抄録). 山口内海水試報, (19):203.
- 桃山和夫 (1991) クルマエビ稚仔のバキュロウイルス性中腸腺壊死症に関する研究. 山口内海水試報, (20):1-91.
- 桃山和夫 (1992) 新しい品質の病害防除の研究-クルマエビのビブリオ病(抄録). 山口内海水試報, (21):170.
- 桃山和夫 (1992) Baculoviral mid-gut gland necrosis(BMN) of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus* (抄録). 山口内海水試報, (21):171.

- 桃山和夫 (1992) クルマエビのビブリオ病.3.病理学的特徴および診断法. 平成4年度魚病学会秋季大会講演要旨.
- 桃山和夫・馬場俊典 (1994) 海産魚類養殖状況調査(平成4年度). 山口内海水試報, (23):134-139.
- MOMOYAMA K. (1994) Some important infectious diseases of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*, in Japan(抄録). 山口内海水試報, (23):153.
- MOMOYAMA K. (1994) Viral diseases of cultured penaeid shrimp in Japan(抄録). 山口内海水試報, (23):154.
- 桃山和夫 (1994) クルマエビの OTC-Q の生物学的同等性および残留性試験(抄録). 山口内海水試報, (23):156.
- 桃山和夫・平岡三登里・中野平二・川邊博・井上潔・大迫典久 (1994) 1993 年西日本地方で発生した養殖クルマエビの大量死, 2.病理組織観察. 平成6年度魚病学会春季大会講演要旨, p.7
- 桃山和夫・平岡三登里・中野平二・河邊博・井上潔・大迫典久 (1994) 1993 年に西日本で発生した養殖クルマエビの大量死, 病理組織観察. 魚病研究, 29(2):141-148.
- 桃山和夫 (1995) クルマエビ養殖状況調査(平成3~5年度). 山口内海水試報, (24):59-61.
- 桃山和夫・平岡三登里 (1995) 種苗生産時の被害防除の研究(クルマエビのビブリオ病, 抄録). 山口内海水試報, (24):131.
- 桃山和夫・平岡三登里・井上潔・木村武志・中野平二 (1985) 養殖クルマエビの新しいウイルス病(RV-PJ 感染症)の診断法. 平成7年度日本魚病学会春季大会講演要旨.
- MOMOYAMA K., HIRAOKA M., INOUE K., KIMURA T. and H.NAKANO (1995) Diagnostic techniques of the rod-shaped nuclear infection in the kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*. Fish Pathol., 30(4):263-269.
- 桃山和夫・平岡三登里・井上潔・木村武志・中野平二 (1995) クルマエビの“RV-PJ”感染症の診断方法(英文). 魚病研究, 30(4):263-269.
- 桃山和夫・平岡三登里・中野平二・河邊博・井上潔・大迫典久 (1996) 1993 年に西日本で発生した養殖クルマエビの大量死. 病理組織観察(抄録). 山口内海水試報, (25):129.
- 桃山和夫・平岡三登里 (1996) 種苗生産時の被害防除の研究(クルマエビのビブリオ病, 抄録). 山口内海水試報, (25):131.
- 桃山和夫 (1996) ウイルス病. 甲殻類等におけるウイルス病. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.42-44.
- 桃山和夫・佐野徳夫 (1996) 5種類の甲殻類幼生に対するバキュロウイルス性中腸腺壊死症ウイルス(BMNV)の感染性(英文). 魚病研究, 31(2):81-85.
- 桃山和夫・平岡三登里 (1997) 1995年山口県におけるクルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の発生状況. 山口内海水試報, (26):151.
- 桃山和夫・平岡三登里 (1997) クルマエビ養殖状況調査. 山口内海水試報, (26):154-155.
- 桃山和夫・平岡三登里・井上潔・木村武志・中野平二 (1997) クルマエビの“RV-PJ 感染症”の診断方法(英文). 山口内海水試報, (26):190.
- MOMOYAMA K., HIRAOKA M., NAKANO H. and M.SAMESHIMA (1998) Cryopreservation of penaeid rod-shaped DNA virus (PRDV) and its survival in sea water at different temperatures. Fish Pathol., 33(2):95-96.
- MOMOYAMA K., HIRAOKA M. and C.A.VENEGAS (1999) Pathogenicity of penaeid rot-shaped DNA virus (PRDV) to juveniles of six crustacean species. Fish.Pathol., 34(4):183-188.
- MONTANO M. and J.C. NAVARRO (1996) Fatty of wild and cultured *Penaeus vannamei* larvae from Ecuador. Aquaculture, 142(3・4):259-268.
- MONTERO A.B.and B.AUSTIN (1999) Characterization of extracellular products from an isolate of *Vibrio harveyi* recovered from diseased post-larval *Penaeus vannamei* (BONNE). J.Fish Dis., 22(5):377-386.
- MOORE D.W., SHERRY R.W. and F.MONTANEZ (1974) Maturation of *Penaeus californiensis* in captivity. Proc.5th Annu. Workshop Mariculture Soc., (5):445-449.
- MOORE D.W. and C.W.BRAND (1993) The culture of marine shrimp in controlled environment superintensive systems. McVEY J.P., CRC Handbook of mariculture, 2nd edn.Vol.1.Crustacean aquaculture. CRC Press, Boca Raton, pp.315-348.
- MOORE S.S., WHAN V., DAVIS G.P., BYRNE K., HETZEL D.J.S. and N.PRESTON (1999) The development and application of genetic markers for Kuruma prawn *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 173(1-4):19-32.
- MORALES-COVARRUBIAS M.S., NUMAN L.M., LIGHTNER D.V., MOTA-URBINA J.C., GARZA-AGUIRRE M.C. and M.C.CHAVEZ-SANCHEZ (1999) Prevalence of infectious hypodermal and hemetopietic necrosis virus (IHNV) in wild adult Blue shrimp *Penaeus stylirostris* from the northern Gulf of California, Mexico(短報). J.Aquatic Animal Health, 11(3):296-301.
- 森円蔵 (1969) クルマエビの冬期養殖. 養殖, 6(7):113-115.
- 森文基・岩崎満・森本健二・堀義道・三谷明義・松尾薫 (1972) 普及活動に関する事項. 昭和42年度三重浜島水試年報, 69-88.

- MORI J., BONAMI J.R. and D.V. LIGHTNER (1993) Partial cloning of the genome of infectious hypodermal and hematopoietic necrosis virus, an unusual parvovirus pathogenic for penaeid shrimps: diagnosis of the disease using a specific probe. *J. Gen. Viral.*, 74:2637-2643.
- 森敬四郎 (1979) 定置網の漁獲選択性. 日本水産学会編, 漁具の漁獲選択性. 水産学シリーズ, (28):46-64.
- 森勇・徳武武雄・桑岡亦好・藤木哲夫 (1973) 大村湾の底層貧酸素水と底生有用水族の分布. 日水誌, 39(7): 753-758.
- 森広一郎・虫明敬一・有元操・佐藤純・今泉圭之輔 (1998) クルマエビ種苗のPAV発症に及ぼす輸送等の影響. 平成10年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.2.
- 森広一郎 (1999) 親魚管理と疾病防除. シンポジウム, 飼育管理技術と疾病防除の今後の展開. 講演要旨集. 日裁協, pp.11-12.
- 森政治 (1991) 空港島の魚礁効果. 瀬戸内海科学, 3(2):38-43.
- 森徹 (1992) カロテノイドの代謝. 5. 養殖魚の体色改善. シンポジウム, 海洋生物カロテノイドの代謝と生物活性. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.289.
- 森徹・山口勝己 (1988) 養殖魚分類の色揚げ法-アユ, ティラピア, クルマエビの体色改善. 養殖, 25(5):105-109.
- 森由基彦 (1985) 底魚資源調査. 昭和58年度大分水試事報, 48-51.
- 森由基彦 (1986) 底魚資源調査. 昭和59年度大分水試事報, 99-102.
- 森由基彦 (1986) 小型底曳網による主要魚種の漁獲変動と環境変動と対比. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (18):117-125.
- 森由基彦 (1987) 底魚資源調査. 昭和60年度大分水試事報, 116-120.
- MORIARTY D.J.W. (1998) Control of luminous *Vibrio* species in penaeid aquaculture pond. *Aquaculture*, 164(1-4):351-358.
- 森川晃・伊藤史郎・山口忠則・金澤孝弘・那須博史・内川純一・皆川恵 (2001) 有明海沿岸4県によるクルマエビ協同放流試験について. シンポジウム, 有明海の漁業生物生産: その環境との関わり. 平成13年度日本水産学会九州支部例会発表要旨, p.14.
- 森川晃・村瀬慎司 (2001) 有明海島原半島沿岸域におけるクルマエビ人工種苗の放流硬化の検討. 長崎水試研報, (27):9-15.
- 森川貫 (1993) わが国遠洋漁業の縮小とその対応. 多紀保彦編, 世界の中の日本漁業. 成山堂書店, pp.22-56.
- 守村慎次 (1995) 世界をリードする北欧の魚類養殖とその理念. 水産海洋研究, 59(1):34-37.
- 森永和彦 (1984) 地球に飢えはくるか. 水産振興, 18(10):1-27.
- 森岡泰啓 (1994) 黄海の有用水産資源の現状と資源培養. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集(I), pp.1-17.
- 森下日出旗・北野雅昭 (1994) 車えびの斃死における微生物学的検討. 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.269.
- 森田祥 (1981) 最近における水産物輸入の動向と問題点. 東海区水研. さかな, (26):161-168.
- 諸岡等 (1966) 活魚輸送. 水産研究叢書, (14):1-48.
- MOSS M.O. and J.E. SMITH (1984) *The applied mycology of Fusarium*. Cambridge University Press, Cambridge, 264pp.
- MOSS S.M., PRUDER G.D., LEBER K.M. and J.A. WYBAN (1992) The relative enhancement of *Penaeus vannamei* growth by selected fractions of shrimp pond water. *Aquaculture*, 101(3-4):229-239.
- Moss S.M. (1995) Production of growth-enhancing particles in a plastic-lined shrimp pond. *Aquaculture*, 132(3-4):253-260.
- MOURENTE G., MEDINA A., GONZALEZ S. and A. RODRIGUEZ (1995) Variations in lipid content and nutritional status during larval development of marine shrimp *Penaeus kerathurus*. *Aquaculture*, 130(2-3):187-199.
- MOTOH H. (1972) A faunal list of the macruran Decapoda from Nanao Bay. Ishikawa Prefecture, Middle Japan. *Bull. Ishikawa Pref. Mar. Cult. Sta.*, (2):29-83.
- MOTOH H. (1979) Preliminary study on the internal genital organ of the giant tiger prawn, *Penaeus monodon*. SEAFDEC, Quarterly Res. Rpt., 3(1):15-18.
- MOTOH H. (1979) Larvae of decapoda crustacea of the Philippines-III. Larval development of the giant tiger prawn, *Penaeus monodon*, reared in the laboratory. 日水誌, 45(10):1201-1216.
- 本尾洋・P. BURI (1980) ウシエビの外部生殖器の発達. 日水誌, 46(2):149-155.
- MOTOH H. (1981) Studies on the fisheries biology of the giant tiger prawn, *Penaeus monodon* in the Philippines. SEAFDEC Aqua. Dept. Tech. Rep., (7):1-128.
- MOTOH H. and P. BURI (1981) Identification of postlarvae of the genus *Penaeus* appearing in shore waters. *Res. Crust.*, (11):86-94.
- MOTOH H. and P. BURI (1984) Studies on the penaeoid prawns of the Philippines. *Res. Crust.*, (13/14):1-120.

- 本尾洋・小島純一 (1985) 千葉県大原港内出現するクルマエビ属ホストラバについて. 昭和 60 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.33.
- MOTOH H. and J.KOJIMA (1986) On postlarvae of the genus *Penaeus* appearing inside fishing port of Ohara. Chiba Pref.Res.Crust., (15):38-43.
- 本尾洋 (1988) 生態・成熟, 1.クルマエビ属. シンポジウム, エビ・カニ類の種苗生産. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.316.
- 本尾洋 (1988) 生態・成熟, クルマエビ属. 平野禮次郎編, エビ・カニ類の種苗生産. 水産学シリーズ, (71):9-27.
- 本尾洋 (1988) 活魚輸送および蓄養技術. 甲殻類の取り扱い技術. 養殖(臨時増刊), 25(13):142-146.
- 本尾洋 (1992) 養殖の現状と問題点. ウシエビ. 吉田陽一編, 東南アジアの水産増殖. 水産学シリーズ, (90):35-48.
- 元廣輝重 (1989) 魚貝類の着臭. 元廣輝重編, 魚貝類の生息環境と着臭. 水産学シリーズ, (77):9-18.
- MOUREAU C. and H.CECCALDI (1985) Variations circadiennes des acides amines libres de l'hémolymph de *Penaeus japonicus*. Biochem.Syst.Ecol., 13:35-40.
- MUNDAY B.L., and L.OWENS (1998) オーストラリアの海産養殖魚介類におけるウイルス病(英文). 魚病研究, 33(4):193-200.
- MUNOZ M., CODENO R., RODRIGUEZ J., van der KNAAP W.P.W., MIALHE E. and E.BACHERE (2000) Measurement of reactive oxygen intermediate production in haemocytes of the penaeid shrimp, *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 191(1-3):89-107.
- MUNRO J.L., JONES A.G. and D.DOMITORIOU (1968) Abundance and distribution of larvae of the pink shrimp (*Penaeus duorarum*) on the Tortugas Shelf of Florida, August 1963-October 1964. U.S.Fish.Wildl.Serv., Fish.Bull., 67(1):163-181.
- 村井武四 (1999) 日本における栽培漁業の現状と今後の方針. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):11-25.
- 村井吉敬 (1988) エビと日本人. 岩波書店. 岩波新書, 222 pp.
- 村井吉敬 (1992) エビの向こうにアジアが見える. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp. 3-18.
- 村井吉敬 (1992) 養殖エビの時代. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.19-39.
- 村井吉敬 (1992) オーストラリアの日本向けエビ輸出. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.217-231.
- 村上彰男 (1971) 瀬戸内海の海洋汚染と水産海洋. 水産海洋研究会報, (18):81-85.
- 村上彰男 (1972) 瀬戸内海の養殖漁場環境①. 養殖, 9(8):105-108.
- 村上彰男 (1972) 瀬戸内海の養殖漁場環境③. 養殖, 9(10):114-117.
- 村上彰男 (1975) 浅海における漁業生産と環境. 海洋環境の保全. 平野敏行編, 海洋生物資源環境. 東京大学出版会. 海洋学講座, (15):192-204.
- 村上子郎・真道重明・青山恒雄・真子渺・池田郁夫・大滝英夫 (1964) 東シナ海・黄海の底魚資源. 水産研究叢書, (3):1-57.
- MURAMOTO K., MATSUDA T., NAKADA K. and H.KAMIYA (1995) Occurrence of multiple lectins in the hemolymph of kuruma prawn *Penaeus japonicus*. Fish.Sci., 61(1):131-135.
- 村岡健作・小西光一 (1995) 日本産十脚甲殻類幼生の文献目録. エビ類. 海洋と生物, 17(3):259-262.
- 村田修・石丸克也 (2000) 海産魚類の養殖技術の現状と課題. 疾病. 熊井英水編, 海産魚の養殖. 湊文社, pp.48-49.
- 村田昌一 (2001) 流通技術. 水産物の調製. 食品総合研究所編, 食品大百科事典. 朝倉書店, pp.698-705.
- 室伏誠 (1987) エビ類の染色体数に見られる倍数性進化. 海洋と生物, 9(1):10-15.
- 室賀清邦・Leobert De La PENA・田牧孝浩・桃山和夫 (1991) クルマエビのビブリオ病原菌の性状. 平成3年度魚病学会春季大会講演要旨, p.6.
- 室賀清邦 (1992) クルマエビのビブリオ病. 2.病原菌の特性. 平成4年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.6.
- 室賀清邦 (1994) 増養殖-水族疾病. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):136-143.
- 室賀清邦 (1995) 種苗ベストガイド-総論. 仔稚魚期における魚病対策の現状と課題. 養殖, 32(2):51-54.
- 室賀清邦 (1995) 海産魚介類の仔稚におけるウイルス性および細菌性疾病. 魚病研究, 30(1):71-85.
- 室賀清邦・江草周三 (1996) 序論. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.1-8.
- 室賀清邦 (1996) 細菌病. 概説. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.46-47.
- 室賀清邦 (1996) 細菌病. 魚類病原細菌. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.47-51.
- 室賀清邦 (1996) 甲殻類等における細菌病. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.63-65.
- 室賀清邦 (1998) 海産無脊椎動物の種苗生産における疾病. 月刊海洋号外, (14):31-36.
- 室賀清邦 (1999) 種苗期の疾病の特徴. 日栽協シンポジウム, 飼育管理技術と疾病防除の今後の展開. 講演要旨集, pp.1-2.

- 室賀清邦 (2000) 疾病防除の面から見た放流用種苗生産のあり方(総説). 栽培技研, 28(1):39-45.
- MUROGA K. (2001) 日本の種苗生産施設における海産魚介類のウイルス病および細菌病(英文). Aquaculture, 202(1):23-44.
- MURPHY F.A., FAUQUET C.H., BISHOP H.L., GHABRIAL S.A., JAVIS A.W., MARTELLI G.P., MAYO M.A. and M.D.SUMMERS (1995) Virus Taxonomy. Classification and Nomenclature of Viruses. Sixth Report of the International Committee on Taxonomy of Viruses. Archives of Virology Supplement 10, Springer-Verlag Wein, USA, 586 pp.
- 虫明敬一・森広一郎・有元操・佐藤純・今泉圭之輔 (1998) クルマエビ種苗生産におけるPAV防除対策の現状. 平成10年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.1.
- 虫明敬一・有元操・佐藤純・森広一郎 (1998) 天然クルマエビ成体からのPRDVの検出. 魚病研究, 33(5):506-509.
- 虫明敬一・有元操・佐藤純・森広一郎・清水健・加地俊二・有本操・今泉圭之輔 (1998) 親エビ受精囊検査に基づくPAVの防除対策. 平成11年度魚病学会春季大会講演要旨, p.20.
- 虫明敬一・清水健・森広一郎・有元操・佐藤純 (1999) 親エビ受精囊のPRDVの存在量とPAV発生との関係. 平成11年度魚病学会春季大会講演要旨, p.20.
- 虫明敬一・有元操 (1998) クルマエビのPAVに関する防除対策. 月刊海洋号外, (14):186-188.
- MUSHIAKE K., SHIMIZU K., SATOH J., MORI K., ARIMOTO M., OHSUGI S. and K. IMAIZUMI (1999) Control of penaeid acute viremia (PAV) in *Penaeus japonicus*: Selection of eggs based on the PCR detection of the causative virus (PRDV) from receptaculum seminis of spawned broodstock. Fish Pathol., 34(4):203-207.
- MUTHU M.S. (1971) On some new records of penaeid prawns from the east coast of India. Indian J.Fish., (15):145-154.
- MUTHU M.S., PILLAI N.N. and K.V.GEORGE (1974) On the spawning and rearing of *Penaeus indicus* in the laboratory with a note on the eggs and larvae. Indian J.Fish., 21:571-574.
- MUTHU M.S. (1974) Specific identity of *Penaeus* postlarvae found in brackish water areas. Bull.Cont.Mar.Fish. Res.Inst.India, (28):86-90.
- MUTHU M.S. and A.LAXMINARAYANA (1979) Induced breeding of Indian white prawn *Penaeus indicus*. Mar.Fish.Infor.Ser. T & E Ser., No.9:61.
- MUTHU M.S. and A.LAXMINARAYANA (1980) Induced maturation and spawning of Indian penaeid prawns. Indian J.Fish., 24:172-180.
- MUTHU M.S. and H.MOTOH (1979) On a new species of *Penaeus* (Crustacea,Decapoda:Penaeidae) from North Borneo.Res.Crust., (9):64-70.

- 鍋島靖信 (1999) 底魚類資源調査. 平成 9 年度大阪水試事報, 82-88, 付表:(46)-(47).
- 鍋島靖信 (2000) 底魚類資源調査. 平成 10 年度大阪水試事報, 80-87, 付表:(46)-(47).
- 鍋島靖信 (2001) 東ジャワ州への水産技術指導派遣. 平成 11 年度大阪水試事報, 155-164.
- NADALA Jr E.C.B., LU J.Y., LOH P.C. and J.A.BROCK (1992) Infection of *Penaeus stylirostris* (BOONE) with a rhabdovirus isolated from *Penaeus* spp. Fish Pathol., 27(3):143-147.
- NADALA Jr E.C.B., LU J.Y., LOH P.C. and J.A.BROCK (1992) A Streptavidin-biotin-enhanced nitrocellulose immunoassay for the detection of rhabdovirus of penaeid shrimp from infected animals. J.Virological Methods, 39, 227-229.
- NADALA Jr E.C.B., TAPAY L.M., CAO S. and P.C.LOH (1997) Detection of yellowhead virus and Chinese baculovirus in penaeid shrimp by the Western blot technique. J.Viral Methods, (69):39-44.
- NADALA Jr E.C.B., TAPAY L.M. and P.C.LOH (1998) Characterization of a non-occluded baculovirus-like agent Pathlo-genic to penaeid shrimp. Dis.Aquat.Org., 33(3):221-229.
- NADALA Jr E.C.B., TAPAY L.M. and P.C.LOH (1998) A comparative study of three different isolates of white spot virus. Dis.Aquat.Org., 33(3):231-234.
- NADALA Jr E.C.B. and P.C.LOH (2000) Dot-blot nitrocellulose enzyme immunoassays for the detection of white-spot virus and yellow-head virus of penaeid shrimp. J.Viral Methods, (84):175-179.
- NAEGEL L. (1980) Status, Retentials and Problems of Mariculture in Costa Rica. Proc.World Maricul.Soc., 11: 570-576.
- NAESSENS E., WOUTERS R., COLO M.L., VARGAS V., PEDROZZOL A., Van HAUWAERT A. and P.LAVENS (1995) Effects of n-3 HUFA and DHA/EPA ratio in culture performance of *Penaeus vannamei*. Larvi'95-Fish and Shellfish Larvi-Culture Symposium, (24):213-216.
- NAESSENS E., LAVENS P., GOMEZ L., BROWDY C.L., McGOVERN-HOPKINS K., SPENCER A.W., KAWAHIGASHI D. and P.SORGELIOS (1997) Maturation performance of *Penaeus vannamei* co-fed *Artenia* biomass preparations. Aquaculture, 155(1-4):87-101.
- 長浜達章 (1990) 兵庫水試における細菌の甲殻類種苗生産事業結果の検討. クルマエビの産卵状況およびクルマエビ,ガザミ幼生の成長と水温の関係について(ノート). 兵庫水試研報, (27):55-63.
- 長浜達章 (1991) クルマエビの種苗生産. 瀬戸内海科学, 3(1):11.
- 長浜達章・中村行延 (1991) 瀬戸内海重要水族環境調査.漁況調査. 平成元年度兵庫水試事報, 21-37.
- 長浜達章・中村行延 (1992) 瀬戸内海重要水族環境調査.漁況調査. 平成 2 年度兵庫水試事報, 23-39.
- 長浜達章・中村行延 (1993) 瀬戸内海重要水族環境調査.漁況調査. 平成 3 年度兵庫水試事報, 21-38.
- 長浜達章・玉木哲也・中筋晴喜 (2000) 平成 10 年度明石地区大型魚礁設置前調査. 平成 10 年度兵庫水試事報, 38,185-187.
- 長浜達章・玉木哲也・中筋晴喜 (2001) 平成 10 年度明石地区大型魚礁効果調査 (マダイ幼稚魚胃内容物調査. 平成 12 年度兵庫水試事報, 36,169-170.
- 永井克宣・平田孝・足立亨介・藤澤諭・木下正人・坂口守彦 (1998) クルマエビフェノールオキシダーゼ活性の特性について. 平成 10 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集.
- 永井克宣・平田孝・足立亨介・坂口守彦 (1999) クルマエビプロフェノールオキシダーゼのクローニング. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.113.
- 永井達樹 (1989) クルマエビに想う. 南西水研ニュース, (42):2-6.
- 永井達樹 (1994) 瀬戸内海での持続的開発:漁業の立場から. 瀬戸内海科学, 6(2):154-157.
- 永井達樹 (1996) 持続可能な開発に向けて.望ましい漁業. 岡市友利・小森星児・中西弘編, 瀬戸内海の生物資源と環境 -その将来のために. 恒星社厚生閣, pp.83-95.
- 永井達樹 (1996) 維持したい環境. 望ましい漁業. 岡市友利・小森星児・中西弘編, 瀬戸内海の生物資源と環境-その将来のために. 恒星社厚生閣, pp.100-108.
- 永井達樹 (1996) クルマエビ-干潟と生産量再検討. 南西海ブロック魚礁研究会報, (14):13-51.
- 永井達樹 (1996) 持続可能な開発に向けて. 望ましい漁業. 岡市友利・小森星児・中西弘編, 瀬戸内海の生物資源と環境- その将来のために. 恒星社厚生閣, pp.83-95.
- 永井達樹 (1997) 沿岸漁業の生産構造-瀬戸内海. 月刊海洋, 29(9):536-540.
- 永井達樹 (1997) 沿岸生態系における漁業生産システムの解析-瀬戸内海. 日水誌, 63(5):794-795.
- 永井優・皆川哲夫・西尾康央・上根一洋 (1997) クルマエビ種苗生産事業. 平成 7 年度石川水産総合センター事報, 195-198.
- 永井優・皆川哲夫・西尾康央 (1998) クルマエビ種苗生産事業. 平成 8 年度石川水総セ事報, 180-183.
- 永松公明・久保田勝彦・田渕清春・巽重夫・鎌野忠・井上悟・梶川和武・藤石昭生 (1997) 分離漁獲装置付き2階式トロール網の分離効果. 水大校研報, 46(4):155-162.

- 永野彰・李寛正 (1985) ウシエビ眼柄の神経分泌に関する研究-I. ウシエビ眼柄の神経節構造. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.73.
- 長野泰三・坂本久 (1984) 種苗生産事業. 昭和 57 年度香川水試事報, 125-128.
- 長野泰三・坂本久 (1985) 種苗生産事業. 昭和 58 年度香川水試事報, 97-100.
- 長野泰三・坂本久 (1985) 種苗生産事業. 昭和 59 年度香川水試事報, 99-102.
- 長野泰三・棚野元秀 (1986) 種苗生産事業. 昭和 60 年度香川水試事報, 99-102.
- 長野泰三・棚野元秀 (1986) 量産技術開発事業.2.クルマエビ大型種苗生産試験. 昭和 60 年度香川水試事報, 99-102.
- 長野泰三・横川浩治 (1986) 種苗生産事業. 昭和 61 年度香川水試事報, 97-100.
- 長野泰三・越智洋雄・坂本久 (1988) 種苗生産事業. 昭和 62 年度香川水試事報, 161-164.
- 長野泰三・坂本久・越智洋雄 (1989) 種苗生産事業. 昭和 63 年度香川水試事報, 99-103.
- 長野泰三・安部昌明 (1990) 平成元年度魚病診断状況. 平成元年度香川水試事報, 57-62.
- 長野泰三・安部昌明 (1992) 平成 2 年度魚病診断状況. 平成 2 年度香川水試事報, 89-94.
- 長野泰三・三木勝洋 (1995) 平成 6 年度魚類防疫事業. 平成 6 年度香川水試事報, 60-66.
- 長野泰三・三木勝洋 (1996) 魚類防疫事業. 平成 7 年度香川水試事報, 71-77.
- 長野泰三・一色正・三木勝洋 (1998) 魚類防疫対策事業. 平成 8 年度香川水試事報, 75-80.
- 長野泰三・菊池博史・宮川昌志・一色正・三木勝洋 (1998) ウイルス病新疾病対策事業. 平成 8 年度香川水試事報, 142-144.
- 長野泰三・一色正 (1999) 魚類防疫対策事業. 平成 9 年度香川水試事報, 101-106.
- 長野泰三・菊池博史・一色正・三木勝洋 (1999) ウイルス病等新疾病対策事業. 平成 9 年度香川水試事報, 111-113.
- 長野泰三・一色正 (2001) 魚類防疫耐性整備推進事業. 平成 11 年度香川水試事報, 89-96.
- 長野泰三・一色正 (2001) ウイルス病等新疾病対策事業. 平成 11 年度香川水試事報, 97-99.
- 長尾成人 (1989) クルマエビ初期投与珪藻の代替飼料検討. 昭和 63 年度愛知裁協業報, 60-61.
- 永尾俊彦 (2001) 干潟の民主主義-三番瀬, 吉野川, そして諫早. 現代書館, 350 pp.
- 長岡順吉・田中和夫 (1962) 冷凍冷蔵学-改訂増補. 恒星社厚生閣.水産学全集, (7):1-458.
- 長崎福三 (1974) 資源の利用と涵養.西脇昌治編, 資源生物論. 東京大学出版会.海洋学講座, (13):195-207.
- 長崎福三 (1991) 資源管理型漁業-選択の漁業. 水産振興, 25(4):1-31.
- 長崎福三 (1994) 魚・肉と食文化. 水産振興, 27(12):1-29.
- 長崎福三 (1996) 海と魚の管理-200 海里体制下の新秩序づくり. 水産振興, 30(4):1-35.
- 長崎福三 (1999) 生物体系の利用について-資源管理型漁業の視点. 水産振興, 33(4):1-45.
- 長崎県漁業公社 (1999) 平成 9 年度種苗供給実績. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 7.
- 長崎県漁業公社 (1999) 平成 10 年度種苗供給実績. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 8.
- 長崎県漁業公社 (1999) 受託事業の年度別放流種苗供給実績. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 199.
- 長崎県漁業公社 (1999) 平成 9 年度放流種苗供給実績(供給先別). 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 200.
- 長崎県漁業公社 (1999) 平成 10 年度放流種苗供給実績(供給先別). 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 200.
- 長崎県漁業公社 (2000) 平成 11 年度種苗供給実績. 平成 11 年度長崎漁業公社事報, 6.
- 長崎県漁業公社 (2000) 単独事業の年度別種苗供給実績. 平成 11 年度長崎漁業公社事報, 101.
- 長崎県漁業公社 (2000) 受託事業の年度別放流種苗供給実績. 平成 11 年度長崎漁業公社事報, 102.
- 長崎県漁業公社 (2000) 平成 11 年度受託放流種苗供給実績(供給先別). 平成 11 年度長崎漁業公社事報, 103.
- 長崎県西彼町漁業協同組合 (1987) クルマエビ,ヨシエビの中間育成を実施して. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 1 分冊,236-237.
- 長崎県総合水産試験場 (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (17):52-55.
- 長崎県水産開発協会 (1981) クルマエビ種苗放流効果調査報告書, 1-14.
- 長崎県水産試験場 (1963) 橘湾における底びき網漁業の漁場調査.***.
- 長崎県水産試験場 (1984) 昭和 58 年度栽培漁業効果調査報告書. 長崎水試登録, (501):11-20.
- 長崎県水産試験場 (1985) 栽培漁業効果調査.クルマエビ. 昭和 59 年度長崎水試事報, 33-45.
- 長崎県水産試験場 (1990) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (9):47-51.
- 長崎県水産試験場 (1993) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (12):50-51.
- 長崎県水産試験場 (1994) 平成 4 年度甲殻類栽培資源管理手法開発調査総合報告書, 長 1-長 21.
- 長崎県水産試験場 (1994) 各県調査結果の要約. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 9-10.
- 長崎県水産試験場 (1994) 各県調査結果の報告. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 長 1-長 18.
- 長崎県水産試験場 (1995) 平成 5 年度甲殻類栽培資源管理手法開発調査総合報告書, 長 1-長 18.
- 長崎県水産試験場 (1995) 平成 6 年度重要甲殻類栽培管理手法開発調査報告書, 長 1-長 24.

- 長崎県水産試験場 (1995) 各県調査結果の要約. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 2 pp.
- 長崎県水産試験場 (1995) 各県調査結果の報告. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 長 1-長 24.
- 長崎県水産試験場・福岡県水産海洋技術センター有明研究所・佐賀県有明水産振興センター・熊本県水産研究センター (1995) 有明 4 県調査結果の報告. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 有 1-有 34.
- 長崎県水産試験場 (1996) 平成 7 年度重要甲殻類栽培管理手法開発調査報告書(エビグループ), 長 1-長 15.
- 長崎県水産試験場 (1996) 各県調査結果の要約. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 2 pp.
- 長崎県水産試験場 (1996) 各県調査結果の報告. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 長 1-長 15.
- 長崎県水産試験場・福岡県水産海洋技術センター有明研究所・佐賀県有明水産振興センター・熊本県水産研究センター (1996) 有明 4 県調査結果の要約. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 4 pp.
- 長崎県水産試験場 (1997) 各県調査結果の報告. 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 長 1-長 15.
- 長崎県水産試験場・福岡県水産海洋技術センター有明研究所・佐賀県有明水産振興センター・熊本県水産研究センター (1997) 有明 4 県調査結果の報告. 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 有 1-有 31.
- 長崎県水産試験場 (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):49-51.
- 長崎県水産試験場 (1997) 平成 4~8 年度各府県調査結果の総括報告. 平成 8 年度及び平成 4~8 年度(総括)重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 長 16-長 29.
- 長崎県水産試験場・福岡県水産海洋技術センター有明研究所・佐賀県有明水産振興センター・熊本県水産研究センター (1997) 平成 4~8 年度書く府県調査結果の総括報告. 平成 8 年度および平成 4~8 年度(総括)重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 有 1-有 24.
- 長崎県水産試験場島原分場 (1981) 種苗放流実績. 昭和 54 年度長崎水試事報, 284.
- 長崎県水産試験場島原分場 (1982) 種苗放流実績. 昭和 55 年度長崎水試事報, 324.
- 長崎県水産試験場島原分場 (1983) 種苗放流実績. 昭和 56 年度長崎水試事報, 247.
- 長崎市水産センター・養殖編集部 (2001) 病気に打ち勝つ種苗生産. 養殖, 38(4):86-89.
- NAGASAWA H., YONG W.J., AIDA K. and H. SONOBE (1999) Chemical and biological characterization of neuropeptides in the sinus glands of the kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. SHIMONISHI Y. ed., Peptide Science—Present and Future. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, pp.453-454.
- 長澤和也 (1993) 水産資源解析の最新動向.(5). 寄生虫を利用した水産資源研究. 水産の研究, 12(6):38-45.
- 長澤和也 (2001) 魚介類に寄生する生物. 成山堂書店, 186 pp.
- 長田博光 (1966) 水産物の有機酸に関する研究-I. 水産物の有機酸の分布について. 東洋食品研報, (6):271-274.
- 永田樹三・久岡実・山田久 (1973) 秋穂実証実験漁場-クルマエビ餌料環境. 昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):66-70.
- 永田樹三・山田久 (1973) 秋穂実証実験漁場-クルマエビ餌料環境. 昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):159-160.
- 永田樹三 (1973) 資源・海洋研究と栽培漁業の接点.4.クルマエビ放流漁場の餌料環境について. 第 11 回シンポ, 栽培漁業における資源・海洋研究の役割. 漁業資源研究会議報, (15):109-116.
- 長田正男・谷崎正生・中沢毅一 (1931) 熊本県産車蝦ニ関スル調査研究(第一報). 熊本水試, 28 pp.
- 長田泰洋・猪又博 (1991) 浅海増養殖技術開発研究.3.酸処理剤の水産動物に対する影響試験. 平成元年度大分浅海漁試事報, 9-18.
- NAGATA W.D. and H. HIRATA (1986) Mariculture in Japan: Past, present and future prospectives. Min. Rev. Data File Fish. Res., (4):1-38.
- 永友聖代・大木雅彦 (2000) 水産用水等臨時分析状況. 平成 10 年度宮崎水試事報, 155-156.
- 永山文男 (1994) エビの化学. 東京水大第 9 回公開講座編集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.158-183.
- 内海区水産研究所 (1965) 瀬戸内海資源. 漁業資源研究会議報, (3):73-80.
- 内海区水産研究所 (1966) 瀬戸内海資源. 漁業資源研究会議報, (6):61-64.
- 内藤一郎・上田和夫 (1972) 瀬戸内海における水産業の展開. 漁業資源研究会議報, (13):35-45.
- 内藤一郎・外間源治・石岡清英 (1975) エビ類の漁獲量変動. 昭和49年度農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究, 260-264.

- 中畑勝見 (1994) 地域重要資源調査 (クルマエビ). 平成 5 年度三重水技事報, 154-155.
- 中畑勝見・溝口孝司 (1995) 地域重要資源調査 (クルマエビ). 平成 6 年度三重水技事報, 160-161.
- 中川平介 (1978) カロテノプロテイン. 日本水産学会編, 水産動物のカロテノイド. 水産学シリーズ, (25):90-107.
- 中川平介 (1993) 海洋生物資源の培養. 角田俊平・佐藤清隆・藤田耕之輔・室賀清邦編, 生物生産学のプロローグ. 共立出版, pp.39-45.
- 中川平介 (1994) 増養殖-養魚飼料. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):131-136.
- 中川浩一・桑村勝士 (1996) 資源管理型漁業推進総合対策事業-重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 7 年度福岡水技事報, 321-322.
- 中川浩一・池浦繁 (1998) 我が国周辺海域漁業資源調査. 1.標本船調査および関連調査. 平成 8 年度福岡水技事報, 279-280.
- 中川浩一・桑村勝士・池浦繁 (1998) 沖合漁場造成技術開発事業. 平成 8 年度福岡水技事報, 324-329.
- 中川浩一・江藤拓也 (2000) 豊前海区における小型底びき網漁業者の操業実態. 福岡水技研報, (10):75-78.
- 中川浩一・江藤拓也 (2000) 複合的資源管理型漁業促進対策事業. 3.小型底びき網漁業の操業実態調査. 平成 10 年度福岡水技事報, 284-287.
- 中川孝之・永山文男 (1994) 化学-酵素. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):306-314.
- 中川豊・藤原進・小金丸隆・神田美喜夫・大江庄三・那須司・水野次彦・児玉康則・中原昭典・船ヶ山久利・山田卓郎 (1984) クルマエビ育成放流. 昭和 57 年度宮崎水試事報, 183-184.
- 中川豊・年見博孝・小金丸隆・神田美喜夫・古土井成徳・那須司・水野次彦・東明浩・大木雅彦・船ヶ山久利・山田卓郎 (1985) クルマエビ育成放流事業. 昭和 58 年度宮崎水試事報, 205-206.
- 中川豊・外山秀樹 (1993) クルマエビ種苗生産 (平成元年度). 平成元年度～3 年度宮崎栽セ要約・資料集, 18-21.
- 中川征章・村松高明・上村信夫 (1976) 浜名湖保護水面調査. 昭和 50 年度静岡水試事報, 243-244.
- 中川征章・上村信夫・近藤優 (1976) 産卵親クルマエビの分布生態調査. 昭和 50 年度静岡水試事報, 245-246.
- 中川征章・村松高明・上村信夫 (1977) 浜名湖保護水面調査. 昭和 51 年度静岡水試事報, 288-290.
- 中川征章・細倉定和 (1978) マツクイムシ薬剤防除による環境影響調査. 昭和 52 年度静岡水試事報, 299.
- 中川征章・渡修明 (1978) ベンチオカーブのクルマエビに対する毒性試験. 昭和 52 年度静岡水試事報, 299-300.
- 中川征章 (1995) 浜名湖の漁業の現状と将来. 水産海洋研究, 59(2):183-186.
- 中井昭 (1977) 独占資本漁業の成長と資本の展開. 漁業経済研究, 23(2):35-58.
- 中井昭 (1987) 200 海里時代における南方トロール漁業の対応. 漁業経済研究, 32(1・2):42-61.
- 中井昭 (1994) エビの消費と流通. 東京水大第 9 回公開講座編集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.215-235.
- 中井昊三 (1986) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和 59 年度兵庫水試事報, 156-175.
- 中井昊三・島本信夫 (1986) 関西国際空港漁業影響調査. 漁場班調査. 昭和 59 年度兵庫水試事報, 263.
- 中井裕 (1995) 水産物市場の構造と動態変化. 漁業経済研究, 40(2):1-14.
- 中居裕 (1996) 水産物市場と産地の機能展開. 成山堂書店, 208 pp.
- 中井甚二郎・小坂昌也・久保田正・小椋将弘 (1967) 底生生物の生産と海底面の安定性との相互関係-I. 冬季の性状. 東海大紀要. 海洋学部, (2):161-177.
- NAKAI T., NISHIMURA Y and K.MUROGA (1997) Detection of *Vireo penaeicida* from apparently healthy kuruma prawns by RT-PCR. Bull.Eur.Ass.Fish Pathol., 17:131-133.
- 中嶋博司 (1983) クルマエビ放流技術開発調査(抄録). 昭和 56 年度三重浜島水試年報, 175-176.
- 中嶋博司 (1984) 昭和 57 年度クルマエビ放流技術開発調査. 昭和 57 年度三重浜島水試年報, 103-144.
- 中嶋博司 (1985) 昭和 58 年度クルマエビ放流技術開発調査. 昭和 58 年度三重水技セ事報, 104-163.
- 中嶋博司 (1986) 標識実験からみたクルマエビの越冬期中の自然死亡. 日水誌, 52(10):1759-1764.
- 中島謙二 (1994) 含硫化合物. 原田勝彦編, 魚介類の摂餌刺激物質. 水産学シリーズ, (101):66-76.
- 中島満 (1995) 最新・インドのブラックタイガー養殖事情①. 過熱するエビブームの背景. 養殖, 32(1):80-83.
- 中島満 (1995) 最新・インドのブラックタイガー養殖事情②. 種苗供給動向と地域別の生産動向. 養殖, 32(2):116-119.
- 中島則之 (1998) コウライエビ人工種苗の生残に及ぼす塩分の影響. 佐賀有明水試研報, (18):25-26.
- 中島則之・皆川恵・伊藤史郎 (1999) 有明海湾奥部に放流されたコウライエビ人工種苗の産卵(予報). 佐賀有明水試研報, (19):45-46.
- 中島信次 (1967) クルマエビ種苗の越冬飼育試験(昭和 40 年度). 昭和 41 年度熊本水試事報, p.313.
- 中島信次・平田満・吉本義則・出口伊太郎・古閑保徳・千々波定雄 (1967) クルマエビ種苗生産事業(昭和 40 年度). 昭和 41 年度熊本水試事報, 311-313.
- 中島信次・中村郁也・平田満・吉本義則・出口伊太郎・古閑保徳・千々波定雄 (1967) クルマエビ種苗生産事業(昭和 41 年度). 昭和 41 年度熊本水試事報, 314-315.
- 中島信次・中村郁也・平田満・吉本義則・出口伊太郎・古閑保徳・大久保市次・千々波定雄 (1968) クルマエビ種苗生産供給事業. 昭和 42 年度熊本水試事報, 250-253.

- 中島信次 (1987) 不知火海におけるコウライエビの放流調査について. さいばい, (44):24-27.
- 中嶋康裕 (1987) 甲殻類の性転換-ムラサキヤドリエビを中心に. 中園明信・桑村哲生編, 魚類の性転換. 東海大学出版会, pp.221-248.
- 中路実 (1982) 「科学する漁業者」の復興を. 漁村, 48(7):38-41.
- 中路実 (1983) クルマエビ. 京都府栗田湾における種苗放流事業. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 社団法人資源協会, pp.253-268.
- 中路実 (1983) クルマエビの栽培漁業について -宮津市栗田湾での事例. 西日本漁業経済論集, (24):161-174.
- 中路実 (1986) 京都府栗田湾. 倉田博編, クルマエビさいばい漁業の手引き. 日裁協.さいばい叢書, (1):222-250.
- 中本幸一・五利江重昭 (1986) 海産魚類における魚病発生状況-I. 昭和 59 年度兵庫水試事報, 442-445.
- 中本幸一・反田實・五利江重昭 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業総合モデル調査. 平成 8 年度兵庫水試事報, 52-53.
- 中本幸一・反田實 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業総合モデル事業. 平成 9 年度兵庫水試事報, 42.
- 中村彰男 (1988) 指導事業(増養殖指導)報告(1). 昭和 61 年度秋田水産振興セ事報, 24-31.
- 中村彰男 (1988) クルマエビ中間育成について. 昭和 61 年度秋田水産振興セ事報, 24-31.
- 中村郁也 (1967) クルマエビ放流試験について. 昭和 41 年度熊本水試事報, 315-317.
- 中村郁也 (1967) クルマエビ小割養殖試験について. 昭和 41 年度熊本水試事報, 317-319.
- 中村郁也・田畑重行・久富敏 (1968) 小割方式によるクルマエビ養殖試験. 昭和 42 年度熊本水試事報, 265-268.
- 中村郁也・平田満・吉本義則・大久保市次・千々波定雄・古閑保徳・中島信次 (1969) クルマエビ種苗生産供給事業. 昭和 43 年度熊本水試事報, 337-339.
- 中村薫 (1974) クルマエビの神経分泌に関する研究-I. 食道上および眼柄内神経節に分布する神経細胞集団の位置的関係. 鹿大水産紀要, (23):173-184.
- 中村薫 (1974) クルマエビの神経分泌に関する研究-II. PAS 陽性物質の組織化学的検討および VP 神経節細胞集団のポトグラフィー. 鹿大水産紀要, (23):185-193.
- 中村薫 (1974) クルマエビの神経分泌に関する研究-III. 環境条件と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (23):195-200.
- 中村薫 (1974) クルマエビの神経分泌に関する研究-IV. 脱皮周期,両眼柄結紮条件および無給餌条件等と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (23):201-207.
- 中村薫 (1975) クルマエビの神経分泌に関する研究-V. 摂餌・運動器官の損傷手術と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (24):13-17.
- 中村薫(1975) クルマエビの神経分泌に関する研究-VI. 体重,性別および触角の長さ等と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (24):19-23.
- 中村薫 (1975) クルマエビの神経分泌に関する研究-VII. 生殖腺熟度,中腸腺重量等と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (24):25-31.
- 中村薫 (1975) クルマエビの神経分泌に関する研究-VIII. 血リンパ性状ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (24):33-42.
- 中村薫 (1975) クルマエビの神経分泌に関する研究-IX. 溶存酸素と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, (24):43-46.
- 中村薫 (1976) クルマエビの神経分泌に関する研究-X. 心搏および顎舟葉 Ventilation と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, 25(1):19-26.
- 中村薫 (1976) クルマエビの神経分泌に関する研究-XI. SDHase 等の酸素活性と PAS 陽性物質ととの相関性の検討. 鹿大水産紀要, 25(2):19-26.
- 中村薫 (1978) クルマエビの神経分泌に関する研究-XII. PAS 細胞の微細構造. 鹿大水産紀要, 27(1):1-7.
- 中村薫 (1978) クルマエビの神経顆粒に関する研究-I. 食道上神経節における VP 細胞集団の軸索連絡. 鹿大水産紀要, 27(1):9-17.
- 中村薫 (1978) クルマエビの神経顆粒に関する研究-II. *in vitro* 条件による食道上神経節の呼吸代謝量の測定. 鹿大水産紀要, 27(1):19-27.
- 中村薫 (1980) クルマエビ上科の食道上神経節細胞における PAS 陽性顆粒状物質の検索. 鹿大水産紀要, (29):239-242.
- 中村薫 (1980) クルマエビの食道上神経節における neuropile の組織編成について(英文). 鹿大水産紀要, (29):243-246.
- 中村薫・小野晴哉 (1980) クルマエビとフナムシの心臓に関する比較解剖学的研究(英文). 鹿大水産紀要, (29):247-257.
- 中村薫・米倉権一郎 (1980) クルマエビの中腸腺に関する解剖学的研究(英文). 鹿大水産紀要, (29):259-266.
- 中村薫 (1981) クルマエビの神経顆粒に関する研究-III. VP 細胞集団と近傍神経節との軸索連絡. 鹿大水産紀要, (30):263-270.
- 中村薫・冷水幸二 (1981) クルマエビの鰓構造に関する解剖学的研究(英文). 鹿大水産紀要, (30):277-288.

- 中村薫 (1983) クルマエビの神経顆粒に関する研究-IV. 食道上神経節より派生する神経のニューロン細胞体の同定. 鹿大水産紀要, (32):71-80.
- 中村薫 (1983) クルマエビの食道下神経節より派生する中腸腺運動性ニューロンの同定(英文). 日水誌, 49(11):1669-1672.
- 中村薫・杉原芳朗 (1983) クルマエビの大顎に関する形態学的研究(英文). 鹿大水産紀要, (32):81-89.
- 中村薫 (1986) クルマエビの血リンパに推定される満腹物質(英文). 鹿大水産紀要, 35(1):1-6.
- 中村薫 (1986) クルマエビの摂餌に関する生理学的研究. 東京大学学位論文, 268 pp.
- NAKAMURA K. (1986) Satiety substance supposed in the hemolymph of the prawn *Penaeus japonicus*. Mem.Fac.Fish.Kagoshima Univ., (35):1-6.
- 中村薫 (1987) クルマエビの幼生期における中腸腺の器官形成に関する組織学的観察. 健苗育成技術開発委託事業報告書, 1-12.
- 中村薫 (1987) クルマエビ摂餌時の化学的受容の特性(英文). 鹿大水産紀要, 36(1):201-205.
- 中村薫 (1987) クルマエビの中腸腺盲管細胞の分類(英文). 鹿大水産紀要, 36(1):207-213.
- 中村薫 (1987) クルマエビ幼生のリンパ様器官とその発達過程の特性(英文). 鹿大水産紀要, 36(1):215-220.
- 中村薫 (1987) クルマエビ中腸腺の器官形成(英文). 鹿大水産紀要, 36(1):221-225.
- NAKAMURA K. (1987) Biological clock supposed to be in the optic ganglion of the prawn. 日水誌, 53(5):727-731.
- 中村薫 (1988) クルマエビの脱皮周期と卵巣発達に及ぼす光周期の影響(英文). 鹿大水産紀要, (37):135-139.
- 中村薫 (1988) クルマエビ眼柄内神経節における卵巣発達の制御個所(英文). 鹿大水産紀要, (37):141-145.
- 中村薫 (1988) 甲殻類の日周活動-特にクルマエビの摂餌活動.羽生功・田畑満生編, 水産動物の日周活動. 水産学シリーズ, (69):21-34.
- 中村薫 (1989) 甲殻類の成熟, 発生, 成長とその制御. 隆島史夫・羽生功編, 水族繁殖学. 緑書房. 水産養殖学講座, (4):291-323.
- 中村薫・I. ECHAVARRIA (1989) クルマエビにおける摂餌リズムの人為的調節(英文). 日水誌, 55(2):215-219.
- 中村薫 (1989) Microvilli pattern of midgut gland cells in the prawn *Penaeus japonicus*. 日水誌, 55(8):1325-2329.
- 中村薫・奥村卓二・会田勝美 (1991) クルマエビにおけるY器官の同定(英文). 日水誌, 57(8):1463-1468.
- 中村薫・西垣幸則 (1991) クルマエビの触覚腺の構造(英文). 日水誌, 57(10):1859-1863.
- 中村薫 (1992) クルマエビにおける生殖器官と造雄線の分化(英文). 鹿大水産紀要, (41):87-94.
- 中村薫 (1992) クルマエビの腹部筋肉の構造(英文). 日水誌, 58(8):1443-1446.
- 中村薫・片島信久 (1992) クルマエビの触覚腺の体腔裏の形態(英文・短報). 日水誌, 58(12):1551.
- 中村薫・松崎憲和・米倉権一郎 (1992) クルマエビの生殖器官の造雄腺の器官形成(英文). 日水誌, 58(12):2261-2267.
- NAKAMURA K. (1994) Respiration of the Kurumaebi prawn in air condition. Fish.Sci., 60(5):621-622.
- 中村薫 (1996) 生理学-呼吸-浸透圧調節. 橋高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.33-48.
- 中村薫 (1996) 生理学-成熟機序. 橋高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.115-135.
- 中村勝雄 (1982) 大型種苗によるクルマエビの放流効果事例. さいばい, (22):25-28.
- 中村一彦・川村芳浩・山本強・杉野雅彦・柴田忠士 (1987) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 60 年度兵庫水試事報, 213-220.
- 中村一彦・川村芳浩・山本強・杉野雅彦・柴田忠士 (1987) クルマエビ・ガザミ種苗生産期の餌料生産(クロレラ・ワムシ)について. 昭和 60 年度兵庫水試事報, 226-228.
- 中村和夫 (1973) 吉野川々口外域漁場の有用エビ類について. 南西海区ブロック外海外漁業研究会議事録, 7.
- 中村和夫 (1974) 徳島県出島地先海域の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 1-10.
- 中村和夫・小竹子之助・日野淑美・秋月友治・谷本尚則 (1977) 甲殻類の種苗生産(クルマエビ). 昭和 37-39 年度追補徳島水試事報, 147-148.
- 中村和夫・小竹子之助・日野淑美・秋月友治・谷本尚則・土肥和一・荒木茂・松岡正義・小笹治男・渡辺忠美 (1977) クルマエビ中間育成. 昭和 37-39 年度追補徳島水試事報, 149.
- 中村和夫・土肥和一・日野淑美・秋月友治・谷本尚則・松岡正義・小笹治男・荒木茂 (1977) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 37-39 年度追補徳島水試事報, 150-151.
- 中村和夫・殿谷二郎・蒲口喜博・岩見茂・浜誠和・井元栄治・渡辺健一 (1980) 昭和 53 年度 200 カイリ水域内漁業資源調査事業. 昭和 40~53 年度追補徳島水試事報, 185-186.
- 中村光治・石田雅俊 (1985) クルマエビ稚仔の中間育成用囲網からの逸散及び歩脚, 遊泳脚障害の回復について. 昭和 58 年度福岡豊前水試研業報, 147-152.
- 中村邦典・石川宣次 (1985) 酵素法によるK値の測定について. 東海区水研研報, (118):39-43.
- 中村邦典・石川宣次 (1986) 貯蔵中のクルマエビの鮮度変化. 東海区水研研報, (120):69-72.

- 中村正人 (1981) 沖縄のクルマエビ養殖技術とその問題点. 養殖, 18(2):80-86.
- 中村雅人 (1966) クルマエビ生簀養殖基礎試験(第1報). 昭和40年度愛媛水試事報, 111-116.
- 中村雅人 (1967) クルマエビ生簀養殖基礎試験(第2報). 昭和41年度愛媛水試事報, 204-208.
- 中村雅人 (1967) 放流用クルマエビ中間育成事業. 昭和41年度愛媛水試事報, 208-216.
- 中村雅人 (1968) クルマエビ簡易生簀養殖基礎試験. 昭和42年度愛媛水試事報, 198-205.
- 中村雅人 (1968) 放流用クルマエビ中間育成事業. 昭和42年度愛媛水試事報, 206-215.
- 中村雅人 (1968) 水産業改良普及事業. 昭和42年度愛媛水試事報, 265-266.
- 中村雅人 (1969) クルマエビ簡易生簀基礎試験. 昭和43年度愛媛水試事報, 135-143.
- 中村雅人・片岡憲治 (1969) 放流用クルマエビ中間育成事業. 昭和43年度愛媛水試事報, 215-221.
- 中村雅人 (1969) 網生簀によるクルマエビ養殖. 養殖, 6(3):41-43.
- 中村雅人 (1970) クルマエビ簡易生簀養殖(第5報). 昭和44年度愛媛水試事報, 168-171.
- 中村雅人 (1970) 水産業改良普及員活動実績. 昭和44年度愛媛水試事報, 262-263.
- 中村雅人 (1970) クルマエビの生簀養殖について. 水産増殖, 17(3):97-99.
- 中村充・上北征男・飯倉敏弘・木村晴保・乃万俊文・萩野静也・大西亮一・杉浦正悟 (1976) クルマエビ放流中間育成のための人工干潟に関する研究. 農業土木試報, (14):223-337.
- 中村充・上北征男・萩野静也・飯倉敏弘・木村晴保・杉浦正悟・植田昌明・大西亮一 (1972) クルマエビ成育環境分析について. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘周辺実証漁場), (2):105-120.
- 中村充・上北征男 (1973) クルマエビ栽培環境分析. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究(備後灘周辺実証漁場), (3):161-171.
- 中村充・上北征男・乃万俊夫・木村晴保・萩野静也・飯沼敏弘・大西良一・杉浦正悟 (1975) 秋穂実証漁場-人工干潟環境と種苗の減耗. 昭和49年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):118-129.
- 中村充 (1988) 水産工学技術の展望. 日比谷京・田中昌一・若林久嗣編, 21世紀に向けての沿岸水産資源の開発. 恒星社厚生閣, pp.37-52.
- 中村充 (1995) 海の生態系と食糧・環境-沿岸漁場整備開発事業の役割. 水産振興, 29(10):1-75.
- 中村充 (2001) 海の環境と漁業. 水産振興, 35(3):1-70.
- 中村中六・遠藤拓郎・笠原正五郎・角田俊平・高橋正雄・室賀清邦 (1978) 児島湾漁業実態調査報告書, 1-134, 別表, 1-17.
- 中村尚司 (1992) 冷凍エビをめぐるインド漁民と日本人. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.126-149.
- 中村利一 (1983) 健康食品の現状と問題点. 養殖, 20(1):80-55.
- 中村哲也・杉田浩 (1993) クルマエビ種苗生産(平成3年度). 平成元年度~3年度宮崎栽セ要約・資料集, 139-140.
- 中村富夫・海幸丸乗組員 (1980) 源式網漁具の改良試験. 昭和54年度愛知水試業報, 20-22.
- 中村富夫・海幸丸乗組員 (1981) 源式網漁具の改良試験. 昭和55年度愛知水試業報, 28-30.
- 中村行延・反田實・岡本繁好 (1990) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和63年度兵庫水試事報, 21-38.
- 中牟田弘典 (1995) コウライエビの養成試験(概報). 平成5・6年度佐賀栽セ事報, 46-49.
- 中西孝・輿石裕一・田中邦三・赤嶺達郎 (1982) クルマエビ種苗の放流直後の減耗-I. 同時に投入した冷凍アミとの分散の比較. 日本海区水研報告, (33):95-104.
- 中西孝 (1987) 小型水槽内におけるクルマエビ稚仔の分布. 昭和62年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.127.
- 中野平二・河邊博・小山長久 (1992) 魚病等実態把握指導等事業. 平成3年度熊本水研事報, 61-63.
- 中野平二・河邊博・木村武志 (1993) 魚病等実態把握指導等事業. 平成4年度熊本水研事報, 69-72.
- 中野平二・木村武志・小山長久 (1994) 魚病対策試験I. クルマエビのウイルス対策試験. 平成5年度熊本水研事報, 72-73.
- 中野平二・河邊博・梅沢敏・桃山和夫・平岡三登里・井上潔・大迫典久 (1994) 1993年に西日本で発生した養殖クルマエビの大量死, 発生状況および感染実験. 魚病研究, 29(2):135-139.
- 中野平二 (1994) クルマエビの新しいウイルス(RV-PJ)感染症. 養殖, 31(10):39.
- 中野平二 (1995) 熊本県におけるクルマエビの疾病発生状況とその対応. 養殖, 32(8):114-117.
- 中野平二・鮫島守・藤田忠勝 (1996) 養殖クルマエビ・ウイルス疾病対策試験(適正養殖方法の検討のための養殖試験). 平成7年度熊本水研事報, 76-78.
- 中野平二・鮫島守 (1996) 養殖クルマエビ・ウイルス疾病対策試験(各種消毒剤によるPRDVの不活化). 平成7年度熊本水研事報, 79-80.
- 中野平二・河邊博・梅沢敏・桃山和夫・平岡三登里・井上潔・大迫典久 (1996) 1993年に西日本で発生した養殖クルマエビの大量死:発生状況および感染実験(抄録). 山口内海水試報, (25):128.
- 中野平二 (1996) 養殖魚のウイルス病対策(下). クルマエビ. 養殖, 33(7):68-70.
- 中野平二・鮫島守・平岡三登里・桃山和夫 (1997) PRDVの物理・化学的不活化. 平成9年度魚病学会春季大会講演要旨, p.18.

- NAKANO H. (1997) Outbreaks and epidemiology of penaeid acute viremia(PAV). INUI Y.ed., New Approaches to the Viral Diseases of Aquatic Animals. NRA International Workshop. Nansei Res.Inst.Aquacult., pp.229-231.
- 中野平二・鮫島守 (1998) 海外悪性伝染病影響評価シュミレーション作成事業. 平成 9 年度熊本水研事報, 62-64.
- 中野平二・平岡三登里・鮫島守・木村武志・桃山和夫 (1998) クルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の原因ウイルス PRDV の不活化条件. 魚病研究, 33(2):65-71.
- 中野平二・石田宏一・鮫島守 (1999) 海外悪性伝染病影響評価シュミレーション作成事業. 平成 10 年度熊本水研事報, 52-54.
- 中野平二 (2000) 養殖クルマエビの PAV. 海洋と生物, 22(1):45-50.
- 中野広 (1989) 種苗の質とその評価法⑦. 種苗の評価法-III. クルマエビなどの生態的特性による判定. 養殖, 26(12):80-83.
- 中野幹太・田原大輔・宮台俊明・矢野勲 (2000) クルマエビ (*Penaeus japonicus*) ビテリンの精製及び抗血清の作成について. 平成 12 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.24.
- 中野幹太・田原大輔・矢野勲 (2001) クルマエビビテリン(Vn)の精製とその性状について. 平成 13 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.69.
- 仲野達也・中井昊三・柄多哲・武田雷介 (1984) クルマエビ中間育成の再検討について-1. 小割網によるクルマエビの中間育成試験(特に投餌回数, 収容密度の検討). 昭和 57 年度兵庫水試事報, 362-373.
- 仲野達也・中井昊三・柄多哲・武田雷介 (1984) クルマエビ中間育成の再検討について-2. 種苗の大型化に関する二・三の試験. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 373-378.
- 仲野達也・中井昊三・柄多哲・武田雷介 (1984) クルマエビ中間育成の再検討について-3. 中間育成におけるクルマエビの歩脚の傷害と潜砂に関する影響. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 379-385.
- 仲野達也・中井昊三・真鍋武彦・島本信夫 (1984) クルマエビ中間育成の再検討について-4. 中間育成されたクルマエビの形態について. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 385-389.
- 仲野達也・中井昊三・柄多哲・武田雷介 (1984) クルマエビ中間育成の再検討について-5. クルマエビ種苗の大きさと脱出網目の関係. 昭和 57 年度兵庫水試事報, 389-391.
- 中西孝・輿石裕一・田中邦三・赤嶺達郎 (1982) クルマエビ種苗の放流直後の減耗-I. 同時に投入した冷凍アミとの分散の比較. 日本海区水研研報, (33):95-104.
- 中里靖・新川俊一 (2000) 持続的養殖生産確保法について. 水産振興, 34(1):1-54.
- 中田誠 (2001) 世界の養殖生産と飼料の動き. 養殖, 38(9):66-69.
- 中田尚宏 (1988) 横浜・川崎沖の底生性魚類, 甲殻類, 軟体類の分布. 神奈川水試研報, (9):67-74.
- 中谷隆之 (1968) 内湾漁況調査. 昭和 42 年度熊本水試事報, 1-29.
- 中山博文 (1983) つくる漁業の現状. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.6-15.
- 中山博文 (1983) つくる漁業の指向と問題点. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.16-19.
- 中山寛 (1994) 養魚飼料の現状と課題. 渡邊武編, 新しい養魚飼料-代替タンパク質の利用. 水産学シリーズ, (102):11-22.
- NAKAYAMA Y., RUANGPANIT N. & K. CHAIYAKUM (1971) A preliminary study on the artificial propagation of *Penaeus merguensis* DeMAN. Contribution No.3 of Songkhla Marine Fisheries Station, Division of Research and Investigations, Department of Fisheries, 30 pp.
- 中澤毅一 (1915) 重要蝦類調査. 第 2 報. 車蝦類の種類. 水講試報, 11(2):22-29.
- 中澤毅一 (1915) 瀬戸内海蝦調査. 水講試報, 11(2):40-53.
- 中澤毅一 (1947) 長尾亜目. 日本動物図鑑(改定増補). 北隆館, pp.751-797, 6pls.
- 中添純一 (1987) 魚の色を変える話. 東海区水研. さかな, (37):45-53.
- 浪越充司・呉金焔・西澤豊彦・室賀清邦・虫明敬一 (2001) 実験的 PAV におけるクルマエビの死亡率に及ぼす飼育密度の影響. 平成 13 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.23.
- ナンビア K.P.P. (1982) インド水産業の現状と輸出-特にエビを中心として. 水産振興, 16(7):1-33.
- 南部豊揮・中村郁也 (1980) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和 53 年度熊本水試事報, 39-40.
- 南西海区水産研究所 (1969) 沿岸資源の研究. 瀬戸内海資源. 漁業資源研究会議報, (10):83-89.
- 南西海区水産研究所 (1969) 昭和 43 年度クルマエビ研究会議事要約, 1-14.
- 南西海区水産研究所 (1973) 沿岸資源の研究. 底魚. 太平洋南区. 漁業資源研究会議報, (14):102-104.
- 南西海区水産研究所 (1973) 沿岸試験の研究. 瀬戸内海資源. 漁業資源研究会議報, (14):112-116.
- 南西海区水産研究所 (1976) 沿岸資源の研究. 底魚. 太平洋南区. 漁業資源研究会議報, (18):146-149.
- 南西海区水産研究所 (1976) 沿岸資源の研究. 瀬戸内海資源. 漁業資源研究会議報, (18):159-163.
- 南西海区水産研究所 (1977) 瀬戸内海西部魚介類回遊調査(昭和 49~51 年度). 水銀等汚染海域. 水産庁, 75-85.
- 南西海区水産研究所 (1988) 瀬戸内海産魚類とえび類の方言集. 南西海区水研業績, (209):1-171.
- 南西海区水産研究所 (1988) 昭和 62 年度魚病発生状況. 南西海区ブロック魚類増養殖研究情報, (7):60-85.

- 成田美砂・中村和代・畑井喜司雄・花田博 (1995) クルマエビの *Fusarium graminearum* 感染症. 平成 7 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.26.
- 成瀬宇平 (2000) 魚雑学事典. 丸善, 186 pp.
- 鳴門クルマエビ・養殖編集部 (1999) 個人売り主体に果敢に攻めて安定経営はかるクルマエビ養殖. 養殖, 36(9):26-29.
- NASCIMENNTO I.A., BRAY W.A., TRUJILLO J.R.L. and A.LAWRENCE (1991) Reproduction of unablated *Penaeus schmitti* in captivity using diets consisting of fresh-frozen natural and dried formulated feeds. *Aquaculture*, 99(3・4):387-398.
- NASH G., POERNOMO A. and M.B.NASH (1988) Baculovirus infection in brakishwater pond cultured *Penaeus monodon* FABRICIUS in Indonesia. *Aquaculture*, 73(1):1-6.
- NASH G., ANDERSON I.G. and M.SHARIFF (1988) Pathological changes in the tiger prawn, *Penaeus monodon* FABRICIUS, associated with culture in brakishwater ponds developed from potentially acid sulphate soils. *J.Fish Dis.*, 11(2):113-124.
- NASH G. (1990) *Penaeus monodon* grow-out diseases. Proceedings of Aquatech 90. Putra World Trade Centre, pp.172-187.
- NASH G., NITHIMATHACHOKE C., TUNGMANDI C., ARKARJAMORN A., PRATHANPIPAT P. and P.RUAMTHAVEESUB (1992) Vibriosis and its control in pond-reared *Penaeus monodon* in Thailand. SHARIFF M., SUBASINGHE R.P. & J.R.ARTHUR eds., Diseases in Asian Aquaculture I .Fish Health Section. Asian Fisheries Society, Manila, pp.143-155.
- NASH G.L., AKARAJAMORN A. and B.WITHYACHUMNARNKUL (1995) Histology and rapid haemocytic dianosis of yellow-head disease in *Penaeus monodon*. SHARIFF M.,SUBASINGHE R.P.& J.R.ARTHUR eds., Diseases in Asian Aquaculture II. Asian Fisheries Society, Manila, pp.89-98.
- 那須博史・平岡政宏・鮫島守・木村武志 (2000) 魚類防疫対策事業. 平成 11 年度熊本水研事報, 61-63.
- 奈須敬二 (1974) 世界における海洋環境と生物の生産力および潜在資源. 西脇昌治編 資源生物論. 東京大学出版会. 海洋講座, (13):169-194.
- 奈須敬二 (1975) 世界の海洋環境と資源生物. 水産研究叢書, (27):1-145.
- 奈須敬二 (1994) エルニーニョの話. 水産振興, 28(9):1-84.
- NATARAJAN P. (1989) Persistent locomotor rhythmicity in the prawns *Penaeus indicus* and *P.monodon*. *Marine Biol.*, 101(3):339-346.
- NATARAJAN P. (1989) External synchronizers of tidal activity rhythms in the prawns *Penaeus indicus* and *P. monodon*. *Marine Biol.*, 101(3):347-354.
- NAVARRO J.C., HANTORIA F., VARO I. and F.AMAT (1988) Effects of alternatate feeding with a poorlong-chain poly-unsaturated fatty acid *Artemia* strain and a rich one for sea bass (*D.labrax*) and prawn (*P.kerathurus*) larvae. *Aquaculture*, 74(3・4):307-317.
- 納谷洋子 (1992) 甲殻類の脱皮とホルモン成魚. 安元健編, 化学で探る海洋生物の謎. 化学同人.化学増刊, (121):55-62.
- 納谷洋子(1992) 生理機能物質の探索法.神谷久男・幹渉編, 海洋生理活性物質研究法. 水産学シリーズ, (89):70-77.
- NEAL R.A. (1967) An application of the virtual population technique to penaeid shrimp. *Proc.Annu.Conf. Southeast Assoc.Game Fish.Comm.*, 21: 264-272.
- NEAL R.A. (1973) Progress toward farming shrimp. *Mar.Fish.Rev.*, 35(3・4):67-70.
- NEAL R.A. (1973) Raceway systems for the culture of shrimp. *Fish Farming Int.* (3):6-11.
- NEAL R.A. (1974) Progress toward farming shrimp in the United states. *Mar.Fish.Rev.*, 35(3・4):67-70.
- NEAL R.A. (1976) Penaied shrimp culture research at the national marine service Galveston Laboratory. *FAO 水産増殖国際会議論文集*, (2):83-89.
- NEGRE-SADARGUES G., CASTILLO R., PETIT H., SANC'E S., MARTINEZ R.G., MILICUA J.C.G.CHOUBERT G. and J.P. TRILLES (1933) Utilization of synthetic carotenoids by the prawn *Penaeus japonicus* reard under laboratory conditions. *Aquaculture*, 110(2):151-159.
- Negros Prawn Producers Marketing Cooperation, Inc.(NPPMCI) (2000) Successful Prawn Culture Management Techniques in Negros. Philippines, 200 pp.
- 根本茂・木下仁徳 (2000) クルマエビ種苗生産事業. 平成 10 年度福井栽セ事報, 7-11.
- NETHERTON J.C.III. and S.GURIN (1980) Biosynthesis *in vitro* of homarine and pyridine carboxylic acids in marine shrimp. *J.Biol.Chem.*, (255):9549-9551.
- NEW M.B. (1976) A review of dietary studies with shrimp and prawns. *Aquaculture*, 9:101-144.
- NEW M.B. (1980) A bibliography of shrimp and prawns nutrition. *Aquaculture*, 21(2):101-128.

- NEW M.B. eds., (1982) Giant prawn farming. Elsevier Science Publishers B.V. Development in Aquaculture and Fisheries Science, (10): xii +514 pp.
- NEW M.B., SARANI H. and T.SINGH eds. (1991) Technical and economic aspects of shrimp farming. Malaysia, v+341 pp.
- NICOL J.A.C. and H.YAN (1982) The eye of the grass shrimp *Penaeus monodon*-A reappraisal of the penaeid eye. Bull. Inst.Zool.Academia Sinica, 21(1):27-50.
- 二平章・青木雅志 (1998) 常磐・鹿島灘海域における底魚類の加入量変化. 茨城水試研報, (36):23-27.
- 二平章 (2000) FAO の水産戦略と日本漁業. 21 世紀の水産を考える会編, 魚は人類を救えるか. 成山堂書店, pp.180-194.
- 寧治仁・劉子林 (1995) 象山港の潜在的漁業生産量とタイショウエビ最適放流量の評定. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):148-151.
- 二野瓶徳夫 (1999) 日本漁業近代史. 平凡社. 選書, (188):1-246.
- 日本陸上養殖研究所(株)・養殖編集部 (1999) クルマエビの循環式陸上養殖ユニットを開発. 養殖, 36(4):56-59.
- 日本栽培漁業協会志布志事業場 (1972) 志布志事業場の 2,800 トン大型水槽によるクルマエビの種苗生産. 栽培技研, 1(1):41-46.
- 日本栽培漁業協会 (1985) 昭和 56-57 年度クルマエビについて実施した種苗放流効果基礎調査の結果について. 研究資料, (29):1-38.
- 日本栽培漁業協会 (1988) 昭和 61 年度に実施した山形県・秋田県におけるクルマエビ放流事業の実態・効果等に関する現地調査結果. 協会研究資料 No.38.
- 日本栽培漁業協会 (1989) クルマエビ種苗放流検討会討議要録. 協会研究資料 No.42.
- 日本栽培漁業協会 (1994) 平成 5 年度クルマエビ放流事業検討会討議要録. 協会研究資料 No.60.
- 日本水産資源保護協会 (1980) 水産生物適水温図. 日本水産資源保護協会, 31 pp.
- 日本水産資源保護協会 (1981) クルマエビ. 水生生物生態資料, pp.228-231.
- 日本水産資源保護協会 (1983) クマエビ. 水生生物生態資料, pp.73-74.
- 新潟県・富山県・石川県栽培漁業センター (1980) 放流技術開発事業(クルマエビ)総合報告書.
- 新潟県 (1982) 県別報告. 昭和 56 年度回遊性魚類共同放流実験調査事業報告書. 日本海中部海域マダイ班, 79-112.
- 新潟県 (1983) 県別報告. 昭和 57 年度回遊性魚類共同放流実験調査事業報告書. 日本海中部海域マダイ班, 13-62.
- 新潟県栽培漁業センター (1978) 昭和 52 年度放流技術開発報告書. (日本海中部くるまえば班), 29-40.
- 新潟県栽培漁業センター (1979) 昭和 53 年度放流技術開発報告書. (日本海中部くるまえば班), 7-12.
- 新潟県栽培漁業センター (1980) 昭和 54 年度放流技術開発報告書. (日本海中部くるまえば班), 11-37.
- 新潟県栽培漁業センター (1981) 昭和 55 年度放流技術開発報告書. (日本海中部くるまえば班), 47-88.
- 新潟県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・島根県栽培漁業センター (1983) 昭和 57 年度クルマエビ放流技術開発事業の概要. 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ班), 8-12.
- 新潟県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・島根県栽培漁業センター (1983) 新潟県. 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ班), 13-62.
- 新潟県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・島根県栽培漁業センター (1983) 福井県. 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ班), 63-102.
- 新潟県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・島根県栽培漁業センター (1983) 島根県. 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ班), 103-148.
- 新潟県栽培漁業センター (1983) クルマエビ(*Penaeus japonicus*)種苗生産の手順. 昭和 56 年度新潟栽セ業研報, 123-146.
- 新潟県栽培漁業センター (1985) クルマエビ種苗生産増強施設建設事業. 昭和 58 年度新潟栽セ業研報, 69-70.
- 新潟県栽培漁業センター (1993) 各県調査結果の要約. 平成 4 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 5-25.
- 新潟県栽培漁業センター (1994) 各県調査結果の要約. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 4-5.
- 新潟県栽培漁業センター (1994) 各県調査結果の報告. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 新 1-新 27.
- 新潟県栽培漁業センター (1995) 各県調査結果の要約. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 2 pp.
- 新潟県栽培漁業センター (1995) 各県調査結果の報告. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 新 1-新 28.
- 新潟県栽培漁業センター (1996) 各県調査結果の要約. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 2 pp.

- 新潟県栽培漁業センター (1996) 各県調査結果の報告. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 新 1-新 28.
- 新潟県栽培漁業センター (1997) 各県調査結果の報告. 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 新 1-新 24.
- 新潟県栽培漁業センター (1997) 平成 4~8 年度各府県調査結果の総括報告. 平成 8 年度及び平成 4~8 年度重要甲殻類栽培資源管理開発調査事業報告書(エビグループ), 新 1-新 20.
- 新潟市漁業協同組合 (1988) 活魚出荷販売と漁業経営安定について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 186-187.
- 二村義八朗・佐藤英雄 (1982) クルマエビのホスホアルギニン含量の凍結法による違い(英文・短報) 日水誌, 48(5):725-726.
- NIMMO D.R., LIGHTNER D.V. and L.H.BAHNER (1977) Effects of cadmium on the shrimps, *Penaeus duorarum*, *Palaemonetes pugio* and *Palaemonetes vulgaris*. VERNBERG et al.eds, Physiological Responses of Marine Biota to Pollutants. Academic Press, pp.131-183.
- NIMURA Y. and H.SATO (1982) Phosphoarginine content of the shrimp *Penaeus japonicus* with reference to the way of freezing. 日水誌, 48(5):725.
- 二宮敏郎・萬上聰一郎 (1971) 内房域のクルマエビについて(I). 千葉水試報, (24):130-144.
- 西田隆英・中村展男・谷雄策・伊藤史郎・小早川淳 (1987) クルマエビ種苗生産・放流方法の改善について. 佐賀水試研報, (1):1-6.
- 西平守孝・酒井一彦・佐野光彦・土屋誠・向井宏 (1995) サンゴ礁-生物がつくった楽園. 平凡社. シリーズ共生の生態学, (5):1-232.
- 西川仁 (1993) 福岡県における沿岸漁業協同組合の活魚出荷の現状. 福岡水技研報, (1):233-241.
- 西村仁・宮本博和・篠原直哉 (1994) 福岡県水産情報データベース整備事業. 平成 5 年度福岡水技事報, 457-472.
- 西川仁・吉岡武志 (1995) 福岡市地域における漁家の意識. 福岡水技研報, (4):77-90.
- 西川哲也・反田實・大谷徹也 (1994) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 4 年度兵庫水試事報. 21-37.
- 西川哲也・中村行延・大谷徹也 (1995) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 5 年度兵庫水試事報. 23-29.
- 西元諄一・イ・ケトウト・スウェチャ・樋園澄郎・御木英昌 (1987) 定温貯蔵クルマエビの鮮度低下と貯蔵寿命(英文). 鹿大水産紀要, 36(1):27-36.
- 西元諄一・元広輝重・大森秀聰・小泉千秋・田元馨・掛端甲一・志水寛・小島篤 (1995) 食品加工技術とその製品. 太田冬雄編, 水産加工技術. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (25):150-166.
- 西日本文化協会編 (1988) 福岡県史. 民族資料編, ムラの生活(下). 福岡県, 699pp.
- 西岡不二男 (1986) 魚食文化はどこへ行く. 東海区水研. さかな, (36):9-15.
- 西岡豊弘 (1998) ウイルス性疾病の防除対策並びに検査手法の開発.2.クルマエビの急性ウイルス血症. 平成 8 年度日裁協事業年報, 239-240.
- 西内康治・浅野和也 (1983) 農薬製剤の数種淡水産動物に対する毒性-LXXXVI. クルマエビ *Penaeus japonicus* に対する農薬の影響評価. 水産増殖, 30(4):228-232.
- 西山雄峰・河野慈敬 (1989) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(分場). 昭和 62 年度愛媛水試事報, 19-20.
- 西山雄峰 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(分場). 平成 2 年度愛媛水試事報, 17-18.
- 西山雄峰 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(燧灘). 平成 3 年度愛媛中予水試事報, 9-10.
- 西山延義 (1989) 第 8 次漁業センサス調査結果の概要. 水産振興, 23(11):1-42.
- 西山保 (1976) クマエビ種苗生産試験. 和歌山水事試報, (8):106-107.
- 西山保 (1976) クマエビ種苗生産試験. 和歌山水事試報, (10):127-129.
- 西沢忠晴 (1992) 急増したエビ輸入の歴史. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.259-274.
- 西澤豊彦・野中理佐・CLAUDIA VENEGAS・室賀清邦 (1997) Penaeid rod-shaped DNA virus (PRDV)検出用 PCR の核酸抽出法の検討. 平成 7 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.20.
- 21 世紀の水産を考える会編 (2001) 21 世紀の水産への提言-食料産業・文化としての再生. 成山堂書店, 164 pp.
- 延原一彦 (1980) 食料資源としての魚. 水産振興, 14(2):1-38.
- 野田浩之・花井孝之・長谷川仁・青山雅俊 (1990) 保護水面管理事業調査. 平成元年度静岡水試事報, 291-297.
- 野田広志・海幸丸乗組員 (1982) 源式網調査. 昭和 56 年度愛知水試業報, 44-46.
- 野田広志・海幸丸乗組員 (1983) 源式網調査. 昭和 57 年度愛知水試業報, 46-48.
- 野田進治・野口敏春 (1996) 平成 7 年度地域特産種量産放流技術開発事業. 魚類・甲殻類グループ総合報告書. コウライエビ, 39 pp.
- 野田進治 (1999) 定置網漁について. 佐賀玄海水振セ News, (4):7-9.
- 野田進治 (2000) 佐賀県玄海域における資源管理の取り組みについて. 佐賀玄海水振セ News, (5):24-26.

- 野上欣也 (1991) 水産魚介類種苗生産環境における微生物の挙動と管理. 清水潮編, 海洋微生物とバイオテクノロジー. 技報堂出版, pp.169-183.
- 乃万俊文 (1982) クルマエビ養殖池の構造(英文). 水工研技報(水産土木), (3):15-25.
- 乃万俊文 (1984) 増養殖環境. 水産土木, 20(2):69-75.
- 野本具視 (1991) 魚病に関するデータ. 養殖(臨時増刊), 28(8):86-89.
- 野本具視 (1993) 魚病に関するデータ. 養殖(臨時増刊), 30(8):120-123.
- 野村元・吉田俊憲・吉田敏泰・高橋稔彦・河本幸治・浜田幸栄・北村進・角三繁夫・長尾順一 (1984) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 57 年度石川増試事報, 24-27.
- 野村元・吉田俊憲・吉田敏泰・高橋稔彦・松見正孝・浜田幸栄・角三繁夫 (1985) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 58 年度石川増試事報, 19-27.
- 野村元・大慶則之 (1991) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成試験および放流追跡調査. 平成元年度石川増試事報, 88-112.
- 野村元・大慶則之 (1992) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成試験. 平成 2 年度石川増試事報, 92-95.
- 野村元・町田洋一 (1993) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成試験と放流追跡調査. 平成 3 年度石川増試事報, 82-95.
- 野村元 (1994) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成と放流追跡調査. 平成 4 年度石川増試事報, 92-97.
- 野村正恒 (2000) 最新漁業技術一般(4 訂版). 成山堂書店, 420 pp.
- 野村稔 (1980) 養殖の原理. 農業土木学会水産土木研究会編, 水産ハンドブック. 緑書房, pp.165-189.
- 野村忠綱 (1988) クルマエビ養殖業の沿革. 日比谷京監修, 日本の水産-アジアのエビ. 全日本水産写真資料協会, pp.181-194.
- 野村俊文・椎原久幸 (1974) 鹿児島県出水地先海域の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 73-77.
- 野村俊文・松原中・藤田征作・瀬戸口勇・茂野邦彦 (1975) クルマエビ種苗生産と種苗放流の生産効果. 鹿児島県垂水増殖センター試研報, (1):1-13.
- 野村俊文・藤田征作・上田忠男・瀬戸口勇・茂野邦彦 (1975) クルマエビ幼生の異状へい死について-I. 垂水増殖センター試研報, (1):14-27.
- 野村俊文・藤田征作・松原中・瀬戸口勇 (1976) クルマエビ種苗生産と種苗放流の生産効果について-II. 垂水増殖センター試研報, (2):2-8.
- 野村俊文・藤田征作・松原中・瀬戸口勇 (1976) クルマエビ幼生の異状へい死について-II. 垂水増殖センター試研報, (2):9-18.
- 野村俊文・藤田征作・松原中・瀬戸口勇 (1977) クルマエビ種苗生産と種苗放流の生産効果について-III. 垂水増殖センター試研報, (3):49-57.
- 野村俊文・藤田征作・松原中・瀬戸口勇 (1977) クルマエビ幼生の異常へい死について-III. 垂水増殖センター試験研報, (3):58-64.
- 野村俊文・藤田征作・松原中・瀬戸口勇 (1978) クルマエビ種苗生産と種苗放流の生産効果について-IV. 垂水増殖センター試研報, (4):69-82.
- 野中理佐・C.A.VENEGAS・西澤豊彦・室賀清邦 (1998) PRDV 検出用 PCR のための核酸抽出法. 魚病研究, 33(3):115-121.
- 野中忠・平井亨・松村高明 (1973) 栽培漁業漁場資源生態調査. 昭和 47 年度静岡水試事報, 230.
- 野中忠・平井亨・松村高明 (1974) 栽培漁業漁場資源生態調査. 昭和 48 年度静岡水試事報, 189.
- 野中忠 (1986) 種苗生産成果を省みての二・三. 静岡栽セ. なむら, (30):4-5.
- 野中健・小倉敏義・甲斐修也・高見生雄 (1992) 魚病等実態把握指導事業(魚類防疫対策事業). 平成 3 年度長崎水試事報, 189-195.
- 野中健・甲斐修也・高見生雄・本田敦司 (1993) 魚類健康管理技術開発研究事業. 平成 4 年度長崎水試事報, 202-210.
- 野中健・甲斐修也・高見生雄・本田敦司 (1993) 魚病等実態把握指導事業. 平成 4 年度長崎水試事報, 211-215.
- NOOR-HAMID S., FORTES Redl and F.PARADO-ESTEPA (1994) Effect of pH and ammonia on survival and growth of the early larval stages of *Penaeus monodon* FABRICIUS. Aquaculture, 125(1・2):67-72.
- 乗松惟基 (1971) 福岡県豊前海の柵網漁業について(漁具・漁法). 昭和 45 年度福岡豊前水試研業報, 159-187.
- 乗松惟基 (1972) 福岡県豊前海の柵網漁業についての考察. 昭和 46 年度福岡豊前水試研業報, 195-210.
- 野坂克己 (1987) クルマエビの歩脚障害について. 昭和 60 年度香川栽セ事報, 45-47.
- 野坂克己 (1988) クルマエビ大型種苗の生産. 昭和 61 年度香川栽セ事報, 20-22.
- 野坂克己・宮内大 (1988) クルマエビの種苗生産. 昭和 62 年度香川栽セ事報, 15-21.
- 野坂克己・宮内大 (1990) クルマエビの種苗生産. 昭和 63 年度香川栽セ事報, 13-18.
- 野坂克己・上村達也 (1991) クルマエビの種苗生産. 平成元年度香川栽セ事報, 17-20.
- 野坂克己・上村達也 (1991) クルマエビの種苗生産. 平成 2 年度香川栽セ事報, 19-22.

- 野坂克己・上村達也 (1992) クルマエビの種苗生産. 平成3年度香川栽セ事報, 19-22.
- 野坂克己・上村達也 (1993) クルマエビの種苗生産. 平成4年度香川栽セ事報, 20-26.
- 野坂克己・地下洋一郎 (1994) クルマエビの種苗生産. 平成5年度香川栽セ事報, 19-22.
- 野坂克己・上村達也 (1995) クルマエビの種苗生産(13mm). 平成6年度香川栽セ事報, 18-24.
- 野坂克己・森本弘泰・中健二 (1995) クルマエビ真菌対策報告. 平成6年度香川栽セ事報, 49-56.
- 野坂元道・藤原宗弘 (2001) 放流効果把握調査(移動,分散,成長). 平成7~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書I.(瀬戸内海東部ブロック), 30-50.
- 能勢健嗣 (1979) 養魚飼料をめぐる諸問題. 東海区水研. さかな, (22):13-15.
- 能勢健嗣 (1992) 養魚と養魚飼料の現状. 荻原珍吉編, 魚類の栄養と飼料. 新水産学全集, (14):1-11.
- 能勢幸雄 (1980) 漁業学. 東京大学出版会. 水産科学シリーズ, (2):1-268.
- 能津純治・福岡和光・平嶋裕・田染博章・西田和夫 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-放流種苗の減耗. 昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):178-187.
- 能津純治・高野傑・田染博章・板橋孝明 (1975) クルマエビの資源培養に関する研究(放流種苗の減耗とヒメハゼによる食害). 浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):186-204.
- 能津純治 (1976) クルマエビ栽培のための建干網法の手びき. 昭和61年度大分水試事報, 1-31.
- 能津純治・田染博章・前田宏・久野操 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-放流種苗の減耗. 昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):178-187.
- 能津純治・田染博章・前田宏・久野操・金枝豊弘 (1974) 佐伯湾実証実験漁場-放流種苗の減耗. 昭和48年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):131-144.
- 能津純治 (1985) 大分県におけるマリノポリスの建設-海洋と地域づくり. 水産土木, 22(1):61-65.
- 農業土木試験場環境分析手法研究グループ (1974) 環境要因の種苗減耗作用. 昭和48年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):105-114.
- 農林水産省 (1979) 農林水産省百年史.
- 農商務省水産局編纂 (1983) 日本水産捕採誌(復刻版). 岩崎美術社, 1040 pp.
- 農商務省水産局編纂 (1983) 日本水産製品誌(復刻版). 岩崎美術社, 548 pp.
- NUGROHO E., TAKAGI M. and N.TANIGUCHI (1997) Practical manual on detection of DNA polymorphism in fish population study. 高知大海生研報, (17):109-129.
- 野沢理哉 (2001) クルマエビ尾肢切除標識放流試験. 平成12年度富山水試年報, 50.
- NUNAN L.M. and D.V.LIGHTNER (1997) Development of a nonradioactive gene probe by PCR for detection of white spot syndrome virus (WSSV). J.Viological Methods, (63):193-201.
- NUNAN L.M., POULOS B.T. and D.V.LIGHTNER (1998) The detection of White Spot Syndrome Virus (WSSV) and Yellow Head Virus (YHV) in imported commodity shrimp. Aquaculture, 160(1・2):19-30.
- NUNAN L.M., POULOS B.T. and D.V.LIGHTNER (1998) Reverse transcription polymerase chain (RT-PCR) used for the detection of Taura Syndrome Virus (TSV) in experimentally infected shrimp. Dis.Aquat.Org., 34(2):87-91.
- NUNAN L.M., POULOS B.T. and D.V.LIGHTNER (2000) Use of polymerase chain reaction for detection of infectious hypo-dermal and hematopoetic necrosis virus in penaeid shrimp. Mar.Biotechnol., 2:319-328.
- NUNES A.J.P., GODDARD S. and T.G.V.GESTEIRA (1996) Feeding activity patterns of the Southern brown shrimp *Penaeus subtilis* under semi-intensive culture in NE Brazil. Aquaculture, 144(4):371-386.
- NUNES A.J.P., GESTEIRA T.C.V. and S.GODDARD (1997) Food digestion and assimilation by the southern brown shrimp *Penaeus subtilis* under semi-intensive culture in NE Brazil. Aquaculture, 149(1・2):121-136.
- NUNES A.J.P. and G.J.PARSONS (2000) Effects of the Southern brown shrimp, *Penaeus subtilis*, predation and artificial feeding on the population dynamics of benthic polychaetes in tropical pond enclosures. Aquaculture, 183(1・2):125-147.
- NUNES A.J.P. and G.J.PARSONS (2000) Size-related feeding and gastric evacuation measurements for the Southern brown shrimp *Penaeus subtilis*. Aquaculture, 187(1・2):133-151.
- NUR-E-BORBON S.A., OKADA S., WATABE S. and K.YAMAGUCHI (1995) Carotenoproteins from the exoskeleton and the muscular epithelium of the black tiger prawn *Penaeus monodon*. Fish.Sci., 61(2):337-343.
- 奴田原耕衛 (1971) 沿岸適種漁業試験. 昭和43・44年度高知水試事報, 1-32.

- 小畑泰弘 (1995) 栽培漁業種苗生産・放流統計. 日裁協栽培資源調査検討資料, (11):1-141.
- 越智洋雄・向井龍男 (1992) 種苗生産事業. 平成 2 年度香川水試事報, 105-111.
- 越智正 (1994) 産業活動と沿岸漁業. 瀬戸内海科学, 6(1):55.
- 落合芳博・オマール シャーハン・渡部終五・橋本周久 (1985) クルマエビの凍結貯蔵中における品質変化. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.240.
- 落合芳博・橋本周久 (1992) 水産利用上からみた魚介類の特性. 鴻巣章二・橋本周久編, 水産利用化学. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (24):4-24.
- O'CONNOR C. (1979) Reproduction periodicity of a *Penaeus esculentus* population near Low Islets, Queensland, Australia. *Aquaculture*, 16(2):153-162.
- 尾田一将・立石賢・池田義弘・岡座輝雄 (1986) 伊万里湾におけるクルマエビの漁獲と標識放流. 西海区ブロック藻・介類研究会報, (3):85-95.
- 小田切忠夫 (1980) 美保湾に於けるクルマエビの体長-頭胸甲長の関係について. 鳥取水試報, (20):37-49.
- 尾形圭吾・中筋孝 (1975) 新川改修工事に係る漁業の実態調査-I. 漁業実態調査の概要. 昭和 49 年度和歌山水試事報, 165-173.
- 尾形哲男 (1956) 漁獲統計からみた漁獲高, 漁期, 漁法. 日本海区水研研報, (4):13-22.
- 尾形哲男 (1973) 日本海における栽培漁業の諸問題. 漁業資源研究会議報, (15):43-51.
- 尾形哲男 (1980) 日本海海域底魚資源. 青山恒雄編, 底魚資源. 恒星社厚生閣, 新水産学全集, 229-244.
- 尾形哲男 (1984) 漁況. 瀬戸内海. 1983 年海域別情報. 水産海洋研究会報, (45):192-193.
- 尾形哲男 (1985) 瀬戸内海全域. 魚類相および有用生物. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.676-680.
- 尾形哲男・高橋善弥 (1986) 漁況. 瀬戸内海. 1985 年海域別情報. 水産海洋研究会報, 50(3):258-259.
- 緒方正名・藤澤邦康 (1991) 石油による海洋汚染と環境及び生物モニタリング. 水産研究叢書, (4):1-101.
- 緒方得生・大久保兼清 (1980) クルマエビ育成放流事業. 昭和 54 年度宮崎水試事報, 304-305.
- 緒方得生・森末保治 (1980) クルマエビ放流事業追跡調査. 昭和 54 年度宮崎水試事報, 308-312.
- 緒方得生・大久保兼清 (1981) クルマエビ育成放流事業. 昭和 55 年度宮崎水試事報, 383-384.
- 緒方得生・河野秀伸 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和 59 年度宮崎水試事報, 29-39.
- 緒方得生・都原靖人・大江庄三 (1988) クルマエビの追跡調査-東白杵郡門川町地先. 昭和 61 年度宮崎水試事報, 175-180.
- 小笠原義光 (1968) 栽培漁業の展望と将来. 水産海洋研究会報, (13):105-112.
- 小笠原義光 (1980) 海洋牧場. 平凡社. クストー海の百科, (17):96-113.
- 小笠原義光 (1994) エビの生態. 東京水大第 9 回公開講座編集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.28-71.
- 小川浩・上城義信・東海正・伊藤弘・正樹康昭 (1987) 小型底びき網漁業手繰第 2,3 種の相対漁獲効率について (予報). 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (19):78-86.
- 小川浩・上城義信 (1987) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 漁業資源調査. 昭和 60 年度大分浅海事報, 41-56.
- 小川浩・上城義信 (1988) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 漁業資源調査. 昭和 61 年度大分浅海事報, 52-67.
- 小川浩・上城義信 (1988) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 61 年度大分浅海事報, 72-82.
- 小川浩・川崎義一 (1989) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 漁業資源調査. 昭和 62 年度大分浅海事報, 44-59.
- 小川浩・川崎義一 (1990) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 漁業資源調査. 昭和 63 年度大分浅海事報, 54-70.
- 小川浩・稗田賢治 (1991) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 漁業資源調査. 平成元年度大分浅海事報, 35-46.
- 小川浩・稗田賢治 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1. 漁業資源調査. 平成 2 年度大分浅海事報, 31-42.
- 小川浩・稗田賢治 (1992) 浅海干潟重要貝類資源調査 (バカガイ・アサリの資源量調査). 平成 2 年度大分浅海事報, 46-55.
- 小川浩・井本有治 (1994) 浅海干潟重要貝類資源調査 (平成 3 年度). 平成 3・4 年度大分浅海事報, 38-47.
- 小川浩・井本有治 (1994) 浅海干潟重要貝類資源調査 (平成 4 年度, 中津市共 2 号内におけるバカガイ・アサリ資源調査). 平成 3・4 年度大分浅海事報, 66-75.
- 小川浩・井本有治 (1995) 浅海干潟重要貝類資源調査. バカガイ・アサリ資源量調査. 平成 5 年度大分浅海事報, 67-75.
- 小川浩・井本有治 (1995) 浅海干潟重要貝類資源調査. トリガイ資源調査. 平成 5 年度大分浅海事報, 76-80.
- 小川浩・井本有治 (1996) 浅海干潟重要貝類資源調査. 平成 6 年度大分浅海事報, 74-82.
- 小川浩・井本有治 (1997) 浅海干潟重要貝類資源調査. 平成 7 年度大分浅海事報, 72-79.
- 小川満也・阪本俊雄 (1985) 底魚資源調査. 昭和 58 年度和歌山水試事報, 28-30, 資料:83-87.
- 小川静夫 (1982) 種苗生産業は危機. 養殖, 19(4):41.

- 小川健・木村創 (1985) 昭和 58 年度病魚検査概要. 和歌山水増試報, (16):89-92.
- 小川健・木村創 (1986) 昭和 59 年度病魚検査概要. 和歌山水増試報, (17):129-132.
- 小川健・木村創 (1987) 昭和 60 年度病魚検査概要. 和歌山水増試報, (18):77-80.
- 小川健・木村創 (1988) 昭和 61 年度病魚検査概要. 和歌山水増試報, (19):71-75.
- 小川健・木村創 (1989) 昭和 62 年度病魚検査概要. 和歌山水増試報, (20):56-59.
- 小川健・木村創 (1990) 昭和 63 年度病魚検査概要. 和歌山水増試報, (21):39-42.
- 小川健・木村創 (1993) 魚病検査. 和歌山水増試報, (24):12-14.
- 小川健・木村創 (1993) 魚病検査. 和歌山水増試報, (25):20-22.
- 小川健・木村創 (1994) 魚病検査. 和歌山水増試報, (26):17-20.
- 小川健 (1995) 1994 年県下養殖魚類等の病害発生ならびに対策状況. 和歌山水増試報, (27):12-14.
- 小川健・服部未夏 (1996) 養殖水産動物保護対策推進事業. 和歌山水増試報, (28):19-21.
- 小川徳太郎訳 (1973) エビの浅海養殖と現状. 養殖, 10(10):122-125. {原著:AVAULT J.W.Jr.}
- 小川泰樹 (1983) 児島湖におけるエビ類の資源生物学的研究. 広島大修士論文, 71 pp.
- 小川泰樹・角田俊平・高橋正雄 (1983) 児島湾のエビ類相. 広島大生物生産紀要, 22(2):235-240.
- 小川泰樹・角田俊平 (1987) Scanning electron microscopic observations on the spermatozoa of the prawn *Penaeus japonicus*. 日水誌, 53(6):975-977.
- 小川泰樹・柴田玲奈 (1996) 瀬戸内海における小型底びき網投棄物の生残試験. GSK 西日本底魚部会報, (23):13-29.
- 小倉敏義・岡田昌一郎・塚島康生・長谷川義信 (1991) 魚病等実態把握指導事業(魚類防疫対策事業). 平成元年度長崎水試事報, 141-149.
- 小黒崇行 (1990) 市場における品質評価の実際. 養殖臨時増刊, 27(13):44-47.
- 及川寛・大村裕治・浅川明彦 (1996) γ 線照射クルマエビの筋肉加水分解物の変化. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.151.
- 及川寛・里見正隆・矢野豊 (1998) γ 線照射によりクルマエビ筋肉中に生成するチロシン餌性異性体に対する照射条件の影響. 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.190.
- 岡正雄・白旗総一郎 (1964) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-I. 生殖機構に関する研究. 長崎大水産研報, (17):55-67.
- 岡正雄・白旗総一郎 (1965) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-II. 卵巣卵の形態的分類と卵巣成熟度について. 長崎大水産研報, (18):30-40.
- 岡正雄 (1967) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-III. 卵巣の排卵機構について. 長崎大水産研報, (23): 43-56.
- 岡正雄 (1967) コウライエビの増養殖に関する研究-II. 種苗生産および養成. 水産増殖, 15(2):7-32.
- 岡正雄 (1967) コウライエビの養殖について(I). 養殖, 4(8):96-98.
- 岡正雄 (1967) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-IV. 排卵に関する生理的機構についての考察. 長崎大学水産研報, (23):57-69.
- 岡正雄 (1967) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-V. 授精と発生. 長崎大学水産研報, (23):71-78.
- 岡正雄 (1967) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-VI. 変態および成長におよぼす影響と摂餌傾向について. 長崎大学水産研報, (23):89-100.
- 岡正雄 (1967) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-VII. 胃の構造と機構について. 長崎大学水産研報, (24):21-37.
- 岡正雄 (1967) コウライエビの養殖について(II). 養殖, 4(9):68-70.
- 岡正雄 (1968) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-VIII. リンパ様未知器官について. 長崎大学水産研報, (25):1-7.
- 岡正雄 (1968) コウライエビ *Penaeus orientalis* KISHINOUE の研究-IX. Post-larva の成長について. 長崎大学水産研報, (26):1-23.
- 岡正雄 (1969) コウライエビの増養殖に関する研究-VII. Structure of the newly found lymphoid organ. 日水誌, 35(3):245-250.
- 岡正雄 (1970) コウライエビ(大正エビ) の採苗から養殖まで. 養殖, 7(2):34-39.
- 岡林正十郎・石田善久・水田隆昭・奴田原耕衛・上村順一・黒川成爾 (1972) 底魚資源調査. 昭和 45 年度高知水試事報, 28-36.
- 岡地伊佐雄 (1975) 日本海における漁業実態の変遷とその特性. 漁業資源研究会議報, (17):55-71.
- 岡田秋芳・海幸丸乗組員 (1984) 貝けた網漁業試験. 昭和 58 年度愛知水試業報, 44-46.
- 岡田一宏・渡部公仁・上谷和功 (1992) クルマエビ種苗生産. 平成 3 年度三重栽セ事報, 30-34.
- 岡田一宏・渡部公仁・上谷和功 (1992) 微粒子餌料投与によるクルマエビ幼生の飼育. 平成 3 年度三重栽セ事報, 45-51.

- 岡田一宏・渡部公仁・上谷和功 (1992) 陸上キャンパス水槽を用いたクルマエビ中間育成-飼育密度の違いが育成結果に及ぼす影響. 平成3年度三重栽セ事報, 52-57.
- 岡田一宏・辻ヶ堂諦・渡部公仁・上谷和功・浮永久 (1993) 陸上水槽によるクルマエビの中間育成と歩脚障害の回復および進行. 三重水技研報, (5):35-46.
- 岡田房之 (1978) クルマエビ養殖と管理. 養殖, 15(2):99-103.
- 岡田房之 (1978) クルマエビ-中間育成. 養殖, 15(12):98-99.
- 岡田稔 (1969) アメリカの水産利用. 東海区水研. さかな, (4):6-11.
- 岡田稔 (1973) チリ,ペルーの水産利用. 東海区水研. さかな, (11):57-65.
- OKADA S., NUR-E-BORHAN S.A. and K.YAMAGUCHI (1994) Carotenoid composition in the exoskeleton of commercial black tiger prawns. Fish.Sci., 60(2):213-215.
- OKADA S., NUR-E-BORHAN S.A., WATABE S. and K.YAMAGUCHI (1995) Changes in body color appearance of the black tiger prawn *Penaeus monodon* by the varied composition of carotenoids soluble as carotenoprotein and remaining insoluble after collagenase treatment for the muscular epithelium. Fish.Sci., 61(6):964-967.
- 岡田立三郎 (1984) エビ・蝦・PRAWNS and SHRIMPS. 水産振興, 18(7):10-47.
- 岡田敏弘・尾上静正 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(クルマエビ). 平成9年度大分海研浅海事報, 97-100.
- 岡田敏弘・尾上静正 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(クルマエビ). 平成10年度大分海研浅海事報, 100-102.
- 岡田敏弘・脇谷修治 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(クルマエビ). 平成11年度大分海研浅海事報, 88-89.
- 岡田剛・玉井忠和・木原稔 (1997) 養魚への免疫賦活物質利用の可能性, オリゴ糖類. 養殖, 34(11):122.
- 岡市友利 (1985) 瀬戸内海の赤潮. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.680-690.
- 岡市友利 (1985) 瀬戸内海の姿. 1.自然と環境. 小坂淳夫編, 瀬戸内海の環境. 恒星社厚生閣, pp.18-37.
- 岡市友利 (1996) 瀬戸内海の赤潮40年. 瀬戸内海, (6):22-36.
- 岡本明・関山博史・森川晃 (1995) 伊万里湾におけるクルマエビの分布と移動. 長崎水試研報, (21):17-24.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1988) 昭和62年度クルマエビ種苗生産. 昭和62年度静岡栽セ事報, 14-17.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1988) クルマエビ未産卵親エビについて. 昭和62年度静岡栽セ事報, 18-19.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1988) クルマエビ量産水槽中のポストラーバ期幼生の計数に関する検討. 昭和62年度静岡栽セ事報, 20-24.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1988) クルマエビ量産環境条件の日周変化についての検討. 昭和62年度静岡栽セ事報, 25-30.
- 岡本一利 (1988) 種苗生産の10年.クルマエビ. 静岡研栽培漁業センターはじめの10年, 27-35.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1989) 昭和63年度クルマエビ種苗生産. 昭和63年度静岡栽セ事報, 12-15.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1989) クルマエビ種苗生産方式について. 昭和63年度静岡栽セ事報, 16.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1989) クルマエビの採卵と未産卵親エビ再利用に関する検討. 昭和63年度静岡栽セ事報, 17-18.
- 岡本一利・石渡敏郎 (1989) クルマエビ種苗生産の餌料系列に関する検討. 昭和63年度静岡栽セ事報, 19.
- 岡本一利・山本義久 (1989) クルマエビ種苗生産の手引き. 静岡栽セ・静岡温水研セ, 48 pp.
- 岡本一利 (1991) 平成2年度クルマエビ種苗生産結果. 静岡栽セ. なむら, (50):3-4.
- 岡本一利・藤田信一・三溝宏 (1991) クルマエビの卵ならびに幼生の成長に及ぼす水温の影響. 静岡水試研報, (26):35-41.
- 岡本一利 (1992) クルマエビ種苗生産始まる. 静岡栽セ. なむら, (66):4.
- 岡本一利 (1992) クルマエビ種苗生産状況. 静岡栽セ. なむら, (67):3.
- 岡本一利 (1992) 種苗生産から.クルマエビ種苗生産状況. 静岡栽セ. なむら, (69):3.
- 岡本一利 (1992) 平成4年度クルマエビ種苗生産結果. 静岡栽セ. なむら, (70):1-2.
- 岡本一利 (1993) クルマエビの種苗生産, 中間育成, 漁獲回収過程における効率についての考察. 静岡水試研報, (28):29-40.
- 岡本一利 (1994) クルマエビの種苗生産水槽中における水質環境条件の日周変化(短報). 静岡水試研報, (29):45-48.
- 岡本一利 (1994) クルマエビの尾節にあらわれた奇型(短報). 静岡水試研報, (29):49-50.
- 岡本一利・柳瀬良介・石渡敏郎 (1994) クルマエビ種苗生産における尾数計数法の検討および計数結果に影響する幼生の行動. 栽培技研, 22(2):93-97.
- 岡本一利・鈴木基生・伊藤円・渥美敏・吉川昌之・野田浩之・青島秀治・阿久津哲也 (1997) クルマエビ種苗生産におけるPAV防除対策. 平成8年度静岡水試事報, 181-182.
- 岡本一利・鈴木基生・渥美敏 (1998) PCR法を用いたPRDV遺伝子の検出による種苗生産用親クルマエビの選別実施事例. 栽培技研, 26(2):103-105.

- 岡本一利・鈴木基生・鈴木邦弘 (1998) 漁獲されたクルマエビからの PRDV の検出. 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.107.
- 岡本一利・鈴木基生・鈴木邦弘 (1998) クルマエビ種苗生産における PAV 防疫対策. 平成 9 年度静岡水試事報, 190.
- 岡本一利・鈴木基生 (1998) 天然海域におけるクルマエビ PRDV 保有状況の把握に関する研究. 平成 9 年度静岡水試事報, 191-192.
- 岡本一利・鈴木基生 (1999) 浜名湖および遠州灘で採捕されたクルマエビからのクルマエビ急性ウイルス血症の原因ウイルス penaeid rod-shaped DNA virus の検出. 水産増殖, 47(2):299-302.
- 岡本一利 (1999) 静岡県浜名湖におけるくるまえびの種苗放流数と漁獲量の関係(短報). 静岡水試研報, (34):45-47.
- 岡本一利・鈴木基生・田中寿臣 (1999) 天然海域におけるクルマエビ PRDV 保有状況の把握に関する研究. 平成 10 年度静岡水試事報, 171-172.
- 岡本信明・尾崎照遵 (2000) DNA マーカーを利用した新しい水産育種. 隆島史夫編, 次世代の水産バイオテクノロジー. 成山堂書店, pp.42-53.
- 岡本知之 (1999) 米どころ中央タイにおしよせる第 2 のエビ養殖の波. 国境なき時代の台所から-見えない構図-グローバルリゼーション. オルタートレードジャパン, pp.34-47.
- 岡本俊治・柳澤豊重 (1997) 栽培漁業振興事業調査事業. 平成 8 年度愛知水試業報, 147.
- 岡本俊治・三宅佳亮・松村貴晴 (1998) PAV 検査における PCR 診断に関する手法等の改良. 平成 9 年度愛知水試業報, 52-53.
- 岡本俊治・柳澤豊重 (1998) 栽培漁業振興事業調査事業. 平成 8 年度愛知水試業報, 149-150.
- 岡本俊治 (1999) 栽培漁業振興調査. 平成 10 年度愛知水試業報, 147-148.
- 岡本義久・小中邦夫 (1963) クルマエビ新漁場開発試験. 昭和 36・37 年度大分水試事報, 69-78.
- 岡内正典・平野保男 (1985) クルマエビ幼生に対するテトラセルミス *T.tetrathele* の餌料価値. 昭和 60 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.55.
- 岡内正典・平野保男・矢田三喜夫 (1985) クルマエビ幼生の珪藻代替餌料としてのテトラセルミスについて. 昭和 59 年度三重水試事報, 69-73.
- 岡内正典・平野保男 (1986) クルマエビ幼生におけるテトラセルミスの栄養価(英文). 養殖研研報, (9):29-33.
- 岡内正典 (1992) 水産餌料としての利用. 山口勝己編, 微細藻類の利用. 水産学シリーズ, (91):75-88.
- 岡内正典・小林正裕・水上譲 (1996) 植物プランクトンによるクルマエビ類幼生飼育池の水質管理法. 研究ジャーナル, 19(3):19-25.
- 岡山県 (1989) 牛窓, 番田, 高島地区保護水面における環境及び生物調査(1988, 抄録). 岡山水試報, (4):100-101.
- 岡山県農林部水産課 (1994) 岡山県寄島地区地先型増殖場造成事業. 水産の研究, 13(5):104-112.
- 岡山県水産試験場 (1969) 昭和 45 年度クルマエビ種苗放流実践漁場設定調査報告書, 1-18.
- 岡山県水産試験場 (1971) 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1-34.
- 岡山県水産試験場 (1980) 昭和 54 年度大規模増殖場開発事業調査報告書(児島地先水域のクロダイ). 293 pp.
- 岡山県水産試験場 (1987) 昭和 59-61 年度大規模増殖場開発事業調査報告書(児島地先水域のクロダイ). 162 pp.
- 岡山県水産試験場 (1988) 昭和 62 年度和気・邑久地区人工礁漁場造成事業調査報告書, 143 pp.
- 岡山県水産試験場 (1989) 昭和 63 年度真鍋島地区広域型増殖場造成事業調査報告書, 155 pp.
- 岡山県水産試験場 (1995) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (14):7-8.
- 岡山県水産試験場 (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):8-9.
- 岡山県水産試験場 (1997) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査(クルマエビ放流効果調査, 抄録). 岡山水試報, (12):64.
- 岡山県水産試験場 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査(クルマエビ放流効果調査, 抄録). 岡山水試報, (15):53.
- 岡山県水産試験場 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査(クルマエビ放流効果調査, 抄録). 岡山水試報, (16):65-66.
- 岡山県水産試験場 (2001) 岡山県. 平成 11・12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 岡山 1-岡山 4.
- 岡山県水産試験場栽培漁業センター(2001) 各府県調査報告(岡山県). 平成7~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書 I. (瀬戸内海東部ブロック), 149-154.
- 岡崎孝博・渡辺健一 (1998) 平成 8 年度放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業(抄録). 平成 8 年度徳島水試事報, 48-49.
- 岡崎孝博・渡辺健一 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業. 平成 9 年度徳島水試事報, 33-35.
- 岡崎孝博・斎浦耕二 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業. 平成 10 年度徳島水試事報, 41-42.
- 岡崎孝博・斎浦耕二 (2000) 紀伊水道における小型機船底びき網による採集調査. 平成 10 年度徳島水試事報, 44-46.
- 沖縄県車海老生産協同組合 (1987) 第 4 回全日本くるまえび養殖シンポジウム. 養殖, 24(4):96-97.
- 沖縄県農林水産部水産振興課 (1992) 沖縄県板馬地区養殖場造成事業. 水産の研究, 11(4):112-115.

- 沖縄県農林水産部水産振興課 (1993) 沖縄県仲里地区クルマエビ養殖場. 水産の研究, 12(5):102-106.
- 沖縄県水産試験場・養殖編集部 (2000) クルマエビ,モズクに次ぐ新魚介類の量産化へ. 養殖, 37(12):66-69.
- 沖縄養殖センター・養殖編集部 (2001) 好適環境を追究しクルマエビを時速生産. 養殖, 38(4):82-84.
- 奥村剛一・山本修太・長井富美子・吉元健司・濱里一明・大村浩・兼光明男・山野恵祐・井上潔 (2000) 免疫学的手法を応用したPRDVの検出. 平成12年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.8.
- 奥村誠一・田中誠司・土井隆臣・橋高二郎 (1992) クルマエビのノウブリウス幼生期における染色体標本作成法. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.217.
- 奥村誠一・三島基樹・橋高二郎・山森邦夫 (1993) サイトカラシンBによるクルマエビ染色体の倍数化について. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.190.
- OKUMURA T., NAKAMURA K., AIDA K. and I.HANYU (1989) Hemolymph ecdysteroid levels during the molt cycle in the kuruma prawn *Penaeus japonicus*. 日水誌, 55(12):2091-2098.
- 奥村卓二 (2000) 水生生物の内分泌系におよぼす影響の実験的検証とその問題点. 甲殻類. シンポジウム, 水産環境における内分泌攪乱物質(環境ホルモン). 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.300.
- 奥村卓二 (2000) 水生生物の内分泌系におよぼす影響の実験的検証とその問題点. 甲殻類(懇話会ニュース). 日水誌, 66(5):935.
- 奥山芳生 (2001) 利用実態把握調査(灘別県別漁業種類別の漁獲量, 漁業種類別漁獲量の割合, 平均体重と漁獲尾数の推定). 平成7~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書I.(瀬戸内海東部ブロック), 1-9.
- O'LEARY C.D. and A.D.MATHEWS (1990) Lipid class distribution and fatty acid composition of wild and farmed prawn, *Penaeus monodon* (FABRICIUS). Aquaculture, 89(1):65-81.
- 尾島孝男・豊口敏久・西田清義 (1989) クルマエビトロポニンの単離と生化学的性質. 平成元年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.239.
- 尾島孝男 (1989) 調節系タンパク質. トロポニンとトロポミオシン. 新井健一編, 水産動物筋肉タンパク質の比較生化学. 水産学シリーズ, (76):51-61.
- 小嶋吉雄・高井明徳 (1995) 魚の世界. 裳華房, 160 pp.
- OMAR I.H. (1994) An evaluation of the Malaysian aquaculture industry (1971-1990). SHANG Y.C., LEUNG P.S., SU M.S. & I.C.LIAO eds., Socioeconomics of Aquaculture. TML Conference Proceeding, (4):69-75.
- OMONDI J.G. and J.R.STARK (1995) Some digestive carbohydrases from the midgut gland of *Penaeus indicus* and *Penaeus vannamei* (Decapoda: Penaeidae). Aquaculture, 134(1-2):121-135.
- OMONDI J.G. and J.R.STARK (1996) *In vitro* carbohydrate digestibility tests in the Indian white shrimp, *Penaeus indicus*. Aquaculture, 139(3-4):315-328.
- 小長谷史郎 (1994) 食品保全-鮮度. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):360-363.
- ONG J.E. (1982) Mangroves and aquaculture in Malaysia. AMBIO, 11(5):252-257.
- ONG K.S., LION P.C. and H.HANAFI (1993) The development of marine prawn/shrimp farming in Malasia. ASEAN Fisheries Federation Malaysia 5th.Council Meeting and Business Conference, pp.31-37.
- 恩田幸雄 (1981) 栽培漁業の現状と展望. 水産振興, 15(7):1-24.
- 鬼塚正治 (1914) 車海老ノ習性並ニ其蓄養法. 水研誌, (9):509-540.
- 御宿昭彦・幡谷雅之・大西慶一・村松高明・渥美敏・青山雅俊・長谷川貢・橋本忠男 (1986) 放流技術開発事業(太平洋海域・ヒラメ). 昭和60年度静岡水試事報, 167-173.
- 御宿昭彦(1987) 磯根の中の砂浜. 伊豆分場だより, (226):1.
- 小野春哉・中村薫 (1993) クルマエビの内骨格(英文). 鹿大水産紀要, 42:47-50.
- 小野征一郎 (1972) クルマエビ養殖業の経営分析①. 養殖, 9(9):44-47.
- 小野征一郎 (1972) クルマエビ養殖業の経営分析②. 特集:クルマエビ養殖の現状(2). 養殖, 9(10):50-56.
- 小野征一郎 (1990) 起死海生-これからの魚,はるかな鯨. 日本経済評論社.食の昭和史, (3):1-264.
- 小野征一郎 (1991) 韓国の水産物輸出. 水産振興, 25(1):1-35.
- 小野征一郎 (1992) 水産物需要. 小野征一郎・堀口健治編, 日本漁業の経済分析-縮小と再編の理論. 農林統計協会, pp.12-26.
- 小野征一郎 (1992) クルマエビ養殖業の経営分析②. 養殖, 9(10):50-57.
- 小野征一郎 (1994) さかな消費. 東京水大第8回公開講座編集委員会編, 暮らしとさかな-水産食品読本. 成山堂書店, pp.1-12.
- 小野征一郎 (1994) 経済-経済. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):384-400.
- 小野征一郎 (1998) 200カイリ体制.地域漁業学会編, 漁業考現学-21世紀への発信. 農林統計協会, pp.3-15.
- 小野征一郎 (1999) 水産物のフードシステム. 小野征一郎, 水産物のフードシステム. 農林統計協会, pp.1-13.
- 小野蘭山 (1991) 本草綱目啓蒙3. 平凡社. 東洋文庫, (540):1-335.

- 尾上静正 (1992) 蒲江町名護屋湾でのクルマエビ放流にともなう刺網漁業振興の可能性-I. 大分県水産関係研究者協議会研究発表要旨-2. p.28.
- 尾上静正 (1994) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査(平成4年度). 平成3・4年度大分浅海漁試事報, 50-56.
- 尾上静正・石川祐司 (1994) 別府湾北部地区増殖場効果調査(平成4年度). 平成3・4年度大分浅海漁試事報, 79-81.
- 尾上静正 (1994) 人工礁漁場造成事業効果調査(平成4年度). 平成3・4年度大分浅海漁試事報, 109-111.
- 尾上静正 (1995) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査. 平成5年度大分浅海漁試事報, 49-53.
- 尾上静正 (1995) 別府湾北部増殖場効果調査. 平成5年度大分浅海漁試事報, 85-87.
- 尾上静正 (1995) 人工礁漁場造成事業効果調査. 平成5年度大分浅海漁試事報, 93-100.
- 尾上静正 (1996) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査. 平成6年度大分浅海漁試事報, 56-60.
- 尾上静正・岡田敏弘 (2000) 複合的資源管理型漁業推進対策事業. 1.かかれい刺網・小型底曳網漁業. 平成10年度大分海研浅海事報, 103-119.
- 小野山弘・楽敦司・永山博敏 (1997) クルマエビ中間育成事業. 平成6・7年度兵庫裁協事報, 105-106.
- 大林萬鋪・井口政紀・矢野 仁 (1981) スミチオン乳剤(MEP-50)の空中散布がクルマエビ稚仔に及ぼす影響. 香川水試事報, (18):77-82.
- 大林萬鋪 (1985) 燧灘東部干潟域生物環境調査. 1.クルマエビ標識放流試験. 昭和58年度香川水試事報, 45-48.
- 大林萬鋪・濱本俊策・井口政紀・高木俊祐・横川浩治 (1985) 保護水面管理調査事業. 昭和58年度香川水試事報, 93-94.
- 大林萬鋪 (1985) 燧灘東部干潟域生物環境調査. 1.クルマエビ標識放流試験. 昭和59年度香川水試事報, 55-62.
- 大林萬鋪・山賀賢一・川西 敦 (1986) 燧灘東部干潟域生物環境調査. 1.クルマエビ放流試験. 昭和60年度香川水試事報, 35-46.
- 大上皓久 (1980) クルマエビ幼生に発生した真菌症について. 静岡裁セ. なむら, (8):1-2.
- 大上皓久 (1991) 平成3年度の事業の進め方. 静岡裁セ. なむら, (51):1-2.
- 大上皓久 (1991) 種苗生産業務から. 静岡裁セ. なむら, (52):3-4.
- 大上皓久 (1992) 平成4年度の事業の進め方. 静岡裁セ. なむら, (63):1-2.
- 大神元治・浦田勝喜・鎌賀泰文・南部豊揮・吉田好一郎・神戸和生 (1982) 人工礁漁場造成事業適地調査. 昭和56年度熊本水試事報, 36.
- 大橋洋一・野村元・吉田敏泰・皆川哲夫・町田洋一・橋本達夫・角三繁夫 (1988) クルマエビ種苗生産事業. 昭和61年度石川増試裁セ事報, 14-18.
- 大橋洋一・福島広行・吉田敏泰・皆川哲夫・角三繁夫 (1989) クルマエビ種苗生産事業. 昭和62年度石川増試裁セ事報, 11-13.
- 大橋洋一・福島広行・角三繁夫 (1989) クルマエビ放流追跡調査. 昭和62年度石川増試裁セ事報, 39-45.
- 大平剛・渡辺俊樹・長沢寛道・会田勝美 (1997) クルマエビの血糖上昇ホルモン(CHH)と脱皮抑制ホルモン(MIH)の遺伝子発現の解析. 平成9年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.78.
- 大平剛・渡辺俊樹・長沢寛道・園部浩之・会田勝美 (1998) クルマエビ脱皮抑制ホルモンの組み換え体の作成. 平成10年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.47.
- Ooishi S. (1964) Results of Amami-expedition. 2. Invertebrates. Rep. Fish. Mie Univ., 5(1):153-188.
- 大分県 (1969) 昭和43年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場調査報告ならびに検討会資料(謄写印刷). 1-24.
- 大分県 (1976) 放流および追跡調査. 昭和50年度放流技術開発調査事業クルマエビ班総括報告書, 7-8.
- 大分県・福岡県・山口県 (1976) 生産効果. 昭和50年度放流技術開発調査事業クルマエビ班総括報告書, 11.
- 大分県・福岡県・山口県 (1976) 問題点と来年度への展開. 昭和50年度放流技術開発調査事業クルマエビ班総括報告書, 14.
- 大分県 (1984) 大分県地域栽培養殖推進活動パイロット報告書, 1-33.
- 大分県 (1999) クルマエビ. 平成10年度栽培漁業効率化推進技術開発事業報告書, 52-54.
- 大分県 (2000) クルマエビ. 平成11年度栽培漁業効率化推進技術開発事業報告書, 69-71.
- 大分県 (2000) 大分県水産研究百年のあゆみ. 大分県海洋水産研究センター, 191 pp.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1981) 種苗生産事業. 3.クルマエビ. 昭和55年度大分漁業公社事報, 9-14.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和57年度大分漁業公社事報, 5-9.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和59年度大分漁業公社・大分裁セ事報, 4-9.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和60年度大分漁業公社・大分裁セ事報, 4-10.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1988) クルマエビ種苗生産. 昭和61年度大分漁業公社・大分裁セ事報, 5-11.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和62年度大分漁業公社・大分裁セ事報, 4-6.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1990) クルマエビ種苗生産. 昭和63年度大分漁業公社・大分裁セ事報, 4-5.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1991) クルマエビ種苗生産. 平成元年度大分漁業公社事報, 3-5.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1992) クルマエビ種苗生産. 平成2年度大分漁業公社事報, 3-4.
- 大分県漁業公社国東事業場 (1993) クルマエビ種苗生産. 平成3年度大分漁業公社事報, 3-5.

大分県漁業公社国東事業場 (1996) クルマエビ種苗生産. 平成4年度大分漁業公社事報, 3-10.

大分県漁業公社国東事業場 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成6年度大分漁業公社事報, 2-6.

大分県日出町漁業協同組合 (1987) クルマエビの放流効果について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第1分冊, 248-249.

大分県海洋水産研究センター (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):36-39.

大分県海洋水産研究センター (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (17):38-40.

大分県浅海漁業試験場 (1955) エビ資源調査. 昭和29年度大分浅海漁試事業報告, (1):34-49.

大分県浅海漁業研究所 (1955) 昭和29年度瀬戸内海漁場生産力委託研究実施報告書並に収支決算書. 業績その他資料2, (7):1-9.

大分県浅海漁業研究所 (1956) 昭和30年度瀬戸内海漁場生産力委託研究実施報告書並に収支決算書. 昭和30年度大分浅海業績その他資料, 3 (6):1-8.

大分県浅海漁業研究所 (1956) 豊前海の主要漁業である小型底びき漁具漁法について. 昭和30年度大分浅海業績その他資料, 3 (1):1-8.

大分県水産試験場高田分場 (1956) 干がた定置(笹干見)漁業調査. 昭和30年度大分高田分場事報, 64-77.

大分県水産試験場高田分場 (1957) 瀬戸内海漁場生産力調査報告書. 昭和31年度業績その他資料, 3 (8):1-4.

大分県水産試験場高田分場 (1957) エビ類漁業並に生態調査. A.クルマエビ生態調査. 昭和31年度大分県高田分場事報, 20-23.

大分県水産試験場高田分場 (1957) エビ類漁業並に生態調査. B.手ぐり網漁業調査. 昭和31年度大分県分場事報, 23-33.

大分県水産試験場高田分場 (1958) 小型底びき網漁獲物組成測定資料. 昭和32年度業績その他資料, 3 (2):1-3.

大分県浅海漁業試験場 (1967) 昭和41年度クルマエビ追跡調査研究会報告書. 昭和41年度大分浅海調査研究報告, 6(2):1-19.

大分県浅海漁業試験場 (1967) 昭和41年度クルマエビ追跡調査研究会報告書. 昭和41年度大分浅海業績その他資料, 5(2):1-15.

大分県浅海漁業試験場 (1968) 昭和42年度クルマエビ追跡調査研究会報告書. 昭和42年度大分浅海調査研究報告, 7(2):1-21.

大分県浅海漁業試験場 (1969) 昭和45年度クルマエビ種苗放流実践漁場設置調査中間報告書, 6-19.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 人工砂浜プールによるクルマエビの保護育成について(謄写印刷), 1-33.

大分県水産試験場高田分場 (1971) クルマエビ養殖試験(38年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 89-90.

大分県水産試験場高田分場 (1971) クルマエビ人工採苗試験(39~41年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 90-93.

大分県浅海漁業試験場 (1971) クルマエビ人工ふ化放流ならびに養殖実用化試験(42・43年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 93-97.

大分県浅海漁業試験場 (1971) ニジマスの海水循環ろ過飼育試験(昭和40年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 101-103.

大分県浅海漁業試験場 (1971) クルマエビ蓄養試験(37年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 87-89.

大分県浅海漁業試験場 (1971) クルマエビ稚仔放流事業(38・39年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 116-120.

大分県浅海漁業試験場 (1971) クルマエビ放流効果追跡調査(41・42年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 120.

大分県浅海漁業試験場 (1971) クルマエビ実践漁場設定調査(43年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 120.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 瀬戸内海漁業基本調査.底びき漁業陸上調査(39-41年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 120-147.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 瀬戸内海漁業基本調査.内海西部底びき網漁業調査(42年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 147-149.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 瀬戸内海漁業基本調査.底びき漁業陸上調査(43年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 149-155.

大分県浅海漁業試験場 (1971) PCPの水産生物に対する毒性について(42年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 186-187.

大分県浅海漁業試験場 (1971) PCPの水産生物に対する毒性について(43年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 197-200.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 水産業改良普及事業.クルマエビ蓄養試験(39年度). 昭和34-43年度大分浅海事報, 231-232.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 水産業改良普及事業.クルマエビ養殖試験. 昭和34-43年度大分浅海事報, 232-233.

大分県浅海漁業試験場 (1971) 昭和42年度における栽培漁業事業について. 昭和42年度大分浅海業績その他資料, 5(8):1-4.

- 大分県浅海漁業試験場 (1971) 昭和 43 年度九州・山口各県水試連絡協議会, かん水分科会資料, 昭和 43 年度大分浅海漁試業績その他資料, 6(3):1-18.
- 大分県浅海漁業試験場 (1971) 種苗生産の現状と問題点. 昭和 43 年度大分浅海漁試業績その他資料, 6(7):1-3.
- 大分県浅海漁業試験場 (1971) 昭和 43 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告ならびに検討会資料. 昭和 43 年度大分浅海調査研究報告, 7(1):1-33.
- 大分県浅海漁業試験場 (1971) 昭和 43 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告追録. 昭和 43 年度大分浅海調査研究報告, 7 (4):1-8.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 昭和 46 年度瀬戸内海栽培漁業事業調査報告書(クルマエビ育成放流および魚類放流技術開発調査). 昭和 46 年度大分浅海調査研究報告, 8(4):1-61.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 瀬戸内海栽培漁業事業実践漁場設定調査報告書. 昭和 45 年度大分浅海調査研究報告別冊, 1(1):1-21.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 瀬戸内海栽培漁業事業実践漁場設定調査報告書(昭和 43~45 年度総括). 昭和 45 年度大分浅海調査研究報告別冊, 1 (1):1-21.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) クルマエビ人工採苗ならびに実用化試験. 昭和 44・45 年度大分浅海事報, 71-83.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 瀬戸内海栽培漁業事業クルマエビ稚仔飼育ならびに放流(44 年度). 昭和 44・45 年度大分浅海事報, 85.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 瀬戸内海栽培漁業事業クルマエビ稚仔飼育ならびに放流(45 年度). 昭和 44・45 年度大分浅海事報, 86.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 瀬戸内海漁業基本調査(44 年度). 小型底びき網漁業調査 昭和 44・45 年度大分浅海事報, 100-104.
- 大分県浅海漁業試験場 (1972) 瀬戸内海漁業基本調査(45 年度). 小型底びき網漁業調査. 昭和 44・45 年度大分浅海事報, 105-110.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) クルマエビ養殖試験(47 年度). 昭和 46・47 年度大分浅海事報, 26-27.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 瀬戸内海栽培漁業事業(46 年度). 昭和 46・47 年度大分浅海事報, 28-34.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 瀬戸内海栽培漁業事業(47 年度). 昭和 46・47 年度大分浅海事報, 35-37.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 瀬戸内海漁業基本調査(小型底びき網, 47 年度) 昭和 46・47 年度大分浅海事報, 115-136.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 藻場保護水面調査(47 年度). 昭和 46・47 年度大分浅海事報, 137-147.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 西瀬戸地域漁業調査:生物相調査(46年度). 昭和46・47年度大分浅海事報, 146-180.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 西瀬戸地域漁業調査:生物相調査(47年度). 昭和46・47年度大分浅海事報, 181-202.
- 大分県浅海漁業試験場 (1974) 地域内における水産業の現状と活動の方向. 昭和46-47年度大分浅海事報, 336-337.
- 大分県浅海漁業試験場 (1975) 瀬戸内海栽培漁業事業(クルマエビ育成・放流). 昭和 48 年度大分浅海事報, 27-28.
- 大分県浅海漁業試験場 (1975) 瀬戸内海漁業基本調査(小型底曳網漁業調査). 昭和 48 年度大分浅海事報, 47-54.
- 大分県浅海漁業試験場 (1975) 地域内における漁業の概況. 昭和 48 年度大分浅海事報, 85-86.
- 大分県浅海漁業試験場 (1975) 漁場環境関係. 姫島クルマエビ養殖場改造事前調査. 昭和 48 年度大分浅海漁試事報, 63-66.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 特定水産動物育成調査事業(クルマエビ). 昭和 43 年度大分浅海業績その他資料, 8 (10):1-18.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 特定水産動物育成調査事業(クルマエビ)基礎条件調査. 昭和 49 年度大分浅海事報, 79-95.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 漁場環境関係. 姫島クルマエビ養殖場改造事前調査. 大分浅海漁試調研報, (1):1-17.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 漁場環境関係. 姫島クルマエビ養殖場改造事前調査. 昭和 49 年度大分浅海漁試事報, 136-148.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 豊前海におけるアカガイ, トリガイの資源分布調査. 昭和 49 年度大分浅海事報, 53-62.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 豊前海における貝桁網による漁獲物資源の分布調査. 昭和 49 年度大分浅海事報, 63-72.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 瀬戸内海漁業基本調査(小型底曳網漁業調査). 昭和 49 年度大分浅海事報, 97-108.
- 大分県浅海漁業試験場 (1976) 地域内における漁業の概況. 昭和 48 年度大分浅海事報, 151-152.
- 大分県浅海漁業試験場 (1977) 放流技術開発調査事業(クルマエビ). 昭和 50 年度大分浅海事報, 88-91.
- 大分県浅海漁業試験場 (1977) 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書(大分県), 1-16.

大分県浅海漁業試験場・福岡県豊前水産試験場・山口県内海水産試験場（1977）総括報告．昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ班総合報告書，1-11.

大分県浅海漁業試験場（1977）各県報告.大分県. 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ総合報告書，1-28.

大分県浅海漁業試験場（1979）九州・山口各県水試かん水増殖分科会資料．昭和 43 年度大分浅海業績その他資料，8(2):1-5.

大分県浅海漁業試験場（1979）昭和 52 年度九州・山口各県水試かん水増殖分科会資料．昭和 43 年度大分浅海業績その他資料，8(6):1-4.

大分県浅海漁業試験場（1979）特定水産郷物育成事業報告書(クルマエビ)．昭和 51 年度大分浅海調査研究報告，10 (4):1-33.

大分県浅海漁業試験場（1979）特定水産郷物育成事業報告書(クルマエビ)．昭和 51 年度大分浅海事報，47-52.

大分県浅海漁業試験場（1979）普及指導の概要．昭和 52 年度大分浅海事報，121-128.

大分県浅海漁業試験場（1980）豊前海長洲地区におけるクルマエビ種苗放流と漁獲の変動．昭和 53 年度大分浅海業績その他資料，9(5):1-14.

大分県浅海漁業試験場（1980）豊前海漁業の手引．昭和 53 年度大分浅海業績その他資料，9(12):1-19.

大分県浅海漁業試験場（1980）昭和 53 年度新技術実証事業報告．昭和 53 年度大分浅海業績その他資料，9 (13):1-11.

大分県浅海漁業試験場（1980）普及指導の概要.地域内における漁業の概要．昭和 53 年度大分浅海事報，131-139.

大分県浅海漁業試験場（1981）特定水産動物育成事業報告書(クルマエビ・長洲地区)．昭和 51 年度大分浅海調査研究報告，13 (3):1-47.

大分県浅海漁業試験場（1981）貝けた網による漁業資源調査．昭和 54 年度大分浅海業績その他資料 9，(3):1-4.

大分県浅海漁業試験場（1981）昭和 54 年度九州・山口かん水増殖分科会資料．昭和 54 年度大分浅海業績その他資料，9(5):1-4.

大分県水産試験場（1903）缶詰製造試験．明治 34 年度大分水試事報，25.

大分県水産試験場（1914）エビ缶詰製造輸出試験．明治 45 年度大分水試事報，21-28.

大分県水産試験場（1915）エビ缶詰製造輸出試験．大正 2 年度大分水試事報，49-108.

大分県水産試験場（1924）げんしき網漁業試験．大正 11 年度大分水試業報，26-27.

大分県水産試験場（1924）蓄養クルマエビの発動機付漁船の運搬試験．大正 11 年度大分水試業報，63-65.

大分県水産試験場（1926）クルマエビ輸送試験．大正 13 年度大分水試業報，109-111.

大分県水産試験場（1930）クルマエビ蓄養試験．昭和 2・3 年度大分水試事報，113-119.

大分県水産試験場（1930）クルマエビ蓄養試験．昭和 4・5 年度大分水試事報，67-71.

大分県水産試験場（1932）豊前海に於ける打瀬網漁獲物調査概要．昭和 4・5 年度大分水試事報，220-227.

大分県水産試験場（1969）瀬戸内海漁業基本調査.2.小型底びき網漁業調査．昭和 43 年度大分水試事報，11-12.

大分県水産試験場（1970）重要魚類生態調査．昭和 44 年度大分水試事報，10-11.

大分県水産試験場（1966）豊後水道におけるクルマエビの生態調査．大分水試報，1-11.

大分県水産試験場（1968）豊後水道におけるクルマエビの生態調査．大分水試報，1-12.

大分県水産試験場（1969）瀬戸内海漁業基本調査.1.クルマエビ生態調査．昭和 43 年度大分水試事報，10-11.

大分県水産試験場（1969）瀬戸内海漁業基本調査.2.小型底びき網漁業調査.昭和 43 年度大分水試事報，11-12.

大分県水産試験場（1969）増殖技術改良試験.クルマエビ小割生養殖試験．昭和 43 年度大分水試事報，32.

大分県水産試験場（1970）重要魚類生態研究．昭和 44 年度大分水試事報，10-11.

大分県水産試験場（1970）瀬戸内海漁業基本調査.1.小型底びき網漁業調査.クルマエビ生態調査．昭和 44 年度大分水試事報，17-18.

大分県水産試験場（1973）瀬戸内海漁業基本調査.小型底びき網漁業調査.昭和 45 年度大分水試事報，8-9.

大分県水産試験場（1973）瀬戸内海漁業基本調査.1.小型底びき網漁業調査．昭和 46 年度大分水試事報，47-48.

大分県水産試験場（1973）移動水産試験場．昭和 46 年度大分水試事報，76-77.

大分県水産試験場（1973）昭和 47 年度クルマエビ実証漁場調査結果報告書．昭和 47 年度大分水試事報，1-53.

大分県水産試験場（1973）昭和47年度クルマエビ実証漁場調査結果報告書．昭和48年度大分水試調研報，(8):1-55.

大分県水産試験場（1975）底魚資源調査．昭和 48 年度大分水試事報，13-15.

大分県水産試験場（1975）瀬戸内海漁業基本調査．昭和 49 年度大分水試事報，10-11.

大分県水産試験場（1975）底魚資源調査．昭和 49 年度大分水試事報，17-18.

大分県水産試験場（1975）昭和 47 年度クルマエビ実証漁場調査結果報告書．昭和 49 年度大分水試事報．

大分県水産試験場（1976）瀬戸内海漁業基本調査．昭和 50 年度大分水試事報，8.

大分県水産試験場（1977）瀬戸内海漁業基本調査．昭和 51 年度大分水試事報，5-6.

大分県水産試験場（1977）移動水産試験場．昭和 51 年度大分水試事報，39-40.

大分県水産試験場（1979）移動水産試験場．昭和 53 年度大分水試事報，68-69.

大分県水産試験場（1980）漁業環境維持保健対策事業.有害水産動物駆除．昭和 54 年度大分水試事報，39-42.

- 大分県水産試験場 (1994) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (13):33-35.
- 大分県水産試験場 (1995) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (14):31-32.
- 大分県水産試験場 (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (15):35-37.
- 大分県臼杵市漁業協同組合 (1987) クルマエビの中間育成放流事業について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録, 第 1 分冊, 248-249.
- 大岩靖之・矢野純・矢吹光 (1977) クルマエビの放流と効果-I. 罟網による場合. 愛媛水試研報, (1):1-8.
- 大岩靖之・河野慈敬 (1980) 種苗減耗要因調査. 昭和 53 年度愛媛水試事報, 173-175.
- 大岩靖之・鶴井啓司・武田晃一 (1981) アオノリ駆除用クエン酸製剤の安全性に関する実験. 昭和 54 年度愛媛水試事報, 146-149.
- 大岩靖之・河野慈敬 (1981) 種苗減耗要因調査. 昭和 54 年度愛媛水試事報, 146-150.
- 大川輝久・真鍋寛定 (1988) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 62 年度香川水試事報, 15-22.
- 大木光一 (1999) 話題の食品事典. 旭屋出版, 246 pp.
- 大木雅彦 (1988) 宮崎県川南地区人工礁漁場効果調査. 南西海区ブロック会議魚礁研究会報, (7):51-59.
- 大久保勝夫・田端健二・吉田勝彦・佐藤芳和・浜田七郎・永原正信・池原宏二 (1987) 1977~83 年度日本周辺海域における漁業生物の人工放射能. 東海区水研研報, (122):39-47.
- 大溝弘志 (1995) 種苗ベストガイド. 主要魚種における種苗需要動向-クルマエビ. 養殖, 32(2):93-94.
- 大溝弘志 (1995) 主要魚種における種苗需要動向. クルマエビ. 養殖, 32(2):93-95.
- 大森信 (1978) エビ類. 丸茂隆三編, 海洋プランクトン. 東京大学出版会. 海洋学講座, (10):151-171.
- 大西亮一 (1973) 秋穂実証実験漁場-海水流動. 昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):113-118.
- 大野一敏・大野敏夫 (1986) 東京湾で魚を追う. 草思社, 255pp.
- 大野恭裕・伊丹利明・鈴木喜隆・治久丸拓雄・土井健一・近藤昌和・前田稔・高橋幸則 (2001) クルマエビ血球からの一酸化窒素の産生. 平成 13 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.32.
- 大阪府 (1971) 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1~38.
- 大阪府・和歌山県・兵庫県・岡山県・香川県・徳島県 (1997) 平成 8 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ).
- 大阪府・和歌山県・兵庫県・岡山県・香川県・徳島県 (1998) 平成 9 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ).
- 大阪府・和歌山県・兵庫県・岡山県・香川県・徳島県 (1999) 平成 10 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ).
- 大阪府栽培漁業センター (1993) 事業の概要. 平成 3 年度大阪裁セ事報, 9-12.
- 大阪府栽培漁業センター (1994) 種苗生産・放流事業の概要. 平成 4 年度大阪裁セ事報, 3-5.
- 大阪府栽培漁業センター (1994) 種苗生産・放流事業の概要. 平成 5 年度大阪裁セ事報, 3-6.
- 大阪府立水産試験場 (1973) 魚介類の卵, 稚仔期における濁りの影響について. 本四架橋漁業影響調査報告書, (4):158-167.
- 大阪府立水産試験場 (1985) 漁業種類別漁獲量. 昭和 58 年度大阪水試事報, (資料):(78)-(91).
- 大阪府立水産試験場 (1987) 組合別漁業種類別漁獲量. 昭和 59 年度大阪水試事報, (資料):(78)-(91).
- 大阪府立水産試験場 (1988) 組合別漁業種類別漁獲量. 昭和 60 年度大阪水試事報, (資料):(78)-(89).
- 大阪府立水産試験場 (1997) 平成 4~8 年度総括報告. 大阪府. 平成 8 年度及び平成 4~8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査報告書(エビグループ). 大 1-大 144.
- 大阪府立水産試験場 (2001) 大阪府. 平成 11・12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 大阪 1-大阪 26.
- 大阪府立水産試験場・大阪府漁業振興基金栽培漁業場 (2001) 各府県調査報告(大阪府). 平成 7~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書 I. (瀬戸内海東部ブロック), 75-111.
- 大迫典久・佐古浩 (1994) 外国産種苗の問題点-輸入の実態(アンケート調査取りまとめ結果). 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (13):90-92.
- 大島泰雄・日高武達・猪野峻・黒田竹弥 (1966) 新春放談 養殖技術の開発と反省(下). 養殖, 3(2):36-43.
- 大島泰雄・日高武達・黒田竹弥・岩崎京至・浅野一郎 (1972) 創刊 100 号記念特別座談会-十年後の養殖業. 養殖, 9(4): 34-51.
- 大島泰雄 (1972) クルマエビ種苗放流の生産効果に関する考え方. 協会研究資料, (2):1-6.
- 大島泰雄 (1972) クルマエビ種苗放流の生産効果とその見積り. 協会研究資料, (3):1-12.
- 大島泰雄・石岡清英 (1974) 附録. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬栽協, 78-80.
- 大島泰雄・水田洋之介・長谷川泉 (1976) 瀬戸内海を中心とする海域におけるクルマエビ漁獲量と種苗放流事業の成果についての検討. 協会研究資料, (9):1-6.

- 大島泰雄 (1980) 沿岸水産資源の増殖. 農業土木学会水産土木研究会編, 水産土木ハンドブック. 緑書房, pp.107-109.
- 大島泰雄 (1983) つくる漁業の技術論. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.135-147.
- 大島泰雄 (1983) 水産増・養殖技術史料集(自上代至昭和[戦前]年代)-技法の起源とその展開. 日本栽培漁業協会, 126 pp.
- 大島泰雄監修 (1992) 水産増・養殖技術史料集(自昭和 20 年～至昭和 50 年)-技法の起源とその展開. 日本栽培漁業協会, 338 pp.
- 大杉正・平野保男 (1982) クルマエビの種苗生産. 昭和 56 年度三重裁セ事報, 19-25.
- 大隅斉・金丸彦一郎・中牟田弘典 (1998) コウライエビの種苗生産(平成 8 年度). 平成 8・9 年度佐賀斉セ事報, 44-52.
- 大隅多加志 (1992) 海洋の神秘. オーム社, 293 pp.
- 太田冬雄 (1965) 魚介肉中のチアミンの生成. 鹿大水産紀要, (14):116-120.
- 太田浩一 (1978) クルマエビ-天草地方におけるクルマエビ養殖. 養殖, 15(10):98-99.
- 太田浩一 (1978) クルマエビ-天草方式によるクルマエビ養殖. 養殖, 15(12):99-103.
- 太田静行・後藤恭三・山田順則・佐藤稔・佐藤吉徳・長町鍬二郎 (1982) 座談会 つくる養殖から売る養殖へ(下). 養殖, 19(10):44-55.
- 太田静行 (1983) 魚の調理②. 切る. 養殖, 20(1):69-72.
- 太田静行 (1983) 魚の調理③. 酢の物(1). 養殖, 20(5):64-67.
- 太田静行・高坂和久・山本忠・山本徹 (1990) 珍味-その製法と流通技術. 恒星社厚生閣, 213 pp.
- 大竹敦・安村明・杉山秀樹・山田潤一 (1987) 男鹿周辺総合開発事業調査. 昭和 60 年度秋田水産振興セ事報, 252-261.
- 大滝英夫 (1971) 標識放流による以西底魚資源の研究. 漁業資源研究会議報, (12):73-97.
- 大滝英夫・佐藤祐二 (1978) 資源研究及び調査の方法上の問題. 漁業資源研究会議報, (21):47-80.
- 大滝英夫 (1980) 以西底魚資源. 青山恒雄編, 底魚資源. 恒星社厚生閣, 新水産学全集, (10):117-166.
- 大滝高明・近藤優・稲葉繁雄・山田達男・窪田久・内村正一 (1979) 獅子浜地先へのクルマエビ放流試験. 昭和 53 年度静岡裁セ事報, 32-33.
- 大滝高明・近藤優・窪田久・山田達男 (1980) クルマエビの放流試験. 昭和 54 年度静岡裁セ事報, 35-37.
- 大滝高明・近藤優・窪田久 (1980) クルマエビの放流試験. 昭和 55 年度静岡裁セ事報, 39-42.
- 大滝高明・近藤優・窪田久 (1980) 清水市真崎海岸でのクルマエビ放流. 昭和 56 年度静岡裁セ事報, 42-43.
- 大津昭一郎・酒井俊二 (1976) 漁村の変容と漁民の対応(5). 水産経済研究, (25):1-118.
- OTAZU Abrill M. and H.J.CECCALDI (1984) Influence of purified carotenoids of *Penaeus japonicus* (Crustacea, Decapoda). Aquaculture, 36(3):217-228.
- 大塚誠也 (1997) 魚類防疫制度の創設について-検討中の魚類防疫制度の概略. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):91-92.
- 大塚雄二・池田武彦 (1966) 海産動物の活魚輸送に関する研究. 山口内海水試調研業績, (106):1-30.
- 大内明 (1967) クルマエビの養殖. 養殖, 4(7):85-87.
- 大内辰 (1992) 江田島湾のガザミ, クルマエビの放流. 広島水試研報, (17):96.
- 大内清志・菊池博史・横川浩治・安部享利・牧野弘靖・高砂敬・香川哲・向井龍男 (1998) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 平成 8 年度香川水試事報, 134-137.
- 大内清志・横川浩治・安部享利・牧野弘靖・高砂敬・坂本久 (1999) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 平成 9 年度香川水試事報, 134-137.
- 大屋寛・安東徹 (1955) クルマエビ種苗生産. 平成 5 年度大分漁業公社事報, 2-5.
- 大屋寛 (1956) クルマエビ種苗生産. 平成 6 年度大分漁業公社事報, 2-6.
- 大山剛・毛良明夫・栗田壽男 (1998) 平成 8 年度魚類防疫対策事業, 平成 8 年度宮崎水試事報, 238-241.
- 大山剛・毛良明夫・延東真・吉田照豊・酒井正博 (1998) ウイルス性疾病防疫対策推進事業 I. 平成 8 年度宮崎水試事報, 277-279.
- 大山剛・毛良明夫・栗田壽男・岩田一夫・大木雅彦・中川豊・山田卓郎・中村哲也・赤嶺そのみ (1998) 宮崎県下に発生した魚病について. 平成 8 年度宮崎水試事報, 280-292.
- 大山剛・栗田壽男・岩田一夫 (1999) 平成 9 年度魚類防疫対策事業. 平成 9 年度宮崎水試事報, 181-185.
- 大山剛・延東真・吉田照豊・酒井正博 (1999) ウイルス性疾病防疫対策推進事業. 平成 9 年度宮崎水試事報, 237-239.
- 大山剛・安田志志・大木雅彦 (2000) 平成 10 年度魚類防疫対策事業. 平成 10 年度宮崎水試事報, 196-200.
- オルター・トレード・ジャパン編 (1994) 有機エビの旅. オルタートレードジャパン. オルタートレードブックレット, 111pp.
- OSBORN K.W., MAGHAM B.W. and S.B.DRUMMONG (1969) Gulf of Mexico shrimp atlas. U.S.Bur.Comm.Fish., Circ., (312):1-20.
- 汪陽・小林邦男・木村繁夫 (1989) クルマエビに対する有機燐剤毒性の piperonyl butoxide 経口投与による低減. 平成元年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.195.

- OSTROWSKI-MEISSNER H.T., LeMASTER B.R., DUERR E.O. and W.A.WALSH (1995) Sensitivity of the Pacific white shrimp, *Penaeus vannamei*, to aflatoxin B1. *Aquaculture*, 131(3·4):155-164.
- OSTRESKY A. and W.WASIELESKY Jr. (1995) Adute toxicity of ammonia to various life stages of the Sao Paulo shrimp, *Penaeus paulensis* PEREZ-FARFANTE, 1967. *Aquaculture*, 132(3·4):339-347.
- OTTA S.K. (1997) Microbial diseases of shrimp. Ph.D.thesis, University of Agricultural Science, Bangalore, India, 122 pp.
- OTTA S.K., SHUBHA G., JOSEPH B., CHAKRABORTY A., KARUNASAGAR I. and I.KARUNASAGAR (1999) Polymerase chain Reaction(PCR) detection of white sopt syndrome virus(WSSV) in cultured and wild crustaceans in India. *Dis. Aquat.Org.*, 38(1):67-70.
- OVERSTREET R.M. (1973) Parasites of some penaeid shrimps with emphasis on reared hosts. *Acuaculture*, 2:105-140.
- OVERSTREET R.M. and S.SAFFORD (1980) Diatoms in the gills of commercial white shrimp. *Gulf Research Reports*, 6: 421-422.
- OVERSTREET R.M. (1982) Some parasitological aspects of shrimp culture in the United States. *Parazitologiya*, 16(5):360-365.
- OVERSTREET R.M., STUCK K.C., KROL.R.A. and W.K.HAWKINS (1988) Experimental infections with *Baculovirus penaei* in the white shrimp *Penaeus vannamei* (Crustacea, Decapoda) as a bio assay. *J.World Aquacult. Society*, 19:175-187.
- OVERSTREET R.M. (1994) BP(*Baculovirus panaei*) in penaeid shrimps: Development and application of genomic probes for use as diagnostic and research reagents for the penaeid shrimp parvoviruses MBV and BP. *Gulf Coast Reseach Laboratory Special Publication, U.S.marine shrimp farming program 10th anniversary review. Ocean Springs, Mississippi, Culf Research Reports, No.1.97-106.*
- OVERSTREET R.M., LIGHTNER D.V., HASSON K.W., McILWAIN and J.LOTZ (1997) Susceptibility to TSV of some penaeid shrimp native to the Gulf of Mexico and southeast Atlantic Ocean. *J.Inverteblr.Pathol.*, 69:165-176.
- OWENS L. (1985) *Polycephalus* sp. (Cestoda: Lecanicephalidae) as a biological marker for banana prawns, *Penaeus merguensis* de MAN, in the Gulf of Carpentaria. *Australian J.of Marine and Freshwater Research*, 36:291-299.
- OWENS L.and J.S.GLAZEBROOK (1985) The biology of bopyrid isopods parasite on penaeid prawns in northern Australia. R O THLISBERG P.C., HILL B.J. and D.J.STAPLES eds., *Second Australian National Prawn Seminar. NPS2 Cleveland, Australia*, pp.105-113.
- OWENS L.and J.S.GLAZEBROOK (1988) Microsporidiosis in prawns from northern Australia. *Australian Journal of Marine and Freshwater Research*, (39):301-305.
- OWENS L., De BEER S. and J.SMITH (1991) Lymphoidal parvo-virus-like particles in Australian penaeid prawns. *Dis. Aquat.Org.*, 11(2):129-134.
- OWENS L., ANDERSON I.G., KENWAY M., TROTT L. and J.A.H.BENZIE (1992) Infectious hypodermal and haematopietic necrosis virus (IHHNV) in a hybrid penaeid prawn from tropical Australia. *Dis.Aquat.Org.*, 14(3):219-228.
- OWENS L. (1993) Description of the first haemocytic rod-shaped virus from a penaeid prawn. *Dis.Aquat.Org.*, 16(3):217-221.
- OWENS L., HAQSHENAS G., McELNEA C. and R.COELLEN (1998) オーストラリア北部の養殖ウシエビにおける収穫中期大量死症候群に關与するウイルス(英文). *Dis.Aquat.Org.*, 34(3):177-185.
- 尾崎安男 (1965) クルマエビの小割養殖について. *水産技術と経営*, 40年10月号.45-50.
- 小沢徳太郎訳 (1973) エビの浅海養殖と現状. *養殖*, 10(10):122-125.

- PACIBARE J.O. (1998) Plankton die-off: A major risk factor in shrimp culture in the Philippines. Fish Health Section Newsletter, Asian Fisheries Society, (7):1-2.
- PAIBULKICHAKUL C., PIYATITIVORAKUL S., KITTA KOOP P., VIYAKARN V., FAST A.W. and P.MENASVETA (1998) Optimal dietary levels of lecithin and cholesterol for black tiger prawn *Penaeus monodon* larvae and postlarvae. Aquaculture, 167(3·4):273-281.
- PALACIOS E., PEREZ-ROSTRO C.I., RAMIREZ J.L., IBARRA A.M. and I.S.RACOTTA (1999) Reproductive exhaustion in shrimp (*Penaeus vannamei*) reflected in larval biochemical composition, survival and growth. Aquaculture, 171(3·4): 309-321.
- PALACIOS E., IBARRA A.M. and I.S.RACOTTA (2000) Tissue biochemical composition in relation to multiple spawning in wild and pond-reared *Penaeus vannamei* broodstock. Aquaculture, 185(3·4):353-371.
- PANTOJA C.R., LIGHTNER D.V. and K.H.HOLTSCHMIT (1999) Prevalence and geographic distribution of infectious hypo-dermal and hematopoietic necrosis virus (IHHNV) in wild blue shrimp *Penaeus stylirostris* from the Gulf of California. J.Aquat.Anim.Health, 11(1):23-45.
- PANTOJA C.R. and D.V.LIGHTNER (2000) A non-destructive method based on the polymerase chain reaction for detection of hepatopancreatic parvovirus(HPV) of penaeid shrimp. Dis.Aquat.Org., 39(3):177-182.
- PANTOJA C.R. and D.V.LIGHTNER (2001) Detection of hepatopancreatic parvovirus (HPV) of penaeid shrimp by *in situ* hybridization at the electron microscope level. Dis.Aquat.Org., 44(2):87-96.
- PAQUOTTE P., CHIM L., MARTIN J-L.M., LEMOS E., STERN M. and G.TOSTA (1998) Intensive culture of shrimp *Penaeus vannamei* in floating cages: zootechnical, economic and environmental aspects. Aquaculture, 164(1-4):151-166.
- PARADO-ESTEPA F.D., FERRARIS R.P., LADJA J.M. and E.G.de JESUS (1987) Responses of intermolt *Penaeus indicus* to large fluctuations in environmental salinity. Aquaculture, 64(3):175-184.
- PARADO-ESTEPA F.D., QUINTIO E.T. and E.L.BORLONGAN (1996) Prawn hatchery operations. Aquaculture Extension Manual No.19. SEAFDEC Aquaculture Department, Tigbauan, Iloilo, Philippines., 45 pp.
- PARK E.D., LIGHTNER D.V., STAMM J.M. and T.A.BELL (1994) Preliminary studies on the palatability, animal safety, and tissue residues of sarafloxacin-HCl in the penaeid shrimp, *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 126(3·4):231-241.
- PARK E.D., LIGHTNER D.V., MILNER N., MAYERSOHN M., PARK J.M., GIFFORD J.M. and T.A.BELL (1995) Exploratory bio-availability and pharmacokinetic studies of sulphadimethoxine and ormetoprim in the penaeid shrimp, *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 130(2·3):113-128.
- 朴鍾和 (1995) 韓国沿岸の海域別環境特性と効率的種苗放流効果の測定. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):128-134.
- 朴重淵 (1999) 養殖生物の遺伝資源に関する研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):185-190.
- PARK J.H., LEE Y.S., LEE S. and Y.LEE (1998) An infectious viral disease of penaeid shrimp newly found in Korea. Dis. Aquat.Org., 34(1):71-75.
- PARK L.D., LIGHTNER D.V., MILNER N., MAYERSOHN M., PARK D.L., GIFFORD J.M. and T.A.BELL (1995) Exploratory bio-availability and pharmacokinetic studies of sulphadimethoxine and ormetoprim in the penaeid shrimp *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 130(2·3):113-128.
- PARKER J.C., HOLOCOMB H.W.Jr., KLUSSMANN W.G. and J.C.IV.McNEILL (1972) Effect of fish removal on the growth and condition of white shrimp in brackish ponds. Proc. of the Annual Workshop of the World Maricul.Soc., (3):287-297.
- PASCUAL F.P. (1980) Effect of supplemental lecithin and lipid sources on the growth and survival of *Penaeus monodon* juveniles. Proc.First Asian Fish.Forum, pp.615-618.
- PASHARAWIPAS T. and T.W.FLEGEL (1994) A specific DNA probe to identify the intermediate host of a common microsporidian parasite of *Penaeus merguensis* and *P. monodon*. Asian Fish. Sci., (7):157-167.
- PASHARAWIPAS T., FLEGEL T.W., CHIYAROJ S., MONGKOLSUK S. and S.SIRISINHA (1994) Comparison of amplified RNA gene sequences from microsporidian parasite (Agmasoma or Thelohania) in *Penaeus merguensis* and *P.monodon*. Asian Fish.Sci., (7):169-178.
- PASHARAWIPAS T., SRIURAIRATANA W., FLEGEL T.W. and V.THAMMAVIT (1997) Use of DNA *in situ* hybridization, dot blot hybridization and PCR amplification to study a microsporidian parasite of penaeid shrimp. FLEGEL T.W. & I.H.MacRAE eds., Diseases in Asian Aquaculture III. Asian Fisheries Society, Manila, pp.317-324.

- PASHARAWIPAS T., FLEGEL T.W., SRIURAIRATANA S. and D.J.MORRISON (1997) Latent yellow-head infections in *Penaeus monodon* and implications regarding diseases tolerance or resistance. FLEGEL T.W., MENASVETA P. & S.PAISARNRAT eds., Shrimp Biotechnology in Thailand. National Center for Genetic Engineering and Biotechnology, Bangkok, pp.45-53.
- PASQUET H., GABAUDAN J. and G.CUZON (1994) Biological efficacy of ascorbate polyphosphate in shrimp (*Penaeus vannamei*). Aquaculture, 124(1-4):220-221.
- PATERSON B.D. (1993) Respiration rate of kuruma prawn, *Penaeus japonicus* BATE, is not increased by handling at low temperature (12°C). Aquaculture, 114(3-4):229-235.
- PATERSON B.D. (1993) The rise in inosine mono phosphate and L-lactate concentration in muscle of live penaeid prawns (*Penaeus japonicus*, *Penaeus monodon*) stressed by storage out of water. Comp.Biochem. Physiol., 106B:395-400.
- PAYEN G.G., CHIM L., LAUBIER-BONICHON A. and H.CHARNIAUX-COTTON (1982) The androgenic gland of the shrimp *Penaeus japonicus* BATE. Description, role, and control by the eyes talks. Gen.Comp.Endocrinol., 46:384.
- PATROIS J.・CECCARDI H.J.・安藤哲夫・金澤昭夫・手島新一 (1978) クルマエビの脱皮周期における脂質生合成(英文). 日水誌, 44(2):139-141.
- PEARSON J.C. (1939) The early life histories of some American Penaeidae, chiefly the commercial shrimp *Penaeus setiferus* (LINN.). Bull.Bureau Fish., (49):1-73.
- PEASE N.L. and W.R.SEIDEL (1967) Development of the electro-shrimp trawl system. Comm.Fish.Rev., 29:58-63.
- PEDINI M. (1981) Penaeid shrimp culture in tropical developing countries. FAO Fish.Circular, 732, 1-14.
- PENAFLOREDA Dy V. (1989) An evaluation protein sources as potential component in the diet formulation for tiger prawn, *P.monodon*, using essential amino acid index (EAAI). Aquaculture, 83(3-4):319-330.
- PENAFLOREDA Dy V. (1999) Interaction between dietary levels of calcium and phosphorus on growth of juvenile shrimp, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 172(3-4):281-289.
- PENAFLOREDA Dy V. and N.V.GOLEZ (1996) Use of seaweed meals from *Kappaphycus alvarezii* and *Gracilaria heteroclada* as binders in diets for juvenile shrimp *Penaeus monodon*. Aquaculture, 143(3-4):393-401.
- PENG B., REN J., SHEN J., ZHOU G., GU H., SHEN Y., ZHENG G. and Z.GONG (1995) The studies on baculovirus-caused disease of prawns (*Penaeus chinensis* OSBECK). Chin.J.Virol., 11: 151-157.
- PENG S.E., CHEN C.H., LO C.F. and G.H.KOU (1995) Detection of white spot syndrome associated non-occluded baculo-virus, in Abstracts of Seventh International Conference on Diseases of Fish and Shellfish. Palma de Mallorca, Spain, p.8.
- PENG S.E., LO C.F., LIU K.F. and G.-H.KOU (1997) Investigation on the transition from latent to patent infection of white spot syndrome virus(WSSV) in *Penaeus monodon* using PCR and in situ hybridization. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, p.73.
- PENG S.E., LO C.F., LIU K.F. and G.H.KOU (1998) The transition from pre-patent to patent infection of white spot syndrome virus (WSSV) in *Penaeus monodon* triggered by pereopod excision. Fish Pathol., 33(4):395-400.
- PENG S.E., LO C.F., LIN S.C., CHEN Y.S., CHANG Y.S., LIU K.F., SU M.S. and G.H.KOU (2001) WSSV 陽性および陰性ポストラーバを用いた時のウシエビの養殖成績(英文). Dis.Aquat.Org., 46(3):165-172.
- PENN J.W. (1980) Spawning and fecundity of the Western King Prawn, *Penaeus latisulcatus* in Western Australian Waters. Aust.J.Mar.Freshwater Res., (31):21-35.
- PENN J.W. and N.CAPUTI (1986) Spawning stock-recruitment relationships and environmental influences on the tiger Prawn (*Penaeus esculentus*) fishery in Exmouth Gulf, Western Australia. Aust.J.Freshwat.Res., 37:491-505.
- P'EREZ-FARFANTE I. (1969) Western Atlantic shrimps of genus *Penaeus*. U.S.Fish Wildl.Serv., Fish.Bull., 67(3):461-591.
- P'EREZ-FARFANTE I. (1976) A redescription of *Penaeus canaliculatus* (OLIVIER, 1811) a wide-ranging Indo-West Pacific shrimp (Crustacea, Decapoda, Penaeidae). Zool.Medec.Leiden, (50):23-37.
- P'EREZ-FARFANTE I. (1977) American solenocerid shrimps of the genera *Hymenopenaeus*, *Holiporoides*, *Pleoticus*, *Hadropenaeus* new genus. Fish.Bull., 75(2):261-346.
- PEREZ PEREZ D. and R.M. ROS (1974) Cultivo experimental de postlarvas del camarón blanco *Penaeus schmitti* BURKENROAD. Invest.Mar.Valparaiso (8), (10):42 pp.
- PEREZ-PEREZ D. and M. OLIBA SUAREZ (1976) 幼生期 White shrimp (*Penaeus schmitti*) 及び Pink shrimp (*Penaeus durarum notialis*)の試験養殖. FAO 水産増殖国際会議論文集, (5):150-156.
- PEREZ-VELAZQUEZ M., BRAY W.A., LAWRENCE A.L., GATLIN D.M. III. and M.L.GONZALEZ-FELIX (2001) Effect of temperature on sperm quality of captive *Litopenaeus vannamei* broodstock. Aquaculture, 198(3-4):209-218.
- PHILIP C.L., LU Y. and A.B.JAMES (1990) 魚類株化細胞におけるクルマエビ属の伝染性皮下・造血器壊死症ウイルスの増殖(英文). Journal of Virological Methods, (28):273-280.
- PHILLIP P. (1985) Aquaculture as an Alternative Occupation on the Pacific Coast of Costa Rica. ICLARM.

Newsletter, 8(2):14-15.

- PHROMJAI J., SUKHUMSIRICHART W., PANTOJA C., LIGHTNER D.V. and T.W.FLEGEL (2001) Different reactions obtained using the same DNA detection reagents for Thai and Korean hepatopancreatic parvovirus (HPV) of penaeid shrimp. *Dis.Aquat.Org.*, 46(2):153-158.
- PIEDAD-PASCUAL F., COLOSO R.M. and C.T.TAMSE (1986) Survival and some histological changes in *Penaeus monodon* FABRICIUS juveniles fed various carbohydrates. *Aquaculture*, 31(2-4):169-180.
- PIEDAD-PASCUAL F. (1986) Effect of supplemental lecithin and lipid sources on the growth and survival of *Penaeus monodon* juveniles. MALEARN J.L., DIZON L.B. & L.V.HOSILLOS eds., Proceedings of the First Asian Fisheries forum. *Asian Fish.Soc.*, Manila, pp.615-618.
- PIEDAD-PASCUAL F., CRUZ E.M. and A.SUMALONGCAY Jr. (1990) Supplemental feeding of *Penaeus monodon* juveniles with diets containing various levels of defatted soybean meal. *Aquaculture*, 89(2):183-191.
- PILLAY T.V.R (1976) 世界の水産増養殖の現状. FAO 水産増殖国際会議論文集, (4) :237-248.
- PIZZUTTO M. and R.G.HIRST (1995) Classification of *Vibrio harveyi* virulent of *Penaeus monodon* larvae by protein profile analysis and M13 DNA finger printing. *Dis.Aquat.Org.*, 21(1):61-68.
- PLATON R.R. (1978) Design, operation and economics of a small-scale hatchery for the larval rearing of sugpo, *Penaeus monodon* FAB. *Aquaculture Extension Manual No.1*. SEAFDEC Aquaculture Department, Tigbauan, Iloilo, Philippines, 30 pp.
- PLATON R.R. (1997) Shrimp diseases: Are they what ails the shrimp culture industry? Paper presented at the 9th Council Meeting and Business Conference of the Asian Fisheries Federation (AFF). Philippines, 19 pp.
- PLUMB J.A. (1995) Chemotherapy vs. vaccination: a reality for Asian aquaculture. SHARIFF M., ARTHUR J.R. & R.P.SUBASINGHE eds., *Diseases in Asian Aquaculture II*. Fish Health Section, Asian Fisheries Society, Manila, Philippines., pp.43-53.
- POMEROY R.S. (1994) Socioeconomic research needs for integrated farming systems in southeast Asia. SHANG Y.C., LEUNG P.S., LEE C.S., SU M.S. & I.C.LIAO eds., *Socioeconomics of Aquaculture*. TML Conference Proceeding, (4):243-248.
- PONCE-PALAFIX J., MARTINEZ-PALACIOS C.A. and L.G.ROSS (1997) The effects of salinity and temperature on the growth and survival rates of juvenile white shrimp, *Penaeus vannamei*, BROONE, 1931. *Aquaculture*, 157(1-2) :107-115.
- PORBCAN R.S. (1991) Reduction in chemical oxygen demand and improvement in *Penaeus monodon* yield in ponds inoculated with aerobic Bacillus bacteria. Program and Abstract of the 22nd Annual Conference and Exposition of the World Aquaculture Society. World Aquaculture Society, San Juan, pp.16-20.
- POULOS B.T., LIGHTNER D.V., TRUMPER B. and J.R.BONAMI (1994) Monoclonal antibodies to the penaeid shrimp parvovirus, infections hypodermal and hematopoietic necrosis virus (IHHNV). *J.Aquat.Anim.Health*, 6:149-154.
- POULOS B.T., MARI J., BONAMI J.R., REDMAN R. and D.V.LIGHTNER (1994) Use of non-radioactively labeled DNA probes for the detection of a baculovirus from *Penaeus monodon* by *in situ* hybridization on fixed tissue. *J.Virol.Meth.*, 49:187-194.
- POULOS B.T., KIBLER R., BRADLEY-DUNLOP D., MOHNEY L.L. and D.V.LIGHTNER (1999) Production and use of antibodies for the detection of Taura syndrome virus in penaeid shrimp. *Dis.Aquat.Org.*, 37(2):99-106.
- POULOS B.T., PANTAJO C.R., BRADLEY-DUNLOP D., AGUILAR J. and D.V.LIGHTNER (2001) Development and application of monoclonal antibodies for the detection of white spot syndrome virus of penaeid shrimp. *Dis.Aquat.Org.*, 47(1): 13-23.
- PRESTON N.P., SMITH D.M., KELLAWAY D.M. and S.E.BUNN (1996) The use of enriched ¹⁵N as an indicator of the assimilation of individual protein sources from compound diets for juvenile *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 147(3-4): 249-259.
- PRESTON N.P., BAULE V.J., LEOPOLD R., HENDERLING J., ATKINSON P.W. and S.WHYARD (2000) Delivery of DNA to early embryos of the Kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Aquaculture*, 181(3-4):225-234.
- PRETTO MALCA R. (1983) *Penaeus* shrimp grow-out in Panama. McVEY J.P.ed., *Handbook of Mariculture*. Vol.1. Crustacean Aquaculture. CRC Press, Inc., Boca Raton, Fla., pp.169-178.
- PRETTO MALCA R. (1990) パナマにおけるエビ類養殖の技術と進歩. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.143-151.
- PRIMAVERA J.H. and E.BORLONGAN (1977) Ovarian rematuration of ablated sugpo prawn *Penaeus monodon* FABRICIUS. *Ann.Biol.Anim.Bioch.Biophys.*, 18:1067-1072.
- PRIMAVERA J.H. and F.P.APUD (1977) Manual of operations: Sugpo pond culture. Ext. Manual SEAFDEC Aquacul., Dep. 2. 18 pp.

- PRIMAVERA J.H. (1978) Induced maturation and spawning in five-month-old *Penaeus monodon* FABRICUS by eyestalk ablation. *Aquaculture*, 13(4):355-359.
- PRIMAVERA J.H., BORLONGAN E. and R.A.POSADAS (1978) Mass production in concrete tanks on sugpo *Penaeus monodon* FABRICUS spawners by eyestalk ablation. *Fish.Res.J.Philippines*, (3):1-12.
- PRIMAVERA J.H. and R.A.POSADAS (1981) Studies on the egg quality of *Penaeus monodon* FABRICIUS abricius, based on Morphology and hatching rates. *Aquaculture*, 22:269-277.
- PRIMAVERA J.H. (1981) Small-scale prawn hatchery operations and management, Biology of penaeid prawn. SEAFDEC Training and Exp.Aquacul. Dep., 15 pp.
- PRIMAVERA J.H. (1983) Small-scale prawn hatchery operations and management, broodstock of sugpo, *Pemaeus monodon* FABRICIUS. Ext. Manual. SEAFDEC Aquacul. Dep. (7):26 pp.
- PRIMAVERA J.H., LAVILLA-PITOGO C.R., LADJA J.M. and M.R.de la PENA (1993) A survey of chemical and biological products used in intensive prawn farm in the Philippines. *Mar. Pollut.Bull.*, (26):35-40.
- PRIMAVERA J.H. (1984) A review of maturation and reproduction in closed thelycum penaeid. *Proc.1st Inter.Conf.on Cult. Penaeids*, pp.47-64.
- PRIMAVERA J.H. (1987) Notes on the courtship and mating behavior in *Penaeus monodon* FABRICIUS (Decapoda, Natantia). *Crustaceana*, (37):287-292.
- PRIMAVERA J.H. and R.Q.GACUTAN (1989) Preliminary results of feeding aquatic macrophytes to *Penaeus monodon* juveniles. *Aquaculture*, 80(1·2):189-193.
- PRIMAVERA J.H. and R.M.V.CABALLERO (1992) Light color and ovarian maturation in unablated and ablated giant tiger prawn *Penaeus monodon* (FABRICIUS). *Aquaculture*, 108(2·3):247-256.
- PRIMAVERA J.H., PARADO-ESTEPA. and J.L.LEBATA (1998) Morphometric relationship of length and weight of giant tiger prawn *Penaeus monodon* according to life stage, sex and source. *Aquaculture*, 164(1-4):67-75.
- PRIMAVERA J.H. (2000) Integrated mangrove-aquaculture systems in Asia, *Integrated Coastal Zone Manegiment*. Autumn edition. ICG,London, pp.121-130.
- PROVASOLI L.(1975) Nutritional aspects of crustacean aquaculture. *Proc.1st Int.Confer.on Aquaculture Nutrition.*, 13-21.
- PROVENGANO A.J.ed. (1983) *The biology of cruastesea*.Vol.6. Pathobiology. Academic Press, NY., 290 pp.
- PRUDER G.D., BROWN C.L., SWEENEY J.N. and W.H.CARR (1995) High health shrimp systems: seed supply-theoly and praticite.BROWDY C.L. and J.S.HOPKINS eds., *Swimming through troubled water*, Proceedings of the special session on shrimp farming, *Aquaculture'95*. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA.USA, pp.40-52.
- PULLEN E.J. and W.L.TRENT (1969) White shrimp emigration in relation to size, sex, temperature and salinity. *FAO Fish.Rep.*, 57(3):1001-1014.
- PYEN C.K. and S.RHO (1970) A biological study of *Penaeus japonicus* BATE. *Bull. Korean Fish. Soc.*, 3(2):93-102.

~Q~

- 喬振国 (1997) エビ高密度養殖池の水質環境管理に関する研究の現状と展望. 海外漁業協力財団.海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):211-216.
- QUACKENCREAS L.S. (1989) Vitellogenesis in the shrimp, *Penaeus vannamei* :*in vitro* studies of the isolated hypatopancreas and ovary. *Comp.Biochem.Physiol.*, 94B:253-261.
- QUINITIO E.T., HARA A.,YAMAUCHI K. and A.FUJII (1990) Isolation and characterization of vitellin from the ovary of *Penaeus monodon*. *Invert,Rep.Dev.*, (17):221-227.
- QUINITIO E.T., CABALLERO R.M. and L.GUSTILO (1993) Ovarian development in relation to changes in the external genitalis in captive *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 114(1·2):71-81.
- QUINITIO E.T., HARA A., YAMAUCHI K. and S.NAKAO (1994) Changes in the steroid hormone and vitellogenin levels during the zematogenic cycle of the giant tiger shrimp, *Penaeus monodon*. *Comp.Biochem.Physiol.*, 109C:21-26.

- 羅竹芳・郭光雄 (1998) 台湾におけるエビのウイルス性 white spot syndrome: 総説(英文). 魚病研究, 33(4):365-371.
- RACEK A.A. (1956) Penaeid prawn fisheries of Australia with special reference to New South Wales. Proc.I.P.F.C., 6(III): 347-359.
- RACEK A.A. (1965) Littoral Penaeinae(Crustacea Decapoda) from northern Australia, New Guinea and adjacent waters. Verh.K.Nederl. Akad.Wet., Natuurk., 56(3):1-119,pls.1-13.
- RAGAN J.F. and C.C.CORKERN (1978) A study on the effects of the cestode parasite *Prochristianella penaei* KRUSE on brown shrimp *Penaeus aztecus* IVES. Nicholis State University Professional Papers Series(Biology), 1: 1-10.
- RAJAN P.R., RAMASAMY P., PURUSHOTHAMAN V. and G.P.BRENNAN (2000) White spot baculovirus syndrome in the Indian shrimp *Penaeus monodon* and *P. indicus*. Aquaculture, 184(1・2):31-44.
- RAJENDRAN K.V., VIJAYAN K.K., SANTIAGO T.C. and R.M.KROL (1999) Experimental host range and histopathology of white spot syndrome virus (WSSV) infection in shrimp, prawns, crabs and lobsters from India. J.Fish Dis., 22(3):183-191.
- RAMADAN M.M. (1938) Crustacea: Penaeidae. John Murray Exped, 1933-1934. Sci.Rep., 5(3):35-76.
- RAMASAMY P., BRENNAN G.P. and R.JAYAKUMAR (1995) A record and prevalence of monodon baculovirus from post larval *Penaeus monodon* in Madras, India. Aquaculture, 130(2・3):129-135.
- RAMASAMY P., RAJAN P.R., RANI S. and G.P.BRENNAN (1996) *Lagenidium callinectes* (COUCH,1942) infection and its control in cultured larval Indian tiger prawn, *Penaeus monodon* FABRICIUS. J.Fish Dis., 19(1):75-82.
- RAMASAMY P., JAYAKUMAR R. and G.P.BRENNAN (2000) Muscle degeneration associated with cotton shrimp disease of *Penaeus indicus* (短報). J.Fish Dis., 23(1):77-81.
- RAMASAMY P., RAJAN P.R., PURUSHOTHAMAN V. and G.P.BRENNAN (2000) Ultrastructure and pathogenesis of *Monodon baculovirus* (PmSNPV) in cultured larvae and natural brooders of *Penaeus monodon*. Aquaculture 184(1・2):45-66.
- RANKIN S.M., BRADFIELD J.Y. and L.L.KELLEY (1989) Ovarian protein synthesis in the south american white shrimp, *Penaeus vannamei*, during the reproductive cycle. Invert.Rep.Dev., (15):27-33.
- 楽敦司 (1990) クルマエビの中間育成. 昭和 63～平成元年度兵庫裁セ事報, 118-121.
- 楽敦司 (1990) 敷砂を用いたクルマエビの中間育成試験. 昭和 63～平成元年度兵庫裁セ事報, 122-125.
- 楽敦司・末原裕幸・永山博敏 (1992) クルマエビの中間育成. 平成 2・3 年度兵庫裁セ事報, 67-71.
- 楽敦司・末原裕幸・吉川孝司・永山博敏 (1995) クルマエビの中間育成. 平成 2・3 年度兵庫裁セ事報, 70-71.
- 楽敦司・小野山弘・永山博敏 (1992) クルマエビの中間育成. 平成 2・3 年度兵庫裁セ事報, 155-158.
- 楽敦司・末原裕幸・吉川孝司 (1995) クルマエビの養成について. 平成 4・5 年度兵庫裁セ事報, 176-177.
- RASMESSEN B. (1973) Fishing experiments with selective shrimp trawl in Norway. FAO Fish.Rep., (139):34-49.
- RAY W.M. and Y.H.CHIEN (1992) Effects of stocking density and aged sediment on tiger prawn, *Penaeus monodon*, nursery system. Aquaculture, 104(3・4):231-248.
- REDDY M.S. and K.V.R.RAO (1988) Modulation of carbohydrate metabolism in the selected tissues of marine prawn, *Penaeus indicus* (H.Milne EDWARDS), under phosphanidon-induced stress. Ecotoxicology and Environmental Safety, 15(2):212-220.
- REES J.F., CURE K., PIYATIRATITIVORSKUL S. and P.SORGELOOS (1994) Highly unsaturated fatty acid requirements of *Penaeus monodon* post-larval: an experiments approach based on Artemia enrichment. Aquaculture, 122 (2・3):193-207.
- RENE F.(1974) Maturation et ponteschez *Penaeus japonicus* BATE en captivite, tentative de son controle. Paris, Rapport interne CNEXO., 66pp.
- RENFRO W.C. (1983) Life history stages of Gulf of Mexico brown shrimp. U.S.Fish.Wildl.Serv.,Circ., (183):94-98.
- RENGPIPAT S., RUKPRATANPORN F.D., PIYATIRATITIVORAKUL S. and P.MENASVETS (1998) Probiotics in aquaculture: a case study of probiotics for larvae of the black tiger shrimp (*Penaeus monodon*). FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biothechnology. Thailand, pp.177-181.
- RENGPIPAT S., PHIANPHAK W., PIYATIRATITIVORAKUL S. and P.MENASVETA (1998) ウシエビの生残および成長に及ぼすプロバイオティクスの影響(英文). Aquaculture, 167(3・4):301-313.
- RENGPIPAT S., RUKPRATANPORN S., PIYATIRATITIVORAKUL S. and P.MENASVETA (2000) Immunity enhancement in black tiger shrimp (*Penaeus monodon*) by a propionate bacterium (Bacillus S11). Aquaculture, 191(4):271-288.
- レオベルト D.デラペーニャ・桃山和夫・中井敏博・室賀清邦 (1992) クルマエビからのビブリオ病原菌の検出(英文). 魚病研究, 27(4):223-228.

- REYMOND H. and J.P.LAGARDERE (1990) Feeding rhythms and food of *Penaeus japonicus* BATE (Crustacea, Penaeidae) in salt marsh ponds. Role of halophilic entomofauna. *Aquaculture*, 84(2):125-143.
- RHO Sum (1997) Present status and future direction for seed production of marine fish in Korea. *水産増殖*, 45(3):391-404.
- 廬龍吉 (1994) 韓国の甲殻類増養殖の現状と問題点. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (I):127-130.
- RHOOBUNJONGDE W., HATAI K., WADA S. and S.S.KUBOTA (1991) *Fusarium moniliforme* (SHELDON) isolated from gills of kuruma prawn *Penaeus japonicus* (BATE) with black gill disease. *日水誌*, 57(4):629-635.
- RICHARDSON L.R. and J.C.YALDWYN (1958) A guide to the natant decapod Crustacea (Shrimps and Prawns) of New Zealand. *Tuatara*, 7(1):17-41.
- RICQUE-MARIE D., La PARRA M.I.A., CRUZ-SUAREZ L.E., CUZON G., COUSIN M., AQUACOP and I.H.PIKE (1998) Raw material freshness, a quality criterion for fish meal fed to shrimp. *Aquaculture*, 165(1-2):95-109.
- RIGDON R.H. and K.N.BAXTER (1970) Spontaneous necrosis in muscles of brown shrimp, *Penaeus aztecus* IVES. *Trans Amer.Fish.Soc.*, 99:583-587.
- RIGDON R.H., BAXTER K.N. and R.C.BENTON (1975) Hermaphroditic white shrimp, *Penaeus setiferus*, parasitized by *Thelohania* sp. *Transaction of the American Fisheries Soc.*, 104: 292-295.
- RIGDON R.H. and D.J.MENSIK (1976) Gastrointestinal tract of *Penaeus aztecus* IVES, 1891 (Decapoda, Nantantia), a histologic study. *Crustacean*, 30(2):164-168.
- RITVO G., SAMOCHA T.M., LAWRENCE A.L. and W.H.NEILL (1998) Growth of *Penaeus vannamei* on soils from various Texas shrimp farms, under laboratory conditions. *Aquaculture*, 163(1-2):101-110.
- RIVIERA-MONROY V.H., TORRES L.A. and N.BAHAMON (1999) The potential use of mangrove forests nitrogen sinks of shrimp aquaculture pond effluents: the role of denitrification. *J.World Aquaculture Soc.*, 30:12-25.
- ROBERTSON A.I. and M.J.PHILLIPS (1995) Mangroves as filters of shrimp pond effluent; prediction and biogeochemical research needs. *Hydrobiologia*, (295):311-321.
- ROBERTSON J.D. (1947) Ionic regulation in some marine invertebrates. *J.Exp.Boil.*, (26):277-296.
- ROBERTSON J.H.B. (1993) Design and fitting of square mesh windows in whitefish and prawn trawls and seine nets. *Scott.Fish.Info.Phamp.*, 20:1-7.
- ROBERTSON L., BRAY W., LEUNG-TRUJILLO J. and A.LAWRENCE (1987) Practical molt staging of *Penaeus setiferus* and *Penaeus stylirostris*. *J.World Aquacult.Soc.*, (18):180-185.
- ROBINS-TROEGER J.B. (1994) Evaluation of the Morrison slot turtle excluder device: prawn and bycatch variation in Moreton Bay, Queensland. *Fish.Res.*, 19:205-217.
- ROBLES-SIKISAKA R., GARCIA D.K., KLIMPEL K.R. and A.K.DHAR (2001) Nucleotide sequence of 3'-end of the genome of Taura syndrome virus of shrimp suggests that it is related to insect picornaviruses. *Arch Virol.*, 35(1):1-10.
- RODNEY R.R., BELL T.A. and D.V.LIGHTNER (1986) Degradation of trifluralin in seawater when used to control larval mycosis in penaeid shrimp culture. *J.World Aquac.Soc.*, 17:8-12.
- RODRIGUEZ E.M., BOMBEO-TUBURAN I., FUKUMOTO S. and R.B.TICAR (1993) Nursery rearing of *Penaeus monodon* (FABRICIUS) using suspended (hapa) net enclosures installed in a pond. *Aquaculture*, 112(1):107-111.
- RODRIGUEZ J. and G.Le MOULLAC (2000) State of the art of immunological tools and health control of penaeid shrimp. *Aquaculture*, 191(1-3):109-119.
- ROJLORSAKUL P., BOONSAENG V., PANGBANGRED W., SUTHIENKUL S., PASHARAWIPAS T. and T.W.FLEGEL (1998) Detection of *Vibrio parahaemolyticus* in shrimp haemolymph by DNA hybridization and PCR amplification. T.W. FLEGEL ed., *Advances in Shrimp Biotechnology*. Bangkok, Thailand, pp.227-234.
- ROJTINNAKORN J.・廣野育生・青木宙・伊丹利明・高橋幸則 (2001) クルマエビのプロフェノールオキシダーゼ遺伝子のクローニングとその発現について. 平成 13 年度魚病学会春季大会講演要旨, p32.
- ROJTINNAKORN J.・廣野育生・青木宙 (2001) ペプチドグリカン投与によるクルマエビプロフェノールオキシダーゼシステムの活性化. 平成 13 年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.21.
- ROMPAS R.M.・大嶋雄治・大和小由起・小林邦男 (1986) 水産動物のコリンエステラーゼに対するフェニトロチオンとそのオキシ体の阻害性について. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.106.
- ROMPAS R.M.・小林邦男・大嶋雄治・今田信良・大和小由起・光安由起子 (1989) クルマエビ幼生におけるチオノ型・オキシ型有機燐剤の毒性とアセチルコリンエステラーゼ阻害性(英文). *日水誌*, 55(4):669-673.
- RONQUILLO J.D., MATIAS J.R., SAISHO T. and S.YAMASAKI (1996) Culture of *Tetraselmis tetrathele* and its utilization in the hatchery production of different penaeid shrimp in Asia. *Live Food and Marine Laviculture Symposium*, pp.1-4.

- RONQUILLO J.D., MATIAS J.R., and S.YAMASAKI (1997) Culture of *Tetraselmis tetraele* and its utilization in the hatchery production of different penaeid shrimp in Asia. *Hydrobiologia*, (358):237-244.
- RONQUILLO J.D. (1994) Comparative studies on the early developmental stages of some commercially important marine shrimps (Crustacea, Decapoda, Penaeidae) in Indo-West Pacific Region. Ph.D.Thesis. Kagoshima Univ., 275 pp.
- RONQUILLO J.D. and T.SAISHO (1995) Development stages of *Trachypenaeus curvirostris* (STIMPSON, 1860) (Decapods, Penaeidae) reared in the laboratory. *Crustaceana*, 68(7):833-863.
- ROQUE A., TURNBULL J.F., ESCALANTE G., GOMEZ-GIL B. and M.V.ALDAY-SANZ (1998) Development of a bath challenge for the marine shrimp *Penaeus vannamei* BOONE, 1931. *Aquaculture*, 169(3-4):283-290.
- ROSAS C., SANCHEZ A., DIAZ-IGLESIA E., BRITO R., MARTINEZ E. and L.A.SOTO (1997) Critical dissolved oxygen level to *Penaeus setiferus* and *Penaeus schmitti* postlarvae (PL10-18) exposed to salinity changes. *Aquaculture*, 152(1-4): 259-272.
- ROSE C.D., HARRIS A.H. and B.WILSON (1975) Extensive culture of penaeid shrimp in Louisiana saltmarsh impoundments. *Transactions of the American Fisheries Soc.*, 104: 269-307.
- ROSENBERRY B.ed. (1993) Taura syndrome hits farms in Ecuador—Again. *Shrimp News International*, 18(3):6.
- ROSENBERRY B.ed. (1993) World Shrimp Farming 1993. *Aquaculture Digest*, San Congres CA., 52 pp.
- ROSENBERRY B.ed. (1994) Update on Taura syndrome in Ecuador, *Shrimp News International*, 19(3):2-4.
- ROSENBERRY B.ed. (1994) World Shrimp Farming 1994. *Aquaculture Digest*, San Congres CA., 68 pp.
- ROSENBERRY B. (1995) Mexico. Rapid response to Taura threat. *Shrimp News International*, 20(3):11-12.
- ROSENBERRY B.ed. (1996) World shrimp farming 1996. Published by Shrimp News International, San Diego, December, 1994. 164 pp.
- ROSENBERRY B. (1996) White spot and yellowhead in the United States. ROSENBERRY B.ed., *World shrimp farming 1996*. Shrimp News International, San Diego, California, pp.29-30.
- ROSENBERRY B.ed. (2001) World Shrimp Farming 2000. Number 13. Shrimp News International, San Diego, U.S.A., 324 pp.
- ROTJINAKORN Jiraporn・廣野育生・青木宙・伊丹利明・高橋幸則 (2000) クルマエビ血球細胞で発現している遺伝子の EST 解析. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.129.
- ROTHLISBERG P.C. (1982) Vertical migration and its effect on dispersal of penaeid shrimp larvae in the Gulf of Carpentaria, Australia. *Fish.Bull.*, 80:541-554.
- ROTHLISBERG P.C. (1998) Aspects of penaeid biology and ecology of relevance to aquaculture: a review. *Aquaculture*, 164 (1-4):49-65.
- RUANGPAN L. (1982) Diseases and parasites of *Penaeus monodon* FABRICIUS. *Thai Fisheries Gazette*, 35, 358-387.
- RUANGPAN L.and T.KITAO (1991) *Vibrio* bacteria isolated from black tiger shrimp, *Penaeus monodon* FABRICIUS. *J.Fish Diseases*, 14(3):383-388.
- RUANGPAN L. and T.KITAO (1992) Minimal inhibitory concentration of 19 chemotherapeutants against *Vibrio* bacteria of shrimp, *Penaeus monodon*. SHARIFF M.,SUBASINGHE R. & J.R.ARTHUR eds., *Diseases in Asian Aquaculture*. Asian Fisheries Society, pp.135-142.
- RUANGPAN L., R.TABKAEW, K.SANGRUNGUANG (1994) 養殖ウシエビ臓器の細菌相(英文). *水産増殖*, 42(3):485-490.
- RUANGPAN L., NA-ANAN P., S.DIREKBUSARAKOM (1998) *Vibrio harveyi* の発育に対する *V.alginolyticus* の阻害作用(英文). *魚病研究*, 33(4):293-296.
- RUANGPANIT N.and T.PECHMANCE (1978) Experiment on rearing mysis larvae of *Penaeus monodon* by using three kinds of zoo-plankton. *Annual Report 1978*, Songkhla Fisheries Station, Department of Fisheries, 185-191.
- RULIFSON R.A. (1981) Substrate preferences of juvenile penaeid shrimps in estuarine habitats. *Contr.Mar.Sci.*, 24:35-52.
- 柳浩英 (1994) 韓国の種苗培養施設の概要. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (I):60-62.

- SACAYANAN E.B. and H.HIRATA (1986) Circadian rhythm of feeding and respiration in kuruma prawn *Penaeus japonicus*. 鹿大水産紀要, (4):63-76.
- SAFIAH Jasmani・川添一郎・施トウイ・鈴木譲・会田勝美 (1997) クルマエビのビテロジェニンと卵黄蛋白質の免疫学的同定. 平成9年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.225.
- 佐賀県玄海水産振興センター (1995) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック増養殖研究情報, (14):40-42.
- 佐賀県玄海水産振興センター (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック増養殖研究情報, (15):45-47.
- 佐賀県有明水産振興センター・佐賀県水産振興課・有明海大浦漁協栽培漁業センター (1994) 平成5年度放流技術開発事業報告書. コウライエビ, 34 pp.
- 佐賀県有明水産振興センター・佐賀県水産振興課・有明海大浦漁協栽培漁業センター (1994) 平成6年度放流技術開発事業報告書. コウライエビ, 34 pp.
- 佐賀県有明水産振興センター・佐賀県水産振興課・有明海大浦漁協栽培漁業センター (1995) 平成6年度放流技術開発事業報告書. コウライエビ, 39 pp.
- 佐賀県有明水産振興センター (1996) 平成7年度放流技術開発事業報告書. コウライエビ, 39 pp.
- 佐賀県玄海水産振興センター (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック増養殖研究情報, (16):46-48.
- 佐賀県玄海水産振興センター (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック増養殖研究情報, (17):49-50.
- 佐賀県水産栽培漁業センター (1979) 昭和53年度種苗生産に関する試験研究の概要. 昭和53年度九州・山口ブロックかん水増殖分科会資料, 27 pp.
- 佐賀県水産振興課 (1992) クルマエビ増養殖場の造成. 水産の研究, 11(6):108-113.
- サハイア ジャスマニ・川添一郎・施タンイ・鈴木譲・会田勝美 (1998) 眼柄切除によるクルマエビの生理学的変化. 平成10年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.46.
- SAHTOUT A.H., HASSAN M.D. and M.SHARIF (2001) WSSVに感染したウシエビにおけるアポトーシスの証拠としてのDNA断片化(英文). Dis.Aquat.Org., 44(2):155-159.
- SAHUL HAMEED A.S. (1993) A study of the aerobic heterotrophic bacterial flora of hatchery reared eggs, larvae and post-larvae of *Penaeus indicus*. Aquaculture, 117(3・4):195-204.
- SAHUL HAMEED A.S. (1994) Experimental transmission and histopathology of brownspot disease in shrimp (*Penaeus indicus*) and lobster (*Panulirus homarus*). J.Aqua.Trop., 9:311-322.
- SAHUL HAMEED A.S. and P.V.RAO (1994) Studies on the chemical control of a *Vibrio cambellii*-like bacterium affecting hatchery-reared *Penaeus indicus* larvae. Aquaculture, 127(1):1-9.
- SAHUL HAMEED A.S., RAO P.V., FARMER J.J., HICKMEN-BRENNER F.W. and G.R.FANNINE (1996) Characteristics and pathogenicity of a *Vibrio campbellii*-like bacterium affecting hatchery-reared *Penaeus indicus* (MILNE EDWARDS, 1837) larvae. Aquaculture, 27:853-863.
- SAHUL HAMEED A.S., ANIKUMAR M., RAJ M.L.S. and K.JAYARAMAN (1998) Studies on the pathogenicity of systemic ecdodermal and mesodermal baculovirus and its detection in shrimp by immunological methods. Aquaculture, 160(1・2):31-45.
- 最首光三 (1967) コウライエビの時刻別平均漁獲量からみた垂直移動の日周期性および底水温と漁獲量の関係. 西海区水研報, (34):27-38.
- 最首光三 (1978) ポピュレーションと種苗放流. 日本水産学会編, 増殖技術の基礎と理論. 水産学シリーズ, (23):20-31.
- 最首光三 (1980) 変動にみられる生物学特性. 青山恒雄編, 底魚資源. 恒星社厚生閣, 新水産学全集, (10):58-74.
- 斎藤篤 (1979) クルマエビ放流効果について. 昭和54年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- 斎藤兼太郎 (1973) クルマエビの種苗放流について. 昭和48年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- SAITOH S., KOSHIO S., HARADA H., WATANABE K., YOSHIDA T., TESHIMA S. and M.ISHIKAWA (2000) The effects of extruded soybean meal on growth and digestibility of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus* juveniles. 水産増殖, 48(4):649-655.
- 斎藤達夫 (2000) 食料危機に強い水産物. 21世紀の水産を考える会編, 魚は人類を救えるか. 成山堂書店, pp.145-177.
- 斎浦耕二・岡崎孝博・一ノ宮誠・天真正勝 (2000) 複合的資源管理型漁業促進対策事業(抄録). 平成10年度徳島水試事報, 43.
- 斎浦耕二・池脇義弘・吉見圭一郎・團昭紀・天真正勝 (2001) 複合的資源管理型漁業促進対策事業(抄録). 平成11年度徳島水試事報, 55.
- 坂口守彦 (1983) 非タンパク態窒素化合物の代謝. 永山文男編, 魚類の物質代謝. 水産学シリーズ, (47):80-90.
- 阪口清次・石岡宏子・福原修 (1974) クルマエビ人工種苗の生理生態に関する研究. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究報告. 昭和49年度, 8-11.

- 坂口操・小泉勝・加納勝・あさま丸乗組員 (1974) 栽培漁業漁場資源生態調査(クルマエビ). 昭和 47 年度三重浜島水試年報, 28-29.
- 坂口操・小泉勝・加納勝・あさま丸乗組員 (1975) 栽培漁業漁場資源生態調査(クルマエビ). 昭和 48 年度三重浜島水試年報, 22-24.
- 坂口操・小泉勝・加納勝・あさま丸乗組員 (1976) 栽培漁業漁場資源生態調査(クルマエビ). 昭和 49 年度三重浜島水試年報, 92-96.
- 境一郎・松田恵明 (2001) 日本の水産資源を倍増するために-コンブは地球を救う. 水産振興, 35(4):1-52.
- 酒井克己・小川七朗・池田修二・山本憲一 (1981) 大村湾におけるクルマエビおよびヨシエビの中間育成・放流について. 栽培技研, 10(2):63-78.
- 坂井和男 (1993) エビ・カニの殻から有用物質をとる. 隆島史夫・松田皎編, 地球にやさしい海の利用. 恒星社厚生閣, pp. 106-118.
- 酒井正博 (1994) 免疫賦活物質による魚病予防の可能性. 養殖(臨時増刊), 31(2):177-179.
- 酒井正博 (1996) 免疫賦活物質の機能とウイルス病予防の可能性. 養殖, 33(6):56-58.
- 酒井正博 (2001) 実用化に向けた新しい免疫賦活物質の研究. 養殖, 38(11):70-72.
- 酒井亮介 (1998) 空からの水産物輸入-関西国際空港開港から三年目の現状. 水産振興, 32(2):1-35.
- 堺告久 (1966) 人工藻場造成施設(保護水面)設置のための適地選定調査並びに施設の構造について. 昭和 40 年度兵庫水試事報, 別冊(1):133-158.
- 堺告久 (1971) 保護水面に出現する魚類の季節変化について. 兵庫水試事報, (10):19-26.
- 堺告久・菅原英一 (1972) 集餌灯利用培養魚礁の効果追跡調査. 兵庫水試事報, (12):23-36.
- 堺告久 (1974) 稚魚育成場効果調査. 昭和 47 年度兵庫水試事報, 254-256.
- 堺告久・真鍋武彦 (1974) 保護水面効果調査. 昭和 47 年度兵庫水試事報, 257-264.
- 堺告久 (1978) 保護水面の効果調査. 昭和 49 年度兵庫水試事報, 247-250.
- 堺告久 (1978) 大型魚礁事後調査. 昭和 49 年度兵庫水試事報, 250-251.
- 坂本久・越智洋雄・向井龍男 (1990) 種苗生産事業. 平成元年度香川水試事報, 107-113.
- 坂本久・植田豊 (2001) 種苗生産事業. 平成 11 年度香川水試事報, 115-117.
- 坂本市太郎 (1983) 沿岸海域に関する水産研究と問題点. 沿岸海洋研究ノート, 20(2):147-154.
- 坂元史幸 (1987) クルマエビの産直販売. 養殖, 24(12):62-64.
- 坂本拓生 (1982) 底魚資源調査. 昭和 55 年度愛媛水試事報, 16-19.
- 坂本拓生 (1983) 底魚資源調査. 昭和 56 年度愛媛水試事報, 18-21.
- 阪本俊雄・鈴木猛 (1971) 底魚資源調査. 昭和 45 年度和歌山水試事報, 44-64.
- 阪本俊雄 (1975) 底魚資源調査. 昭和 49 年度和歌山水試事報, 49-71.
- 阪本俊雄・鈴木猛 (1975) 和歌山港周辺水域の底生生物調査. 昭和 49 年度和歌山水試事報, 81-98.
- 阪本俊雄 (1976) 底魚資源調査. 昭和 50 年度和歌山水試事報, 43-54.
- 阪本俊雄・鈴木猛 (1976) 和歌山港周辺水域における底生生物調査-底曳網にかかる漁獲物調査. 昭和 50 年度和歌山水試事報, 55-56,資料,65-109.
- 阪本俊雄 (1977) 底魚資源調査. 昭和 51 年度和歌山水試事報, 34-41.
- 阪本俊雄・林健一 (1977) 紀伊水道における小型エビ類の分布. 日水誌, 43(11):1259-1268.
- 阪本俊雄 (1978) 底魚資源調査. 昭和 52 年度和歌山水試事報, 35-47.
- 阪本俊雄 (1978) 紀伊水道における底魚資源の動向. 水産海洋研究会報, (32):34-43.
- 阪本俊雄 (1979) 底魚資源調査. 昭和 53 年度和歌山水試事報, 30-32.
- 阪本俊雄 (1980) 底魚資源調査(抄録). 昭和 54 年度和歌山水試事報, 15-16,資料:62-75.
- 阪本俊雄 (1980) 瀬戸内海の水産と海洋環境. 海と空, 56(2・3):115-133.
- 阪本俊雄 (1981) 底魚資源調査(抄録). 昭和 55 年度和歌山水試事報, 23-25,資料:62-72.
- 阪本俊雄 (1981) 瀬戸内海の水産と海洋環境. 昭和 55 年度和歌山水試事報, 127-145.
- 阪本俊雄 (1982) 底魚資源調査. 昭和 56 年度和歌山水試事報, 26-31,資料:67-80.
- 阪本俊雄 (1984) 底魚資源調査. 昭和 57 年度和歌山水試事報, 32-35,資料:57-60.
- 阪本俊雄 (1984) 1984 年冬春季の紀伊水道における魚介類浮標斃死と異常漁況. 水産海洋研究会報, (46):115-125.
- 阪本俊雄・堀木信男・竹内淳一・吉村晃一・武田保幸 (1987) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 60 年度和歌山水試事報, 7-30.
- 阪本俊雄・渡辺勇二郎・竹内淳一・吉村晃一・武田保幸 (1988) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 61 年度和歌山水試事報, 6-27.
- 阪本俊雄・渡辺勇二郎・竹内淳一・吉村晃一・武田保幸 (1989) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 61 年度和歌山水試事報, 5-26.
- 阪本俊雄・渡辺勇二郎 (1993) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 広域回遊資源:タチウオ・ハモ. 平成 3 年度和歌山水試事報, 35-51.

- 坂本龍一 (1997) 沿岸特定資源調査(クルマエビ,抄). 平成7年度宮崎水試事報, 131-132.
- 坂野安正 (1983) 宮津湾におけるクルマエビの栽培漁業化. 京都府水産試験研究成果発表課題.
- 坂田完三 (1989) 摂餌行動の化学. 北川勲・伏谷伸宏編, 海洋生物のケミカルシグナル. 講談社サイエンティフィック, pp.7-46.
- 坂田完三 (1989) 魚貝類の摂餌誘引・刺激物質. 水産庁研究部研究課編, 水産分野におけるバイオテクノロジー研究の現状. pp.89-118.
- 坂田泰造・垂野信行 (1987) クルマエビ消化管内細菌に関する生態学的研究-I. 消化管内細菌相の変動. 水産増殖, 35(3):147-151.
- 坂田泰造・垂野信行 (1987) クルマエビ消化管内細菌に関する生態学的研究-II. 腸内および病エビ筋肉分離ビブリオ属菌の性状, 水産増殖, 35(3):153-160.
- 阪地英男・本田仁・梨田一也 (1996) 土佐湾におけるクルマエビ科エビ類の個体群への加入過程. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.47.
- 阪地英男 (1997) 土佐湾浅海域と瀬戸内海安芸灘におけるクルマエビ科エビ類種組成の比較. 南西外海の資源・海洋研究, (13):47-52.
- 阪地英男・小松章博 (2000) 高知県浦戸湾におけるクルマエビ科エビ類とその生活史及び人工種苗の影響. GSK 底魚部会報, (4):43-44.
- 坂詰博・金盛浩吉・阪本敏雄・上西勝治・工藤基善・田中嘉治・坂梨俊・池永勝彦 (1971) クルマエビ漁業実践漁場設定調査(抄録). 昭和45年度和歌山水試事報, 106.
- 坂詰博 (1980) 昭和53年度事業の概要. 和歌山水増試報, 1-4.
- 崎山昭治 (1990) 水域環境はこれで良いか-魚をはぐくむ森・川・海. 水産振興, 24(11):1-25.
- 佐古浩 (1997) 魚類養殖環境と魚病. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):297-302.
- 酒向昇 (1975) クルマエビ科(Penaeidae)のエビの漁業戦略-資源面からみたもの. 水産海洋研究会報, (28):135-139.
- 酒向昇 (1979) えび-知識とノウハウ. 水産社, 303 pp.
- 酒向昇 (1985) 海老. 法政大学出版局. ものと人間の文化史, (54):1-402.
- 酒向昇 (1988) 揺動する台湾のエビ養殖①. ウシエビ養殖の蹉跌(上). 養殖, 25(11):120-123.
- 酒向昇 (1988) 揺動する台湾のエビ養殖②. ウシエビ養殖の蹉跌(下). 養殖, 25(12):126-129.
- 酒向昇 (1989) 揺動する台湾のエビ養殖③. 養殖, 26(1):68-71.
- 酒向昇 (1989) 揺動する台湾のエビ養殖④. ウシエビ養殖の今後疾病被害の影響と復興への課題. 養殖, 26(4):78-80.
- 酒向昇 (1994) 日本のエビ漁業の沿革史. 東京水大第9回公開講座編集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.236-257.
- 櫻井則広・浜川秀夫 (1996) クルマエビ種苗生産事業. 平成7年度鳥取水試年報, 254-258.
- SALINI J.P., BLABER S.J.M. and D.T.BREWER (1990) Diets of piscivorous fishes in a tropical Australian estuary, with special reference to predation on penaeid prawns. Marine Biol., 105(3):363-374.
- SALOMAN C.H. (1968) Diel and seasonal occurrence of pink shrimp, *Penaeus duorarum* BURKENROAD, in two divergent habitats of Tampa Bay, Florida. U.S.Fish Wildl.Surv., Spe.Sci.Rep., Fish., (561):6.
- 鮫島守・平岡政宏・那須博史・山下幸寿 (2001) 魚類防疫対策事業. 平成12年度熊本水研事報, 75-78.
- 鮫島宗雄・島村不二夫 (1980) 浸透圧調節因子としてのクルマエビのアミノ酸(英文). 鹿大水産紀要, (29):293-299.
- SAMET M.・山崎繁久・平田八郎 (1995) クルマエビの成長と飼育環境に及ぼす生餌およびドライペレット給餌の影響(英文). 水産増殖, 43(2):205-211.
- SAMET M. (1996) クルマエビ, *Penaeus japonicus* BATE を空気中に露出した場合の鰓弁の微細構造の変化(英文). 水産増殖, 44(1):73-77.
- SAMET M., NAKAMURA K. and T.NAGAYAMA (1996) Tolerance and respiration of the prawn (*Penaeus japonicus*) under cold air conditions. Aquaculture, 143(2):205-214.
- SAMET M.・中村薫・永山毅 (1996) クルマエビの空気露出耐性と呼吸に及ぼす冷却の影響(英文). 水産増殖, 44(3):273-278.
- SAMIT Sakorn (1993) ウシエビの頭部黄変病の迅速診断法(英文). AAHRI Newsletter, 2(1):3-5.
- SAMOCHA T. and C.LEWINSOHN (1977) A preliminary report on rearing penaeid shrimps in Israel. Aquaculture, 10(3):291-292.
- SAMOCHA T.M., UZIEL N. and C.L.BROWDY (1989) The effect of feeding two prey organisms, nauplii of *Artemia* and rotifers, *Brachionus plicatilis* (MULLER), upon survival and growth of larval marine shrimp, *Penaeus semisulcatus*(de HAAN). Aquaculture, 77(1):11-19.
- SAMOCHA T.M., GUAJARDO H., LAWRENCE A.L., CASTILLE F.L., SPEED M., McKEE D.A. and K.I.PAGE (1998) A simple stress test for *Penaeus vannamei* postlarvae. Aquaculture, 165(3-4):233-242.

- 左中亮子・大久保和央・山本健也・鈴木信一・戦文斌・福田穎穂 (1997) 中国および日本由来の PRDV の比較. 平成 9 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.21.
- SANCHEZ A., PASCUAL C., SANCHEZ A., VARGAS-ALBORES F., Le MOULLAC G. and C.ROSAS (2001) Hemolymph metabolic Variables and immune response in *Litopenaeus setiferus* adult males: the effect of acclimation. *Aquaculture*, 198(1・2):13-28.
- SANCHEZ M.R. (1986) Rearing of mysid stages of *Penaeus vannamei* fed with cultured algae of three species. *Aquaculture*, 58(1・2):139-144.
- SANDIFER P.A., LAWRENCE A.L., HARRIS S.G., CHAMBERLAIN G.W., STOKES A.D. and W.A.BRAY (1984) Electrical stimulation of spermatophore expulsion in marine shrimp, *Penaeus* spp. *Aquaculture*, 41(2):181-187.
- SANGRUNGUANG K. and R.UENO (2001) Detection of oxytetracycline resistant bacterial in shrimp (*Penaeus monodon* FABRICIUS) farm with transferrable R-plasmid. *ITE Lett.*, (2):412-416.
- 佐野和生 (1991) 養殖環境工学. サイエンス社, 210 pp.
- 佐野和生 (1993) 垣間見た中国水産養殖の底力(下). 養殖, 30(9):118-119.
- 佐野計 (1972) 食用動植物学. 別府大生物学研究室, 176 pp.
- 佐野雅昭・多屋勝雄 (1994) NIES, ASEAN からみた水産貿易の同行と特徴. 漁業経済研究, 38(4):128-154.
- 佐野隆三 (1968) 水産業改良普及事業. 昭和 42 年度愛媛水試事報, 266-267.
- 佐野隆三 (1969) 普及員活動実績. 昭和 43 年度愛媛水試事報, 227.
- 佐野隆三・兵藤正員 (1970) 増殖技術改良試験. 昭和 44 年度愛媛水試事報, 258-261.
- 佐野雅基・有山啓之・矢持進 (1994) 貝類栽培漁業技術開発試験. 平成 4 年度大阪水試事報, 157-168, 付表:(56)-(59).
- 佐野雅基・有山啓之・矢持進 (1995) 貝類栽培漁業技術開発試験. 平成 5 年度大阪水試事報, 1120-126, 付表:(53)-(59).
- 佐野徳夫・西村定一・小熊一雄・竹野登 (1978) 水産無脊椎動物のウイルス病に関する研究-I. クルマエビ中腸腺白濁症に関するウイルス学的研究. 昭和 53 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.53.
- SANO T., NISHIMURA T., OGUMA K., MOMOYAMA K. and N.TAKENO (1981) Baculovirus infection of culture shrimp, *Penaeus japonicus* in Japan. 魚病研究, 15(3・4):185-191.
- SANO T., NISHIMURA T., FUKUDA H., HAYASHIDA T. and K.MOMOYAMA (1984) Baculoviral mid-gut grand necrosis (BMU) of Kuruma shrimp (*Penaeus japonicus*) larva in Japanese intensive culture systems. *Heigolander Meeresunters*, (37):255-264.
- 佐野徳夫 (1984) クルマエビ幼生のバキュロウイルス性中腸腺壊死症. 丸茂隆三, 海洋の生物過程. 恒星社厚生閣, pp. 263-266.
- SANO T., NISHIMURA T., FUKUDA H., HAYASHIDA T. and K.MOMOYAMA (1985) Baculovirus infectivity trials on Kuruma Shrimp larvae, *Penaeus japonicus*, of different ages. ELLIS A.E.ed., *Fish and Shellfish Pathology*. Academic Press, New York, pp.397-403.
- SANO T. and K.MOMOYAMA (1992) Baculovirus infection of penaeid shrimp in Japan. FULKS W. & K.L.MAIN eds., *Diseases of cultured penaeid shrimp in Asia and the United States*. Special Publ. of The Oceanic Institute, Honolulu, Hawaii, pp.169-174.
- 佐野徳夫訳 (1995, 原著:FRYER J.L. & C.N.LANNAN) 淡水魚および海水魚, 二枚貝と甲殻類のリケッチアとクラミジアの感染症(総説). 水産の研究, 14(2):54-65.
- 佐野徳夫 (1996) エビ血リンパの培養による感染体の検出. 平成 8 年度日本魚病学会春季大会講演要旨.
- SANO T. (1997) Historrhesis induced on a novel penaeid tissue with a 200 nm-filterable agent from *Penaeus monodon* FABRICIUS. International symposium on diseases in Marine Aquaculturw. JSFP-Hiroshima, p.65.
- SANO T. (1998) A novel tissue organized in the primary hemolymph culture of *Penaeus japonicus* BATE. *Aquaculture*, 164(1-4):289-296.
- SANTIAGO A.C. (1977) Successful spawning in *Penaeus monodon* FABRICIUS after eyestalk ablation. *Aquaculture*, 11(3):185-196.
- 早乙女浩一 (2001) 標識技術の現状. 放流効果調査事例検討会資料集. 協会検討資料, (79):37-42.
- SARAC H.Z., McMENIMAN N.P., THAGGARD H., GRAVEL M., TABRETT S. and J.SAUNDERS (1994) Relationship between the weight and chemical composition of exuvia and whole body of the black tiger prawn, *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 119(2・3):249-258.
- SARAC Z., THAGGARD H., SAUNDERS J., GRAVEL M., NEILL A. and R.T.COWAN (1993) Observation on the chemical composition of some commercial prawn feeds and associated growth responses in *Penaeus monodon*. *Aquaculture*, 115 (1・2):97-110.
- 笹平俊・門脇秀策・牧孝昭 (1998) *Bdellovibrio* sp. BD-4 による *Vibrio penaeicida* PJ の殺菌. 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.113.

- 笹井一美 (1981) ウシエビに憑かれて. 養殖, 18(9):42-43.
- 笹井一美 (1981) ウシエビ養殖奮戦記. 養殖, 18(11):63-67.
- 笹井一美 (1982) ウシエビ養殖の廖博士を訪ねて. 養殖, 19(3):42.
- 笹井一美 (1983) ウシエビ養殖の一年. 養殖, 20(2):42-43.
- 笹川康雄 (1981) かご漁業の現状と問題点. 日本水産学会編, かご漁業. 水産学シリーズ, (36):9-21.
- 佐々木秋夫 (1976) クルマエビの中間育成について. 昭和 51 年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- 佐々木秋夫 (1976) クルマエビ放流効果について. 昭和 51 年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- 佐々木勝則 (1992) 陸上水槽を使ったクルマエビ中間育成. 平成 4 年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- 佐々木克之 (1995) 内湾および干潟における物質循環と生物生産(15). 三河湾の漁場環境と干潟. 海洋と生物, 17(3):203-214.
- 佐々木克之 (1999) 内湾および干潟における物質循環と生物生産【31】. 干潟と漁業生物. 5.愛知県のクルマエビ. 海洋と生物, 21(3):224-230.
- 佐々木克之 (1999) 内湾および干潟における物質循環と生物生産【32】. 干潟と漁業生物. 6.豊前海のクルマエビ. 海洋と生物, 21(5):399-405.
- 佐々木和之・松井繁明 (1992) 栽培漁業事業化促進事業-糸島地域クルマエビ, ガザミパイロット事業. 平成 3 年度福岡県水試研報, 福 5.
- 佐々木和之・松井繁明・深川敦平 (1992) 糸島地区におけるクルマエビ栽培漁業の現状と展望-I. クルマエビ漁業の実態に関する研究. 福岡水試研報, (18):59-64.
- 佐々木和之・松井繁明 (1993) 加布里干潟におけるクルマエビの発生と環境について. 福岡水技研報, (1):103-112.
- 佐々木和之・袈裟丸克彦 (1993) 栽培漁場事業化促進事業 -糸島地区クルマエビ, ガザミパイロット事業. 平成 4 年度福岡水技事報, 75-76.
- 佐々木和之・太刀山透 (1994) 標識放流からみたクルマエビの移動と成長. 福岡水技研報, (2):33-42.
- 佐々木和之・大津隆一・的場達人 (1996) 陸上中間育成施設で発生したクルマエビの RV-PJ による疾病. 福岡水技研報, (5):25-29.
- 佐々木正雄・田原恒男・北角至 (1980) 昭和 53 年の赤潮発生状況について. 昭和 40-53 年度追補徳島水試事報, 320-323.
- 佐々木輝夫 (1959) 漁業資源の生物学的性格とその利用段階. 漁業経済研究, 8(2):23-35.
- 佐々木正 (1985) 栽培漁業における種苗生産の今後の展開. 静岡栽セ. なむら, (25):1-2.
- 佐々木輝夫 (1992) マリノフォーラム 21 における新技術開発について. 南西海ブロック魚礁研究会報, (10):93-99.
- 佐々木徳蔵 (1971) クルマエビ放流事業について. 昭和 46 年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- 佐々木幸雄・小池篤 (1959) トロール網に入る 2,3 の水族の昼夜間による漁獲差について. 日水誌, 25(2):111-116.
- 笹尾敬 (1985) 海域水産生物環境調査. 昭和 58 年度秋田水試事報, 112-322.
- 笹尾敬 (1993) 鋼製魚礁による漁場造成調査第 II 報(マリノベシオン推進事業). 平成 3 年度秋田水産振興セ事報, 170-189.
- 篠岡久夫・満岡弘・松本紀男 (1970) 志度湾におけるくるまえば稚子の放流と追跡. 昭和 43 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査事業. 昭和 43 年度香川水試事報, 41-44.
- 篠岡久夫・満岡弘・松本紀男 (1971) 志度湾におけるくるまえば稚子の放流と追跡. 志度湾におけるくるまえば放流による栽培漁業の展開. 昭和 44 年度香川水試事報, 44-49.
- 篠岡久夫 (1971) 香川県の栽培漁業の現状. 昭和 44 年度香川水試事報, 50-52.
- 篠岡久夫・大島泰雄 (1974) 香川県志度湾の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬栽協, 21-23.
- SASEKUMAR A. and V.C.CHONG (1987) Mangroves and prawns-further perspectives. SASEKUMAR A., PHANG S.M. & E.L.CHONG eds., Proceedings of the Annual Seminar, Towards Conserving Malaysians Marine Heritage. Kuala Lumpur, Univ. of Malaya, pp.10-22.
- SASIKALA S.L. and T.SUBRAMONIAM (1987) On the occurrence of acid mucopolysaccharides in the spermatophores of two marine prawns, *Penaeus indicus* (MILNE-EDWARDS) and *Metapenaeus monoceros* (FABRICUS) (Crustacea: Macrura). J.Exp.Mar.Biol.Ecol., 113(2):145-154.
- 佐竹五六 (1987) 水産行政の当面する諸課題. 水産振興, 21(8):1-47.
- 佐竹五六 (1997) 国際化時代の日本水産業と海外漁業協力. 成山堂書店, 288 pp.
- 里見至弘 (1993) 有機スズ化合物の水生生物に対する毒性. V-(上). 水産の研究, 12(1):96-104.
- 里見至弘 (1993) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(2). 環境基準項目. 水産の研究, 12(6):66-68.
- 里見至弘 (1994) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(3-1). 要監視項目. 水産の研究, 13(1):62-65.
- 里見至弘 (1994) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(3-2). 要監視項目. 水産の研究, 13(2):52-56.
- 里見至弘 (1994) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(3-3). 要監視項目. 水産の研究, 13(3):46-51.
- 里見至弘 (1994) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(4-1). 登録農薬. 水産の研究, 13(4):70-78.
- 里見至弘 (1994) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(4-2). 登録農薬. 水産の研究, 13(5):89-97.

- 里見至弘 (1994) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(4-3). 登録農薬. 水産の研究, 13(6):90-98.
- 里見至弘 (1994) 環境-化学物質汚染. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学, 水産学シリーズ, (100):241-249.
- 里見至弘 (1995) 農薬が海洋生物に及ぼす影響(4-4). 登録農薬, 水産の研究, 14(1):89-98.
- 佐藤魚水 (1995) ヒラメはなぜ立って泳がないのか-魚の謎解き事典. 新人物往来社, 208 pp.
- 佐藤魚水 (1997) 魚の謎解き事典. 新人物往来社, 181 pp.
- 佐藤秀・白幡隆 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成 6・7 年度山形栽セ業報, 52-57.
- 佐藤秀・白幡隆 (1997) クルマエビ中間育成. 平成 6・7 年度山形栽セ業報, 58-60.
- 佐藤純・今泉圭之輔・虫明敬一・有元操・森広一郎・西澤豊彦・室賀清邦 (1998) クルマエビ種苗生産過程における PAV 発生状況. 平成 10 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.1.
- 佐藤純・虫明敬一・森広一郎・有元操・今泉圭之輔・西澤豊彦・室賀清邦 (1999) クルマエビの種苗生産過程における PAV の発生状況. 魚病研究, 34(1):33-38.
- 佐藤純 (2000) 海産魚におけるウイルス病対策. シマアジの VNN とクルマエビの PAV 対策を例として. 養殖, 37(5):56-59.
- 佐藤純 (2000) Control of penaeid acute viremia (PAV) in seed production of *Penaeus japonicus*. 第 29 回 UJNR シンポジウムプロシーディング.
- SATO H. J., MUSHIAKE K., MORI K., ARIMOTO M. and K. IMAIZUMI (2001) Control of penaeid acute viremia (PAV) in seed production of *Penaeus japonicus*. Bull. National Res. Inst. Aquacult., Supplement, (5):95-99.
- 佐藤博 (1995) 種苗ベストガイド. 種苗生産マニュアル&上手な種苗の選び方-クルマエビ. 養殖, 32(2):160-164.
- 佐藤博之・江藤拓也・神菌真人・桑村勝士 (1998) 人工魚礁とその魚礁効果. 福岡水技研報, (8):73-79.
- 佐藤守 (1996) ビタミン, ミネラル. 鴻巣章二監修, 魚の科学. 朝倉書店, pp.31-42.
- 佐藤重勝 (1983) つくる漁業の資源論. 水産庁監修, 最新版つくる漁業. 資源協会, pp.126-134.
- 佐藤昌子・田原健 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(抄). 平成 9 年度宮崎水試事報, 115-116.
- 佐藤昌子・田原健 (2000) 延岡湾におけるクルマエビ放流効果把握調査. 平成 10 年度宮崎水試事報, 140-145.
- 佐藤昌子・林田秀一・栗田壽男 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(抄). 平成 11 年度宮崎水試事報, 111-112.
- 佐藤昌子・林田秀一・栗田壽男 (2001) 資源管理型漁業進捗状況調査・小型魚漁獲実態調査 (マダイ・クルマエビ等). 平成 11 年度宮崎水試事報, 113-114.
- 佐藤昌子 (2001) 宮崎県における標識放流. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック, クルマエビ), II. 89-97.
- 佐藤 栄 (1971) 日本の海洋・漁業生物研究の歴史的過程とその発展に関する研究-II. 漁業生物の基本的諸性質, および生物的生産に関する諸理論の歴史的発展について. 東北水研研報, (31):1-30.
- 佐藤哲哉 (1973) 南方トロール漁業の経過と現状. 昭和 48 年度 GSK 西日本底魚部会報, 1-9.
- 佐藤哲哉 (1980) 遠洋底魚資源. 青山恒雄編, 底魚資源. 恒星社厚生閣, 新水産業全集, (10):284-331.
- 佐藤利吉 (1986) 120トン池におけるクルマエビ種苗生産について. 大分県水産関係研究者協議会研究発表要旨-I. p.25.
- 佐藤幸人 (1992) スリランカのエビ流通と貿易. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.176-199.
- 里内晋 (1937) 東海黄底魚漁場の再認識. 唐津, 142 pp.
- 里内晋 (1943) 底曳漁業と其の資源. 水産社, 254 pp.
- SAULNIER D., AVARRE J.C., LEMOULLAC G., ANSQUER D., LEVY P. and V.VONAU (2000) Rapid and sensitive PCR detection of *Vibrio penaeicida*, the putative etiological agent of syndrome 93 in New Caledonia. Dis. Aquat. Org., 40(2):109-115.
- SAULNIER D., HAFNER P., GOARANT C., LEVY P. and D.ANSQUER (2000) Experimental infection models for shrimp vibriosis studies: a review. Aquaculture, 191(1-3):133-144.
- 澤村睦徳・伊藤恵彰・桜井郁夫・中野和文 (1994) 未来志向の漁業関係確立を-日韓, 日中間の新たな枠組み構築. 水産振興, 27(20):1-51.
- 沢田健蔵・池脇義弘 (1995) 魚病診断結果. 平成 5 年度徳島水試事報, 244-246.
- 沢田健蔵・池脇義弘 (1996) 平成 6 年度魚病診断結果. 平成 6 年度徳島水試事報, 172-174.
- 澤田貴義・鈴木雄策 (1976) 新型魚礁設置事業. 昭和 50 年度静岡水試事報, 49-51.
- 澤田貴義・鈴木雄策 (1977) 遠州灘開発調査. 試験操業. 昭和 51 年度静岡水試事報, 39-42.
- 澤田貴義 (1982) 電源立地地域温排水対策事業. 昭和 56 年度静岡水試事報, 77-78.
- 澤田貴義・河尻正博 (1984) 御前崎地区の漁業実態. 昭和 58 年度静岡水試事報, 86-93.

- SCHIEDT K., BISCHOF S. and E. GLINZ (1991) Recent progress on carotenoid metabolism in animals. *Pure Appl. Chem.*, 63:89-100.
- SCHMITT W.L. (1921) The marine decapod Crustacea of California with special reference to the decapod Crustacea collected by the United States Bureau of Fisheries Steamer "Albatross" in connection with the biological survey of San Francisco Bay during the years 1912-1913. *Univ. Calif. Publ.*, (23):1-359.
- SCHOLZ U., DIAZ G.G., RICQUE D., CRUZ SUAREZ L.E., ALDORES F.V. and J. LATCHFORD (1999) Enhancement of vibriosis resistance in juvenile *Penaeus vannamei* by supplementation of diets with different yeast products. *Aquaculture*, 176(3-4):271-283.
- SCHRAM F.R. (1982) The fossil record and evolution of Crustacea. Systematic. ABELE L.G. ed., *The Fossil Record, and Biogeography*. Academic Press, pp.93-147.
- SCHROEDER G.L. (1983) Sources of fish and prawn growth in polyculture ponds as isolated by delta Canalysis. *Aquaculture*, 35(-):29-42.
- SCURE E.D., FISHER J. and M.P. YUNKER (1984) The use of microencapsulated feeds to replace live food organisms in shrimp hatcheries. Presented at the 1st Int. Conf. Cult. Prawns/Shrimps. Iloilo, Philippines.
- SEABROOK J. (1995) Malaysian farmers battle aquaculture project. *Third World Resurgence*, (59):14-17.
- SEAFDEC Aquaculture Dept. (1981) Crustacean hatchery. Annual Rep., 13-17.
- SEAFDEC (1996) Mangroves vs ponds. *Aqua Farm News*, 14(1):1.
- 施トウイ・長澤寛道・鈴木譲・会田勝美 (1997) 成熟雄クルマエビの脱皮周期における CHH と MIH 分泌細胞の免疫組織化学. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.225.
- 施タンイ・鈴木譲・長澤寛道・会田勝美 (1998) クルマエビ眼柄における CHH 族ペプチド産生細胞の分布. 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.47.
- SEDGWICK R.W. (1979) Influence of dietary protein and energy on growth, food consumption and food conversion efficiency in *Penaeus merguensis* de MAN. *Aquaculture*, 16(1):7-30.
- SEDGWICK R.W. (1979) Effect of ration size and feeding frequency on the growth and food conversion of juvenile *Penaeus merguensis* de MAN. *Aquaculture*, 16(4):279-298.
- SEDGWICK R.W. (1980) The requirements of *Penaeus merguensis* for vitamin and mineral supplements in diets based on freeze-dried *Mytilus edulis* meal. *Aquaculture*, 19(2):127-137.
- 瀬川和人 (1979) クルマエビの資源量の変動と漁業の関係について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (11):57-62.
- 瀬川和人 (1981) 福岡県豊前海区における小型底びき網漁業漁獲物の経年変化 - II. (昭和 47~53 年). 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (13):17-26.
- 瀬川和人・林功・多胡信良 (1983) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 56 年度福岡豊前水試研業報, 64-70.
- 瀬川和人・林功・多胡信良 (1983) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 56 年度福岡豊前水試研業報, 71-75.
- 瀬川直治 (1976) クルマエビ種苗生産研究. 昭和 50 年度愛知水試業報, 217.
- 瀬川直治 (1978) クルマエビ種苗生産. 昭和 52 年度愛知水試業報, 86.
- 瀬川直治・岩崎貞郎・河根三雄 (1981) クルマエビ種苗生産. 昭和 54 年度愛知裁協業報, 9-15.
- 瀬川直治 (1986) 種苗放流技術普及事業. 昭和 60 年度愛知水試業報, 191-193.
- 瀬川直治 (1987) 陸上水槽におけるクルマエビの中間育成(底質改良試験). 昭和 61 年度愛知水試業報, 217-220.
- 瀬川直治 (1987) 種苗放流技術普及事業. 昭和 61 年度愛知水試業報, 241-243.
- 瀬川直治 (1988) 種苗放流技術普及事業. 昭和 62 年度愛知水試業報, 224-230.
- 瀬川直治 (1989) 種苗放流技術普及事業. 昭和 63 年度愛知水試業報, 190-191.
- 瀬川直治 (1990) 栽培漁業推進指導事業. 平成元年度愛知水試業報, 211-212.
- 瀬川直治 (1992) 栽培漁業推進指導事業. 平成 3 年度愛知水試業報, 150-151.
- 青海忠久・山本博敬 (1979) クルマエビ Zoea 幼生に対するパン酵母および油脂酵母の餌料価値(短報). 長崎水試研報, (5):99-101.
- 青海忠久・山本博敬 (1980) クルマエビ幼生の発育段階に対する有機リン系殺虫剤の急性毒性. 長崎水試研報, (6):71-76.
- 青海忠久 (2001) 稚魚を飼う. 千田哲資・南卓志・木下泉編, 稚魚の自然史. 北海道大学図書刊行会, pp.16-29.
- 西海区水産研究所遠洋資源部訳 (1965) 鄭思綬:コウライエビ(大正エビ)の生活習性と漁労についての若干の技術経験. 中国水産文献訳, 第2集, 底魚資源調査研究連絡報, (35):10-15.
- 西海区水産研究所 (1966) 遠洋資源の研究. 以西底魚. 漁業資源研究会議報, (6):73-78.
- 西海区水産研究所 (1969) 遠洋資源の研究. 以西底魚. 漁業資源研究会議報, (9):96-106.
- 西海区水産研究所 (1973) 遠洋資源の研究. 東シナ海・黄海における底魚資源. 漁業資源研究会議報, (14):134-143.
- 西海区水産研究所 (1995) 西海ブロック水産研究及び水産業情報. 西海区水研ニュース, (83):38-40.
- 関信一郎・西田正昭・寺岡貴志 (1999) 魚種別種苗生産. 2. クルマエビ. 平成 10 年度愛媛栽セ業報, 13-16.

- 関信一郎・西田正昭・寺岡貴志 (2000) 魚種別種苗生産. 2.クルマエビ. 平成 11 年度愛媛栽セ業報, 13-14.
- 関信一郎 (2001) 魚種別種苗生産. 2.クルマエビ. 平成 12 年度愛媛栽セ業報, 10-13.
- 関達哉・青木邦昭・宮沢公雄 (1968) 最近における東京内湾千葉県沿岸部における水質について. 水産海洋研究会報, (12):16-26.
- 関泰夫・池田徹・木村憲 (1993) 人工生産されたクルマエビ種苗の潜砂状況について. 平成 3 年度新潟栽培セ業研報, 91-97.
- 関泰夫・安沢弥・池田徹・渡辺誠治 (1994) 重要甲殻類管理手法開発調査(対象種クルマエビ). 平成 4 年度新潟栽培セ業研報, 49-50.
- 関泰夫 (1994) 高い密度で中間育成下クルマエビの減耗状況について(短報). 平成 4 年度新潟栽培セ業研報, 95-99.
- 関泰夫 (1994) クルマエビの中間育成結果について. 平成 4 年度新潟栽培セ業研報, 105-106.
- 関泰夫・池田徹・安沢弥・渡辺誠治 (1994) クルマエビの中間育成. 日本海ブロック試験研究集録, (30):61-69.
- 関口秀夫 (1985) 遠州灘. 生物. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.491-492.
- 関口秀夫・野沢靖 (1985) 伊勢湾・三河湾. 生物. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.594-605.
- 関屋朝裕・松本正勝・田中篤・岩田一夫・那須司・中川豊・神田美喜夫・毛良明夫・河野秀伸 (1990) 魚類免疫に関する研究(抄)-配合餌料の主原材料である魚粉の違いが生体防御に及ぼす影響. 昭和 63 年度宮崎水試事報, 152-153.
- 関山博史・岡本昭・森川晃・矢田武義 (1993) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 4 年度長崎水試事報, 17-18.
- 関山博史・森川晃 (1994) 海面におけるクルマエビの放流前予備飼育の効果. 長崎水試研報, (20):35-39.
- 瀬古準之助・石川貴朗 (1993) 保護水面調査. 平成 4 年度三重水技事報, 184-185.
- 瀬古準之助・石川貴朗・落合昇 (1995) 保護水面調査. 平成 6 年度三重水技事報, 164.
- 瀬古準之助・石川貴朗・落合昇 (1996) 保護水面調査. 平成 7 年度三重水技事報, 156.
- 瀬古準之助・石川貴朗・落合昇 (1997) 保護水面調査. 平成 8 年度三重水技事報, 203.
- 瀬古準之助・石川貴朗 (1998) 保護水面調査. 平成 9 年度三重水技事報, 186.
- 千田哲資 (1999) さかななどの道草. 養殖, 36(8):86-87.
- 瀬戸口英樹・楽敦 司 (1997) クルマエビ中間育成事業. 平成 6・7 年度兵庫栽協事報, 268-269.
- 瀬戸口勇・椎原久幸・藤田征作 (1974) クルマエビ保護育成の2,3の問題点. 栽培技研, 3(1):71-76.
- 瀬戸内海栽培漁業協会 (1969) 栽培漁業技術の展開(昭和 38~43 年度). 257 pp.
- 瀬戸内海栽培漁業協会 (1970) 瀬戸内海栽培漁業の推進に関する提唱. 瀬栽協, 63 pp.
- 瀬戸内海栽培漁業協会 (1978) 種苗生産技術開発. クルマエビ. 栽培漁業技術開発の歩み. 瀬栽協, pp.26-41.
- SHABAN O., OCHIAI Y., WATANABE S and K. HASHIMOTO (1987) Quality changes in kuruma prawn during frozen and ice storage. 日水誌, 53(2):291-296.
- SHANG Y.C., LEUNG P. and B-H LING (1998) Comparative economics of shrimp farming in Asia. Aquaculture, 164(1-4):183-200.
- SHANTI K.N., MARTIN B.W., NAGPAL S., METCALFE D.D. and P.V.SUBBA RAO (1993) Identification of tropomyosin as the major shrimp allergen and characterization of its IgE-binding epitopes. J.Immunol. (151):5354-5363.
- SHARIFF M. and R.P.SUBASINGHE (1992) Major diseases of cultured shrimp in Asia: an overview. FULKS W.& K.L.MAIN eds., Diseases of Cultured Penaeid Shrimp in Asia and the United States. The Oceanic Institute, Honolulu, pp.37-46.
- SHARIFF M., YUSOFF F.M., DEVARAJA T.N.and P.S. SRINIVASE RAO (2001) The effectiveness of a commercial microbiol product in poorly prepared tiger shrimp, *Penaeus monodon* (FABRICIUS), ponds. Aquacult.Res, 32:181-187.
- SHEEN S.S., LIU P.C., CHEN S.N. and J.C.CHEN (1994) Cholesterol requirement of juvenile tiger shrimp(*Penaeus monodon*). Aquaculture, 125(1・2):131-137.
- 戦文斌・大久保和央・左中亮子・福田穎穂 (1997) 中国養殖コウライエビにおける PRDV 感染症. 平成 9 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.20.
- 戦文斌・大久保和央・鈴木信一・福田穎穂 (1997) PRDV に対するモノクローナル抗体の開発. 平成 9 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.21.
- 沈嘉瑞・劉瑞玉 (1976) 我国的蝦蟹. 科学出版社, 146 pp.
- 沈新強・顧新根 (1995) 象山港における移植・放流エビの産卵場の調査. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):202-208.
- 沈新強 (1997) 内湾における水交換と増養殖漁場環境の関係. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):350-361.

- 沈雲章・樓宝 (1995) 象山港における放流エビ群の成長. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):158-168.
- 沈雲章・樓宝 (1995) 象山港外における放流エビ群の移動と分布. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):177-183.
- SHEWBART K.L., MIES W.L. and P.D.LUDWIG (1972) Identification and Quantative analysis of the amino acids present in protein of the brown shrimp, *Penaeus aztecus*. Mar.Biol., (16):64-67.
- SHEWBART K.L., MIES W.L. and P.D.LUDWIG (1973) Nutritional requirements of brown shrimp, *Penaeus aztecus*. U.S. Commer.Dep.No.COM-73-11794. NOAA,Office of Sea Grant, Rockville,Md. 52.
- SHEWBART K.L. and W.L.MIES (1973) Studies on nutritional requirements of brown shrimp. The effect of linolenic acid on growth of *Penaeus aztecus*. Proc.World Maricult.Soc.4th Annual Workshop, 277-287.
- 施兆鴻 (1999) 東海区域におけるタイショウエビ人工放流効果についての検討. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):268-274.
- SHI Z.L., HUANG C.H., DURAND S., CHEN D.H. and J.R.BONAMI (1998) Partial cloning of the genome of non-occluded baculovirus from *Penaeus chinensis* and preparing the probe for detction. Virologica Sinica, (13):263-267.
- SHIAU S.Y., LIN S.F. and L.J. LU (1991) Effects of different types of wheat flour in grass prawn *Penaeus monodon*. 日水誌, 57(4):705-163.
- SHIAU S.Y. and F.L.JAN (1992) Ascorbic requirements of grass srmp *Penaeus monodon*. 日水誌, 58(2):363.
- SHIAU S.Y. and C.Y.PENG (1992) Utilization of different carbohydrates at different dietary protein levels in grass prawn, *Penaeid monodon*, reared in seawater. Aquaculture, 101(3・4):241-250.
- SHIAU S.Y. and C.Q. LUNG (1993) Estimation of the vitamin B12 requeriment of the grss shrimp, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 117(1・2):157-163.
- SHIAU S.Y. and T.S. HSU (1993) Stanility of ascorbic acid in shrimp feed during analysis.日水誌. 59(9):1535-1537.
- SHIAU S.Y. and C.Q.LUNG (1993) Estimation of the vitamin B12 requirement of the grass shrimp, *Penaeid monodon*. Aquaculture, 117(1・2):157-163.
- SHIAU S.Y. and T.S.HSU (1994) Vitamin C requirement of grass shrimp, *Penaeus monodon*, as determined with L-ascorbyl-2-monophosphate. Aquaculture, 122(4):347-357.
- SHIAU S.Y. and G.S.SUEN (1994) The dietary requirement of juvenile grass shrimp (*Penaeus monodon*) for niacin. Aquaculture 125(1・2):139-145.
- SHIAU S.Y. and J.S.LIU (1994) Estimation of the dietary vitamin K requirement of juvenile *Penaeus chinensis* using menadione. Aquaculture, 126(1・2):129-135.
- SHIAU S.Y. (1998) Nutrient requirements of penaeid shrimps. Aquaculture, 164(1-4):77-93.
- SHIAU S.Y. and J.F. HSIEH (2001) Dietary potassium requirement of juvenile grass shrimp *Penaeus monodon*. Fish.Sci., 67(4):592-595.
- SHIAU S.Y. and S.Y.HUANG (2001) Dietary folic acid requirement determined for grass shrimp,*Penaeus monodon*. Aquaculture, 200(3・4):339-347.
- 柴原規計 (1980) 昭和 53 年度種苗量産技術開発事業. 昭和 53 年度三重浜島水試年報, 57-65.
- 柴原規計 (1981) 昭和 54 年度種苗量産技術開発事業. 昭和 54 年度三重浜島水試年報, 149-159.
- 柴原規計・大杉正 (1982) 昭和 55 年度種苗量産技術開発事業(クルマエビ, アワビ). 昭和 55 年度三重浜島水試年報, 99-108.
- 柴田勇夫 (1973) 相模湾西部海域におけるクルマエビ *Penaeus japonicus* BATE の生態とその漁業-I. 昭和 47 年度神奈川水試相模湾支所事報, (13):43-45.
- 柴田和生・有元貴文・井上実 (1987) クルマエビ刺網の離底効果に関する研究. 昭和 62 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.13.
- 志布志事業場 (1972) 志布志事業場の 2800 トン大型水槽によるクルマエビの種苗生産について. 栽培技研, 1(1):41-46.
- 志布志事業場 (1988) 成体の確保と採卵. コウライエビ. 昭和 62 年度日裁協事業年報, 57-58.
- 志布志事業場 (1988) 種苗生産技術の開発. コウライエビ. 昭和 62 年度日裁協事業年報, 198.
- 志布志事業場 (1988) 資源添加技術開発の概要. コウライエビ. 昭和 62 年度日裁協事業年報, 330-332.
- 志布志事業場 (1988) 栽培漁業の促進. クルマエビ, ガザミ種苗の大量生産並びに配付. クルマエビ. 昭和 62 年度日裁協事業年報, 361-364.
- 志布志事業場 (1997) 微粒子人工配合飼料によるクルマエビの飼育試験. 平成 7 年度日裁協事業年報, 124-126.
- 志布志事業場 (1997) 種苗を対象とした標識法の開発-2.クルマエビ.平成 7 年度日裁協事業年報, 311-315.
- 志布志事業場 (1997) 栽培漁業の促進.クルマエビ種苗の大量生産並びに配付. 平成 7 年度日裁協事業年報, 336-338.
- 志布志事業場 (1998) 微粒子人工配合飼料によるクルマエビの飼育試験. 平成 8 年度日裁協事業年報, 123-126.
- 志布志事業場 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業支援事業. クルマエビ. 平成 8 年度日裁協事業年報, 326-327.
- 志布志事業場 (1998) 種苗を対象とした標識法の開発. クルマエビ. 平成 8 年度日裁協事業年報, 306-307.

- 志布志事業場 (1999) 抗病性を高める微粒子飼料の開発. クルマエビ. 平成 9 年度日裁協事業年報, 139-141.
- 志布志事業場 (1999) クルマエビ種苗の大量生産並びに配付. 平成 9 年度日裁協事業年報, 369-372.
- 志布志事業場 (2001) クルマエビ種苗の大量生産並びに配付. 平成 11 年度日裁協事業年報, 366-369.
- SICK L. and J.W. ANDREWS (1973) The effect of selected dietary lipids, carbohydrates and proteins on the growth, survival and body composition of *Penaeus durarum*. Proc.Annu.Workshop World Maricult.Soc., (4):263-276.
- SIEVERS A.M. (1969) Comparative toxicity of *Gonyaulax monilata* and *Gymnodinium breve* to annelids, crustaceans, molluscs and a fish. J.Protozool. 16: 401-404.
- 茂野邦彦 (1982) クルマエビ-稚魚から出荷までの給餌体系. 養殖, 19(7):57-60.
- 茂野邦彦 (1965) 種苗生産用施設の諸問題. 水産増殖,臨時号, (4):19-23.
- 茂野邦彦 (1966) 養殖業から見たクルマエビ種苗放流. 第 28 回内海区ブルック会議議事録, 17-30.
- 茂野邦彦 (1969) クルマエビの養殖技術に関する諸問題. 日本水産資源保護協会, 水産増養殖叢書, (19):1-93.
- 茂野邦彦・九万田一巳・弟子丸修・荒牧孝行・黒木克宣・北上一男 (1972) クルマエビの配合餌料に関する研究-I. 餌料効率と餌料の粗蛋白質について. 日水誌, 38(2):101-106.
- 茂野邦彦 (1975) Shrimp culture in Japan. Assoc.Intern.Tech.Prom.,Tokyo, 153 pp.
- 茂野邦彦 (1975) クルマエビの高密度養殖について. 発電所温水利用養魚の成果. 温水養魚開発協会, pp.61-70.
- SHIGENO K. (1976) Advances in the prawn culture (*Penaeus japonicus* BATE). FAO 水産増殖国際会議論文集, (1):1-36.
- 茂野邦彦 (1982) クルマエビ稚魚から出荷までの給餌体系. 養殖, 19(7):57-60.
- SHIGUENO K. (1984) A general view of shrimp farming in Japan. TML Conference Proceeding., (1):73-80.
- SHIGUENO K. (1985) Intensive culture and feed development in *Penaeus japonicus*. Proc.First Inter.Conf.Culture of Prawns/Shrimps. SEAFDEC Philippines, pp.115-122.
- SHIGUENO K. and S.ITOH (1988) Use of Mg-L-ascorbyl-2-phosphate as a vitamin C source in shrimp diets. J.World.Aquat.Soc., (19):168-174.
- 茂野邦彦 (1990) 日本における稚エビの粗放的生産. CHAVEZ JUSTO C. 編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.40-48.
- 茂野邦彦 (1996) 養成. 橘高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.188-203.
- 鹿田敏嗣 (1993) クルマエビ個別経営体調査結果. 養殖(臨時増刊), 30(8):280-281.
- 嶋田雅弘・大江秀彦 (1997) クルマエビ種苗生産事業. 平成 7 年度福井栽セ事報, 7-11.
- 嶋津靖彦 (1992) 気象変動と漁業-養殖業生産. 水産の研究, 11(2):46-57.
- 島井和久・長尾成人・水藤勝喜 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 63 年度愛知栽協業報, 27-38.
- 島井和久 (1989) クルマエビ及びガザミの種苗生産-愛知県栽培漁業協会での量産例(要旨). 水産増殖, 36(4):317-318.
- 島井和久・落合真哉・水藤勝喜 (1990) クルマエビ種苗生産. 平成元年度愛知栽協業報, 25-27.
- 島井和久・落合真哉・水藤勝喜 (1991) クルマエビ種苗生産. 平成 2 年度愛知栽協業報, 26-28.
- 島森正次 (1988) 輸入魚介類の及ぼす影響と対応策. 養殖, 25(10):65.
- 島本信夫・堺告久・柴田忠士・満尾伸洋・佐野義勝・八橋忠良 (1981) 昭和 55 年度南淡路地区人工礁漁場造成事業調査. 昭和 55 年度兵庫水試事報, 331-352.
- 島本信夫・柴田忠士・野中大 (1981) 特定水産動物育成水面設定調査(クルマエビ). 昭和 55 年度兵庫水試事報, 352.
- 島根県栽培漁業センター・山口県外海水産試験場 (1979) 昭和 53 年度日本海西部栽培漁業放流技術開発調査. マダイ班, 77 pp.
- 島根県栽培漁業センター (1978) 昭和 52 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ).
- 島根県栽培漁業センター (1979) 昭和 53 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ).
- 島根県栽培漁業センター (1980) 昭和 54 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ), 1-22.
- 島根県栽培漁業センター (1980) 育成放流実績並びに追跡調査実績(クルマエビ). 昭和 54 年度放流技術開発事業報告書, 1-22.
- 島根県栽培漁業センター (1981) 昭和 55 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ).
- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1981) 島根県. 昭和 55 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ), 1-18.
- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1981) 福井県. 昭和 55 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ), 19-47.
- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1981) 新潟県. 昭和 55 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ).
- 島根県栽培漁業センター (1982) 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ).
- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1982) 昭和 56 年度クルマエビ放流技術開発事業の概要. 昭和 55 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ), 6-10.
- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1982) 島根県. 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ), 11-33.

- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1982) 福井県. 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ), 35-76.
- 島根県栽培漁業センター・福井県栽培漁業センター・新潟県栽培漁業センター (1982) 新潟県. 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書(日本海クルマエビ), 77-112.
- 島根県栽培漁業センター (1983) 昭和 57 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ).
- 島根県栽培漁業センター (1984) 昭和 58 年度放流技術開発事業報告書(クルマエビ), 1-25.
- 島根県栽培漁業センター (1984) 昭和 58 年度調査結果の要約. 島根県(クルマエビ). 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 59.
- 島根県栽培漁業センター (1984) 各県報告. 島根県(クルマエビ). 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 島 1-島 25.
- 島根県栽培漁業センター (1985) 昭和 59 年度調査結果の要約. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 50.
- 島根県栽培漁業センター (1985) 各県報告. 島根県(クルマエビ). 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 島 1-島 14.
- 島根県栽培漁業センター (1985) 昭和 52~59 年度放流技術開発事業総括報告書(クルマエビ), 島 1-島 8.
- 示野貞夫 (1992) 魚類の栄養素に対する要求. 炭水化物. 荻野珍吉編, 魚類の栄養と飼料. 新水産学全集, (14):140-149.
- 清水千秋・リベラ W.C.ダイヤラル・河野迪子・松居隆 (1986) 甲殻類のアルギニンキナーゼについて. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.158.
- 清水千秋・リベラ W.C.ダイヤラル・河野迪子・松居隆 (1987) 甲殻類の成長に伴うアルギニンキナーゼ活性の変動について. 昭和 62 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.258.
- 清水弘明・岩谷芳自 (1997) 養殖魚類防疫強化対策事業. 平成 8 年度福井水試事報, 85-88.
- 清水弘明・山田洋雄 (1998) 養殖魚類防疫強化対策事業. 平成 9 年度福井水試事報, 71-73.
- 清水博 (1998) 沿岸特定資源調査(クルマエビ). 平成 8 年度宮崎水試事報, 140-141.
- 清水博 (1999) 沿岸特定資源調査(クルマエビ). 平成 9 年度宮崎水試事報, 80-81.
- 志水建美・梅崎祐二・竹田健一・藤田忠勝 (1983) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 57 年度熊本水試事報, 53-54.
- 志水建美・田畑重行・原田俊秀・中村公治・小山 晃・田辺純・宮本雅晴・村上博夫・金子政人・加来照雄 (1984) 地域栽培養殖推進整備パイロット事業(不知火海北部海域のクルマエビの中間育成放流に伴う効果調査). 昭和 58 年度熊本水試事報, 47-48.
- 志水建美・梅崎祐二・竹田健一・藤田忠勝 (1984) エビ・カニ類増殖事業-I. クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度熊本水試事報, 59-60.
- 志水建美・竹田健一 (1985) エビ・カニ類増殖事業-I. クルマエビ種苗生産. 昭和 59 年度熊本水試事報, 56-58.
- 志水建美 (1988) 海洋牧場開発事業(中間育成にかかる海域遮断方式の開発). 昭和 62 年度熊本水試事報, 63-66.
- 清水誠 (1979) 漁業生物と環境-東京湾を例として. 水産科学, 24(2):1-16.
- 清水誠 (1983) 沿岸海域環境の人為的变化と漁業. 吉田多摩夫編, 漁業環境アセスメント. 水産学シリーズ, (48):11-24.
- 清水誠 (1984) 東京湾の魚介類①. 昭和 30 年代の生物相. 海洋と生物, 6(1):9-13.
- 清水誠 (1984) 東京湾の魚介類②. 昭和 40 年代の生物相. 海洋と生物, 6(2):135-139.
- 清水誠 (1990) 東京湾の魚介類⑥. 昭和 60 年代の生物相. 海洋と生物, 12(3):183-189.
- 清水誠 (1993) 東京湾. 吉田陽一編, 水域の窒素:リン比と水産生物. 水産学シリーズ, (95):73-83.
- 清水誠 (1997) 東京湾の漁業. 海洋と生物, 19(2):98-102.
- 清水信宏 (1989) エビ板曳網漁業の漁具改良試験. 昭和 63 年度茨城水試事報, 1-5.
- 清水信宏・鈴木正伸・横須賀功 (1989) 漁期前及び漁期中漁場調査. 昭和 63 年度茨城水試事報, 40-65.
- 清水重樹 (2000) 我が国周辺漁業資源調査委託事業. 平成 10 年度高知水試事報, 43-54.
- 清水昭治・都田正 (1972) クマエビ種苗生産試験. 和歌山水増試報, (4):97-105.
- 清水昭治 (1972) 田辺湾クルマエビ類研究会種苗生産事業の指導. 和歌山水増試報, (4):106.
- 清水昭治 (1973) 赤潮照査. 和歌山水増試報, (5):114.
- 清水昭治 (1973) クルマエビ類種苗生産講習会. 和歌山水増試報, (5):126.
- 清水昭治 (1980) クマエビ種苗生産. 和歌山水増試報, (11):102-104.
- 清水昭治 (1981) クマエビ・フトミヅエビ種苗生産. 和歌山水増試報, (12):160-163.
- 清水昭治 (1982) クマエビ・フトミヅエビ種苗生産. 和歌山水増試報, (13):129-136.
- 清水昭治・田中保 (1983) クマエビ養成試験. 和歌山水増試報, (14):48-50.
- 清水昭治 (1983) 海面小割網によるクルマエビ越冬試験. 和歌山水増試報, (14):51-52.
- 清水昭治・田中保 (1983) クマエビ・フトミヅエビ種苗生産及び放流. 和歌山水増試報, (14):154-161.

- 清水健・照屋和久・大角伸一・有元操 (2000) クルマエビの急性ウイルス血症予防のための小型水槽による効率的採卵方法. 栽培技研, 28(1):1-5.
- 清水利厚・金子信一・田中邦三 (1980) 浦賀水道のクルマエビについて-I. 産卵期. 昭和55年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 清水利厚・金子信一・田中邦三 (1980) 浦賀水道のクルマエビについて-I. 漁獲物組成. 昭和55年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 清水利厚・金子信一・田中邦三 (1982) 浦賀水道におけるクルマエビ資源の加入について. 千葉水試研報, (40):17-26.
- 清水詢道 (1996) シャコ・アナゴの漁業と資源. 水産海洋研究, 60(3):268-271.
- SHOKITA S. (1970) A note on the development of eggs and larvae of *Penaeus latisulcatus* KISHINOUE reared in an aquarium. Biol.Mag. Okinawa, 6:34-36.
- SICK L.V., ANDREWS J.W. and D.S.WHITES (1972) Preliminary studies of selected environmental and nutritional requirements for the culture of penaeid shrimp. Fish.Bull., 70:101-109.
- SICK L.V. and J.W.ANDREWS (1973) The effect of selected dietary lipids, carbohydrates, and proteins on the growth, survival, and body composition of *Penaeus duorarum*. Proc.World Maricult,Soc.4th Annual Workshop., 263-276.
- 下村政雄 (1983) 昭和 57 年度漁業白書の概要. 水産振興, 17(5):1-39.
- SIMON C.M. (1978) The culture of diatom *Cheatocecos gracilis* and its use as food for penaeid protozoal larvae. Aquaculture, 14(2):105-113.
- SIMON C.M. (1981) Design and operation of a large-scale commercial penaeid shrimp hatchery. J.of the World Maricul. Soc., 12(2):322-334.
- SINDERMANN C.L. (1990) Principal diseases of marine fish and shellfish. Volume 2, Academic Press. New York, 516 pp.
- 神頭一郎 (1994) 種苗導入の際の注意事項. 養殖(臨時増刊), 31(2):72-74.
- 真道重明 (1970) 以西底びき網の漁獲物の魚種組成について(資料). 西海区水研.底魚資源調査研究連絡, (62):1-2.
- 真道重明 (1970) 台湾における底びき網の漁獲物の魚種組成について. 底魚資源調査研究連絡, (62):7-17.
- 真道重明 (1970) 資源研究と資源管理をめぐる諸問題について. 漁業資源研究会議報, (11):4-17.
- 真道重明 (1976) 南シナ海の漁業とその資源. 水産研究叢書, (29):1-94.
- 真道重明 (1988) 中国の浙江省三門湾における水産増養殖生産基地の紹介(上). 水産の研究, 37(6・7):98-101.
- 真道重明 (1993) 中国浙江省台州地区の浅海増養殖業①. 養殖, 30(11):111-115.
- 真道重明 (1993) 中国浙江省台州地区の浅海増養殖業②. 養殖, 30(12):112-115.
- 真道重明 (1993) 中国浙江省台州地区の浅海増養殖業③. 養殖, 30(13):118-120.
- 真道重明 (1994) 中国の浙江省台州地区の浅海増養殖業④. 玉環県 I.(海珍品養殖の発達とその問題点). 養殖, 31(1):118-120.
- 真道重明 (1997) 中国の水産-増産の経緯と問題点. 水産振興, 31(3):1-44.
- 進藤四郎 (1985) クルマエビのふ化飼育(図解). 養殖, 22(1):76-77.
- 進藤四郎 (1986) クルマエビの養成(図解). 養殖, 23(8):80-81.
- 進藤四郎 (1986) クルマエビの環境管理(図解). 養殖, 23(9):80-81.
- 進藤四郎 (1986) クルマエビの取揚げ(図解). 養殖, 23(10):80-81.
- 新魚種開発協会 (1988) クルマエビ養殖技術の変遷. 養殖, 25(9):126-127.
- SINHA V.R.P. (1976) 養魚場管理の新傾向. FAO 水産増殖国際会議論文集, (4):85-91.
- 新川俊一 (1998) アジアの魚病情報システムの構築のためのワークショップ. 月刊海洋号外, (14):200-204.
- 新聞脩子 (1976) 食べ物とコレステロール. 東海区水研.さかな, (16):1-6.
- 新谷寛治・保聖子 (1992) 未利用魚加工開発研究. 平成 3 年度鹿児島水試事報, 35.
- 篠田慶弘・能津純治・久野操・田染博章・西田和夫 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-建干網の構造と設営.昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):174-178.
- 篠田慶弘・能津純治・久野操・田染博章・西田和夫 (1975) 佐伯湾実証実験漁場-建干網の構造と設置.昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):181-186.
- 篠原基之・松村眞作・藤井義弘 (1997) 小型底曳網試験操業による片上湾の主要な動物相及びヨシエビの成育場としての評価. 岡山水試報, (12):43-50.
- 篠原直哉・佐々木和之 (1995) 栽培漁業事業化総合推進事業(クルマエビ, ガザミ). 平成 6 年度福岡水技事報, 47-50.
- 篠原直哉・佐々木和之・的場達人 (1996) 栽培漁業事業化総合推進事業(クルマエビ, ガザミ). 平成 7 年度福岡水技事報, 45-49.
- 篠原直哉・筑紫康博・深川敦平・太刀山透 (1997) 栽培漁業事業化総合推進事業(クルマエビ, ガザミ). 平成 8 年度福岡水技事報, 31-34.
- 篠山茂行 (1984) 食品照射研究. 東海区水研. さかな, (32):29-36.
- 塩釜水産事務所 (1981) クルマエビ漁獲実態調査. 昭和 55 年度放流技術開発事業実績報告書, 70-77.

- 塩川司・立石賢・飯塚昭二・入江春彦 (1965) 1962年大村湾に発生した赤潮現象と水産被害について. 長崎大水産研報, (21):45-58.
- 塩満捷夫 (1979) クルマエビのフサリウム症. 養殖, 16(9):23.
- 塩満捷夫・和田和彦 (1985) 昭和 58 年度海面養殖魚類の魚病診断調査. 昭和 58 年度鹿児島水試事報(生物部編), 55-59.
- 塩満捷夫・和田和彦 (1986) 魚病総合対策事業. 1. 昭和 59 年度海面養殖魚類の魚病診断調査. 昭和 59 年度鹿児島水試事報(生物部編), 74-78.
- 塩満捷夫・和田和彦 (1987) 魚病総合対策事業. 1. 昭和 60 年度海面養殖魚類の魚病診断調査. 昭和 60 年度鹿児島水試事報(生物部編), 113-118.
- 塩満捷夫 (1988) 魚病総合対策事業. 1. 昭和 61 年度海面養殖魚類の魚病診断調査. 昭和 61 年度鹿児島水試事報(生物部編), 31-34.
- 塩満捷夫・外菌博人 (1989) 魚病総合対策事業. 1. 昭和 62 年度海面養殖魚類の魚病診断調査. 昭和 62 年度鹿児島水試事報(生物部編), 19-22.
- 塩満捷夫 (1989) 昭和 62 年度魚病対策技術開発研究. 南方海域における養殖魚類等の病害に関する研究(日本水産資源保護協会委事業). 昭和 62 年度鹿児島水試事報, 33-34.
- 塩田浩二 (1984) 200 カイリ水域内漁業資源調査(分場). 昭和 58 年度愛媛水試事報, 23-24.
- 塩田浩二・西山雄峰・前原努・平田伸治・菊池隆展 (1992) コウイカ増殖場造成技術開発試験. 平成 3 年度愛媛中予水試事報, 118-131.
- 塩田浩二・西山雄峰 (1992) 地域重要資源調査(クルマエビ). 平成 6 年度愛媛中予水試事報, 24-26.
- 塩田浩二・西山雄峰 (1996) 地域重要資源調査(クルマエビ). 平成 7 年度愛媛中予水試事報, 27-28.
- SPANN K.M., VICKERS J.E. and R.J.G.LESTER (1995) Lymphoid organ virus of *Penaeus monodon* from Australia. Dis.Aquat.Org., 23(2):127-134.
- 白幡隆・佐藤秀 (1987) くるまえばい種苗生産. 昭和 59・60 年度山形栽セ業報, 15-19.
- 白幡隆・佐藤秀 (1987) くるまえばい種苗生産. 昭和 59・60 年度山形栽セ業報, 49-52.
- 白幡隆・佐藤秀 (1987) くるまえばい早期種苗生産試験. 昭和 59・60 年度山形栽セ業報, 53-55.
- 白幡隆・佐藤秀 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 61・62 年度山形栽セ業報, 16-19.
- 白幡隆・佐藤秀 (1989) クルマエビ早期種苗生産試験. 昭和 61・62 年度山形栽セ業報, 20-22.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 61・62 年度山形栽セ業報, 51-53.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 63・平成元年度山形栽セ業報, 16-19.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 63・平成元年度山形栽セ業報, 50-53.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1993) クルマエビ種苗生産. 平成 2・3 年度山形栽セ業報, 17-22.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1993) クルマエビ種苗生産. 平成 2・3 年度山形栽セ業報, 45-49.
- 白幡隆 (1993) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成. 平成 2・3 年度山形栽セ業報, 50-52.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 4・5 年度山形栽セ業報, 17-22.
- 白幡隆 (1995) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成. 平成 4・5 年度山形栽セ業報, 23-25.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 4・5 年度山形栽セ業報, 50-54.
- 白幡隆 (1995) 陸上水槽によるクルマエビ中間育成. 平成 4・5 年度山形栽セ業報, 55-56.
- 白幡隆・佐藤浩・佐藤秀 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成 6・7 年度山形栽セ業報, 18-24.
- 白幡隆 (1997) クルマエビ中間育成. 平成 6・7 年度山形栽セ業報, 25-27.
- 白幡隆・佐藤秀 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 24-28.
- 白幡隆・佐藤秀 (2000) クルマエビ中間育成. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 29-30.
- 白幡隆・長野昌洋・余語滋 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 59-63.
- 白幡隆・長野昌洋・余語滋 (2000) クルマエビ中間育成. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 64-66.
- 白幡義弘 (1986) 秋田県におけるクルマエビ栽培漁業の現状. 昭和 59 年度秋田水産振興セ事報.
- 白幡義弘 (1988) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 61 年度秋田水産振興セ事報, 289-293.
- 白木谷卓哉・岩田靖宏・野田廣志 (1998) 小型底びき網漁業の資源管理手法の開発調査. 平成 9 年度愛知水試業報, 108-110.
- 代田昭彦 (1975) 水産餌料生物学. 恒星社厚生閣, 514 pp.
- 代田昭彦 (1975) 水産餌料生物学. 恒星社厚生閣, 153 pp.
- 代田昭彦 (1978) 粘土による赤潮の除去. 養殖, 15(1):82-84.
- 代田昭彦 (1985) マレーシアのエビ養殖2万トン生産計画の概要. 日本海ブロック試験研究集録, (6):45-54.
- 城田博昭・浜中雄一 (1992) 放流初期におけるクルマエビ種苗の減耗について. 京都海セ研報, (15):25-30.
- 四反田勝久 (1992) クルマエビ用配合飼料の上手な使い方. 養殖, 29(8):94-97.
- SIVERTSEN E. and L.B.HOLTHUIS (1956) Crustacea Decapoda (The Penaeidea and Stenopodidea excepted). Rep.sci.Res. Michael Sars North Atlant.deep-sea Exped., 1910, 5(12):1-54.

- 静岡県・愛知県・三重県 (1975) 太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査概要(昭和 47,48,49 年度). クルマエビ. 太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査結果報告書(昭和 47,48,49 年度), IV,1-61.
- 静岡県 (1979) 昭和 53 年度調査結果の要約. 昭和 53 年度クルマエビ放流技術開発事業報告書(太平洋地区), 2.
- 静岡県・愛知県・三重県 (1982) 昭和 56 年度クルマエビ類放流海域図. 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ(太平洋中区), ii.
- 静岡県・愛知県・三重県 (1982) 昭和 56 年度調査結果の要約. 静岡県(クルマエビ). 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ(太平洋中区), iv-vi.
- 静岡県・愛知県・三重県 (1982) 昭和 56 年度調査結果の要約. 愛知県(クルマエビ). 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ(太平洋中区), vii-viii.
- 静岡県・愛知県・三重県 (1982) 昭和 56 年度調査結果の要約. 三重県(クルマエビ). 昭和 56 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ(太平洋中区), ix-x.
- 静岡県・静岡県漁業協同組合連合会 (1983) 温水センターのあゆみ-10 周年記念誌. 静岡県温水利用研究センター, 72pp.
- 静岡県他 5 県 (1984) 昭和 58 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ類, 静 1-58.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1984) 事業の概要. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 1.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1984) 種苗生産・中間育成・放流実績. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 2-5.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1984) 昭和 58 年度クルマエビ類放流海域図. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 6-7.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1984) 放流効果. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 8-23.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1984) 放流群の再捕模式図. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 24-27.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1984) 残された課題と今後の開発方向. 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 28-39.
- 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1985) 昭和 59 年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ.
- 静岡県・愛知県・三重県・島根県・福井県 (1985) 事業の概要. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 1.
- 静岡県・愛知県・三重県・島根県・福井県 (1985) 種苗生産・中間育成・放流実績. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 2-7.
- 静岡県・愛知県・三重県・島根県・福井県 (1985) 昭和 59 年度クルマエビ類放流海域図. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 8-9.
- 静岡県・愛知県・三重県・島根県・福井県 (1985) 放流群の再捕模式図. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 24-27.
- 静岡県・愛知県・三重県・島根県・福井県 (1985) 収支の試算. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 28-35.
- 静岡県・静岡県温水利用研究センター (1986) 昭和 51~60 年度温排水有効利用調査報告書, 82 pp.
- 静岡県・静岡県漁業協同組合連合会 (1993) 温水センター飛翔の 10 年. 浜岡温水利用研究センター, 49 pp.
- 静岡県・愛知県・三重県・福井県・島根県・福岡県 (1983) 昭和 58 年度放流技術開発事業クルマエビ類報告書.
- 静岡県・愛知県・三重県・島根県・福井県 (1985) 放流効果. 昭和 59 年度放流技術開発事業クルマエビ総括報告書, 10-23.
- 静岡県 (1985) 大規模砂泥域開発調査事業(遠州灘). 昭和 59~62 年度調査報告書, 338 pp.
- 静岡県漁業振興基金 (1989) 栽培漁業推進事業の概要. 昭和 63 年度静岡県漁業振興基金業務報, 21-22.
- 静岡県漁業振興基金 (1990) 栽培漁業推進事業の概要. 平成元年度静岡県漁業振興基金業務報, 12-13.
- 静岡県漁業振興基金 (1991) 栽培漁業推進事業の概要. 平成 2 年度静岡県漁業振興基金業務報, 13-14.
- 静岡県漁業振興基金 (1992) 栽培漁業推進事業の概要. 平成 3 年度静岡県漁業振興基金業務報, 13-14.
- 静岡県漁業振興基金 (1993) 栽培漁業推進事業の概要. 平成 4 年度静岡県漁業振興基金業務報, 13-14.
- 静岡県漁業振興基金 (1994) 栽培漁業推進事業の概要. 平成 5 年度静岡県漁業振興基金業務報, 13-15.
- 静岡県浜名漁業協同組合青年部 (1976) クルマエビの稚魚放流. 養殖, 13(7):52-55.
- 静岡県農業水産部水産課 (1989) 静岡県の栽培漁業(II). 43 pp.
- 静岡県浜名漁業協同組合 (1988) クルマエビの稚エビ放流. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 234-235.
- 静岡県温水利用研究センター (1987) 昭和 61 年度業務の概要. 昭和 61 年度静岡温水研セ業報, 4-6.
- 静岡県温水利用研究センター (1989) 昭和 62 年度業務の概要. 昭和 62 年度静岡温水研セ業報, 7.
- 静岡県温水利用研究センター (1990) 昭和 63 年度業務の概要. 昭和 63 年度静岡温水研セ業報, 7-10.

静岡県温水利用研究センター (1991) 平成元年度業務の概要. 平成元年度静岡温水研セ業報, 8-10.
 静岡県温水利用研究センター (1992) 平成2年度業務の概要. 平成2年度静岡温水研セ業報, 8-10.
 静岡県温水利用研究センター (1993) 平成3年度業務の概要. 平成3年度静岡温水研セ業報, 7-9.
 静岡県温水利用研究センター (1994) 平成4年度業務の概要. 平成4年度静岡温水研セ業報, 7-9.
 静岡県温水利用研究センター (1995) 平成5年度業務の概要. 平成5年度静岡温水研セ業報, 7-8.
 静岡県温水利用研究センター (1996) 平成6年度業務の概要. 平成6年度静岡温水研セ業報, 7-10.
 静岡県温水利用研究センター (1997) 平成7年度業務の概要. 平成7年度静岡温水研セ業報, 7-9.
 静岡県温水利用研究センター (1998) 平成8年度業務の概要. 平成8年度静岡温水研セ業報, 7-9.
 静岡県温水利用研究センター (1999) 平成9年度業務の概要. 平成9年度静岡温水研セ業報, 6-7.
 静岡県温水利用研究センター (2000) 平成10年度業務の概要. 平成10年度静岡温水研セ業報, 6-7.
 静岡県温水利用研究センター (2001) 平成11年度業務の概要. 平成11年度静岡温水研セ業報, 6-7.
 静岡県栽培漁業センター (1988) クルマエビ. はじめの10年. 静岡県栽培漁業センター, 27-36.
 静岡県栽培漁業センター (1988) 放流効果. はじめの10年. 静岡県栽培漁業センター, 47-48.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1973) 昭和47年度太平洋中区栽培漁業資源生態調査中間報告書, 1-15.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1974) 昭和48年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査報告書(クルマエビ).
 静岡水試浜名湖分場通刊, (169):1-24.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1975) 昭和49年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査中間報告書, 1-14.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1977) 昭和51年度太平洋中区栽培漁業漁場資源生態調査中間報告書, 1-15.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1979) 昭和53年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 静岡水試浜名湖分場
 通刊, (204):1-44.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1979) 昭和53年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 昭和53年度クルマエビ
 放流技術開発事業報告書(太平洋地区), 27-44.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1980) 昭和54年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 静岡水試浜名湖分場通
 刊, (210):1-46.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1980) 昭和54年度クルマエビ放流技術開発事業報告書(太平洋地区), 19-46.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1981) 昭和55年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 静岡水試浜名湖分場
 通刊, (221):1-48.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1981) 昭和55年度クルマエビ放流技術開発事業報告書(太平洋地区), 1-48.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1981) 昭和55年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 1-19.
 静岡県水産試験場浜名湖分場・静岡県栽培漁業センター (1982) 昭和56年度放流技術開発事業報告書. クルマ
 エビ. 静岡水試浜名湖分場通刊, (229):i-iii, 1-49.
 静岡県水産試験場浜名湖分場・静岡県栽培漁業センター (1982) 昭和56年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ.
 宮城県・静岡県・愛知県・三重県・福岡県「昭和56年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ」, 静1-静49.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1982) 昭和56年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 49 pp.
 静岡県水産試験場伊豆分場 (1983) 静岡県の漁場造成事業. 静岡水試伊豆分場資料, (146):1-43.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1983) 昭和57年度放流技術開発事業報告書. 静岡水試浜名湖分場通刊,
 (234):1-46.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1983) 各県報告. 昭和57年度放流技術開発事業報告書. クルマエビ(太平洋),
 静1-静46.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1983) 昭和57年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 46 pp.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1984) 浜名湖地域の漁業の将来と浜名湖の役割. はまな, (285):9.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1984) 昭和58年度クルマエビ放流技術開発事業報告書. 静岡水試分場通刊, (234):1-
 58.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1984) 各県報告. 昭和58年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 静1-静58.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1984) 昭和58年度調査結果の要約. 静岡県(クルマエビ). 昭和58年度放流技
 術開発事業クルマエビ類総括報告書, 47-49.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1985) 昭和59年度クルマエビ放流技術開発事業報告書, 54 pp.
 静岡県水産試験場浜名湖分場・愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場・三重県水産技術センター
 (1985) 昭和53~59年度放流技術開発事業総括報告書(クルマエビ), 1-46.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1985) 昭和59年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書. 静岡水試浜名
 湖分場通刊, (245):1-54.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1985) 昭和59年度調査結果の要約. 静岡県(クルマエビ). 昭和59年度放流技
 術開発事業クルマエビ類総括報告書, 39-41.
 静岡県水産試験場浜名湖分場 (1985) 各県報告. 昭和59年度放流技術開発事業クルマエビ類総括報告書, 静1-静54.

- 静岡県水産試験場浜名湖分場・愛知県水産試験場・愛知県水産試験場尾張分場・三重県水産技術センター (1985) 昭和 53～59 年度放流技術開発事業総括報告書(クルマエビ), 1-46.
- 静岡県水産試験場浜名湖分場・養殖編集部 (2001) ウナギ種苗生産と浜名湖の環境保全を推進する. 養殖, 38(8):45-48.
- SMITH L.L., LEE P.G., LAWRENCE A.L. and K. STRAWN (1985) Growth and digestibility by three size of *Penaeus vannamei* BOONE: Effects of dietary protein source. *Aquaculture*, 46(2):85-96.
- SMITH P.D. (1996) Toxic effects of blooms of marine species of oscillatoriaceae on farmed prawn (*Penaeus monodon*, *Penaeus japonicus*) and brine shrimp (*Artemia salina*). *Toxicon*, (24):857-869.
- SMITH P.T. (1996) Physical and chemical characteristics of sediments from prawn farms and mangrove habitats on the Clarence River, Australia. *Aquaculture*, 146(1-2):47-83.
- SMITH P.T. (1998) Effect of removing accumulated sediments on the bacteriology of ponds used to culture *Penaeus monodon*. *Asian Fisheries Science*, (10):355-370.
- SMITH V.J. and J.R.S. CHISHOLM (2001) Antimicrobial proteins in crustaceans. *Adv. Exp. Biol.*, (484):95-112.
- 添田秀男・吉原喜好・井上博・海野茂 (1984) 東京中央卸売市場における水産物取り扱い量の動向と社会経済的背景について. *日本大農獣医学部学術研報*, (41):139-146.
- SOGANDARES-BERNAL F. and R.F. HUTTON (1959) The identity of metacercaria B. reported from the pink shrimp, *Penaeus duorarum* BURKENROAD, WOODBURN *et al.* eds., *The J. of Parasitology* in 1957. (45):362-378.
- SORGCLOOS P., LAVENS P., LEGER Ph. and W. TACKAERT (1993) The use of Artemia in marine fish larviculture. LEE C.S., SU M.S. & I.C. LIAO eds., *Finfish Hatchery in Asia. TML Conference Proceeding*, (3):73-86.
- SOHN S.G. (1997) Viral diseases of cultured fish in Korea. *International Symposium on Marine Aquaculture. JSFP-Hiroshima*, p.12.
- SOHN S.G. and M.A. PARK (1998) Viral diseases of cultured marine fish and shrimp in Korea. *Fish Pathol.*, 33(4):189-192.
- SONG Y.L., CHEN W., YEH M.S., SHEN C.H., YONG C.-H. and Y.C.H. OUI (1989) Occurrence of *Vibrio vulnificus* infectious for cultured shrimp and eel in Taiwan. *Abstract of ROC Japan Symposium on Fish Diseases. Taipei, Taiwan.*
- SONG Y.L., LEE S.P., LIN Y.T. and C.C. CHEN (1992) Enzyme immunoassay for shrimp vibriosis. *Dis. Aquat. Org.*, 14(1):43-50.
- SONG Y.L., CHENG W. and C.H. WANG (1993) Isolation and characterization of *Vibrio damsela* infectious for cultured shrimp in Taiwan. *J. Invert. Pathol.*, 61:24-31.
- SONG Y.L. and S.P. LEE (1993) Characterization of ecological implication of luminous *Vibrio harveyi* isolated from tiger shrimp (*Penaeus monodon*). *Bull. Inst. Zool., Academia Sinica*, 32:217-220.
- SONG Y.L., LIU J.J., CHAN L.C. and H.H. SUNG (1997) Glucan-induced disease resistance in tiger shrimp (*Penaeus monodon*). *Fish Vaccinology, Developments in Biological Standardization*, (90):413-421.
- SORGELOOS P., BOSSUYT E., LAVENS P., LEGER P., VANHAECKE P. and D.V. LIGHTNER (1983) The use of brine shrimp *Artemia* in crustacean hatcheries and nurseries. McVEY J.P. ed., *Handbook of Mariculture. Vol.1. Crustacean Aquaculture*, CRC Press Inc, Boca Raton, Fla, pp.71-96.
- SORGELOOS P., LEGER P., LAVENS P. and W. TACKAERT (1987) Increased yields of marine fish and shrimp production through application of innovative techniques with *Artemia*. *Aquaculture et Development, Cahiers Ethologie Appliquee*, (7):43-50.
- SOTO M.A. and J.M. LOTZ (2001) Epidemiological parameters of white spot syndrome virus infections in *Litopenaeus vannamei* and *L. setiferus*. *J. Invertebr. Pathol.*, 78:9-15.
- SOTO M.A., SHERVETTE V.R. and J.M. LOTZ (2001) Transmission of white spot syndrome virus (WSSV) to *Litopenaeus vannamei* from infected cephalothorax, abdomen, of whole shrimp cadaver. *Dis. Aquat. Org.*, 45(2):81-87.
- 早栗操 (1955) 中海の漁業概要. 鳥取水試研報, (35):1-15.
- 相建海 (1994) タイショウエビの品種・品質と病害防止・治療. 海洋科学編集部. 養殖タイショウエビ病害総合防止・治療特集号, pp.51-52.
- SOUHEIL H., VEY A., THUET P. and J.P. TRILLES (1999) Pathogenic and toxic effects of *Fusarium oxysporum* (SCHLECHT.) on survival and osmoregulatory capacity of *Penaeus japonicus* (BATE). *Aquaculture*, 178(3-4):209-224.
- SPANN K.M., VICKERS J.E. and R.J.G. LESTER (1995) Lymphoid organ virus of *Penaeus monodon*. *Dis. Aquat. Org.*, 23(2):127-134.
- SPANN K.M., ADLARD R.D., HUDSON D.A., PYECROFT S.B., JONES T.C. and M.O.C. VOIGT (1997) Hepatopancreatic parvo-like virus (HPV) of *Penaeus japonicus* cultured in Australia. *Dis. Aquat. Org.*, 31(3):239-241.
- SPANN K.M., COWLEY J.A., WALKER P.J. and R.J.G. LESTER (1998) A yellow-head-like virus from *Penaeus monodon* cultured in Australia. *Dis. Aquat. Org.*, 31(3):169-179.

- SPARKS A.K. and C.T.FRONTAINE (1973) Host response in the white shrimp, *Penaeus setiferus*, to infection by the larval trypanorhynchid cestode, *Prochristinella penaei*. J.of Invertebrate Pathology, 22: 213-219.
- SPRINGER S. and H.R.BULLIS (1952) Exploratory shrimp fishing in the Gulf of Mexico, 1950-51. U.S.Fish Wildl.Serv.,Fish. Leafl., (406):34.
- SPRINGER S. and H.R.BULLIS (1954) Exploratory shrimp fishing in the Gulf of Mexico, summary report for 1952-1954.Comm. Fish.Rev., (16):1-16.
- SPRAGUE V. (1977) Annotated list of species of Microsporidia. BULLA L.A. and T.C.CHENG eds., Comparative Pathobiology Vol.2. systematics of the Microsporidia. Plenum Press, New York, London, pp.31-334.
- SRITUNYALUCKSANA K. and K. SODERHALL (2000) The proPO and clotting system in crustaceans. Aquaculture, 191(1-3):53-69.
- ST.AMANT L.S., BROOM J.G. and T.B.FORD (1966) Studies of the brown shrimp, *Penaeus aztecus*, in Barataria Bay, Louisiana, 1962-1965. Proc.Gulf Carib.Fish.Inst., 18th Ann.Sess., 1-17.
- STAPLES D.J., DALL W. and D.J.VANCE (1981) Catch prediction of banana prawn, *Penaeus marginensis*, in the southeastern Gulf Carpentaria. Penaeid shrimps-their biology and management. Limited Farnham.Surrey.England. pp.259-267.
- STAPLES,D.J., VANCE D.J. and D.S.HEALES (1985) Habitat requirements of juvenile penaeid prawns and their relationship to offshore fisheries. ROTHLSBERG P.C., HILL B.J. & D.J.STAPLES eds., Second Australian National Prawn Seminar. NPS 2 Cleveland,Queenland,Australia, pp.47-54.
- STERN S. (1995) Swimming through troubled waters in shrimp farming: Ecuador country review. BROWDY C.L. & J.S.HOPKINS eds., Swimming through troubled water. Proceedings of the Special Session on Shrimp Farming, Aquaculture'95. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA,USA, pp.35-39.
- STEVENS W.F., CHEYPRATUB P., HAIQING S., LERTSUTTHIWONG P., HOW N.C. and S.CHANDRKRACHANG (1998) Alternatives in shrimp biowaste processing. FLEGEL T.W.ed., Advances in Shrimp Biotechnology. National Center for Genetic Engineering and Biotechnology, Bangkok, pp.19-25.
- STORCH V., JUARIO J.V., and F.P.PASCUAL (1984) Early effects of nutritional stress on the liver of milkfish, *Chanos Chanos* (Forshal), and on the hepatopancreas of the tiger prawn, *Penaeus monodon* (Fabricius). Aquaculture, 36(3):229-236.
- STRYHSAKER P. and D.C.AASTED (1974) Deepwater shrimp trapping in the Hawaiian Islands. Marine Fish.Rev., 36(10):24-30.
- SUBOSA P.F.and M.N.BAUTISTA (1991) Yield of *Penaeus monodon* FABRICIUS in brackishwater ponds given different fertilizer combinations. Aquaculture, 94(1):39-48.
- SUBOSA P.F. (1992) Chicken manure, rice hulls, and sugar-mill wastes as potential organic fertilizers in shrimp (*Penaeus monodon* FABRICIUS) ponds. Aquaculture, 102(1-2):95-103.
- SUBRAHMANYAM C.B. (1965) On the reproductive cycle of *Penaeus indicus* (M.EDW.). J.Mar.Biol.Ass.India, 7(2):284-290.
- SUBRAHMANYAM C.B. and C.H. OPPENHEIMER (1969) Food preference and growth of grooved penaeid shrimp. Proc. And Food-Drugs from the sea. pp.65-75.
- SUBRAMONIAM T.P., REICHWEIN B., DIRCKSEN H. and R.KELLER (1998) On the isolation and characterisation of a crustacean hyperglycaemic hormone in the eyestalk of the shrimp *Penaeus indicus*. Aquaculture, 162(1-2):99-111.
- SUBRAMONIAN T. (2000) Crustacean vitellogenesis in reproduction and embryogenesis. Comp. Biochem. Physiol., 125C:135-156.
- 須田明 (1983) クルマエビの放流と其の効果判定をめぐって. 第 10 回日本海ブロック増養殖研究推進連絡会議議事要録,58-67.
- 須田明 (1986) 栽培漁業技術の現況と諸問題. 静岡栽セ. なむら, (30):1-4.
- SUDARYONO A., HOXEY M.J., KAILIS S.G. and L.H.EVANS (1995) Investigation of alternative protein sources in practical diets for juvenile shrimp, *Penaeus monodon*. Aquaculture, 134(3-4):313-323.
- SUDARYONO A., TSVETNENKO E. and L.H.EVANS (1996) Digestibility studies on fisheries by-product based diets for *Penaeus monodon*. Aquaculture, 143(3-4):331-340.
- SUDARYONO A., TSVETNENKO E., HUTABARAT J., SUPRIHARYONO. and L.H.EVANS (1999) Lupin ingredients in shrimp (*Penaeus monodon*) diets: influence of lupin species and types of meals. Aquaculture, 171(1-2):121-133.
- SUDHA P.M., MOHAN C.V., SHANKAR K.M. and A.HEGDE (1998) Relationship between white spot syndrome virus infection and clinical manifestation in Indian cultured penaeid shrimp. Aquaculture, 167(1-2):95-101.
- SUDHEESH P.S.and H.S.XU (2001) Pathogenicity of *Vibrio parahaemolyticus* in tiger prawn *Penaeus monodon* fabricius: possible role of extracellular proteases. Aquaculture, 196(1-2):37-46.

- 首藤勝夫・中村邦典・石田宣次・北林邦次 (1971) クルマエビの配合飼料に関する研究-IV.イカ肝油とコレステロールの増重効果.東海区水研研報, (65):129-137.
- 末原裕幸・楽 敦司・吉川孝司・永山博敏 (1995) クルマエビ種苗量産試験.平成4・5年度兵庫栽セ事報, 38-39.
- 末原裕幸・楽 敦司・吉川孝司 (1995) クルマエビ種苗生産事業.平成4・5年度兵庫栽セ事報, 158-160.
- 末原裕幸・吉川孝司・南浦達也 (1997) クルマエビ種苗生産事業.平成6・7年度兵庫栽協事報, 112-114.
- 末原裕幸・吉川孝司・南浦達也 (1997) クルマエビ種苗生産事業.平成6・7年度兵庫栽協事報, 276-278.
- 末広恭雄 (1989) 目から鱗の落ちる話. 柏書房, 222 pp.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖①. 養殖, 21(2):94-98.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖②. 養殖, 21(3):108-112.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖③. 養殖, 21(4):94-98.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖④. 養殖, 21(5):105-109.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖⑤. 養殖, 21(6):105-109.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖⑥. 養殖, 21(7):60-63.
- 末光正典 (1984) フィリピンにおけるウシエビ養殖⑦. 養殖, 21(8):58-63.
- 末光正典 (1985) マレーシアにおけるウシエビ養殖①.概要. 養殖, 22(3):102-105.
- 末光正典 (1985) マレーシアにおけるウシエビ養殖②.民間のウシエビ養殖プロジェクト. 養殖, 22(4):108-111.
- 末光正典 (1985) マレーシアにおけるウシエビ養殖③.政府機関によるウシエビ養殖プロジェクト. 養殖, 22(5):102-106.
- 末光正典 (2000) ウシエビの交尾撮影成功記(その1). 養殖, 37(11):82-85.
- 末光正典 (2000) ウシエビの交尾撮影成功記(その2). 養殖, 37(12):88-91.
- 末吉隆・家永和敏・高田淳史 (2001) 複合的資源管理型漁業促進対策事業.平成11年度大分海研事報, 53-66.
- 蘇永全・蔡心一・王軍 (1994) 1992-1994年に南部中国に発生した悪性エビ病の病院解析について(中国文). 中国水産, (496):51-58.
- 菅原英一・堺告久・浜田尚雄・森脇胖二 (1973) 瀬戸内海漁業基本調査.昭和46年度兵庫水試事報, 97-103.
- 菅原英一・浜田尚雄・森脇胖二 (1973) 瀬戸内海漁業基本調査.昭和47年度兵庫水試事報, 160-164.
- 菅原兼男・出塚順一 (1954) クルマエビ屋内蓄養池の水質について. 水産増殖, 2(2):20-30.
- SUGAMA H.K.・津村誠一・西島敏隆 (2000) 海水から分離したビブリオ菌発育阻止細菌 : ウシエビ幼生飼育における有効細菌としての可能性(英文). Indonesian Fisheries Research Journal, (6):26-32.
- SUGAMA H.K.・津村誠一・西島敏隆 (2000) 海水から分離した細菌のウシエビ *Penaeus monodon* 幼生ビブリオ病に対する生物制御剤bとしての可能性(英文). Proceeding of the International Symposium on Marine Biotechnology, Ancol, Jakarta, pp.182-189.
- SUGAMA H.K.・津村誠一・西島敏隆 (2001) 有用細菌 *Alteromonas* sp.によるウシエビ *Penaeus monodon* の後期幼生生産の促進(英文). Indonesian Fisheries Research Journal, (7):1-6.
- 菅沼光則 (1975) クルマエビの種苗生産,放流試験.昭和48・49年度愛知水試業報, 144-146.
- 菅谷琢磨・池田実・八木秀志・谷口順彦 (2000) マイクロサテライト多型を用いたクルマエビの交配様式の推定.平成12年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.126.
- 菅谷琢磨・池田実・谷口順彦 (2001) マイクロサテライト DNA および mtDNA の PCR-RFLP 分析によるクルマエビ天然集団の変異性.平成13年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.122.
- 菅谷琢磨・池田実・有元操・谷口順彦 (2001) DNA マーカーによるクルマエビの家系判別と成長の家系間差.平成13年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.127.
- 杉本仁弥・永田樹三・宮田和夫・久岡実・坂本久 (1972) クルマエビの資源培養に関する研究(西条干潟の巨視的環境). 浅海別枠(備後灘)研究成果, (2):48-62.
- 杉野博之・村田守 (1990) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (5):128-130.
- 杉野博之・村田守・元谷剛 (1993) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (8):103-104.
- 杉野博之・近藤正美 (1994) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (9):189-191.
- 杉野博之・近藤正美 (1995) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (10): 237-239.
- 杉野博之・近藤正美 (1996) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (11):166-167.
- 杉野博之・近藤正美 (1996) クルマエビの種苗生産.岡山水試報, (11):168-171.
- 杉野博之・山野井英夫・村田守 (1997) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (12):167-168.
- 杉野博之・村田守 (1998) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (13):120-122.
- 杉野博之・村田守 (1999) クマエビの種苗生産.岡山水試報, (14):183-185.
- 棚野元秀・長野泰三・川西敦 (1986) クルマエビ種苗の歩脚欠損と潜砂能力との関連性.香川水試研報, (2):31-37.
- 杉野俊郎・松尾薫・伊藤宣毅・加納 勝・中島博司 (1980) 昭和53年度人工礁漁場造成事業調査報告(抄録).三重浜島水試年報, 85-107.
- 杉田顕浩 (1985) 小浜市におけるクルマエビ放流事業の概要.日本海ブロック試験研究集録, (6):37-43.

- 杉田治男・上田龍太郎・出口吉昭 (1988) 沿岸甲殻類の腸管に存在する好気性従属栄養細菌の分離用培地の検討. 水産増殖, 36(3):249-252.
- 杉田治男・出口吉昭 (1994) 活魚. 輸送・蓄養. 平山和次編, 養殖魚の価格と品質. 水産学シリーズ, (78):100-108.
- 杉田治男・出口吉昭 (1996) 出荷. 橘高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.280-301.
- 杉田治男 (1999) 生物特性からみた循環型養殖と感染症の防除. 日野明徳・丸山俊朗・黒倉寿編, 水産養殖とゼロエミッション研究. 水産学シリーズ, (123):77-86.
- 杉田治男 (2000) 話題「プロバイオティックス」. 日水誌, 66(1):165.
- 杉田浩 (1993) クルマエビ種苗生産(平成2年度). 平成元年度～3年度宮崎裁セ要約・資料集, 85-88.
- 梶田拓治 (1969) クルマエビ種苗の量産と放流. 水産増殖, 16(6):331-332.
- 杉浦道明・矢野勲 (1996) クルマエビにおける卵黄形成初期の卵巣の微細構造について. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.41.
- 杉浦道明・矢野勲 (1997) クルマエビの卵巣発達に及ぼす 17β -Estradiol の影響に関する電子顕微鏡学的研究. MAVIELLE T., SILVA L., REIS-HERIQUES M.A., BALDAIA L. and J.COIMBRA (1995) Haemolymph unconjugated and conjugated steroids during reproduction in *Penaeus japonicus* (Crustacea:Decapoda). Neth.J.Zool, 45:64-67.
- SUMMERS M.D. (1977) Characterization of Shrimp Baculovirus. U.S.Environmental Protection Agency.Washington DC, EPA-600/3-77-130.
- 孫喜模 (1994) 黄・渤海海域における増殖業発展の現状と問題点. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):81-88.
- SUN P.S. (1995) Spatial expression of the molt-inhibiting hormonelike gene in the white shrimp *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 135(1-3):242.
- 孫修勤 (1990) 中国対蝦 (*Penaeus chinensis*)的病毒性疾病及防治技術研究・技術報告書. 中国国家海洋局第一海洋研究所, 1-15.
- SUN X.Q., WONG W.X., ZHU H.M., ZHANG J.X., XUE Q.G., LU Y. and Q.Y.SONG (1993) Studies on immunodiagnosis of heptopancreatic parvo-like virus disease of the Chinese penaeid, *Penaeus chinensis*-1. Purification of the virus. Oceanol.Limnol., 11(1):189-192.
- SUN X.Q., WONG W., SHAO J., ZHANG J., LU Y. and Q.SONG (1993) Studies on immunodiagnosis of hepatopancreatic parvo-like virus diseases of *Penaeus orientalis*- II . Rapid early diagnosis. Chin.J.Oceanol.Limnol., 11(3):245-248.
- 孫修勤・楠田理一 (1996) コウライエビの肝膵臓パルボ様ウイルス病の組織学的研究. 水産増殖, 44(3):307-314.
- 孫修勤・楠田理一 (1997) コウライエビに対する肝膵臓パルボ様ウイルスの病原性について. 水産増殖, 45(1):55-60.
- 孫修勤・楠田理一 (1997) 養殖コウライエビの肝膵臓パルボ様ウイルス病の直接蛍光抗体法による診断法に関する研究. 水産増殖, 45(2):225-230.
- 孫修勤・楠田理一 (1998) 中国における養殖コウライエビの肝膵臓パルボ様ウイルス病の疫学に関する研究. 水産増殖, 46(1):129-136.
- 孫平成9年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.72.
- 杉浦正悟 (1973) 秋穂実証実験漁場-底棲生物特性. 昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):149-158.
- 杉浦正悟 (1975) 秋穂実証漁場-底棲生物環境. 昭和49年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):79-84.
- 杉山昭博 (1997) 沖縄県における海面養殖事情と魚病発生状況. 養殖, 34(2):77-80.
- 杉山秀樹・佐藤泉・柴田理・水谷寿 (1992) 漁業試験. 平成2年度秋田水産振興セ事報, 47-63.
- 勝呂孝 (1982) インドネシア印象記. 東海区水研. さかな, (28):25-31.
- 水産研究会 (1951) 印度の車蝦漁業に関する資料. 研究資料, (31):1-26.
- 水産研究会 (1952) 東京湾内漁業生産高と湾内魚族の季節的移動状況. 研究資料, (41):1-84.
- 水産生物と温排水研究協議会 (1973) 水産生物と温排水. 日本水産資源保護協会, 158 pp.
- 水産庁(監) (1980) 水産資料総覧(昭和56年度). 地球社, 720 pp.
- 水産庁 (1969) アクチバブルトレーサーによる漁場放流用くるまえばい種苗の標識および再捕率の研究(中間報告). 63 pp.
- 水産庁調査研究部 (1967) クルマエビの配合飼料に関する研究. 昭和42年度水産増養殖研究報告, 182-199.
- 水産庁振興部沿岸課監修 (1984) 沿岸の時代. 地球社, 335 pp.
- 水産庁振興部開発課・研究部研究課・養殖研究所・日本栽培漁業協会 (1996) 種苗生産期におけるくるまえばい RV-PJ 感染症の当面の防除対策について. 種苗生産期におけるクルマエビ RV-PJ 感染症の防除対策に関する担当者会議資料, pp.8-26.
- SUKHUMSIRICHART W., WONGTEERASUPAYA C., BOONSAENG V., PANYIM S.P., SRIURAIRATANA S., WITHYACHUMNARNKUL B. and T.W.FLEGEL (1999) Characterization and PCR detection of hepatopancreatic parvovirus (HPV) from *Penaeus monodon* in Thailand. Dis.Aquat.Org., 38(1):1-10.

- 村主昭也・柴田規計・西村守央 (1972) クルマエビ種苗生産試験. 昭和 45 年度三重浜島水試年報, 56-60.
- 村主昭也・柴田規計・西村守央・柴田楠吾 (1973) クルマエビ種苗生産試験. 昭和 46 年度三重浜島水試年報, 80-82.
- 村主昭也・岩崎満・森本健二・堀義道・西条清男爵・松尾薫 (1973) 普及活動に関する事項. 昭和 46 年度三重浜島水試年報, 88-106.
- 角祐二 (1999) クルマエビの尾肢切除標識有効性試験. 平成 10 年度富山水試年報, 37.
- 角祐二 (1999) クルマエビの尾肢切除標識放流試験. 平成 10 年度富山水試年報, 38-39.
- 角祐二 (2000) クルマエビの放流効果について-尾肢切除標識放流による交流効果の推定(要旨). 富山水試研報, (12):49.
- 角祐二 (2000) クルマエビの尾肢切除標識放流試験. 平成 11 年度富山水試年報, 39-40.
- SUMMAVIELLA T., SILVA L., REIS-HENRIQUES M.A., BALDAIA L. and J.COIMBRA (1995) Haemolymph unconjugated and conjugated steroids during reproduction in *Penaeus japonicus* (Crustacea: Decapoda). Neth.J.Zool., 45:64-67.
- SUM 修勤・苗華全・薛清剛・楠田理一 (1998) 免疫金銀染色法によるコウライエビ肝臓臓パルボ様ウイルス病の迅速診断について. 水産増殖, 46(1):137-139.
- 砂子剛・山本義久 (1991) クルマエビ種苗生産. 平成元年度静岡温水研業報, 44-47.
- 砂子剛・鈴木吉典 (1992) クルマエビ種苗生産. 平成 2 年度静岡温水研業報, 44-47.
- 砂子剛・佐竹顕一 (1993) クルマエビ種苗生産. 平成 3 年度静岡温水研業報, 44-47.
- 砂子剛・佐竹顕一 (1994) クルマエビ種苗生産. 平成 4 年度静岡温水研業報, 44-48.
- 砂子剛・石神一雄 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 5 年度静岡温水研業報, 40-44.
- 砂子剛・石神一雄 (1996) クルマエビ種苗生産. 平成 6 年度静岡温水研業報, 38-41.
- 砂子剛・石神一雄 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成 7 年度静岡温水研業報, 33-35.
- 砂子剛・石神一雄 (1998) クルマエビ種苗生産. 平成 8 年度静岡温水研業報, 34-38.
- 砂子剛・石神一雄 (1999) クルマエビ種苗生産. 平成 9 年度静岡温水研業報, 34-39.
- SUNDARARAJ A., MURALI MANOHAR B., SHEELA P.R.R., SELVARA J D. and B.RAVISHANKER (1996) Occurrence of monodon baculovirus infection in shrimps in Tamilnadu. Indian J. Fish., 43:103-105.
- SUNDARARAJAN D., CHANDRA BOSE S.V. and V.VENKATESAN (1979) Monoculture of tiger prawn, *Penaeus monodon* FABRICIUS, in brackishwater pond at Madras, India. Aquaculture, 16(1):73-75.
- SUNDEN S.F. and S.K.DAVIS (1991) Evaluation of genetic variation in a domestic population of *Penaeus vannamei* (BOONE): a comparison with three natural populations. Aquaculture, 97(2-3):131-142.
- SUNG H.H., SONG Y.L. and G.H.KOU (1991) Potential uses of bacterin to prevent shrimp vibriosis. Fish and Shellfish Immunology, (1):311-312.
- SUNG H.H., KOU G.H. and Y.L.SONG (1994) Vibriosis resistance induced by glucan treatment in tiger shrimp(*Penaeus monodon*). Fish Pathol., 29(1):11-17.
- SUNG H.H. and Y.L.SONG (1996) Tissue location of *Vibrio* antigen delivered by tiger shrimp(*Penaeus monodon*). Aquaculture, 145(1-4):41-54.
- SUNG H.H., YANG Y.L. and Y.L.SONG (1996) Enhancement of microbicidal activity in the tiger shrimp *Penaeus monodon* via immunostimulation. J.Crustacean Biol., (16):278-284.
- SUNG H.H., HSU S.F., CHEN C.K., TING Y.Y. and W.L.CHAO (2001) Relationship between disease outbreak in cultured tiger shrimp(*Penaeus monodon*) and the composition of *Vibrio* communities in pond water and shrimp hepatopancreas during cultivation. Aquaculture, 192(2-4):101-110.
- SUPAMATTAYA K., HOFFMANN R.W., BOONYARATPALIN S. and P.KANCHANAPHUM (1998) Experimental transmission of white spot syndrome virus(WSSV) from black tiger shrimp *Penaeus monodon* to the sand crab *Portunus pelagicus*, mud crab *Scylla serrata* and krill *Acetes* sp. Dis.Aquat.Org., 32(2):79-85.
- SUPLEE M.W. and J.B.COTNER (1996) Temporal changes in oxygen demand and bacterial sulfate reduction in inland shrimp ponds. Aquaculture, 145(1-4):141-158.
- SUTHERS I.M. (1984) Functional Morphology of the mouthparts and gastric mill in *Penaeus plebejus* HESS(Decapoda: Penaeidea). J.Mar.Freshw.Res., 35, 785-792.
- 須山三千三・鴻巣章二編 (1987) 水産食品学. 恒星社厚生閣, 341 pp.
- 須山三千三 (1992) エキス成分. 鴻巣章二・橋本周久編, 水産利用化学. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (24):103-126.
- 鈴木和典・浪越充司・西澤豊彦・室賀清邦・桃山和夫・有元操 (2000) ドットプロット DNA ハイブリダイゼーションによる PAV の診断について. 平成 12 年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.10.
- 鈴木敬二 (1993) 東南アジアにおける種苗生産方式の再検討. 水産の研究, 12(3):14-15.
- 鈴木晶子・水野秀二・平井亨 (1996) 各種用水等の水質環境調査. 平成 7 年度静岡水試事報, 72.
- 鈴木正伸・清水信宏・横須賀功 (1988) 漁期前及び漁期中漁場調査. 昭和 62 年度茨城水試事報, 82-99.
- 鈴木満 (1972) 東京市場における車エビの取引状況. 養殖, 9(9):48-51.

- SUZUKI N., MIZUMOTO I., ITAMI T., TAKAHASHI Y., TANAKA R., HATATE H., NOMOTO T. and A.KOZAWA (2000) Virucidal effect of singlet oxygen on penaeid white spot syndrome virus(WSSV). *Fish.Sci.*, 66(1):166-168.
- 鈴木庄一郎 (1979) 山形県海産無脊椎動物. 中央印刷, 370pp,22pls.
- 鈴木秋果 (1975) 熱変性タンパクの種特異性. 日本水産学会編, 魚類種族の生化学的判別. 水産学シリーズ, (9):21-31.
- 鈴木秋果 (1979) 血清学的種特異性. 日本水産学会編, 水産食品の鑑定. 水産学シリーズ, (29):46-58.
- 鈴木隆史 (1994) インドネシアにおける日系水産合弁事業の展開と国内民間資本の成長. *漁業経済研究*, 38(4): 101-127.
- 鈴木たね子 (1976) 漁獲物利用(食用)の視点から. 日本水産学会編「水産資源の有効利用」. 水産学シリーズ, (14):86-98.
- 鈴木たね子 (1990) 魚のもつ栄養のすべて. 21世紀の水産を考える会編, 健康と魚の白書. 成山堂書店, pp.13-22.
- 鈴木たね子 (2000) 養魚家に贈るおさかな栄養学④.肉と魚を比べてみれば. *養殖*, 37(6):86-88.
- 鈴木喜隆・伊丹利明・渡邊力夫・前田 稔・藤井健一・高橋幸則 (1998) 一重項酸素による PRDV の不活化. 平成 10 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.4.
- 鈴木喜隆・水本巖・伊丹利明・高橋幸則・田中竜介・幡手英夫・野本健雄・小沢昭弥 (2000) エビ白斑病ウイルス (WSSV) に対する一重項酸素の不活化効果(英文・短報). *Fish.Sci.*, 66(1):166-168.
- 鈴木讓・中原元和・中村良一・上田泰司 (1982) ナマコおよびクルマエビによるコバルトの取り込みと排出(英文). *日水誌*, 48(10):1495-1500.
- S.A.NUR-E-BORHAN・岡田茂・山口勝己 (1993) 市販ウシエビのカロテノイド組成について. 平成 5 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.237.
- シャー アムラン ヌル イーボルハン・岡田茂・渡部終五・山口勝己 (1993) ウシエビ甲殻より得られたカロテノプロテインについて. 平成 5 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.199.
- S.A.NUR-E-BORHAN・岡田茂・渡部終五・山口勝己 (1994) 養殖ウシエビの体色発現機構に関する研究. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.252.
- 庄司東助 (1973) 戦後日本漁業の発展過程における諸矛盾の顕在化と増養殖業の発展並びに所謂栽培漁業への期待可能性について. *漁業資源研究会議報*, (15):7-20.
- 庄司東助 (1983) 日本の漁業問題-その歴史と構造. 農山漁村文化協会, 261 pp.
- 庄嶋悦子・大滝英夫 (1971) コウライエビの漁場形成に関する若干の考察. *西海区水研研報*, (41):83-92.
- 庄嶋悦子・大滝英夫 (1981) コウライエビの資源診断. 昭和 55 年度 GSK 西日本底魚部会報, 39-55.
- 庄嶋悦子・大滝英夫 (1982) コウライエビの資源解析. *西海区水研研報*, (58):23-51.
- 諸喜田茂充 (1971) 沖縄の養殖業(下). *養殖*, 8(5):118-121.
- 種苗放流事業生産効果研究会 (1974) クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 1-80.
- 主婦と生活社編 (1977) 完本料理大事典. 主婦と生活社, 1359pp.
- 主婦の友社編 (1996) 料理食材事典. 主婦の友社, 959pp.
- 蕭錫延・謝佳芬 (2001) クサエビ *Penaeus monodon* のカリウム要求量(英文). *Fish. Sci.*, 67(4):592-595.

- 田畑日出男 (1981) 東京湾の水域環境の変遷と実態. 水産振興, 15(9):1-32.3
- 田畑和男 (1992) 海産魚類の系統群の保全について. 瀬戸内海科学, 5(1):55.
- 田端健二 (1979) 水生生物に対する各種水質汚染物質の半数致死濃度と長期影響限界濃度との関係. 東海区水研報, (98):1-21.
- TABB D.C., DUBROW D.L. and A.E.JONES (1962) Studies on the biology of the pink shrimp, *Penaeus duorarum* BURKENROAD, in Everglades Natural Park, Florida. Fla.St.Bd.Conserv.,Tech.Ser., 37:32.
- 橘裕 (1986) 魚の流通改善と品質判定への展望. 小泉千秋編, 魚の低温貯蔵と品質評価法. 水産学シリーズ, (60):13-23.
- 立原正秋 (1985) 魚の街. 阿部宗明・末広恭雄監修, 日本さかなづくし-1 集. 講談社, p.133.
- TACKAERT W., LEGER P., LAVENS P. and P.SORGELOOS (1990) 養殖のためのブラインシュリンプ(アルテミア)の培養と利用. CHAVEZ JUSTO C.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.319-339.
- TACON A.G.J. (1986) Larval shrimp feeding: crustacean tissue suspension-ADCP/UNDP/FAO,MR/86/23/20 pp.
- 田福正治・東条秀雄・青木千年・伊沢元・東山房雄 (1983) 魚種別種苗生産. 3.くるまえび. 昭和 57 年度徳島栽漁セ事報, 13-17.
- 多賀信夫・安田公昭 (1979) 餌料微生物フロックの生産とその利用に関する基礎的研究, 海産魚介類の種苗生産過程における微生物の役割. 文部省科研費報告(No.356130), 83 pp.
- 多賀信夫 (1986) 海洋微生物資源の有効利用. 内藤敦編, 海洋生物資源の有効利用. シーエムシー出版, pp.1-4.
- 田川日出夫 (1983) マングローブとマンガルの生態. 海洋と生物, 5(4):247-251.
- 田口喜三郎抄訳 (1985) ラテン・アメリカにおけるエビ養殖の展望②. 養殖, 22(12):122-125.
- 田口喜三郎抄訳 (1985) ラテン・アメリカにおけるエビ養殖の展望③. 養殖, 22(13):66-69.
- 田口喜三郎抄訳 (1986) ラテン・アメリカにおけるエビ養殖の展望④. 養殖, 23(1):66-70.
- 田原大輔・矢野勲 (1998) クルマエビの最終成熟とプロスタグランジンに関する研究. 平成 10 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.47.
- 田原大輔・矢野勲 (1999) クルマエビの卵形成とプロスタグランジンについて. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.50.
- 田原大輔・矢野勲 (2001) オゴノリの脂質抽出物がクルマエビの成長に及ぼす影響. 平成 13 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.103.
- 田原大輔・矢野勲 (2001) クルマエビの成長に及ぼすオゴノリ脂質抽出物の影響についての予察(英文・短報). 水産増殖, 49(3):415-416.
- TAIN Xijun (1993) Optimal aquafarm structure and size: a case study of shrimp mariculture. Department of Agricultural and Resource Economics, University of Hawaii, Dissertation, 179 pp.
- TAIT R.V. (1990,三栖寛訳) 海洋生態学入門. 九州大学出版会, 430 pp.
- 台湾省水産試験場東港支所 (1982,高橋光雄訳) 台湾のウシエビ養殖①. 種苗生産施設・産卵・フ化. 養殖, 19(8):68-72.
- 台湾省水産試験場東港支所 (1982,高橋光雄訳) 台湾のウシエビ養殖②. 養殖, 19(9):66-70.
- 台湾省水産試験場東港支所 (1982,高橋光雄訳) 台湾のウシエビ養殖③. 養殖, 19(10):65-69.
- 台湾省水産試験場東港支所 (1982,高橋光雄訳) 台湾のウシエビ養殖④. 養殖, 19(11):101-105.
- 田島健司 (1997) マリンレタスによる環境浄化への期待と餌料転化に伴う養殖魚の品質向上について(その 1). かん水, (392):14-21.
- 鷹田馨・青木隆子・松浦宏之・國崎直道 (1986) 輸入冷凍エビの細菌汚染状態とエキス成分について. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.188.
- 鷹田馨・青木隆子・国崎直道 (1988) 輸入冷凍エビの一般成分, 遊離アミノ酸, 脂肪酸, 無機質およびコレステロール含量について. 日水誌, 54(12):2173-2179.
- 高木和昭 (1989) 小型底曳網(縦曳 1 種)の投棄魚調査. 昭和 63 年度山口外海水試事報, 81-84.
- 高木和昭 (1991) 小型底曳網(1 種)の投棄魚について. 西海ブロック底魚調査研究会報, (1・2):23-25.
- 高岸誠一郎 (2000) 添加商品タイプ別・上手な使い方, 海藻粉末. 養殖, 37(4):179-180.
- 高橋寛爾 (1982) 宮城県栽培漁業センターの概要. さいばい, (22):42-44.
- 高橋一郎 (1987) 酒のさかなと小鉢もの. 婦人画報社, 102 pp.
- 高橋伊勢雄・松井芳房・前田三郎・井伊明 (1972) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和45年度兵庫水試事報, 291-293.
- 高橋伊勢雄・松井芳房・前田三郎・井伊明 (1973) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和46年度兵庫水試事報, 213-215.

- 高橋伊勢雄・前田三郎・松井芳房・井伊明 (1973) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和47年度兵庫水試事報, 316-317.
- 高橋正征 (2001) 高嶺の花から大衆化したエビ. アクアネット, 4(7):84-85.
- 高橋忠之 (1981) 海の幸スペシャリテ. 中央公論社. シェフシリーズ, (3):1-159.
- 高橋光雄訳 (1982) 台湾のウシエビ養殖. 養殖, 19(8):68-72.
- 高橋稔彦 (1984) 七尾湾における漁場環境と漁業生産. 水産土木, 21(1):81-83.
- 高橋豊雄・安枝俊雄 (1968) 水産原料. 恒星社厚生閣, 350 pp.
- 高橋幸則・名古屋博之・桃山和夫 (1981) クルマエビ稚仔から分離された *Vibrio* 属細菌の病原性ならびに性状. 水大校研報, 30(1):23-31.
- 高橋幸則 (1983) クルマエビのビブリオ症. 養殖, 20(9):23.
- 高橋幸則・伊丹利明・中川敦史・西村博行・安部敏男 (1984) 養殖クルマエビのビブリオ病に関する研究-III. OTC の *in vitro* 抗菌作用および OTC 試作錠剤の *in vivo* 有効量. 昭和 59 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.77.
- 高橋幸則・伊丹利明・西村博行・安部敏男・中川敦史 (1984) 養殖クルマエビのビブリオ病に関する研究-IV. OTC 試作錠剤による野外治療試験. 昭和 59 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.77.
- TAKAHASHI Y., NAGOYA H. and K.MOMOYAMA (1984) Pathogenicity and characteristics of *Vibrio* sp. isolated from diseased postlarvae of kuruma prawn, *Penaeus japonicus* BATE. J. Shimonoseki Univ. Fish., 32(1):23-31.
- 高橋幸則 (1984) 難病対策-クルマエビ. ビブリオ病. 養殖臨時増刊, 21(10):97-100.
- 高橋幸則・下山泰正・楠田理一 (1985) 養殖クルマエビのビブリオ病に関する研究-V. 原因菌 *Vibrio* sp. の生理学的性状. 昭和 60 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.11.
- 高橋幸則・下山泰正・桃山和夫 (1985) 養殖クルマエビから分離された *Vibrio* 細菌の病原性ならびに性状. 日水誌, 51(5):721-730.
- TAKAHASHI Y., ITAMI T., NAKAGAWA A., NISHIMURA H. and T. ABE (1985) Therapeutic effects of oxytetracycline trail tables against Vibriosis in cultured kuruma prawns *Penaeus japonicus* BATE. Bull. Japan Soc. Sci. Fish., 51(10):1639-1643.
- 高橋幸則・伊丹利明・江草周三 (1987) クルマエビのビブリオ病に関する研究-IV. 病理組織学的観察. 昭和 62 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.3.
- 高橋幸則・伊丹利明・江草周三 (1987) クルマエビのビブリオ病に関する研究-VI. 病理組織学的研究. 昭和 62 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.3.
- 高橋幸則・西村真・伊丹利明 (1988) クルマエビ血液中の溶菌性物質. 昭和 63 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.8.
- 高橋幸則・中村義直・伊丹利明・西村真 (1988) クルマエビのビブリオ病に対するワクチンの有効性. 昭和 63 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.11.
- 高橋幸則 (1989) コイおよびクルマエビの細菌性疾病. 江草周三監修, 魚病図鑑. 緑書房, pp.109-197.
- 高橋幸則・閻愚・伊丹利明 (1989) クルマエビから分離された色素産生性 *Vibrio* の病原性ならびに性状. 平成元年度漁病学会春季大会講演要旨, p.10.
- 高橋幸則・伊丹利明・青木陽一郎・西村真・Yan Yu・近藤昌和 (1989) クルマエビに対するリン酸-L-アスコビルマグネシウムの生体防御機能促進効果. 平成元年度魚病学会春季大会講演要旨, p.25.
- 高橋幸則・伊丹利明・米岡研二・Yan Yu (1990) ウシエビ幼生の生残率に対する微細餌料中への菌体の添加効果. 平成2年度魚病学会春季大会講演要旨.
- 高橋幸則・伊丹利明・森重信・井草宏之 (1991) クルマエビの生体防御能に及ぼす β -1,3-グルカンの影響. 平成3年度魚病学会春季大会講演要旨, p.17.
- 高橋幸則・伊丹利明 (1991) 魚類の非特異生体防御機構の解明. 生物情報の解明と制御による新農林水産技術の開発に関する総合研究. 平成2年度研究報告, 146-147.
- 高橋幸則・閻愚・伊丹利明 (1991) クルマエビから分離された色素産生性 *Vibrio* の病原性ならびに性状. 水大校研報, 39(2・3):109-118.
- 高橋幸則・伊丹利明・村尾大作 (1992) タイ國のウシエビから分離された病原性ビブリオの症状. 平成4年度魚病学会春季大会講演要旨, p.3.
- 高橋幸則・伊丹利明・宮崎照雄 (1992) クルマエビのビブリオ病に対する IgY 抗体の予防効果. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.240.
- 高橋幸則・伊丹利明・亀井裕行・満谷淳・武居薫 (1992) クルマエビの生体防御に及ぼす底質環境の影響. 平成4年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.17.
- 高橋幸則・伊丹利明 (1992) 魚類の非特異生体防御機構の解明. 生物情報の解明と制御による新農林水産技術の開発に関する総合研究. 平成3年度研究報告, 132-133.
- 高橋幸則 (1994) 魚病発生のメカニズム. 養殖, 31(1):44-48.
- 高橋幸則 (1994) 最新魚病対策. 養殖経営における魚病対策の現状と課題. 養殖, 31(2):37-43.

- TAKAHASHI Y., ITAMI T., KONDO M., MAEDA M., FUJII R., TOMONAGA S., SUPAMATTAYA K. and S. BOONYARATPALIN (1994) Electron microscopic evidence of bacilliform virus infection in kuruma shrimp (*Penaeus japonicus*). *Fish Pathol.*, 29(2):121-125.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和・前田稔・藤井玲子・友永進 (1994) 日本および韓国のクルマエビ属エビ類に発生したバキュロウイルス感染症. 平成6年度魚病学会春季大会講演要旨, p.6.
- 高橋幸則・近藤昌和・伊丹利明・前田稔・藤井玲子・友永進 (1994) New viral disease of cultured penaeid shrimp in Japan. The First Korea-Japan joint Meeting and symposium on Aquaculture.
- 高橋幸則・伊丹利明 (1994) 新しい手法を用いた魚病対策. 3.エビ類の生体防御能賦活化による防疫対策. 平成6年度日本魚病学会秋季大会講演要旨.
- 高橋幸則・伊丹利明 (1994) エビ類の生体防御機構賦活化による防疫対策. シンポジウム, 魚病研究における分子生物学的手法の利用. 平成6年度日本魚病学会秋季大会講演要旨.
- 高橋幸則・伊丹利明 (1994) エビ類の生体防御機能賦活化による防疫対策. 平成6年度魚病学会秋季大会講演要旨, p.10.
- 高橋幸則 (1994) 養殖経営における魚病対策の現状と課題. *養殖*, 31(1):37-43.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (1995) 甲殻類の生体防御機構. シンポジウム. プロシーディング. *魚病研究*, 30(2):141-150.
- 高橋幸則・下山泰正・桃山和夫 (1985) 養殖クルマエビから分離された *Vibrio* 属細菌の病原性ならびに性状. *日水誌*, 51 (5):721-730.
- 高橋幸則・伊丹利明・中川敦史・西村博行・安部敏男 (1985) 養殖クルマエビのビブリオ病に対するオキシテトラサイクリン試作錠剤の治療効果(英文). *日水誌*, 51(10):1639-1643.
- 高橋幸則・伊丹利明・前田稔・鈴木喜隆・KASOMCHANDRA J.・SUPAMATTAYA K.・KHONGRADIT R.・BOONYARATPALIN S.・近藤昌和・川合研児・楠田理一・広野育生・青木宙 (1996) クルマエビの RV-PJ およびブラックタイガーの SEMBV の DNA を検出する PCR (英文). *J.Fish Diseases*, 19(5):399-403.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (1996) エビ類の生体防御機能. シンポジウム, 魚介類の生体防御機構-基礎と応用. 平成8年度日本魚病学会秋季大会講演要旨, p.2.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和・鈴木喜隆・前田稔・三田芳弘・山口珠光・高木淳 (1996) Increase in disease resistance of kuruma prawn by activation of immunodefence system. The 2nd Korea-Japan joint Meeting and symposium on Aquaculture.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (1996) 甲殻類の生体防御機構. *魚病研究*, 30(2):141-150.
- 高橋幸則 (1996) New viral and bacterial disease in cultured Penaeid shrimp. *Proceeding of Joint Meeting and Symposium on Fish.Sci.Kunsan*, pp.449-454.
- 高橋幸則 (1997) 養殖魚類に対する免疫賦活物質利用の可能性. 養殖魚類に対する免疫賦活物質の活用. *養殖*, 34(10):117-121.
- TAKAHASHI Y., ITAMI T. and M.KONDO (1997) Bacterial and viral infecting of kuruma shrimp (*Penaeus japonicus*). *International synposium on Diseases in Marine Aquaculture. JSFP-Hiroshima*, p.57.
- 高橋幸則・伊丹利明・前田稔・近藤昌和 (1998) 日本の養殖クルマエビにおける細菌性およびウイルス性疾病(英文). *魚病研究*, 33(4):357-364.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (1998) 魚類およびエビ類に対するエビ類の免疫賦活物質の作用. *月刊海洋号外*, (14):154-158.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (1999) クルマエビ類の急性ウイルス血症. *養殖*, 36(3):102-103.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (1999) 魚病.クルマエビのビブリオ病. *養殖*, 36(5):102-103.
- 高橋幸則・藤井敦史・近藤昌和・伊丹利明 (2000) クルマエビの生体防御能に及ぼすワカメ由来物質の効果. 平成12年度魚病学会春季大会講演要旨.
- 高橋幸則・福田耕平・近藤昌和・伊丹利明 (2000) クルマエビの生体防御能に及ぼすブタ血漿成分の効果. 平成12年度魚病学会春季大会講演要旨.
- TAKAHASHI Y., KONDO M., HONDA Y., MIZUNO K., ITAMI T., INAGAWA H. and G-I SOMA (2000) Enhancement of disease resistance in kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*, against white spot syndrome after oral administration of a lipopoly-saccharide extracted from *Panties agglomerans*. *International Veterinary Cytokine and Vaccine Conference, Japan*.
- 高橋幸則 (2000) 添加商品タイプ別・上手な使い方, 免疫賦活物質. *養殖*, 37(4):149-154.
- 高橋幸則・藤井敦史・近藤昌和・伊丹利明・藤井紳一郎・伊永隆史・高橋幸志・姫野國祐 (2000) クルマエビの生体防御能および PAV に対するワカメ由来物質の効果. 平成12年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.27.
- 高橋幸則・福田耕平・近藤昌和・伊丹利明 (2000) クルマエビの生体防御能および PAV に対する豚血漿成分の効果. 平成12年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.28.

- 高橋幸則 (2000) 養殖エビ類の疾病と防疫対策. 芝崎勲監修, 環境衛生管理技術大系. 1.有害微生物管理技術. フジテクノシステム, pp.308-312.
- 高橋幸則 (2000) 免疫賦活物質. 芝崎勲監修, 環境衛生管理技術大系. 1.有害微生物管理技術. フジテクノシステム, pp.325-329.
- TAKAHASHI Y., ITAMI T. and M.KONDO (2000) A new viral disease and immunodefense system of penaeid shrimp. CHEN J.C. & S.Y.CHENG eds., Progress in Fish Immunology. National Taiwan Ocean Univ.Press, pp.19-27.
- TAKAHASHI Y., KONDO M., ITAMI T., HONDA T., INAGAWA H., NISHIZAWA T., SOMA G. and Y.YOKOMIZO (2000) Enhancement of disease resistance against penaeid acute viraemia and induction of virus-inactivation activity in hemolymph of kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*, by oral administration of *Pentoea agglomerans* lipopolysaccharide (LPS). Fish Shellfish Immunol., 10(6):555-558.
- TAKAHASHI Y., KONDO M., ITAMI T., HONDA T., INAGAWA H., SOMA G-I. and Y.YOKOMIZO (2000) Enhancement of disease resistance in kuruma shrimp, *Penaeus japonicus* against white spot syndrome after oral administration of a lipopoly-saccharide extracted from *Pentoea agglomerans*. National Institute of Animal Health ed., Proceeding of the International Veterinary Cytokines and Vaccines Conference. National Institute of Animal Health, pp.350-353.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (2001) ヒトと動物の免疫機能と活性化物質. 鈴木喜隆・高橋幸則編, 食の科学. 成山堂, pp.1-22.
- 高橋幸則・伊丹利明・近藤昌和 (2001) 免疫賦活物質の基礎知識. 養殖, 38(11):60-63.
- 高橋善弥 (1987) 漁況.瀬戸内海. 1986年海域別情報. 水産海洋研究会報, 51(2):181-182.
- 高橋善弥 (1989) 情報. 漁況. 瀬戸内海. 水産海洋研究, 53(2):206-207.
- 高木典生・河崎憲・内藤信明・原田衛 (1980) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和54年度愛知水試業報, 100-101.
- 高井徹・品川汐夫 (1984) ヒラメ・クルマエビの放流効果. 柳井湾海域の漁業振興に関する調査報告書, 11-25.
- 高松賢二郎・宮崎統五・武野泰之・若林洋・藤田大介・若林信一 (1989) 新栽培漁業対象種開発事業. 昭和63年度富山水試事報, 48-56.
- 高見東洋 (1976) 漁場環境. 2.生物的環境. 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 3-4.
- 高見東洋 (1976) 漁場環境. 2.生物的環境. 山口県. 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 5-10.
- 高見東洋 (1976) 放流および追跡調査. 2.天然干潟. 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 24-28.
- 高野秀昭 (1970) 豪州のエビ. 養殖, 7(9):120-123.
- 高野秀昭 (1973) 赤潮を考える. 東海区水研. さかな, (11):69-80.
- 高野傑・稗田賢治・小川浩 (1991) 漁業高度管理適正化方式開発調査事業. 平成元年度大分浅海漁試事報, 64-68.
- 高野傑・福岡和光・稗田賢治・田森裕茂 (1991) 特定地域沿岸漁業開発調査. 平成元年度大分浅海漁試事報, 69-74.
- 高野傑・鳥島嘉明・山中鶴雄 (1999) 魚林-大分県魚類小割式養殖業の歴史. 大分県魚類小割式養殖業の歴史編纂発起人会, 303 pp.
- 隆島史夫 (1990) 魚の養殖最前線-性と成熟のコントロール. 裳華房.ポピュラーサイエンス, 125 pp.
- 隆島史夫 (1993) マングローブを活かす水産養殖. 隆島史夫・松田皎編, 地球にやさしい海の利用. 恒星社厚生閣, pp.92-105.
- 隆島史夫・中村薫・皆川恵・三上悟 (1996) 生理学. 橘高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, エビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.33-114.
- TAKASHIMA F., TAKASHI A. and Y.MUSIG eds. (2001) Proceeding of the JSPS-NRCT International Symposium on Sustainable Shrimp Culture and Health Management Diseases and Environment. Tokyo University of Fisheries, Japan, 221 pp.
- 高屋雅生 (1980) 養殖魚は嗜好品か蛋白源か. 養殖, 17(10):42-43.
- 高山繁昭・浅積慎次・吉岡貞範・菅昭人 (1981) 数種農薬のクルマエビに対する急性毒性に関する研究. 山口内海水試報, (8):81-86.
- 武智昭彦・滝本真一 (1986) アコヤ貝肉のクルマエビ餌料化試験. 昭和60年度愛媛水試事報, 166-168.
- 武智昭彦・谷川貴之・村田憲之・坂口秀雄 (1999) 放流クルマエビ共同管理モデル事業. 平成10年度愛媛中予水試事報, 30-32.
- 武智昭彦・谷川貴之・村田憲之・加藤利弘 (2000) 放流クルマエビ共同管理モデル事業. 平成11年度愛媛中予水試事報, 34-36.
- 武智昭彦・加藤利弘・谷川貴之 (2001) 放流クルマエビ共同管理モデル事業. 平成12年度愛媛中予水試事報, 36-37.
- 武智利博 (1999) 漁業と瀬戸内海の集落 (漁村の諸相). 柳哲雄編著・合田健監修, 瀬戸内海の自然と環境. 瀬戸内海環境保全協会. 真・瀬戸内海文化シリーズ, (2):138-161.

- 竹田正彦 (1981) 魚類摂餌促進物質の水産への応用. 日本水産学会編, 魚類の化学感覚と摂餌促進物質. 水産学シリーズ, (37):109-119.
- 竹田正彦 (1986) 最新養魚飼料-総論. 海水魚飼料の現状と展望. 養殖, 23(12):30-33.
- 竹田正彦 (1992) 魚類の摂餌. 荻原珍吉編, 魚類の栄養と飼料. 新水産学全集, (14):12-26.
- 武田正倫 (1982) 原色甲殻類検索図鑑. 北隆館, 284 pp.
- 武田正倫 (1988) 東南アジアのクルマエビ. 日比谷京監修, 日本の水産-アジアのエビ. 全日本水産写真資料協会, pp.169-180.
- 武田正倫 (1994) 世界のエビ類. 東京水産大学第9回公開講座編集委員会編, 日本のエビ・世界のエビ-改訂増補. 成山堂書店, pp.1-27.
- 武田正倫 (1994) 節足動物, クルマエビ類. 奥谷喬司編, 水産無脊椎動物II. 有用・有害種各論. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, (6):215-221.
- 武田正倫 (1995) エビ・カニの繁殖戦略. 平凡社. 自然叢書, (27):1-239.
- 武田雷介・柄多哲也・山本強・金尾博和・杉野雅彦・中本幸一・丹下勝義・仲野達也・堺告久・伊丹宏三・佐野義勝・能勢史郎・満尾伸洋・八橋忠良・中村一彦・浜野展好・土井長之・川上武彦 (1983) 昭和 56 年度大規模増殖場開発事業調査(明淡地区:マダコ). 昭和 56 年度兵庫水試事報, 264-284.
- 武田保幸・阪本俊雄 (1989) 底魚資源調査. 昭和 62 年度和歌山水試事報, 27-30.
- 武田保幸・阪本俊雄 (1990) 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究. 昭和 63 年度和歌山水試事報, 19-29.
- 武田保幸・阪本俊雄 (1991) 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究. 平成元年度和歌山水試事報, 21-27.
- 武田保幸・阪本俊雄・榎山晃晴 (1991) 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究. 平成 2 年度和歌山水試事報, 25-28.
- 武田保幸・阪本俊雄 (1993) 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究. 平成 3 年度和歌山水試事報, 19-25.
- 武田晃一 (1980) 200 カイリ水域内漁業資源調査(燧灘関係). 昭和 53 年度愛媛水試事報, 23-24.
- 武田晃一 (1981) 200 カイリ水域内漁業資源調査(分場). 昭和 54 年度愛媛水試事報, 21.
- 武田晃一・鶴井啓司・塩田浩二 (1982) 200 カイリ水域内漁業資源調査(燧灘関係). 昭和 55 年度愛媛水試事報, 21.
- 武田晃一 (1983) 200 カイリ水域内漁業資源調査(分場). 昭和 56 年度愛媛水試事報, 24.
- 武田晃一 (1983) 200 カイリ水域内漁業資源調査(分場). 昭和 57 年度愛媛水試事報, 22-23.
- 建原敏彦 (1984) クルマエビ放流技術開発事業(放流効果調査). 昭和 57 年度新潟栽セ業研報, 30.
- 武井篤 (1991) 養殖用人工種苗生産について. 養殖(臨時増刊), 28(8):38.
- 武井篤 (1993) 養殖用種苗生産について. 養殖臨時増刊, 30(8):34-35.
- 竹井誠 (1969) 魚類の嗜好物質に関する研究-IV. 稚ウナギ, クルマエビの摂餌並びに行動. 東海区水研報, (57):71-79.
- 竹井誠・藍尚禮 (1971) 魚類の嗜好物質に関する研究-VI. 各種物質に対するクルマエビ歩脚の反応. 東海区水研報, (68):61-69.
- 竹井誠・藍尚禮 (1973) クルマエビ歩脚における化学刺激反応. 東海区水研報, (75):55-61.
- 武井保 (1980) 日本のエビ合弁事業の課題. 水産振興, 14(4):1-28.
- 竹末敏男・岩井昌二・森脇胖二 (1965) 瀬戸内海重要水族環境調査. 昭和 39 年度兵庫水試事報, 49-86.
- 竹末敏男・真鍋武彦 (1969) チタン排水生物試験. 昭和 43 年度兵庫水試事報, 214-215.
- 竹末敏男・浜田尚雄・真鍋武彦・安田基・大谷和夫・反田實・吉野生壮・秋武宏・島本信夫 (1975) 油臭魚状況等調査. 昭和 48 年度兵庫水試事報, 497-499.
- 竹森弘征・横川浩治・安部享利・山本昌幸・坂本久・植田豊 (2001) 複合的資源管理型漁業促進対策事業. 平成 11 年度香川水試事報, 11-121.
- TAKEMOTO Y. and Y. KAWANO (1985) Ultrastructure of the mandibular organ of the shrimp, *Penaeus japonicus*, in untreated and experimentally manipulated individuals. Cell Biol. Intern. Rpt., 9(12):1069-1074.
- 竹村暘 (1987) 水生無脊椎動物の発音と行動. 長崎大水産研報, (62):1-8.
- 竹村嘉夫・倉田博 (1975) 秋穂実証漁場-底生生物定量撮影装置. 昭和 49 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (5):175-178.
- 武野泰之・堀田和夫・渡辺孝之 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度富山栽セ事報, 20-27.
- 武野泰之・堀田和夫・渡辺孝之 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 59・60 年度富山栽セ事報, 9-14.
- 武野泰之・堀田和夫・渡辺孝之 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 59・60 年度富山栽セ事報, 40-43.
- 武野泰之・角祐二・渡辺孝之 (1990) クルマエビ種苗生産. 昭和 61・62 年度富山栽セ事報, 16-20.
- 武野泰之・角祐二・渡辺孝之 (1990) クルマエビ種苗生産. 昭和 61・62 年度富山栽セ事報, 44-47.
- 武野泰之 (1990) 海面増養殖技術指導. 平成元年度富山水試年報, 51.
- 竹内昌昭 (1970) 養魚とその飼料について. 東海区水研. さかな, (5):50-54.
- 竹内昌昭 (1972) 石油酵母と養魚飼料. 養殖, 9(7):111.
- 竹内昌昭 (1975) 第 10 回国際栄養学会開かれる. 養殖, 12(10):110-112.
- 竹内昌昭 (2000) 養魚飼料開発の日本史⑥. 海産魚の飼料開発. 養殖, 37(11):110-113.
- 竹内昌昭 (2000) 養魚飼料開発の日本史⑦. 石油酵母と飼料安全法. 養殖, 37(12):112-115.

- 竹内昌昭 (2000) 養魚飼料開発の日本史.⑧指定試験と学会活動. 養殖, 37(13):110-113.
- 竹内卓三 (1966) 広島県の浅海養殖の現状と問題点. 養殖, 3(1):48-51.
- 竹内俊郎 (1992) 魚類における栄養素の欠乏症と要求量. 栽培技術研修事業基礎理論コーステキスト集-V. 仔稚魚期の発育シリーズ, 1-68.
- 竹内豊和 (1992) 魚種別・最近の業況と経営課題.クルマエビ. 養殖, 29(9):71-74.
- 多紀保彦 (1993) 東南アジアの養殖開発と日本の立場. 多紀保彦編, 世界の中の日本漁業. 成山堂書店, 262 pp.
- 多紀保彦 (1994) 食用となる魚類.東京水大第 8 回公開講座編集委員会編, 暮らしとさかな-水産食品読本. 成山堂書店, pp.69-93.
- TAKI Y., PRIMAVERA J.H. and J.LLOBRERA ed s. (1985) Proceedings of the first International conference on the culture of penaeid prawns/shrimps. Aquacult.Dept.SE Asian Fish. Develop.Center, 197 pp.
- 滝井健二 (1994) 刺激物質. 2.アミノ酸. シンポジウム, 魚介類に対する摂餌刺激物質. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.397.
- 滝井健二 (1994) アミノ酸. 原田勝彦編, 魚介類の摂餌刺激物質. 水産学シリーズ, (101):55-65.
- 滝田徳柄 (2000) 魚介類の消費と供給動向. 水産振興, 34(7):1-40.
- 多胡信良・平松達男・有馬功 (1962) 豊前海海面漁業の経営実態と収益性からみた年間許容漁獲努力量について. 昭和 36 年度福岡豊前水試研業報, 53-70.
- 多胡信良・有馬功・平松達男 (1962) 豊前海におけるエビ漕網, 柵網の漁獲物組成と幼稚仔の混獲実態について. 昭和 36 年度福岡豊前水試研業報, 243-320.(綴込み, pp.1-78).
- 多胡信良・平松達男・有馬功 (1963) 豊前海海面漁業の経営実態について. 第 2 報. えび建網・かにかご・えび船びき網・くろだい延縄・しばえび抄網等の雑漁業のついて. 昭和 37 年度福岡豊前水試研業報, 73-100.
- 多胡信良・有馬功・平松達男 (1963) 豊前海における柵網・建網の漁獲物組成及び漁法別重要種の幼稚仔混獲状況の比較. 昭和 37 年度福岡豊前水試研業報, 153-236.
- 多胡信良 (1967) 豊前海の水産物流通実態調査-I. 東京市場に出荷されるクルマエビの産地価格についての考察. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 1-9.
- 多胡信良・平松達男・乗松惟基・瀬川和人・尾田一成 (1967) 底魚資源の利用と小型機船底曳網(えび漕網, 鉄管漕網)の漁獲性能について. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 10-20.
- 多胡信良・平松達男・長谷川彰・林知夫 (1967) クルマエビ放流事業の成立条件について第 1 報. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 21-40.
- 多胡信良・乗松惟基 (1967) 福岡県豊前海域における小型底びき網漁業の資源利用形態について. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 140-147.
- 多胡信良 (1969) クルマエビ放流事業の成立条件について第 2 報. 昭和 43 年度福岡豊前水試研業報, 45-56.
- 多胡信良 (1971) 福岡県豊前海域における漁業形態の変化について-とくに内湾化の進行と漁業経営との関連について. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 1-42.
- 多胡信良 (1974) クルマエビ放流の生産効果について. 昭和 47 年度豊前水試研業報, 219-226.
- 多胡信良 (1974) 福岡県簗島干潟漁場の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬裁協, 47-52.
- 多胡信良 (1976) 漁場環境.3.社会的環境. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 4-5.
- 多胡信良・天野泰秀・藤紘和・西山世津男・神菌真人 (1977) クルマエビ放流事業における初期育成技術の検討と生産効果事例について. 昭和 49 年度福岡豊前水試研業報, 95-104.
- 多胡信良・天野泰秀・藤紘和・神菌真人 (1978) クルマエビ放流事業における初期育成技術の検討-II. 昭和 51 年度福岡豊前水試研業報, 32-39.
- 多胡信良・北原武・天野泰秀・藤紘和 (1979) クルマエビ種苗放流の経済効果の解析-I. 昭和 51 年度福岡豊前水試研業報, 46-66.
- 多胡信良・北原武 (1980) クルマエビ種苗放流の経済効果の解析. 昭和 53 年度福岡豊前水試, 1-60.
- 多久徳・山本和平・浦田勝喜・原田俊秀 (1969) 昭和 43 年度磯根資源調査(クルマエビ放流効果追跡調査). 熊本水試資料, (18):56 pp.
- TALBOT P., CLARK Jr.W.H. and A.L.LAWRENCE (1972) Fine structure of the midgut epithelium in the developing brown shrimp, *Penaeus aztecus*. J.Morphol., 138(4):467-485.
- TALBOT P., HOWARD D., LEUNG-TRUJILLO J., LEE T.W., LI W.Y., RO H. and A.L.LAWRENCE (1989) Characterization of male reproductive tract degeneration syndrome in captive penaeid shrimp (*Penaeus setiferus*). Acuaculture, 78(3・4): 365-377.
- 玉城英信 (1987) ウシエビの成熟促進と種苗生産技術に関する研究. 昭和 61 年度地域重要新種技術開発促進事業報告書(沖縄水試), 1-9.
- 玉城英信・渡辺利明・村越正慶 (1997) 養殖クルマエビの産卵と稚エビ飼育. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.37.

- 玉城英信・村越正慶・喜屋武みつる (1998) 養殖クルマエビの母エビ養成(甲殻類増養殖試験). 平成 8 年度沖繩水試事報, 147-154.
- 玉木哲也・中村一幸・尾崎為雄・塚告久 (1979) 香住町浅海漁場開発調査. 昭和 51 年度兵庫水試事報, 236.
- 玉木哲也 (1979) 香住町浅海漁場開発調査. 昭和 52 年度兵庫水試事報, 265-267.
- 玉木哲也・大谷徹也・宮原一隆 (1996) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 6 年度兵庫水試事報, 21-35.
- 玉木哲也・大谷徹也・宮原一隆 (1997) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 7 年度兵庫水試事報, 22-37.
- 玉木哲也・大谷徹也・岩佐隆宏 (1998) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 8 年度兵庫水試事報, 8-10,105-116.
- 玉木哲也・大谷徹也 (1999) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 9 年度兵庫水試事報, 8-12,103-117.
- 玉木哲也・長浜達章・岩佐隆宏 (2000) 瀬戸内海重要水族環境調査. 漁況調査. 平成 10 年度兵庫水試事報, 8-10,99-110.
- 玉木哲也・長浜達章・中村行延 (2000) 瀬戸内海重要水族環境調査.漁況調査. 平成 11 年度兵庫水試事報, 8-9,103-114.
- 玉木哲也・中村行延・長浜達章 (2001) 瀬戸内海重要水族環境調査.漁況調査. 平成 12 年度兵庫水試事報, 8-9,99-110.
- 玉越紘一 (1979) エビ流し網(源式網)の資材による改良. 昭和 53 年度愛知水試業報, 76.
- 玉越紘一 (1981) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和 55 年度愛知水試業報, 111.
- 玉野事業場・志布志事業場 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業支援事業. クルマエビ. 平成8年度日裁協事業年報, 325-326.
- 玉野事業場 (2001) クルマエビ種苗の大量生産並びに配付. 平成 11 年度日裁協事業年報, 366.
- 為石日出生 (1994) 衛星・航空リモートセンシングの水産への応用-宇宙から海と魚を考える. 水産振興, 27(18):1-96.
- 田森裕茂・国武和人 (1990) 開発漁場保全調査(国庫補助). 昭和 63 年度大分浅海事報, 92-101.
- 田村正 (1962) 浅海増殖学. 恒星社厚生閣, 水産学全集, (2):130-135.
- 田村瀬 (1974) コウライエビの種苗生産と2,3の知見. 栽培漁業技術開発報, (2):1-13.
- 田村瀬・八柳健郎 (1974) 台湾産親クルマエビの採卵について.栽培漁業技術開発報, (2):14-20.
- 田村瀬・宮後富博・浦崎武二・末富敏夫・荒瀬勝政・小林和吉 (1988) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 61 年度山口内海栽セ報, 1-4.
- 田村瀬・宮後富博・浦崎武二・末富敏夫・荒瀬勝政・小林和吉 (1989) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 62 年度山口内海栽セ報, 1-3.
- 田村瀬 (1992) 山口県における水産増養殖について(要旨). 水産増殖, 40(4):490.
- 田村静夫 (1970) 東京内湾海域の水質変動と漁業生産. 海洋科学, 2(11):51-59.
- TAN L.T., SOON S., LEE K.L., SHARIFF M.D. and A.R.OMAR (2001) Quantitative analysis of an experimental white spot syndrome virus(WSSV) infection in *Penaeus monodon* FABRICIUS using competitive polymerase chain reaction. J.Fish Dis., 24(6):315-323.
- TAN-FERMIN J.D. and R.A.PUDODERA (1989) Ovarian maturation stages of the wild giant prawn, *Penaeus monodon* FABRICIUS. Aquaculture, 77(2・3):229-242.
- TAN-FERMIN J.D. (1991) Effects of unilateral eyestalk ablation on ovarian histology and oocyte size frequency of wild and pond-reared *Penaeus monodon* (FABRICIUS) broodstock. Aquaculture, 93(1):77-86.
- 田邊隆一 (1986) 我が国の水産物輸入の現状と展望. 水産振興, 20(7):1-34.
- 田邊隆一・竹内国雄・青柳紀正・石田邦彦・湯浅俊策 (1987) 水産物輸入の展望. 水産振興, 21(11):1-44.
- 田邊隆一・竹内国雄・青柳紀正・石田邦彦・湯浅俊策 (1987) 水産物輸入の展望. 水産振興, 21(12):1-35.
- 田邊隆一 (1995) 我が国の水産物輸入を考える. 水産振興, 29(5):1-58.
- TANASOMWAQNG V., NAKAI T.,NISHIMURA Y. and K.MUROGA (1998) *Vibrio*-inhibiting marine bacteria isolated from black tiger shrimp hatchery. Fish Pathol., 33(5):459-466.
- 反田實・森脇胖二 (1985) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 58 年度兵庫水試事報, 66-71.
- 反田實・森脇胖二・松田泰嗣 (1986) 瀬戸内海漁業重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 59 年度兵庫水試事報, 38-68.
- 反田實・森脇胖二・松田泰嗣 (1987) 瀬戸内海漁業重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 60 年度兵庫水試事報, 36-61.
- 反田實・森脇胖二・松田泰嗣 (1988) 瀬戸内海漁業重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 61 年度兵庫水試事報, 23-39.
- 反田實・森脇胖二・松田泰嗣 (1989) 瀬戸内海漁業重要水族環境調査. 漁況調査. 昭和 62 年度兵庫水試事報, 21-38.
- 反田實・長浜達章・中筋晴喜 (2000) 瀬戸内海漁業重要水族環境調査. 底魚資源調査. 平成 11 年度兵庫水試事報, 14,120-123.
- 反田實・長浜達章・谷田圭亮・中筋晴喜 (2001) 瀬戸内海漁業重要水族環境調査. 底魚資源調査(棒曳き網). 平成 12 年度兵庫水試事報, 16,117-118.
- 丹下勝義・兼田厚・松井芳房・山本鷹一郎・伊丹宏三 (1978) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 49 年度兵庫水試事報, 392.
- 丹下勝義・兼田厚・松井芳房・山本鷹一郎 (1978) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 50 年度兵庫水試事報, 366-367.

- 丹下勝義・兼田厚・松井芳房 (1978) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 51 年度兵庫水試事報, 190.
- 丹下勝義・柄多哲也・松井芳房 (1979) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 52 年度兵庫水試事報, 181-183.
- 丹下勝義・柄多哲・金尾博和・杉野雅彦 (1980) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 53 年度兵庫水試事報, 236-238.
- 丹下勝義・柄多哲 (1980) 配合飼料によるクルマエビ種苗生産試験. 昭和 54 年度兵庫水試事報, 182-184.
- 丹下勝義・柄多哲・山本強・杉野雅彦・柴田忠士 (1980) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 54 年度兵庫水試事報, 214-221.
- 丹下勝義・中本幸一・山本強・杉野雅彦 (1981) クルマエビ種苗生産配布事業. 昭和 55 年度兵庫水試事報, 244-249.
- 丹下勝義 (1997) 水島流出重油が水産生物へ及ぼした生理生態影響について. 瀬戸内海, (11):30-35.
- 田辺隆一 (1988) 水産物輸入の現状. 養殖, 25(9):60-65.
- 田中啓陽・井上裕雄 (1974) クルマエビの資源培養に関する研究(人工干潟における底質環境). 浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):99-105.
- 田中啓陽・門脇秀策 (1994) 海水の酸素消費速度の内容構成. 平成6年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.55.
- 田中啓陽 (1994) クルマエビ養殖業界への提言. 養殖, 31(5):53.
- 田中啓陽・門脇秀策 (1994) クルマエビ養殖池海水の消散係数に関する一考察. 平成 6 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.142.
- 田中啓陽・門脇秀策 (1995) クルマエビ養殖池のブラウンおよびグリーン海水の水質特性. 水産増殖, 43(1):119-124.
- 田中啓陽 (1995) クルマエビ養殖における水作りの科学①. 溶存酸素からみた水質管理. 養殖, 32(13):74-77.
- 田中啓陽 (1995) クルマエビ養殖における水作りの科学②. 適正な透明度. 養殖, 32(14):76-78.
- 田中啓陽 (1996) クルマエビ養殖における水作りの科学③. 海水の酸素消費. 養殖, 33(1):74-77.
- 田中啓陽 (1996) クルマエビ養殖における水作りの科学④. 動力機の役割(その2). 養殖, 33(2):72-75.
- 田中啓陽 (1996) クルマエビ養殖における水作りの科学⑤. 動力機の役割(その2). 養殖, 33(4):72-75.
- 田中啓陽 (1996) クルマエビ養殖における水作りの科学⑥. ブラウン海水とグリーン海水の水質特性. 養殖, 33(5):102-105.
- 田中啓陽 (1996) 魚種別・適環境を維持する飼育管理. 養殖, 33(3):116-119.
- 田中啓陽 (1996) クルマエビ養殖における水作りの科学⑦. エピローグ. 養殖, 33(6):78-80.
- 田中啓陽 (2000) クルマエビ養殖における生産阻害要因. アクアネット, 3(3):38-42.
- 田中宏明・黒木敏行・神柱武志 (2000) 小型底曳網漁業実態調査. 平成 10 年度宮崎水試事報, 8.
- 田中二良 (1971) 欧米における温排水利用の養殖. 養殖, 8(9):34-47.
- 田中二良 (1974) 水産増養殖研究の 10 年. 東海区水研. さかな, (13):13-17.
- 田中二良 (1976) 日本における発電所温排水の水産増殖への利用. FAO 水産増殖国際会議論文集, (1):133-140.
- 田中二良 (1982) 輸送方法と問題点. 航空輸送. 日本水産学会編, 活魚輸送. 水産学シリーズ, (39):113-120.
- 田中邦三・中村勉 (1971) クルマエビの標識について. 千葉水試報, (24):145-150.
- 田中眞・吉川康夫・飯沼紀雄 (1999) 浜名湖で漁獲されたクルマエビにおける PRDV の検出率の変動について. 静岡水試研報, (36):15-19.
- 田中眞・吉川康夫 (2000) 天然海域におけるクルマエビ PRDV 保有状況の把握に関する研究. 平成 11 年度静岡水試事報, 136.
- 田中雅幸 (1994) クルマエビ稚仔の中間育成後の潜砂について. 日本海ブロック試験研究集録, (32):15-24.
- 田中竜介・鈴木喜隆・幡手英雄・高橋幸則・伊丹利明・中村孝 (2000) 株化ティラピア肝細胞(Hepa-T1)の脂質過酸化トヒドロキシ脂質の蓄積. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.143.
- 田中昌一 (1973) 資源の開発. 田中昌一編, 水産資源論. 東京大学出版会. 海洋学講座, (12):181-186.
- 田中昌一 (1974) 日本漁業の現状と資源・海洋研究をめぐる諸問題. 漁業資源研究会議報, (16):9-17.
- 田中武夫・小長谷史郎・奥田雄二 (1968) 液体窒素でスプレー凍結した水産食品における氷の成長. 昭和 43 年度日本水産学会春季大会講演要旨集.
- 田中武夫 (1973) 魚肉氷結に伴う水の挙動. 日本水産学会編, 食品の水. 水産学シリーズ, (3):63-82.
- 田中武夫 (1984) 水産物の凍結, 貯蔵, 解凍-冷凍水産物適正保管に関連する諸要因について. 東海区水研. さかな, (33):37-46.
- 田中嘉治・阪本俊雄 (1970) 底魚資源調査(43・44 年度). 昭和 43・44 年度和歌山水試事報, 20-31.
- TANAKA Y., MATSUGUCHI H., KATAYAMA T., SIMPSON K.L. and C.O.CHICHESTER (1976) The biosynthesis of astaxatin-XV III. The metabolism of the carotenoids in the prawn, *Penaeus japonicus* Bate. 日水誌, 42(2):197-202.
- 田中淑人 (1979) 天然, 養殖マダイおよびクルマエビにおけるカロテノイドの被告(英文). 鹿大水産紀要, 27:1-7.
- 田中淑人 (1978) 水産動物のカロテノイド代謝. 3.海産動物. 日本水産学会編, 水産動物のカロテノイド. 水産学シリーズ, (25):7-22.
- 田中淑人 (1988) マダイ及びクルマエビの色出し. Min.Rev.Data File Fish.Res., (5):119-128.
- 田中淑人 (1990) 餌飼料を中心とした色調コントロール. 養殖臨時増刊, 27(13):56-59.

- 田中淑人・山田章二・鮫島宗雄・斉藤雷太 (1992) パブリカ抽出物によるクルマエビの色調改善効果. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.172.
- 田中淑人・山田章二・岡元活 (1993) リパーゼによるアスタキサンチンエステルの加水分解条件の検討. 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.199.
- 田中淑人・勝目洋一・山田章二・鮫島宗雄 (1994) クルマエビの環境による色調変化とアスタキサンチン組成. 平成6年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.233.
- 田中淑人 (1985) 海産動物のカロテノイドに関する生化学的. 昭和60年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.273.
- 田中淑人・中間敦史・山田章二 (1996) クルマエビを中心としたエビ類の色素胞とカロテノイド組成. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.122.
- 田中淑人・山田章二・岡元浩 (2000) クルマエビにおけるカプサンチンの代謝. 平成12年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.112.
- TANASOMWANG V.・中井敏博・西村友理子・室賀清邦 (1998) ウシエビ孵化場で分離された抗 *Vibrio* 活性を有する海洋細菌. 魚病研究, 33(5):459-466.
- TANG H.C. (1977) Use of the high-protein blue-green algae *Spirulina* sp.as feed for shrimp larvae. Chin.Fish.Mon., 299:2-7.
- TANG K.F. and D.V.LIGHTNER (1999) A yellow head virus gene probe: nucleotide sequence and application for in situ hybridization. Dis.Aquat.Org., 35(3):165-173.
- TANG K.F.J. and D.V.LIGHTNER (2000) Quantification of white spot syndrome virus DNA through a competitive polymerase chain reaction. Aquaculture, 189(1):11-21.
- TANG K.F.J., DURAND S.V., WHITE B.L., REDMAN R.R., PANTOJA C.R. and D.V.LIGHTNER (2000) Postlarvae and juveniles of a selected line of *Penaeus stylirostris* are resistant to infectious hypodermal and hematopoietic necrosis virus infection. Aquaculture, 190(3・4):203-210.
- TANG K.F.J. and D.V.LIGHTNER (2001) Real-time PCR を用いたクルマエビ類からの IHNV の定量的検討(英文). Dis.Aquat.Org., 44(2):79-85.
- TANG Q.S. (1985) Estimates of monthly mortality and optimum fishing mortality of Bohai prawn in north China. Collected Oceanic Works, 10: 106-123.
- 谷田圭亮 (1999) クルマエビの大量標識放流. 拓水, 509.
- 谷田圭亮・反田實 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業. 平成10年度兵庫水試事報, 41.
- 谷田圭亮・反田實 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業. 平成11年度兵庫水試事報, 41.
- 谷田圭亮・反田實 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業モデル推進事業. 平成12年度兵庫水試事報, 38.
- 谷田圭亮・玉木哲也 (2001) 特定研究開発促進事業(小型エビ類の加入機構の解明に関する研究). 平成12年度兵庫水試事報, 40-45.
- 谷田圭亮 (2001) 放流効果把握調査(標識放流). 平成7~12年放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書 I.(瀬戸内海東部ブロック), 23-29.
- 谷田圭亮・池脇義弘 (2001) 放流効果把握調査(放流効果). 平成7~12年放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書 I.(瀬戸内海東部ブロック), 51-56.
- 谷口武夫 (1961) 二艘曳機船底曳網の模型実験-II. S-I型網の模型実験ならびにその漁獲効果について. 水講研報, 11(2):9-35, 2pls.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立・山口光明 (1984) クルマエビ中間育成事業. 鳥取栽培漁試事報, (2):100-103.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立 (1985) クルマエビ種苗生産事業. 鳥取栽培漁試事報, (3):119-126.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立 (1985) クルマエビ中間育成事業. 鳥取栽培漁試事報, (3):127-130.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立 (1986) クルマエビ種苗量産技術開発試験-美保湾産親エビの成熟と全長, 体長, 頭胸甲長および体重の関係について. 鳥取栽培漁試事報, (4):40-43.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立 (1986) クルマエビ種苗生産事業. 鳥取栽培漁試事報, (4):94-97.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立 (1986) クルマエビ中間育成事業. 鳥取栽培漁試事報, (4):98-101.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立・浜川秀夫 (1987) クルマエビ種苗生産事業. 鳥取栽培漁試事報, (5):107-110.
- 谷口朝宏・小林啓二・三木教立・浜川秀夫 (1987) クルマエビ種苗生産事業. 鳥取栽培漁試事報, (5):111-113.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・松本勉・三木教立 (1988) クルマエビ種苗生産事業. 鳥取栽培漁試事報, (6):117-121.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・松本勉・三木教立 (1988) クルマエビ中間育成事業. 鳥取栽培漁試事報, (6):122-124.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・松本勉・三木教立 (1989) クルマエビ種苗生産事業. 鳥取栽培漁試事報, (7):110-113.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・松本勉・三木教立 (1989) クルマエビ中間育成事業. 鳥取栽培漁試事報, (7):114-117.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・松本勉・三木教立 (1990) クルマエビ種苗生産. 平成元年度鳥取水試年報, 131-135.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・松本勉・三木教立 (1990) クルマエビ中間育成. 平成元年度鳥取水試年報, 131-135.
- 谷口朝宏・浜川秀夫・山田幸男・桜井則広 (1991) クルマエビ種苗生産. 平成2年度鳥取水試年報, 148-158.
- 谷口朝宏 (1991) クルマエビ中間育成事業. 平成2年度鳥取水試年報, 159-161.

- 谷口朝宏・桜井則広 (1992) クルマエビ種苗生産. 平成3年度鳥取水試年報, 135-151.
- 谷口朝宏 (1991) クルマエビ中間育成. 平成3年度鳥取水試年報, 152-153.
- 谷口順彦 (1996) 海外における養殖と育種研究の動向. 養殖, 33(12):52-57.
- 谷口順彦・高木基裕 (1997) DNA多型と魚類集団の多様性解析. 青木宙・隆島史夫・平野哲也編, 魚類のDNA-分子遺伝学的アプローチ. 恒星社厚生閣, pp.117-137.
- 谷川英一 (1963) 水産加工学-増補. 恒星社厚生閣. 水産学全集, (6):1-347.
- TANIKAWA E. (1985) Marine products in Japan. Koseisya-Koseikaku, 506 pp.
- 谷川英一・田村正・金盛政治・新川伝助 (1977) 新編水産学通論. 恒星社厚生閣, 352 pp.
- 谷川貴之・荒井才智 (1993) 魚種別種苗生産. 2.クルマエビ. 平成4年度愛媛栽セ業報, 14-16.
- 谷川貴之・荒井才智 (1994) 魚種別種苗生産. 2.クルマエビ. 平成5年度愛媛栽セ業報, 14-17.
- 谷川貴之・荒井才智 (1995) 魚種別種苗生産. 2.クルマエビ. 平成6年度愛媛栽セ業報, 12-15.
- 谷川貴之・武智昭彦・村田憲之 (1999) 西瀬戸漁業資源培養管理対策推進事業. 燧灘. 小型底びき網. 平成10年度愛媛中予水試事報, 25-29.
- 谷川貴之・武智昭彦・村田憲之 (1999) 西瀬戸漁業資源培養管理対策推進事業. 燧灘. 小型機船底びき網. 平成10年度愛媛中予水試事報, 26-33.
- 谷川高士 (1966) 沿岸漁業構造改善と養殖⑨. 養殖, 3(4):79-82.
- 谷川高士 (1977) 沿岸漁場整備開発計画. 海洋科学, 9(7):13-17.
- 谷本尚則・中村和夫 (1978) 本州・四国連絡架橋漁業影響調査. 生物資源班-I. アジ類・クルマエビ類の文献調査. 昭和40-46年度追補徳島水試事報, 98-99.
- 谷村利克・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・荒瀬勝政 (1999) クルマエビ種苗生産事業. 平成9年度山口栽セ事報, 5-10.
- 谷村利克・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・荒瀬勝政 (2000) クルマエビ種苗生産事業. 平成10年度山口栽セ事報, 5-9.
- 谷村利克・藤田義宣・末富敏夫・上田安夫・荒瀬勝政 (2001) クルマエビ種苗生産事業. 平成11年度山口栽セ事報, 5-9.
- TAPAY L.M., LU Y., GOSE R.B., BROCK J.A. and P.C.LOH (1997) Infection of white-spot baculovirus(WSSV) in two species of penaeid shrimp *Penaeus stylirostris* (STIMPSON) and *P.vannamei* (BOONE). FLEGEL T.W.& I.H.MacRAE eds., Diseases of Asian Aquaculture III. Proceedings of the third symposium on diseases in Asian aquaculture. Asian Aquaculture Society, Fish Health Section, Thailand, pp.297-302.
- TAPIA-SALAZAR M., SMITH T.K., HARRIS A., RICQUE-MARIE D. and L.E.CRUIZ-SUAREZ (2001) Effect of dietary histamine supplementation on growth and tissue amine concentrations in blue shrimp, *Litopenaeus stylirostris*. Aquaculture, 193(3-4):281-289.
- TAREEN I.U. (1982) Control of diseases in the cultured population of penaeid shrimp, *Penaeus semisulcatus*(de HAAN). Proc.World Maricul.Soc., 13:157-161.
- 田坂行男 (1995) 食品加工産業における水産物需要の特性と企業行動. 漁業経済研究, 39(4):53-80.
- 田坂行男 (1995) 活魚流通の実態把握. 9.首都圏における市場外流通. 漁業情報サービスセンター, 活魚生産の現状と流通動向に関する実態と展望. 72-88.
- 田坂行男 (1995) 外食産業における水産物需要の特性と企業行動. 漁業経済研究, 40(3):1-27.
- 田坂行男 (1997) 水産物末端流通の構造変化に関する研究. 中央水研研報, (10):1-96.
- 田坂行男 (1997) 日本における養殖業経営の現状と問題点. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):67-76.
- 田染博章 (1966) クルマエビ新漁場開発試験. 昭和38・39年度大分水試事報, 114-143.
- 田染博章 (1967) 豊後水道におけるクルマエビの研究-I. 分布と魚体組成について. 瀬戸内海漁業基本調査報告. 大分県水試, 12 pp.
- 田染博章 (1967) 豊後水道におけるクルマエビの研究. 分布と魚体組成について-1. 大分県水試調研報, 1-12.
- 田染博章 (1968) クルマエビ生態調査のための試験操業結果報告. 豊後水道における底魚資源調査. 大分県水試漁海況資料, 1-37.
- 田染博章・能津純治 (1970) 豊後水道におけるクルマエビの研究-II. 産卵期について. 大分水試調研報, (7):1-10.
- 田染博章・能津純治 (1970) 豊後水道におけるクルマエビの研究-III. 水深別にみた分布密度と干がたの生残率. 大分水試調研報, (7):11-22.
- 田染博章・能津純治・福岡和光・篠田慶弘・工藤勝宏・西田和夫 (1973) 佐伯湾実証実験漁場-種苗放流の生産効果. 昭和47年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):196-207.
- 田染博章 (1974) 大分県佐伯湾の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬栽協, 53-61.
- 田染博章・大島泰雄 (1974) 大分県別府湾, とくに杵築地先海域の事例. 種苗放流事業生産効果研究会, クルマエビ種苗放流の生産効果判定に関する検討事例. 瀬栽協, 62-67.
- 田染博章・能津純治・前田宏・金枝豊弘・篠田慶弘 (1974) 佐伯湾漁場クルマエビ種苗放流の生産効果. 浅海別枠(備後灘)研究成果, (4):158-169.

- 田染博章・能津純治・板橋孝明 (1975) 浅海域における増養殖漁場に関する総合研究(佐伯実証漁場). 昭和 49 年度別枠研究, 217-232.
- 田染博章・小野慎一・伊島時郎・小原俊行・小川浩 (1983) 普及指導の概要. 昭和 55 年度大分浅海漁試事報, 136-137.
- 田染博章・石川佑司・吉武肇 (1983) 地域栽培漁業推進拠点整備パイロット事業(育成漁場管理型事業)調査. 昭和 57 年度大分浅海漁試事報, 34-40.
- 田染博章 (1986) クルマエビ種苗放流の生産効果. 大分県水産関係研究者協議会研究発表要旨-I, p.7.
- 田代文男 (1991) 養殖生産技術に関するデータ. 養殖(臨時増刊), 28(8):52-66.
- 田代文男 (1991) 養殖環境に関するデータ. 養殖(臨時増刊), 28(8):67-76.
- TASLIHAM A. and SUNARYANTO (1990) Pest and disease management *P.monodon* culture. Brackishwater Aquaculture. Development Center ed., Proceedings of the shrimp culture industry workshop. Ministry of Agriculture, Indonesia, pp.159-168.
- 多々良薫 (1978) 東部瀬戸内海漁業の将来展望. 水産海洋研究会報, (32):75-81.
- 多々良薫 (1981) 内海における富栄養化の進行と漁業生産. 水産海洋研究会報, (38):42-49.
- 多々良薫 (1982) 魚類漁業に及ぼす富栄養化の影響. 日本水産学会編, 沿岸海域の富栄養化と生物指標. 水産学シリーズ, (43):123-147.
- 多々良薫 (1992) 生物からの視点-環境容量とは何か. 平野敏行編, 漁場環境容量. 水産学シリーズ, (87):20-36.
- 立石賢・山元宣征・岡座輝雄・森勇 (1984) 栽培漁業効果調査. 昭和 58 年度長崎水試事報, 93-96.
- 立石賢・山元宣征・池田義弘・岡座輝雄・吉田範秋・四井敏雄・藤井明彦・前迫信彦・北田哲生 (1985) 栽培漁業効果調査. 昭和 59 年度長崎水試事報, 27-51.
- 立石賢・池田義弘・山本純弘・尾田一将・藤井明彦 (1986) 栽培漁業効果調査. 昭和 60 年度長崎水試事報, 18-37.
- 立石昌浩・堀英夫 (1997) クルマエビの室内飼育とクルマエビに対する急性毒性試験.有害物質漁業影響調査報告書. 水産庁, pp.78-95.
- 立石昌浩・堀英夫 (1998) アシナガモエビの室内飼育とクルマエビに対する急性毒性試験.有害物質漁業影響調査報告書. 水産庁, pp.85-111.
- 立石昌浩・堀英夫 (1998) アシナガモエビ及びクルマエビに対する急性毒性試験とクルマエビに対する生物濃縮試験.有害物質漁業影響調査報告書. 水産庁.
- 龍野勝志・越塩俊介・手島新一・金澤昭夫(1993) クルマエビの成長とアンモニア排泄に及ぼす飼料中タンパク資源の影響. 平成 5 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.67.
- 田内森三郎 (1993) 田内水産物理学. 成山堂書店, pp.101-105.
- TAVE D.and A.BROWN Jr. (1981) A new device to help facilitate manual spermatophore transfer in penaeid shrimp. Aquaculture, 25(2・3):299-301.
- 田和正孝 (1992) マレー半島西海岸の商業的漁業地区における漁場利用形態-ジョホール州パリジャワの事例. 人文地理, 44(4):69-85.
- 田和正孝 (1994) ビーチとリーフの漁業活動-パプアニューギニア西州カタタイ村の生業的漁業と商業的漁業の一面. 宮田洋編, 関西学院大学文学部 60 周年記念論文集. pp.117-139.
- 田和正孝 (1997) 漁場利用の生態. 九州大学出版会, 402 pp.
- 田和正孝 (1998) 半島マレーシアのエビ養殖. 地域漁業学会編, 漁業考現学-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp.106-119.
- 俵佑方人・細川穹・田代秀明 (1979) 栽培漁業促進(クルマエビ放流干潟調査). 昭和 53 年度愛知水試業報, 58-60.
- 多屋勝雄 (1988) 水産物需要構造の数量的解析. 昭和 59 年度水産業総合研究事業報告書. 大日本水産会, pp.54-64.
- 多屋勝雄 (1988) 水産物消費の特徴と代替性-需要増大から畜産物との競合へ. 東海区水研. さかな, (40):50-62.
- 多屋勝雄 (1988) 漁業条件の現状と課題. 水産物の消費動向. 西日本漁業経済学会編, 転機に立つ日本水産業. 九州大学出版会, pp.171-190.
- 多屋勝雄 (1989) カツオ・マグロの需要の特徴と価格関係. 漁業経済研究, 33(4):19-52.
- 多屋勝雄 (1991) 国際化時代の水産物市場-水産物需給と価格形成. 北斗書房, 247 pp.
- 多屋勝雄 (1994) さかなの供給と価格. 東京水大第 8 回公開講座編集委員会編, 暮らしとさかな-水産食品読本. 成山堂書店, pp.13-41.
- 多屋勝雄 (1992) 水産物の価格形成. 小野征一郎・堀口健治編, 日本漁業の経済分析-縮小と再編の論理. 農林統計協会, pp.40-74.
- 多屋勝雄 (1993) 日本の養殖・世界の養殖 Q&A②. 養殖, 30(10):109.
- 多屋勝雄 (1995) 水産物消費の地域特性. 漁業資源研究会報, 29:155-158.
- 多屋勝雄 (1997) 日本の養殖・世界の養殖 Q&A. 養殖, 34(6):123.
- 多屋勝雄 (1998) 日本の漁業管理.地域漁業学会編, 漁業考現学-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp.123-139.

- 多屋勝雄 (2000) 日本における水産物の需要動向と内外価格の連動性. 漁業経済研究, 46(1):53-76.
- 多屋勝雄 (2000) 現代漁業の問題と資源管理型漁業. 水産振興, 34(2):1-44.
- 多屋勝雄 (2000) 華人ネットワークによる資本・技術の移転と円高による需要の増大が2大要因. アクアネット, 3(2):67-71.
- 康元徳・鄧景曜 (1965) コウライエビの食性の研究. 海洋水産研究叢刊, (20):69-77.
- 康元徳 (1981) 塩田吸水による稚エビの損害調査. 海洋水産研究叢刊, (27):39-45.
- TEBOUL D. (1993) Internal monofilament tags used to identify juvenile *Penaeus monodon*: tag retention and effects thermal acclimation: a multivariate approach. *Aquaculture*, 113(1・2):167-170.
- TEICHERT-CODDINGTON D.R., MARTNEZ D. and E.RAMIREZ (2000) Partial nutrient budgets for semi-intensive shrimp farms in Honduras. *Aquaculture*, 190(1・2):129-138.
- TEMPLE R.F. and C.C.FISCHER (1965) Vertical distributions of the planktonic stages of penaeid shrimps. *Publ.Inst.Mar.Sci.Univ.Tex.*, (10):59-67.
- TENDENCIA E.A. and L.D.de la PENA (2001) Antibiotic resistance of bacteria from shrimp ponds. *Aquaculture*, 195(3・4): 193-204.
- 寺田和夫 (1965) 種苗生産技術研究. 昭和 39 年度福岡豊前水試研業報, 120-128.
- 寺田和夫 (1967) クルマエビ, ヨシエビ, ガザミの種苗生産技術研究. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 101-110.
- 寺田和夫・石田雅俊 (1968) クルマエビの人工餌料についての研究. 昭和 42 年度福岡豊前水試研業報, 56-64.
- 寺田和夫・石田雅俊 (1969) クルマエビの人工餌料についての研究. 昭和 43 年度福岡豊前水試研業報, 57-70.
- 寺田和夫・石田雅俊 (1970) クルマエビの人工餌料についての研究. 昭和 44 年度福岡豊前水試研業報, 65-84.
- 寺田和夫 (1971) クルマエビの人工餌料についての研究. 昭和 44 年度福岡豊前水試研業報, 55-71.
- 寺田和夫 (1972) クルマエビの病気. 養殖, 9(10):58-59.
- 寺井千尋・池浦繁・藤本敏昭 (1999) 放流資源共同管理型栽培漁業推進事業. 平成 9 年度福岡水技事報, 279-280.
- 寺井千尋・中川浩一・小林信 (2000) 周防灘におけるクルマエビの移動と成長. 福岡水技研報, (10):1-7.
- 寺井千尋・中川浩一・小林信 (2000) 放流資源共同管理型栽培漁業推進事業. 平成 10 年度福岡水技事報, 248-252.
- 寺井千尋 (2001) 葦島干潟に放流された標識クルマエビの産卵. 福岡水技研報, (11):7-9.
- 寺井千尋 (2001) 周防灘 3 県における標識放流. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック, クルマエビ), II. 51-80.
- 寺井千尋・中川浩一・神菌直人 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進事業. クルマエビ. 平成 11 年度福岡水技事報, 256-259.
- 寺嶋朴・星野進 (1965) 車エビの種苗生産①. 養殖, 2(7):37-39.
- 寺嶋朴 (1974) 下津井海域のアマノ場と泥場におけるえび漕網の漁獲物組成とその生態. 昭和 48 年度岡山水試事報, 46-80.
- 寺嶋朴・松村眞作 (1982) 1981~'82 年の児島湾におけるエビ漕網の漁獲物組成. 昭和 57 年度岡山水試事報(受託), 47-67.
- TERAZAKI M., THARNBUPPA P. and Y.NAKAYAMA (1980) Eradication of predatory fishes in shrimp farms by utilization of Thai tea seed. *Aquaculture*, 19(3):235-242.
- TERAZAKI M. (1981) Mass production of the young banna prawn *Penaeus merguensis* de MAN. *La mer.*, Tokyo, (19):23-29.
- 照屋和久・大角伸一・清水健・有元操 (2000) クルマエビの産卵後に発生する粘液様物質の性状と採卵について. 栽培技研, 28(1):7-11.
- 照屋忠敬・金城美恵子 (1983) ウシエビ飼育試験. 昭和 56 年度沖縄水試事報, 239-258.
- TESHIMA S. and A.KANAZAWA (1971) Sterol composition of marine crustaceans. *日水誌*, 37(1):63-67.
- TESHIMA S. and A.KANAZAWA (1971) Biosynthesis of sterols in the lobster, *Panulirus japonica*, the prawn *Penaeus japonicus*, and the crab *Portunus trituberculatus*. *Comp.Biochem.Physiol.*, 38B:597-602.
- TESHIMA S. (1971) Bioconversion of β -sitosterol and 24-methylchlesterol in crustacea. *Comp.Biochem.Physiol.*, 39B:815-822.
- 手島新一 (1972) 海産甲殻類のステロール代謝に関する研究(英文). 鹿大水産学部紀要, 21(2):69-147.
- 手島新一・金澤昭夫 (1973) クルマエビにおけるデスモステロールの代謝(英文). 鹿大水産学部紀要, 22(1):15-19.
- TESHIMA S., KANAZAWA A. and H.OKAMOTO (1974) Absorption of sterols and cholesteryl esters in a prawn, *Penaeus japonicus*. *日水誌*, 40(10):1015-1019.
- 手島新一・金澤昭夫・岡本春人 (1976) 甲殻類の脂肪酸組成(英文). 鹿大水産学部紀要, 25(1):41-46.
- TESHIMA S., KANAZAWA A. and H.OKAMOTO (1973) Variation in lipid classes during the molting cycle of the prawn, *Penaeus japonicus*. *Marine Biol.*, 39(2):129-136.

- 手島新一 (1978) 甲殻類の必須脂肪酸とコレステロールの必要性. 日本水産学会編, 養魚と飼料脂質. 水産学シリーズ, (22):60-77.
- 手島新一・金澤昭夫 (1978) クルマエビの血リンパ脂質. 日水誌, 44(8):925.
- 手島新一・金澤昭夫 (1978) クルマエビにおける脂質の体内移動. 日水誌, 44(11):1269-1274.
- TESHIMA S. and A.KANAZAWA (1979) Lipid transport mechanism in the prawn. 日水誌, 45(10):1341-1346.
- 手島新一・金澤昭夫 (1980) クルマエビにおける食餌性脂質の体内移動と血清リポ蛋白質の役割. 日水誌, 46(1):51-55.
- 手島新一・金澤昭夫 (1980) クルマエビ血清リポ蛋白質の脂質成分. 日水誌, 46(1):57-62.
- TESHIMA S. and A.KANAZAWA (1980) Lipid transport in crustaceans. Min.Rev.Data File Fish.Res.,(1):1-25.
- 手島新一・金澤昭夫 (1981) クルマエビの必須アミノ酸. 日水誌, 47(10):1375-1377.
- 手島新一・金澤昭夫・坂本峰至(1981) Attempt to culture the rotifers with microencapsulated diets. 日水誌, 47(12):1575-1578.
- 手島新一・金澤昭夫・笹田博司・川崎満康 (1982) クルマエビ幼生におけるコレステロールおよび大豆リン脂質の要求量(英文). 鹿大水産学部紀要, (31):193-199.
- 手島新一・金澤昭夫 (1982) クルマエビ幼生期における脂質成分の変化(英文). 鹿大水産紀要, (31):205-212.
- TESHIMA S., KANAZAWA A. and M.SAKAMOTO (1982) Microparticulate diets for the larvae of aquatic animals. Min.Rev.Data File Res., (2):67-86.
- TESHIMA S. (1982) Sterol metabolism. PRUDER G.D.,LANGDON C.L.& D.E.CONKIIN eds., Proceeding of the Second International Conference on Aquaculture Nutrition. Special Publication No.2.World Mariculture Society, Louisiana State University, Baton Rouge, pp.205-216.
- 手島新一・金澤昭夫 (1983) Variation in lipid compositions during the ovarian maturation of the prawn. 日水誌, 49(6):957-962.
- TESHIMA S., KANAZAWA A. and H.SASADA (1983) Nutritional value of dietary cholesterol and other sterols to larval prawn *Penaeus japonicus* BATE. Aquaculture, 31(2-4):159-167.
- 手島新一・金澤昭夫 (1983) Digestibility of dietary lipids in the prawn. 日水誌, 49(6):963-966.
- 手島新一・金澤昭夫 (1983) Effects of several factors on growth and survival of the prawn larvae reared with microparticulate diets. 日水誌, 49(12):1893-1896.
- 手島新一・金澤昭夫・山下昌彦 (1984) クルマエビ幼生に対するタンパク質の栄養価とアミノ酸の補足効果. 昭和 59 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.24.
- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1984) クルマエビにおける飼料リン脂質の役割. 昭和59年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.24.
- 手島新一・金澤昭夫・鳥越周平・藤島孝央 (1984) クルマエビのエイコサペンタエン酸代謝. 昭和59年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.110.
- 手島新一 (1984) クルマエビ幼生の栄養要求.魚類の栄養, 飼料における油脂の文献抄録 B シリーズ(研究解説)第 19 回, 1-10.
- 手島新一 (1984) 栄養. 2.脂質. シンポジウム, 魚類の栄養と飼料. 昭和 59 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.185.
- 手島新一・金澤昭夫 (1984) Effects of protein, lipid, and carbohydrate level in purified diets on growth and survival rates of the prawn larvae. 日水誌, 50(10):1709-1715.
- 手島新一 (1985) 脂質. 米康夫編, 養魚飼料-基礎と応用. 水産学シリーズ, (54):20-30.
- 手島新一・金澤昭夫・堀之内浩司 (1985) 餌料生物, 仔魚およびクルマエビのリン脂質成分. 昭和 61 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.41.
- 手島新一・金澤昭夫 (1985) クルマエビにおける飼料コレステロールの代謝回転. 昭和 61 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.42.
- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1985) クルマエビにおける飼料リン脂質の役割:コレステロールの体内移動に及ぼす影響. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.52.
- 手島新一・金澤昭夫 (1985) クルマエビにおけるステロールの栄養-I. コレステロール, ブラシカステロールおよび β -シトステロールの栄養価. 昭和 60 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.105.
- 手島新一・金澤昭夫 (1985) クルマエビにおけるステロールの栄養-II. 各種ステロールの利用と代謝. 昭和 60 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.105.
- 手島新一 (1985) 筋肉脂質の成分. 4.ステロール. シンポジウム, 水産動物の筋肉物質. 昭和 60 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.290.
- 手島新一 (1985) 筋肉脂質の成分. 4.ステロール. 鹿山光編, 水産動物の筋肉物質. 水産学シリーズ, (57):38-52.
- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1986) Effects of dietary phospholipids on growth and body composition of the juvenile prawn. 日水誌, 52(1):155-158.

- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1986) Effects of dietary phospholipids on lipid transport in the juvenile prawn. 日水誌, 52(1):159-163.
- TESHIMA S., KANAZAWA A. and M.YAMASHITA (1986) Dietary value of several proteins and supplemental amino acids for larvae of the prawn *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 51(3・4):225-235.
- 手島新一 (1986) クルマエビ飼料におけるステロールの必要性(上). 養殖, 23(2):108-111.
- 手島新一 (1986) クルマエビ飼料におけるステロールの必要性(下). 養殖, 23(3):63-65.
- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1986) Role of dietary phospholipids in the transport of [¹⁴C]tripalmitin in the prawn. 日水誌, 52(3):519-524.
- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1986) Role of dietary phospholipids in the transport of [¹⁴C]cholesterol in the prawn. 日水誌, 52(4):719-723.
- 手島新一・金澤昭夫・堀之内浩司 (1986) クルマエビの卵巣成熟中における脂質成分の変化. 昭和 61 年度日本水産学春季大会講演要旨集, p.168.
- 手島新一・金澤昭夫・角田泰男 (1986) 数種の飼料リン脂質を摂餌したクルマエビ幼生の成長,生残および体脂質成分(英文). 鹿大水産紀要, 35(1):17-27.
- 手島新一・金澤昭夫 (1986) Nutritive value of sterols for the juvenile prawn. 日水誌, 52(8):1417-1422.
- 手島新一・金澤昭夫・古閑祐治・越塩俊介 (1987) 甲殻類の血リンパレシチン・コレステロールアシルトランスフェラーゼ(LCAT)活性:甲殻類及び脊椎動物の血リンパ及び血しょうの LCAT 活性. 昭和 62 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.263.
- 手島新一・金澤昭夫・古閑祐治・越塩俊介 (1987) 甲殻類の血リンパレシチン・コレステロールアシルトランスフェラーゼ(LCAT)活性:クルマエビの血リンパ LCAT 活性に及ぼす各脂質の効果. 昭和 62 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.264.
- 手島新一・金澤昭夫 (1987) クルマエビにおける食餌性コレステロールおよびβ-シトステロールの代謝回転(英文). 日水誌, 53(4):601-607.
- 手島新一・金澤昭夫・堀之内浩司・山崎繁久・平田八郎 (1987) Phospholipids of the rotifers, prawn and larval fish. 日水誌, 53(4):609-615.
- 手島新一・金澤昭夫・堀之内浩司・越塩俊介 (1988) クルマエビ卵巣成熟中の脂質成分の変化:肝臓及び卵巣の脂質. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.99.
- TESHIMA S., KANAZAWA A., KOSHIO S. and K.HORINOUCI (1988) Lipid metabolism in destalked prawn *Penaeus japonicus*: induced maturation and accumulation of lipids in the ovaries. 日水誌, 54(7):1115-1122.
- TESHIMA S., KANAZAWA A., K.HORINOUCI and KOSHIO S. (1988) Lipid metabolism in destalked prawn *Penaeus japonicus*: induced maturation and transfer of lipids reserves to the ovaries. 日水誌, 54(7):1123-1129.
- 手島新一・金澤昭夫 (1988) Necessity of dietary sterols and phospholipids for growth of prawn, *Penaeus japonicus* BATE. SPARKS A.K.ed., New and innovative advances in biology/engineering with potential for use in aquaculture. NOAA Tech.Rep.NMFS 70. Natl.Mar.Fish.Serv.,Seattle, pp.15-20.
- 手島新一・金澤昭夫・越塩俊介・近藤伸広 (1989) クルマエビにおけるシトステールの栄養価(英文). 日水誌, 53(1):153-157.
- TESHIMA S., KANAZAWA A., KOSHIO S. and K.HORINOUCI (1989) Lipid metabolism of the prawn *Penaeus japonicus* during maturation: variation in lipid profiles of the ovary and hepatopancreas. Comp.Biochem.Physiol., 92B:45-49.
- 手島新一・金澤昭夫・藤原正章・越塩俊介・高原孝次郎 (1989) クルマエビ飼料におけるウルソデオキシコール酸の添加効果,平成元年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.46.
- 手島新一・金澤昭夫・堀之内浩司・越塩俊介 (1989) クルマエビ卵巣成熟中における脂質代謝,卵巣トリグリセリドの総炭素数組成の変化. 平成元年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.209.
- 手島新一・金澤昭夫・越塩俊介 (1990) クルマエビ飼料におけるメチオニン導入大豆プラスチンの補足効果. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.113.
- 手島新一・一松賢一郎・金澤昭夫・越塩俊介 (1990) クルマエビ幼生における飼料リン脂質・メチオニンおよびコリンの添加効果. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.113.
- 手島新一・金澤昭夫・越塩俊介・一松賢一郎・金貴植 (1990) エビ類およびヒラメのEPA変換能. 平成2年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.115.
- 手島新一 (1991) 魚介類の脂質とその代謝. 山口勝己編, 水産生物化学. 東京大学出版会, pp.34-55.
- TESHIMA S., KANAZAWA A., HITOTSUMATSU K., KIM K.S., OSHIDA K. and S.KOSHIO (1992) Tissue uptake and bioconversion of icosapentaenoic acid and phosphatidylcholine in prawns, *Penaeus* and *Macrobrachium*. Comp.Biochem.Physiol., 102B:885-890.

- 手島新一・越塩俊介・金澤昭夫・一松賢一郎 (1993) クルマエビの飼料リン脂質要求-I. 飼料中のメチオニンおよびコリン含量とリン脂質要求. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.46.
- 手島新一・金澤昭夫・越塩俊介・一松賢一郎 (1993) クルマエビの飼料リン脂質要求-II. 大豆タンパク質含量含量の影響と有効リン脂質成分. 平成5年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.47.
- 手島新一・越塩俊介・金澤昭夫・一松賢一郎 (1993) クルマエビ稚エビのリン脂質要求. 平成5年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.64.
- 手島新一・越塩俊介・金澤昭夫 (1995) クルマエビのコレステロール要求量について. 平成7年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.78.
- 手島新一・越塩俊介・石川学 (1996) クルマエビ飼料におけるアルギニンの補足効果. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 手島新一・越塩俊介・石川学 (1997) クルマエビ飼料における食餌性結晶[C]アルギニンの代謝. 平成9年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.135.
- TESHIMA S. (1997) Phospholipids and sterols. DABRAMO I.R., CONKLIN D.E. and D.M.AKIYAMA eds., Crustacean nutrition. Advances in World Aquaculture, World Aquaculture Society, Louisiana, pp.85-117.
- TESHIMA S., ISHIKAWA M., KOSHIO S. and A.KANAZAWA (1997) Assessment of cholesterol requirements in the prawn, *Penaeus japonicus*. Aquaculture Nutr., (3):247-253.
- 手島新一・Md.SHAH ALAM・石川学・越塩俊介 (2000) クルマエビの必須アミノ酸要求量について. 平成10年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.59.
- TEUNISSEN O.S.P., FABER R., BOOMS G.H.R., LATSCHA T. and J.H. BOON (1998) Influence of vaccination on vibriosis resistance of the giant black tiger shrimp *Penaeus monodon*(FABRICIUS). Aquaculture, 164(1-4):359-366.
- THOMAS M.M. (1972) Food and feeding habits of *Penaeus monodon* Fabricius collected from Korapuzha estuary. Indian J.Fish., 19:202-204.
- THOMAS M.M. (1976) A sporozoan infection in *Penaeus semisulcatus* at Mandapam. Indian Journal of Fisheries. (23):282-283.
- THOMAS M.M. and D.V.LIGHTNER (1988) A Handbook of Normal Penaeid Shrimp Histology. World Aquaculture Society, Hawaii, v+114 pp.
- THOMPSON F.L., ABREU P.C. and R.CAVALLI (1999) The use of microorganisms as food source for *Penaeus paulensis* larvae. Aquaculture, 174(1-2):139-153.
- THOMSON J.M. (1956) Fluctuations in Australian prawn catch. Proc.IPFC., 6(III):444-447.
- THONGROD S. and M.BOONYARATPALIN (1998) Cholesterol and lecithin requirement of juvenile banana shrimp, *Penaeus merguensis*. Aquaculture, 161(1-4):315-321.
- THORSTEINSSON G. (1973) Selective shrimp trawl experiments in Icelandic waters. FAO Fish.Rep., (139):57-63.
- THURN M.J. and M.R.HALL (1999) Ovarian function in the giant tiger prawn(*Penaeus monodon*) as determined by *in vitro* bioassay. Physiol.Biochem.Zool., (72):588-596.
- TIAN X-L., LI D-H., DONG S-L., YAN X-Z., QI Z-X., LIU G-C. and J.LU (2001) An experimental study on closed-polyculture of penaeid shrimp with tilapia and constricted tabelus. Aquaculture, 202(1-2):57-71.
- TIMIJI (1969) (Cited in TSENG W.Y.1988) Shrimp Mariculture. Chien Cheng Publisher, Taiwan, 209 pp.
- TING Y.Y., LU T.T. and M.N.LIN (1977) Experiment on propagation of *Penaeus occidentalis*. Chin.Fish.Mon., (229):22-28.
- TING Y.Y., LIN M.N., TZENG B.S. and C.D. LI (1991) Hybridization in four closed thelycum *Penaeus* spp. And morphology of juvenile offspring. 日水誌, 57(7):1285-1292.
- TIRMIZI N.M. (1960) Crustacea: Penaeidae Part II. Series Benthosicymae. John Murray Exped.1933-1934. Sci.Rep, 10(7):319-383.
- TIRMIZI N.M. (1971) *Marsupenaeus*, a new subgenus of *Penaeus fabricius*, 1798 (Decapoda, Natantia). Pakistan J.Zool., 3(2):193-194.
- TISDELL C.A. (1994) Socioeconomic consideration of prawn mariculture of aquaculture. SHANG Y.C., LEUNG P.S., LEE C.S., SU M.S.& I.C.LIAO eds., Socioeconomics of Aquaculture. TML Conference proceeding, (4):1-13.
- TISDELL C.A. (1994) Aquaculture and environmental economics. SHANG Y.C., LEUNG P.S., LEE C.S., SU M.S.& I.C.LIAO eds., Socio-economics of Aquaculture. TML Conference proceeding, (4):331-339.
- TOBIAS-QUINITIO E. and C.T.VILLEGAS (1982) Growth, survival and macronutrient composition of *Penaeus monodon* FABRICIUS larvae fed with *Chaetoceros calcitrans* and *Tetraselmis Chuii*. Aquaculture, 29(3-4):253-260.
- 戸田有柄 (1936) 車蝦の温度及び鹹度に対する抵抗. 養殖会誌, 6(12):223-226.
- 戸井真一郎 (2001) クルマエビの栽培漁業-吉和漁業協同組合エビ漕ぎ網グループの取り組み. さいばい, (99):20-26.
- 時村宗春 (1992) 1991年冬季の東海・黄海の主要底魚類の分布(海邦丸調査結果速報). 西海ブロック底魚調査研究会報, (3):15-39.

- 時村宗春 (1994) 東・黄海における底魚類の資源評価手法の現状と問題点. GSK 西日本底魚部会報, (22):41-57.
- 時村宗春 (1999) 東シナ海・黄海における日本の漁業. 月刊海洋, 31(10):637-644.
- 床嶋純孝 (1997) 陸上施設養殖技術の現状と今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):107-119.
- 徳田眞孝・石田雅俊・有江康章・濱田豊市 (1989) 小型底びき網漁業における資源生物学的特性-I. 漁獲物組成の季節変化と地域特性. 福岡豊前水試研報, (2):59-83.
- 徳田眞孝・濱田豊市・石田雅俊 (1994) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 5.重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(ヨシエビ). 平成5年度福岡水技事報, 367-384.
- 徳田眞孝・濱田豊市・石田雅俊 (1995) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 5.重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(ヨシエビ). 平成6年度福岡水技事報, 377-396.
- 徳田眞孝・上妻智行 (1995) クルマエビの漁獲状況の変化から推察した大型種苗放流の影響. 福岡水技研報, (4):33-38.
- 徳田眞孝・藤本敏明(1998) 放流資源共同管理型漁業推進事業(クルマエビ). 平成8年度福岡水技事報, 267-272.
- 徳丸泰久 (2001) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業(クルマエビ). 平成12年度大分海研浅海事報, 79-81.
- 徳丸泰久 (2001) 利用実態把握調査. 平成8~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック,クルマエビ), II. 1-50.
- 徳永武雄・池田義弘 (1985) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和59年度長崎水試事報, 1-2.
- 徳永俊夫 (1980) 海産魚類におけるトリメチルアミノオキサイド関連物質に関する生化学的,食品学的研究. 東海区水研報, (101):1-129.
- 徳島県小松島漁業協同組合 (1987) クルマエビの輸送方法と流通改善について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録, 第1分冊 154-155.
- 徳島県小松島漁業協同組合 (1987) クルマエビ栽培漁業への認識. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録, 第1分冊 156-157.
- 徳島県栽培漁業センター (1981) くるまえば種苗生産. 昭和55年度徳島栽漁セ事報, 3-5.
- 徳島県栽培漁業センター (1982) 魚種別種苗生産.3.くるまえば. 昭和56年度徳島栽漁セ事報, 9-11.
- 徳島県水産課・徳島県水産試験場 (1969) 昭和43年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書. 徳島水試調査研究資料, (8):1-87.
- 徳島県水産課・徳島県水産試験場 (1970) 昭和44年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書. 徳島水試調査研究業績, (13):1-43,図表72.
- 徳島県水産課・徳島県水産試験場 (1971) 昭和45年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書. 徳島水試調査研究業績, (14):1-40,図表71.
- 徳島県水産試験場 (1993) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (12):22-23.
- 徳島県水産試験場 (1994) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (13):20-22.
- 徳島県水産試験場 (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (17):23-25.
- 徳島県水産試験場 (2001) 徳島県. 平成11・12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進事業調査事業報告書(クルマエビ), 徳島1-徳島10.
- 徳島県水産試験場 (2001) 各府県調査報告(徳島県). 平成7~12年度放流資源共同管理型栽培漁業推進事業調査事業報告書I.(瀬戸内海東部ブロック), 155-167.
- 徳島県椿泊漁業協同組合 (1987) クルマエビの栽培漁業. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録, 第1分冊 156-157.
- 徳島県椿泊漁業協同組合 (1987) 椿泊におけるクルマエビの栽培漁業. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録, 第1分冊 156-157.
- 徳沢秀渡・渡部公仁・上谷和功 (1994) クルマエビ種苗生産. 平成5年度三重栽セ事報, 27-30.
- 徳沢秀渡・渡部公仁・上谷和功 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成6年度三重栽セ事報, 29-33.
- 徳沢秀渡・渡部公仁・上谷和功 (1996) クルマエビ種苗生産. 平成7年度三重栽セ事報, 30-35.
- 徳沢秀渡・上谷和功・加藤高史・岡本至 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成8年度三重栽セ・尾鷲栽セ事報, 29-33.
- 徳沢秀渡・上谷和功・加藤高史・岩本仁司 (1998) クルマエビ種苗生産. 平成9年度三重栽セ・尾鷲栽セ事報, 25-28.
- 徳沢秀渡・上谷和功・山根史裕・岩本仁司 (1999) クルマエビ種苗生産. 平成10年度三重栽セ・尾鷲栽セ事報, 23-27.
- TOM M., FINGERMAN M., HAYES T.Y., JOHNSON V., KERNER B. and E.LUBZENS (1992) A comparative study of the ovarian proteins from two penaeid shrimps, *Penaeus semisulcatus* and *Penaeus vannamei*. Comp.Biochem. Physiol., 102B:483-490.
- 富永敦・堀義彦・二平章・山崎幸夫 (1995) 許可漁業調査検討事業生物測定調査. 平成5年度茨城水試事報, 171-206.
- 鳥居亨司・山尾政博 (2000) 海域利用の管理主体と地域対応-マリンレジャーの地域定着化と地域住民の関わり. 漁業経済研究, 45(1):27-50.
- 都島康彦・エディス プリヨノ・堀富貴子・隆島史夫 (1996) n-ドデシルベンゼンスルホン酸塩のクルマエビ *Penaeus japonicus* に対する急性毒性と濃縮性, 水産増殖, 44(2):177-180.

- TOOKWINAS S., SONGSANGJINDA P., NA-ANAN P., EKPNATHANPONG U. and O.MATSUDA (1999) Biotechnological processes for the treatment of the marine shrimp farm effluent. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.83.
- 東海正・小川泰樹・小川浩・阪地英男・佐藤良三 (1992) 瀬戸内海における魚エビ分離トロール網の開発の試み. GSK 西日本底魚部会報, (20):1-13.
- 富山実 (1979) 小型底びき網漁獲物からみた伊勢湾内底生生物相. 愛知水試研報, 41-47.
- 富山哲夫(監) (1973) 日本の水産. 車海老. 全日本水産写真資料協会, 184pp.
- 富山由美・後藤昭人・呉茲華・槌本六良 (1992) エビを中心としたミストコンテナーによる活魚輸送について. 平成 4 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.188.
- 富吉純一 (1977) 台湾初のクルマエビ養殖. 養殖, 14(9):110-111.
- 富吉純一 (1978) 台湾のクルマエビ養殖. 養殖, 15(9):123-127.
- 友部季器 (1995) アジア諸国の水産業の動向-インドネシア. 今村奈良臣編, アジアの漁業の発展と日本. 農山漁村文化協会, pp.222-226.
- TONG S-L.and H-Z.MIAO (1996) Attempts to initiate cell culture from *Penaeus chinensis* tissues. Aquaculture 147(3・4):151-157.
- 殿谷次郎・中村和夫・浦口喜博・岩見茂・浜誠祐・井元栄治・蛇目勲・阿部久一・中崎憲一・楠本輝一・三浦三郎 (1980) 辰巳周辺域の水産生物調査. 昭和 40-53 年度追補徳島水試事報, 382-392.
- 殿谷次郎・谷本尚則・中村和夫・北角至・沖津佐喜男 (1980) 赤潮異常発生による天然魚の異常へい死. 昭和 40-53 年度追補徳島水試事報, 279-282.
- 鳥澤雅 (1995) 沿岸刺網漁業. 松田皎編, 漁業の混獲問題. 水産学シリーズ, (105):62-70.
- 鳥島嘉明・幡手格一 (1963) 種苗生産・蓄養技術研究. 昭和 36・37 年度大分水試事報, 56-60.
- 鳥島嘉明 (1967) 人工ふ化・飼育試験. 昭和 40 年度大分水試事報, 57-60.
- 藤紘和 (1986) 博多湾におけるクルマエビ種苗放流効果調査について. 西海区ブロック藻・介類研究会報, (3):71-83.
- 東海区水産研究所 (1976) 沿岸資源の研究. 底魚. 太平洋中区. 漁業資源研究会議報, (18):140-146.
- 東海正 (1993) 必要な魚だけをとるトロール. 隆島史夫・松田皎編, 地球にやさしい海の利用. 恒星社厚生閣, pp.40-58.
- 東京生命科学研究所 (1999) 生命情報を使って無投薬の養殖めざす(クルマエビのバキュロ・ウイルス対策で成果). 養殖, 36(2):82-85.
- 東京水産大学第 9 回公開講座編集委員会編 (1984) 日本のエビ, 世界のエビ. 成山堂, 172 pp.
- 東京都水産試験場 (1991) 八丈管内漁業関連史料. 180 pp.
- 東南アジア漁業開発センター (1980) The mass seed production of *Penaeus monodon*. Postlarvae in the large scale hatchery. SEAFDEC Department, 96 pp.
- 通山正弘 (1970) 日向灘産のクマエビとクルマエビの漁獲量推移について. 南西海区ブロック外海漁業研究会議事録, 39.
- 通山正弘・工藤晋二・黒木敏行 (1971) 延岡湾の小型底びき網漁業について-II. その漁獲物組成. 南西水研報, (2):13-25.
- 通山正弘 (1972) 太平洋南区のエビ類の分布について. 南西海区ブロック外海漁業研究会議事録, 15.
- 通山正弘・古藤力 (1972) 南西海区外海域の水産業の役割と将来について. 漁業資源研究会議報, (13):47-56.
- 通山正弘 (1974) 太平洋南部大陸棚, その傾斜面に生息するエビ類について. 昭和 48 年度西日本底魚部会報, 46-48.
- 通山正弘 (1981) 土佐湾産浅海性エビ類の生態-特にクマエビとアカエビについて. 昭和 55 年度 GSK 西日本底魚部会報, 16-38.
- 通山正弘・林健一 (1982) 土佐湾の砂泥性, 浮遊性エビ類とその分布. 南西水研研報, (14):83-105.
- 通山正弘・岸田周三・堀川博史 (1985) 土佐湾. 魚類相および有用生物. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.744-753.
- 通山正弘・堀川博史・石田実 (1991) 黒潮とその周辺域で採集されたテラオクルマ幼生について. 南西水研研報, (24):153-161.
- 東条秀雄・青木千年・伊沢元・東山房雄 (1984) クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度徳島栽漁セ事報, 23-26.
- 東条秀雄・青木千年・伊沢元 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 59 年度徳島栽漁セ事報, 30-32.
- 東条秀雄・青木千年・伊沢元 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和 60 年度徳島栽漁セ事報, 29-32.
- 東条秀雄・大林博司・東山房雄・川野美晃 (2000) 平成 11 年度クルマエビ種苗生産. 平成 11 年度徳島栽漁セ事報, 41-45.
- 鳥取県弓北漁業協同組合 (1987) 美保湾における栽培漁業の実践-クルマエビの中間育成. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録, 第 1 分冊 64-65.
- 外山秀樹・小金丸隆 (1987) クルマエビ種苗生産. 昭和 61 年度宮崎栽セ事報, 62-73.
- 富山県太田浦漁業共同組合 (1988) 離岸堤を利用したクルマエビとガザ身の中間育成について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動 30 余年の記録. 第 2 分冊, 196-197.

- 富山県栽培漁業センター (1982) 昭和 52~55 年クルマエビ種苗配布実績. 昭和 54・55 年度富山栽セ事報, 56.
- 富山県栽培漁業センター (1990) 種苗の配布結果. 昭和 59・60 年度富山栽セ事報, 28-29.
- 富山県栽培漁業センター (1990) 種苗の配布結果. 昭和 59・60 年度富山栽セ事報, 59-60.
- 富山県栽培漁業センター (1990) 種苗の配布結果. 昭和 61・62 年度富山栽セ事報, 28-29.
- 富山県栽培漁業センター (1990) 種苗の配布結果. 昭和 61・62 年度富山栽セ事報, 54-55.
- 富山県栽培漁業センター (1991) 種苗の配布結果. 昭和 63 年度富山栽セ事報, 34-35.
- 富山県栽培漁業センター (1992) 種苗の配布結果. 平成元年度富山栽セ事報, 34-36.
- 富山県栽培漁業センター (1995) 種苗の配布結果. 平成 2・3・4 年度富山栽セ事報, 33-34.
- 富山県栽培漁業センター (1995) 種苗の配布結果. 平成 2・3・4 年度富山栽セ事報, 66-67.
- 富山県栽培漁業センター (1995) 種苗の配布結果. 平成 2・3・4 年度富山栽セ事報, 101-102.
- 富山県水産試験場 (1994) 各県調査結果の要約. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 6.
- 富山県水産試験場 (1994) 各県調査結果の報告. 平成 5 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 富 1-富 20.
- 富山県水産試験場 (1995) 各県調査結果の要約. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 1p.
- 富山県水産試験場 (1995) 各県調査結果の報告. 平成 6 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 富 1-富 15.
- 富山県水産試験場 (1996) 各県調査結果の要約. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 2pp.
- 富山県水産試験場 (1996) 各県調査結果の報告. 平成 7 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 富 1-富 20.
- 富山県水産試験場 (1997) 各県調査結果の報告. 平成 8 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 富 1-富 14.
- 富山県水産試験場 (1997) 各府県調査結果の総括報告. 平成 8 年度及び平成 4~8 年度(総括)重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書(エビグループ), 富 1-富 10.
- 豊田薫 (1998) 農林水産業と食生活はどう変わったか. 日本の産業と地域再発見(下). 地歴社, 270 pp.
- 豊田幸嗣・上家利文・松田裕二・宮嶋俊明・大槻直也 (1996) クルマエビ尾肢切除による標識の有効性-II. 切除部位について. 平成 8 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.49.
- 豊田幸嗣・上家利文・松田裕二・大槻直也 (1996) クルマエビ尾肢切除による標識の有効性. 切除部位について. 水産技術と経営, 42(11):24-29.
- 豊田幸嗣・上家利文・松田裕二・宮嶋俊明・大槻直也 (1997) クルマエビ尾肢切除による標識の有効性-II. 切除部位別の再生状況. 栽培技研, 25(2):95-100.
- 豊田幸嗣・吉田啓一・藤田義彦・宮嶋俊明・境谷季之 (1997) クルマエビ尾肢切除による標識の有効性-III. 標識として利用できる体長の検討. 平成9年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.88.
- 豊田幸嗣・宮嶋俊明・上家利文・松田裕二・大槻直也 (1997) クルマエビ標識放流における尾肢切除法の有効性について-II. 切除部位別の再生状況. 栽培技研, 25(2):95-100.
- 豊田幸嗣・宮嶋俊明・吉田啓一・藤田義彦・境谷季之 (1998) クルマエビ標識放流における尾肢切除法の有効性について-III. 切除時の体長から検討した標識としての有効性. 栽培技研, 26(2):85-90.
- 豊田幸嗣 (1999) 甲殻類に対する過剰再生を使った標識の可能性. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.47.
- 豊田幸嗣・藤田義彦・松本彩子・山内大助・宮嶋俊明 (1999) クルマエビ尾肢の過剰再生による変形とその再生機構. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.47.
- 豊原治彦 (1996) 魚介類のテクスチャー. 鴻巣章二監修, 魚の科学. 朝倉書店, pp.79-86.
- 豊永禎一郎 (1983) 関西国際空港漁業影響調査. 漁業経営調査. 昭和 56 年度兵庫水試事報, 193.
- TREASUPAP S. and Y.MATSUDA (1998) Black tiger shrimp industry in Thailand: Some aspects in the decade growth. 地域漁業研究, 39:169-176.
- TREECE G.D. (1985) Larval rearing technology. CHAMBERLAIN G.W., HAVY M.G. & R.J.MIGET eds., Texas Shrimp Farming Manual. Texas Agriculture Extension Service, Corpus Christi, Texas, pp.43-64.
- TRENT W.L. (1966) Size of brown shrimp and time of emigration from the Calveston Bay system. Proc. Gulf Carib. Fish. Inst., 19th Ann. Sess, 7-16.
- TRINO A.T., PENAFLOIDA V.D. and E.C.BOLIVAR (1992) Growth and survival of Penaeus monodon juveniles fed a diet lacking vitamin supplements in a modified extensive culture system. Aquaculture, 101(1・2):25-32.
- TRINO A.T. and J.C.SARROZA (1995) Effect of a diet lacking in vitamin and mineral supplements on growth and survival of Penaeus monodon juveniles in a modified extensive culture system. Aquaculture, 136(3・4):323-330.

- TRUCHOT J.P. and A.JOUVE-DUHAMEL (1983) Consommation d'oxygene de la crevette japonaise, *Penaeus japonicus*, en fonction de l'oxygenation du milieu: effets de la temterature et de l'acclimatation a des con-ditions ambiants hypoxiques. Bases Biologiques de l'aquaculture. Montpeties, IFREMER Actes de colloques, (1):245-254.
- TSAI M.F., LO C.F., LIU H.C., LIU K.F. and G.H.KOU (1997) Detection of white spot syndrome virus(WSSV) in offspring of a WSSV carrier brooder by in situ hybridization. International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.72.
- TSAI M.F., KOU G.H., LIU K.F., CHANG C.F., PENG S.E., HSU H.C., WANG C.H. and C.F.LO (1999) Long-term presence of white spot syndrome virus(WSSV) in a cultivated shrimp population without disease outbreaks. Dis.Aquat.Org., 38(2):107-114.
- TSAI M.F., YU H.T., TZENG H.F., LEU J.H., CHOU C.M., HUNG C.J., WANG C.H., LIN J.Y., VLAK J.M., KOU G.H. and C.F.LO (2000) Identification and characterization of a shrimp white spot syndrome virus (WSSV) gene that encodes a novel chimeric polypeptide of cellular-type thymidine kinase and thymidylate kinase. Virology, (277):100-110.
- TSENG W.Y. and W.W.CHENG (1980) The economic shrimps of Hong Kong. MORTON and TSENG W.ed.s., Proc.of first Int. Mar.Biol.Workshop: The marine flora and fauna of Hong Kong and southern China. Hong Kong Univ.Press, pp.401-430.
- TSENG W.Y. (1981) Farming of grass prawn (*Penaeus monodon*). Jour.Mar.Sci., (26):63-68.
- TSENG W.Y. (1987) Shirimp Mariculture. Chien Cheng Publisher, 305 pp.
- TSENG W.Y. (1988) Shirimp Mariculture. Chien Cheng Publisher, Taiwan, 209-298 pp.
- TSING A.and J.R.BONAMI (1984) A new viral disease in the tiger shrimp, *Penaeus japonicus*. Abstracts of Premier Colloque International de Pathologie en Aquaculture Marine. Publ.by Laboratoire de Pathologie Comparee, Place E.
- TSING A. and J.R.BONAMI (1987) A new viral disease of the tiger shrimp, *Penaeus japonicus* BATE. J.Fish Dis., 10(2):139-141.
- 坪井守夫 (1995) 我が国の底びき網漁業の歴史. 水産振興, 29(12):1-90.
- TSUENG D.Y., CHEN Y.N., KOU G.H., LO C.F. and C.M.KUO (2001) Hepatopancreas in the extraovarian site of vitellogenin synthesis in black tiger shrimp, *Penaeus monodon*. Comp.Biochem.Physiol., 129A:909-917.
- 塚原博・弘田禮一郎・故襄公勲 (1985) 有明海.生物. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.863-878.
- 塚原淳一郎・井上潔・安元進・平川榮一・安永統男 (1985) 昭和 59 年度に発生した魚病と対策について. 昭和 59 年度長崎水試事報, 358-359.
- 塚原淳一郎・井上潔・安元進・平川榮一・安永統男(1985) 魚病対策事業(魚病等実態把握指導事業). 昭和 59 年度長崎水試事報, 360-363.
- 土屋隆英 (1989) 筋肉の構造. 新井健一編, 水産動物筋肉タンパク質の比較生化学. 水産学シリーズ, (76):9-18.
- 土屋豊・福田富男 (1983) 牛窓・番田・高島保護水面における環境と生物調査. 昭和 57 年度岡山水試事報, 118-140.
- TSUKIMURA B. (2001) Crustacean vitellogenesis: its role in oocyte development. Am.Zool., 41:465-476.
- TSUKIMURA B. and I.KAMEMOTO (1991) In vitro stimulation of oocytes by presumptive mandibular organ secretions in the shrimp, *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 92(1):59-66.
- 佃信夫・天野慶之 (1972) エビ類の黒変防止に対する亜硫酸塩の効果とその残存量について. 東海区水研報, (72):9-19.
- 佃信夫 (1983) 魚食のすすめ. 東海区水研. さかな, (31):9-16.
- 津久井文夫 (1996) 浜名湖における作滞事業前後の漁獲量変化について. 静岡水試研報, (31):19-25.
- 辻幸一 (1980) 小櫃川河口干潟の魚類-特に河口干潟の利用と生活について. 東邦大学理学部海洋生物研究室・千葉県生物学会編, 千葉県木更津市小櫃川河口干潟の生態学的研究-I.
- 辻俊宏 (1997) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 7 年度石川水産総合センター事報, 24-35.
- 辻俊宏・河本幸治・四方崇文・伊藤博司・白田光司・山下邦治 (2001) 我が国周辺漁業資源調査. 平成 11 年度石川水総セ事報, 3-9.
- TSUJIGADO A. and C-S.LEE (1993) The design of a typical marine finfish hatchery in Japan using Mie prefectural farming center as an exanple.First Asian Fisheries forum. LEE C.S.,SU M.S.& I.C.LIAO eds., Finfish Hatchery in Asia: Proceedings of Finfish Hatchery in Asia '91. TML Conference Proceedings, (3):27-39.
- 東原茂 (1991) クルマエビ個別経営体調査. 養殖(臨時増刊), 28(8):248-249.
- 津野健太郎 (1998) 我が国周辺漁業資源調査委託事業. 平成 8 年度高知水試事報, 87-105.
- 鶴見達也 (2000) 底棲魚介類の種苗生産における敷砂洗浄システムの開発と飼育効果(懇話会ニュース). 日水誌, 66(5): 929-930.
- 鶴見良行 (1992) エビとマングローブ-新しい協力システムを求めて. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.40-107.
- 津島己幸 (1993) 海洋無脊椎動物における代謝. 幹渉編, 海洋生物のカロテノイド. 水産学シリーズ, (94):35-48.

- 筒井直昭・川添一郎・大平剛・Safiah JASMANI・楊衛軍・Marcy N.WILDER・会田勝美 (2000) クルマエビのビテロゲニンをコードする遺伝子-その構造と発現部位. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.85.
- TSUTSUI N., KAWAZOE I., OHIRA T., JASMANI S., YANG W.J., WILDER M.N. and K.AIDA (2000) Molecular characterization of a cDNA encoding vitellogenin and its expression in the hepatopancreas and ovary during vitellogenesis in the kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Zool.Sci.*, (17):651-660.
- 堤恒平 (1979) クルマエビ養殖創業奮戦記. 養殖, 16(6):52-58.
- TU C., HUANG H.T., CHUANG S.H., HSU J.P., KUO T.S., LI N.J., HSU T.L., LI M.C. and S.Y.LIN (1999) Taura syndrome in Pacific white shrimp *Penaeus vannamei* cultured in Taiwan. *Dis.Aquat.Org.*, 38(3):159-161.
- TSUJIGADO A. and C.S.LEE (1993) The design of a typical marine finfish farming center as an example. LEE C.S.,SU M.S.& I.C.LIAO eds., *Finfish Hatchery in Asia*. TML Conference Proceeding, (3):27-39.
- TURNBULL J.F., LARKINGS P.E., McPADDEN C. and R.MATONDANG (1994) インドネシア東北スマトラにおける養殖エビの病理学的研究(英文). *Jour.Fish Dis.*, 17(1):57-65.
- TURNER J.W.D., SIBBALD R.R. and J.HEMENS (1986) Chlorinated secondary domestic sewage effluent as a fertilizer for marine aquaculture- II. Protein-supplemented prawn culture, *Aquaculture*, 53(2):145-155.
- TURNER J.W.D., SIBBALD R.R. and J.HEMENS (1986) Chlorinated secondary domestic sewage effluent as a fertilizer for marine aquaculture- III. Assessment of bacterial and viral quality and accumulation of heavy metals and chlorinated pesticides in cultured fish and prawns. *Aquaculture*, 53(2):157-168.
- TURNER R.E. (1977) Intertidal vegetation and commercial yields of penaeid shrimp. *Trans.Am.Fish.Soc.*, 106(5):411-416.
- TSUTSUI N., KAWAZOE I., OHIRA T., JASMANI S., YANG W.J., WILDER M.N. and K.AIDA (2000) Molecular characterization of a cDNA encoding vitellogenin and its expression in the kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. *Zool.Sci.*, (17):651-660.
- 露木英男・越後多嘉志・鴨居郁三・菅野長右エ門・竹中哲夫 (1994) 食品製造科学. 建帛社, 376 pp.

- UCHIDA J. (1956) Biological study of shrimps in the Inland Sea-II. Ecological aspects of each species. 内海区水研研報, (9):1-82.
- 内村良英 (1988) 今後の食生活と水産業. 水産振興, 22(9):1-35.
- 内山勇・小谷口正樹 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 2・3・4 年度富山栽セ事報, 49-55.
- 内山勇・小谷口正樹 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 2・3・4 年度富山栽セ事報, 84-89.
- 内山勇・若林信一・渡辺孝之 (1994) 平成 4 年度重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査事業報告書, 富 1-富 12.
- UDA M. (1971) Recent advances in fisheries oceanography of Japan from 1967 to 1969. 東海大海洋学部業績集,(4):169-185.
- 宇田道隆 (1978) 水産海洋学の課題と展望. 海洋科学, 号外 1(1):106-118.
- 植田昌明・上北征男 (1973) 秋穂実証実験漁場-地盤とその変動. 昭和 47 年度浅海別枠(備後灘)研究成果, (3):104-106.
- 上田龍太郎・杉田治男・出口吉昭 (1991) Naturally occurring agglutinin in the hemolymph of Japanese coastal Crustacea. 日水誌, 57(1):69-78.
- 上田龍太郎・上田眞太郎・杉田治男・出口吉昭 (1992) 沿岸動物の微生物学的研究-XI. クルマエビおよびショウジンガニの血清による殺菌作用. 平成4年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.242.
- UEDA R., SUGITA H. and Y.DEGUCHI (1999) Effect of transportation on the serum bactericidal activity of *Penaeus japonicus* and *Ovalipes punctatus*. Aquaculture, 171(3・4):221-225.
- 上田忠男・北上一男 (1976) 養殖クルマエビから分離された病原菌について. 昭和 50 年度鹿児島水試事報, 37.
- 上田拓・相島昇・秋本恒基・佐野二郎 (1995) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 2.重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 6 年度福岡水技事報, 241-253.
- 上田拓・松田雅彦・石田祐幸・本田一三 (1996) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 2.重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 7 年度福岡水技事報, 225-228.
- 上田拓・有吉敏和・安元進・梅本敬人 (1996) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査報告書(平成 4～8 年度,総括). 有 1-24.
- 上田拓・松田雅彦・石田祐幸 (1996) 資源管理型漁業推進総合対策事業-重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 8 年度福岡水技事報, 198-201.
- 上田拓・有吉敏和・梅本敬人・安元進・皆川恵 (1997) 有明海・橘湾(天草海)におけるクルマエビの生態-II. 移動と成長. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 上田拓・有吉敏和・梅本敬人・安元進・皆川恵 (1997) 有明海・橘湾(天草灘)におけるクルマエビの生態-II. 成長と移動. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 上田拓・石田祐幸・松田正彦 (1998) 有明海福岡県海域におけるクルマエビの生態及び移動. 福岡水技研報, (8):53-59.
- 上田拓・伊藤史朗・宮崎孝弘・村瀬慎二・石田祐幸・林宗徳 (1999) クルマエビ種苗への標識手法の検討. 福岡水技研報, (9):75-79.
- 上田拓・石田祐幸・林宗徳 (1999) 資源管理型漁業推進総合対策事業-重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 9 年度福岡水技事報, 251-254.
- 上田拓・林宗徳 (2000) 資源管理型漁業推進総合対策事業-クルマエビ. 平成 10 年度福岡水技事報, 209-211.
- 上田拓・林宗徳・江崎撰・松井繁明・山本千裕 (2000) 有明海沿岸漁業総合振興対策事業, 平成 10 年度福岡水技事報, 212-218.
- 上田幸男・岩見茂・浜誠祐・井元栄治・中村和夫・湯浅明彦 (1987) 昭和 50 年度 200 カイリ水域内漁業資源総合調査委託事業の結果報告. 昭和 60 年度徳島水試事報, 87-95.
- 上田幸男・城泰彦 (1989) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 62 年度徳島水試事報, 89-90.
- 上田幸男・浜誠祐・井元栄治・乃一啓伺・城泰彦 (1989) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 昭和 62 年度徳島水試事報, 91-93.
- 上田幸男 (1992) 紀伊水道における営群集について. 南西外海の資源・海洋研究, (8):71-88.
- 上田幸男・石田陽司・渡辺健一・広沢晃・森啓介・福永稔 (1995) 紀伊水道におけるクルマエビ,ヨシエビ,クルマエビの生態と漁業(地域重要資源調査). 平成 3 年度徳島水試事報, 88-118.
- 上原良吾 (1972) 養魚用オイルの上手な使い方とその効果②. 養殖, 9(9):110-112.
- 植木喜美彦・木村紀彦・千手竜征・長谷川彰・平澤豊・中村利一 (1979) 座談会 養殖経営の理想像. 養殖, 16(4):36-54.
- 上北征男 (1976) クルマエビ放流漁場の造成効果. 日本水産学会編, 種苗放流効果. 水産学シリーズ, (12):83-101.
- 植本東彦 (1987) 水産養殖と環境汚染. 水産振興, 21(4):1-26.

- 上村信夫・伊藤円・御宿昭彦 (1994) 平成 5 年度の異常気象が浜名湖の海況および漁況へ及ぼす影響について. 平成 5 年度静岡水試事報, 220-222.
- 上野雅樹 (2001) 広島県における標識放流. 平成 8~12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業総括報告書(瀬戸内海西部ブロック, クルマエビ), II, 81-88.
- UENO R., SANGRUNGUANG K. and M.MIYAKAWA (1999) A simplified method for the determination of several fish drugs in edible fish and shrimps by high-performance liquid chromatography. Food Res.Int., 32:629-633.
- 上野貴治・椎原久幸・黒木克宣・保聖子・鹿児島大学・宮崎大学 (1992) 赤潮対策技術開発試験(シャットネラ赤潮被害防止技術開発試験). 平成 3 年度鹿児島水試事報, 39.
- 上谷和仁・岡田一宏・渡部公仁 (1993) クルマエビ種苗生産. 平成 4 年度三重裁セ事報, 34-39.
- ウイナイ ルバンジョンディー・畑井喜司雄・和田新平・窪田三朗 (1990) 養殖クルマエビ成体にみられたハリフトロス症. 平成 2 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.85.
- 浮永久 (1994) 増養殖-増殖環境. 日本水産学会出版委員会編, 現代の水産学. 水産学シリーズ, (100):167-174.
- 浮田和夫・唐川純一・佐藤二郎 (1988) 小型底曳網標本船による 1987 年の漁獲状況について. 岡山水試報, (3):99-109.
- 浮田和夫・松村眞作 (1988) 岡山県東部における小型底曳網標本船のエビ類及びシャコの漁獲状況(1987). 岡山水試報, (3):110-124.
- 浮田和夫・唐川純一・鎌木昭久 (1989) 小型底曳網標本船による 1988 年の漁獲状況について. 岡山水試報, (4):115-126.
- 浮田和夫・松村眞作 (1989) 岡山県東部海域における小型底曳網標本船のエビ類, シャコの現状と投棄魚の実態. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (21):79-101.
- 浮田和夫 (1990) 平成元年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (5):169-170.
- 梅田勝博 (1993) 海面養殖用種苗供給の現状と課題およびその対策. 養殖, 30(12):52-54.
- 梅本敬人・竹田健一・尾脇満雄 (1995) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 6 年度熊本水研事報, 44.
- 梅本敬人・上田拓・安元進・有吉敏和・皆川恵 (1997) 有明海・橘湾(天草海)におけるクルマエビの生態-I. クルマエビ属 ポストラバの有明海への移入と稚エビの分布. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 梅本敬人・鳥羽瀬憲久・尾脇満雄 (1996) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査(クルマエビ). 平成 7 年度熊本水研事報, 58.
- 梅崎祐二・松本清紀・杉島幾太郎・藤田忠勝 (1981) クルマエビ種苗供給事業. 昭和 55 年度熊本水試事報, 70-71.
- 梅崎祐二・本田彰・古庄真喜・平山泉 (1987) 漁場環境汚染調査研究事業. 昭和 61 年度熊本水試事報, 42.
- 梅沢敏・倉田博・原健一・檜山節久 (1975) 秋穂実証漁場(クルマエビ)放流種苗の減耗. 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究. 昭和 49 年度別枠研究成果報告, (5):21-29.
- 宇野和明 (2000) クルマエビにおけるオキシテトラサイクリンの残留性と調理による影響. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.204.
- 宇野和明 (2001) クルマエビにおけるオキシソリン酸の残留性と調理による影響. 平成 13 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.210.
- 宇野道夫 (1942) 北支の水産(2). 一般水産状況. 水産研究誌, 37(1):18-25.
- 宇野道夫 (1942) 北支の水産(6). 水産研究誌, 37(3):57-61.
- 宇野寛・林小涛 (1986) 中国におけるクルマエビ類の養殖技術. 養殖, 23(4):71-75.
- 宇野寛 (1989) 中国のエビ養殖. 養殖, 26(6):46.
- 魚河岸の会監修 (1993) 気軽な魚料理. 創元社, 206 pp.
- 魚の消費を考える会 (1997) 現代サカナ事情-水産大国日本の光と影. 新日本出版社, 233 pp.
- 魚住香織・安信秀樹 (2000) クルマエビのウイルス検査. 平成 10 年度兵庫水試事報, 57.
- 魚住香織・安信秀樹 (2000) クルマエビの PAV 対策. 平成 11 年度兵庫水試事報, 59.
- 魚住香織・安信秀樹 (2001) クルマエビの PAV 対策. 平成 12 年度兵庫水試事報, 63.
- 浦毅・松下公樹 (1999) 甲殻類種苗生産. クルマエビ. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 38-42.
- 浦毅・松下公樹 (1999) 甲殻類種苗生産. クマエビ. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 43-47.
- 浦毅・松下公樹 (1999) 甲殻類種苗生産. クルマエビ. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 126-130.
- 浦毅・松下公樹 (1999) 甲殻類種苗生産. クマエビ. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 131-134.
- 浦毅・松下公樹 (1999) クルマエビ種苗生産におけるアルテミア給餌量削減試験. 平成 9・10 年度長崎漁業公社事報, 191-193.
- 浦城晋一 (1984) わが国における浅海養殖業形成の機序. 長谷川彰編, 漁業経済論. 農山漁村文化協会. 昭和後期農業問題論集, (24):197-215.
- 浦中秀人・平野保男・岡田一宏 (1988) クルマエビの種苗生産. 昭和 62 年度三重裁セ事報, 23-29.
- 浦中秀人・平野保男・岡田一宏 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 63 年度三重裁セ事報, 18-25.

- 浦田勝喜 (1969) 磯根資源調査(クルマエビ放流効果追跡調査). 昭和 43 年度指定調査研究総合助成事業効果報告書. 昭和 43 年度熊本水試事報, p.187.
- 牛越設男・三谷賢一 (1998) 養魚への免疫賦活物質利用の可能性「混合飼料C」. 養殖, 35(1):120-121.
- 臼田駿・落合卓二・坂口政雄・高頭芳夫・本間昭郎・松野篤志・森島隆・渡辺良夫 (1973) 座談会 配合飼料を考える. 養殖, 10(12):36-49.
- 内海愛子 (1992) エビ養殖のメッカ・台湾. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.200-216.
- 内海愛子 (1992) エビを育てる人,集める人,運ぶ人. 村井吉敬・鶴見良行編, エビの向こうにアジアが見える. 学陽書房, pp.232-244.
- 宇都宮正・八柳健郎・富山昭・前川兼佑 (1954) 内海汽水区域に於ける出現魚類とその食性について. 山口内海水試調研業績, (6):11-24.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-種苗導入準備. 養殖, 6(4):25-26.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-餌と給餌. 養殖, 6(5):33-37.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-成長と価格. 養殖, 6(6):23-25.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-漁場管理. 養殖, 6(7):27-29.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-高温時の管理. 養殖, 6(8):27-28.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-収穫. 養殖, 6(9):24-26.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-出荷. 養殖, 6(10):31-32.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-越冬準備. 養殖, 6(11):27-28.
- 宇都宮正 (1969) クルマエビ-経営. 養殖, 6(12):25-26.
- 宇都宮正・陣之内征龍 (1970) クルマエビ養殖試験. 山口内海水試報, (1):29-30.
- 宇都宮正 (1972) クルマエビの築堤式池中養殖. 養殖, 9(10):34-39.
- 宇都宮正 (1973) クルマエビ用人工配合餌料試験(謄写印刷). 1-11.
- 宇都宮正・八柳健郎 (1975) クルマエビ種苗生産時に出現する傷害エビについて. 栽培技研, 4(1):1-6.
- 宇都宮正 (1976) 輸送および種苗の受入れ. 山口県. 昭和 50 年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 13-17.
- 宇都宮正 (1977) 周防灘の 4 漁場におけるエビ類の組成・分布等の変異について. 山口内海水試調研業績, 10(1):39-46.

- van den BROUCKE and A.van MIDDELEM (1973) Experiments with selective shrimp trawl. FAO Fish.Rep., (139):26-29.
- van HULTEN M.C.W., WESTENBERG M., GOODALL S.D. and J.M.VLAK (2000) Identification of two major virion protein genes of white spot syndrome virus of shrimp. Virology, (266):227-236.
- van HULTEN M.C.W., GOLDBACH R.W. and J.M.VLAK (2000) Three functionally diverged major structural proteins of white spot syndrome virus evolved by gene duplication. J.Gen. Virol., (81):2525-2529.
- van HULTEN M.C.W., TSAI M.F., SCHIPPER C.A., LO C.F., KOU G.H. and J.M.VLAK (2000) Analysis of a genomic segment of white spot syndrome virus of shrimp containing ribonucleotide reductase genes and repeat regions. J.Gen. Virol., (81):307-316.
- van HULTEN M.C.W., WITTEVELDT J., PETERS S., KLOOSTERBOER N., TARCHINI R., FIERIS M., SANDBRINK H., LANKHORST R.K. and J.M.VLAK (2001) White spot syndrome virus genome sequence. Virology, (286):7-22.
- Van REGENMORTEL M.H.V., FAUQUET C.M., BISHOP D.H.L., CARSTEN E.B., ESTES M.K., LEMON S.M., MANILOFF S.M., MAYO M.A., McGEACH D.J., PRINGLE C.R. and R.B.WICKNER (2000) Virus Taxonomy. Academic Press, San Diego, CA, pp.678-683.
- Van WORMHOUD A., Le CHEVALLIER G. and D.SELLOS (1992) Purification, biochemical characterization and N-terminal sequence of a serine-protease of a tropical shrimp, *Penaeus vannamei* (Crustacea, Decapoda). Comp. Biochem. Physiol., 103B:675-680.
- Van WORMHOUD A., SELLOS D., DONVAL A., PLAIRE-GOUX S. and G.Le MOILLAC (1995) Chymotrypsin gene expression during the moulting cycle in the shrimp *Penaeus vannamei* (Crustacea, Decapoda). Experientia, (51):159-163.
- Van WORMHOUD A. and D.SELLOS (1996) Cloning and sequencing analysis of three cDNAs in the shrimp *Penaeus vannamei*. Evolutionary aspects (Crustacea, Decapoda). J. Mol. Evol., (42):543-551.
- VANDENBERGHE J., LI Y., VERDONCK L., LI J., SORGELOOS P., XU H.S. and J.SWINGS (1998) Vibrios associated with *Penaeus chinensis* (Crustacea: Decapoda) larvae in Chinese shrimp hatcheries. Aquaculture, 169(1-2):121-132.
- VANPATTEN K.A. and D.V.LIGHTNER (2001) A survey of shrimp disease diagnostic labs in the Americas. Global Aquaculture Advocate, (4):50-51.
- VARGAS-ALBORES F. and G.YEPIZ-PLASCENCIA (2000) Beta glucan binding protein and its role in shrimp immune response. Aquaculture, 191(1-3):13-21.
- VAY L.L., RODRIGUEZ A., KAMARUDIN M.S. and D.A. JONES (1993) Influence of life and artificial diets on tissue composition and trypsin activity in *Penaeus japonicus* larvae. Aquaculture, 118(3-4):287-297.
- VENEGAS C.A.・NONAKA L.・MUSHIAKE K.・NISHIZAWA T.・MUROGA K. (1999) A quasi-immune response in kurumaebi prawn against PRDV (Penaeid rod-shaped DNA virus): Natural and experimental cases. 平成 11 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.21.
- VAZQUEZ-BOUCARD C. and H.CECCALDI (1986) Identification, purification et characterization de la lipovitellin chez un crustace decapode de natantia, *Penaeus japonicus* (BATE). J. Exp. Mar. Biol. Ecol., (97):37-50.
- VELASCO M., LAWRENCE A.L. and W.H.NEILL (1998) Development of a static-waster ecoassay with microcosm tanks for postlarval *Penaeus vannamei*. Aquaculture, 161(1-4):79-87.
- VELASCO M., LAWRENCE A.L. and F.L.CASTILLE (1999) Effect of variations in daily feeding frequency and ration size on growth of shrimp, *Litopenaeus vannamei* (BOONE), in zero-water exchange culture tanks. Aquaculture 179(1-4):141-148.
- VENEGAS-MORALES C., NISHIZAWA T. and K.MUROGA (1997) A trial of isolation of penaeid rod shaped DNA virus (PRDV) in a hemocyte primary culture from kuruma shrimp (*Penaeus japonicus*). International Symposium on Diseases in Marine Aquaculture, JSFP-Hiroshima, p.77.
- VENEGAS C.・虫明敬一・野中里佐・西澤豊彦・室賀清邦 (1998) 異なる発育段階のクルマエビに対する PROV の病原性(英文). 平成 10 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.2.
- VENEGAS C., NONAKA R., MUSHIAKE K., SHIMIZU M., NISHIZAWA T. and K.MUROGA (1999) Pathogenicity of penaeid rod-shaped DNA virus (PRDV) to kuruma prawn in different development stages. Fish Pathol., 34(1):19-23.
- VENEGAS C.A., NONAKA L., MUSHIAKE K., NISHIZAWA T. and K.MUROGA (2000) Quasi-immune response of *Penaeus japonicus* to penaeid rod-shaped DNA virus (PRDV). Dis. Aquat. Org., 42(2):83-89.
- VENEGAS C.A. (2000) Studies on penaeid acute viremia (PAV) of kuruma prawn *Penaeus japonicus*. 広島大生物生産紀要, (39):98-99.
- VENKATARAMIAH A., LAKSHMI G.J. and G.GUNTER (1975) Effect of protein level and vegetable matter on growth and food conversion efficiency of brown shrimp. Aquaculture, 6(2):115-125.

- VERA P., NAVAS J.I. and C.QUINTERO (1992) Experimental study of the virulence of three species of *Vibrio* bacteria in *Penaeus japonicus*(BATE 1881) juveniles. *Aquaculture*, 107(2·3):119-123.
- VEZQUEZ-BOUC and C.G.,MOUREA C.E. and H.J.CECCALDI (1985) Etude preliminaire des variations circadiennes des proteines l'hemolymphe de *Penaeus japonicus* BATE. *J.Exp.Mar.Biol.Ecol.*, 85(2):123-134.
- VILLALUG D.K., VILLALUG A., LABRERA B., SHIRK M. and A.GONZAGA (1969) Production, larvae development, and cultivation of sugpo(*P.monodon*). *Phillipine Jour.Sci.*, (98):205-233.
- VILLEGAS C.T. and A.KANAZAWA (1980) Rearing of the larval stages of prawn, *Penaeus japonicus* BATE, using artificial diet. *Mem.Kagoshima Univ.Res.Center S.Pac.*, (1):43-49.
- VINATEA L. and E.R.ANDREATA (1997) Comparative study of continuous and static water renewal strategies in the larviculture of *Penaeus paulensis*(PEREZ FARFANTE,1967) associated with high stocking densities and different water renewal rates. *Aquaculture*, 154(3·4):247-259.
- VINOGRADOV L.G. (1950) Classification of shrimps,prawns and crabs from Far East. *Bull.TINRO*, (33):179-358.
- VOGT G., STORCH V., QUINTIO E.T. and F.P.PASCUAL (1985) Midgut gland as monitor organ for the nutritional value of diets in *Penaeus monodon*(Decapoda). *Aquaculture*, 48(1):1-12.
- VOGT G. (1985) Histologie und cytologie der mitteldarmdruse von *Penaeus monodon*(Decapoda). *Zool.Anz.Jena*, 215, 61-80.
- VOGT G. (1986) Pesticide-induced alterations in the midgut glands of *Penaeus monodon* postlarvae: a preliminary report. 2nd Intern. Colloq.Pathol.Marine Aquac.,Porto.Portugal,September,1986, pp.109-110.
- VOGT G., QUINTIO E.T. and F.P.PASCUAL (1986) *Leucaena leucocephala* leaves in formulated feed for *Penaeus monodon*: a concrete example of the application of histology in nutrition research. *Aquaculture*, 59(3·4):209-234.
- VOGT G. (1992) Transformation of anterior midgut and hepatopancreas cells by monodon baculovirus(MBV) in *Penaeus monodon* postlarvae. *Aquaculture*, 107(2·3):239-248.
- Vetch T.Gain (1991) 海の向こうの養殖から③. タイのエビ養殖. 養殖, 28(3):136-137.
- Vetch T.Gain (1992) 海の向こうの養殖から⑫. 養殖エビの疾病論争に思う. 養殖, 29(8):132-134.

- 和田功 (1970) 麻酔剤 4-Allyl-2-Methoxyphenol の魚およびエビに対する麻酔効果. 昭和 44 年度岡山水試事報, 93-97.
- 和田克彦 (1995) 水生動物育種研究の現状. 水産振興, 29(9):1-83.
- 和田恵次 (1992) 干潟の自然史-砂と泥に生きる郷物たち. 京都大学学術出版会.生態学ライブラリー, (11):1-206.
- 我妻隆介 (1986) 台湾におけるエビ養殖の最近の動向(上). 養殖, 23(1):101-105.
- 我妻隆介 (1986) 台湾におけるエビ養殖の最近の動向(下). 養殖, 23(2):104-107.
- ワインダー D.M. (1985,田口喜三郎抄訳) ラテン・アメリカにおけるエビ養殖の展望③. 養殖, 22(13):66-69.
- ワインダー D.M. (1986,田口喜三郎抄訳) ラテン・アメリカにおけるエビ養殖の展望④. 養殖, 23(1):66-70.
- WALFORD J. and T.J.LAM (1987) Floating hatchery and net cage culture of *Penaeus indicus* in the Straits of Johore, Singapore. Aquaculture, 62(1):11-32.
- 若林英人・田中伸和 (1994) 浜田湾におけるクルマエビの放流効果について. 平成 4 年度島根水試事報, 98-103.
- 若林久嗣 (1996) 環境性疾病およびストレス. 室賀清邦・江草周三編, 魚病学概論. 恒星社厚生閣, pp.109-120.
- 若林久嗣 (1998) 魚類防疫(総論). 月刊海洋号外, (14):5-12.
- 若林信一 (1989) 温排水利用養魚技術試験. 昭和 63 年度富山水試年報, 56-58.
- 若林信一 (1990) 温排水利用養魚技術試験. 平成元年度富山水試年報, 52-53.
- 若林信一・渡辺孝之・内山勇 (1993) クルマエビ種苗放流の問題点と平成 4 年度放流効果調査の結果(要旨). 富山水試研報, (4):68.
- 若林良和 (1998) 日本の魚食文化考. 地域漁業学会編, 漁業考現学-21 世紀への発信. 農林統計協会, pp.313-329.
- 和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場 (2001) 和歌山県. 平成 11・12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 和歌 1-和歌 8.
- 和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場 (2001) 各府県調査報告(和歌山県). 平成 7～12 年度放流資源共同管理型栽培漁業推進調査事業報告書(クルマエビ), 139-148.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1981) 昭和 54 年度事業の概要. 和歌山水増試報, (12):1-4.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1982) 昭和 55 年度事業の概要. 和歌山水増試報, (13):1-4.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1983) 昭和 56 年度事業の概要. 和歌山水増試報, (14):1-4.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1987) 昭和 60 年度事業の概要. 和歌山水増試報, (18):1-3.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1992) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (11):1-4.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1994) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (13):1-3.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1995) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (14):1-3.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (15):1-3.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):1-4.
- 和歌山県水産増殖試験場 (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (17):1-4.
- 脇谷修治・徳丸泰久 (2001) 複合的資源管理型漁業促進対策事業. 1.小型底びき網試験. 平成 12 年度大分海研浅海事報, 82-86.
- WALKER P. and R.SUBSINGHE eds. (1999) DNA-based Molecular Diagnostic Techniques. Report and Proceedings of the Expert Workshop on DNA-based Molecular Diagnostic Techniques: Research Needs for Standard-ization and Validation of the Detection of Aquatic Animal Pathogens and Diseases. FAO,Italy, 93pp.
- WALTERS J.F. (1976) Ecology of Hawaiian sergested shrimps(Penaeidae: Sergestidae). Fish.Bull., 74(4):799-836.
- WANG C.H., LO C.F., LEU J.H., CHOU C.M., YEH P.Y., CHOU H.Y., TUNG M.C., CHANG C.F., SU M.S. and G.H.KOU (1995) Purification and genomic analysis of baculovirus associated with white spot syndrome (WSBV) of *Penaeus monodon*. Dis.Aquat.Org., 23:239-242.
- WANG C.-H., YANG H.-N., TANG C.-Y., LU C.-H., KOU G.-H. and G.-H.LO (2000) リンパ様器官の初代培養細胞における white spot syndrome virus の増殖(英文). Dis.Aquat.Org., 41(2):91-104.
- WANG C.S., TANG K.F.J., KOU G.H., CHEN S.N. (1996) 台湾の養殖クルマエビにおけるイエローヘッド病様ウイルス感染(英文). 魚病研究, 31(4):177-182.
- WANG C.S., TANG K.F.J., CHEN S.N. and G.H.KOU (1997) Light and electron microscopic evidence of white spot disease in the giant tiger shrimp,*Penaeus monodon*(FABRICIUS), and the kuruma shrimp, *Penaeus japonicus*(BATE), cultured in Taiwan. J.Fish Dis., 20(5):323-331.
- WANG C.Y., LO C.H., CHANG P.S. and G.H.KOU (1998) Experimental infection of white spot baculovirus in some cultured and wild decapods in Taiwan. Aquaculture, 164(1-4):221-231.
- WANG C.Y and P.S. CHANG (2000) Yellow head virus infection in the giant tiger prawn *Penaeus monodon* cultured in Taiwan. Fish Pathol., 35(1):1-10.

- WANG J-Q., LI D-S., DONG S-L., WANG K-X. and X-L.TIAN (1998) Experimental studies on polyculture in closed shrimp ponds- I. Intensive polyculture of Chinese shrimp(*Penaeus chinensis*) with tilapia hybrids. *Aquaculture*, 163(1-2):11-27.
- WANG K., LI D., MENG Q., GAO J., LI S., YU K. and T.LU (1982) Studies on techniques for industrialized fry production of *Penaeus orientalis* KISHINOUE. *J.Shandong College of Oceanology*, 12(3):65-71.
- 王清印 (1994) タイショウエビ養殖と沿海水域の環境保全問題. 国外水産, (3):1-4.
- 王清印 (1997) 海産養殖動物の病害問題について- 現状と研究課題及び対策. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):187-196.
- 王清印 (1999) 海水増養殖業の持続的発展とその主要な制限要因の分析. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):1-10.
- 王清印 (1999) 海水増養殖業の持続的発展におけるハイテクの応用. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):169-175.
- WANG Q., WHITE B.L., REDMAN R.M. and D.V.LIGHTNER (1999) Per os challenge of *Litopenaeus vannamei* postlarvae and *Farfantepenaeus duorarum* juveniles with six geographic isolates of white spot syndrome virus. *Aquaculture*, 170(3-4):179-194.
- WANG Q., POULOS B.T. and D.V.LIGHTNER (2000) Protein analysis of geographic isolates of shrimp white spot syndrome virus. *Arch. Virol.*, (145):263-274.
- WANG Q., NUMAN L.M. and D.V.LIGHTNER (2001) Identification of genomic variations among geographic isolates white spot syndrome virus using restriction analysis and Southern blot hybridization. *Dis.Aquat.Org.*, 43(3):175-181.
- WANG S.Y., HONG C. and J.M.LOTZ (1996) Development of a PCR procedure for the detection of *Baculovirus penaei* in shrimp. *Dis.Aquat.Org.*, 25(1-2):123-131.
- 汪忠強 (1995) 放流エビ種苗の中間育成技術研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):132-136.
- 汪忠強 (1995) 潮間帯生物に対する象山港内移植・放流タイショウエビの影響. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):141-147.
- 王可玲 (1988) 増養殖生物遺伝子資源の保護. *中国海洋科学*, (4):30-34.
- 王希華 (1997) 増養殖漁業の持続的発展に影響を与える主な要因とその対策. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):284-290.
- 王陽・R.M.ROMPAS・小林邦男 (1986) クルマエビに対する有機燐剤毒性の piperonyl butoxide による低減と作用機作について. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.106.
- WANG Y-C., LO C-F., CHANG P-S. and G-H.KOU (1998) Experimental infection of white spot baculovirus in some cultured and wild decapods in Taiwan. *Aquaculture*, 164(1-4):221-231.
- WANG Y.-C. and P.-S. CHANG (2000) Yellow head virus infection in The giant tiger shrimp *penaeus monodon* cultured in Taaiwan. *Fish Pathol.*, 35(1):1-10.
- WANG Y., KOBAYASHI K., ROMPAS R.M., OSHIMA Y. and N. IMADA (1993) Mechanism of the reduction of fenitrothion toxicity in kuruma prawn by piperonyl butoxide. *日水誌*, 59(9):1581-1585.
- WANG Y.G., HASSAN M.D., SHARIFF M. and M.Z.SAAD (1996) Cytopathological study of the systemic ecdodermal and mesodermal baculovirus (SEMBV) infection in cultured black tiger shrimp *Penaeus monodon* in peninsular Malaysia. OTHMAN R.Y., SHAABAN M.G. and Z.A.IBRAHIM eds., *Proceedings of the Sixth Scientific Conference. Malaysia*, pp.109-115.
- WANG Y.G., HASSAN M.D., SHARIFF M., ZAMRI S.M. and X.CHEN (1999) Histopathology and cytopathology of white spot syndrome virus(WSSV) in cultured *Penaeus monodon* from peninsular Malaysia with emphasis on pathogenesis and the mechanisms of white spot formation. *Dis.Aquatic Org.*, 39(1):1-11.
- WANG Y.G., LEE K.L., NAJIAH M., SHARIFF M. and M.D.HASSAN (2000) A new bacterial white spot syndrome(BWSS) in cultured tiger shrimp *Penaeus monodon* and its comparison with white spot syndrome(WSS) caused by virus. *Dis.Aquat.Org.*, 41(1):9-18.
- WANN J.W. (1994) Economic analysis of polyculture farming in Taiwan. SHANG Y.C., LEUNG P.S., LEE C.S., SU M.S. & I.C.LIAO eds., *Socioeconomics of Aquaculture. TML Conference Proceeding*, (4):209-228.
- 鷺尾達 (1984) 男鹿地区人工礁漁場造成事業調査. 昭和 57 年度秋田水試事報, 221-224.
- 鷺尾達 (1984) 電源立地地域温排水対策事業調査. 昭和 57 年度秋田水試事報, 255-284.
- WASMER R.A. (1972) Zoogeography of Pelagic Shrimps(Natantia: Penaeidea) in the North Pacific Ocean. Ph.D.Thesis,Oregon State University,Corvallis, 232 pp.
- WASSENBERG T.J. and B.J.HILL (1984) Moulting behaviour of the tiger prawn *Penaeus esculentus*(HASWELL). *Aust.J.Mar. Freshw.Res.*, 35:561-571.

- WASSENBERG T.J. and B.J.HILL (1989) The effect of trawling and subsequent handling on the survival rates of the by-catch of prawn trawlers in Moreton Bay, Australia. *Fisheries Research*, (7):99-110.
- 渡部公仁・岡田一宏・上谷和仁 (1993) クルマエビ中間育成における歩脚障害の対策試験. 平成 4 年度三重栽セ事報, 58-62.
- 渡部終五 (1990) 魚貝類運動の生化学. 2.水生無脊椎動物の筋収縮. *海洋と生物*, 12(4):318-323.
- 渡辺昭生・西山雄峰・塩田浩二 (1993) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査(伊予灘, 燧灘). 平成 4 年度愛媛中予水試事報, 6-8.
- 渡辺悦生 (1996) 水産物の食品としての安全性. *水産振興*, 30(2):1-52.
- 渡辺 一 (1965) 車えび池の注排水と浄化剤. *養殖*, 2(8):48-49.
- 渡辺佳一郎・戸田政司 (1969) クルマエビ稚仔に対する各種薬品の TL_m 値. *静岡水試研報*, (3):111-116.
- 渡辺佳一郎 (1970) 甲殻類幼生出現量調査. 昭和 44 年度静岡水試事報, 277-278.
- 渡辺佳一郎・長谷川仁 (1973) クルマエビの養成. 昭和 46 年度静岡水試事報, 184-185.
- 渡辺勝子 (1996) 魚介類の味. 鴻巣章二監修, *魚の科学*. 朝倉書店, pp.51-63.
- 渡辺和春 (1985) 漁況. 日本海. 1984 年海域別情報. *水産海洋研究会報*, (47・48):212-214.
- 渡辺和博 (1988) クルマエビ量産技術向上研究. 昭和 61 年度新潟栽セ業研報, 68-71.
- 渡辺和博 (1989) クルマエビ量産技術向上研究. 昭和 62 年度新潟栽セ業研報, 66-70.
- 渡辺健二・行武敦・豊福洋・永島孝之・入江英男 (1984) クルマエビの採卵について. 昭和 57 年度福岡栽漁公社業事報, 11-17.
- 渡辺健二・行武敦・豊福洋・永島孝之・入江英男 (1985) クルマエビ種苗生産技術における通気方法の改良について. 昭和 58 年度福岡栽漁公社業事報, 9-14.
- 渡辺健二・行武敦・豊福洋・入江英男 (1986) クルマエビ種苗生産について. 昭和 59 年度福岡栽漁公社業事報, 9-18.
- 渡辺健二・行武敦・豊福洋・入江英男 (1987) クルマエビ種苗生産について. 昭和 60 年度福岡栽漁公社業事報, 9-17.
- 渡辺健二・行武敦・豊福洋・入江英男 (1988) クルマエビ種苗生産について. 昭和 61 年度福岡栽漁公社業事報, 10-20.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1990) クルマエビ種苗生産について. 昭和 63 年度福岡栽漁公社業事報, 15-23.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1992) クルマエビ種苗生産について. 平成 2 年度福岡栽漁公社業事報, 15-24.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1993) クルマエビ種苗生産について. 平成 3 年度福岡栽漁公社業事報, 15-23.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1994) クルマエビ種苗生産について. 平成 4 年度福岡栽漁公社業事報, 15-21.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1995) クルマエビ種苗生産について. 平成 5 年度福岡栽漁公社業事報, 15-23.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (1999) クルマエビ種苗生産について. 平成 9 年度福岡栽漁公社業事報, 15-21.
- 渡辺健二・豊福洋・入江英男 (2000) クルマエビ種苗生産について. 平成 10 年度福岡栽漁公社業事報, 15-21.
- 渡辺健二・中本崇・豊福洋・入江英男 (2001) クルマエビ種苗生産について. 平成 11 年度福岡栽漁公社業事報, 15-21.
- 渡辺貢 (1998) 放流資源共同管理型栽培漁業推進調査. 平成 8 年度高知水試事報, 342-343.
- 渡辺直久 (1997) 養魚への免疫賦活物質利用の可能性(2). *イムノプラス* 25. *養殖*, 34(11):118-119.
- 渡邊力夫・上原薫・山下哲郎・奈良坂英央・伊丹利明・高橋幸則 (1998) クルマエビの急性ウイルス血症に対するフコイダンの予防効果, 平成 10 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.4.
- 渡邊力夫・近藤昌明・伊丹利明・高橋幸則 (1998) クルマエビの生体防御能に及ぼす *Bacillus* 菌体末の効果. 平成 10 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.5.
- 渡邊力夫・松居利佳・本多良江・近藤昌明・伊丹利明・高橋幸則 (1999) クルマエビの生体防御能に及ぼす海藻粉末の効果. 平成 11 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.1.
- 渡邊力夫・本多良江・松居利佳・近藤昌明・伊丹利明・高橋幸則・稲川裕之・柚源一郎 (1999) クルマエビの生体防御能に及ぼす LPS の効果. 平成 11 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p1.
- 渡辺昭二・寺田和夫 (1976) 豊前海主要干潟の生産性について-主として冠水時における水質環境, 餌料生物について. 昭和 49 年度福岡豊前水試研業報, 112-134.
- 渡辺昭二・神菌真人・寺田和夫 (1985) 漁場汚染対策調査. 昭和 58 年度福岡豊前水試研業報, 248.
- WATANABE T., PERSSON D., ENDO H. and M.KONO (2000) Molecular analysis of two genes, DD9A and B, which are expressed during the decapod crustacean *Penaeus japonicus*. *Comp.Biochem.Physiol.*, 125B:379-388.
- 渡辺孝之・小谷口正樹 (1991) クルマエビ種苗生産. 昭和 63 年度富山栽セ事報, 16-20.
- 渡辺健・小谷口正樹 (1992) クルマエビ種苗生産. 平成元年度富山栽セ事報, 16-23.
- 渡辺健・小谷口正樹 (1995) クルマエビ種苗生産. 平成 2・3・4 年度富山栽セ事報, 14-21.
- 渡辺辰夫 (1998) クルマエビ/なんといっても現場作業が基本. *アクアネット*, 1(4):58.
- 渡辺辰夫 (1999) オーストラリアのクルマエビ養殖場を訪問. *アクアネット*, 2(7):54.
- 渡辺辰夫 (1999) PAV に遭遇して(上). *クルマエビ*. *アクアネット*, 2(10):62-63.
- 渡辺辰夫 (2000) PAV に遭遇して(下). *クルマエビ*. *アクアネット*, 3(1):58-59.
- 渡辺利長・海幸丸乗組員 (1984) 源式網調査. 昭和 58 年度愛知水試業報, 47-50.

- WATSON J.W. and C.McVEA (1977) Development of a selective shrimp trawl for the southeastern United States penaeid shrimp Fisheries. *Mar.Fish.Rev.*, 39(10):18-24.
- WATSON J.W., MITCHELL J.F. and A.K.SHAH (1986) Trawling efficiency device: a new concept for selective shrimp trawling gear. *Mar.Fish.Rev.*, 48:1-9.
- WEBBER H.H. (1992) The development of a maricultured technology for the penaeid shrimp of the Gulf and Caribbean Region. *Helgo.Wiss.Meeresunters.*, (20):455-463.
- WEIDNER D. and R.ROSENBERRY (1992) World Shrimp Farming. WYBAN J.A.ed., Proceeding of the Special Session on Shrimp Farming. World Aquaculture Society, Baton Rouge, LA, USA, pp.1-21.
- WEPPE M., BONAMI J.R. and D.V.LIGHTNER (1992) Demostracion de las altas cualidades de la cepa de *P.stylirostris* (AQUACOP SRP 43) resitente al virus IHNN. ACLDERON J. and L.SHARTZ eds., Proceeding of the Primero Congreso Ecuatoriano de Acuicultura. Ecuador, Guayaquil., pp.229-232.
- WICKHAM D.A. (1967) Observations on the activity patterns of juveniles of the pink shrimp, *Penaeus duorarum*. *Bull.Mar.Sci.*, 17:769-786.
- WICKINS J. (1976) The tolerance of warm-water prawns to recirculated water. *Aquaculture*, 9:19-37.
- WICKINS J. (1984) The effect of hypercapnic sea water on growth and mineralization in penaeid prawns. *Aquaculture*, 41(1):37-48.
- WICKINS J. (1984) The effect of reduced pH on carapace calcium, strontium and magnesium levels in rapidly growing prawns (*Penaeus monodon* FABRICIUS). *Aquaculture*, 41(1):49-60.
- WICKINS J.F. (1976) Prawn biology and culture oceanogr. *Oceanogr.Mar.Biol.Ann.Rev.*, 14, 435-507.
- WICKINS J.F. (1976) The tolerance of warm water prawns to recirculated water. *Aquaculture*, 9(1):19-37.
- WIGGLESWORTH J. (1994) "Taura Syndrome" hits Ecuador farms. *Fish Farmer*, 17(3):30-31.
- WILLIAMS A.B. (1955) A contribution to the life histories of commercial shrimps (Penaeidae) in North Carolina, *Bull.Mar.Sci.Gulf Carib.*, (5):116-146.
- WILLIAMS A.B. (1955) A survey of North Carolina shrimp nursery grounds. *Jour.Elisha Mitchell Sci.Soc.*, 71:200-207.
- WILLIAMS A.B. (1958) Substrates as a factor in shrimp distribution. *Limnol.Oceanogr.*, 3:283-290.
- WILLIAMS A.B. (1959) Spotted and brown shrimp postlarvae (*Penaeus*) in North Carolina, *Bull.Mar.Sci.Gulf Carib.* (9):281-290.
- WILLIAMS A.B. (1960) The influence of temperature on osmotic regulation in two species of estuarine shrimps (*Penaeus*). *Biol.Bull.*, 119(3):560-571.
- WILLIAMS A.B. (1965) Marine decapod crustaceans of the Carolinas. *U.S.Fish Wildl.Serv.Fish.Biol.*, 65(1):1-298.
- WILLIAMS A.B. (1969) Penaeid shrimp catch and heat summation, and apparent relationship. *FAO Fish.Rep.*, (57):643-656.
- WILLIAMSON D.I. (1969) Names of larvae in the Decapods and Euphausiacea. *Crustaceana*, (16):210-213.
- WILLIAMSON D.I. (1982) Larval morphology and diversity. ABELE L.G., *The Biology of Crustacea. Vol.2. Embryology Morphology, and Genetics.* Academic Press, NY., pp.43-110.
- WINARO B. (1995) Shrimp aquaculture in Indonesia. BROWDY C.L. & J.S.HOPKINS eds., *Swimming Through Troubled Water. Proc. of the Special Session on Shrimp Farming, World Aquaculture Society, Baton Rouge*, pp.24-28.
- WITHYACHUMNARNKUL B. (1999) Results from black tiger shrimp *Penaeus monodon* culture ponds stocked with post-larvae PCR-positive or -negative for white-spot syndrome virus (WSSV). *Dis.Aquat.Org.*, 39(1):21-27.
- WOHLFARTH G.W. and G.L.SCHROEDER (1979) Use of manure in fish farming a review. *Aquacultural Waste*, 1:279-299.
- WOLFUS G.M., GARCIA D.K. and A.ALCIVAR-WARREN (1997) Application of the microsatellite technique for analyzing genetic diversity in shrimp breeding programs. *Aquaculture*, 152(1-4):35-47.
- 汪陽・R.M.ROMPAS・小林邦男 (1986) クルマエビに対する有機燐剤毒性の piperonyl butoxide による低減と作用機作について. 昭和 61 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.106.
- Wong Y., WONGTEERASUPAYA C., SRIURAIWATANA S., VICKERS J.E., ANUTARA A., BOONSAENG V., TASSANAKAJON A., WITHYACHUMNARNKUL B. and T.W.FLEGEL (1995) Yellow-head virus of *Penaeus monodon* is an RNA virus. *Dis.Aquat.Org.*, 22(1):45-50.
- WONGTEERASUPAYA C., VICKERS J.E., SRIURAIWATANA S., NASH G.L., AKARAJAMORN A., BOONSAENG V., PANYIM S., TASSANAKAJON A., WITHYACHUMNARNKUL B. and T.W.FLEGEL (1995) A non-occluded, systemic baculovirus that occurs in cell of ectodermal and mesodermal origin and causes high mortality in black tiger prawn *Penaeus monodon*. *Dis.Aquat.Org.*, 21(1):69-77.
- WONGTEERASUPAYA C., WONGWISANSRI S., BOONSAENG V., PANYIM S., PRATANPIPAT P., NASH G.L. WITHYACHUMNARNKUL B. and T.W.FLEGEL (1996) DNA fragment of *Penaeus monodon* baculovirus PmNOBII gives positive *in situ* hybridization with white-spot viral infectious in six penaeid shrimp species. *Aquaculture*, 143(1):23-32.

- WONGTEERASUPAYA C., BOONSAENG V., PANYIM S., TASSANAKAJON A., WITHYACHUMNARNKUL B. and T.W.FLEGEL (1997) Detection of yellow-head virus of *Penaeus monodon* by RT-PCR amplification. *Dis.Aquat.Org.*, 31(3):181-186.
- WORMHOUDT A., FAVREL P. and J.GUILLAUME (1989) Gastrin/cholecystokinin-like post-prandial variations.quantitative and qualitative changes in the hemolymph of penaeids(Crustacea Decapoda). *J.Compar.Physiol.*, 159B:269-273.
- WOUTERS R., MOLINA C., LAVENS P. and J.CALDERON (2001) Lipid composition and vitamin content of wild female *Litopenaeus vannamei* in different stages of sexual maturation. *Aquaculture*, 198(3-4):307-323.
- WOUTERS R., LAVENS P., NIETO J. and P.SORGELOOS (2001) Penaeid shrimp broodstock nutrition: an updated review on research and development. *Aquaculture*, 202(1-2):1-21.
- 吳祖潔 (1995) タイショウエビの標識放流実験. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):184-191.
- 吳祖潔 (1995) 自然海域における放流・移植タイショウエビの繁殖による稚蝦の調査. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):209-214.
- 王可玲 (1988) 増養殖生物遺伝子資源の保護. 海洋科学, (4):30-34.
- WU J.L., NAMIKOSHI A., NISHIZAWA T., MUSHIAKE K., TERUYA K. and K.MUROGA (2001) 共食いと水系感染によるクルマエビの PAV 伝播に及ぼす飼育密度の影響(英文). *Dis.Aquat.Org.*, 47(2):129-135.
- WURTS W.A. and R.R.STICKNEY (1984) An hypothesis on the light requirements for spawning penaeid shrimp, with emphasis on *Penaeus setiferus*. *Aquaculture*, 41(2):93-98.
- WYBAN J., WALSH W.A. and D.M.GODIN (1995) Temperature effects on growth, feeding and feed conversion of the Pacific white shrimp(*Penaeus vannamei*). *Aquaculture*, 138(1-4):267-279.
- WYBAN J.A., LEE C.S.,SATO V.T., SWEENEY J.N. and W.K.RICHARDS Jr. (1987) Effect of stocking density on shrimp growth rates in manurefertilized ponds. *Aquaculture*, 61(1):23-32.
- WYBAN J.A., SWEENEY J.N. and R.A.KANNA (1988) Shrimp yields and economic potential of intensive round pond systems. *Journal of World Aquaculture Society*, 19(4):210-217.
- WYBAN J.A. and J.N.SWEENEY (1991) *The Oceanic Institute Shrimp Manual*. The Oceanic Institute of Hawaii, pp.111-112.
- WYBAN J.A. (1992) Selective breeding of specific pathogen-free (SPF) shrimp for high health and increased growth. FULKS W. and K.L.MAIN eds., *Diseases of cultured penaeid shrimp in Asia and the United States*. The Oceanic Institute, Hawaii, pp.257-268.
- WYBAN J.A., SWINGLE J.S., SWEENEY J.N. and G.D.PRUDER (1992) Development and commercial performance of fish health shrimp using specific pathogen free (SPF) broodstock *Penaeus vannamei*. WYBAN J.ed, *Proceedings of the Special Session on Shrimp Farming*. World Aquaculture Society, Louisiana, pp.254-260.

- XU B., XU H-S., JI W-S. and J.SHI (1994) Pathogens and pathogenicity to *Penaeus orientalis* KISHINOUE. Acta Oceanologica Sinica, 13(2):297-306.
- XU J-Z., GUI Y., SHEN Y-Z., WU Z-J., SUN R-L., WANG Z-Q. and Z-J.WU (1992) The movement and distribution of released *Penaeus orientalis*. Jour.Fish.China, 16(2):137-146.
- 徐君卓 (1994) えび病害の防除・治療とえび養殖発展見通しの検討. 現代漁業情報, 9(12):10-13.
- 徐君卓 (1995) 象山港内におけるタイショウエビ移植・放流の実行可能性分析. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):126-131.
- 徐君卓 (1995) 象山港におけるタイショウエビ移植・放流技術の研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):137-140.
- 徐君卓 (1995) 染色標識計数方法の研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):152-157.
- 徐君卓 (1995) 象山港内における放流エビ群の移動・分布. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):169-176.
- 徐君卓 (1995) 放流のタイショウエビ親エビの産卵回帰と生物学的性状. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):192-197.
- 徐君卓 (1995) 象山港における放流・移植タイショウエビ自然種群の形成状況の論述. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):215-219.
- 徐君卓 (1995) 象山港におけるタイショウエビ移植・放流効果の分析. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):223-227.
- 徐君卓 (1995) タイショウエビの移植・放流の管理. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):228-232.
- 徐君卓 (1997) 象山港の水域環境と魚・エビ・貝・藻類の総合的増養殖. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):385-394.
- XU J., XIA M., NING X. and C.P.MATHEWS (1997) Stocking enhancement and mariculture of *Penaeus orientalis* and other species in Shanghai and Zhejiang Provinces, China. Fish.Rev., (59):8-14.
- 徐君卓 (1999) 象山港におけるタイショウエビの移植・放流効果を高める技術的措置. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):121-127.
- 徐君卓・鄧景耀 (1999) 移植増殖. 梁振林・大滝英夫訳, 漁業資源増殖-理論・方法・評価・管理. 日本水産資源保護協会. 水産増養殖叢書, (43):122-221.
- XU X-L., JI W-J., CASTELL J.D. and R.O'DOR (1993) The nutritional value of dietary n-3 and n-6 fatty acids for the Chinese prawn(*Penaeus chinensis*). Aquaculture, 118(3-4):277-285.
- XU X-L., JI W-J., CASTELL J.D. and R.O'DOR (1994) Influence of dietary lipid sources on fecundity, egg hatchability and fatty acid composition of Chinese prawn(*Penaeus chinensis*) broodstock. Aquaculture, 119(4):357-370.
- XU X-L., JI W.J., CASTELL J.D. and R.K.DOR (1994) Essential fatty acid requirements of the Chinese prawn, *Penaeus chinensis*. Aquaculture, 127(1):29-40.
- XU Z-K., PRIMAVERA J.H., de la PENA L.D., PETTIT P., BELAK J. and A.ALCIVAR-WARREN (2001) Genetic diversity of wild and cultured Black Tiger Shrimp(*Penaeus monodon*) in the Philippines using microsatellites. Aquaculture, 199(1-2):13-40.
- XUE H-F., LU G-R. and D-J.SUN (1988) Experiments on tagging of Chinese prawn(*Penaeus orientalis*) and its rate of recovery in Liaodong Bay. Jour.Fish.China, 12(4):333-337.
- 徐懷絮 (1994) タイショウエビの突発性流行病に関する幾つかの見方. 養殖タイショウエビ病害総合防止・治療特集号. 海洋科学編集部, pp.14-16.

- 八木庸夫 (1972) 沿岸漁獲物の流通構造-高級魚とくに活魚を中心にして. 水産研究叢書, (21):1-46.
- 八木庸夫 (1988) 高度経済成長後の漁業経済環境の変化. 西日本漁業経済学会編, 転機に立つ日本水産業. 九州大学出版会, pp.400-422.
- 野牛和弘 (1994) 水産用医薬品の使用に当たっての注意点. 養殖(臨時増刊), 31(2):95-97.
- YAHAYA J. (1994) The socioeconomic implications of shrimp mariculture development in Malaysia. SHANG Y.C., LEUNG P.S., LEE C.S., & I.C.LIAO eds., Socioeconomics of Aquaculture. TML Conference Proceeding, (4):249-264.
- YALDWIN J.C. (1957) Shrimps and prawns. New Zealand's Nature Heritage, (38):1041-1046.
- 山田英明・宮永貴幸・西田輝己 (1994) 資源管理型漁業推進総合対策事業. 1.広域回遊資源調査(ヒラメ・メイトガレイ・マダイ). 平成5年度鳥取水試年報, 82-101.
- 山田英明・岸本好隆・宮永貴幸 (1999) クルマエビ栽培技術推進調査. 平成10年度鳥取水試年報, 117-119.
- 山田英明・岸本好隆・宮永貴幸 (2000) クルマエビ栽培技術推進調査. 平成11年度鳥取水試年報, 111-114.
- 山田英明・岸本好隆・宮永貴幸 (2001) 栽培漁業定着推進調査. クルマエビ栽培技術推進調査. 平成12年度鳥取水試年報, 115-117.
- 山田洋雄・池田華子 (1999) 養殖魚類防衛器強化対策事業. 平成10年度福井水試事報, 67-75.
- 山田洋雄・池田華子 (2000) 養殖魚類防衛器強化対策事業. 平成11年度福井水試事報, 63-69.
- 山田洋雄・倉有里恵一 (2001) 栽培養殖水産動物防疫対策事業. 平成12年度福井水試事報, 43-46.
- 山田久 (1997) 日本沿岸域の海洋汚染状況とその対策. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):263-278.
- 山田久 (2000) 流出油の海洋における挙動と水生生物に及ぼす影響, 流出油の海洋生態系に及ぼす影響調査法. 瀬戸内海水研調査研究叢書, (1):5-18.
- 山田真知子 (1990) 洞海湾の水質汚染の進行と水質回復途上における生物相の変遷. 瀬戸内海科学, 2(1):52-58.
- 山田正彦 (1996) 日本漁業-大転換の時代. 興陽館書店, 311 pp.
- YAMADA S., TANAKA Y., SAMECHIMA M. and Y.ITO (1990) Pigmentation of prawn(*Penaeus japonicus*) with carotenoids-I. Effect of dietary astaxanthin, β -carotene and canthaxanthin on pigmentation. Aquaculture, 87(3-4):323-330.
- 山田達夫・安部昌明・向井龍男 (1993) 種苗生産事業. 平成4年度香川水試事報, 53-57.
- 山田達夫・一色正・安部昌明 (1994) 種苗生産事業. 平成5年度香川水試事報, 77-80.
- 山田達夫・一色正 (1995) 種苗生産事業. 平成6年度香川水試事報, 79-82.
- 山田達夫・宮川昌志・一色正 (1996) 種苗生産事業. 平成7年度香川水試事報, 85-88.
- 山田梅芳・白井滋・入江隆彦・時村宗春・鄧思明・鄭元甲・金容億・金英燮 (1995) 東シナ海・黄海魚名図鑑. 海外漁業協力財団, 288 pp.
- 山田純三郎 (1964) 東海黄海の底ひき網漁船の主要魚種の漁獲について. 西海区水研. 底魚資源調査研究連絡, (29):1-66.
- 山田純三郎 (1964) 以西底ひき網漁船の昼夜別漁獲について. 底魚資源調査研究連絡, (33):1-20.
- 山田純三郎(1966) 東海黄海の底曳網漁船のひき網時間と漁獲との関係について. 底魚資源調査研究連絡, (38):1-33.
- 山田純三郎 (1974) 東海黄海の底ひき網漁船の漁獲について-II. 魚群の銘柄別遊泳層と生態, 漁獲資源の経年比較. 底魚資源調査研究連絡, (69):1-43
- 山形県漁業協同組合酒田支所 (1988) 陸上水槽を利用したクルマエビ中間育成について. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録. 第2分冊, 104-105.
- 山形県栽培漁業センター (2000) 種苗生産実績. 平成8・9・10年度山形栽セ業報, 6-7.
- 山形県栽培漁業センター (2000) 種苗供給実績. 平成8・9・10年度山形栽セ業報, 8-10.
- 山形陽一・神谷直明・小泉勝 (1993) 海洋牧場実践化事業. 平成4年度三重水技事報, 9-13.
- 山口勝己 (1992) 色素. 鴻巣章二・橋本周久編, 水産利用化学. 恒星社厚生閣. 新水産学全集, pp.139-160.
- 山口県 (1971) 昭和45年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書, 1-45.
- 山口県 (1976) 放流および追跡調査. 昭和50年度放流技術開発事業クルマエビ班総括報告書, 9-10.
- 山口県 (1985) 組織的調査研究活動推進事業. 昭和59年度山口外海水試事報, 52-62.
- 山口県外海水産試験場 (1985) 油谷湾の水産開発調査(地域保全開発調査事業). 昭和49年度山口外海水試事報, 60-69.
- 山口県殖生漁業協同組合 (1987) 放流事業に取り組んで. 全漁連, 漁村青壮年婦人活動30余年の記録. 第1分冊, 136-137.
- 山口県内海栽培漁業センター (1977) クルマエビの種苗生産. 昭和50年度山口内海栽セ事報, 1-2.
- 山口県内海栽培漁業センター (1977) クルマエビの養殖. 昭和50年度山口内海栽セ事報, 17.
- 山口県内海栽培漁業センター (1977) クルマエビ種苗生産用大型水槽新設. 昭和50年度山口内海栽セ事報, 18-19.

- 山口県内海栽培漁業センター (1978) 昭和 51 年度クルマエビの種苗生産事業. 昭和 51・52 年度山口内海栽セ事報, 1-2.
- 山口県内海栽培漁業センター (1978) 昭和 51 年度クルマエビの養殖事業. 昭和 51・52 年度山口内海栽セ事報, 19.
- 山口県内海栽培漁業センター (1978) 昭和 52 年度クルマエビの種苗生産事業. 昭和 51・52 年度山口内海栽セ事報, 23-25.
- 山口県内海栽培漁業センター (1978) 昭和 52 年度クルマエビの養殖事業. 昭和 51・52 年度山口内海栽セ事報, 41.
- 山口県内海栽培漁業センター (1979) クルマエビの種苗生産事業. 昭和 53 年度山口内海栽セ事報, 1-2.
- 山口県内海栽培漁業センター (1979) クルマエビ養殖事業. 昭和 53 年度山口内海栽セ事報, 18.
- 山口県内海栽培漁業センター (1984) 昭和 56 年度クルマエビ種苗生産事業. 昭和 56・57 年度山口内海栽セ事報, 1-5.
- 山口県内海栽培漁業センター (1984) 昭和 56 年度クルマエビ中間育成事業. 昭和 56・57 年度山口内海栽セ事報, 6-7.
- 山口県内海栽培漁業センター (1984) 昭和 57 年度クルマエビ種苗生産事業. 昭和 56・57 年度山口内海栽セ事報, 41-45.
- 山口県内海栽培漁業センター (1985) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 58 年度山口内海栽セ報, 4-7.
- 山口県内海栽培漁業センター (1986) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 59 年度山口内海栽セ報, 4-7.
- 山口県内海栽培漁業センター (1987) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 60 年度山口内海栽セ報, 1-5.
- 山口県内海水産試験場 (1964) 昭和 38 年度種苗生産技術研究(クルマエビ・クロダイ・ウマヅラハギ). 指定試験研究結果報告書.
- 山口県内海水産試験場 (1963) 昭和 37 年度種苗生産技術研究(クルマエビ). 指定試験研究結果報告書.
- 山口県内海水産試験場 (1962) 昭和 36 年度種苗生産技術研究(クルマエビ). 指定試験研究結果報告書.
- 山口県内海水産試験場 (1967) クルマエビ種苗放流追跡調査資料[I]. 1-14.
- 山口県内海水産試験場 (1969) 新餌料開発試験研究(クルマエビ用人工配合餌料). 昭和 43 年度指定試験研究.
- 山口県内海水産試験場 (1969) 昭和 45 年度クルマエビ種苗放流実践漁場設定調査中間報告書, 1-22.
- 山口県内海水産試験場 (1970) 池中養殖試験.1.クルマエビ. 昭和 44 年度山口内海水試年報, 2-3.
- 山口県内海水産試験場 (1970) 新餌料開発試験研究(クルマエビ用人工配合餌料). 昭和 44 年度指定試験研究.
- 山口県内海水産試験場 (1970) 新餌料開発試験研究(クルマエビ用人工配合餌料). 昭和 44 年度山口内海水試年報, 3-4.
- 山口県内海水産試験場 (1970) 瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査. 昭和 44 年度山口内海水試年報, 11-12.
- 山口県内海水産試験場 (1971) 新餌料開発試験研究(クルマエビ用人工配合餌料). 昭和 45 年度指定試験研究.
- 山口県内海水産試験場 (1971) 新餌料開発研究(クルマエビ用人工配合餌料). 昭和 45 年度山口内海水試年報, 3-4.
- 山口県内海水産試験場 (1971) 瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査. 昭和 45 年度山口内海水試年報, 15-16.
- 山口県内海水産試験場 (1971) 赤潮発生状況ならびに実態調査. 昭和 45 年度山口内海水試年報, 17-18.
- 山口県内海水産試験場 (1971) 技術指導.3.クルマエビ養殖関係. 昭和 45 年度山口内海水試年報, 24.
- 山口県内海水産試験場 (1971) クルマエビの低かん水に対する抵抗試験. 昭和 45 年度瀬戸内海栽培漁業実践漁場設定調査報告書.
- 山口県内海水産試験場・福岡県豊前水産試験場・大分県浅海漁業試験場 (1971) クルマエビ配合飼料研究の総まとめ. 新飼料開発研究報告書, 1-20.
- 山口県内海水産試験場・福岡県豊前水産試験場・鹿児島県水産試験場 (1971) クルマエビ配合飼料研究の総まとめ. 新飼料開発研究報告書, 1-20.
- 山口県内海水産試験場 (1973) クルマエビ・ガザミ養殖試験. 昭和 47 年度山口内海水試年報, 5.
- 山口県内海水産試験場 (1973) 浅海域における増養殖漁場の開発に関する総合研究. 昭和 47 年度山口内海水試年報, 11.
- 山口県内海水産試験場 (1973) 赤潮生物によるクルマエビ幼生飼育試験. 昭和 45 年度山口内海水試年報, 19.
- 山口県内海水産試験場 (1973) クルマエビの病害調査研究. 昭和 45 年度山口内海水試年報, 24.
- 山口県内海水産試験場 (1975) クルマエビ幼期中腸腺白濁症(仮称)に関する研究. 昭和 49 年度指定調査研究総合助成事業病害研究結果報告書, 1-18.
- 山口県内海水産試験場 (1976) 昭和 50 年度放流技術開発事業(クルマエビ)報告書(山口県), 1-28.
- 山口県内海水産試験場 (1976) 昭和 50 年度放流技術開発事業. クルマエビ班総括報告書(3 県), 29-40.
- 山口県内海水産試験場 (1977) 各県報告.山口県. 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ班報告書, 1-19.
- 山口県内海水産試験場 (1977) 昭和 51 年度放流技術開発事業. クルマエビ班総括報告書(3 県), 1-11.
- 山口県内海水産試験場 (1977) 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ総合報告書, 山口県,1-19.
- 山口県内海水産試験場 (1977) 大型種苗の放流効果. 昭和 51 年度放流技術開発事業クルマエビ総合報告書, 山口県, 17-18.
- 山口県内海水産試験場 (1980) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 54 年度山口内海水試年報, 11-12.
- 山口県内海水産試験場 (1980) 養殖魚の病害発生状況. 昭和 54 年度山口内海水試年報, 18.
- 山口県内海水産試験場 (1980) クルマエビ養殖場環境調査. 昭和 54 年度山口内海水試年報, 19-20.
- 山口県内海水産試験場 (1981) 漁業生産形態の変化. 昭和 55 年度山口内海水試年報, 15.
- 山口県内海水産試験場 (1981) 大島地先幼稚仔保育場造成事業調査. 昭和 55 年度山口内海水試年報, 17-19.

- 山口県内海水産試験場 (1981) 赤潮発生状況調査. 昭和 55 年度山口内海水試年報, 20.
- 山口県内海水産試験場 (1981) クルマエビ養殖場環境調査. 昭和 55 年度山口内海水試年報, 24-25.
- 山口県内海水産試験場 (1981) 養殖魚等の病害発生状況. 昭和 55 年度山口内海水試年報, 25-26.
- 山口県内海水産試験場 (1982) 山口県および周防灘隣接海域におけるクルマエビ種苗放流の生産効果について. 山口内海水試報, (10):1-51.
- 山口県内海水産試験場 (1982) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 56 年度山口内海水試年報, 21-22.
- 山口県内海水産試験場 (1983) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 57 年度山口内海水試年報, 23-24.
- 山口県内海水産試験場 (1983) 養殖クルマエビの病害防除に関する研究. 昭和 57 年度山口内海水試年報, 24-25.
- 山口県内海水産試験場 (1993) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (12):14.
- 山口県内海水産試験場 (1984) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 58 年度山口内海水試年報, 29.
- 山口県内海水産試験場 (1984) 養殖クルマエビの病害防除に関する研究. 昭和 57 年度山口内海水試年報, 29-30.
- 山口県内海水産試験場 (1985) 赤潮発生状況調査. 昭和 59 年度山口内海水試年報, 22.
- 山口県内海水産試験場 (1985) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 59 年度山口内海水試年報, 25.
- 山口県内海水産試験場 (1985) 種苗生産時の病害の研究(クルマエビの病害に関する研究). 昭和 59 年度山口内海水試年報, 27-28.
- 山口県内海水産試験場 (1986) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 60 年度山口内海水試年報, 12.
- 山口県内海水産試験場 (1986) 種苗生産時の病害の研究(クルマエビの病害に関する研究). 昭和 60 年度山口内海水試年報, 28-30.
- 山口県内海水産試験場 (1987) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 61 年度山口内海水試年報, 16.
- 山口県内海水産試験場 (1987) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 61 年度山口内海水試年報, 31.
- 山口県内海水産試験場 (1987) 種苗生産時の病害の研究(クルマエビの病害に関する研究). 昭和 61 年度山口内海水試年報, 31-32.
- 山口県内海水産試験場 (1988) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 62 年度山口内海水試年報, 17.
- 山口県内海水産試験場 (1988) 漁業高度管理適正化方式開発調査. 昭和 62 年度山口内海水試年報, 18-19.
- 山口県内海水産試験場 (1988) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 62 年度山口内海水試年報, 34.
- 山口県内海水産試験場 (1988) 種苗生産時の病害の研究(クルマエビの BMN). 昭和 62 年度山口内海水試年報, 34-36.
- 山口県内海水産試験場 (1990) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 昭和 63 年度山口内海水試年報, 17.
- 山口県内海水産試験場 (1990) 漁業高度管理適正化方式開発調査事業. 昭和 63 年度山口内海水試年報, 17-18.
- 山口県内海水産試験場 (1990) 魚介類大量減耗原因対策調査事業. 昭和 63 年度山口内海水試年報, 25-29.
- 山口県内海水産試験場 (1990) 養殖魚介類の病害発生状況. 昭和 62 年度山口内海水試年報, 35.
- 山口県内海水産試験場 (1990) 特定魚種の病害に関する研究-クルマエビの BMN. 昭和 63 年度山口内海水試年報, 35-36.
- 山口県内海水産試験場 (1992) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 2 年度山口内海水試年報, 13.
- 山口県内海水産試験場 (1992) 飼料微細藻類大量培養技術開発試験. 平成 2 年度山口内海水試年報, 33-34.
- 山口県内海水産試験場 (1992) 養殖魚介類の病害発生状況. 平成 2 年度山口内海水試年報, 35.
- 山口県内海水産試験場 (1992) 新しい品種の病害防除の研究 (クルマエビのビブリオ病). 平成 2 年度山口内海水試年報, 35-36.
- 山口県内海水産試験場 (1992) クルマエビ. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (11):13-14.
- 山口県内海水産試験場 (1993) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査. 平成 3 年度山口内海水試年報, 9.
- 山口県内海水産試験場 (1993) 養殖魚介類の病害発生状況. 平成 3 年度山口内海水試年報, 30.
- 山口県内海水産試験場 (1994) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (12):13.
- 山口県内海水産試験場 (1995) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (14):12.
- 山口県内海水産試験場 (1996) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (15):13-14.
- 山口県内海水産試験場 (1997) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (16):14-15.
- 山口県内海水産試験場 (1998) 魚類増養殖の実態. 南西海ブロック魚類増養殖研究情報, (17):14-15.
- 山口県栽培漁業センター (1996) 種苗生産事業の概要. 平成 5・7 年度山口栽セ事報, 1-7.
- 山口県栽培漁業センター (1998) 種苗生産計画と配布実績. 平成 7・8 年度山口栽セ事報, 4.
- 山口県栽培漁業センター (1999) 種苗の生産計画と配布実績. 平成 9 年度山口栽セ事報, 4.
- 山口県栽培漁業センター (2000) 種苗の生産計画と配布実績. 平成 10 年度山口栽セ事報, 4.
- 山口県栽培漁業センター (2001) 種苗の生産計画と配布実績. 平成 11 年度山口栽セ事報, 4.
- 山口県水産研究センター内海研究部・養殖編集部 (2001) 新手法で資源回復を狙う-独自の先進技術で特産化. 養殖, 34(12):45-48.
- 山口県水産種苗センター (1973) 事業種別の概要.クルマエビ種苗生産. 昭和 40~47 年度山口水産種苗セ事報, 3-4.
- 山口県水産種苗センター (1973) 事業種別の概要.コウライエビ種苗生産. 昭和 40~47 年度山口水産種苗セ事報, 4.
- 山口県水産種苗センター (1974) クルマエビ種苗生産. 昭和 48 年度山口水産種苗セ事報, 1-3.

- 山口県水産種苗センター (1974) クルマエビの養殖. 昭和 48 年度山口水産種苗セ事報, 11.
- 山口県水産種苗センター (1975) クルマエビ種苗生産. 昭和 48 年度山口水産種苗セ事報, 1-2.
- 山口県水産種苗センター (1974) クルマエビの養殖. 昭和 48 年度山口水産種苗セ事報, 16.
- 山口清敏・中村靖・山崎寛 (1969) 沿岸重要魚種生態,採捕調査. 昭和 69 年度愛媛水試事報, 13-44.
- 山口恭弘 (1995) 沿岸漁業の研究.水産県長崎における沿岸漁業の現状と課題. 水産の研究, 14(1):38-47.
- 山口義昭 (1967) 小型底びき網より脱網する漁獲物の大きさについて. 内海区水研刊行物 C 輯, (5-6):39-58.
- 山口義昭・伊東弘 (1981) 瀬戸内海における小型エビ類の種組成の変化. 昭和 55 年度 GSK 西日本底魚部会報, 6-15.
- 山口好一・金子英二郎 (1990) クルマエビ量産技術向上研究. 昭和 63 年度新潟栽セ業研報, 63.
- 山口隆男 (1993) シーボルトと日本の博物学-甲殻類. 日本甲殻類学会, 731 pp.,24pls.
- 山洞仁・大内史朗・鎌田稔 (1972) 昭和 46 年度日本海栽培漁業漁場資源生態調査報告書(マダイ・クルマエビ). 山形水試資料, (83):1-53.
- 山路勇 (1979) 伊勢・三河湾の生物群集. 沿岸海洋研究ノート, 16(2):128-145.
- 山路勇 (1985) 伊勢湾・三河湾.生物. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会編, 日本全国沿岸海洋誌. 東海大学出版会, pp.547-559.
- 山川健重 (1970) タイの水産あれこれ. 東海区水研. さかな, (5):21-29.
- 山川健重 (1981) 水産研究の現状と展望. 水産振興, 15(4):1-23.
- 山本明子・近藤昌和・高橋幸則 (2000) クルマエビ顆粒球の各種異物に対する反応. 平成 12 年度日本水産学会中国四支部大会講演要旨.
- 山本宏 (1986) 最新養魚飼料. クルマエビ用飼料の実際. 養殖(臨時増刊), 23(12):76-79.
- 山本博敬・青海忠久・松本昌和 (1978) ニフルスチレン酸ナトリウムのクルマエビ中腸腺白濁症防除の効果. 長崎水試研報,(4):57-64.
- 山本博敬 (1979) クルマエビ種苗の中腸腺白濁症. 養殖, 16(2):104-106.
- 山本克己 (1966) 共済シリーズ⑤. はまち養殖のあらまし(1). 養殖, 3(1):45-46.
- 山本健吉 (1986) 山本健吉基本季語 500 題. 講談社, 1018 pp.
- 山本和平・原田俊秀 (1968) 磯根資源調査(クルマエビ放流効果追跡調査). 昭和 42 年度指定調査研究総合助成事業効果報告書.
- 山本清二 (1938) 養殖前後に於けるクルマエビの体長と体重の関係. 水産研究誌, 33(5):204-208.
- 山本圭介 (1994) 東シナ海・黄海のエビ類相(夏季). 西海ブロック底魚調査研究会報, (5):12-23.
- 山本浩一 (1989) 東南アジア漁業視察記(2). 伊豆分場だより, (236):13-17.
- 山元宣征・立石賢・池田義弘・与賀田稔久・森勇 (1981) 栽培漁業推進総合調査(クロダイ). 昭和 54 年度長崎水試事報,19-36.
- 山本正三 (1936) 大島産,海藻・魚・蝦蟹類に就いて. 水産研究誌, 31(11):649-653.
- 山本章造 (1993) 平成 4 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (8):75-77.
- 山本章造 (1994) 平成 5 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (9):157-159.
- 山本章造 (1995) 平成 6 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (10):190-192.
- 山本章造 (1996) 平成 7 年度栽培漁業センター業務概要. 岡山水試報, (11):130-132.
- 山本正・市村武美・田地野直哉・石川雄介 (1960) クルマエビ養殖池における暗渠排水の目的,施工およびその効果について. 水産増殖, 8(2):133-137.
- 山本忠 (1986) アセアン諸国の漁業.国際漁業研究会編, 国際魚御意の研究. 恒星社厚生閣, pp.11-56.
- 山本強・柄多哲・中村一男・金尾博和・柴田忠士 (1985) クルマエビ,ガザミ種苗生産期の餌料生産(クロレラ,ワムシ)について. 昭和 58 年度兵庫水試事報, 250-256.
- 山本強・柄多哲・中村一男・金尾博和・柴田忠士 (1986) クルマエビ,ガザミ種苗生産期の餌料生産(クロレラ,ワムシ)について. 昭和 59 年度兵庫水試事報, 345-349.
- 山本義久・砂子剛 (1987) クルマエビ種苗生産. 昭和 61 年度静岡温水研業報, 39-46.
- 山本義久・砂子剛 (1989) クルマエビ種苗生産. 昭和 62 年度静岡温水研業報, 52-61.
- 山本義久・砂子剛 (1990) クルマエビ種苗生産. 昭和 63 年度静岡温水研業報, 45-53.
- 山村雅雄・谷田圭亮 (2001) 瀬戸内海東ブロックにおけるクルマエビの共同放流効果把握調査について. 放流効果調査事例検討会資料集.協会検討資料, (79):43-48.
- 山中義一 (1956) 底曳網漁業の一般的現況. 日本海区水研研報, (4):33-41.
- 山中英明・菊池武昭・天野慶之 (1977) 亜硫酸塩処理エビ中の二酸化イオン残存とホルムアルデヒド生成に関する研究. 日水誌, 43(1):115-120.
- 山中英明 (1994) さかなと有害物質. 東京水大第 8 回公開講座編集委員会編, 暮らしとさかな-水産食品読本. 成山堂書店, pp.252-268.
- 山中英明 (1998) 魚介類の死後変化. 渡邊悦生編, 魚介類の鮮度と加工・貯蔵-改訂版. 成山堂書店, pp.1-27.
- 山中英明・藤井建夫・塩見一雄 (1999) 食品衛生学. 恒星社厚生閣, 256 pp.

- 山根史裕・徳沢秀渡・上谷和功・岩本仁司 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 11 年度三重栽セ・尾鷲栽セ事報, 25-27.
- 山根史裕・磯和潔・上谷和功・島田和 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 12 年度三重栽セ・尾鷲栽セ事報, 26-28.
- YAMANE T. and E.E.C.FLORES (1989) Evaluation of the catching efficiency of small pots for prawns. Fisheries Res., 8, 81-91.
- YAMANO K., KIMURA T. and K.INOUE (1997) PCR diagnosis of acute viremia(PAV). INUI Y.ed., New Approaches to the Viral Diseases of Aquatic Animals. NRIA International Workshop.Natl.Res.Inst.Aquacult., pp.237-241.
- 山尾政博 (1999) アジア経済危機と水産業-タイ水産業の成長と葛藤. 漁業経済研究, 44(2):73-107.
- 山崎明人・目黒清美・佐藤新 (1987) 東京湾産クルマエビの生態に関する研究-I. 標識放流による盤洲干潟からの移動経路の推定. 千葉水試研報, (45):23-26.
- 山崎明人 (1987) 東京湾盤洲干潟からのクルマエビの移動. 水産技術と経営, 33(11):38-41.
- 山崎明人・佐藤新 (1988) 東京湾産クルマエビの生態に関する研究-II. 標識放流による富津干潟からの移動経路および成長の推定. 千葉水試研報, (46):9-14.
- 山崎明人 (1990) クルマエビ中間育成における飼育密度と投入餌料量の違いが成長と生殖に及ぼす影響. 千葉水試研報, (48):85-91.
- 山崎明人・鈴木達也 (1990) データベース構築用ソフトウェアの利用による水産研究関連情報の整理と活用. 千葉水試研報, (48):103-123.
- 山崎明人 (1992) 漁獲情報のフロッピーディスクによる収集とデータベースの構築・運用. 千葉水試研報, (50):63-77.
- 山崎寛・出口修身・中村靖・他 8 名 (1965) 宇和海における未利用資源調査. 昭和 39 年度愛媛水試事報, 15-30.
- 山崎和久・谷川貴之・荒井才智・西田正昭 (1992) 魚種別種苗生産.2.クルマエビ. 平成 3 年度愛媛栽セ業報, 13-15.
- 山崎幸夫・富永敦 (1995) 資源管理情報システム推進事業. 平成 5 年度茨城水試事報, 99-116.
- 山崎幸夫・富永敦・二平章・堀義彦 (1996) 資源管理情報システム推進事業. 平成 6 年度茨城水試事報, 134-139.
- 山崎繁久・宇杉隆臣・平田八郎 (1981) シオミズツボワムシの給餌によるクルマエビ幼生の飼育. 鹿大水産紀要, (30):289-294.
- 山崎繁久・平田八郎 (1982) Rearing of the prawn, *Penaeus japonicus*, fed on frozen and living rotifers. Min.Rev.Data File. Fish.Res., (2):87-89.
- 山崎繁久・FAUZAN Ali・平田八郎 (1997) Low water pollution rearing by means of polyculture of larvae of kuruma prawn *Penaeus japonicus* with a sea lettuce *Ulva pertusa* (英文・短報). Fish. Sci., 63(6):1046-1047.
- 山下秀夫 (1970) 昭和43・44年度以西主要底魚類の再生機構調査報告. 4.底魚生物の調査. 西海区水研. 底魚資源調査研究連絡, (64):54-58.
- 山下弘文 (1994) 干潟とラムサール条約. 水産振興, 27(19):1-58.
- 山下浩史・河野芳巳 (1998) PCR 方による PRDV 陽性の飼料を用いたクルマエビ(*Penaeus japonicus*)攻撃実験. 平成 10 年度魚病学会春季大会講演要旨, p.3.
- 山下欣二 (1995) 甲殻類の歴史動物学(10).エビ類①. 海洋と生物, 17(4):290-297.
- 山下欣二 (1996) 甲殻類の歴史動物学(11).エビ類②. 海洋と生物, 18(1):47-55.
- 山下武志・尾脇満雄 (1995) 資源管理型漁業推進総合対策事業(天然資源;コウイカ). 平成 6 年度熊本水研事報, 37-38.
- 山下武志・尾脇満雄・木村武志・平田郁夫 (1996) 資源管理型漁業推進総合対策事業(天然資源;コウイカ). 平成 7 年度熊本水研事報, 42-51.
- 山下洋一 (1997) クルマエビ種苗生産. 平成 7 年度大分漁業公社事報, 3-5.
- 山下洋一 (1998) クルマエビ種苗生産. 平成 8 年度大分漁業公社事報, 3-5.
- 山下洋一 (1999) クルマエビ種苗生産. 平成 9 年度大分漁業公社事報, 3-5.
- 山下洋一 (2000) クルマエビ種苗生産. 平成 10 年度大分漁業公社事報, 3-5.
- 山下洋一 (2001) クルマエビ種苗生産. 平成 11 年度大分漁業公社事報, 3-5.
- 山下一臣 (1984) 昭和 58 年度ワムシ生産結果. 静岡栽セ. なむら, (22):3-5.
- 山内景樹 (1997) サカナと日本人. 筑摩書房. ちくま新書, (121):1-222.
- 山内謙・鈴木順・稲垣實 (1942) 東京府内湾奥部の生物分布(I). 水産研究誌, 37(5):88-93.
- 山内正一 (1966) クルマエビ種苗生産側からみた放流事業の構想. 第 28 回内海区ブロック会議議事録, 32-37.
- 山崎哲男 (1987) 種苗生産技術. クルマエビ. 養殖(臨時増刊), 24(13):175-179.
- 矢持進・有山啓之・佐野雅基・安部恒久・浦谷文博・大山博 (1994) 重要甲殻類栽培資源管理手法開発調査. 平成 4 年度大阪水試事報, 148-150.
- 矢持進・有山啓之・佐野雅基 (1997) 堺泉北港の水質, 底質, 底生生物, 付着動物などに関する調査. 平成 7 年度大阪水試事報, 169-179.
- 柳田友道 (1976) 赤潮. 講談社, 204 pp.
- 柳田八十三 (1977) クルマエビ漁業の振興について. 昭和 52 年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- 楊叢海 (1997) 中国の海水養殖技術開発と研究の現状と今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):17-25.

- 柳哲雄・菊川智巳 (1995) 瀬戸内海の栽培漁業. 水産海洋研究, 59(3):279-284.
- 柳哲雄 (1996) 魚介類の持続可能な生産のために. 岡市友利・小森星児・中西弘編, 瀬戸内海の生物資源と環境-その将来のために. 恒星社厚生閣, pp.109-129.
- 柳澤豊重・服部克也 (1996) 漁業生産実態調査(ヨシエビ市場調査). 平成7年度愛知水試業報, 10.
- 柳谷弘道 (1981) 専技活動. 昭和54年度広島水試事報, 63.
- 柳谷弘道・高場稔 (1981) 特定水産動物管理事業・調査. 昭和54年度広島水試事報, 67.
- 柳瀬良介 (1993) 第3次静岡県栽培漁業基本計画. 伊豆分場だより, (256):8-15.
- YANG F., WANG W., CHEN R.Z. and X.XU (1997) A simple and efficient method for purification of prawn baculovirus DNA. J.Viral Methods, (67):1-4.
- YANG F., HE J., LIN X., LI Q., PAN D., ZHANG X. and X. XU (2001) Complete genome sequence of the shrimp white spot bacilliform virus. J.Virol., (75):11811-11820.
- YANG W-J., AIDA K. and H.NAGASAWA (1995) Amino acid sequences of a hyperglycemic hormones and its related peptides from the kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 135(1-3):205-212.
- YANG W-J., AIDA K. and H.NAGASAWA (1997) Amino acid sequences and activities of multiple hyperglycemic hormones From the kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. Peptides, (18):479-485.
- 矢野勲 (1982) 水生生物の硬組織④. エビ・カニ類の外皮(1). 海洋と生物, 4(3):200-205.
- YANO I. and H.TANAKA (1984) Effects of Ultraviolet irradiated sea water on induction of spawning of kuruma prawn *Penaeus japonicus*. Bull.Jpn.Soc.Sci.Fish., 50(9):1621.
- YANO I. (1984) Rematuration of spent kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 42(2):179-183.
- YANO I. (1984) Induction of rapid spawning in kuruma prawn, *Penaeus japonicus*, through unilateral eyestalk enucleation. Aquaculture, 40(3):265-268.
- YANO I., SWEENEY J.N., TAMURA C.S. and J.A.WYBAN (1986) Internal tagging method for individual identification of penaeid shrimp. Aquaculture, 56(3-4):317-321.
- YANO I. and Y.CHINZEI (1986) Effects of HCG injection and unilateral eyestalk enucleation on vitellogenin induction in Kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. Proc.Internat.Workshop Marine Shrimp Culture,Venice,Italy.
- YANO I. (1987) Maturation of kuruma prawn(*Penaeus japonicus*) cultured in earthen ponds. NOAA Tech.Rep.NMFS, (47): 3-7.
- YANO I. (1987) Effects of 17 α -hydroxy-progesterone on vitellogenin secretion in kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. Aquaculture, 61(1):49-57.
- YANO I. and Y.CHINZEI (1987) Ovary is the site of vitellogenin synthesis in kurume prawn, *Penaeus japonicus*. Comp. Biochem.Physiol., 86B:213-218.
- YANO I., KANNA R.A., OYAMA R.N. and J.A.WYBAN (1988) Mating behaviour in the penaeid shrimp *Penaeus vannamei*.Marine Biology, 97(2):171-175.
- YANO I. (1988) Oocyte development in the kuruma prawn *Penaeus vannamei*. Marine Biology, (99):547-553.
- 矢野勲 (1988) 交尾・産卵. 1.クルマエビ属. シンポジウム, エビ・カニ類の種苗生産. 昭和63年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.319.
- 矢野勲 (1988) 交尾・産卵. クルマエビ属. 平野禮次郎編, エビ・カニ類の種苗生産. 水産学シリーズ, (71):54-63.
- YANO I. (1988) Oocyte development in the Kuruma prawn *Penaeus japonicus*. Marine Biology, 99:547-553.
- 矢野勲・C.C.JUSTO (1990) クルマエビ類の生態, 生殖および生産周期の現状. J.V.HUNNER & J.V.AVAULT.Jr.編, 世界のエビ類養殖. 緑書房, pp.3-21.
- 矢野勲 (1991) インドネシアのエビ養殖の現状と問題点(上). 養殖, 28(4):106-108.
- 矢野勲 (1991) インドネシアのエビ養殖の現状と問題点(下). 養殖, 28(5):22-24.
- YANO I. and J.A.WYBAN (1992) Induced ovarian maturation of *Penaeus vannamei* by injection of lobster brain extract. Bull.Natl.Res.Inst.Aquaculture,(21):1-7.
- YANO I. (1992) Effect of thoracic ganglion on vitellogenin secretion in Kuruma Prawn, *Penaeus japonicus*. Bull. Natl.Res.Inst.Aquaculture, (21):9-14.
- YANO I. (1992) Hormonal control of reproductive maturation in penaeid shrimp. NOAA Technical Rep.NMFS, (106):7-14.
- YANO I. (1993) Ultra-intensive culture and maturation in captivity of penaeid shrimp. McVEY J.P.ed., CRC Handbook of Mariculture 2nd ed. 1.Crustacean Aquaculture. CRC Press, pp.289-313.
- YANO I. and J.A.WYBAN (1993) Effect of unilateral eyestalk ablation on spawning and hatching in *Penaeus vannamei*. Bull.Natl.Res.Inst.Aquaculture, (22):21-25.
- YANO I. (1995) Osmotic concentration of serum during ovarian maturation in kuruma prawn. Fish.Sci., 61(2):349.
- YANO I. (1995) Final oocyte maturation, spawning and mating in penaeid shrimp. J.Exp.Mar.Biol.Ecol., 193:113-118.

- YANO I. (1995) Maturation and its hormonal control in penaeid shrimp. Proceedings of the First International Symposium on the Efficient Application and Preservation of Marine Biological Resources. Korea, pp.51-65.
- YANO I., KROL R.M., OVERSTREET R.M. and W.E.HAWKINS (1996) Route of egg yolk protein uptake in the oocytes of kuruma prawn, *Penaeus japonicus*. Mar., Biol., (125):773-781.
- YANO I. (1996) Reproductive maturation and its hormonal control in penaeid shrimp. The Asian Science Seminar, Reproductive Biology and Biotechnology in Aquatic Animals-Asia '96.
- YANO I. and N.ITAKURA (1996) Neuroendocrine control of vitellogenin synthesis in kuruma prawn, *Penaeus japonicus*, ovaries in vitro. The 6th Colloquium of Crustacea Decapod Mediterranean. Italy.
- 矢野勲・M.T.RUCHIMAT・T.SUTARMAT・TRIDJOKO・S.LANTE・J.H.HUTAPEA・牧之段貞治・久間千秋 (1996) ウシエビの成熟と産卵に及ぼすビタミンEの効果(英文). 水産増殖, 44(4):497-502.
- YANO I. and H.YOTSUBASHI (1997) Effects of ovarian extract on the growth of ovarian wall cells from kuruma prawn(短報). Fish.Sci., 63(6):1042-1043.
- YANO I. (1997) Effects of ovarian extract on the growth of ovarian wall cells from kuruma prawn. Fish.Sci., 63(6):1042-1043.
- 矢野勲 (1997) エビ,カニ類の外皮の構造と形成. 化学と生物, 15:328-336.
- 矢野勲 (1999) 母細胞の凍結保存(クルマエビ). 水産生物の遺伝的多様性の評価及び保存に関する技術マニュアル. 水産庁委託漁業新技術開発試験事業.平成 6-10 年度総合報告書. 日本水産資源保護協会, pp.192-196.
- 矢野勲 (1999) 受精卵,胚,幼生の耐凍処理と凍結保存(クルマエビ). 水産生物の遺伝的多様性の評価及び保存に関する技術マニュアル. 水産庁委託漁業新技術開発試験事業. 平成 6-10 年度総合報告書. 日本水産資源保護協会, pp.241-244.
- 矢野勲 (2000) 循環濾過システムを利用した閉鎖系における SPF クルマエビの親養成. 第 3 回国際学術後援会, 水産養殖の新たなパラダイムⅢ.
- 矢野勲 (2000) Cultivation of broodstock in closed recirculating system in specific pathogen free(SPF) penaeid shrimp. 水産増殖, 48(2):249-257.
- YANO I. (2000) Endocrine control of reproductive maturation in penaeid shrimp.FINGERMAN M.& NAGABHUSHANAM eds., Recent Advances in Marine Biotechnology. Science Publishers,Inc., pp.161-176.
- 矢野勲 (2000) 海水浄化技術を利用した SPF 親エビ養殖技術. 養殖, 37(10):90-93.
- YANO I. (2000) Reproductive maturation of specific pathogen free penaeid shrimp in a recirculating system., Proceedings of the Six International Symposium on the Efficient Application and Preservation of Marine Biological Resources. China, pp.11-23.
- YANO I., TAHARA D. and K.NAKANO (2001) Vitellogenin movements in ovary and vitellin accumulation in oocytes during a period of primary and secondary vitellogenesis in penaeid shrimp. Fifth International Crustacean Congress., Australia.
- 矢野勲 (2001) クルマエビ類養殖における微生物利用の新展開. 養殖, 38(12):90-95.
- 矢野和弘 (1998) おいしい魚選びのコツ. ジャパン・ミックス社.
- 矢野實 (1974) 瀬戸内海における底魚漁業の経過と問題点. 昭和 48 年度 GSK 西日本底魚部会報, 56-57.
- 矢野實 (1974) 瀬戸内海における底魚資源研究の経過, 現状と問題点. 昭和 48 年度 GSK 西日本底魚部会報, 57-59.
- 八坂茂 (1955) 甲殻類並びにカブト蟹の筋肉蛋白の研究-I. 車蝦の筋肉蛋白(Crustacean proteid)の研究. 長崎大水産研報,(3):25-28.
- 八坂茂・宮原昭二郎・田端義明 (1955) 甲殻類並びにカブト蟹の筋肉蛋白の研究-II. 伊勢海老・くま蝦・さる蝦・あか蝦・とら蝦等の諸蝦, がざみ並にかぶと蟹の筋肉蛋白の研究. 長崎大水産研報, (3):29-38.
- 八坂茂・宮原昭二郎 (1955) 魚族肉汁に対する竹の成分の作用に関する研究(第 1 報). 長崎大水産研報, (3):49-53.
- 安田富士郎 (1970) 台湾のエビと錦鯉の養殖. 養殖, (9):58-59.
- 安田広志 (1999) クルマエビ種苗生産(平成 8 年度). 平成 8・9 年度宮崎栽協事報, 27-29.
- 安田広志 (1999) クルマエビ種苗生産(平成 9 年度). 平成 8・9 年度宮崎栽協事報, 70-72.
- 安田広志・大山剛・大木雅彦・稲野俊直・中川豊・成原淳一・米村輝一郎・荒武久道 (2000) 宮崎県下に発生した魚病について. 平成 10 年度宮崎水試事報, 270-278.
- 安田広志・大山剛・吉田照豊 (2001) ウイルス性疾病防疫対策推進事業. 平成 11 年度宮崎水試事報, 194-196.
- 安田治三郎 (1956) 内湾における蝦類の資源生物学的研究-II. 各論,各種類の生態に関する研究. 内海水研研報, (9):1-81.
- 安田治三郎 (1956) エビ方言集(瀬戸内海ブロック会議資料). 内海区水研, 12pp.
- 安田治三郎・鈴木正也・篠岡久夫 (1957) 瀬戸内海のエビ漁業の合理化に関する研究-I. 干潟に依存するエビ類に関する研究.特にクルマエビについて. 内海区水研研報, (10):20-27.
- 安田治三郎・篠岡久夫・小林歌男 (1957) 瀬戸内海のエビ漁業の合理化に関する研究-II. エビ類の種類,分布,移動並びに組成に就いて. 内海水研研報, (10):28-36.

- 安田治三郎 (1964) 最近における内海資源の動向. 栽培漁業, 1(2):10-14.
- 安田公昭・多賀信夫 (1978) 餌料細菌を用いるクルマエビ幼生の飼育-I. 昭和 53 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.10.
- YASUDA K. and T.KITAO (1980) Bacterial flora in the digestive tract of prawns, *Penaeus japonicus* BATE. Aquaculture, 19(3):229-234.
- 安田徹 (1971) 放流稚エビの食害調査-磯根資源調査報告書. 福井水試研報, (56):24-29.
- 安積徹・近藤昌和・前田稔・伊丹利明・高橋幸則 (1998) クルマエビリンパ様器官細胞のPRDVに対する感受性. 平成 10 年度日本魚病学会春季大会講演要旨, p.3.
- 安井敬一・中村光雄 (1987) メキシコ湾におけるえび漁獲量と気象との関係. 水産海洋研究会報, 51(4):357-363.
- 安元進・上田拓・梅本敬人・有吉敏和・皆川恵 (1997) 有明海・橘湾(天草海)におけるクルマエビの生態-IV. 同海域における生活史. 平成 9 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.65.
- 安村昭・上城義信・横松芳治 (1983) 沿岸重要貝類分布調査. 昭和 56 年度大分浅海事報, 70-75.
- 安村昭・田染博章・国武和人・上城義信・石川佑司・吉武肇・窪田史朗 (1983) 藻場保護水面調査(日出地区). 昭和 56 年度大分浅海事報, 83.
- 安村昭・上城義信・横松芳治・安東欣二 (1983) 沿岸重要貝類分布調査. 昭和 57 年度大分浅海事報, 41-62.
- 安村昭・上城義信・横松芳治・安東欣二 (1983) 海洋生物資源の生産能力と海洋環境に関する研究. 魚類等をめぐる生態系に関する研究. 昭和 57 年度大分浅海事報, 84-99.
- 安村長 (1964) 山口県内海における漁業の重要魚種稚魚採捕に関する調査. 山口内海水試調研業績, 14:1-59.
- 安村長・長谷川彰 (1964) 大海湾におけるクルマエビ資源利用の合理化に関する研究. 山口内海水試調研業績, 15(2):1-41.
- 安村長 (1988) キャンパス水槽によるクルマエビ中間育成放流. さいばい, (45):4-7.
- 安永統男 (1978) 1977 年クルマエビ種苗のいわゆる中腸腺白濁症から分離した菌株の性状. 長崎水試研報, (4):71-76.
- 安永統男・山本博敬・畑井喜司雄・小川七朗・安元進 (1981) 昭和 54 年度魚病調査試験概要. 昭和 54 年度長崎水試事報, 207-211.
- 安永義暢 (1970) 種苗量産技術の現状と問題点. 東海区水研. さかな, (6):39-47.
- 安永義暢 (1979) 日本海沿岸におけるクルマエビ種苗放流技術開発のための基礎的研究. 日本海区水研研報, (30):67-96.
- 安永義暢・輿石裕一 (1980) 日本海沿岸におけるクルマエビ種苗放流追跡調査上の基礎的考察. 日本海区水研研報, (31):129-151.
- 安永義暢・輿石裕一・田中邦三・赤嶺達郎 (1981) 砂浜性海岸におけるクルマエビ種苗放流時の減耗に関する基礎的考察. 日本海区水研研報, (32):27-38.
- 安永義暢・浮永久 (1993) 養殖生産技術に関するデータ. 養殖(臨時増刊), 30(8):56-99.
- 安中健児 (1957) 豊前海の漁業試験. 昭和 31 年度福岡豊前水試事報, 2-38.
- 安信秀樹・川村芳浩・魚住香織 (1997) 魚病実態把握指導事業. 平成 7 年度兵庫水試事報, 175-180.
- 安信秀樹・川村芳浩・魚住香織 (1997) 海産魚類における魚病発生状況-XII. 平成 7 年度兵庫水試事報, 180-183.
- 安信秀樹・魚住香織 (1998) 海産魚類における魚病発生状況-XIII. 平成 8 年度兵庫水試事報, 67-68,196-197.
- 安信秀樹・魚住香織 (1998) クルマエビのウイルス検査. 平成 8 年度兵庫水試事報, 69.
- 安信秀樹・魚住香織 (1999) 海産魚類における魚病発生状況-XIV. 平成 9 年度兵庫水試事報, 61-62,221-223.
- 安信秀樹・魚住香織 (1999) クルマエビのウイルス検査. 平成 8 年度兵庫水試事報, 63.
- 安信秀樹・魚住香織 (2000) 海産魚類における魚病発生状況-XV. 平成 10 年度兵庫水試事報, 55-56,194-195.
- 安信秀樹・魚住香織 (2000) 海産魚類における魚病発生状況-XVI. 平成 11 年度兵庫水試事報, 57-58,205-206.
- 安信秀樹・魚住香織 (2000) 海産魚類における魚病発生状況-XVII. 平成 12 年度兵庫水試事報, 61-62,177-178.
- 八柳健郎・前川兼佑 (1955) 山口県瀬戸内海における重要生物の生態学的研究.第 8 報. 瀬戸内海産クルマエビ *Penaeus japonicus* BATE の生態. 山口内海水試調研業績, 7(1):1-15.
- 八柳健郎 (1956) 山口県瀬戸内海における重要生物の生態学的研究.第 10 報. 瀬戸内海産クルマエビ *Penaeus semisulcatus* DE-BATE の生態. 山口内海水試調研業績, 8(1):25-38.
- 八柳健郎・宇都宮正・松本梅二 (1975) クルマエビ養殖に関する知見. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告,(3):1-108.
- 八柳健郎・宇都宮正 (1976) クルマエビ養殖池に出現する餌料生物について. 栽培技研, 5(1):11-16.
- 八柳健郎・宇都宮正・田村瀬・藤田義宣・高見東洋 (1977) クルマエビの輸送に関する研究-I.水温と活力との関係について. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告, (5):1-15.
- 八柳健郎・宇都宮正 (1977) クルマエビの輸送に関する研究-II. 空中露出時の生存時間に及ぼす二・三の要因. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告, (5):16-24.

- 八柳健郎・宇都宮正 (1977) クルマエビの輸送に関する研究-Ⅲ. ノコズ詰め輸送時の外気温と活力との関係. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告, (5):25-32.
- 八柳健郎・宇都宮正 (1977) クルマエビの養殖に関する研究. 1.クルマエビ養殖池におけるエアレーションが水温, 溶存酸素量に及ぼす影響. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告, (5):33-37.
- 八柳健郎・宇都宮正 (1977) クルマエビの養殖に関する研究. 2.養殖クルマエビの瘦肥を判別する一方法. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告, (5):38-41.
- 八柳健郎 (1980) 漁獲統計から見た山口県内海側のクルマエビの生態. 山口水産種苗センター栽培漁業技術開発報告, (6):28-55.
- 八柳健郎 (1981) 山口県の内海域における漁業と資源. 山口内海水試報, (9):1-161.
- 八柳健郎 (1982) 山口県および周防灘隣接海域におけるクルマエビ種苗放流の生産効果について. 山口内海水試報, (10):1-52.
- 八柳健郎 (1993) クルマエビ養殖技術の再点検①. 養殖, 30(6):113-115.
- 八柳健郎 (1993) クルマエビ養殖技術の再点検②. 養殖, 30(7):120-123.
- 八柳健郎 (1993) 水質チェックの最新マニュアル(下). クルマエビ養殖. 養殖, 30(9):62-64.
- 八柳健郎 (1993) クルマエビ養殖技術の再点検③. 養殖, 30(9):134-136.
- YE C.C., DENG J.Y. and G.Z.HAN (1984) The problem of the optimum open date, overfishing, fishery management of autumn penaeid shrimp (*Penaeus orientalis*) fishery in Bohai Sea. Marine Fish.Res., (6):85-90.
- YE Changchen (1984) The prawn in Pohai Sea and their fishery. Penaeid shrimps—their biology and management. News Books, Limited Farnham. Surrey. England, 49-60.
- 葉昌臣 (1984) 黄海北部におけるタイショウエビの合理的な放流数量についての討論. 海洋水産研究, (15):9-17.
- 葉昌臣・李喆軍・杜懷光 (1999) 緒論. 梁振林・大滝英夫訳, 漁業資源増殖-理論・方法・評価・管理. 日本水産資源保護協会. 水産増養殖叢書, (43):1-28.
- 葉昌臣・李喆軍・杜懷光 (1999) 放流増殖. 梁振林・大滝英夫訳, 漁業資源増殖-理論・方法・評価・管理. 日本水産資源保護協会. 水産増養殖叢書, (43):29-121.
- YE C-C., DENG J-Y. and G-Z.HAN (1984) The problem of the optimum open date, overfishing, fishery management of autumn penaeid shrimp (*Penaeus orientalis*) fishery in Bohai Sea. Marine Fish.Res., (6):85-90.
- YEPÍZ-PLASCENCIA G., VARGAS-ALBORES F. and I.HIGUERA-CIAPARA (2000) Penaeid shrimp hemolymph lipoproteins. Aquaculture, 191(1-3):177-189.
- 余語滋・長野正洋 (2000) 魚病報告. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 48.
- 余語滋・川上浩之 (2000) 魚病報告. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 81.
- 余語滋・川上浩之 (2000) 魚病報告. 平成 8・9・10 年度山形栽セ業報, 117.
- 横川浩治・大林萬鋪・井口政紀・濱本俊策 (1985) 保護水面管理事業. 昭和 59 年度香川水試事報, 95-96.
- 横川浩治 (1989) 備讃瀬戸海域および播磨灘海域に出現するエビ類について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (21):47-53.
- 横川浩治 (1999) 日本における外国産魚介類の移入とそれらの生物学的特性について. 水産育種, (28):1-25.
- 横井時夫 (1980) クルマエビ放流技術開発事業. 昭和 54 年度愛知水試業報, 10.
- 横井時夫 (1981) 伊勢湾小型底びき網漁場におけるクルマエビ資源の動態. 南西ブロック外海研究会議事要録, 28-36.
- 横井時夫 (1983) 渥美外海小型底曳網漁場の対象資源について. 昭和 57 年度南西ブロック海域 200 カイリ水域内漁業資源調査中間検討会報, 13-19.
- 横井時夫・水野宏成・石井克也 (1984) 種苗放流技術開発調査. クルマエビ. 昭和 58 年度愛知水試業報, 135-137.
- 横井時夫 (1985) 渥美外海漁場におけるカレイ類資源の利用状況. 南西外海の資源・海洋研究, (1):81-86.
- 横松芳治 (1982) 大分県豊前海域における小型底びき, 刺網漁業の漁獲物特性について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (14):1-15.
- 横松芳治・上城義信 (1983) 200 カイリ水域内漁業資源調査(南西水研委託). 昭和 56 年度大分浅海漁試事報, 41-60.
- 横松芳治・上城義信 (1983) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査(南西水研委託). 昭和 57 年度大分浅海事報, 63-76.
- 横松芳治・上城義信 (1983) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 57 年度大分浅海事報, 80-84.
- 横松芳治・上城義信 (1983) 大分県豊前海域における小型底びき網漁業と刺網漁業の漁獲特性について. 大分浅海調研報, 29-48.
- 横松芳治・上城義信 (1984) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査(南西水研委託). 昭和 58 年度大分浅海事報, 39-54.
- 横松芳治・上城義信 (1984) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 58 年度大分浅海事報, 57-65.
- 横松芳治・上城義信 (1986) 200 カイリ水域内漁業資源調査. 1.漁業資源調査. 昭和 59 年度大分浅海事報, 55-70.
- 横松芳治・上城義信 (1986) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 59 年度大分浅海事報, 73-81.

- YOKOMIZO Y., MAEDA M., ITAMI T., TAKAHASHI Y., MIZUKI E. and M.OHBA (2001) Cell proliferation and in vitro infection of white spot syndrome virus in primary culture of shrimp ovarian tissue. 70th Anniversary of the Japanese Society of Fisheries Science International Commemorative Symposium, Yokohama.
- 横地文雄・吉村憲一・河根三雄 (1985) クルマエビ種苗生産. 昭和 58 年度愛知栽協業報, 7-22.
- 横地文雄・吉村憲一・河根三雄 (1986) クルマエビ種苗生産. 昭和 59 年度愛知栽協業報, 8-19.
- 横田浩治 (1989) 備讃瀬戸海域および播磨灘海域に出現するエビ類について. 南西海区ブロック内海漁業研究会報, (21):47-54.
- YOKOYA Y. (1930) Macrura of Mutsu Bay. Sci.Rep.Tohoku Univ., 4(5):525-548.
- YOKOYA Y. (1941) On the classification of Penaeid shrimps by the structural features of the appendix masculina. Journ. Coll.Agr.Tokyo Imp.Univ., 15(1):45-68.
- 横屋猷 (1956) 夏期九州南西海上に現われる甲殻十脚類の幼生. 長崎大水産研報, (4):69-72.
- YOKOYA Y. and K. SHIBATA (1965) On some shrimps from the Philippine sea. Bull.Fac.Fish.Nagasaki Univ.,(18):1-6.
- 米康夫 (1974) 養魚事業および養魚飼料の現状と将来(上). 養殖, 11(6):52-55.
- 米田一二三 (1984) 水産物の基本的流通と需要の構造. 漁業経済研究, 39(3):27-48.
- 米田一二三 (1985) 鮮魚小売業の実態と存立条件. 水産振興, 19(2):1-31.
- 米田寛 (1988) 地域漁業の変貌. 東九州. 西日本漁業経済学会編, 転機に立つ日本水産業. 九州大学出版会, pp.293-298.
- 米司隆・高場稔・伏見徹・平田貞郎・大久保忠・平田喜久雄・成田稔 (1985) 増殖場造成効果調査. 昭和 59 年度広島水試事報, 37-38.
- 米倉権一郎 (1991) シーズン直前の経営リフレッシュ作戦(下). クルマエビ. 養殖, 28(4):76-78.
- 米倉忠雄 (1967) チチブ *Tridnetiger obscurus* (TEMMINCH et SCHLEGEL)によるクルマエビの食害について. 昭和 40 年度福岡豊前水試研業報, 75-77.
- 米倉忠雄 (1967) 塩分濃度(比重)の低下に対するクルマエビの抵抗力について. 昭和 41 年度福岡豊前水試研業報, 79-82.
- 米村進司・西田輝己 (1997) 中間育成施設利用開発調査. 平成 8 年度鳥取水試年報, 179-186.
- 依光直樹 (1979) 沖縄のクルマエビ養殖の現況. 養殖, 16(11):14-18.
- 興世田兼三・芦立昌一・村上直人・金澤昭夫 (1996) 微粒子人工配合飼料を用いた大型水槽でのクルマエビ種苗生産. 水産増殖, 44(4):503-510.
- 吉川尚子・瀧尾擴士・阿部宏喜 (2001) ウシエビ筋肉アラニンラセマーゼの単離および性質. 平成 13 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.165.
- 吉田裕 (1941) 朝鮮近海産有用蝦類. 朝鮮総督府水試報, (7):1-36, 13 pls.
- 吉田裕 (1949) コウライエビの生活史について. 日水誌, 15(5):245-248.
- 吉田裕 (1957) 有明海のエビの生態. 生活史に関する研究, 5-32.
- 吉田裕 (1960) 有明海のエビの生態(謄写印刷), 44 pp.
- 吉田正二三 (1982) クルマエビ中間育成を実施して. 昭和 57 年度漁村青壮年婦人活動実績発表大会資料.
- YOSHIDA M. (1987) Black-tiger prawn(*Penaeus monodon*). SHOKITA S.ed., Aquaculture in Tropical Areas. Midori Shobo, Tokyo, pp.175-184.
- 吉田範秋・小黒美樹・北角至 (1977) 紀伊水道におけるクルマエビについて-I. 生態並びに漁場環境登漁獲量との関係. 昭和 37-39 年度追補徳島水試事報, 210-224.
- 吉田範秋・小黒美樹・北角至 (1977) 紀伊水道西部海域における小型機船底曳網漁業について. 昭和 37-39 年度追補徳島水試事報, 225-235.
- 吉田範秋・小黒美樹・北角至 (1978) 紀伊水道におけるクルマエビについて-II. 形態. 昭和 40-46 年度追補徳島水試事報, 71-75.
- 吉田信二 (1997) 養魚への免疫賦活物質利用の可能性(2). YCM. 養殖, 34(11):120-121.
- 吉田俊一・安部恒久 (1985) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 58 年度大阪水試事報, 91-93.
- 吉田俊一・安部恒久 (1987) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 59 年度大阪水試事報, 103-105.
- 吉田俊一 (1988) 漁況調査. 昭和 60 年度大阪水試事報, 46-61.
- 吉田俊一・安部恒久 (1988) 瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 60 年度大阪水試事報, 81-83.
- 吉田俊憲・野村元・吉田俊泰・皆川哲夫・松見正孝・浜田幸栄・橋本達夫・角三繁夫 (1986) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 59 年度石川増試事報, 20-24.
- 吉田俊憲・野村元・吉田俊泰・皆川哲夫・松見正孝・橋本達夫・角三繁夫・ROSEMARIE V.Caballero (1987) クルマエビ種苗生産事業. 昭和 60 年度石川増試事報, 15-19.
- 吉田雄一・中島信次・中尾和浩・平岡政宏 (1989) 魚病対策事業. 昭和 63 年度熊本水試事報, 88-91.
- 吉田雄一・中島信次・中尾和浩・木村武志 (1990) 魚病等実態把握促進事業(魚類防疫対策事業). 平成元年度熊本水試事報, 77-79.

- 吉田雄一・南部豊揮 (1991) 魚病等実態把握促進事業. 平成 2 年度熊本水試事報, 57-58.
- 吉津巖之・前田稔・田中理恵・水城英一・伊丹利明・高橋幸則 (2000) クルマエビ卵巣由来の初代培養. 平成 12 年度魚病学会秋季大会講演要旨.
- YOSHIZU Y., MAEDA M., ITAMI T., TAKAHASHI Y., MIZUKI E. and M.OHBA (2001) Cell proliferation and *in vitro* infection of white spot syndrome virus in primary culture of shrimp ovarian tissue. 70th Anniversary of the Japanese Society of Fisheries Science International Commemorative Symposium, Yokohama.
- 吉原喜好・望月篤・加藤雅功 (1999) マダガスカル共和国の水産業の概要とエビ養殖振興計画について(資料). 水産増殖, 47(4):599-606.
- 吉原喜好 (2000) マダガスカルのエビ養殖事情(上). 養殖, 37(7):114-117.
- 吉原喜好 (2000) マダガスカルのエビ養殖事情(下). 養殖, 37(8):130-133.
- 吉川尚子・渡辺勝子・阿部宏喜 (1999) ウシエビ筋肉アラニンラセマーゼの精製および性. 平成 11 年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.112.
- 吉川康夫 (1992) 平成 4 年度餌料生物培養結果. 静岡栽培セ.なむら, (69):1-2.
- 吉水守 (1992) 栽培漁業における魚病問題. 水産海洋研究, 56(3):347-352.
- 吉本幸雄・石川祐司 (1979) 昭和 51 年度放流技術開発事業(クルマエビ)調査報告. 昭和 51 年度調査研究報告, 10(2):1-14.
- 吉本幸雄・石川祐司・堀隆喜・井口弘章・伊島時郎 (1979) 放流技術開発事業(クルマエビ). 昭和 51 年度大分浅海事報, 47-52.
- 吉村晃一 (2001) 複合的資源管理型漁業促進対策事業-ヒラメ. 平成 11 年度和歌山水試事報, 67-77.
- 吉村隆夫 (2000) 南太平洋フィジーにおける海面養殖の現状. 平成 12 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.207.
- 吉永敏之・本田彰・梅崎祐二・川崎信司・石田宏一 (1989) 氷温貯蔵技術開発試験(クルマエビの低温出荷技術の開発). 昭和 63 年度熊本水試事報, 108-109.
- 良永知義 (2000) 日本において最近重大な問題となっている魚介類疾病及び海外疾病の侵入・まん延防止体制について. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (4):141-145.
- 吉中禮二・佐藤健司・中島秀司・佐藤守 (1988) 数種甲殻類の筋肉コラーゲン含量. 昭和 63 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.111.
- 吉中禮二・佐藤健司・伊藤慶明・中島秀司・佐藤守(1989) 甲殻類筋肉コラーゲンの含量及び若干の性質(英文). *Comp.Biochem.Physiol.*, 94B(1):239-223.
- 吉中禮二・水田尚志・伊藤健司・佐藤守 (1990) クルマエビ(*Penaeus japonicus*)筋肉の遺伝的に異なる二種類のコラーゲン(英文). *Comp.Biochem.Physiol.*, 96B(1):451-456.
- 吉中禮二 (1993) 魚・貝・海藻の栄養機能. 恒星社厚生閣, 154 pp.
- 吉中禮二 (1997) コラーゲン分子種(2).無脊椎動物. シンポジウム, 魚介類の細胞間マトリクス. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.274.
- 吉岡力男・小野山弘 (1995) クルマエビの中間育成. 平成 4・5 年度兵庫裁セ事報, 152-153.
- 吉岡進 (1999) 21 世紀型養殖産業の動向と将来性. 養殖, 38(7):90-93.
- 吉岡武志・濱田弘之 (1997) 小型底びき網で漁獲されたマダイ幼魚とエビ類の網内における通過経路. 福岡水技研報, (7):47-52.
- 吉崎清 (2000) 200 カイリ耐性の確立. 21 世紀の水産を考える会編, 魚は人類を救えるか. 成山堂書店, pp.37-64.
- 吉沢良輔 (1993) 各県の主要底魚類の漁獲動向. 新潟県. 日本海ブロック試験研究集録, (29):118-120.
- YOSHIZU Y., MAEDA M., ITAMI T., TAKAHASHI Y., MIZUKI E., and M.OHBA (2001) Cell proliferation and *in vitro* infection of white syndrome virus in primary culture of shrimp ovarian tissue. International Commemorative Symposium of the Japanese Society of Fisheries Science, Yokohama.
- 四ツ橋宏樹・矢野勲 (1996) クルマエビの卵巣壁細胞の増殖に与えるステロイドホルモンの影響. 平成8年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.25.
- 四ツ橋宏樹・矢野勲 (1997) ブロモデオキシウリジン(BrdU)を用いたクルマエビ卵巣壁細胞増殖の観察. 平成9年度日本水産学会秋季大会講演要旨集, p.50.
- 楊衛軍・会田勝美・長澤寛道 (1994) クルマエビのCHH族ペプチドの精製と構造解析. 平成 6 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.235.
- 楊衛軍・会田勝美・長澤寛道 (1997) クルマエビのサイナス腺に含まれる赤色色素凝集ホルモン(RPCH)と色素拡散ホルモン(PDH)の構造と生物活性. 平成 9 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, p.78.
- YOUNG J.H. (1959) Morphology of the white shrimp, *Penaeus setiferus*(LINNAEUS 1758). *Fish.Bull.*, (59):1-168.
- YOUNG N.J., QUILAN P.T. and L.J.GOAD (1992) Progesterone metabolism *in vitro* in the decapod crustacean, *Penaeus monodon*.*Gene. Comp.Endocrinol.*, 87:300-311.
- 養殖編集部 (1965) 車エビ,シマアジ,アワビ,イセエビ 現状は畜養,今後は養殖へ. 養殖, 2(3):14.
- 養殖編集部 (1965) 車エビ養殖で成績をあげる淡路島の福良漁協. 養殖, 2(5):55-56.

- 養殖編集部 (1965) はまち・真珠・車エビ・鮎 愛媛の八幡浜漁協. 養殖, 2(8):80-81.
 養殖編集部 (1965) 合理的地区幼計画を实践した伊豆の八幡野漁協. 養殖, 2(9):12-13.
 養殖編集部 (1965) 儲かる車海老養殖に注力する御前崎漁協. 養殖, 2(11):36-37.
 養殖編集部 (1966) 水研めぐり 徳島県水産試験. 養殖, 3(2):21.
 養殖編集部 (1966) 熊本県天草地方の魚類養殖の実態. 養殖, 3(10):14-17.
 養殖編集部 (1966) クルマエビの養殖に注力する坂本さん. 養殖, 3(10):57-59.
 養殖編集部 (1966) 今年は100万尾計画-クルマエビ種苗ここでも不足. 養殖, 3(11):70-71.
 養殖編集部 (1967) 始動する能登の養殖. 養殖, 4(9):12-18.
 養殖編集部 (1968) クルマエビ海洋牧場-一年目の成績を見る. 養殖, 5(1):16-18.
 養殖編集部 (1968) 養殖魚はクサイ? 活魚料理卸しの成岡水産. 養殖, 5(12):54-56.
 養殖編集部 (1969) 100トンを超える山口県のクルマエビ養殖. 養殖, 6(2):12-18.
 養殖編集部 (1969) 完全養殖を目指すクルマエビ研究所. 養殖, 6(3):58-59.
 養殖編集部 (1969) 種苗も自家生産,大規模養殖で好成绩のクルマエビ. 養殖, 6(3):61-63.
 養殖編集部 (1972) 軌道にのる四千万尾の稚エビ生産-山口県吉城郡の藤永クルマエビ研究所. 養殖, 9(8):24-25.
 養殖編集部 (1972) 温排水利用の車エビ養殖-櫛ヶ浜栽培水産株. 養殖, 9(9):16-18.
 養殖編集部 (1972) 全国生産の1/3を生産するクルマエビの養殖-山口県瀬戸内海水産開発株. 養殖, 9(9):20-22.
 養殖編集部 (1973) 企業の養魚進出. 養殖, 10(6):34-35.
 養殖編集部 (1974) これから期待される養殖の新顔①. 養殖, 11(1):60-62.
 養殖編集部 (1974) クルマエビの大量生産技術を確立-鹿児島県垂水増殖センター. 養殖, 11(7):22-24.
 養殖編集部 (1974) 企業化されたクルマエビの高密度飼育. 養殖, 11(9):20-21.
 養殖編集部 (1974) ハマチからインダイ-クルマエビの養殖-鹿児島県牛根漁協. 養殖, 11(10):26-27.
 養殖編集部 (1975) クルマエビ養殖に関心集まる-第一回かん水養殖シンポジウム. 養殖, 11(2):26.
 養殖編集部 (1975) 漁業研修でタイの種苗作り-広島県の海面養殖. 養殖, 12(6):74-75.
 養殖編集部 (1976) 愛媛県の浅海養殖業とその現状. 養殖, 13(4):74-77.
 養殖編集部 (1976) 生きたクルマエビを日本へ(オーストラリア). 養殖, 13(9):76-78.
 養殖編集部 (1976) クルマエビ放流100万尾にあと一息. 養殖, 13(9):74-75.
 養殖編集部 (1976) 50年の養殖生産,海面で大幅減少. 養殖, 13(11):33-35.
 養殖編集部 (1976) m²当り385gのクルマエビ養殖. 養殖, 14(10):72-73.
 養殖編集部 (1978) クルマエビ用配合飼料・調餌機. 養殖, 15(3):132.
 養殖編集部 (1978) 1万3千坪,6億円の施設クルマエビ養殖. 養殖, 15(4):78-80.
 養殖編集部 (1978) 不振のクルマエビ養殖,原因は農薬か. 養殖, 15(4):84-85.
 養殖編集部 (1978) 沖縄のウナギとクルマエビ養殖にみる魅力と問題点. 養殖, 15(4):86-88.
 養殖編集部 (1978) 千葉のクルマエビは僕らがつくる. 養殖, 15(5):24-26.
 養殖編集部 (1979) 台湾の養殖写真見て歩き. 養殖, 16(1):14-17.
 養殖編集部 (1980) 日本一の魚屋に見る養殖産品価格. 養殖, 17(6):84-88.
 養殖編集部 (1981) ウシエビ,遂に企業化! 養殖, 18(1):34-37.
 養殖編集部 (1981) 最近台湾養殖事情-海水篇. 養殖, 18(6):14-18.
 養殖編集部 (1981) 昭和55年度漁業養殖業生産量. 養殖, 18(8):43.
 養殖編集部 (1981) 低密度,病気皆無のクルマエビ養殖. 養殖, 18(8):80-83.
 養殖編集部 (1981) ヒラメ,フグで経営の安定を期待. 養殖, 18(10):80-83.
 養殖編集部 (1982) クルマエビの生態,養殖施設. 養殖, 19(8):76-77.
 養殖編集部 (1982) kg6500円のウシエビ養殖. 養殖, 19(9):14-17.
 養殖編集部 (1982) クルマエビのフ化施設・親エビ. 養殖, 19(9):76-77.
 養殖編集部 (1983) 養殖魚介類は健康食品の宝庫. 養殖, 20(1):59-63.
 養殖編集部 (1983) 最近台湾養殖事情(下). 養殖, 20(1):80-85.
 養殖編集部 (1983) 転業漁民に養殖指導. 養殖, 20(3):88-91.
 養殖編集部 (1983) 温排水利用の種苗生産. 養殖, 20(10):14-18.
 養殖編集部 (1983) 種苗の早期供給をめざす! 養殖, 20(10):86-90.
 養殖編集部 (1984) 塩田跡でのクルマエビ養殖. 養殖, 21(4):30-34.
 養殖編集部 (1984) クルマエビの一貫養殖で安定経営. 養殖, 21(10):14-18.
 養殖編集部 (1985) 台湾養殖業界視察旅行記(下). 養殖, 22(1):30-35.
 養殖編集部 (1985) 第一回国際クルマエビ類養殖会議. 養殖, 22(2):88-89.
 養殖編集部 (1985) 新魚種開発協会シンポジウム,エビ養殖技術の問題点. 養殖, 22(5):85-87.
 養殖編集部 (1985) 効率生産追うクルマエビ大規模養殖. 養殖, 22(10):34-38.
 養殖編集部 (1985) 栽培漁業の振興をはかる-香川県水産試験場. 養殖, 22(10):86-89.

- 養殖編集部 (1985) 温排水利用のクルマエビ養殖軌道に. 養殖, 22(12):34-38.
 養殖編集部 (1986) 投餌量控えてクルマエビ安定生産. 養殖, 23(1):14-18.
 養殖編集部 (1986) 最新台湾養殖事情(上). 養殖, 23(13):34-40.
 養殖編集部 (1988) タイ国の水産養殖事情(下). 養殖, 25(5):42-46.
 養殖編集部 (1988) 薄飼いで大型のクルマエビ養殖. 養殖, 25(6):14-18.
 養殖編集部 (1988) シンガポールのクルマエビ養殖場. 養殖, 25(8):14-18.
 養殖編集部 (1988) 南海のクルマエビ養殖. 養殖, 25(10):38-42.
 養殖編集部 (1988) ウシエビ三期作に挑戦中. 養殖, 25(11):100-103.
 養殖編集部 (1988) 最近台湾養殖探訪記(上). 養殖, 25(12):38-44.
 養殖編集部 (1989) 最近台湾養殖探訪記(下). 養殖, 26(1):38-43.
 養殖編集部 (1989) 第6回全日本ぐるまえばい養殖シンポジウム. 養殖, 26(5):102-103.
 養殖編集部 (1989) LIAO I.C.談, 台湾エビ養殖における環境問題への対応. 養殖, 26(6):69-70.
 養殖編集部 (1989) まだまだ伸びるクルマエビ養殖場. 養殖, 26(8):14-18.
 養殖編集部 (1991) 躍進する奄美のクルマエビ養殖. 養殖, 28(9):104-109.
 養殖編集部 (1990) 甲殻類特にクルマエビにおける栄養要求の新しい話題. 養殖, 27(4):106-107.
 養殖編集部 (1990) 第2回タイ国養殖業界視察旅行記(下). 養殖, 27(6):100-105.
 養殖編集部 (1990) 贈答用が7割のクルマエビ養殖. 養殖, 27(8):18-22.
 養殖編集部 (1990) 最新台湾養殖事情(上). 養殖, 27(12):16.
 養殖編集部 (1992) 窮地に立つ天草のクルマエビ養殖. 養殖, 29(6):104-107.
 養殖編集部 (1992) 高品質・好歩留まりのクルマエビ生産を実現. 養殖, 29(10):18-22.
 養殖編集部 (1992) 魚種別, 最近台湾養殖事情(上). 養殖, 29(12):48-52.
 養殖編集部 (1993) インドのエビ養殖事情. 養殖, 30(3):113.
 養殖編集部 (1993) 築地市場における輸入魚介類. 養殖, 30(6):36-36.
 養殖編集部 (1993) 魚種別・種苗供給の現状と課題. クルマエビ, シマアジ. 養殖, 30(13):134-135.
 養殖編集部 (1993) 魚種別・種苗供給の現状と課題. クルマエビ. 養殖, 30(13):66.
 養殖編集部 (1994) クルマエビの持続的養殖に自信. 養殖, 31(8):16-20.
 養殖編集部 (1994) 外国産クルマエビの供給動向. 養殖, 31(14):69-72.
 養殖編集部 (1995) 中国・香港の最新養殖情報③. 養殖, 32(5):48-50.
 養殖編集部 (1995) 中国・香港の最新養殖事情③. 養殖, 32(5):46-50.
 養殖編集部 (1997) 養殖魚市況を占う-平成8年の動向, 平成9年の展望. クルマエビ. 養殖, 34(3):62-63.
 養殖編集部 (1997) 苦悩続くクルマエビ養殖, 技術革新で起死回生を! 養殖, 34(7):16-20.
 養殖編集部 (1997) 養殖魚市況を占う. クルマエビ. 養殖, 34(3):62-63.
 養殖編集部 (1998) 養殖魚市況を占う-クルマエビ. 養殖, 35(3):56-58.
 養殖編集部 (1999) データで見る養殖業界'99. 養殖, 36(7):42-67.
 養殖編集部 (1999) 個人売り主体に果敢に攻めて安定経営をはかるクルマエビ養殖. 36(9):26-29.
 養殖編集部 (2000) 一貫生産で勝負するクルマエビ養殖. 養殖, 37(1):13-16.
 養殖編集部 (2000) 沖縄県のクルマエビ養殖. 養殖, 37(12):44-45.
 養殖編集部 (2000) クルマエビ・ヒラメ中心に地場に根ざした種苗づくり. 養殖, 37(12):92-94.
 養殖編集部 (2000) 水試フォーカス:沖縄県水産試験場. 養殖, 37(12):66-69.
 養殖編集部 (2000) 自家添加で活力増強へ健全なクルマエビ養殖. 養殖, 37(13):13-16.
 養殖編集部 (2001) 自然順応高めるクルマエビ養殖. 養殖, 38(2):9-12.
 養殖編集部 (2001) 輸入魚介類の需要動向-伸び続ける加工品と高まる青物需要. 養殖, 38(3):56-59.
 養殖編集部 (2001) 万全な防疫対策で一ランク上の生産を-贈答用を中心にクルマエビ年産13t. 養殖, 38(3):82-85.
 養殖編集部 (2001) 特色異なる二国から入荷するクルマエビ. 養殖, 38(3):66-67.
 養殖編集部 (2001) 万全な防疫対策で一ランク上の生産を. 養殖, 38(3):82-85.
 養殖編集部 (2001) 好適環境を追跡しクルマエビを持続生産. 養殖, 38(4):82-84.
 養殖編集部 (2001) 最新台湾養殖事情③. 発展し続ける種々の養殖業. 養殖, 38(9):72-76.
 養殖編集部 (2001) 最新台湾養殖事情②. 養殖, 38(7):74-77.
 養殖編集部 (2001) 最新台湾養殖事情③. 養殖, 38(8):72-76.
 養殖編集部 (2001) 水試フォーカス:山口県水産研究センター内海研究部. 養殖, 38(12):45-48.
 養殖研究所 (1993) 研究所ホットライン⑫. クルマエビ類の人工成熟と飼料効果. 養殖, 30(3):134-135.
 養殖研究所病理部 (1994) 研究所ホットライン-27. 養殖クルマエビの大量死は外来新種? ウイルスが起因. 養殖, 31(7):126-127.
 游祥平・陳天任 (1986) 原色壹灣對蝦圖鑑. 南天書局, 184 pp.

- YU C.I. and Y.L.SONG (2000) Outbreaks of Taura syndrome in Pacific white shrimp *Penaeus vannamei* cultured in Taiwan. *Fish Pathol.*, 35(1):21-24.
- YU H.P. and T.Y.CHAN (1986) The Illustrated Penaeoid Prawns of Taiwan. Southern Materials Center, Inc. Taipei, 183 pp.
- YUAN Y.X., GAO C.N. and D.X.ZHANG (1992) Egg hatching and metamorphosis to protozoa of *Penaeus chinensis* (OSBECK) by removal of heavy metals from rearing systems with polymeric absorbent. *Aquaculture*, 107(4):303-311.
- 湯浅明彦 (1985) 昭和 58 年度瀬戸内海漁業基本調査. 昭和 58 年度徳島水試事報, 78-80.
- 袁有憲 (1997) 増養殖水域の汚染と赤潮に御関する研究の現況と今後の方向. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (2):162-174.
- YUFERA M., RODRIGUEZ L. and M.LUBIAN (1984) Zooplankton ingestion and feeding behavior of *Penaeus kerathurus* larvae reared in the laboratory. *Aquaculture*, 42(3·4):217-224.
- 弓削志郎 (1986) 昭和 60 年度漁業白書の概要. 水産振興, 20(5):1-47.
- 弓削志郎 (1987) 昭和 61 年度漁業白書の概要. 水産振興, 21(5):1-54.
- 湯川武仁 (1988) 台湾の養鰻・養蝦事情①. 養殖, 25(6):80-84.
- 湯川武仁 (1988) 台湾の養鰻・養蝦事情③. 養殖, 25(8):128-135.
- 由木雄一・高橋伊武・田中伸和 (1990) 資源培養管理対策推進事業(天然資源調査). 昭和 63 年度島根水試事報, 89-91.
- 行平英基 (1997) サンゴ礁生態系の保全(上). グレートバリアリーフの漁獲活動と水産資源管理策. 水産の研究, 16(1):77-84.
- 行平英基 (1997) サンゴ礁生態系の保全(下). グレートバリアリーフの漁獲活動と水産資源管理策. 水産の研究, 16(2):60-68.
- 百合野定・立中義徳 (1968) 栽培漁業促進事業. 昭和 41 年度宮崎沿漁指事報, 47-49.
- 百合野定・立中義徳・瀧上勉・藤原進・石橋制 (1986) 組織的調査研究活動推進事業(抄). 昭和 59 年度宮崎水試事報, 231-232.
- 杠学 (1995) 佐賀県栽培漁業センターにおける種苗生産実績及び配布概況. 平成 5・6 年度佐賀栽培セ事報, 1-4.
- 杠学 (1997) 玄海水産振興センターの紹介. 佐賀県玄海水振セNews, (1):2-3.

- ZAFRAN・JOHNNY F., ROZA D., KOESHARYANTI I. and K.HATAI (1998) Increased survival of *Penaeus monodon* larvae treated with *Vibrio harveyi* bacterin. Fish Pathol., 33(4):449-450.
- ZALINGE N.van and N.NURZALI (1979) The Cilacap based trawl fishery for shrimp along the south coast at Java. Laporan Penelitian Laut (Mar.Fish.Res.Rep.Jakarta), 1975(2):1-44.
- ZAMUDIO W.H. and S.YAMASAKI (1990) Efficiency of diatom, *Cheatocecos calcitrans* and prasinophytes, *Tetraselmis tetrahele* as for early larval stages of prawn *Penaeus japonicus*. Min.Rev.Data File Fish.Res., (6):121-125.
- ZARAIN-HERZBERG M. and F.ASCENCIO-VALLE (2001) Taura syndrome in Mexico: follow-up study in shrimp farms of Sinaloa. Aquaculture, 193(1・2):1-9.
- ZEIN-ELDIN Z.P. and D.V.ALDRICH (1965) Growth and survival of postlarval *Penaeus aztecus* controlled conditions of temperature and salinity. Biol.Bull., 129:199-216.
- ZEIN-ELDIN Z.P. and G.W.GRIFFITH (1966) The effect of temperature upon the growth of laboratory-held postlarval *Penaeus aztecus*. Biol., 131(1):188-196.
- ZEIN-ELDIN Z.P. and G.W.GRIFFITH (1969) An appraisal of the effect of salinity and temperature on the growth and survival of post larval penaeids, FAO Fish. Rep., 57(3):1015-1026.
- ZEIN-ELDIN Z.P. and S.P. MEYERS (1973) General consideration of problem in shrimp nutrition. Proc.Annu.Workshop Maricult.Soc., (4):299-317.
- ZEIN-ELDIN Z.P. (1974) Observations on the phagocytosis and elimination of carmine particles injected into the abdominal musculature of the white shrimp, *Penaeus setiferus*. J.Invert.Phathol., 24(2):141-148.
- ZEIN-ELDIN Z.P. (1975) Cellular response to injury in penaeid shrimp. Mar.Fish.Rev., 37(5・6):4-10.
- ZEIN-ELDIN Z.P. (1975) *Penaeus aztecus* の成長に及ぼす蛋白質の水準およびその原料の効果. FAO 水産増殖国際会議論文集, (4):267-273.
- 税所俊郎・橘高二郎 (1996) 生産と資源・環境問題. 橘高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編, ビ・カニ類の増養殖-基礎科学と生産技術. 恒星社厚生閣, pp.291-301.
- 全国沿岸漁業振興開発協会 (1983) 昭和 37 年度くるまえび増殖技術調査実績報告書, 1-20.
- 全国沿岸漁業振興開発協会 (1984) 昭和 38 年度くるまえび増殖技術調査実績報告書, 1-37.
- 全国沿岸漁業振興開発協会 (1994) 有明海北部地域調査について. 平成 5 年度特定地域沿岸漁場開発調査有明海北部地域調査報告書, 17-21.
- ZHAN W.B., YU K.K. and Q.X.MENG (1995) Study on baculovirus disease of *Penaeus chinensis*. J.Fisheries Science of China, (2):22-28.
- ZHAN W.B., WANG Y.H., FRYER J.L., YU K.K., FUKUDA H. and Q.X.MENG (1998) White spot syndrome virus infection of cultured shrimp in China. J.Aquat. Anim.Health, 10(4):405-410.
- 張玉璽 (1994) 黄海主要漁業資源の漁獲量変動とその対策. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):23-27.
- 除懐絮 (1994) タイショウエビの突発性流行病に関する幾つかの見方. 海洋科学編集部. 養殖タイショウエビ病害総合防止・治療対策号, pp.14-16.
- 趙永堅 (1994) 東海区水産増養殖業の近況及び発展の構想. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):131-135.
- 周婉霞 (1994) 中国東海海域における魚類放流増殖の現状. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (1):333-336.
- 莊志猛 (1999) タイショウエビ資源の放流増養殖およびその移植技術についての研究. 海外漁業協力財団. 海洋水産資源の培養に関する研究者協議会論文集, (3):108-120.
- ZOU G-X., YE X-J., SONG Y-L., WANG J-Z., TAN J-S. and Y-Y.HOU (1989) Ogenesis of *Penaeus orientalis* KISHINOUE. Marine Fish.Res., (10):27-37.
- ZURIDAD O.M. and K.F.SHIM (1996) Qualitative requirements of essential fatty acids for juvenile *Penaeus monodon*. Aquaculture, 147(3・4):275-291.
- ZURIDAD O.M. and K.F.SHIM (1997) Qualitative requirements of linolenic and docosahexaenoic acid for juvenile *Penaeus monodon*. Aquaculture, 157(3・4):277-295.